

宮城県文化財調査報告書第252集

団子山西遺跡Ⅱ

—田尻西部地区は場整備事業に係る平成23・25～27・29年度（J・K・M区）発掘調査報告書—

令和2年3月

宮城県教育委員会

団子山西遺跡 II

—田尻西部地区は場整備事業に係る平成23・25～27・29年度（J・K・M区）発掘調査報告書—

序 文

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災から 9 年が経過し、国の復興基本方針に定める「復興・創生期間」ならびに宮城県震災復興計画に定める「発展期」の終了まで残り 1 年となりました。沿岸部の市町における復興への取組みは、住宅、道路、鉄道、防潮堤などの生活基盤やインフラの整備が着実に進められています。

当教育委員会では、このような復興事業に加え、通常事業に伴う開発行為に対しても、事業者と適切に協議を行い、埋蔵文化財の保存と事業の両立を図るよう調整するとともに、市町村教育委員会と協力しながら事業に伴う発掘調査を迅速に実施しています。

本書は、平成 23・25～27・29 年度に田尻西部地区ほ場整備事業に先立って実施しました大崎市团子山西遺跡の発掘調査報告書です。調査の結果、古墳時代中期の竪穴建物跡から多くの土器や石製模造品、黒曜石製石器、琥珀などが出土し、北方の縄繩文化との関わりを持つ遺跡であることが分かりました。さらに、奈良・平安時代の道路跡やその周辺に並ぶ掘立柱建物跡を発見し、遺跡の北側に隣接する古代の城柵で、『統日本紀』天平九（737）年条に記載のある「新田柵」と密接に関連する遺跡の様子がさらに明らかとなりました。今回の調査で得られた貴重な成果が、広く県民の皆様や各地の研究者に活用され、地域の歴史解明の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、遺跡の保存に理解を示され、発掘調査に際しては多大なる御協力をいただいた関係機関や地域の皆様に対し、厚くお礼申し上げます。

令和 2 年 3 月

宮城県教育委員会

教育長 伊東 昭代

例　　言

- 1 本書は、田尻西部地区ほ場整備事業に伴い、平成23・25～27・29年度に実施した团子山西遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査主体は宮城県教育委員会であり、担当は宮城県教育庁文化財保護課（平成30年度より文化財課に改称）である。なお、平成26・27年度には大崎市教育委員会より調査協力を得て発掘調査を実施した。
- 3 発掘調査および報告書作成について、以下の方々と機関からご指導・ご協力を賜った（五十音順、敬称略）。

〔個人〕

井上主悦、岩渕竜也、大谷基、岡本泰典、小野亜矢、車田敦、佐藤優、清水上政憲、高橋誠明、高橋透、廣谷和也、藤沼邦彦、村田晃一、柳澤和明、渡辺和仁

〔機関〕

大崎市教育委員会、東北歴史博物館、宮城県多賀城跡調査研究所

- 4 本書の第3図は、国土交通省国土地理院発行の1/25,000地形図「荒谷」と「高清水」を複製して作成したものである。
- 5 本書で使用した測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。
- 6 本書で使用した遺構記号は以下のとおりである。
SA：柱列跡、SB：掘立柱建物跡、SD：道路側溝跡・溝跡・河川跡・自然流路跡、SE：井戸跡、SI：竪穴建物跡、SK：土坑、SN：小溝状遺構群、SX：道路跡・竪穴遺構・土器埋設遺構・円形周溝跡・遺物包含層、P：柱穴・小穴
竪穴建物跡の床面施設については、P：柱穴、K：土坑とした。
- 7 遺構番号は、遺跡全体を通し番号で登録しており、J区は701～、K区は1200～である。
- 8 土色の記載は、『新版標準土色帖』（小原・竹原1994）に基づいている。
- 9 遺構平面図において赤色で示した線は、重複関係で古い遺構の上中下端を表したものである。また、青色で示した線は、II～IV層または遺物包含層上面で検出した遺構であり、V層上面で検出した遺構より新しいことを表している。
- 10 遺構図と遺物図の縮尺は、それぞれにスケールを付して示している。
- 11 掘立柱建物跡を構成する柱穴の位置については、「NIE1」、「S1W1」というように東西南北の英語表記の頭文字と列を示す数字で表記した。前者は北側柱列1列目で東側柱列1列目に位置する柱穴（北東隅柱）、後者は南側柱列1列目で西側柱列1列目に位置する柱穴（南西隅柱）を意味する。また、柱列跡も同様である。
- 12 本文中で使用した「灰白色火山灰」とは十和田a火山灰（To-a）のことを示し、10世紀前葉頃に降下したものと考えられている（白鳥1980、井上・山田1990）。

- 13 本文中に土師器の記述にある「ロクロ調整」とは、製作にロクロを使用したことを意味し、「非ロクロ調整」とは、製作にロクロを用いなかったことを意味し、前者を「ロクロ土師器」、後者を「土師器」と呼称している。
- 14 土器実測図のうち、内面または外面の一部を灰色で着色しているものは黒色処理、赤色で着色しているものは赤彩が施されていることを表している。また、油煙や漆等の付着物については、黒色処理より濃い灰色で着色している。
- 15 軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦の分類と記載は、多賀城跡分類（多賀城跡調査研究所 1982a）に依拠している。
- 16 本文中に出典を示す場合、該当する機関名については以下のとおり省略して記載している。
「宮教委」：宮城県教育委員会
「宮多研」：宮城県多賀城跡調査研究所
「○○市（町）教委」：○○市（町）教育委員会
- 17 航空写真撮影については日本特殊撮影株式会社、遺物写真撮影についてはオフィスキューズに委託して行った。
- 18 自然科学分析については、放射性炭素年代測定を株式会社加速器分析研究所、樹種同定を古代の森研究舎、火山灰分析を火山灰考古学研究所に委託して行った。
- 19 本書の整理については、鈴木啓司・清水上政憲・長内祐輔・中澤淳・高橋透・梅川隆寛が行い、遠藤友美・大沼美代子・亀山昭子・岸柳あきら・小林由美・佐藤せい子・柴田とみ子・鈴木美由紀・瀧澤恵子・只木一美・千田敦子・東海林かづ子・長沼雅子・與名本京子が補助した。
- 20 本文については、調査を担当した調査員の協議を経て、第4章2～4と付章以外を鈴木、付章を車田が執筆し、鈴木が編集した。
- 21 発掘調査の成果については、平成26・27・30年度宮城県遺跡調査成果発表会、田尻地区ほ場整備関連遺跡調査成果発表会、平成27年度城柵官衛遺跡検討会、第19回古代交通研究会大会（鈴木2017）などでその内容の一部が公表されているが、本書と内容が異なる場合、本書がこれらに優先する。
- 22 発掘調査に伴う出土遺物および写真や図面等の資料・記録については、宮城県教育委員会が保管している。

目 次

序文

例言

目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
1 平成 23（2011）年度	1
2 平成 25（2013）年度	1
3 平成 26（2014）年度	3
4 平成 27（2015）年度	3
5 平成 29（2017）年度	3
第2章 遺跡の概要	4
第1節 遺跡の位置と地理的環境	4
第2節 歴史的環境	5
第3節 過去の調査	9
第3章 調査成果	10
第1節 調査の方法	10
1 調査区の設定と調査方針	10
2 記録等の方法	10
第2節 地形と基本層序	14
1 地形	14
2 基本層序	14
第3節 発見した遺構と遺物	18
1 J区	19
2 K区	111
3 M区	223
第4章 自然科学分析	225
第1節 分析の概要	225
1 放射性炭素年代測定（AMS 測定）	225
2 樹種同定	225
3 火山灰分析	225

第2節 団子山西遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）	227
1 測定対象試料	227
2 測定の意義	227
3 化学処理工程	227
4 測定方法	227
5 算出方法	227
6 測定結果	228
第3節 团子山西遺跡から出土した建築材等の樹種	231
1 はじめに	231
2 試料と方法	231
3 同定結果と考察	231
第4節 大崎市团子山西遺跡における火山灰分析	235
1 はじめに	235
2 土層層序	235
3 テフラ検出分析	236
4 火山ガラス比分析	237
5 屈折率測定（火山ガラス）	237
6 火山ガラスのEPMA分析（主成分化学組成分析）	238
7 考察	238
8 まとめ	239
第5章 総括	247
第1節 遺物	247
1 特徴と時期	247
2 各時代の遺物の内容と性格	265
第2節 遺構	266
1 遺構の時期	266
2 各時期の遺構の特徴	276
第3節 遺構の変遷と遺跡の性格	282
1 遺構の変遷と各期の特徴	282
2 遺跡の性格	289
第4節 まとめ	291
付章 田尻西部地区は場整備事業に係る平成13～17年度発掘調査について	301
1 調査方法	302
2 基本層	302
3 調査概要	303

註

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図 田尻西部地区は場整備事業に伴う発掘調査	2	第30図 J-9・10区 平面図	41
第2図 団子山西遺跡の位置	4	第31図 J-9区 断面図	42
第3図 団子山西遺跡の位置と周辺の遺跡	6	第32図 J-9区、試掘確認調査 出土遺物	43
第4図 団子山西遺跡の範囲と調査区の位置	11	第33図 J-12・13・14・15区 平面図	44
第5図 J・K区 調査区の位置	13	第34図 J-12区 SB812・816 挖立柱建物跡平面図・断面図	
第6図 J区 調査区の位置	14		45
第7図 J区の基本構序	16	第35図 J-13・14区 SX826 断面図	46
第8図 K区の基本構序	17	第36図 J-13区 SX826 遺物包含層出土遺物	47
第9図 J-1・2区 平面図・SD774 自然流路跡、SD775 河川 跡断面図	19	第37図 J-14区 SX826 遺物包含層出土遺物	48
第10図 J-1区 出土遺物	20	第38図 J-12・13・14区 その他出土遺物	49
第11図 J-3区 SD701 道路側溝跡断面図・出土遺物	21	第39図 J-13・14区 試掘確認調査出土遺物	50
第12図 J-3区 平面図(1)	22	第40図 J-16区 平面図(1)	51
第13図 J-3区 平面図(2)	23	第41図 J-16区 平面図(2)	52
第14図 J-3区 SB734 挖立柱建物跡平面図・断面図	24	第42図 J-16区 SB863 挖立柱建物跡平面図・断面図	53
第15図 J-3区 SE714 断面図・出土遺物	25	第43図 J-16区 道構断面図・出土遺物	54
第16図 J-3区 SD713 溝跡断面図	25	第44図 J-17・18区 平面図、SD866・867 河川跡断面図	
第17図 J-3区 SD707・713 溝跡出土遺物	26		56
第18図 J-3区 SK704・711・759 土坑断面図・出土遺物	27	第45図 J-17区 出土遺物	57
第19図 J-3区 SD716・702 河川跡、SD721 自然流路跡断 面図	29	第46図 J-19・36区 平面図・断面図	58
第20図 J-3区 SD702 河川跡出土遺物・SD716 河川跡出土 遺物(1)	30	第47図 J-19区 出土遺物	59
第21図 J-3区 SD716 河川跡出土遺物(2)	31	第48図 J-20・35区 平面図	60
第22図 J-3区 SD716 河川跡出土遺物(3)	32	第49図 J-20区 SK908 土坑 断面図	61
第23図 J-3区 試掘確認調査出土遺物(1)	33	第50図 J-35区 出土遺物	61
第24図 J-3区 試掘確認調査出土遺物(2)	34	第51図 J-21区 平面図・断面図	62
第25図 J-4区 平面図・断面図	35	第52図 J-21区 SD909・913 溝跡出土遺物	63
第26図 J-4区 出土遺物	36	第53図 J-22区 平面図(1)	64
第27図 J-5・6区 平面図	38	第54図 J-22区 平面図(2)	65
第28図 J-5・6区 断面図	39	第55図 J-22区 南部西壁断面図	66
第29図 J-5・6区 出土遺物	40	第56図 J-22区 出土遺物(1)	67
		第57図 J-22区 出土遺物(2)	68
		第58図 J-23・24区 平面図	69
		第59図 J-23・24区 東壁断面図	70
		第60図 J-23・24区 出土遺物	71

第61図 J-25区 平面図	72	第100図 K-2区 断面図・出土遺物	128
第62図 J-25区 遺構断面図	73	第101図 K-3区 平面図(1)	130
第63図 J-25区 SD1028 自然道路跡出土遺物	74	第102図 K-3区 平面図(2)	131
第64図 J-25区 SD1028 自然道路跡、その他出土遺物	75	第103図 K-3区 平面図(3)	132
第65図 J-26区 平面図、北壁断面図	77	第104図 K-3区 SD1267・1264・1263溝跡、SK1279土坑、SD1266河川跡断面図	133
第66図 J-26区 SB1040 挖立柱建物跡・SX1037 土器埋設 遺構平面図・断面図	78	第105図 K-3区 SD1267・1265溝跡出土遺物	134
第67図 J-26区 出土遺物	79	第106図 K-3区 SD1264溝跡出土遺物	135
第68図 J-27区 平面図、北壁断面図	80	第107図 K-3区 SD1263溝跡出土遺物(1)	136
第69図 J-27区 出土遺物(1)	81	第108図 K-3区 SD1263溝跡(2)・SD1278・1260溝跡 出土遺物	137
第70図 J-27区 出土遺物(2)	82	第109図 K-3区 SK1279土坑出土遺物	138
第71図 J-28区 平面図	84	第110図 K-3区 その他土坑・ピット出土遺物	139
第72図 J-28区 SB1078・1072・1169・1107 挖立柱建物 跡周辺平面図・断面図	86	第111図 K-3区 SD1266河川跡出土遺物(1)	140
第73図 J-28区 出土遺物	88	第112図 K-3区 SD1266河川跡出土遺物(2)	141
第74図 J-29区 平面図(1)	90	第113図 K-3区 IV層・II層出土遺物	142
第75図 J-29区 平面図(2)	91	第114図 K-3区 表土出土遺物	143
第76図 J-29区 SX1122 東西道路跡周辺平面図	92	第115図 K-3区 遺構確認面・排土・表探出土遺物	144
第77図 J-29区 断面図	93	第116図 K-12区 平面図(1)	145
第78図 J-29区 SD1121溝跡、SK1091土坑出土遺物	94	第117図 K-12区 平面図(2)	146
第79図 J-29区 SD1108河川跡断面図・出土遺物	95	第118図 K-12区 SI1453堅穴建物跡平面図・断面図	147
第80図 J-29区 その他出土遺物(1)	96	第119図 K-12区 SI1453堅穴建物跡出土遺物	148
第81図 J-29区 その他出土遺物(2)	97	第120図 K-12区 井戸跡・溝跡・土坑断面図	149
第82図 J区西端部の遺構配置	99	第121図 K-12区 SK1473土坑出土遺物	150
第83図 SX200南北道路跡・SX1197東西道路跡平面図	100	第122図 K-12区 SD1485河川跡・ピット出土遺物	152
第84図 J-31区 平面図・断面図	101	第123図 K-12区 II層・遺構確認出土遺物	153・154
第85図 J-33・34区 平面図	102	第124図 K-5区 平面図(1)	156
第86図 J-33・34区 道路跡断面図	103	第125図 K-5区 平面図(2)	157
第87図 J-31・32・33・34区 出土遺物	104	第126図 K-5区 平面図(3)	158
第88図 K-1区 平面図	112	第127図 K-5区 平面図(4)	159
第89図 K-1・4区 平面図	113	第128図 K-5区 SB1488 挖立柱建物跡平面図・断面図	
第90図 K-1区 中央部掘建堅穴建物跡・堅穴建物跡平面図	114		160
第91図 K-1区 堅穴建物跡断面図・出土遺物	118	第129図 K-5区 SB1398・1489・1490・1491 挖立柱建物 跡平面図・断面図	161
第92図 K-1区 SH204堅穴建物跡平面図・断面図	119	第130図 K-5区 SB1491・1490・1489 挖立柱建物跡断面図	162
第93図 K-1区 南部平面図、SD1292・1286溝跡断面図	121	第131図 K-5区 SB1397 挖立柱建物跡平面図・断面図	
第94図 K-1区 SD1286・1292・1293溝跡出土遺物	122		164
第95図 K-1・4区 表土・遺構確認出土遺物	123	第132図 K-5区 SB1601 挖立柱建物跡平面図・断面図・出 土遺物	165
第96図 K-2区 平面図(1)	124	第133図 K-5区 SB1613 挖立柱建物跡平面図・断面図	166
第97図 K-2区 平面図(2)	125	第134図 K-5区 SB1409 挖立柱建物跡平面図・断面図・ SD1373溝跡平面図	167
第98図 K-2区 SH1230堅穴跡出土遺物	126		
第99図 K-2区 SE1255・1254・1233・1250・1231井戸 跡断面図	127		

第 135 図 K-5 区 SB1408 挖立柱建物跡・SX1622 竪穴遺構・ SD1620 溝跡平面図	168	第 171 図 K-6 区 平面図（1）、SX400 東西道路跡断面図	203
第 136 図 K-5 区 SB1408 挖立柱建物跡断面図	169	第 172 図 K-6 区 平面図（2）、SB1550 挖立柱建物跡平面図・ 断面図	204
第 137 図 K-5 区 SI1381 竪穴建物跡断面図	170	第 173 図 K-6 区 平面図（3）、SD1484 河川跡断面図	205
第 138 図 K-5 区 SI1381 竪穴建物跡出土遺物	171	第 174 図 K-6 区 平面図（4）	206
第 139 図 K-5 区 SI1621 竪穴建物跡平面図・断面図	172	第 175 図 K-6 区 出土遺物	209
第 140 図 K-5 区 SI1621 竪穴建物跡（K1～K3、P1～P3） 断面図	173	第 176 図 K-7～11 区 平面図	210
第 141 図 K-5 区 SI1621 竪穴建物跡 遺物出土状況	175・176	第 177 図 K-8 区 SD1412 河川跡・K-7 区 SD1483 河川跡断 面図	211
第 142 図 K-5 区 SI1621 竪穴建物跡出土遺物（1）	177	第 178 図 K-7 区 SD1483 河川跡出土遺物	212
第 143 図 K-5 区 SI1621 竪穴建物跡出土遺物（2）	178	第 179 図 K-13・14・15 区 平面図	213
第 144 図 K-5 区 SI1621 竪穴建物跡出土遺物（3）	179	第 180 図 K-13 区 SB1475 挖立柱建物跡平面図	214
第 145 図 K-5 区 SI1621 竪穴建物跡出土遺物（4）	180	第 181 図 K-13 区 SB1475 挖立柱建物跡断面図・出土遺物	215
第 146 図 K-5 区 SI1621 竪穴建物跡出土遺物（5）	181	第 182 図 K-13 区 SD1481 溝跡、遺構確認出土遺物	217
第 147 図 K-5 区 SI1621 竪穴建物跡出土遺物（6）	182	第 183 図 M 区 調査区の位置	223
第 148 図 K-5 区 SI1371 竪穴建物跡平面図・断面図	183	第 184 図 M 区 出土遺物	224
第 149 図 K-5 区 SI1371 竪穴建物跡出土遺物	184	第 185 図 自然科学分析 試料採取地の位置	226
第 150 図 K-5 区 SX1622 竪穴遺構断面図・出土遺物	184	第 186 図 異年較正年代グラフ	230
第 151 図 K-5 区 SE1354・1382 井戸跡断面図	185	第 187 図 J-27・33・34 区の土層柱状図	241
第 152 図 K-5 区 SE1382 井戸跡出土遺物	186	第 188 図 団子山西遺跡テラフ試料の火山ガラス比ダイヤグラ ム	242
第 153 図 K-5 区 SE1626 井戸跡平面図・断面図・出土遺物 (1)	187	第 189 図 SD1266 河川跡出土土器	248
第 154 図 K-5 区 SE1626 井戸跡出土遺物（2）	188	第 190 図 SI1621 竪穴建物跡出土土器	250
第 155 図 K-5 区 SD1620 溝跡断面図	189	第 191 図 SD716 河川跡出土土器	253
第 156 図 K-5 区 SD1620 溝跡出土遺物（1）	189	第 192 図 SD1028 河川跡出土土器	254
第 157 図 K-5 区 SD1620 溝跡出土遺物（2）	190	第 193 図 SD1263 溝跡、SK1279 土坑出土土器	255
第 158 図 K-5 区 SD1373 溝跡断面図	191	第 194 図 SI1453 竪穴建物跡出土土器	256
第 159 図 K-5 区 その他溝跡断面図	192	第 195 図 SK1473 土坑出土土器	257
第 160 図 K-5 区 SD1391・1384 溝跡出土遺物	192	第 196 図 J・K 区出土 中世陶器	258
第 161 図 K-5 区 SK1624・1625・1410 土坑断面図	193	第 197 図 団子山西遺跡・新田權跡出土瓦と大崎八幡神社所藏 瓦	261
第 162 図 K-5 区 SK1624・1410・1362・1625 土坑出土遺 物	194	第 198 図 K 区出土 石製模造品	263
第 163 図 K-5 区 SK1388・1399 土坑断面図	195	第 199 図 J・K 区出土 黒書土器	264
第 164 図 K-5 区 SK1388・1400・1399・1395 土坑出土遺 物	196	第 200 図 古代の特徴的な遺物	265
第 165 図 K-5 区 SX1394 円形周溝跡断面図	197	第 201 図 J 区 主要な遺構の重複関係	268
第 166 図 K-5 区 SD1406 河川跡断面図	198	第 202 国 K 区 主要な遺構の重複関係	269
第 167 図 K-5 区 SD1406 河川跡出土遺物	199	第 203 国 H・I・J・K・L 区 古墳時代の遺構・遺物検出 地点	282
第 168 国 K-5 区 SD1370 自然流跡出土遺物	200	第 204 国 8 世紀前半の团子山西遺跡とその周辺	284
第 169 国 K-5 区 SX1375 遺物包含層・P498・P811 出土 遺物	200	第 205 国 8 世紀後半の团子山西遺跡とその周辺	285
第 170 国 K-5 区 II 層・遺構確認・表土出土遺物	202		

挿 表 目 次

第1表 团子山西遺跡の調査.....	9	第18表 K区小溝状遺構群属性表.....	222
第2表 J区の調査内容.....	18	第19表 K区河川跡・自然流路跡属性表.....	222
第3表 J区道路跡属性表.....	105	第20表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{14}\text{C}$ 補正值).....	229
第4表 J区掘立柱建物跡属性表.....	105	第21表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{14}\text{C}$ 未補正值、曆年較正用 ^{14}C 年代、較正年代).....	229
第5表 J区柱列跡属性表.....	106	第22表 团子山西遺跡出土加工材 樹種同定結果.....	231
第6表 J区井戸跡属性表.....	106	第23表 テフラ検出分析結果.....	243
第7-1表 J区溝跡属性表.....	106	第24表 火山ガラス比分析結果.....	243
第7-2表 J区溝跡属性表.....	107	第25表 程折率測定結果.....	243
第7-3表 J区溝跡属性表.....	108	第26表 14J-27区・基本土層断面・試料2に含まれる火山ガラスの主成分化学組成.....	244
第7-4表 J区溝跡属性表.....	109	第27表 14J-27区・基本土層断面・試料4に含まれる火山ガラスの主成分化学組成.....	244
第8表 J区土坑属性表.....	109	第28表 14J-27区・基本土層断面・試料7に含まれる火山ガラスの主成分化学組成.....	244
第9表 J区小溝状遺構群属性表.....	110	第29表 14J-33区 SD1181・試料1に含まれる火山ガラスの主成分化学組成.....	245
第10表 J区河川跡・自然流路跡属性表.....	110	第30表 14J-33区 SD1181・試料4に含まれる火山ガラスの主成分化学組成.....	245
第11表 K区の調査内容.....	111	第31表 团子山西遺跡テラフ試料と約5万年前以降の指標テラフに含まれる火山ガラスの主成分化学組成比較.....	245
第12表 K区道路跡属性表.....	218	第32表 古代の土器の集計.....	252
第13表 K区掘立柱建物跡属性表.....	218	第33表 团子山西遺跡とその他遺跡の道路跡計測表.....	278
第14表 K区豊穴建物跡属性表.....	219		
第15表 K区井戸跡属性表.....	219		
第16-1表 K区溝跡属性表.....	219		
第16-2表 K区溝跡属性表.....	220		
第16-3表 K区溝跡属性表.....	221		
第17-1表 K区土坑属性表.....	221		
第17-2表 K区土坑属性表.....	222		

図 版 目 次

図版1 遺跡周辺の空中写真	329	図版39 J-3区(2)出土遺物	367
図版2 J・K区全景	330	図版40 J-3区(3)出土遺物	368
図版3 K区全景	331	図版41 J-3(4)・4(1)区出土遺物	369
図版4 J-3区(1)	332	図版42 J-4(2)・5・6・9・13(1)区出土遺物	370
図版5 J-3区(2)	333	図版43 J-12・13(2)・14(1)区出土遺物	371
図版6 J-3(3)・J-4区	334	図版44 J-13(3)・14(2)・16・17(1)区出土遺物	
図版7 J-6区	335		372
図版8 J-13・14区	336	図版45 J-17(2)・19・21・35区出土遺物	373
図版9 J-16区(1)	337	図版46 J-22・23(1)区出土遺物	374
図版10 J-16区(2)	338	図版47 J-23(2)・24・25(1)区出土遺物	375
図版11 J-21・22・23区	339	図版48 J-25(2)・26区出土遺物	376
図版12 J-25・26区(1)	340	図版49 J-27区出土遺物	377
図版13 J-26区(2)	341	図版50 J-28・29(1)区出土遺物	378
図版14 J-27・28区(1)	342	図版51 J-29区(2)出土遺物	379
図版15 J-28区(2)	343	図版52 J-31・32・33・34区、K-1区(1)出土遺物	380
図版16 J-28区(3)	344	図版53 K-1(2)・2(1)・4区出土遺物	381
図版17 J-29区(1)	345	図版54 K-2(2)・3(1)区出土遺物	382
図版18 J-29区(2)	346	図版55 K-3区(2)出土遺物	383
図版19 J-31・32区	347	図版56 K-3区(3)出土遺物	384
図版20 J-33・34区(1)	348	図版57 K-3区(4)出土遺物	385
図版21 J-33・34区(2)	349	図版58 K-3区(5)出土遺物	386
図版22 K-1区(1)	350	図版59 K-3区(6)出土遺物	387
図版23 K-1(2)・K-2区	351	図版60 K-3区(7)出土遺物	388
図版24 K-3区(1)	352	図版61 K-3区(8)出土遺物	389
図版25 K-3区(2)	353	図版62 K-12区(1)出土遺物	390
図版26 K-5区(1)	354	図版63 K-12区(2)出土遺物	391
図版27 K-5区(2)	355	図版64 K-12(3)、K-5(1)区出土遺物	392
図版28 K-5区南・中央(1)	356	図版65 K-5区(2)SI1621竪穴建物跡出土遺物	393
図版29 K-5区中央(2)	357	図版66 K-5区(3)SI1621竪穴建物跡出土遺物	394
図版30 K-5区中央(3)	358	図版67 K-5区(4)SI1621竪穴建物跡出土遺物	395
図版31 K-5区北(1)	359	図版68 K-5区(5)SI1621竪穴建物跡出土遺物	396
図版32 K-5区北(2)	360	図版69 K-5区(6)出土遺物	397
図版33 K-5区北(3)	361	図版70 K-5区(7)出土遺物	398
図版34 K-6区	362	図版71 K-5区(8)出土遺物	399
図版35 K-12区	363	図版72 K-5区(9)出土遺物	400
図版36 K-13区	364	図版73 K-5区(10)出土遺物	401
図版37 K区 遺物集合写真	365	図版74 K-5区(11)、K-6区(1)出土遺物	402
図版38 J-1・3区(1)出土遺物	366	図版75 K-6(2)・7・13区出土遺物	403

調査要項

遺跡名：団子山西遺跡（宮城県遺跡地名表遺跡登録番号：38011）

遺跡記号：WD

所在地：宮城県大崎市田尻大嶺・中目

調査原因：経営体育成基盤整備事業田尻西部地区

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課（平成30年度より宮城県教育庁文化財課に改称）

平成23年度 村上裕次 斎藤圭一 須藤貴宏 清水上政憲

平成25年度 鈴木啓司 清水上政憲 長内祐輔

平成26年度 鈴木啓司 中沢淳 大崎市協力：大谷基 車田敦

平成27年度 西村力 中沢淳 田中秀幸 熊谷宏規

大崎市協力：大谷基 車田敦 大久保弥生

平成29年度 村上裕次 梅川隆寛 猪股清和 鈴木啓司 佐藤沙

調査期間：平成23年度 10月25日～11月14日

平成25年度 5月27日～11月25日

平成26年度 5月19日～11月27日

平成27年度 6月23日～11月20日

平成29年度 10月31日～12月25日

対象面積：J区 12,650m²、K区 9,200m²、M区 5,070m²

調査面積：J区 5,229m²、K区 5,597m²、M区 546m²

調査協力：大崎市教育委員会、宮城県北部地方振興事務所、江合川沿岸土地改良区

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

宮城県北部に位置する大崎平野は、東西 13km、南北 17km にわたる県内有数の内陸平野である。江合川と鳴瀬川の沖積作用によって形成された平野には大崎耕土が広がっており、肥沃な穀倉地帯となっている。この大崎平野の大部分を占める大崎市では、北部の古川、田尻の両地区で大規模な経営体育成基盤整備事業（県営は場整備事業）が計画された。このうち、田尻地区では西部、中央、蕪栗沼、鹿角沼地区が対象とされた。

田尻西部地区は、旧田尻町域の田尻川の両岸に広がる沖積地が事業区域である。田尻川右岸地区では神明遺跡（現団子山西遺跡）が対象となり、旧田尻町教育委員会により平成 13・14 年度に試掘確認調査、平成 15 年度に本発掘調査が実施された。田尻川左岸地区的試掘確認調査は平成 16・17 年度に宮城県教育委員会・旧田尻町教育委員会によって実施され、北小松遺跡とその周辺地域、諏訪遺跡、団子山西遺跡、神明遺跡、新田柵跡とその周辺地域が対象とされた。その結果、対象区域には多くの遺構・遺物が分布しており、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲が大きく広がることが判明した（付章参照）。

これを踏まえ、宮城県北部地方振興事務所、江合川土地改良区、宮城県教育委員会、大崎市教育委員会にて協議を重ねた結果、遺構の存在する部分については基本的に盛土による現状保存を行い、やむを得ず遺構面に影響が及ぶ道路や水路部分等について調査を実施することが決定した。

田尻川左岸地区的調査は、平成 19 年度から平成 27 年度、平成 29 年度に宮城県教育委員会が主体となって実施した。このうち、平成 22～27・29 年度に団子山西遺跡を調査した。

第2節 調査の経過

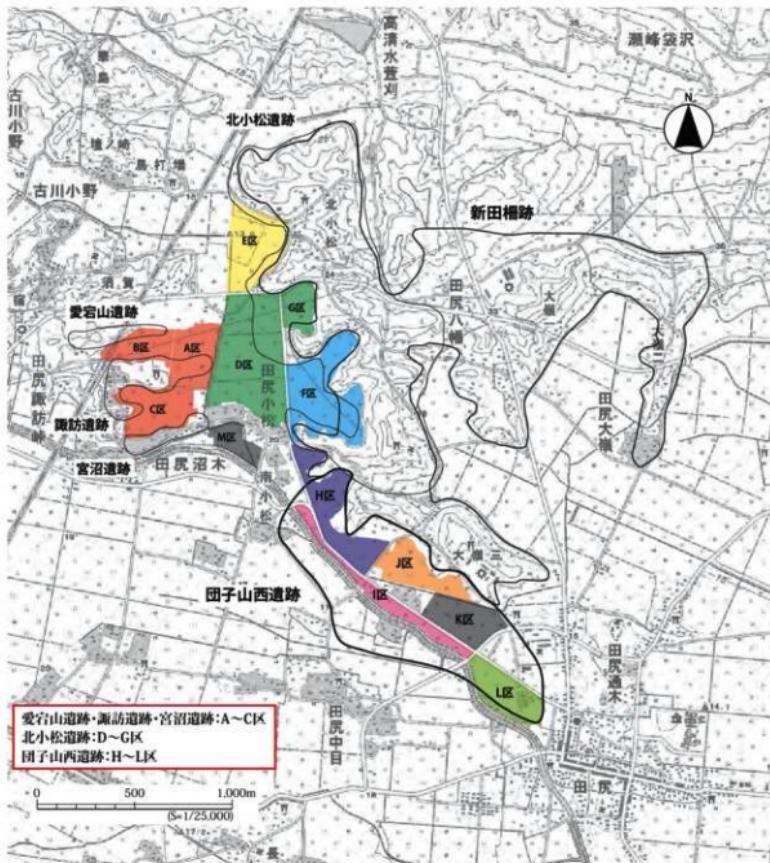
今回報告する J・K・M 区の調査は、平成 23（2011）年度から平成 29（2017）年度にかけて実施されたものである（第1表）。

1 平成 23（2011）年度

10月 25 日～11月 14 日に J 区の試掘確認調査を実施した。農道・水路建設予定区域に J-1 トレンチ～J-36 トレンチを設定した。その結果、多くのトレンチで河川跡・自然流路跡を検出したが、J-1～J-7 トレンチでは土坑や溝跡のほか、南北道路跡の側溝と推定される遺構を検出した。また、J-18 トレンチでは縄文時代の遺物包含層（基本層序 VI 層）を検出した。遺物は、各トレンチから土師器、須恵器、瓦、縄文土器、石器などが出土した。

2 平成 25（2013）年度

一昨年度の試掘確認調査を受けて、5月 27 日から J 区の調査を開始した。農道・水路・パイプラ



調査年度	調査内容	道路	調査地点	調査主体	報告書
2004(平成16)	試掘確認	北小松道路	D区	宮城県教育委員会	宮教委2005
	試掘確認	北小松遺跡、源訪道路、御山櫻路、神明道路、 浦山山西遺跡	A~C区, F区, H~K区	田尻町教育委員会	本書
2005(平成17)	試掘確認	北小松遺跡、御山櫻路	E~G区	田尻町教育委員会	本書
2007(平成19)	本発掘・確認	愛宕山遺跡、満沼遺跡、宮沼遺跡	A~D区	宮城県教育委員会	宮教委2008・ 2010a
2008(平成20)	本発掘・確認	北小松道路	D~F区	宮城県教育委員会	宮教委2011
2009(平成21)	本発掘・確認	北小松道路	D区, F区, G区	宮城県教育委員会	宮教委2014a
2010(平成22)	本発掘・確認	北小松道路	F区	宮城県教育委員会	本刊
2011(平成23)	本発掘・確認	浦山山西遺跡	H区, I区	宮城県教育委員会	宮教委2018
2012(平成24)	本発掘・確認	浦山山西遺跡	J区, L区	宮城県教育委員会	宮教委2018
2013(平成25)	本発掘・確認	浦山山西遺跡	J区, L区	宮城県教育委員会	宮教委2018・ 本書
2014(平成26)	本発掘・確認	浦山山西遺跡	J区, K区	宮城県教育委員会	本書
2015(平成27)	試掘確認	宮沼遺跡隣接地	M区	宮城県教育委員会	本書
2017(平成29)	本発掘	浦山山西遺跡	K区	宮城県教育委員会	本書

第1図 田尻西部地区は場整備事業に伴う発掘調査

イン建設予定区域に J-1～J-24 区を設定した。調査は、農道部分 (J-1・2・4～20, 23・24 区) を遺構確認にとどめ、水路部分 (J-3・12～16, 21・22 区) とバイオライン部分 (J-5・6, 10, 17～20, 22・24 区の一部) については本発掘調査を行った。11 月 25 日に調査を終了した。

3 平成 26 (2014) 年度

5 月 19 日より J 区の計画変更箇所の調査を開始した。調査は、農道部分 (J-29 区) を遺構確認にとどめ、水路部分 (J-25～28・30 区) とバイオライン部分 (J-29 区の一部) については本発掘調査を行った。また、大型の掘立柱建物跡を検出した J-28 区と東西方向の道路跡を検出した J-29 区については調査区を拡張し、ほかにも道路跡の検出が想定される箇所には J-31～36 区を設定して重要遺構の範囲確認調査を行った。

9 月 4 日より K 区の調査を開始した。調査は、農道部分 (K-1・4 区) を遺構確認にとどめ、水路部分 (K-3 区) とバイオライン部分 (K-1・4 区の一部) については本発掘調査を行った。なお、K-2 区については当初、水路部分として調査区を設定したが、計画変更により K-3 区を新たに設定したことから、本発掘調査は行わず、遺構確認にとどめた。

11 月 10 日より M 区の試掘確認調査を開始した。M-1 トレンチ～M-25 トレンチを設定したが、遺構はなく、遺物は表土から少量出土したのみであった。11 月 27 日に K 区西部と M 区の調査を終了した。調査期間中の 11 月 7 日には地域の方々を対象とした現地説明会を実施し、20 名の参加を得た。

4 平成 27 (2015) 年度

6 月 23 日より K 区東部の調査を開始した。調査は、農道部分 (K-6～11, 13～15 区) を遺構確認にとどめ、水路部分 (K-5 区) とバイオライン部分 (K-6・7、12 区の一部) については本発掘調査を行った。また、K-13 区では大型の掘立柱建物跡の一部を検出したことから調査区を拡張し、重要遺構の範囲確認を行った。11 月 20 日に調査を終了した。

5 平成 29 (2017) 年度

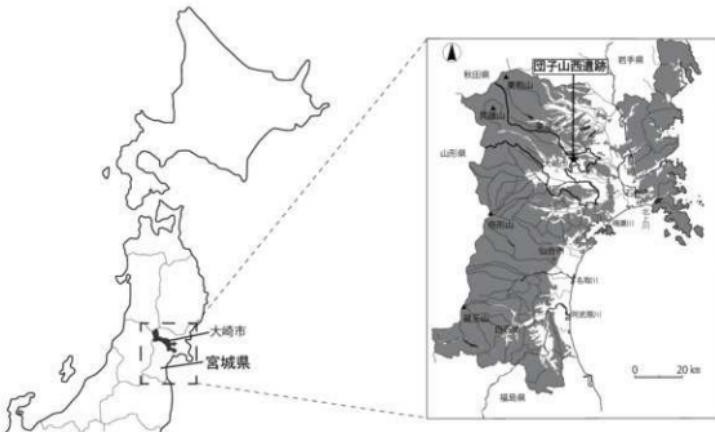
K 区について計画変更が生じたため、10 月 31 日より K-5 区の東に隣接する箇所の調査を開始した。畠地を田面とするために切土を作うことから、本発掘調査を行った (K-5 区北・中央・南)。12 月 25 日に調査を終了した。

第2章 遺跡の概要

第1節 遺跡の位置と地理的環境

团子山西遺跡は、宮城県大崎市田尻小松・大嶺・中目・通木に所在し、東北本線JR田尻駅から北西に4.5kmの位置にある。大崎市は平成18年3月に1市6町が合併して誕生した市で、宮城県の北部に位置し、総面積が796.76km²と広範囲にわたる（第2図）。北部は栗原市、東部は登米市、美里町、涌谷町、南部は大衡村、大郷町、松島町、西部は加美町、色麻町、また、北西部は山形県・秋田県と接する。遺跡が所在する田尻地区（旧田尻町）は、市の中央北端、大崎平野の北部に位置する。北には清滝丘陵（築館丘陵）、南には鹿島台丘陵（三木本丘陵）、東には大崎平野の東限となる鎧岳丘陵が位置し、その周囲に沖積地が広がっている。遺跡の所在する大崎平野の東縁部には、清滝丘陵の末端にあたる低い小丘陵が点在しており、丘陵の縁辺は東流する河川によって開析が進み、尾根と低地が複雑に入り組む地形となっている。沖積地は江合川水系の河川により形成され、自然堤防、後背湿地、旧河道が広がる。

遺跡は、江合川水系の田尻川両岸の清滝丘陵南面に広がる冲積地（微高地、湿地、河川、旧河道）に立地する。標高は12～18mで、現況は田地、畠地、宅地、道路、河川である。遺跡の範囲は北西一南東方向の長楕円形で、北西一南東1.7km、北東一南西0.7kmに及ぶ。



第2図 団子山西遺跡の位置

第2節 歴史的環境

大崎市田尻地区とその周辺には、縄文時代から近世にかけて数多くの遺跡が分布する（第3図）。ここでは主に、今回の調査で主要な遺構・遺物を発見した古墳時代から中世までの歴史的環境について記述し、そのほかに時代については概略にとどめる。

縄文・弥生時代 早期から晩期の遺跡が分布しているが、晩期を中心とする遺跡が多い。団子山西遺跡に隣接する北小松遺跡（3）は、早期中葉から後葉、前期初頭から前期前葉、中期末葉、後期末葉から晩期末葉の遺跡である。特に晩期では、掘立柱建物跡、土坑墓、埋葬犬骨、集石遺構などの多数の遺構が検出され、遺物包含層から土器・土製品、石器・石製品、骨角器、漆製品、動植物遺存体などの豊富な遺物が大量に出土した（宮教委 2010a・2011a・2014）。晩期では他に、愛宕山遺跡（4）・諫訪遺跡（5）・宮沼遺跡（6）（宮教委 2010a）、通木田中前遺跡（9）、金鉢神遺跡（14）（大崎市教委 2016）などが存在する。

弥生時代では、新田柵跡でわずかに土器が出土し（田尻町教委 2000）、通木田中前遺跡では前期の遺物包含層からまとまった量の遺物が出土した。金鉢神遺跡では後期の天王山式の土器が出土している（大崎市教委 2016）。

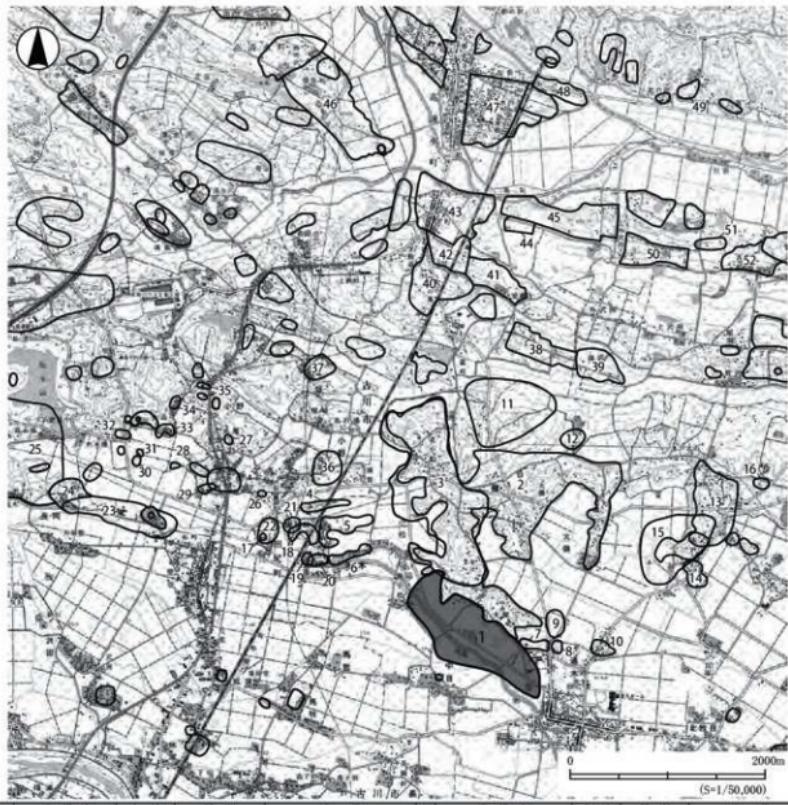
古墳時代 前期では、新田柵跡の外郭南辺の丘陵頂部で径 20m 程度の円墳が周溝のみであるが 1 基検出されており、堆積土から底部穿孔の二重口縁壺が出土した（田尻町教委 2001b）。また、遺跡内の低湿地から膝柄鏡の鏡先が出土している（田尻町教委 2003）。集落遺跡には、金鉢神遺跡（14）（大崎市教委 2016）、寺浦遺跡（49）（栗原市教委 2006）、大境山遺跡（瀬峰町教委 1983）などがある。

中期は周辺に古墳・集落とともに確認されていないが、大崎平野西部の名生館官衙遺跡や神明遺跡（大崎市教委 2011a）などで集落が確認されている。栗原市瀬峰の四ツ塙遺跡で土師器と石製模造品が出土し（栗原市教委 2006）、泉谷館跡で土師器が採集されている（瀬峰町教委 1987）。

後期も周辺で古墳・集落ともに確認されていない。大崎地域は、名生館官衙遺跡（古川市教委 2002）や泉谷館跡、日光山古墳群・塚原古墳群（古川市史編さん委 2006）で古墳・集落が確認されている程度である。

終末期の 7 世紀後半には横穴式石室を持つ古墳や横穴墓からなる群集墳が大崎一帯に広がり、田尻地区周辺でも天神西横穴墓群（17）、日向前横穴墓群（18）、筒水横穴墓群（19）、六月坂遺跡（16）、小野横穴墓群（27～30・32～34）などが分布している。このうち、六月坂遺跡は 7 世紀中葉から 8 世紀前半（宮多研 2008）、日向前横穴墓群は多賀城創建以前（宮教委 1981）、小野横穴墓群の朽木橋支群は 7 世紀後半から 9 世紀までの使用が想定されており（宮教委 1983a）、横穴墓の形状や関東系土師器の出土から関東地方との関連が指摘されている。

集落では、田尻地区より北側の泉谷館跡で 7 世紀前半、大境山遺跡では 7 世紀後半から 8 世紀初頭の竪穴建物跡に伴う関東系土師器が出土している（瀬峰町教委 1987）。また、遺構に伴わないものの、民生病院裏遺跡（瀬峰町教委 1988b）、下富前遺跡（瀬峰町教委 2004）、栗原市高清水の外沢田 B 遺



遺跡名	立地	種別	時代	No.	遺跡名	立地	種別	時代
1 団子山西遺跡	自然堤防	集落	縄文・古墳・古代・中世・近世	27	小野橋六帖郡(馬籠支郡)	丘陵斜面	橋穴墓	古墳後
2 前山櫛路	丘陵	古墳・城柵・集落	縄文・弥生・古墳・古代・中世	28	小野橋六帖郡(毛山支郡)	丘陵斜面	橋穴墓	古墳後・奈良
3 北小松遺跡	丘陵	散布地(廻状地)	縄文・古代	29	小野橋六帖郡(月黒支郡)	丘陵斜面	橋穴墓	古墳後・奈良
4 受白山遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代	30	小野橋六帖郡(岩崎支郡)	丘陵斜面	橋穴墓	古墳後・奈良
5 深谷山遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代	31	平塚古墳	丘陵尾根	円墳	古墳後
6 佐伯山遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代	32	小野橋六帖郡(朽木橋支郡)	丘陵斜面	橋穴墓	古墳後・奈良
7 お山山遺跡	丘陵	散布地	縄文・古墳前・古代	33	小野橋六帖郡(小浜支郡)	丘陵斜面	橋穴墓	古墳後・奈良
8 通山山崎遺跡	丘陵	散布地	平安	34	小野橋六帖郡(新田支郡)	丘陵斜面	円墳・横穴墓	古墳・古代
9 通木山中山西遺跡	冲積・平野	散布地	縄文・弥生・古代	35	新田古墳群	丘陵	円墳・方墳	古墳
10 通木山山遺跡	自然堤防	城柵	中世	36	通質遺跡	丘陵尾根	散在地	縄文・古代
11 天狗穴遺跡	丘陵斜面	集落	縄文・奈良・平安	37	望島遺跡	丘陵斜面	散在地	古墳後・古代
12 大銀山遺跡	丘陵	散布地	平安	38	北原 A 遺跡	段丘	散在地	縄文・古代・中世・近世
13 国史跡 木戸上空跡	丘陵	空跡	奈良	39	袋沢遺跡	丘陵	散在地	縄文・古代
14 金鏡神道跡	丘陵	集落	奈良・平安・中世	40	中ノ集落跡	段丘	集落	縄文・古代・中世・近世
15 木戸遺跡	丘陵	集落・散布地	弥生・古代・中世・近世	41	対溝寺跡	段丘	寺社・散在地	縄文・古代・中世・近世
16 八坂遺跡	丘陵	散布地	古代	42	仰ヶ峯④ 地藏前遺跡	段丘	散在地	縄文・古代・中世・近世
17 天神内横穴墓群	丘陵	横穴墓	古墳後	43	鶴谷山遺跡	段丘	集落	縄文・古代・奈良・中世
18 日向山横穴墓群	丘陵	横穴墓	古墳・平安	44	其の他の遺跡	段丘	散在地	縄文・古代・中世・近世
19 間合横穴墓群	丘陵	横穴墓	古墳	45	外洋田遺跡	段丘	散在地	古代
20 大御門跡	丘陵	城柵	中世	46	鋸ヶ崎遺跡	段丘	散在地	縄文・古代・古民家
21 沼上断跡	丘陵	城柵	中世	47	高清水断跡	段丘	城柵	中世・近世
22 天神山遺跡	丘陵	散布地	古代	48	大寺遺跡	段丘	散在地	縄文草・古墳・古代
23 森久山遺跡	丘陵	集落	古代	49	寺守遺跡	丘陵	散在地	縄文・古墳前・古代
24 三輪山遺跡	丘陵	官衙・寺院?	奈良・平安	50	外山田山遺跡	段丘	集落	古代・近世
25 国史跡 宮沢遺跡	丘陵	官衙	縄文・弥生・奈良・平安	51	市史跡・王增遺跡	丘陵	橋・散布地	古墳・古代
26 一真寺遺跡	丘陵	散布地	奈良	52	長根遺跡	丘陵	散布地	古代

第3図 団子山西遺跡の位置と周辺の遺跡

跡（50）（瀬峰町教委 2003）で 7 世紀後葉～8 世紀初頭ないし中頃の関東系土師器が出土している。

この時期は、畿内の中央政権が関東地方などから大勢の移民を送り、建郡を行っている。拠点となる城柵や官衙の設置により、宮城県中央部から北部にかけて支配領域の拡大を目指していた時期とされ、関東系土師器はこれを示す遺物と考えられている（今泉 1992）。大崎地方では、7 世紀後半頃に名生館官衙遺跡（宮多研 1981・1982b・1983～1986、古川市教委 1987～1998・2000～2002・2003b・2004・2006）、南小林遺跡（古川市教委 2001、大崎市教委 2019b）、三輪田・権現山遺跡（佐藤 2003）で、関東系土師器や関東地方と類似する構造の竪穴建物跡が確認され、さらに、7 世紀末から 8 世紀初頭頃には官衙あるいはその可能性のある遺構が認められる。

奈良時代 養老四（720）年に起きた蝦夷の大規模な反乱を契機に、多賀城跡の造営と大崎平野北縁を中心とした黒川以北十郡への城柵の造営が一体的に進められ（熊谷 2000）、新田郡には『統日本紀』天平九（737）年条記載の「新田柵」が造営された。この「新田柵」は、田尻地区に所在する新田柵跡と推定されている。新田柵跡は田尻川に面した丘陵上に所在し、その上流には権現山遺跡（23）、三輪田遺跡（24）、国史跡宮沢遺跡（25）などの城柵官衙遺跡が所在する。新田柵跡では、20 年以上にわたる調査で、築地塀跡や材木塀跡、溝跡による区画施設と西門跡、北門の可能性がある掘立柱建物跡、道路跡、掘立柱建物跡や竪穴建物跡が検出された（宮教委 1991b・1992b、田尻町教委 1998・2000～2004・2006、大崎市教委 2008・2009・2010・2011b）。区画施設の範囲は東西 1.5km 以上、南北 1.7km と推定され、その内側には大型の掘立柱建物跡と竪穴建物跡が多く認められる。区画施設の北側の丘陵上にも竪穴建物跡が検出され、その中には 8 世紀前半頃の関東系土師器が出土したものもある（宮教委 1991、田尻町教委 1998）。

新田柵跡の東側 2.5km の地点には、多賀城政庁遺構期第Ⅰ期の瓦を生産した国史跡木戸瓦窯跡（13）が所在する。郷里制が施行されていたことを示す平瓦が採集されたことや、出土した瓦と須恵器の特徴から、操業時期は 8 世紀前半と考えられている（田尻町教委 2001a、宮多研 2005・2006・2007、大崎市教委 2011b）。

新田柵跡周辺には古代の集落遺跡が多数分布している。南側の沖積地には団子山西遺跡（1）、お椀子山遺跡（7）、通木田中前遺跡（9）、北側の丘陵上には天狗堂遺跡（11）、大嶺遺跡（12）、低地を挟んでさらに北側には栗原市高清水の觀音沢遺跡（43）、北甚六原遺跡（44）、外沢田遺跡（45）、外沢田 B 遺跡（50）、栗原市瀬峰の長根遺跡（52）、大境山遺跡、民生病院裏遺跡、下富前遺跡、四ツ壇遺跡などが所在する。また、東側の丘陵上には木戸遺跡（15）、金鏡神遺跡が所在する。新田柵跡の南東部に隣接する通木田中前遺跡では、枠をもつ井戸跡や溝跡が検出されており、新田柵跡と一緒に連なる丘陵上に立地する天狗堂遺跡では 10 棟以上の竪穴建物跡が検出された（田尻町教委 1978）。長根遺跡では 8 世紀前葉の関東系土師器が出土している（瀬峰町教委 2003）。これらの集落遺跡や木戸瓦窯跡は、新田柵跡との関連が推定されている。

平安時代 宝亀五（774）年の海道蝦夷の桃生城侵攻から弘仁 2（811）年まで続く 38 年戦争の時期、『日本後記』延暦十八（799）年には讃馬郡を新田郡に併合するという記載があり、新田郡の郡域拡大が行われている。新田柵跡では、9 世紀代の掘立柱建物跡や 9 世紀後半の竪穴建物跡（田尻町教委

2002a・2003)、遺跡内で採集された軒丸瓦の中に9世紀代と考えられるものが認められるが(田尻町教委2002a)、この時期の遺構・遺物は少なく様相は不明である。

周辺の遺跡では、金鉢神遺跡、四ツ壇遺跡、岩石I遺跡(瀬峰町教委1977・1980)で9世紀代の竪穴建物跡が検出されている。下富前遺跡では、9世紀初頭頃の桁行5間、梁行2間で東側に庇を持ち、身舎内部に間仕切りの柱穴を持つ大型の掘立柱建物跡や、同じく桁行5間、梁行1間以上の大型の掘立柱建物跡、材木垢跡、大溝跡が検出された。出土遺物には綠釉陶器があり、これらは有力者の居宅かあるいは、小山田川沿岸に立地する河川交通に関わる何らかの公的施設の可能性が考えられている(瀬峰町教委2004)。木戸遺跡では、9世紀第4四半期~10世紀前半頃に機能した井戸跡と溝跡から多数の僕墨書土器が出土しており、一般集落とは異なる井戸祭祀行う公的な要素を持つ空間が広がっていたことが想定されている(大崎市2018)。

中世 11~12世紀の様相は不明点が多い。团子山西遺跡で渥美産の陶器甕がわずかに出土している。大崎地域では、古川清滝に所在する紫神社窯跡で10世紀後半~12世紀のかわらけが出土しており、岩手県平泉で出土するかわらけと似た特徴があることから、安倍・清原氏から平泉藤原氏と関係するとみられる(古川市編さん史委員会2008)。源頼朝による奥州合戦後、新田郡の地頭職には下野国御家人小野寺通綱、現在の大崎市古川・岩出山・田尻北部、栗原市高清水地域である葛岡郡の地頭職には武藏国御家人畠山重忠が任じられた(入間田1997)。その後、畠山重忠は元久2(1205)年に滅亡し、代わりに常陸国御家人馬場大掾の一族の平資幹が任じられた。新田郡では、鎌倉時代後期より北条氏の所領となつたことが推定されている(入間田1997、伊藤2000)。

田尻地区のこの時期の遺跡には金鉢神遺跡がある。板碑には弘安六(1283)年・弘安七(1284)年銘のものがある(田尻町史編さん委員会1982、古川市史編さん委員会2006)。周辺には、屋敷跡が検出された下富前遺跡(瀬峰町教委2000)、幹線道路に近い位置にある集落跡で、流通に関わる性格も推定されている観音沢遺跡(宮教委1980、飯村2015)、観音沢遺跡に近接し、道路跡とそれに面した複数の屋敷跡が検出された北甚六原遺跡(栗原市教委2009)が所在する。この他に、中世寺院跡の可能性がある覚満寺跡(41)や、栗原市と登米市にわたって広がる伊豆沼窯跡群、仰ヶ返り地蔵前遺跡(42)が所在する。伊豆沼窯跡群は7支群からなる大規模な窯跡群で、このうち熊狩A窯跡群の窯跡2基の調査が行われている(東北歴史資料館1979、田中2003)。窯の構造は分焰柱を作う地下式窯窯で、甕、擂鉢、皿を生産している。仰ヶ返り地蔵前遺跡では、ロストル式の瓦窯跡が2基検出され、それらの構造や構築順序が明らかとなった(東北学院大学佐川ゼミナール・藤原2009)。

第3節 過去の調査

田尻西部地区におけるこれまでに行われたは場整備事業に係る調査について以下にまとめた。また、第1表にはそれ以外の事業に係る調査のうち、本書の内容に関わるものについてまとめた。

平成13～15年度に旧田尻町教育委員会によって田尻川右岸の旧神明遺跡の試掘確認調査と本発掘調査、平成16年度に田尻川左岸の旧神明遺跡、団子山西遺跡の試掘確認調査が実施された。平成13～15年度の旧神明遺跡の調査では、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、溝跡、小溝状遺構群など古代から中近世の遺構が多く検出された。平成16年度の調査では、H区に12本、I区に4本、J区に3本、K区に11本のトレーナーが設定され（第4・5図）、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、溝跡、井戸跡、土坑などが検出された。出土遺物は土師器、須恵器、瓦、土製品、石器、鉄滓、近世陶磁器である。特にK区では古代と推定される掘立柱建物跡や竪穴建物跡が多く検出され、土師器、須恵器とともに風字鏡が出土している。

平成22～25年度に宮城県教育委員会によってH・I・L区の調査が行われた。道路跡、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、材木塀跡、井戸跡、溝跡、土坑などが検出された。特に、H-25・I-16・I-18区で検出された新田柵跡へ続く南北道路跡、I-9区で検出された大型の掘立柱建物跡群はいずれも古代の遺構であり、新田柵跡と関係すると考えられることから、団子山西遺跡の性格を推定するうえで重要な発見である。遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、赤焼土器、陶磁器、瓦、硯、土製品、石器、石製品、金属製品などが出土した。

第1表 団子山西遺跡の調査

調査年度	遺跡	調査原因	調査内容	調査地点	調査面積	調査期間	調査主体	報告
2001(平成13)	旧神明遺跡	は場整備	試掘確認		1,363m ²	2001.11.26～2002.1.16	田尻町教育委員会	本書
2002(平成14)	旧神明遺跡	は場整備	試掘確認		6,050m ²	2002.10.16～11.29, 2003.3.6	田尻町教育委員会	本書
2003(平成15)	旧神明遺跡 猿山山西遺跡	は場整備	本発掘調査		7,788m ²	2003.5.6～2004.3.15	田尻町教育委員会	本書
2004(平成16)	田尻小学校西 遺跡	は場整備	試掘確認		2,930m ²	2004.5.12～12.13	田尻町教育委員会	本書
2006(平成18)	旧神明遺跡	市森林施工工事	確認	A・B区	164m ²	2006.10.16～10.26	大崎市教育委員会	2008b
2007(平成19)	猿山山西遺跡	牛糞新築工事	確認	A・B・C区	347m ²	2007.10.16～10.23	大崎市教育委員会	2009b
2010(平成22)	猿山山西遺跡	は場整備	本発掘・確認 試掘確認	H区(1～10.28～30)K区 H区(7～24～28)44T	889m ² 1,941m ²	2010.11.2～12.6	宮城県教育委員会 宮教委 2018b	
2011(平成23)	団子山西遺跡	は場整備	本発掘・確認 試掘確認	H区(11～27)K区 J区(1～5)K区 J区(1～36)K区	6,616m ² 1,466m ² 2,553m ²	2011.4.18～28 5.30～10.27 2011.11.15～11.30 2011.10.25～11.14	宮城県教育委員会 宮教委 2018b	宮教委 2018b
2012(平成24)	団子山西遺跡	は場整備	本発掘・確認	I区(6～19)K区 L区(1～15)K区	4,775m ² 4,591m ²	2012.5.23～8.28, 9.5～ 9.26, 10.29～11.26 2012.8.27～9.7, 9.25～ 10.29, 11.20～12.7	宮城県教育委員会 宮教委 2018b	
2013(平成25)	団子山西遺跡	は場整備	本発掘・確認	J区(1～24)K区 L区(16～17)K区	3,324m ² 1,96m ²	2013.5.27～11.25 2013.9.17～9.20, 11.5～ 11.6	宮城県教育委員会 宮教委 2018b	宮教委 2018b
2014(平成26)	旧神明遺跡	浄化槽設置工事	確認		6.3m ²	2013.5.17	大崎市教育委員会	2015
2015(平成27)	猿山山西遺跡	は場整備	本発掘・確認 試掘確認	J区(25～36)K区 K区(1～4)K区 M区(1～25)T	3,377m ² 546m ²	2014.5.19～11.27	宮城県教育委員会	本書
2017(平成29)	猿山山西遺跡	は場整備	本発掘	K区(K.5～15)K区	3,819m ²	2015.6.23～11.20	宮城県教育委員会	本書
				K区(K.5)K区	430m ²	2017.10.31～12.25	宮城県教育委員会	本書

第3章 調査成果

第1節 調査の方法

1 調査区の設定と調査方針

(1) 調査区の設定

農道・水路・パイプライン建設予定範囲を対象として調査区を設定した（第4・5図）。今回報告するのはJ区・K区・M区であり、各区内については調査順にJ-1区・J-2区・J-3区・・・のよう登録した。J区については、本発掘調査の前に試掘確認調査を実施しており、J-1トレンチ（J-1T）・J-2トレンチ（J-2T）・・・としている。試掘確認調査のみで終了したM区についても、M-1トレンチ（M-1T）・M-2トレンチ（M-2T）・・・としている。なお、K区については平成27年度に本発掘調査が終了したが、その後計画変更により平成29年度に追加調査を実施しており、その地点についてはK-5区に隣接するため、北からK-5区北・中央・南とした。

(2) 調査方針

農道部分は盛土によって造成されることから、遺構確認にとどめることを基本とし、遺構の種類や重要度、重複関係の確認等、必要に応じて半裁等を行った。水路・パイプライン部分については掘削を伴い遺構面への影響が大きいことから、本発掘調査を実施した。また、丘陵縁辺部に設定した調査区（西からJ-1・J-21・J-5・J-6・J-9・J-13・J-14・J-16区）ではハンドオーガーによるボーリング調査を実施し、繩文時代の遺物包含層である基本層序VI層の有無を確認した。その結果、VI層を確認したJ-6区については、パイプラインの掘削が及ぶ範囲について精査を行った。

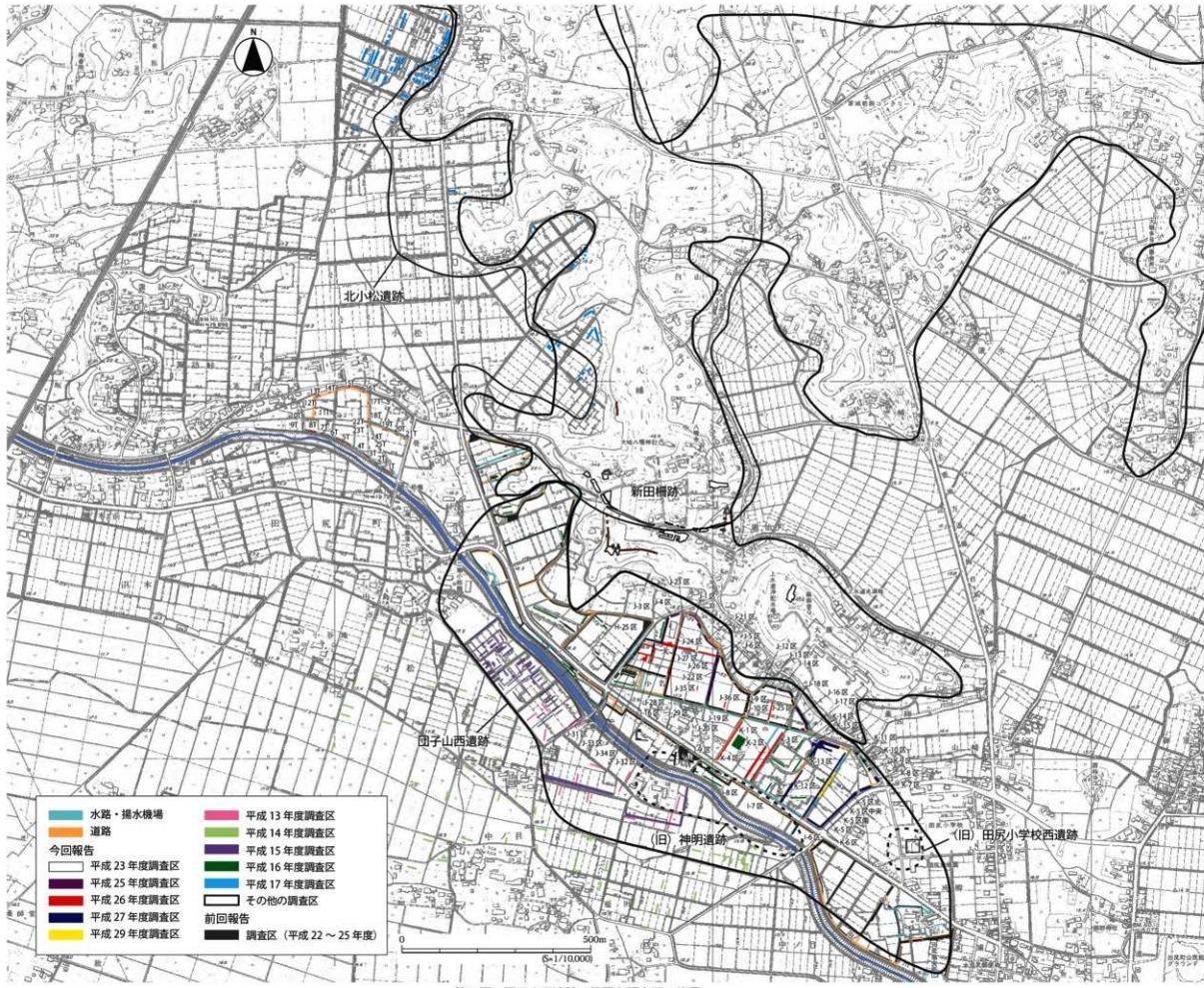
2 記録等の方法

(1) 記録作成

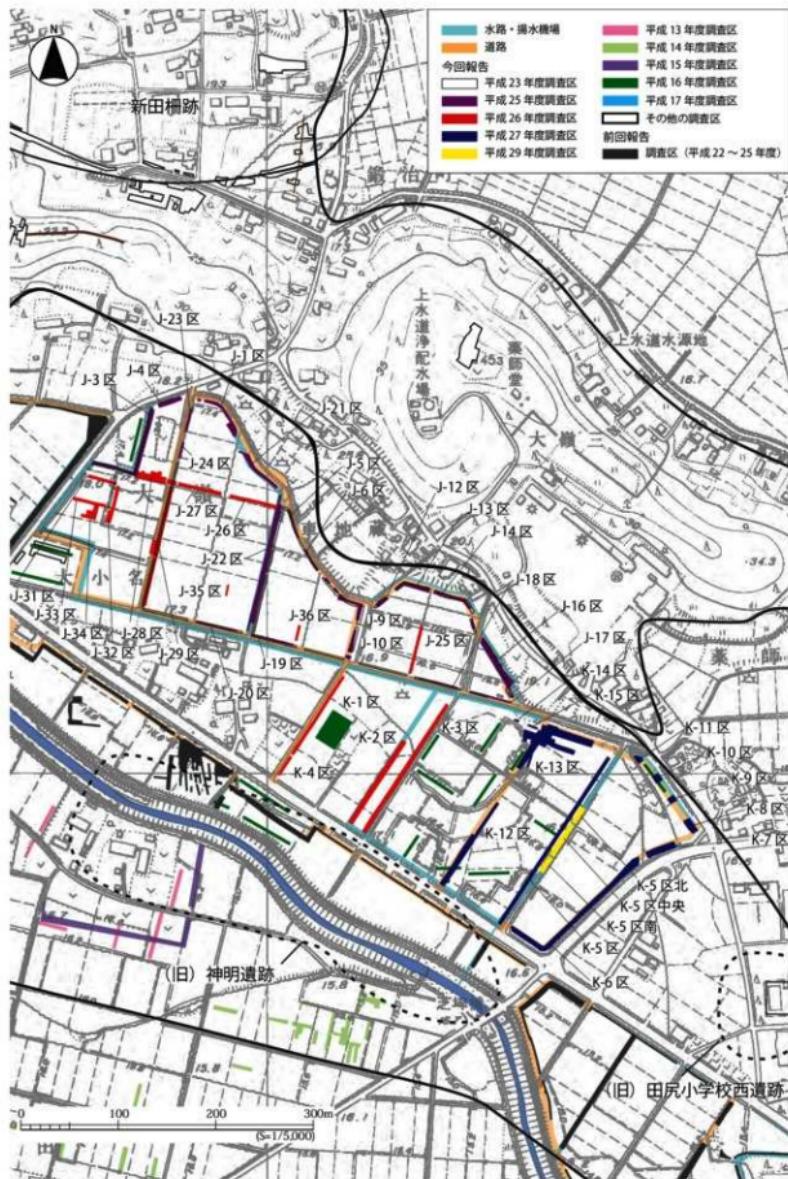
平面図の作成にはCUBIC社製電子平板システム「遺構くんCUBIC」を使用した。ただし、一部の遺構や土器の出土状況の平面図については手実測にて作成した。断面図の作成には縮尺1/20の手実測と「遺構くんCUBIC」のオルソ補正機能を用いた写真実測を併用した。写真撮影にはデジタル一眼レフカメラ（2000万画素程度）を用い、空撮には6×7カラーリバーサル・35mmカラーリバーサルフィルムカメラも併用した。

(2) 遺構番号

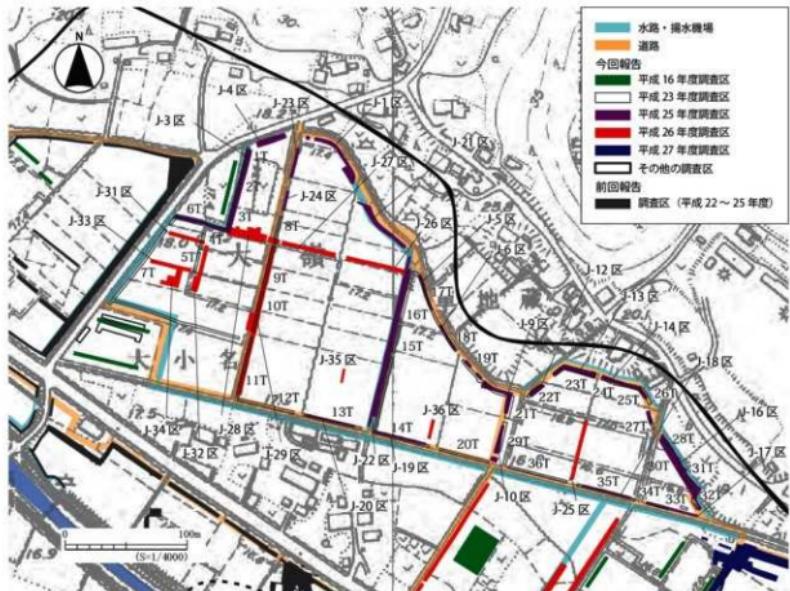
『团子山西遺跡I』に準じる形で700番台からJ・K区を通し番号で登録している。ただし、途中でL区の追加調査を実施したため、1000番台の一部がL区の遺構に使用している（前述報告書）。なお、遺構の認定を取り消した際は、その遺構の番号を欠番としている。また、建物と認定できなかつた柱穴やピットについては、J・K区ごとにP1から通し番号で他の遺構とは別に登録している。



第4図 団子山西遺跡の範囲と調査区の位置



第5図 J・K区 調査区の位置



第6図 J区 調査区の位置

第2節 地形と基本層序

1 地形

J・K区は遺跡範囲の中央部にあたり、新田柵跡の南端に接する位置にある（第4図）。地形は、北から南東へ延びる新田柵跡が所在する丘陵の末端部、旧河道とその氾濫によって形成された湿地、微高地からなる。なお、M区については、J・K区と離れていることから、地形と基本層序については後述する。

J・K区について、遺構確認面である基本層序V層上面の標高から地形を概観すると大きくは、北西側の丘陵裾に位置するJ-1・3・21区の標高が高く、田尻川に近接するK-6区が位置する南東側へ向かって標高を下げながら傾斜する。J区北西隅とK区南東隅の比高差は2.1mに達する。

各区を細かくみると、J区では丘陵裾に位置する北辺と南西部の標高が比較的高く、中央部から南東部にかけて帶状に窪み、標高が低くなる。中央部から南東部は旧河道であり、J・K区を北西から南東へ横断していく。K区では南西部（K-1・4区）と中央部から東部の南側（K-5・12区）が比較的標高が高く、微高地となっており、北西部から北辺、北東・南東部の標高が低く、旧河道となっている。

2 基本層序

団子山西遺跡H・I・L区とIV層が異なるが、概ね対比可能である（宮教委2018b）。調査地点によつて差異はあるが、以下のようなになる。なお、主要な遺構確認面はV層上面である。

I層：表土。団子山西遺跡H・I・L区基本層序I層に対応する。

II層：色調・土性により細分した。II a層は灰黄褐色（10YR5/2）粘土質シルト、II b層は黒褐色（10YR3/1・3/2）シルトである。II a層はJ-6・9・13・22・23・29、K-8・12区で、II b層はJ-9・13・25・26・27・33、K-3・5・6・7区で認められた。それぞれ団子山西遺跡H・I・L区基本層序II a・II b層に対応する。

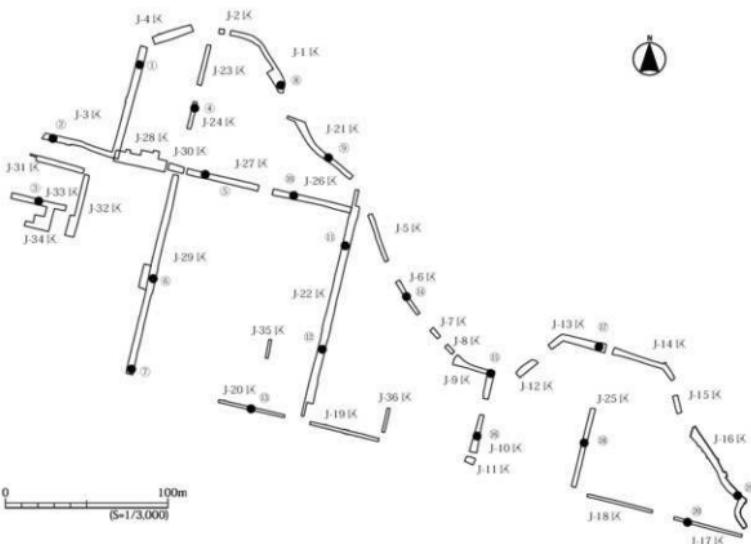
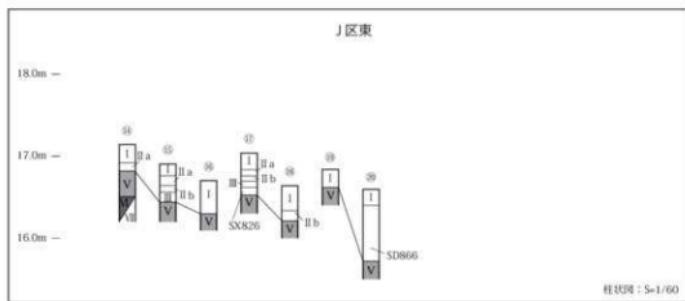
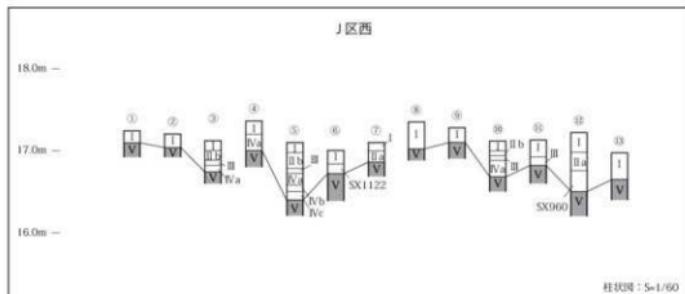
III層：灰白色火山灰（十和田a火山灰（To-a））層である。J-9・13・22・26・27・33、K-3・5区では基本層序として、それ以外では遺構や遺物包含層の堆積土中に認められた。団子山西遺跡H・I・L区基本層序III層に対応する。

IV層：灰白色火山灰の降灰以前に形成された遺物包含層で古墳時代から古代の遺物を含む。色調・土性により細分した。IV a層は灰黄褐色（10YR6/2・4/2）粘土質シルト、IV b層は褐灰色（10YR5/1）シルト、IV c層は灰黄褐色（10YR5/2）粘土質シルトである。IV a層はJ-23・24・26・27・33、K-3区で、IV b・IV c層はJ-27区で確認した。

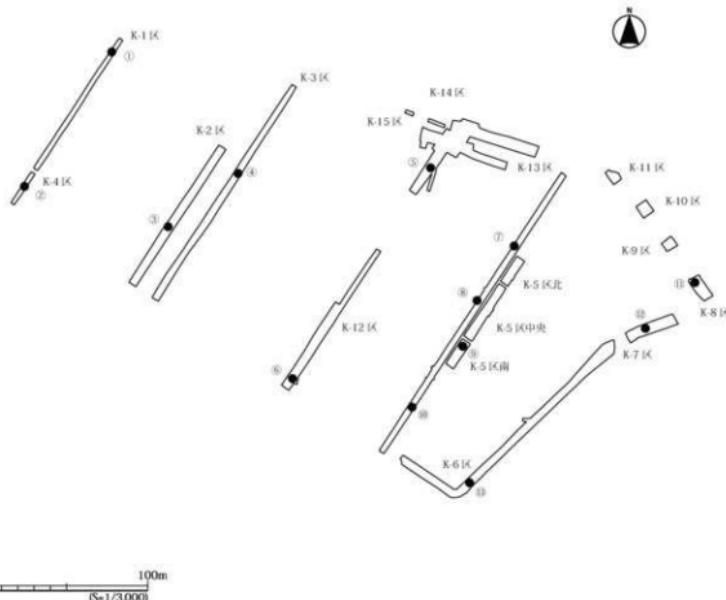
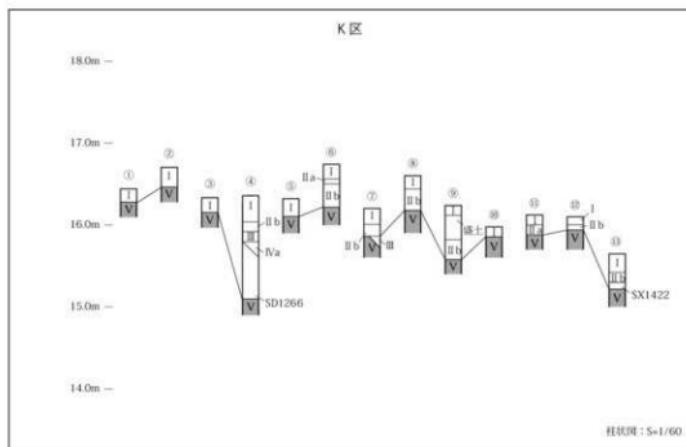
V層：地山。灰黄褐色（10YR6/2）粘土、暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト質粘土、にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質シルト、にぶい黄色（2.5Y6/4）砂などである。全ての調査区で認められたが、ほかの基本層と比べて地点によって差異が大きい。団子山西遺跡H・I・L区基本層序V層に対応する。

VI層：黒褐色（10YR3/2）シルトである。縄文時代の遺物包含層である。団子山西遺跡H・I・L区基本層序VI層及び北小松遺跡VI層に対応する。J-6区で確認した。

VII層：岩盤層。団子山西遺跡H・I・L区基本層序VI層に対応する。J-6区で確認した。



第7図 J区の基本層序



第8図 K区の基本層序

第3節 発見した遺構と遺物

J・K区の調査では、多くの遺構・遺物を発見しているが、本書ではこれらの全てを同じ精度で報告せず、その情報量に応じて適切な方法で報告する。

遺構は、出土遺物や火山灰等により時期が分かるもの、性格が推定できるもの、特徴的な遺物が出土したもの、良好な残存状況を示すものについて本文中に記載し、平面図と断面図を掲載した。ただし、上記に該当する遺構であっても、堆積土が単層である場合は断面図を掲載しないなど、適宜省略する場合がある。また、上記に該当しない遺構については、遺構属性表に示した。

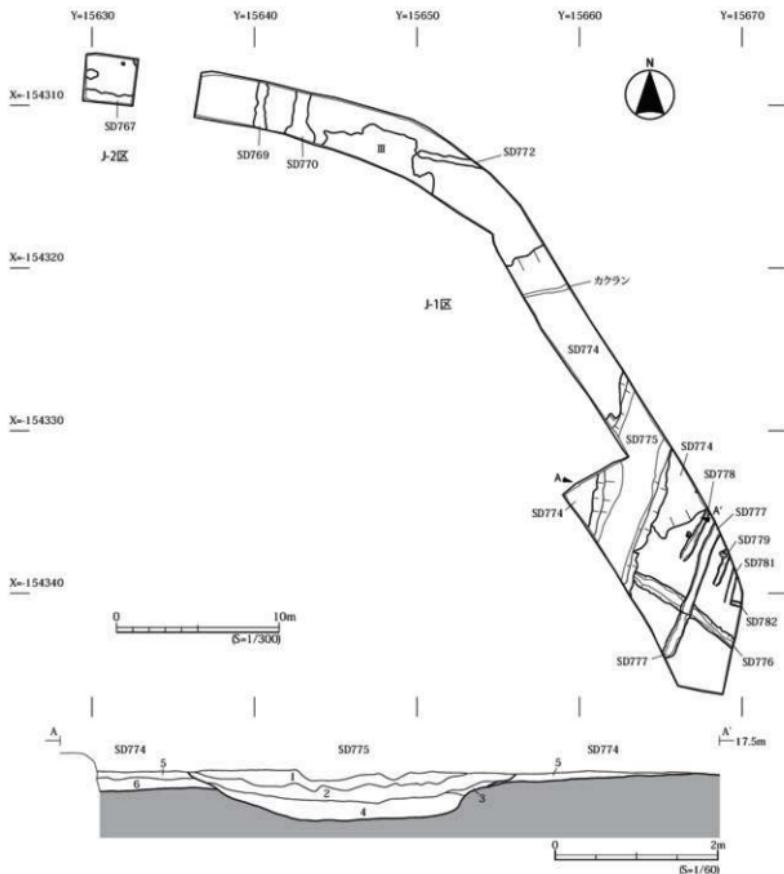
遺物は、遺構に伴うものを優先し、遺構に伴わないものの遺跡の性格を考えるうえで重要なものの、種別・時期・産地など特徴的なものについては掲載している。

第2表 J区の調査内容

調査区	調査	年度	面積 (m ²)	様式	主な棟出通路	主な出土遺物
J-1	本発掘・確認	平成25	201	V層	SD774・775・776・777	須恵器、土師器、中世陶器
J-2	確認	平成25	9	V層	SD767	須恵器、土師器
J-3	本発掘 (試掘確認1～3T, 6T)	平成25	455	V層	SB734・SE714, SD701・702・713・716・721, SK704・711・759	須恵器、土師器、赤土器、中世陶器、石器、石製品、土製品、瓦
J-4	確認	平成25	123	V層	SR896・987, SD723・971・972, SN748・749・753	須恵器、土師器、瓦
J-5	本発掘・確認 (試掘確認17T)	平成25	78	V層	SD785・792	須恵器、土師器
J-6	本発掘・確認 (試掘確認17～18T)	平成25	59	V・V層	SD794・799, SK1013	須恵器、土師器、縄文土器、土製品
J-7	本発掘・確認	平成25	18	V層	なし	なし
J-8	本発掘・確認	平成25	15	V層	なし	なし
J-9	本発掘・確認 (試掘確認19・21T)	平成25	144	V層	SD800・801・807	須恵器、土師器、織器、石器、土製品
J-10	本発掘・確認 (試掘確認29T)	平成25	82	V層	SD808・809・811	須恵器、土師器
J-11	本発掘・確認	平成25	22	V層	なし	なし
J-12	本発掘・確認 (試掘確認22T)	平成25	59	V層	SB812・814, SD813	須恵器、土師器
J-13	本発掘・確認 (試掘確認23T)	平成25	160	V層	SD828・874, SX826	須恵器、土師器
J-14	本発掘・確認 (試掘確認24～26T)	平成25	137	V層	SD829・830・832・833・896・897	須恵器、土師器、瓦
J-15	本発掘・確認 (試掘確認27T)	平成25	34	V層	SD834・835	なし
J-16	本発掘・確認 (試掘確認28, 30～32T)	平成25	495	V層	SB863・907, SE851, SD837・847・854	須恵器、土師器、赤土器、中世陶器
J-17	本発掘・確認 (試掘確認34T)	平成25	75	V層	SD866・867	須恵器、土師器、石器
J-18	本発掘・確認 (試掘確認35T)	平成25	73	V層	SD868・869・870・871	須恵器、土師器
J-19	本発掘・確認 (試掘確認14T)	平成25	87	V層	SB878・SD875・877	土師器、中世陶器
J-20	本発掘・確認 (試掘確認13T)	平成25	73	V層	SK908	須恵器、土師器
J-21	本発掘	平成25	186	V層	SD909・910・911・913, SX912	須恵器、土師器
J-22	本発掘 (試掘確認14～16T)	平成25	622	V層	SD957・960・961・1011・1012, SX955	須恵器、土師器、石器
J-23	本発掘・確認 (試掘確認14T)	平成25	65	N・V層	SD926・929・930・981, SN939, SX923	須恵器、土師器、石製品
J-24	本発掘・確認	平成25	49	N・V層	SD948・953・954, SN951, SX949	須恵器、土師器
J-25	本発掘	平成26	142	V層	SA1027, SD1026・1028・1034・1035	須恵器、土師器、織器、瓦、石製品
J-26	本発掘	平成26	172	V層	SB1040・1045, SX1037, SD1038	須恵器、土師器、瓦
J-27	本発掘	平成26	161	N・V層	SD1047・1048・1049・1064・1065・1066・1067	須恵器、土師器、瓦
J-28	本発掘・確認	平成26	269	V層	SB1072・1078・1107・1169, SD1068・1069・10736・1074・1172	須恵器、土師器、石製品
J-29	本発掘・確認 (試掘確認9～11T)	平成26	583	V層	SX1122, SB1133, SD1108・1110・1121・1124, SN1157・1159・1160, SX1123	須恵器、土師器、瓦、石器、石製品
J-30	本発掘 (試掘確認8T)	平成26	40	V層	なし	なし
J-31	確認 (試掘確認4T)	平成26	104	V層	SD1181 (SX200 東側溝)	須恵器、土師器
J-32	確認	平成26	156	V層	SD1187・1190 (SX1197 南側溝)	須恵器、赤土器
J-33	確認	平成26	112	V層	SD1181・1191 (SX200 道路側溝)	須恵器、土師器
J-34	確認	平成26	133	V層	SD1181・1190 (SX1197 道路側溝)・1191 (SX200 道路側溝)・1192・1194	須恵器、土師器
J-35	確認	平成26	19	V層	SD1128, SK1198	石器
J-36	確認	平成26	26	V層	SD1301・1302・1303・1304・1307	須恵器、土師器

1 J区

道路跡3条、掘立柱建物跡15棟、柱列跡1条、井戸跡2基、土器埋設遺構1基、円形周溝1条のほか、多数の河川跡、溝跡、土坑、小溝状遺構群、ピットを検出した。また、縄文土器、土師器、須恵器、中世陶器、陶磁器、瓦、土製品、石製品、石器等が出土した。



遺構	層	土色	土性	備考
SD775	1	黒褐色 (IOYR2/3)	粘土質シルト	自然堆積土
	2	黒褐色 (IOYR3/1)	粘土	暗褐色粘土質シルトブロックを少し含む。
	3	灰黄褐色 (IOYR4/2)	粘土質シルト	自然堆積土
	4	黒褐色 (IOYR3/2)	粘土	暗灰褐色粘土質シルトブロックをわずかに含む。 灰黃褐色シルト質粘土中にブロックをわずかに含む。 黒色粘土質シルト中ブロックをごくわずかに含む。
SD774	5	黒色 (IOYR1.7/1)	粘土質シルト	自然堆積土
	6	暗褐色 (IOYR3/3)	シルト質粘土	自然堆積土

第9図 J-1・2区 平面図・SD774 自然流路跡、SD775 河川跡断面図

(1) J-1・2区

J-1区東端部のみが本発掘調査対象であり、そのほかは確認調査にとどめた。

【SD775 河川跡】(平面図:第9図、断面図:第9図、遺物:第10図)

[位置] J-1区東側

[重複] SD774・776より新しい。

[規模] 南北方向に8.7m検出した。上幅3.6m～4.4m、下幅2.0m～2.6m、深さ0.6mである。

[断面形] 緩やかな逆台形を呈する。

[堆積土] 4層に分かれ、全て自然堆積である。

[出土遺物] 底面から常滑産とみられる中世陶器甕が出土した。

【SD774 自然流路跡】(平面図:第9図、断面図:第9図、遺物:第10図)

[位置] J-1区東側

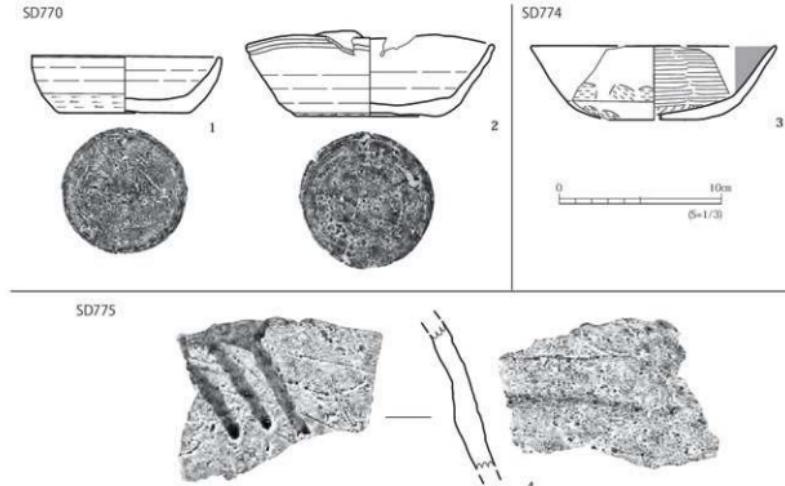
[重複] SD775より古い。

[規模] 北東—南西方向に7.2m検出した。上幅19.1m、深さは0.3m以上である。

[断面形] 凹形を呈するとみられる。

[堆積土] 2層に分かれ、いずれも灰白色火山灰を含む自然堆積である。

[出土遺物] 堆積土から土師器甕が出土した。



No.	種別／器種	遺構／層	法面(cm)			残存	調整・特徴	回復	登録
			口徑	底径	高さ				
1	須恵器／环	SD770／堆	10.5	7.9	3.5	ほぼ完形	外：クロナデ→内：ハラケズリ 内：クロナデ 底：回転×2切→回転ハラケズリ	38.1	R1
2	須恵器／环	SD770／堆	15.2	8.7	5.3	(口一底)3/4 (底) 完形	外内：クロナデ 底：回転ハラケズリ 口縁に歪みあり	38.2	R41
3	土師器／环	SD774／堆	15.0	5.6	4.5	(口一底)1/4	外：ハラケズリ 内：ヘラミガキ→黒色処理	38.3	R2
4	中世陶器／甕	SD775／堆	—	—	—	破片	外内：ヘラナデ 外面に自然釉がかかる 常滑産	38.4	R3

第10図 J-1区 出土遺物

(2) J-3 区

①道路跡

【SX200 南北道路跡】(平面図: 第 12 図、断面図: 第 11 図、遺物: 第 11 図、写真図版: 6-1・2)

平成 23 年度調査の H-25 区、平成 24 年度調査の I-16・18・19 区にて発見した道路跡である。

[位置] J-3 区西端

[重複] なし

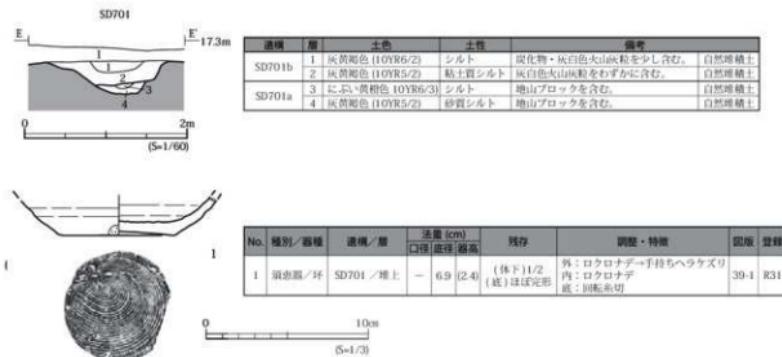
[変遷] 東側溝に 1 度掘り直しの痕跡が認められたことから、2 時期であると考えられる (a→b)。

[規模・方向] 南北方向に 3.5m 検出した。方向は、東側溝で測ると北で 4° 東へ偏る。

[路面] 道路構築時の基礎地盤等の痕跡や路面舗装は認められない。削平されている可能性がある。

[東側溝 (SD701)] 2 時期あり、a 期で残存する上幅は 0.63 ~ 0.77m、下幅は 0.20 ~ 0.28m、深さは 0.24 ~ 0.28m である。b 期で上幅 1.21 ~ 1.51m、下幅 0.74 ~ 0.77m、深さ約 0.30m である。断面形は逆台形である。堆積土は、a・b 期ともに 2 層に分かれ、全て自然堆積である。また、b 期堆積土に灰白色火山灰を少量含む。

[出土遺物] 東側溝から須恵器坏、土師器坏の小片が出土した。



第 11 図 J-3 区 SD701 道路側溝跡断面図・出土遺物

②掘立柱建物跡

【SB734 掘立柱建物跡】(平面図: 第 12・14 図、断面図: 第 14 図)

[位置] J-3 区西端

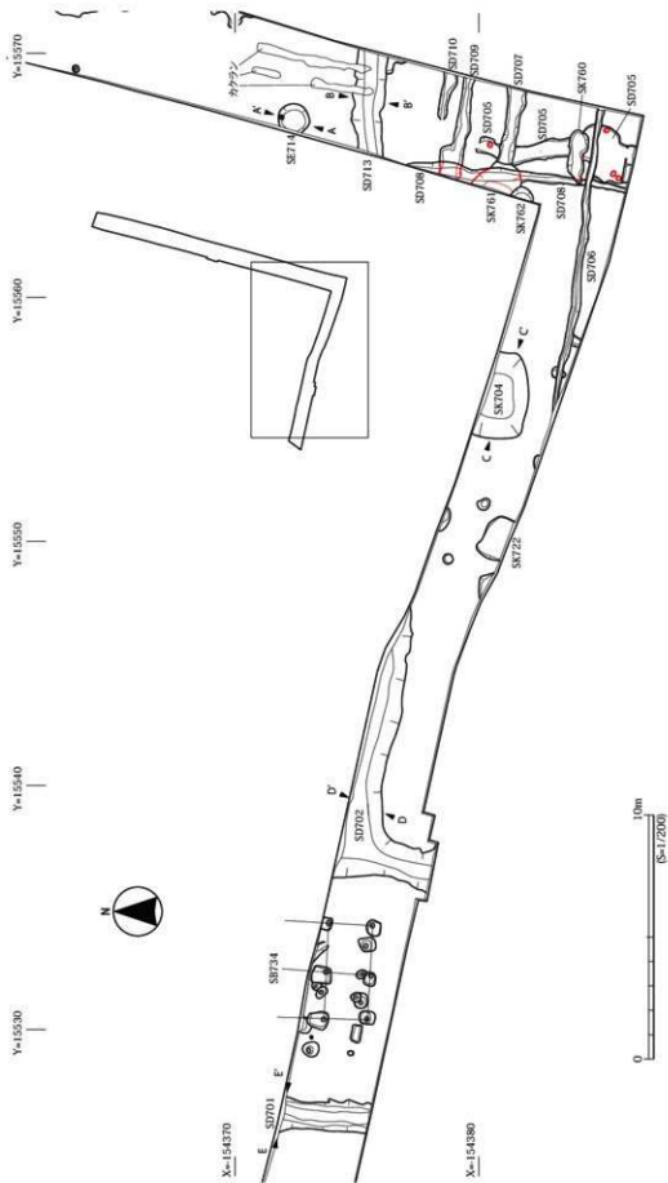
[重複] なし

[柱間数・棟方向] 柱行 2 間、梁行 1 間以上の東西棟総柱建物跡とみられる。

[検出状況] 柱穴を 6 個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

[平面規模] 柱行が南側柱列で総長 3.9m、柱間寸法は西から 1.9m - 2.0m、梁行が総長 1.8m 以上である。

第12図 J3区 平面図(1)



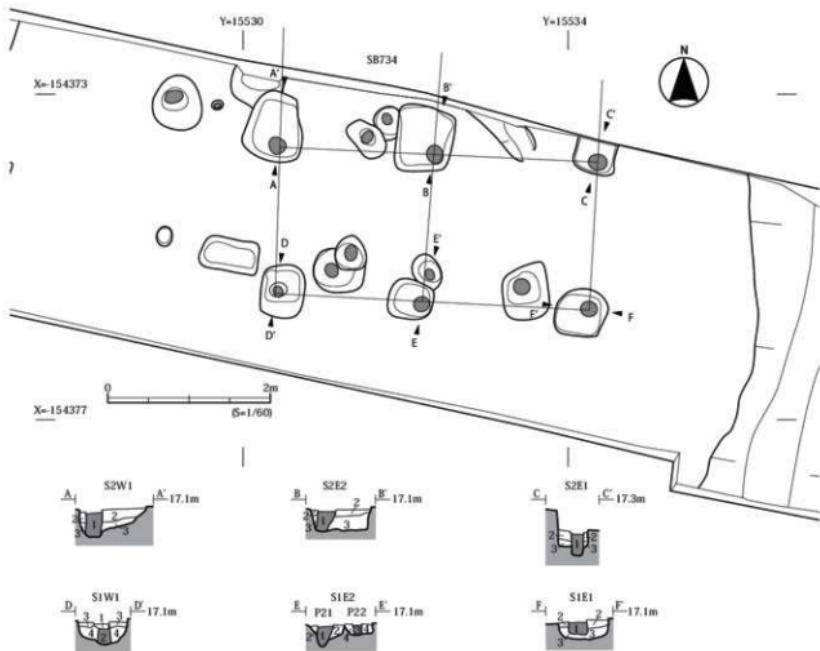


第13図 J-3区 平面図(2)

[方向] 南側柱列で測ると西で北へ2°偏する。SD701南北道路東側溝跡とほぼ並行する。

[柱穴] 直径0.5~0.8mの隅丸方形を呈し、深さは0.3~0.4mである。埋土は地山小ブロックを含む灰黄褐色~暗灰黄色粘土質シルトで、直径0.1~0.2mの円形を呈する柱痕跡を6箇所で確認した。

[出土遺物] 挖方埋土から土師器小片が出土した。



遺構	層	土色	土性	備考	
SB734	1	暗灰黄色(2.5Y5/2)	粘土質シルト	酸化鉄を含む。	柱底跡
S2W1	2	暗灰黄色(2.5Y5/2)	粘土質シルト	酸化鉄を多く含む。	掘方埋土
	3	暗灰黄色(2.5Y5/2)	シルト質粘土	層上部に地山ブロックを含む。	掘方埋土
SB734	1	灰黃褐色(10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を少し含む。	柱底跡
S2E2	2	灰黃褐色(2.5Y6/2)	シルト	地山ブロックを多く含み、炭化物・酸化鉄を含む。	掘方埋土
	3	暗灰黄色(2.5Y5/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。	掘方埋土
SB734	1	灰黃褐色(10YR5/2)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。	柱底跡
S2E2	2	灰黃褐色(2.5Y6/2)	シルト	地山ブロックを多く含み、炭化物・酸化鉄を含む。	掘方埋土
	3	灰黃褐色(2.5Y6/2)	シルト	地山ブロックを含む。	掘方埋土
SB734	1	黒褐色(2.5Y3/3)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。	汲取穴
S1W1	2	暗灰黄色(2.5Y5/2)	粘土質シルト	炭化物・酸化鉄を少し含む。	柱底跡
	3	浅灰色(2.5Y7/3)	シルト	酸化鉄を多く含む。	掘方埋土
	4	暗灰黄色(2.5Y5/2)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含み、炭化物を少し層下部に細砂を含む。	掘方埋土
SB734	1	暗灰黄色(2.5Y5/2)	シルト	粘土ブロック・酸化鉄を多く含む。	柱底跡
S1E2	2	灰黃褐色(10YR5/2)	粘土質シルト	地山ブロック・酸化鉄を多く含む。	掘方埋土
	3	灰黃褐色(10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物・酸化鉄・地山ブロックを含む。	柱底跡
SB734	1	灰黃褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物・炭化物・地山ブロックを多く含む。	掘方埋土
S1E1	2	灰黃褐色(10YR6/2)	シルト	酸化鉄を含む。	掘方埋土
	3	暗灰黄色(2.5Y5/2)	粘土質シルト	細砂を層下部に含む。	掘方埋土

第14図 J-3区 SB734 挖立柱建物跡平面図・断面図

③井戸跡

【SE714 井戸跡】(平面図: 第 12 図、断面図: 第 15 図、遺物: 第 15 図、写真図版: 4-4)

【位置】 J-3 区南側

【重複関係】 P344 より古い。

【規模・構造】 平面形は長径 1.3m の円形とみられ、深さ 0.55 ~ 0.65m である。素掘りの井戸である。

【断面形】 壁が急に立ち上がり、底面中心部にやや窪みをもつ逆台形を呈する。

【堆積土】 4 層に分かれ、自然堆積土と人為堆積土がある。

【出土遺物】 須恵器甕・壺、土師器甕の破片が出土した。



第 15 図 J-3 区 SE714 断面図・出土遺物

④溝跡

【SD713 溝跡】(平面図: 第 12 図、断面図: 第 16 図、遺物: 第 17 図)

【位置】 J-3 区南部

【重複関係】 なし

【規模】 東西方向で 4.4m 検出した。上幅は 0.9 ~ 1.3m、下幅は 0.34 ~ 0.54m、深さは 0.43m である。

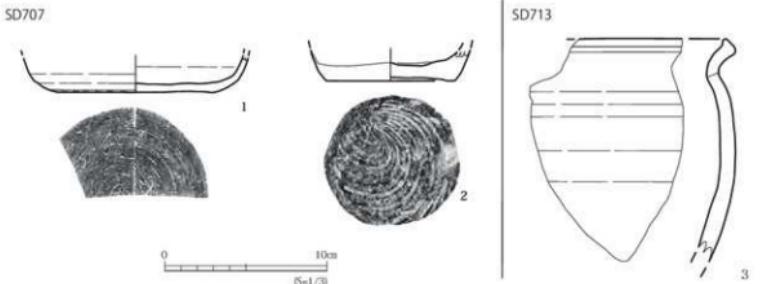
【断面形】 逆台形である。

【堆積土】 2 層に分かれ、全て自然堆積である。

【出土遺物】 須恵器甕などが出土した。



第 16 図 J-3 区 SD713 溝跡断面図



第17図 J-3区 SD707・713溝跡出土遺物

⑤土坑

【SK704 土坑跡】(平面図: 第12図、断面図: 第18図、遺物: 第18図)

[位置] J-3区西部

[重複関係] なし

[規模] 平面形は長径3.6m、短径2.3m以上の隅丸方形とみられる。深さ0.36mである。

[断面形] 凸形を呈する。

[堆積土] 3層に分かれ、全て自然堆積である。

[出土遺物] 須恵器環、ロクロ土師器環などが出土した。

【SK711 土坑跡】(平面図: 第13図、断面図: 第18図、遺物: 第18図、写真図版: 4-3)

[位置] J-3区中央部

[重複関係] なし

[規模] 平面形は長径2.4m、短径1.1m以上のやや不整形な楕円形である。深さ0.46mである。

[断面形] 不整な逆台形を呈する。

[堆積土] 4層に分かれ、全て自然堆積である。2層に灰白色火山灰が厚く堆積している。

[出土遺物] ほぼ完形のロクロ土師器甕が出土した。

【SK759 土坑跡】(平面図: 第13図、断面図: 第18図、遺物: 第18図)

[位置] J-3区北側

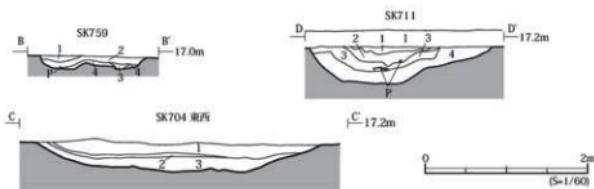
[重複関係] SD716 河川跡より古い。

[規模] 平面形は、長径約1.4m、短径0.5~0.55mのやや不整形な長楕円形である。深さ0.09~0.16mである。

[断面形] 不整な皿形を呈する。

[堆積土] 4層に分かれ、全て自然堆積である。2層に焼土を含む。

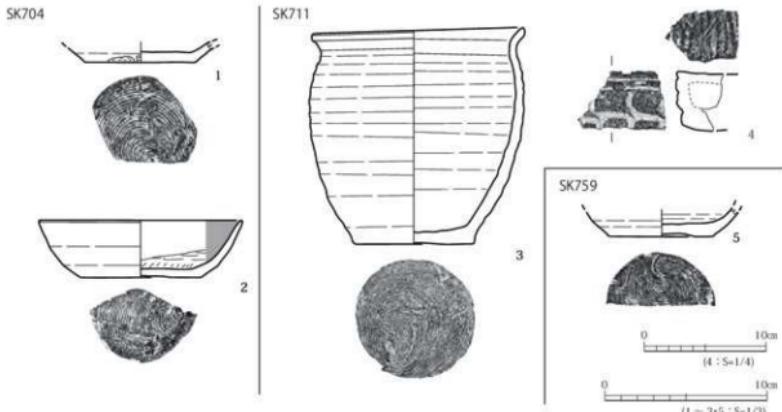
[出土遺物] 須恵器、土師器環が出土した。



遺構	層	土色	土性	備考
SK759	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物を多く含む。
	2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	炭化物・礫土を含む。
	3	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物を少し含む。
	4	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。炭化物を多く含む。

遺構	層	土色	土性	備考
SK704	1	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	炭化物を含む。
	2	灰褐色 (10YR5/1)	粘土質シルト	炭化物を多く含む。
	3	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	地山ブロック・炭化物を含む。

遺構	層	土色	土性	備考
SK711	1	灰褐色 (2.5Y6/2)	粘土質シルト	灰白色火山灰を少し含む。
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	灰白色火山灰をとても多く含む。
	3	暗灰褐色 (2.5Y5/2)	砂質シルト	灰白色火山灰ブロックをわずかに含む。
	4	黄褐色 (2.5Y5/3)	砂	灰白色火山灰ブロックを少し含む。



No.	種別／器種	遺構／層	法面(cm)			残存	調査・特徴	回収	量
			上幅	中幅	底幅				
1	調色器／环	SK704／堆	-	6.8	-	(体下～底)1/2	外:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内:ロクロナデ 底:回転系切→手持ちヘラケズリ	38.6	R38
2	ロクロ土器器／环	SK704／堆	12.4	7.4	3.5	(体下～底)1/2	外:ロクロナデ 内:ヘラミガキ→黑色處理 底:回転系切	38.12	R37
3	ロクロ土器器／甌	SK711／4層	12.9	13.3	7.2	ほぼ完形	外内:ロクロナデ 底:回転系切	38.11	R30
4	軒平瓦	SK711／堆下	-	-	-	破片	凹面:ヘラケズリ 凸面:平行タタキ 長さ:3.9cm 幅:7.7cm 通文小輪物文	38.7	R121
5	赤燒土器／环	SK759／堆	-	6.4	-	(体下～底)1/2	外内:ロクロナデ 底:回転系切	38.13	R40

第18図 J-3区 SK704・711・759 土坑断面図・出土遺物

⑤河川跡・自然流路跡

【SD716 河川跡】(平面図: 第 13 図、断面図: 第 19 図、遺物: 第 20・21・22 図、写真図版: 4-5・6)

【位置】J-3 区北端から南側

【重複関係】SK758・759・970 より新しく、SD721 より古い

【規模】南北方向で 46.3m 検出した。上幅は最大 4.1m 以上、下幅は 1.3m ~ 3.15m、深さは 0.4 ~ 0.54m である。

【断面形】逆台形であるとみられる。

【堆積土】北端で 5 層、中央で 9 層に分かれ、全て自然堆積である。

【出土遺物】上・下層から須恵器壺・壺・环・蓋、土師器壺・环、上層から赤焼土器环、中世陶器壺、下層から土製纺錘車が出土した。

【SD702 河川跡】(平面図: 第 12 図、断面図: 第 19 図、遺物: 第 20 図)

【位置】J-3 区西部

【重複関係】なし

【規模】南北方向で 3.9m、東西方向で 11.5m 検出した。L 字状に曲がる河川跡であり、上幅は 1.4 ~ 2.0m、下幅は 0.4m ~ 0.6m 以上、深さは 0.6 ~ 0.8m である。

【断面形】逆台形である。

【堆積土】7 層に分かれ、全て自然堆積である。

【出土遺物】須恵器壺・擂鉢などが出土した。

【SD721 自然流路跡】(平面図: 第 13 図、断面図: 第 19 図、写真図版: 4-5)

【位置】J-3 区北端から南側

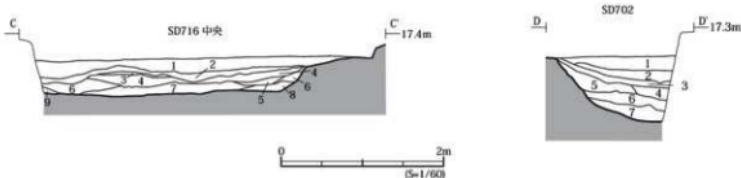
【重複関係】SD716 より新しい。

【規模】北西—南東方向で 4.1m 検出した。上幅は 1.4m 以上、下幅は 1.3m 以上、深さは 0.4m である。

【断面形】逆台形とみられる。

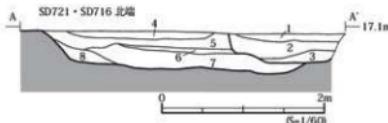
【堆積土】3 層に分かれ、全て自然堆積である。

【出土遺物】須恵器壺・环、土師器壺・环、ロクロ土師器环が出土した。



透視	層	土色	土性	備考
SD716	1	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物を少し含む。小礫をごくわずかに含む。 北端5層に対応。堆上層
	2	黒褐色 (10YR3/1)	粘土	北端5層に対応。堆上層
	3	にふ・黄褐色 (10YR4/3)	砂	褐色粘土ブロックを少し含む。堆上層
	4	黒褐色 (2.5Y3/2)	シルト質粘土	暗紅褐色ブロックを含む。
	5	灰黃褐色 (10YR4/2)	砂	黒褐色シルト質粘土ブロックを少し含む。地ト層
	6	暗灰褐色 (2.5Y4/2)	シルト質粘土	黒褐色粘土ブロックを少し含む。堆下層
	7	灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト質粘土	にふ・黃褐色シルト質粘土ブロックを少し含む。堆下層
	8	黒褐色 (2.5Y3/1)	シルト質粘土	褐色シルト質粘土ブロックを少し含む。堆上層
	9	暗灰褐色 (2.5Y5/2)	砂	黒褐色シルト質粘土ブロックを少し含む。 黄褐色砂ブロックを少し含む。北端8層に対応。堆下層

透視	層	土色	土性	備考
SD702	1	灰黃褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	黒色小礫を多く含む。にふ・黄褐色シルト質粘土ブロックを少し含む。
	2	灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト質粘土	自然堆積土
	3	黄褐色 (2.5Y4/1)	粘土	自然堆積土
	4	暗灰褐色 (2.5Y4/2)	粘土	自然堆積土
	5	灰黃褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	自然堆積土
	6	黒褐色 (2.5Y3/2)	粘土	自然堆積土
	7	オリーブ黒色 (5Y3/1)	粘土	灰色粘土質シルトブロックを含む。



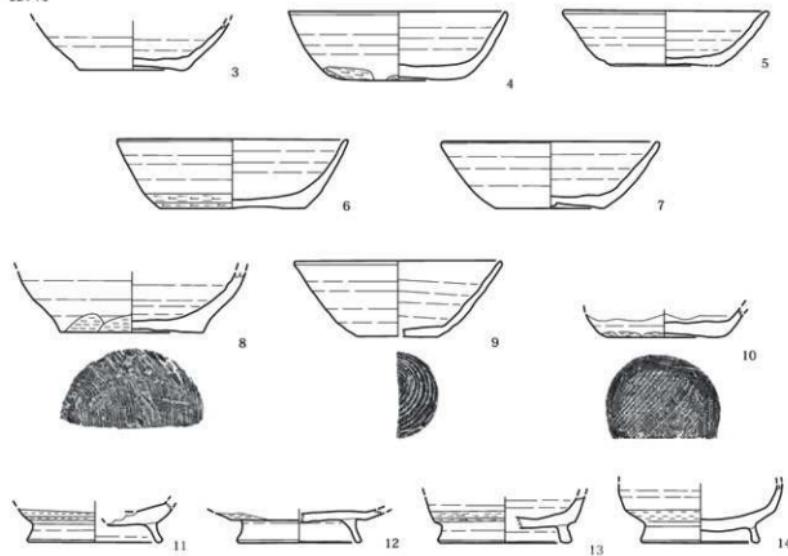
透視	層	土色	土性	備考
SD721	1	灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト	灰白色土塊ブロックを少し含む。
	2	灰黃褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	灰黃褐色粘土との反復炭化物を少し含む。
	3	褐灰色 (10YR4/1)	粘土質シルト	褐色砂を含む。
SD716	4	灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化物を含む。堆上層
	5	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロックを少し含む。中央1～2層に対応。堆上層
	6	黒褐色 (10YR3/1)	粘土	細砂を少し含む。中央4層に対応。堆上層
	7	褐灰色 (10YR4/1)	シルト	細砂を多く含む。堆上層
	8	灰オリーブ色 (5Y3/2)	砂	黒褐色粘土ブロックを含む。中央9層に対応。堆下層

第19図 J-3区 SD716・702河川跡、SD721自然流路跡断面図

SD702

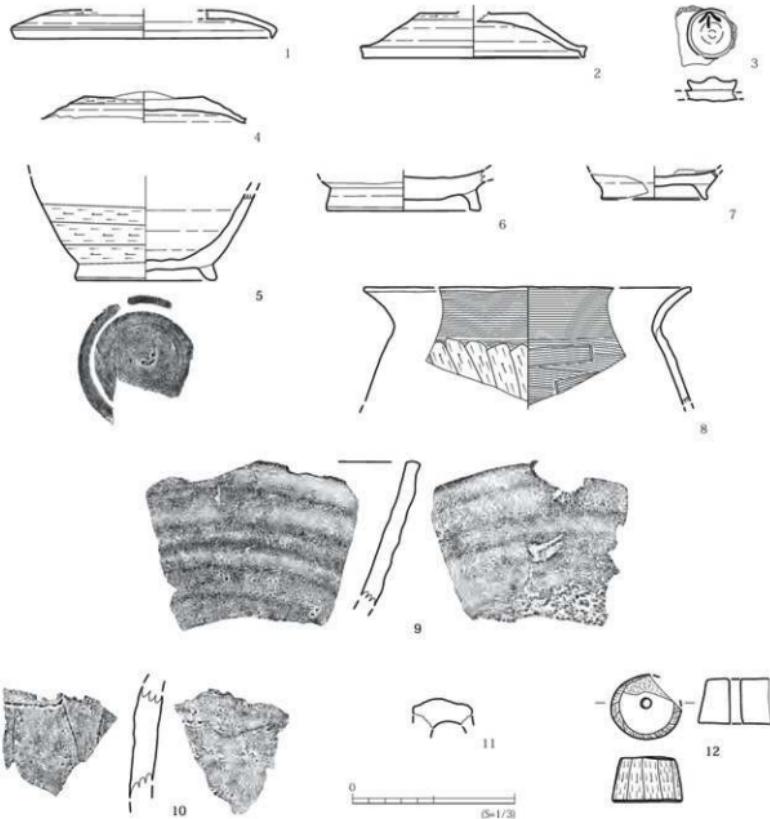


SD716



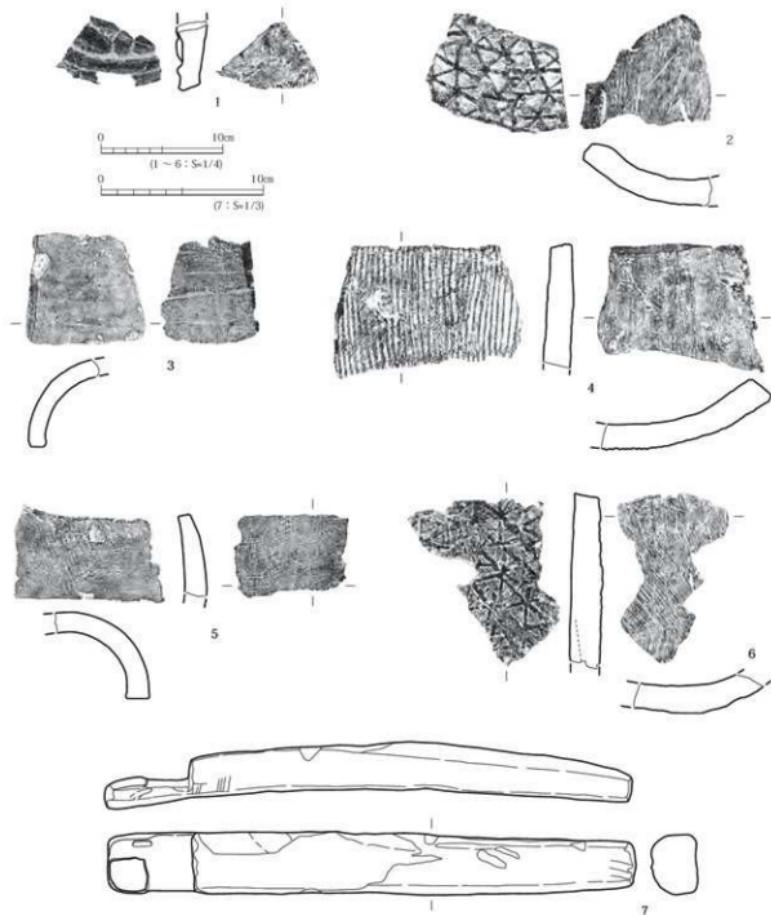
No.	種別／器種	遺構／層	法面(cm) 口幅 高さ 厚さ	残存	調整・特徴	回叢	登錄
1	箇差器／圓錐	SD702／堆	— 12.4 —	(体下～底)1/4 外内：ロクロナデ		40-12	R33
2	箇差器／小器	SD702／堆	4.0 — (3.7)	(口～底)1/2 外内：ロクロナデ		40-13	R32
3	箇差器／环	SD716／堆下	— 6.5 —	(体下～底)1/4 外：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切	39-6	R26	
4	箇差器／环	SD716／堆下	13.4 5.8 4.2	(口～底)1/4 外：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：静止系切	39-2	R18	
5	箇差器／环	SD716／堆上	13.5 6.8 3.5	(口～体)1/4 外内：ロクロナデ 底：回転系切			R28
6	箇差器／环	SD716／堆上	14.2 8.8 4.2	(口)1/3 (底)1/3 外：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切	39-3	R17	
7	箇差器／环	SD716／堆上	13.4 6.6 4.1	(口)1/8 (底)1/2 外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切	39-4	R9	
8	箇差器／环	SD716／堆下	— 8.8 —	(体下～底)1/2 外：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：静止系切→手持ちヘラケズリ	39-5	R25	
9	箇差器／环	SD716／堆上	12.6 (4.8) 4.6	(口)1/3 (底)1/2 外内：ロクロナデ 底：回転系切	39-7	R13	
10	箇差器／环	SD716／堆上	— 6.8 —	(体下～底)3/4 外：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：静止系切→手持ちヘラケズリ	39-8	R16	
11	箇差器／高台环	SD716／堆下	— 8.0 (2.5)	(体下～底)1/2 外：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：回転ヘラケズリ→高台取り付け	39-9	R6	
12	箇差器／高台环	SD716／堆上	— 7.3 (1.8)	(体下～底)1/4 外：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：回転ヘラケズリ→高台取り付け	39-10	R10	
13	箇差器／高台环	SD716／堆上	— 7.8 (2.8)	(体下～底)1/3 外：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→高台取り付け	39-11	R23	
14	箇差器／高台环	SD716／堆上	— 7.0 —	(体下～底)3/4 外：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→手持ちヘラケズリ→高台取り付け	39-12	R20	

第20図 J-3区 SD702 河川跡出土遺物・SD716 河川跡出土遺物(1)



No.	種別／器種	遺構／面	全長(cm)			残存	調整・特徴	回版	登録
			口径	底径	高さ				
1	須恵器／蓋	SD716／堆下	15.9	—	(4.2)	(口～底)1/4 (底)1/6	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内：ロクロナデ	39-16	R7
2	須恵器／蓋	SD716／堆上	13.6	—	—	(口～底)1/3	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内：ロクロナデ つまみ部欠損	39-17	R27
3	須恵器／蓋	SD716／堆上	—	—	—	(つまみ)元形	つまみ部分に墨書き「今」	39-18	R21
4	須恵器／蓋	SD716／堆上	—	—	(1.9)	(体)1/3	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内：ロクロナデ つまみ部分剥落	39-19	R22
5	須恵器／壺か瓶	SD716／堆下	—	8.2	—	(肩下～底)1/3	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：回転ヘラカタ切口→高台取り付け	39-13	R19
6	須恵器／壺か瓶	SD716／堆上	—	9.3	—	(体下～底)1/6	外内：ロクロナデ 底：回転ヘラカタ切口→高台取り付け	39-14	R12
7	ロクロ土器／高台杯	SD716／堆上	—	6.4	—	(体下～底)1/4	外：ロクロナデ 内：ヘラミガキ→黒色處理 底：回転系切→高台取り付け	39-15	R11
8	土製器／甕	SD716／堆下	20.0	—	—	(口～胴上)1/4	外：ヨコナデ→ヘラケズリ 内：ヨコナデ→ヘナデ	40-1	R8
9	中世陶器／盤	SD716／イカク	—	—	—	破片	外内：ロクロナデ 伊賀酒蔵	40-3	R14
10	土製品／羽口	SD716／堆上	—	—	—	破片	比較により外面がガラス化しているが、既津は付着していない	40-4	R15
11	土製品／紡錘車	SD716／堆下	—	—	—	3/4	外：ヘラケズリ 幅：3.9cm 厚さ：2.8cm	40-2	R112
12	土製品／紡錘車	SD716／堆下	—	—	—	—	—	—	40-29

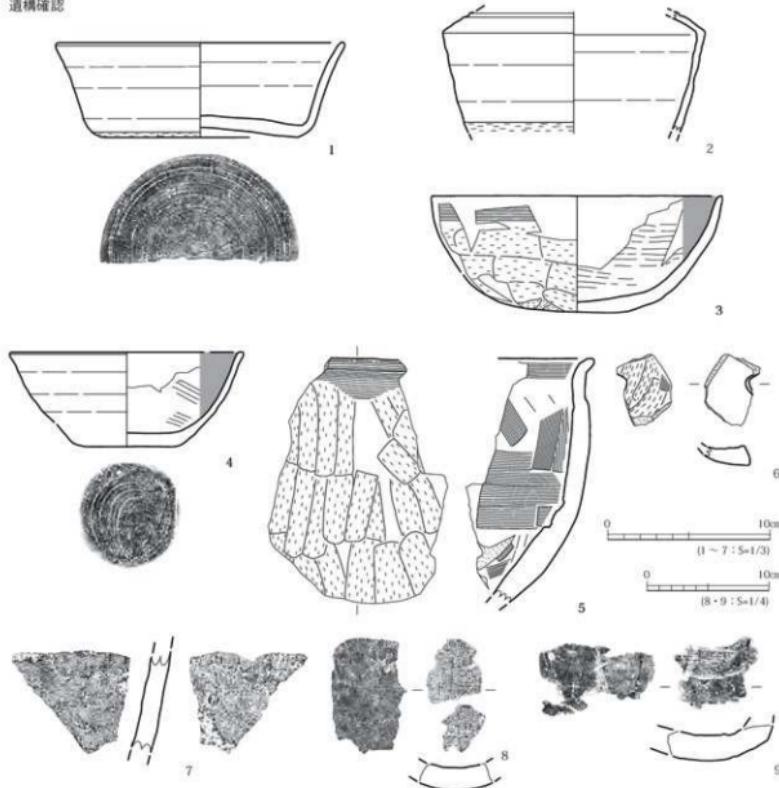
第21図 J-3区 SD716河川跡出土遺物(2)



No.	種別／基様	遺塊／層	法量(cm)			残存	調整・特徴	回版	登録
			口径	底径	高さ				
1	軒丸瓦	SD716／堆上	—	—	—	破片	端部：ヘラケズリ 宝相草文か変形唐草文 前面：系切端→ナデ 凸面：花文タキ 端部：ヘラケズリ	40.5	R117
2	平瓦	SD716／堆	—	—	—	破片	前面：系切端→ナデ 凸面：ロクロナデ→ナデ 端部：ヘラケズリ 長さ：9.2cm 幅：11.0cm 厚さ：2.3cm	40.7	R114
3	丸瓦	SD716／堆上	—	—	—	破片	前面：ナデ 凸面：園タキ口→ナデ 長さ：8.3cm 幅：8.3cm 厚さ：1.6cm	40.6	R116
4	平瓦	SD716／堆上	—	—	—	破片	前面：ナデ 凸面：ロクロナデ→ナデ 端部：ヘラケズリ 長さ：10.9cm 幅：14.7cm 厚さ：2.4cm	40.8	R118
5	丸瓦	SD716／堆上	—	—	—	破片	前面：ナデ 凸面：ロクロナデ→ナデ 端部：ヘラケズリ 長さ：7.1cm 幅：10.2cm 厚さ：2.0cm	40.9	R120
6	平瓦	SD716／堆	—	—	—	破片	前面：系切端→ナデ 凸面：花文タキ 端部：ヘラケズリ 長さ：14.2cm 幅：10.8cm 厚さ：2.5cm	40.10	R115
7	木製品／舟戸棒か	SD716／堆下	—	—	—		先端に漆材組み合せの加工あり 破片か 長さ：32.5cm 幅：3.7cm 厚さ：2.7cm	40.11	R490

第22図 J-3区 SD716河川跡出土遺物(3)

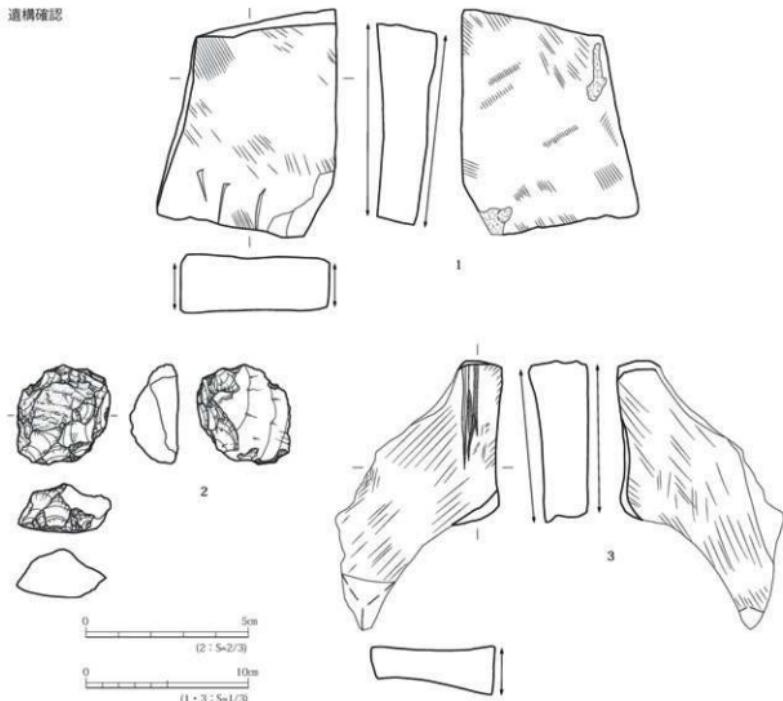
遺構確認



No.	種別／器種	遺構／層	測量(cm)			残存	調整・特徴	回版	登録
			口径	底径	器高				
1	須恵器／环	J-2T	17.4	11.9	5.8	(口×底)1/2 (底)定形	外:ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内:ロクロナデ 底:回転ヘラケズリ	41-1	R187
2	須恵器／長颈瓶	J-2T	—	—	—	(胴)1/3	外:ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内:ロクロナデ 自然黏付着	41-6	R188
3	土師器／环	J-7T	17.8	—	7.1	(口×底)1/4 (底)1/2	外:ヘラケズリ→ヨコナデ 内:ヘラミガキ→黒色処理	41-2	R191
4	ロクロ土師器／IF	J-4T	14.0	6.3	5.8	(口×底)1/3 (底)定形	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ→ラミガキ→黒色処理 底:回転希切	41-3	R190
5	土師器／甕	J-7T	—	—	—	(口×胴上)1/8	外:手持ちヘラケズリ→ヨコナデ 内:ヘラナデ / ヨコナデ	41-5	R192
6	土師器／甕	J-7T	—	—	—	破片	外:ヘラケズリ→ナデ 内:ナデか	41-7	R193
7	中世陶器／甕	J-1T	—	—	—	破片	外:ロクロナデ→ヘラケズリ 内:ロクロナデ 伊豆沼産	41-4	R200
8	平瓦	J-5T	—	—	—	破片	内面:布目 凸面:ロクロナデ 底径:9.6cm 幅:6.0cm 厚さ:1.9cm	41-9	R199
9	平瓦	J-6T	—	—	—	破片	内面:粘土細刷→布目 凸面:ナデ 番部:ヘラケズリ 底径:8.2cm 幅:8.7cm 厚さ:2.1cm	41-10	R198

第23図 J-3区 試掘確認調査出土遺物(1)

遺構確認



No.	種別／器種	遺構／層	法面 口幅 底径 高さ	既存	調査・特徴	回版	登録
1	石製品／砥石	J-2T	— — —	—	片面4面 長さ：13.3cm 幅：9.8cm 厚さ：3.4cm 重さ：687 g	41-11	R202
2	石器	J-7T	— — —	—	黒曜石 長さ：3.1cm 幅：2.9cm 厚さ：1.5cm 重さ：12.4 g	41-8	R212
3	石製品／砥石	J-7T	— — —	—	片面3面 長さ：15.1cm 幅：9.3cm 厚さ：3.3cm 重さ：299 g	41-12	R201

第24図 J-3区 試掘確認調査出土遺物(2)

(3) J-4 区

農道部分であり、パイプラインも埋設されないことから、調査区全体を確認調査にとどめている。掘立柱建物跡 2 棟のほか、溝跡、土坑、小溝状遺構群等を検出した。

①掘立柱建物跡

【SB986 掘立柱建物跡】 (平面図: 第 25 図、遺物: 第 26 図、写真図版: 6-5)

[位置] 北西部に位置し、南側柱列と東側柱列を検出した。

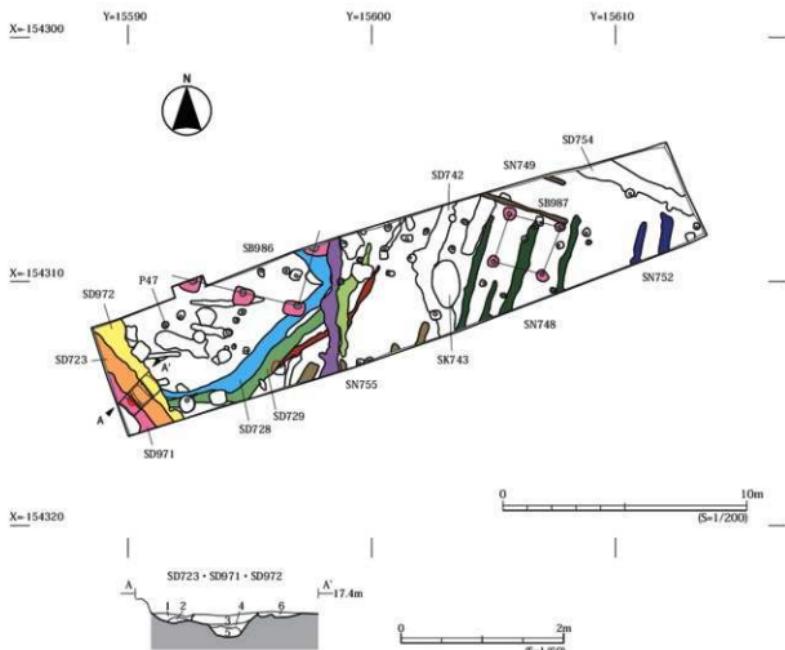
[重複] SD728・736 より新しい。

[柱間数・棟方向] 柱行 2 行以上、梁行 1 行以上の東西棟とみられる。

[検出状況] 柱穴を 4 個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

[平面規模] 柱行が南側柱列で総長 4.5m 以上、柱間寸法は東から 2.3m - 2.2m、梁行が総長 2.5m 以上である。

[方向] 南側柱列で測ると西で北に 12° 偏る。



遺構	層	土色	土性	調査
SD971	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。炭化物をわずかに含む。
	2	灰褐色 (10YR5/2)	シルト質粘土	地山ブロックを含む。黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。
SD723	3	黒褐色 (10YR3/2)	シルト質粘土	地山ブロックをわずかに含む。炭化物をわずかに含む。
	4	灰褐色 (10YR4/2)	シルト質粘土	地山ブロックを少し含む。炭化物をわずかに含む。
SD972	5	灰褐色 (10YR4/2)	シルト質粘土	地山ブロックを少し含む。炭化物をわずかに含む。
	6	黒褐色 (10YR3/2)	シルト質粘土	地山ブロックを少し含む。

第 25 図 J-4 区 平面図・断面図

【柱穴】掘方は長軸 0.8 ~ 0.9m、短軸 0.6m の隅丸方形で、柱痕跡は長軸 0.2 ~ 0.3m である。

【出土遺物】須恵器環が出土した。

【SB987 挖立柱建物跡】(平面図: 第 25 図、写真図版: 6-6)

【位置】東部に位置し、全ての柱穴を検出した。

【重複】SN749 より新しい。

【柱間数・棟方向】桁行 1 間、梁行 1 間の東西棟とみられる。

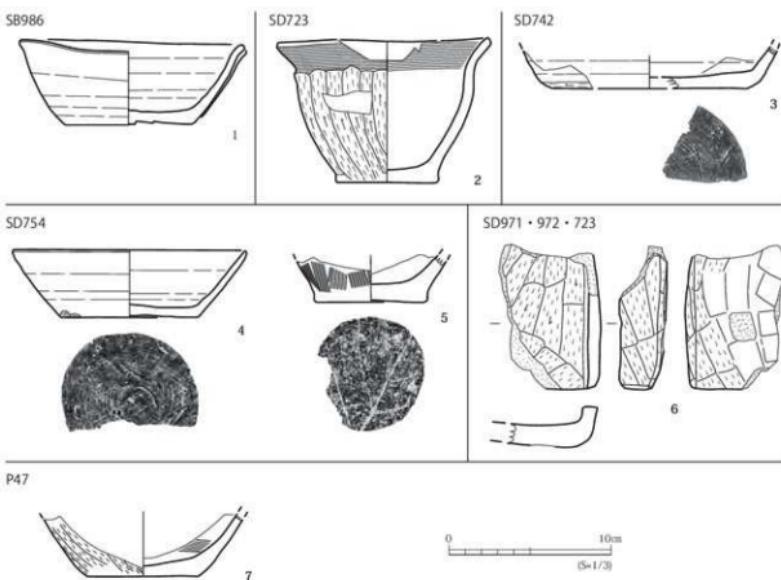
【検出状況】柱穴を 4 個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

【平面規模】桁行が北側柱列で総長 2.2m 以上、梁行が総長 2.0m である。

【方向】西側柱列で測ると北で東に 8° 偏る。

【柱穴】掘方は長軸 0.5m、短軸 0.4m の不整な隅丸方形で、柱痕跡は長軸 0.2m である。

【出土遺物】出土しなかった。



No.	種別／基盤	遺構／層	口径 底径	高さ (口～底)	残存	調整・特徴	図版	写真
1	須恵器／环	SB98651E2・堆	13.5	7.9	5.3 (口～底)3/4	外内: ロクロナデ 底: 手持ヘラ切	41-14	R44
2	土師器／直	SD723・堆	12.9	6.0	8.9 (口～底)2/3	外: ヨコナデ→ハラケズリ 内: ヨコナデ	41-13	R42
3	須恵器／环	SD742・堆	—	12.0	— (体下～底)	外: ロクロナデ→ハラケズリ 内: ロクロナデ 底: 回転ヘラ切→手持ヘラケズリ	41-15	R43
4	須恵器／环	SD754・イカク	14.4	8.4	4.1 (口～底)1/3 (底)3/4	外: ロクロナデ→手持ヘラケズリ 内: ロクロナデ	42-1	R47
5	土師器／直	SD754・イカク	—	6.6	— (体下～底)	外: ハヌメ 内: 手持 底: 回転ヘラ切→手持ヘラケズリ	42-2	R49
6	扇字鏡	SD971・972・ 723・イカク	—	—	— 1/2	外: ヘラケズリ 内: ヘラケズリ 底: 8.8cm 幅: 6.2cm 厚さ: 1.4cm	42-4	R122
7	土師器／直	P47・柱痕跡	—	6.8	— (体下～底)1/2	外: ヘラケズリ 内: ヘラナデ	42-3	R48

第 26 図 J-4 区 出土遺物

②溝跡

【SD723 溝跡】(平面図: 第 25 図、断面図: 第 25 図、遺物: 第 26 図)

【位置】西端

【重複関係】 SD971 より古く、SD972 より新しい。

【規模】 北西—南東方向で 4.4m 検出した。上幅は 0.63 ~ 0.9m、下幅は 0.29 ~ 0.42m、深さは 0.27m である。

【断面形】 逆台形である。

【堆積土】 3 層に分かれ、全て自然堆積である。

【出土遺物】 須恵器小片、土師器甕が出土した。

(4) J-5・J-6 区

溝跡を検出したほか、J-6 区では J 区で唯一第 VI 層を確認した。

①溝跡

【SD792 溝跡】(平面図: 第 27 図、断面図: 第 28 図、遺物: 第 29 図)

【位置】 J-5 区南部

【重複関係】 SD791 よりより新しい。

【規模】 北東—南西方向で 4.5m 検出した。上幅は 1.0 ~ 1.3m、下幅は 0.5 ~ 0.8m、深さは 0.38m である。

【断面形】 逆台形である。

【堆積土】 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】 須恵器擂鉢、土師器小片が出土した。

【SD799 溝跡】(平面図: 第 27 図、断面図: 第 28 図、写真図版: 7-5)

【位置】 J-6 区南端部

【重複関係】 SK1013 より新しい。

【規模】 北東—南西方向で 3.0m 検出した。上幅は 2.6m 以上、下幅は 1.7m 以上、深さは 0.43m である。

【断面形】 逆台形とみられる。

【堆積土】 2 層に分かれ、全て自然堆積である。

【出土遺物】 須恵器甕、土師器甕が出土した。

②自然流路跡

【SD794 自然流路跡】(平面図: 第 27 図、断面図: 第 28 図、写真図版: 7-6)

【位置】 J-6 区北端部

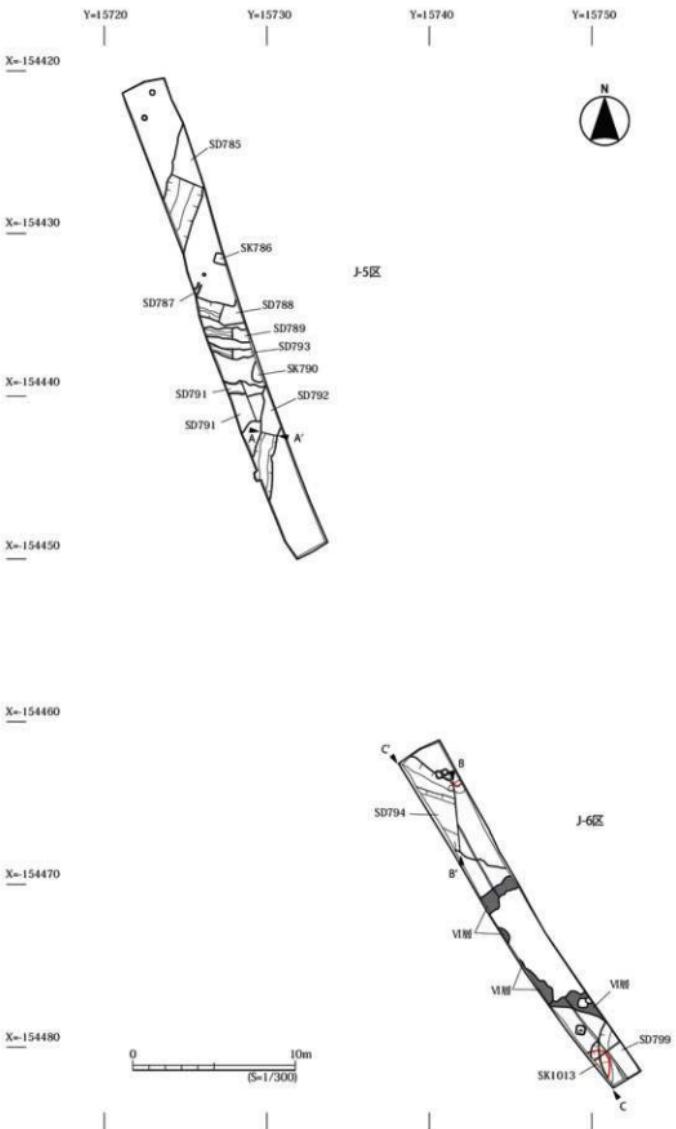
【重複関係】 P114・115 より古い。

【規模】 北東—南西方向で 3.6m 検出した。上幅は 4.3 ~ 4.6m、下幅は 1.8 ~ 1.9m、深さは 1.1m である。

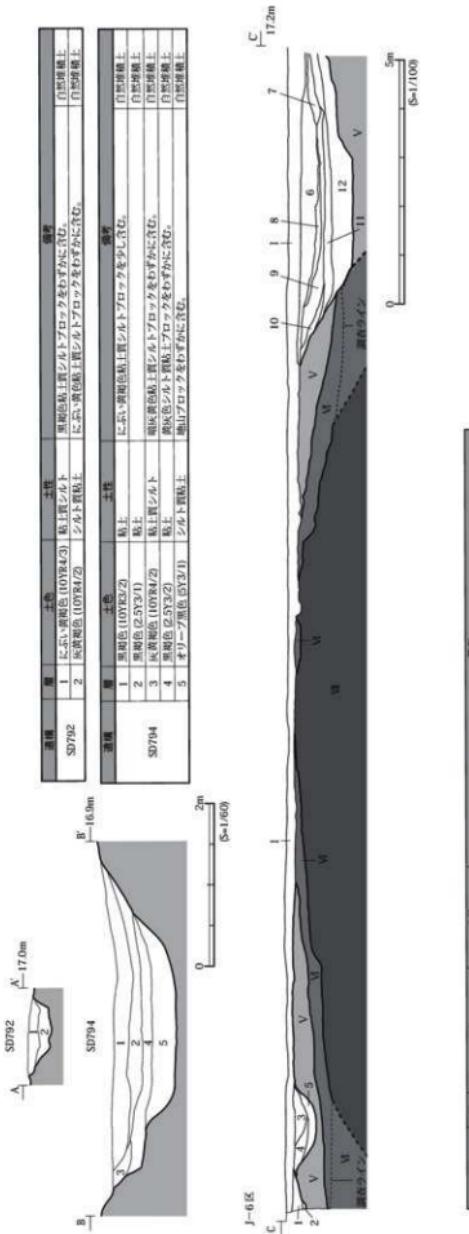
【断面形】 北側にテラス状の段がつく逆台形である。

【堆積土】 5 ~ 7 層に分かれ、全て自然堆積である。

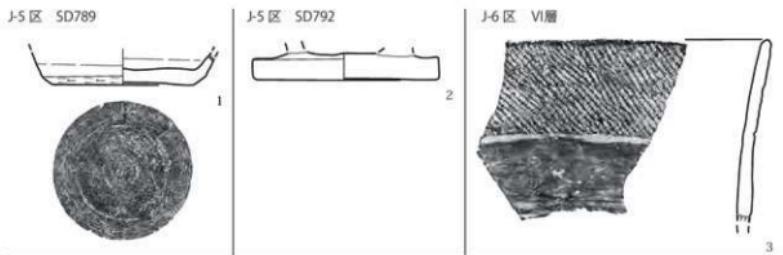
【出土遺物】 須恵器壺・甕、土師器甕が出土した。



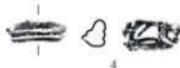
第27図 J-5・6区 平面図



第28図 J-5・6区 断面図



その他



0 10cm
(S=1/3)

No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm) 口径 底深 高さ	残存	調整・特徴	回数	登録
1	須恵器／环	SD789／环	— 8.6 —	(体下)1/3 (底) 完形	外:ロクロナデ→剥離へラケズリ 内:ロクロナデ 底:剥離へラケズリ→剥離へラケズリ	42.6	R46
2	縄文土器／深鉢	SD792／堆上	— 11.4 —	(底) 完形		42.5	R45
3	縄文土器／深鉢	VI層	— — —	破片	口縁にR縞文 平行沈線	42.7	R50
4	土製品／輪輪か	SD46／堆	— — —	破片	平行沈線	42.8	R207

第29図 J-5・6区 出土遺物

③VI層

J-6区の北部から南端にかけて地表面から0.2m～1.2m下で基本層序VI層を検出した。SD794の底面付近から調査区南端までの19.1mの範囲で確認した。層の厚さは北端で0.4m以上、南端では0.25m以上である。遺物は、縄文土器深鉢・浅鉢・注口が出土した。

(5) J-9・10区

J-9区では河川跡・溝跡を検出した。J-10区では、灰白色火山灰を含む遺物包含層(SX808)のほか、それより古い溝跡(SD811)、新しい溝跡(SD809)と土坑(SK810)を検出した。

【SD800 河川跡】(平面図: 第30図、断面図: 第31図、遺物: 第32図)

【位置】 J-9区西端部から南部

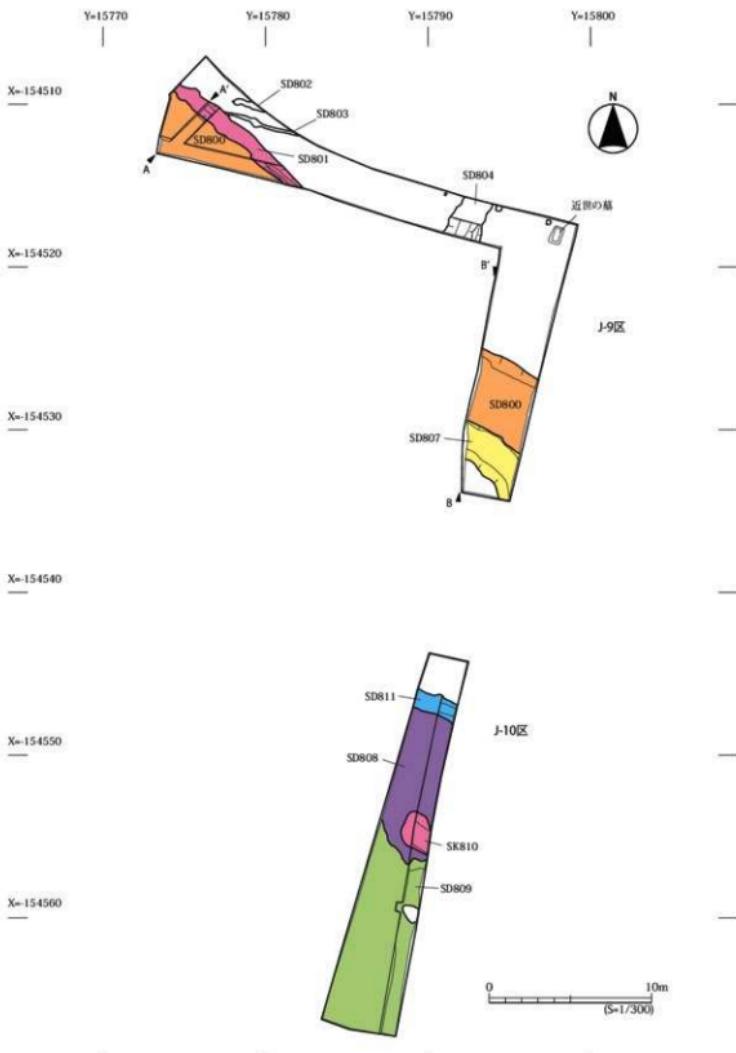
【重複関係】 SD801・807より古い。

【規模】 北西-南東方向で空白部分を含めて30.3m検出した。上幅は5.6m以上、下幅は4.8m、深さは1.0mである。

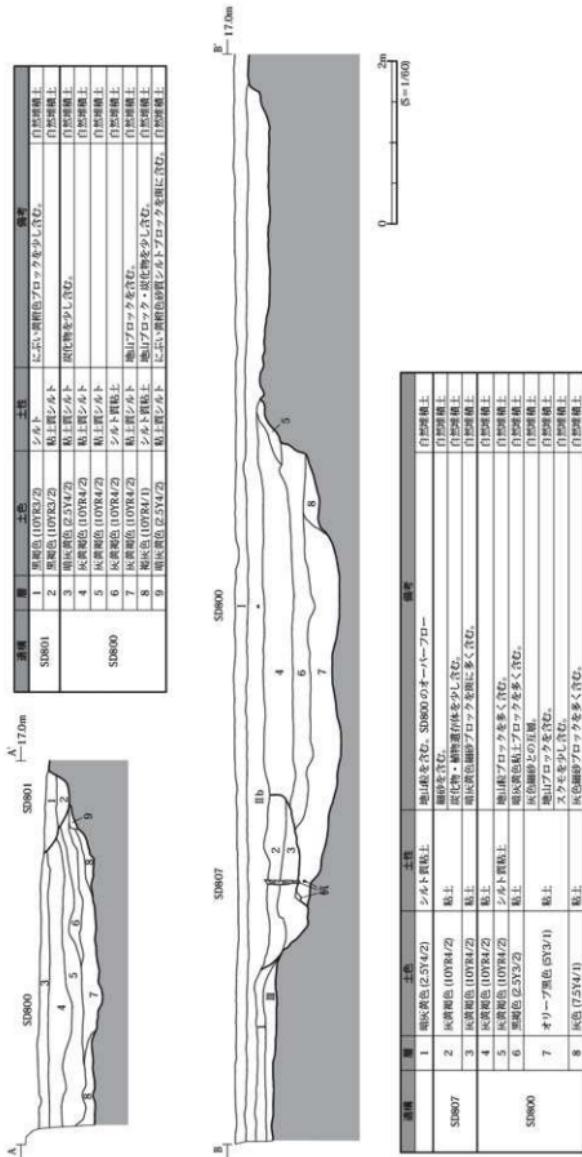
【断面形】 底面に凹凸がみられる逆台形である。

【堆積土】 5～7層に分かれ、全て自然堆積である。下層(4・5層)は、砂を多く含む。

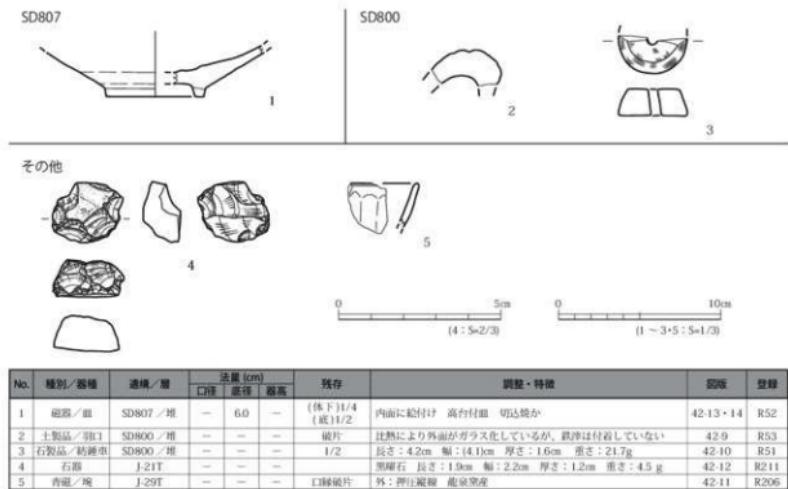
【出土遺物】 須恵器環、石製品紡錘車が出土した。



第30図 J-9・10区 平面図



第31図 J-9区 断面図



第32図 J-9区、試掘確認調査 出土遺物

(6) J-12・13・14・15区

①掘立柱建物跡

【SB812 掘立柱建物跡】(平面図: 第34図、断面図: 第34図)

[位置] J-12区南東部に位置し、北側柱列と西側柱列を検出した。

[重複] SB816より新しい。

[柱間数・棟方向] 桁行1間以上、梁行1間以上の東西棟とみられる。

[検出状況] 柱穴を3個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

[平面規模] 桁行が北側柱列で総長2.7m以上、梁行が総長1.4m以上である。

[方向] 北側柱列で測ると西で北に7°偏る。

[柱穴] 掘方は長軸0.3~0.5m、短軸0.3~0.4m、深さ0.2mの隅丸方形で、柱痕跡は長軸0.1~0.2mである。

[出土遺物] 出土しなかった。

【SB816 掘立柱建物跡】(平面図: 第34図、断面図: 第34図)

[位置] J-12区南東部に位置し、北側柱列と西側柱列を検出した。

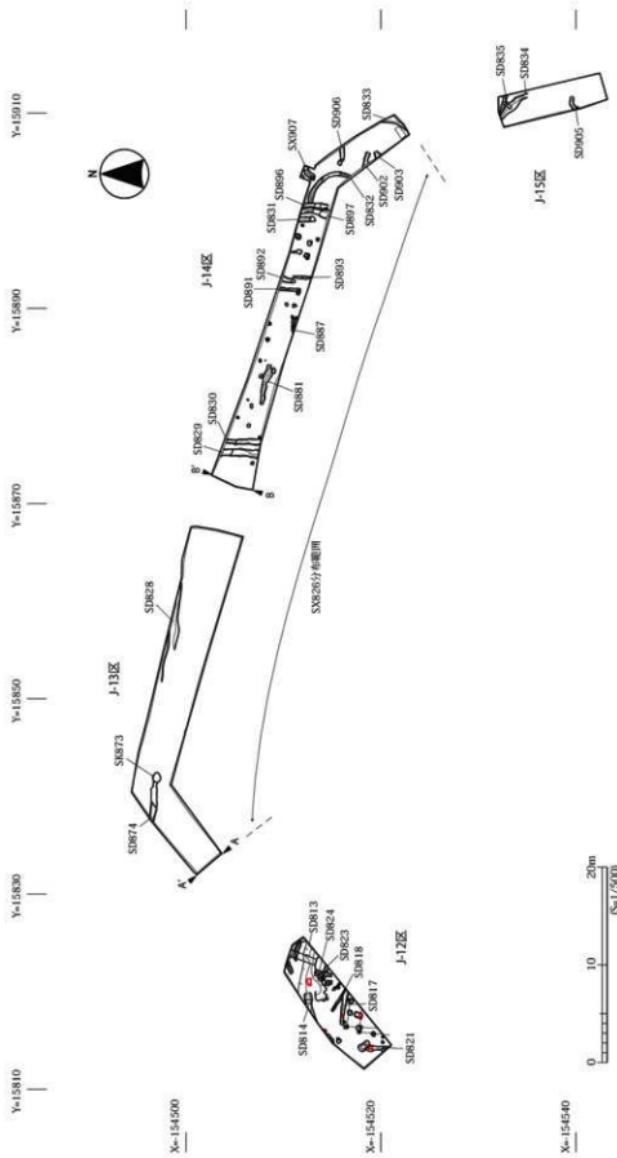
[重複] SB812より古い。

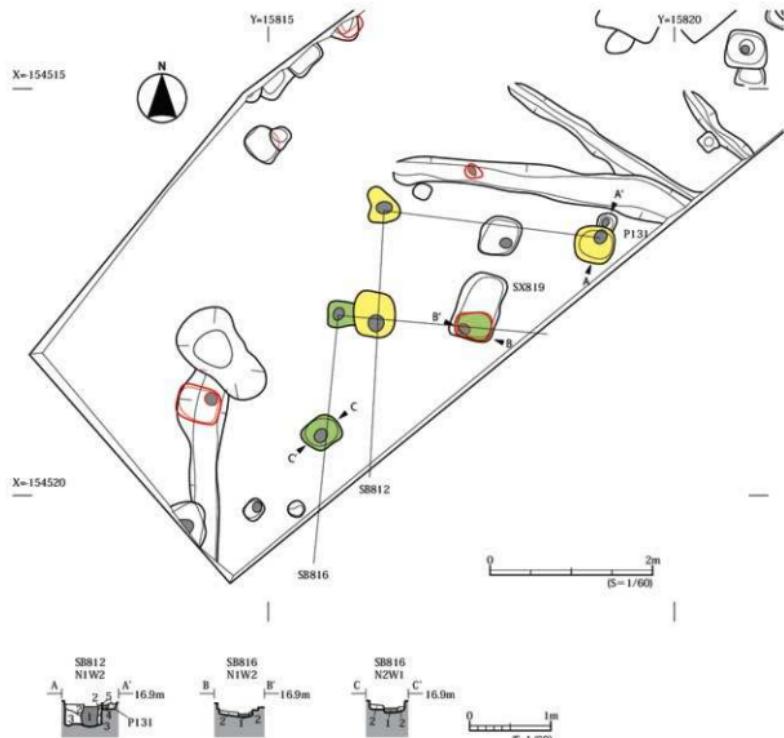
[柱間数・棟方向] 桁行1間以上、梁行1間以上で棟方向は不明である。

[検出状況] 柱穴を3個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

[平面規模] 桁行が北側柱列で総長1.6m以上、梁行が総長1.6m以上である。

第33圖 J-12・13・14・15區 平面圖





透構	層	土色	土性	備考
SB812 N1W2	1	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
	2	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。
	3	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	粘土	地山ブロックを含む。
P131	4	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	粘土質シルト	柱礎跡
	5	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	粘土質シルト	側方理土
透構	層	土色	土性	備考
SB816 N1W2	1	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	粘土	地山粒を多く含む。
	2	灰黄色 (2.5Y6/2)	粘土	地山ブロックを多く含む。
SB816 N2W1	1	にふい黄色 (2.5Y6/3)	シルト	地山粒を含む。
	2	灰黄色 (2.5Y6/2)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。

第34図 J-12区 SB812・816 挖立柱建物跡平面図・断面図

【方向】北側柱列で測ると西で北に8°偏る。

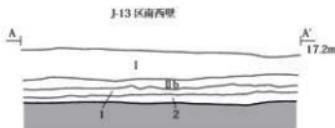
【柱穴】掘方は長軸0.4~0.5m、短軸0.3m、深さ0.2mの隅丸方形で、柱痕跡は長軸0.1~0.2mである。

【出土遺物】出土しなかった。

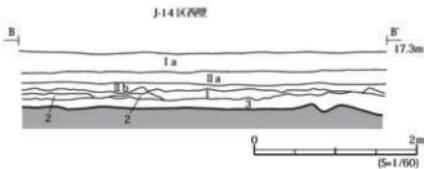
②遺物包含層

【SX826 遺物包含層】(平面図:第33図、断面図:第35図、遺物:第36・37図)

J-13・14区にかけて東西約63.0mにわたって分布する灰白色火山灰を含む遺物包含層である。2~3層に分けられ、上層と下層に灰白色火山灰を主体とした層やブロックを含んでいる。層の厚さは、J-13区南西隅で0.2m、J-14区北西端で0.24mである。灰白色火山灰は二次堆積とみられる。遺物は、丘陵上からの流れ込みとみられる縄文土器、石器、須恵器、土師器、瓦等が多く出土している。



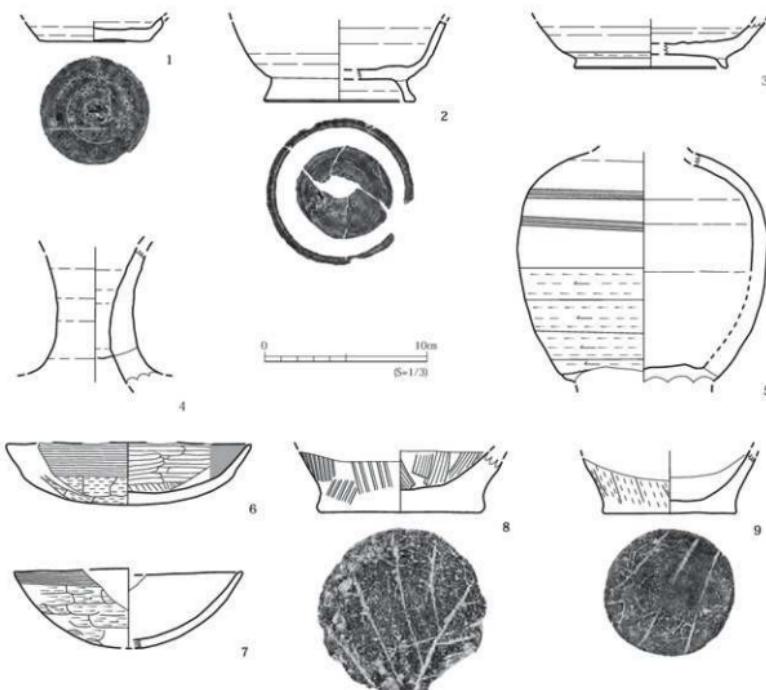
遺構	層	土色	土性	備考
SX826	I	灰黄褐色(10YR6/2)	シルト	灰白色火山灰を含む。堆上層 自然堆積土
SX826	2	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト質粘土	地山ブロックを少し含む。堆下層 自然堆積土



遺構	層	土色	土性	備考
SX826	1	灰黄褐色(10YR6/2)	シルト	灰白色火山灰を含む。堆上層 自然堆積土
SX826	2	灰黄褐色(10YR7/2)	シルト	灰白色火山灰を多く含む。堆上層 自然堆積土
SX826	3	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト質粘土	地山ブロック少し含む。堆下層 自然堆積土

第35図 J-13・14区 SX826 断面図

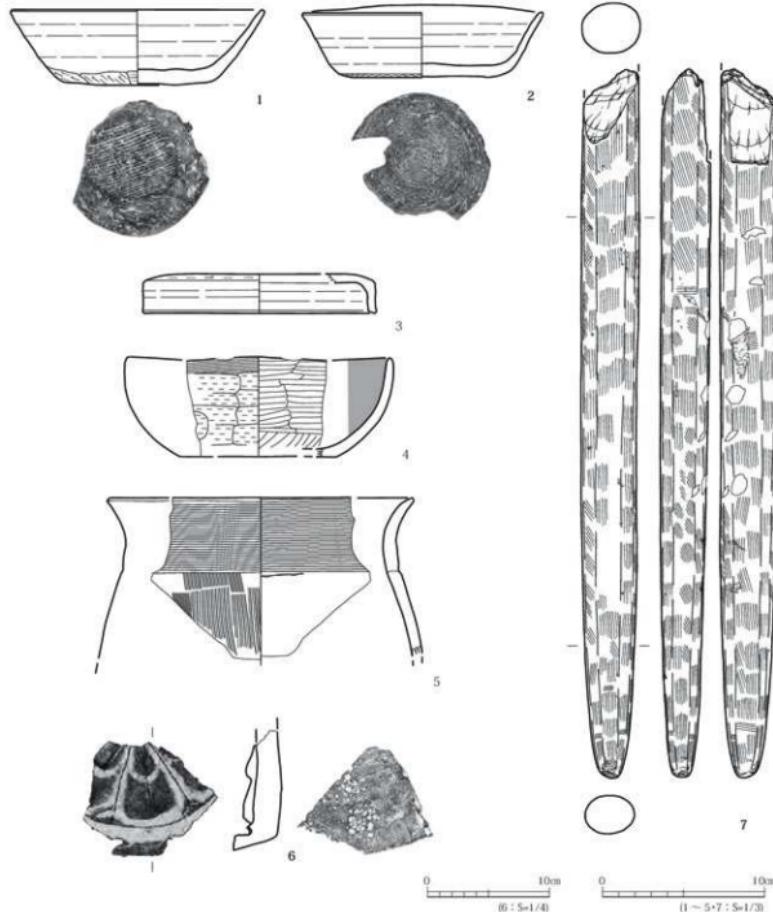
J-13 区 SX826



No.	種類/器種	遺構/層	測量 (cm)	調査・特徴	図版	登録
			口径 底径 高さ			
1	須恵器／环	SX826／堆下	— 0.9 (1.5) (底) 元形	外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→回転ヘラケズリ	42-15	R61
2	須恵器／高台环 か	SX826／堆下	— 9.0 (4.5) (底下～底)/3/4 (底)	外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→回転ヘラケズリ→高台取り付け	42-16	R60
3	須恵器／罐	SX826／堆下	— 9.2 (2.8) (底下)/4 (底)	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：静止系切か→回転ヘラケズリ	42-17	R62
4	須恵器／長颈瓶	SX826／堆	— — (8.3) (頸)/1/2 (底)	外内：ロクロナデ	42-18	R59
5	須恵器／長颈瓶	SX826／堆下	— — (14.1) (胴) 完成	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ。カキメ 内：ロクロナデ	42-19	R55
6	土師器／环	SX826／堆下	— 3.8 (口～底)/3 (底)	外：ヘラケズリ→ヨコナデ 内：ハラミガホ→黒色処理	42-20	R77
7	土師器／环	SX826／堆上	— 4.8 (口～底)/3 (底)	外：ヘラケズリ→ヨコナデ 内：ハラミガホ	42-21	R56
8	土師器／甕	SX826／堆下	— 9.8 — (胴下)/4 (底) 法延定形	外：ハケメ 内：ヘナナデ 底：木葉痕	43-1	R58
9	土師器／甕	SX826／堆	— 8.0 — (胴下)/4 (底) 元形	外：ヘラケズリ 内：摩減 底：別鋤	43-2	R57

第36図 J-13区 SX826 遺物包含層出土遺物

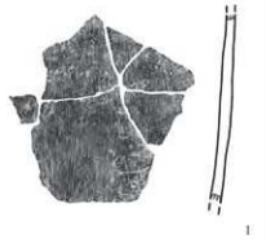
J-14 区 SX826



No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm)			性存	調整・特徴	回版	登録
			口徑	底径	高さ				
1	須磨器／环	SX826／堆下	15.6	9.5	4.6	(口)1.1/2 (底)1.2/3	外:ロクロナデ→削輪へラケズリ 内:ロクロナデ 底:削輪系切→手持ちヘラケズリ	43-3	R68
2	須磨器／环	SX826／堆下	14.7	8.5	4.4	(口)~底)2/3	外内:ロクロナデ 組:削輪へラケズリ	43-4	R67
3	須磨器／盖	SX826／堆下	14.2	—	—	(口)~(底)1/4	外:ロクロナデ→削輪へラケズリ 内:ロクロナデ つまみ部分削	43-5	R69
4	土師器／环	SX826／堆下	16.2	7.6	6.1	(口)~底)1/3	外:ヨコナデ→ヘラケズリ 内:ヘミガキ→黑色処理 平底	43-6	R78
5	土師器／瓶	SX826／堆下	18.6	—	—	(口)~(底)1/3	外:ハケメヨコナデ 内:ヨコナデ	43-7	R70
6	軒丸瓦	SX826／堆下	—	—	—	破片	長さ:10.2cm 幅:1.9cm 厚さ:3.8mm 重分薄壁文	43-8	R119
7	石器／石棒	SX826／堆下	—	—	—	—	先端部を欠損 中央にクサビ状の道具で打ち欠いた痕が6つある 長さ:43.5cm 幅:3.5cm 厚さ:3.0cm 重さ:790g	43-9	R73

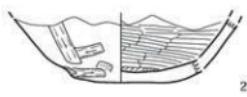
第37図 J-14区 SX826 遺物包含層出土遺物

J-12区 SD814

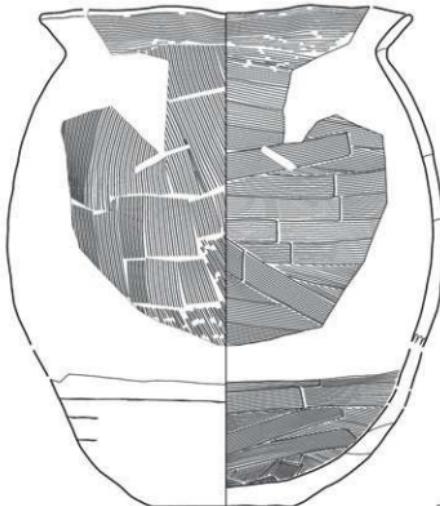


1

J-13区 SD828



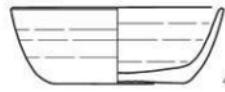
2



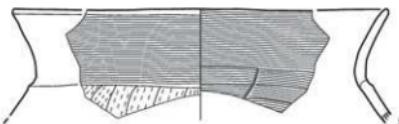
3



J-14区 SD881

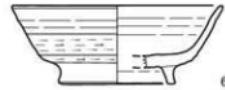


4

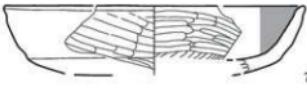


5

J-14区 その他



6

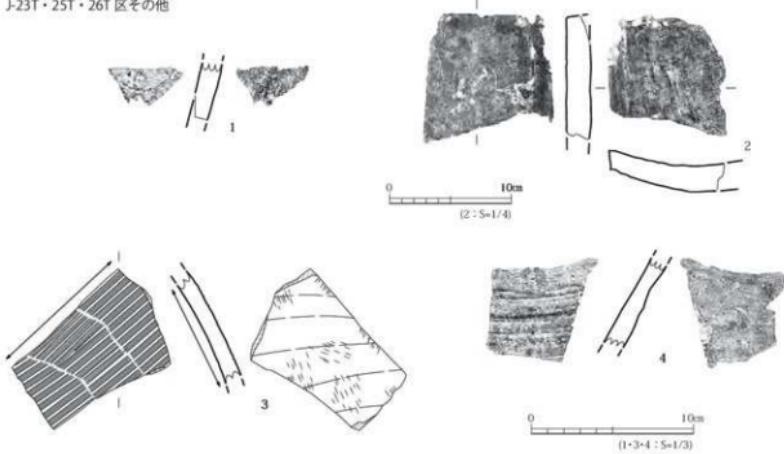


7

No.	種別／器種	遺構／層	汎量 (cm)			残存	調整・特徴	図版	暨号
			口径	底径	厚さ				
1	土師器／甕	SD814／堆	—	—	—	破片	外：ハケメ 内：ヘラナデ	43-10	R54
2	土師器／甕	SD828／堆	—	5.8	—	(胴)×(底)1/4	外：ヘラケズリ 内：ヘラミガキ	43-12	R64
3	土師器／甕	SD828／堆	22.6	8.8	30.3	(口×胴)1/4 (底)1/3	外：ヨコナデ→ハケメ 内：ヨコナデ→ヘラナデ 底：木葉施	44-1	R63
4	須恵器／环	SD881／堆	12.9	8.0	4.7	(口×胴)1/4 (底)×(底)1/3	外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→回転ヘラケズリ	43-13	R65
5	土師器／甕	SD881／堆	23.0	—	—	(口×胴)1/3	外：ヘラケズリ→ヨコナデ 内：ヘラナデ→ヨコナデ	43-11	R66
6	須恵器／高台环	イカク	12.9	7.2	4.8	(口×底)1/3 (底)×(底)1/3	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→回転ヘラケズリ→面有取り付け	43-15	R71
7	土師器／环	表土	18.4	—	—	(口×底)1/4	外：ヘラミガキ 内：ヘラミガキ→黒色處理 有段丸底	43-14	R72

第38図 J-12・13・14区 その他出土遺物

J-23T・25T・26T 区その他



第39図 J-13・14区 試掘確認調査出土遺物

(7) J-16区

J区東部で最も多く遺構を検出した調査区である。掘立柱建物跡2棟、井戸跡1基のほか河川跡、多数の溝跡や土坑を検出した。

①掘立柱建物跡

【SB863 掘立柱建物跡】(平面図: 第40・42図、断面図: 第42図、写真図版: 10-1・3~6)

【位置】北西部に位置し、北側柱列と東側柱列を検出した。

【重複】SD847・854より古い。

【柱間数・棟方向】桁行2間以上、梁行1間以上の南北棟とみられる。

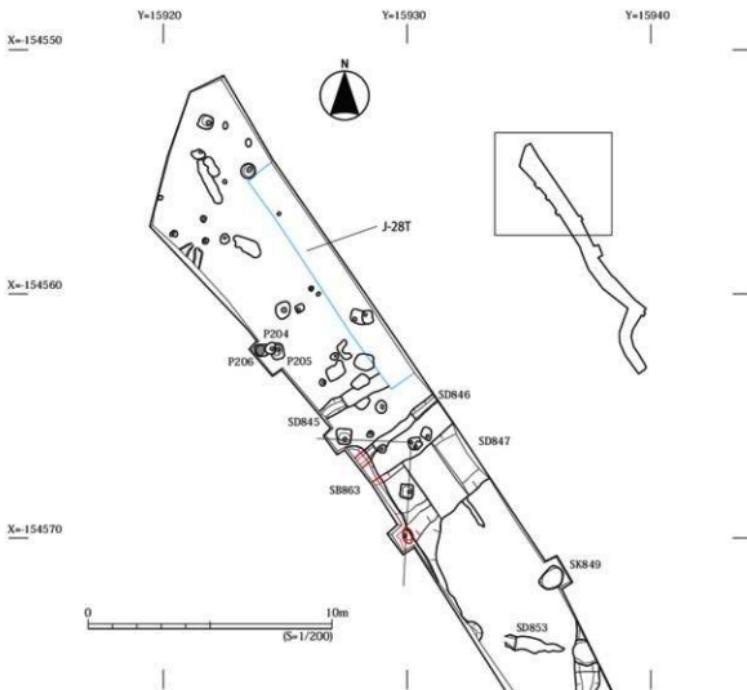
【検出状況】柱穴を4個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

【平面規模】桁行が東側柱列で総長3.8m以上、柱間寸法は2.0m~1.8m、梁行が総長2.7m以上である。

【方向】東側柱列で測ると北で東に3°偏る。

【柱穴】掘方は長軸0.5~0.7m、短軸0.36~0.5m、深さ0.3~0.4mの隅丸方形で、柱痕跡は長軸0.1~0.2mである。

【出土遺物】柱穴掘方より土師器甕、柱痕跡より須恵器環、土師器環の小片が出土した。



第40図 J-16区 平面図(1)

【SB857 挖立柱建物跡】(平面図: 第41図、写真図版: 10-2)

【位置】南東部に位置し、南側柱列と西側柱列を検出した。

【重複】 SD855より古く、SX865より新しい。

【柱間数・棟方向】桁行2間以上、梁行1間以上の東西棟とみられる。

【検出状況】柱穴を4個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

【平面規模】桁行が南側柱列で総長5.3m以上、柱間寸法は2.8m-2.5m、梁行が総長2.5m以上である。

【方向】南側柱列で測ると西で北に21°偏る。

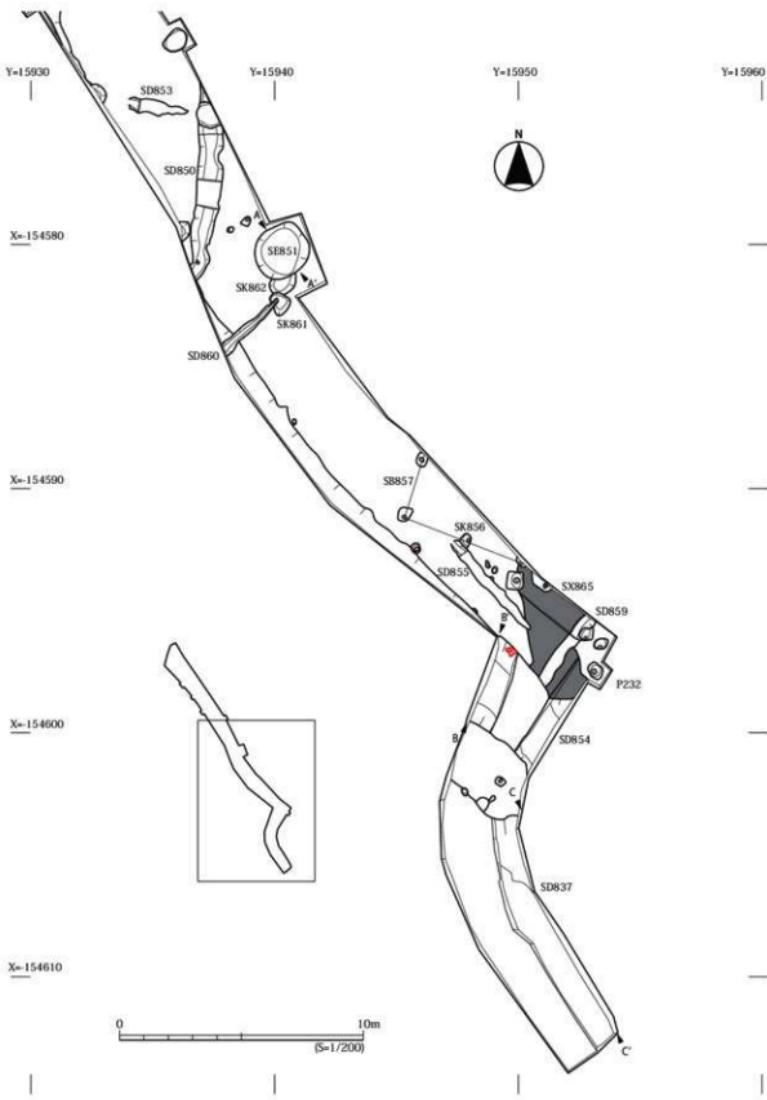
【柱穴】掘方は長軸0.5m、短軸0.3~0.4m、深さ0.3~0.4mの隅丸方形で、柱痕跡は長軸0.2mである。

【出土遺物】出土しなかった。

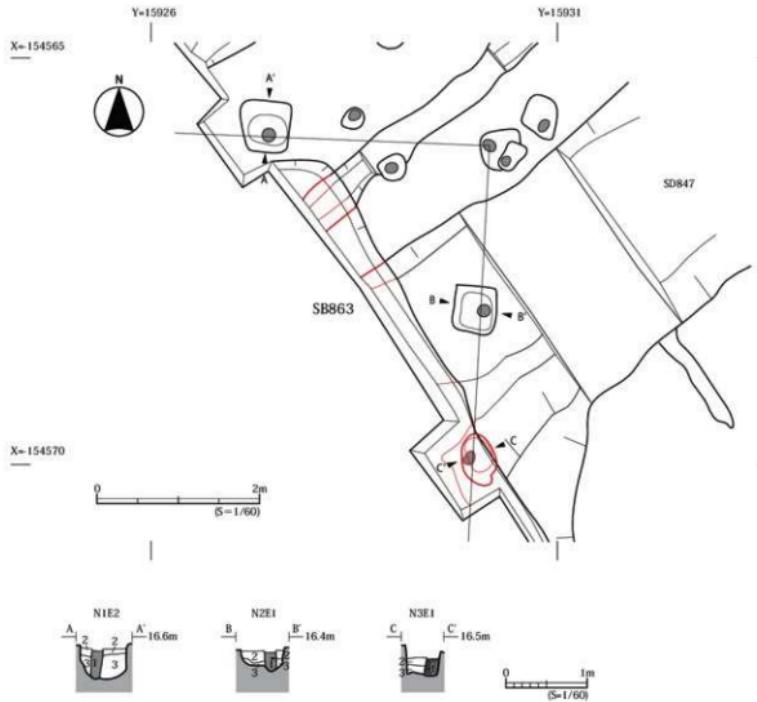
②井戸跡

【SE851 井戸跡】(平面図: 第41図、断面図: 第43図、写真図版: 9-3・4)

【位置】中央部



第41図 J-16区 平面図(2)



遺構	層	土色	土性	備考
SB863	1	暗灰褐色(2.5Y4/2)	シルト質粘土	地山ブロックを含む。
	2	黒褐色(2.5Y3/2)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。
N1E2	3	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土	地山ブロックを多く含む。
遺構	層	土色	土性	備考
N2E1	1	暗灰褐色(2.5Y5/2)	シルト質粘土	柱础跡
	2	灰褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	擬方理土
	3	にふ・褐色(2.5Y6/3)	シルト質粘土	擬方理土
遺構	層	土色	土性	備考
N3E1	1	黒褐色(2.5Y3/2)	粘土	柱础跡
	2	灰褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	擬方理土
	3	黄褐色(2.5Y4/1)	シルト質粘土	擬方理土

第42図 J-16区 SB863 捜立柱建物跡平面図・断面図

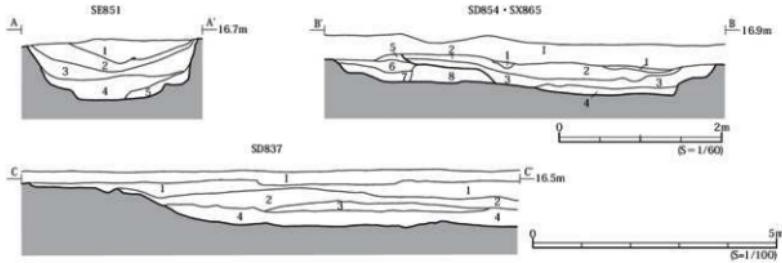
〔重複関係〕 SK862より新しい。

〔規模・構造〕 平面形は直径2.1mの円形であり、深さ0.75mである。素掘りの井戸である。

〔断面形〕 底面中央が広く窪む逆台形である。

〔堆積土〕 5層に分かれ、全て自然堆積である。

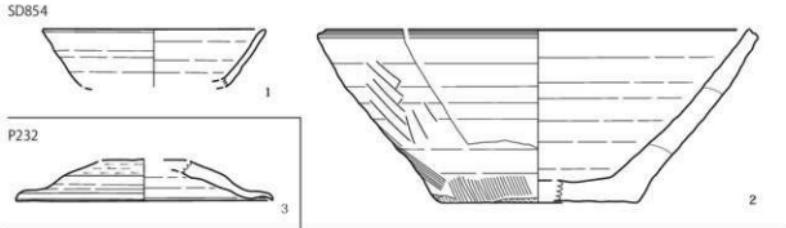
〔出土遺物〕 須恵器甕と土師器環の破片が出土した。



遺構	層	土色	土性	備考
SE851	1	黒褐色 (2.5Y3/4)	シルト質粘土	地山ブロックを含む。
	2	黄褐色 (2.5Y4/1)	粘土	地山ブロックを層下部に多く含み、小礫・灰白色火山灰を含む。
	3	褐色 (10Y4/1)	粘土	地山ブロックを少し含む。灰白色火山灰を含む。
	4	黄褐色 (2.5Y4/1)	粘土	自然堆積土
	5	暗オーリーブ灰色 (2.5G6/4)	粘土	地山ブロックを層上部に、細砂を層下部に含み、灰白色シルト小ブロックを少し含む。

遺構	層	土色	土性	備考
SD854	1	褐灰色 (10Y4/1)	砂質シルト	炭化物をわずかに含む。
	2	褐色 (10Y5/1)	砂質シルト	炭化物を少し含む。
	3	褐色 (10Y4/1)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
	4	褐色 (10Y4/1)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。
SX865	5	褐色 (10Y4/1)	シルト	炭化物を含む。
	6	灰黄褐色 (10Y5/2)	粘土質シルト	地山粒・炭化物を含む。
	7	灰黄褐色 (10Y4/2)	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物を多く含む。
	8	灰褐色 (10Y5/2)	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物を含む。

遺構	層	土色	土性	備考
SD837	1	褐灰色 (7.5Y5/1)	粘土質シルト	炭化物をわずかに含む。
	2	褐灰色 (10Y5/1)	粘土質シルト	オリーブ灰色軸持との互層。炭化物をわずかに含む。
	3	黄褐色 (2.5Y5/1)	シルト	オリーブ灰色軸持との互層。地山粒を含む。
	4	灰色 (10Y5/1)	シルト	オリーブ灰色軸持との互層。



その他



No.	種別/基盤	遺構/層	法面 (cm) 厚さ 底深 最高	残存	調整・特徴	回版	壁標
1	赤燒土層/基	SD854 / 基	13.6	— (3.5) (口～底)/1/4	外内：ロクロナデ	44.7	R76
					外：ロクロナデ→下持ちヘラケズリ / ナデ / ヘラナデ		
	中凹削面/踏跡	SD854 / 基	26.0 12.0	10.6 (口～底)/1/3	内：ロクロナデ / 伊豆泥層	44.5	R74
3	漁池器/道	P232 / 道部	15.8	— (2.9) (口～底)/1/4	外：ロクロナデ→鉛色ヘラケズリ 内：ロクロナデ つまみ鉢欠損	44.8	R75
4	土崩路/基	J-31T / 基	17.0	— 4.0 (口～底)/1/4	外：ヘラケズリ→ヨコナデ 内：ヘラミガキ→黒色包埋	44.6	R189

第43図 J-16区 遺構断面図・出土遺物

③河川跡・自然流路跡

【SD837 河川跡】(平面図：第41図、断面図：第43図、写真図版：9-6)

[位置] 南端部

[重複関係] なし

[規模] 東西方向で3.0m検出した。上幅は9.8m以上、下幅は6.8m以上、深さは0.9mである。

[断面形] 両端を検出してないため不明であるが、逆台形とみられる。

[堆積土] 4層に分かれ、全て自然堆積である。2～4層はシルトと粗砂の互層である。

[出土遺物] 須恵器壺・蓋・甕、土師器甕、ロクロ土師器壺・甕が出土した。いずれも小片である。

【SD854 自然流路跡】(平面図：第41図、断面図：第43図、遺物：第43図、写真図版：9-5)

[位置] 南東部

[重複関係] SD860より古く、SB863・SD847・850より新しい。

[規模] 北西—南東方向で41.0m検出した。上幅は2.6～3.7m、下幅は1.7～2.2m、深さは0.56mである。

[断面形] 逆台形である。

[堆積土] 4層に分かれ、全て自然堆積である。

[出土遺物] 須恵器壺・蓋・甕、土師器甕、ロクロ土師器壺、赤焼土器壺、中世陶器擂鉢が出土した。

④その他

南東部にてSX865整地層を検出した。SD854、SB857等より古く、南北5.7m、東西2.5mの不整な方形状であり、深さは0.36mである。須恵器壺や土師器壺・甕が出土した。

(8) J-17・18区

【SD866 河川跡】(平面図：第44図、断面図：第44図、遺物：第45図)

[位置] J-17区東端部から西端部

[重複関係] SD867より新しい

[規模] 北西—南東方向で10.5m検出した。上幅は23.4m以上、深さは0.7mである。

[断面形] 全体を検出してないため、不明である。

[堆積土] 6層に分かれ、3～4層に灰白色火山灰を含む。全て自然堆積である。

[出土遺物] 須恵器壺・蓋・甕、土師器壺・甕、ロクロ土師器壺が出土した。

【SD867 河川跡】(平面図：第44図、断面図：第44図、遺物：第45図)

[位置] J-17区西端部から中央部

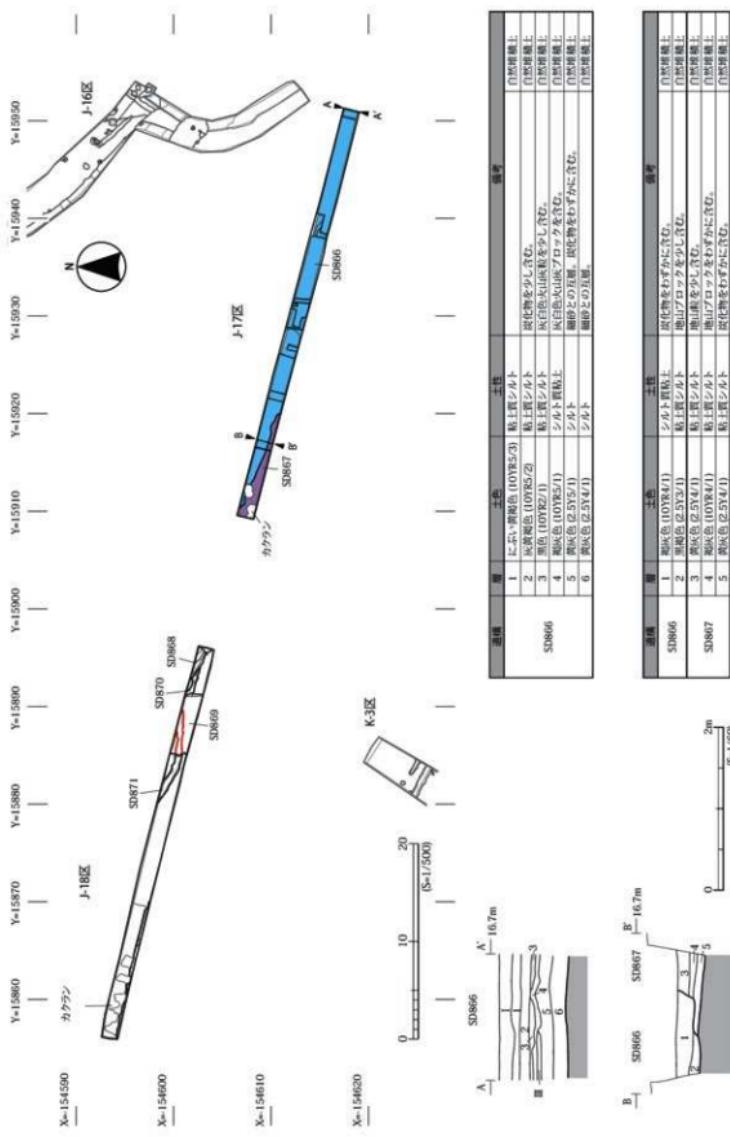
[重複関係] SD866より古い

[規模] 北西—南東方向で11.2m検出した。上幅は1.6m以上、深さは0.4mである。

[断面形] 全体を検出してないため、不明である。

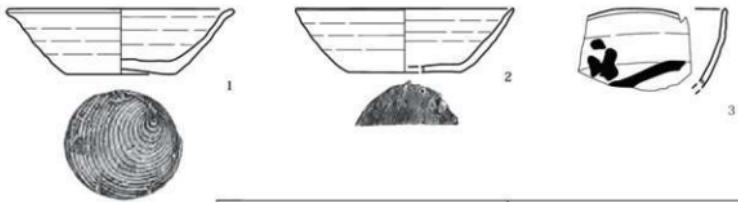
[堆積土] 3層に分かれ、全て自然堆積である。

[出土遺物] 須恵器蓋・甕、土師器甕の破片が出土した。



第44図 J-17・18区 平面図、SD866・867河川断面図

SD866



SD867



No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm)			残存	調整・特徴	図版	登録
			口径	底径	器高				
1	頭部器／环	SD866／堆	14.0	6.6	4.0	(口～体)1/2 (底)定期	外内：ロクロナデ 底：回転舟切	44-9	R81
2	頭部器／环	SD866／イカク	13.4	6.8	3.9	(口～底)1/2	外内：ロクロナデ 底：回転舟切	44-10	R80
3	頭部器／环	SD866／堆下	—	—	—	破片	外内：ロクロナデ 当否不明	45-3	R104
4	ロクロナデ器／高台杯	SD866／堆上	—	7.6	—	(体下)1/4 (底)1/2	外：ロクロナデ 内：黒色処理(摩滅) 底：回転舟切・高台取り	44-11	R79
5	ロクロナデ器／环	SD867／堆下	13.6	5.8	4.3	(口～体)1/8 (底)1/2	外：ロクロナデ 内：ヘラミガキ→黒色処理 或：回転舟切 内面に漆が付着(漆バレット)	45-1	R83
6	頭部器／环	SD867／堆下	14.2	9.5	3.5	(口)1/2 (体～底)1/2	外：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：回転舟切→手持ちヘラケズリ 表面に墨書「屢」	45-2	R82
7	中世陶器／甕	II層	—	—	—	破片	外内：ナデ 東海産	44-12	R204
8	石器／石鏟	II層	—	—	—	有孔器 粗玉製	長さ：3.4cm 幅：1.3cm 厚さ：0.5cm 重さ：1.1g	45-4	R208

第45図 J-17区 出土遺物

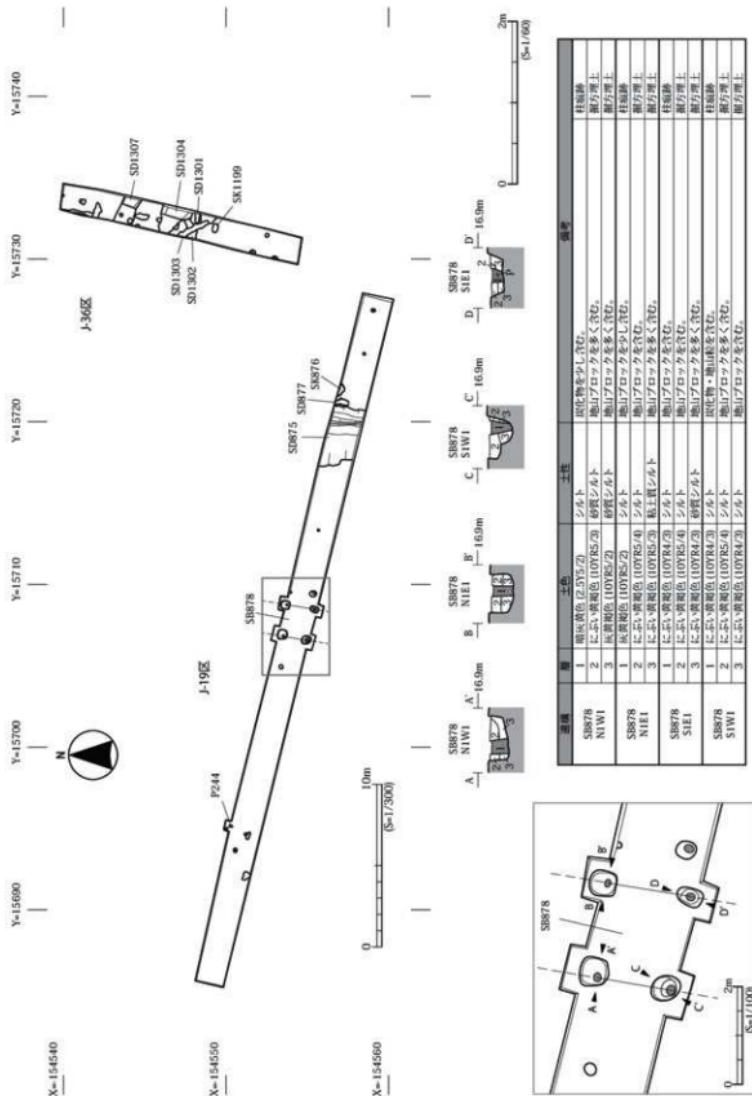
(9) J-19・36区

掘立柱建物跡1棟のほか、溝跡を検出した。なお、J-36区はJ-29区にて検出したSX1122道路跡の延長が想定される場所に設定した調査区であるが、道路跡は確認できなかった。

【SB878 掘立柱建物跡】(平面図: 第46図、断面図: 第46図)

【位置】 J-19区中央部に位置し、西側柱列と東側柱列を検出した。

【重複】 なし。



第46図 J-19・36区 平面図・断面図

〔柱間数・棟方向〕東西1間、南北1間以上である。

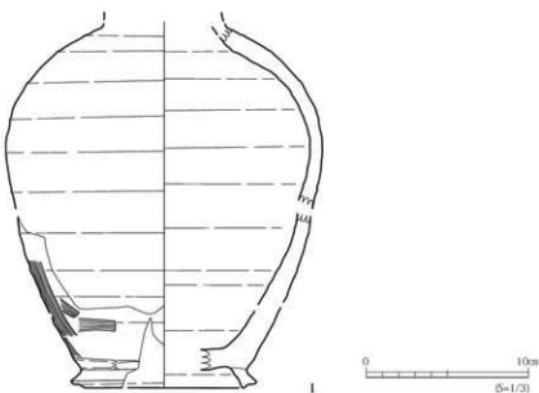
〔検出状況〕柱穴を4個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

〔平面規模〕東西が南側柱列で総長2.0m以上、南北が西側柱列で総長1.7m以上である。

〔方向〕南側柱列で測ると西で北に5°偏る。

〔柱穴〕掘方は長軸0.4～0.6m、短軸0.3～0.5m、深さ0.2～0.4mの隅丸方形で、柱痕跡は長軸0.2mである。

〔出土遺物〕柱穴掘方と柱痕跡より須恵器環・甕、土師器環・甕の小片が出土した。



No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm)			残存	調整・特徴	図版	登録
			口径	底径	高さ				
1	須恵器／甕	P244／堆	—	11.2	—	(削~底)1/3	外:ロクロナデ→ヘラナデ 内:ロクロナデ 底:回転ヘラ切→高台取り付け	45-5・6	R84

第47図 J-19区 出土遺物

(10) J-20・35区

【SD1128自然流路跡】(平面図:第48図、遺物:第50図)

〔位置〕J-35区南端

〔重複関係〕なし

〔規模〕東西方向で1.6m検出した。上幅は3.2m以上、下幅は1.5m以上、深さは0.2m以上である。

〔断面形〕皿形である。

〔堆積上〕2層に分かれ、全て自然堆積である。

〔出土遺物〕石器が出土した。

【SK908土坑】(平面図:第48図、断面図:第49図)

〔位置〕J-20区中央部

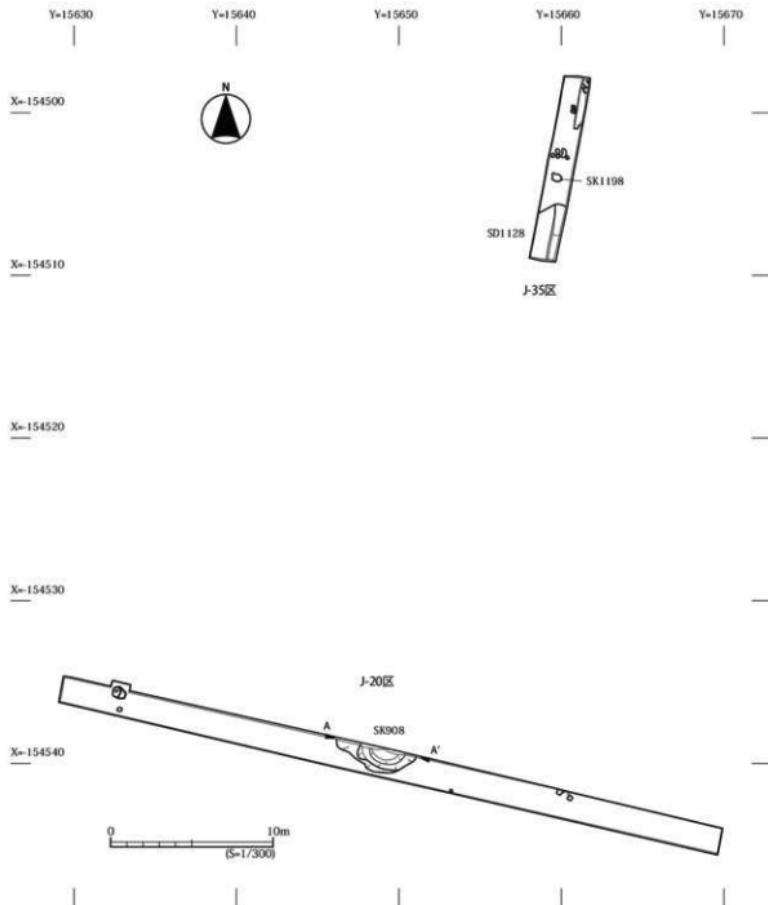
〔重複関係〕なし

〔規模〕 平面形は長径 5.0m、短径 1.4m 以上の楕円形である。深さ 0.8 ~ 1.0m である。

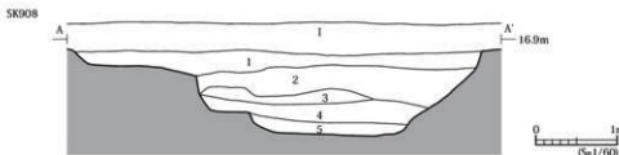
〔断面形〕 不整な箱形を呈する。

〔堆積土〕 5 層に分かれ、1 ~ 3 層が人為堆積、4・5 層が自然堆積である。

〔出土遺物〕 須恵器、土師器小片が出土した。

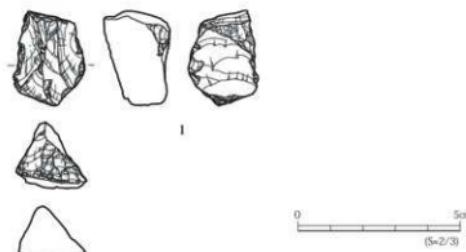


第 48 図 J-20・35 区 平面図



遺構	層	土色	土性	備考	
SK908	1	灰黃褐色 (10YR5/2)	砂質シルト	地山ブロックを含む。	自然堆積土
	2	暗灰黃色 (2.5Y4/2)	砂質シルト	地山ブロックを含む。	人為堆積土
	3	暗灰黃色 (2.5Y5/2)	砂質シルト	地山ブロックを含む。	自然堆積土
	4	黃灰褐色 (2.5Y4/1)	砂	地山ブロック・炭化物を含む。	自然堆積土
	5	暗灰黃色 (2.5Y4/2)	砂	灰黃色粘土ブロックを含む。	自然堆積土

第 49 図 J-20 区 SK908 土坑 断面図



No.	種別/器種	遺構/層	法面 (cm) 口径 底径 厚さ	残存	調整・特徴	図版	登録
1	石器	SD9128 堆	— — —	黒曜石 長さ：2.9cm 幅：2.3cm 厚さ：2.0cm 重さ：10.1g	45-7 R186		

第 50 図 J-35 区 出土遺物

(11) J-21 区

①溝跡

【SD913 溝跡】(平面図：第 51 図、断面図：第 51 図、遺物：第 52 図、写真図版：11-2)

[位置] 中央部

[重複関係] SX912 より古い。

[規模] 東西方向で 7.7m 検出した。上幅は 2.4m、下幅は 0.12 ~ 0.66m、深さは 0.25m である。

[断面形] 逆台形である。

[堆積土] 1 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

[出土遺物] 須恵器壺・塊、土師器壺・甕・壺が出土した。

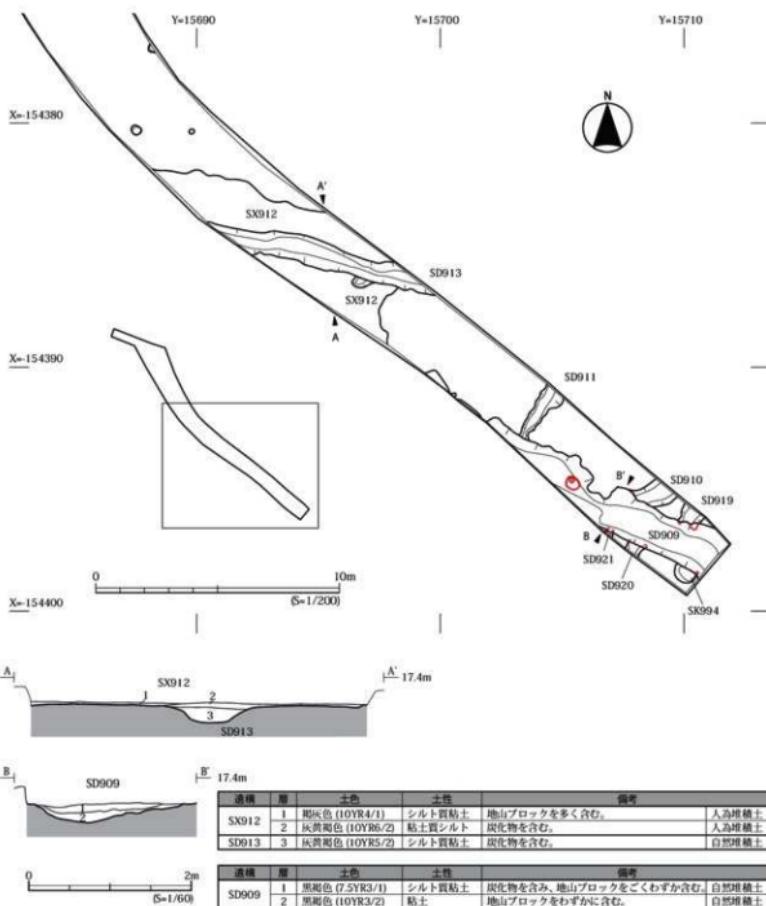
②自然流路跡

【SD909 自然流路跡】(平面図：第 51 図、断面図：第 51 図、遺物：第 52 図)

[位置] 南東端部

[重複関係] SD910・911・919・920・921、SK994 より新しい。

[規模] 北西—南東方向で 11.1m 検出した。上幅は 1.4 ~ 2.0m、下幅は 1.1m、深さは 0.23m である。



第51図 J-21区 平面図・断面図

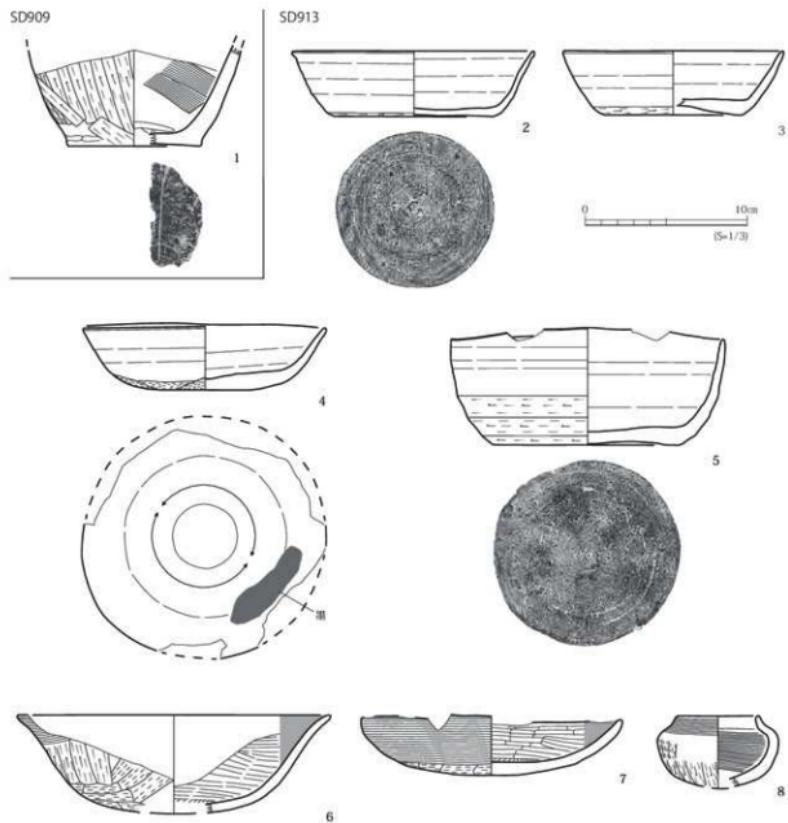
〔断面形〕皿形である。

〔堆積土〕2層に分かれ、いずれも自然堆積である。

〔出土遺物〕須恵器壺・甕、土師器甕が出土した。

②整地層

中央部でSX912 整地層を検出した。全体は不明であるが、南北約 6.0m、東西約 10.0m に広がるとみられる。SD913より新しく、地山ブロックを多く含む人為堆積層である。遺物は、遺構確認時に須恵器壺・甕、土師器甕が出土した。

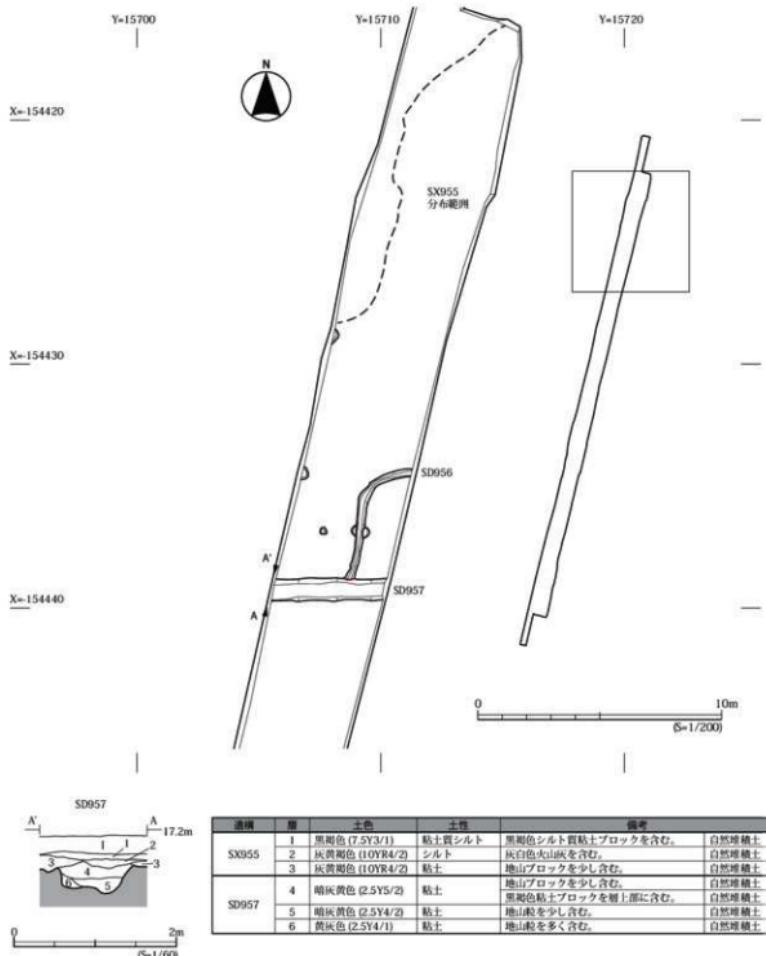


No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm) 口径 直徑 器高	残存	調整・特徴	回収	登録
1	土師器／甕	SD909／堆	— 8.0 —	(体下)1/4 (底)1/2	外：ヘラケズリ／ユビナデ 内：ヘラナデ／ユビナデ 底：大茎部	45-8	R92
2	須恵器／环	SD913／堆	14.9 9.8 4.0	(口)1/2 (底)元形	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 底：回転ヘラ切→回転ヘラケズリ	45-10	R88
3	須恵器／环	SD913／堆	13.4 8.2 3.9	(口)1/8 (底～底)1/3	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 底：回転ヘラ切→手持ヘラケズリ	45-11	R85
4	須恵器／环	SD913／堆	14.8 6.8 4.1	ほぼ元形	外：ロクロナデ→手持ヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：手持ちヘラケズリ→トテ 内面に墨付 磨用礫か	45-12	R87
5	須恵器／堆	SD913／堆	16.8 11.4 7.2	(口)3/4 (底～底)ほぼ元形	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 底：回転ヘラ切→回転ヘラケズリ	45-13	R86
6	土師器／环	SD913／堆	19.2 — 6.0	(口)1/4 (底)1/3	外：ヘラケズリ／ヨコナデ 内：ヘラミガキ→黑色処理	45-9	R90
7	土師器／环	SD913／堆	16.0 3.6 3.7	ほぼ元形	外：ヘラケズリ／ヨコナデ 内：ヘラミガキ→黑色処理	45-14	R91
8	土師器／知頭器	SD913／堆	5.0 — (4.3)	(口)1/4 (底)1/2	外：ヘラケズリ／ヨコナデ 内：ヘラナデ	45-15	R89

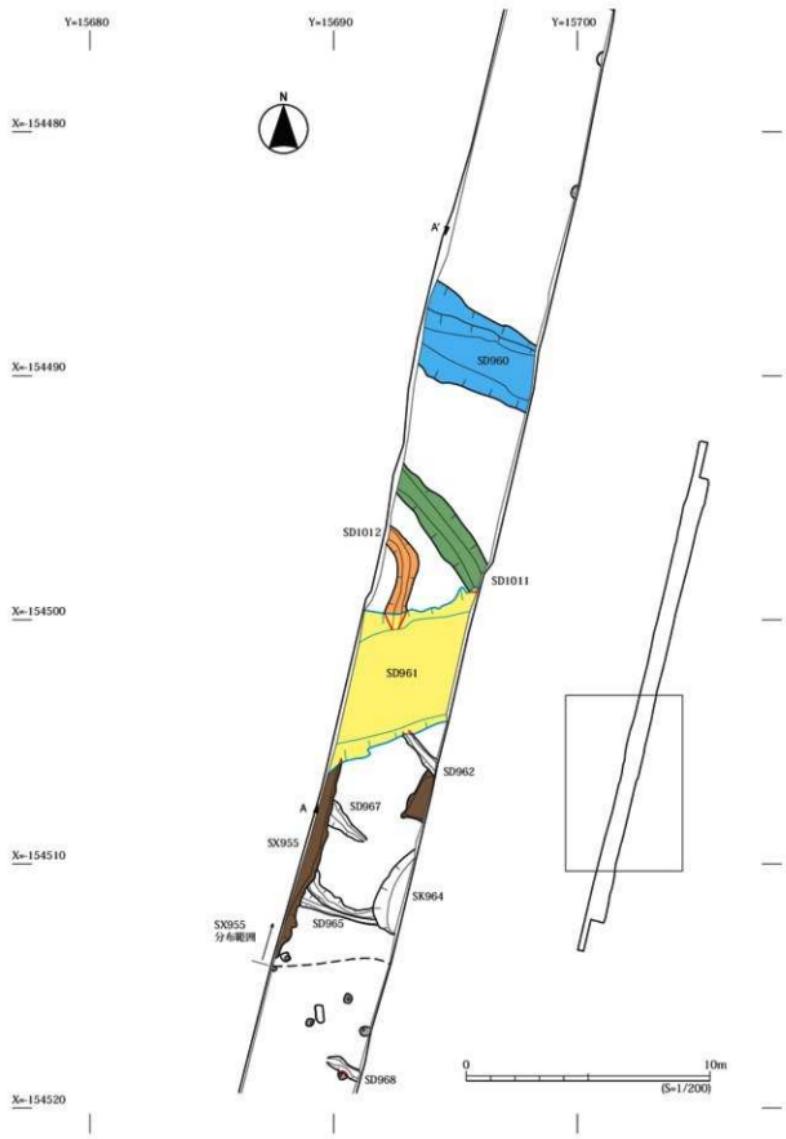
第52図 J-21区 SD909・913溝跡出土遺物

(12) J-22 区

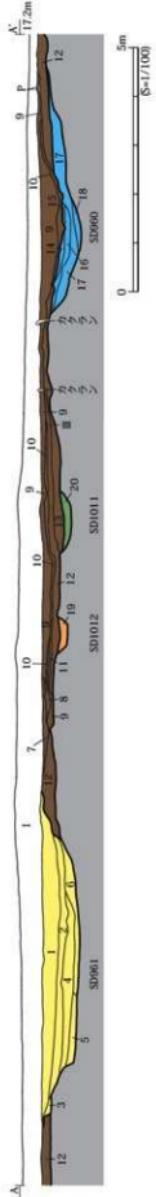
調査区の北部から南部にかけて灰白色火山灰を含む遺物包含層 (SX955) が堆積しており、多くの遺物が出土した。また、SX955 の上部・下部で河川跡や溝跡・土坑の遺構を検出した。



第 53 図 J-22 区 平面図 (1)



第54図 J-22区 平面図(2)



地層	層	土質		備考
		上層	下層	
SD0961	1 黄褐色 (10YR 4/1)	シルト質粘土	地山グロックナイト少	自然地盤上。
	2 黄褐色 (10YR 5/1)	シルト質粘土	地山グロックナイト少	自然地盤上。
	3 灰褐色 (10YR 5/2)	粘土質シルト	地山グロックナイト少	自然地盤上。
	4 黄褐色 (2.5Y 4/1)	シルト質粘土	地山グロックナイト少	自然地盤上。
	5 黑褐色 (2.5Y 4/1)	シルト	地山グロックナイト少	自然地盤上。
	6 黄褐色 (2.5Y 4/1)	シルト	地山グロックナイト少	自然地盤上。
	7 黑褐色 (10YR 3/1)	シルト	地山グロックナイト少	自然地盤上。
	8 黄褐色 (10YR 4/1)	粘土質シルト	地山グロックナイト少	自然地盤上。
	9 黑褐色 (10YR 3/1)	シルト質粘土	地山グロックナイト少	自然地盤上。
	10 黑褐色 (10YR 2/1)	粘土質シルト	灰白色山灰(弱)	地山グロックナイト少
	11 水灰色 (10YR 6/2)	シルト	地山グロックナイト少	自然地盤上。
	12 黄褐色 (2.5Y 4/1)	シルト質粘土	灰白色山灰含む	自然地盤上。
	13 黄褐色 (2.5Y 6/4)	シルト質粘土	炭化物含む少	自然地盤上。
	14 水灰色 (2.5Y 6/2)	砂質シルト	炭化物含む少	自然地盤上。
	15 黑褐色 (10YR 2/1)	粘土質シルト	灰白色砂質シルトグロックナイト少	自然地盤上。
SD0955	16 黑褐色 (2.5Y 7/2)	砂質シルト	灰白色砂質シルトグロックナイト少	自然地盤上。
	17 水灰色 (2.5Y 4/2)	砂質シルト	地山グロックナイト少	自然地盤上。
	18 黄褐色 (2.5Y 5/4)	シルト質粘土	地山グロックナイト少	自然地盤上。
	19 黄褐色 (2.5Y 5/1)	粘土質シルト	地山グロックナイト少	自然地盤上。
SD1012	20 水灰色 (2.5Y 5/1)	シルト	地山・礫含む少	自然地盤上。
SD1011				

第55図 J-22区 南部西壁断面図

①溝跡

【SD957 溝跡】(平面図: 第 53 図、断面図: 第 53 図)

【位置】北部

【重複関係】 SD956 より新しい。

【規模】東西方向で 4.6m 検出した。上幅は 0.83 ~ 0.95m、下幅は 0.5 ~ 0.71m、深さは 0.41m である。

【断面形】逆台形である。

【堆積土】3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】須恵器甕、土師器甕が出土した。

②河川跡・自然流路跡

【SD961 河川跡】(平面図: 第 54 図、断面図: 第 55 図、遺物: 第 56 図)

【位置】中央部

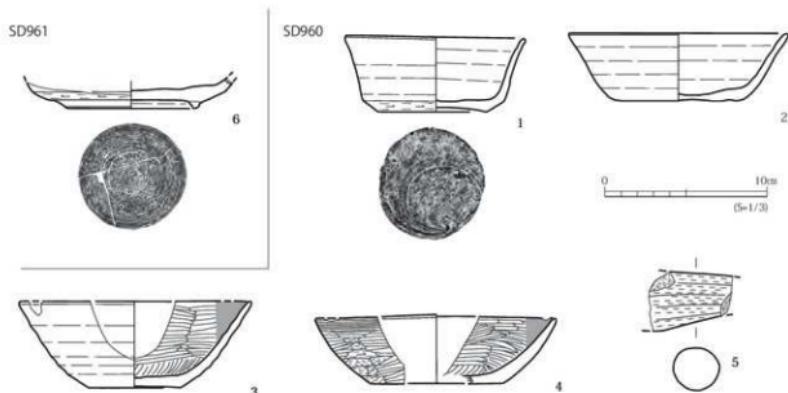
【重複関係】 SX955、SD1011・1012 より新しい。

【規模】東西方向で 4.2m 検出した。上幅は 4.8 ~ 5.4m、下幅は 3.8 ~ 4.0m、深さは 0.77m である。

【断面形】逆台形である。

【堆積土】6 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】須恵器甕・甕、土師器甕・甕が出土した。



No.	種別/器種	造構/層	法量(cm)			残存	調整・特徴	回版	登録
			口径	底径	高さ				
1	須恵器/甕	SD960 / 堆下	11.0	6.6	4.7	完形	外: ロクロナデ → 回転ヘラケズリ 内: ロクロナデ 底: 回転系切→回転ヘラケズリ	46-1	R98
2	須恵器/甕	SD960 / 堆下	13.4	7.9	4.2	(口~底)1/2	外: ロクロナデ 底: 回転ヘラ切→回転ヘラケズリ→ナデ	46-2	R101
3	ロクロ土師器/甕	SD960 / 堆下	14.2	5.6	5.3	(口~底)1/3 (底)3/4	外: ロクロナデ 内: ヘラミガキ→黒色処理 底: 回転系切→手持ヘラケズリ	46-3	R100
4	土師器/甕	SD960 / 堆下	14.6	8.1	4.2	(口~底)1/3 (底)1/6	外: ヘラケズリ→ヨコテープ→ヘラミガキ 内: ヘラミガキ→黒色処理	46-4	R99
5	土師器/甕	SD960 / 堆上	—	—	—	—	現行長: 5cm 幅 4cm 厚さ: 2.6cm 外: ヘラケズリ 把手付	46-5	R97
6	須恵器/高台付	SD961 / 推	—	—	—	(体下~底)3/4	外: ロクロナデ→回転ヘラズリ 内: ロクロナデ 底: 回転ヘラ切→回転ヘラケズリ→高台取り付け	46-6	R93

第 56 図 J-22 区 出土遺物 (1)

【SD960 自然流路】(平面図: 第 54 図、断面図: 第 55 図、遺物: 第 56 図、写真図版: 11-4)

〔位置〕 中央部

〔重複関係〕 SX955 より古い。

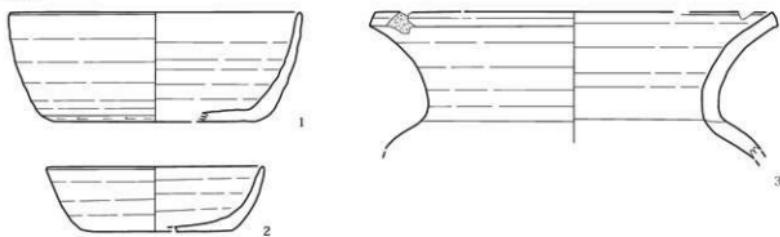
〔規模〕 北西—南東方向で 4.8m 検出した。上幅は 3.6m、下幅は 0.85m、深さは 0.75m である。

〔断面形〕 凧形である。

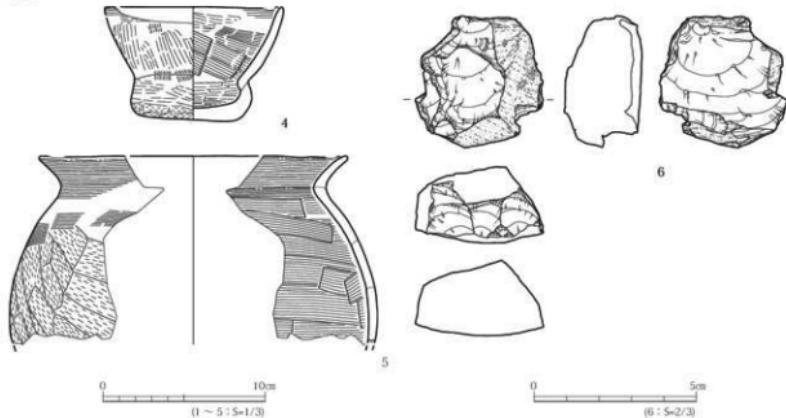
〔堆積土〕 5 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

〔出土遺物〕 須恵器壺、土師器壺・鉢などが出土した。

SX955



表土

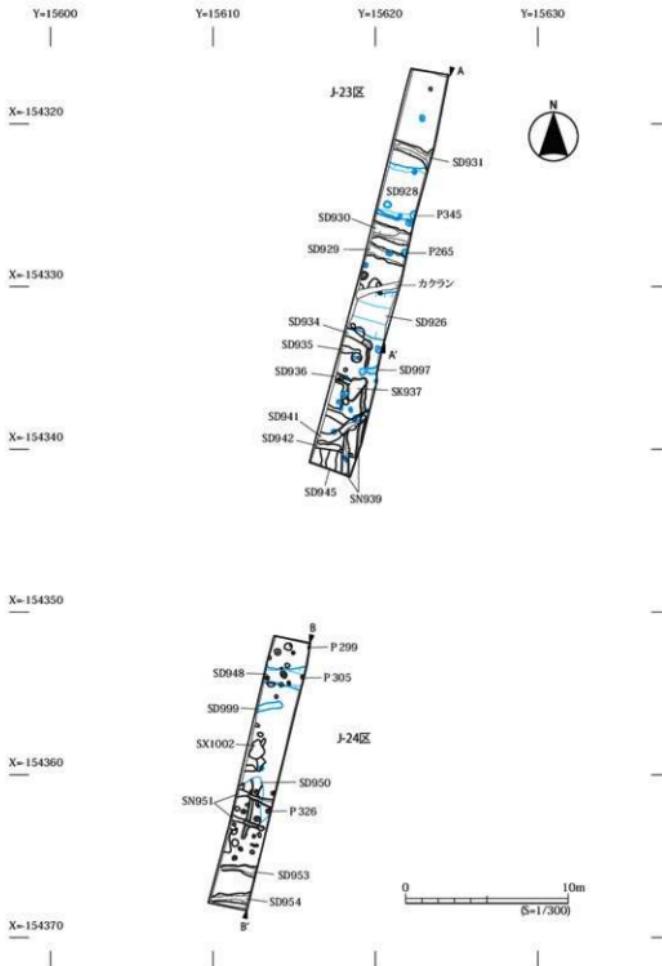


No.	種別／器種	遺構／層	法面 (cm)			現存	調整・特徴	図版	登録
			口徑	底径	厚さ				
1	須恵器／壺	SX955／堆下	17.8	12.4	6.7	(口～底)1/3 (底)1/4	外: ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内: ロクロナデ 底: 回転ヘラ切→回転ヘラケズリ	46-10	R95
2	須恵器／壺	SX955／イカク	13.2	9.6	4.0	(口～底)1/3	外: ロクロナデ 底部: 回転ヘラ切	46-7	R96
3	須恵器／壺	SX955／堆下	24.4	—	—	(口～底上)1/3	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ→スピオサエ	46-9	R94
4	土師器／壺	表土	10.8	—	7.0	ほぼ完形	外: ヨコナデ→ラケズリ／ハケメーヘラミガキ 内: ヨコナデ→ハナデ／ラミガキ	46-8	R102
5	土師器／壺	表土	18.8	—	—	(口)1/3 (胴上)1/4	外: ハケズリ→ナナデ／ヨコナデ 内: ヘラナデ／ヨコナデ→黒色処理	46-11	R103
6	石器	表土	—	—	—	—	黒曜石 長さ: 4.1cm 幅: 4.0cm 厚さ: 2.4cm 重さ: 38.5 g	46-12	R209

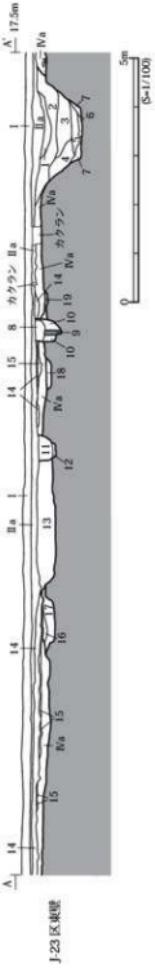
第 57 図 J-22 区 出土遺物 (2)

(13) J-23・24 区

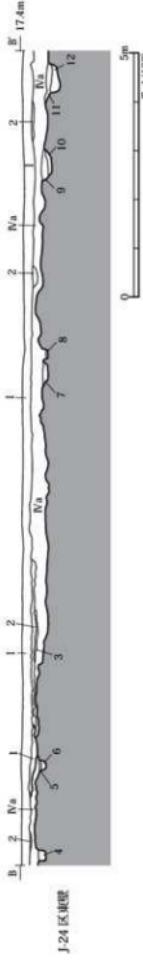
IV層上面、V層上面にて遺構を確認した。IV層上面で検出した遺構は中世以降のものであると推定される。なお、IV層の上に灰白色火山灰を含む遺物包含層 SX923・949 を確認した。



第 58 図 J-23・24 区 平面図



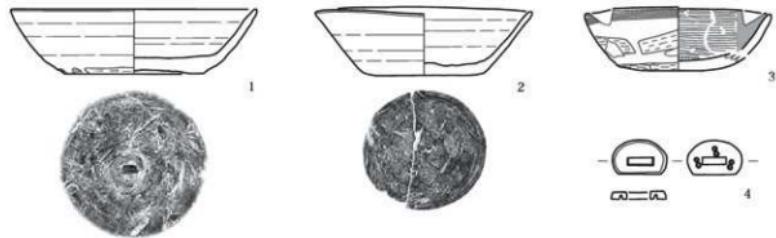
地層	層	土壤	土被	地質
S0926	1 黒褐色 (10YR4/2)	シルト質粘土	泥化粘土質砂層	1/15砂岩層上 0.5m厚植生 0.5m厚植土
2 灰褐色 (10YR5/2)	シルト質粘土	泥化物を含むG.	1/15砂岩層上 0.5m厚植土	
3 黑褐色 (10YR4/1)	粘土	泥化物を含むG.	1/15砂岩層上 0.5m厚植土	
4 黑褐色 (2.5YR5/2)	砂質シルト	砂質シルト	1/15砂岩層上 0.5m厚植土	
5 黑褐色 (2.5YR5/1)	粘土	粘土	1/15砂岩層上 0.5m厚植土	
6 オリーブ緑色 (5YR6/2)	粘土質シルト	粘土質シルト	1/15砂岩層上 0.5m厚植土	
7 黑褐色 (2.5YR5/1)	粘土質シルト	粘土質シルト	1/15砂岩層上 0.5m厚植土	
P265	8 褐褐色 (10YR4/1)	シルト質粘土	地山プロックを含むG.	8m厚 8m厚
9 黑褐色 (10YR5/1)	粘土	地山プロックを含むG.	8m厚 8m厚	
10 灰褐色 (2.5YR5/2)	粘土	地山プロックを含むG.	8m厚 8m厚	



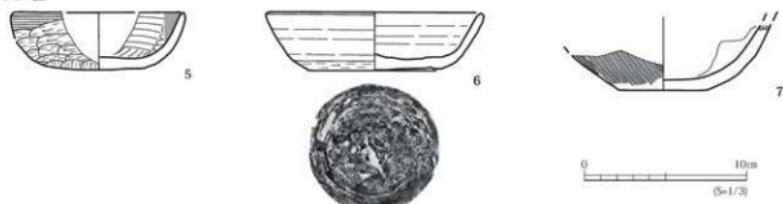
地層	層	土壤	土被	地質
S0948	1 黒褐色 (10YR3/1)	シルト質粘土	黑色シルト質粘土プロックを含むG. にのみ、他のプロックを含むG.	1/15砂岩層上 0.5m厚植土
SN049	2 黑褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	灰化シルト質粘土上プロックを含むG.	1/15砂岩層上 0.5m厚植土
P269	3 灰褐色 (10YR5/2)	シルト	灰化シルト質粘土上 地山プロックを含むG.	1/15砂岩層上 0.5m厚植土
P205	4 褐褐色 (10YR4/1)	シルト	地山プロックを含むG.	1/15砂岩層上 0.5m厚植土
	5 褐褐色 (10YR4/2)	シルト	地山プロックを含むG.	1/15砂岩層上 0.5m厚植土
	6 黑褐色 (10YR5/2)	粘土	地山プロックを含むG.	1/15砂岩層上 0.5m厚植土

第59図 J-23・24区 東壁断面図

J-23 区



J-24 区



No.	種別／器種	遺構／層	法面(cm)			残存	調整・特徴	図版	登録
			口径	底径	高さ				
1	須恵器／环	SX923／堆	15.1	8.4	4.0	(口～底)1/3 (底)1/3	外：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→手持ちヘラケズリ	47-1	R107
2	須恵器／环	SX923／堆下	13.2	7.4	4.0	(口～底)1/8 (底)1/3	外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→回転ヘラケズリ→ナデ	47-2	R105
3	土師器／环	SX923／堆下	11.4	3.7	3.9	ほぼ定形	外：ヘラケズリ / ヨコナデ 内：ヘラミガキ→黑色処理	47-3	R106
4	石製品／丸鉗	SX923／堆	—	—	—	長さ：3.4cm 幅：2.1cm 厚さ：0.5cm 重さ：6.2g	46-13	R113	
5	土師器／环	SX949／堆	10.4	4.9	3.5	(口～底)1/4 (底)3/4	外：ヨコナデ→手持ちヘラケズリ 内：ヘラミガキ→黑色処理	47-4	R108
6	須恵器／环	イカク	13.0	8.2	4.2	(口～底)1/2 (底)1/3	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→回転ヘラケズリ	47-5	R109
7	土師器／甕	表土	—	5.5	—	(胴下)1/8 (底)1/3	外：ハケメ	47-6	R110

第60図 J-23・24区 出土遺物

【SD926 溝跡】(平面図：第58図、断面図：第59図、写真図版：11-6・7)

【位置】J-23区中央部

【地山・重複関係】IV層上面から掘りこまれており、SX923より新しい。

【規模】東西方向で2.3m検出した。上幅は2.8m、下幅は1.04m、深さは1.0mである。

【断面形】逆台形である。

【堆積土】7層に分かれ、いずれも自然堆積である。

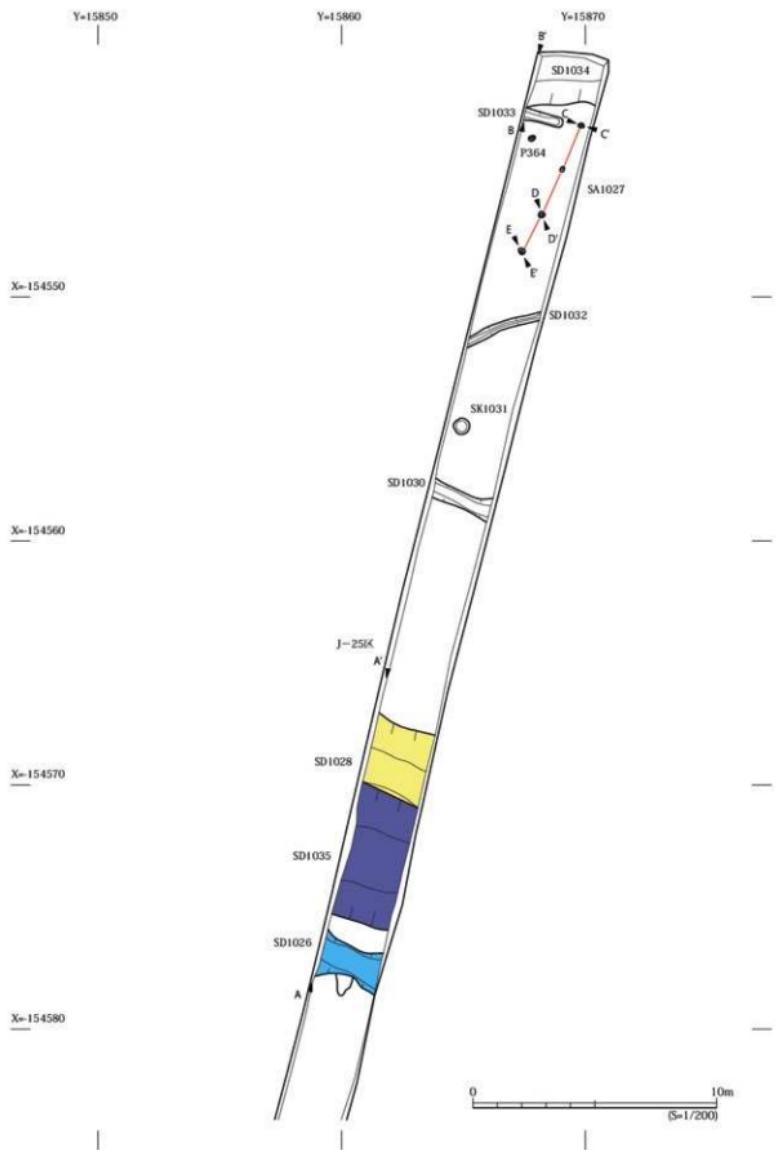
【出土遺物】須恵器甕、土師器甕の破片が出土した。

(14) J-25区

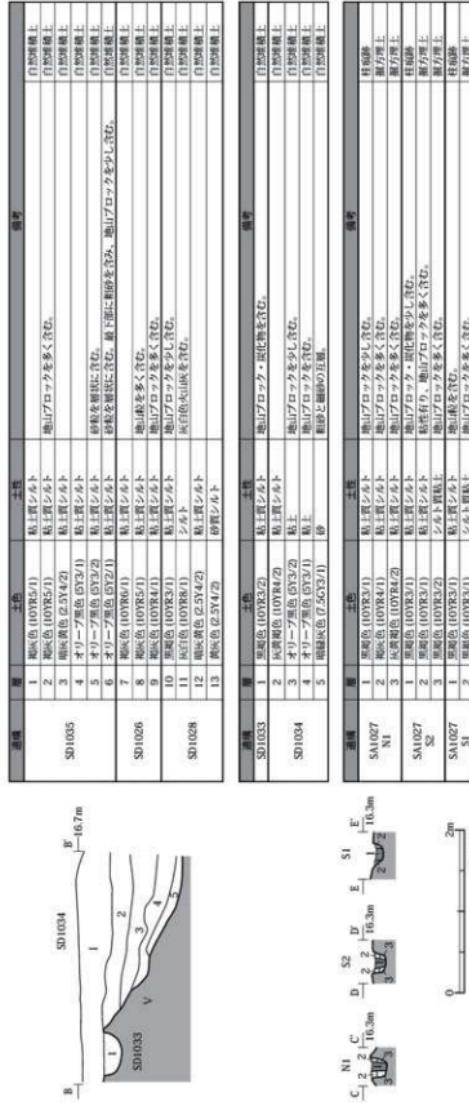
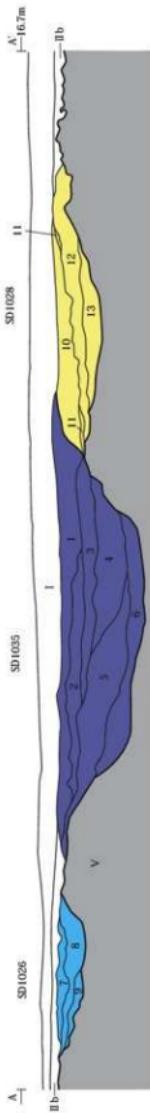
①柱列跡

【SA1027 柱列跡】(平面図：第61図、断面図：第62図)

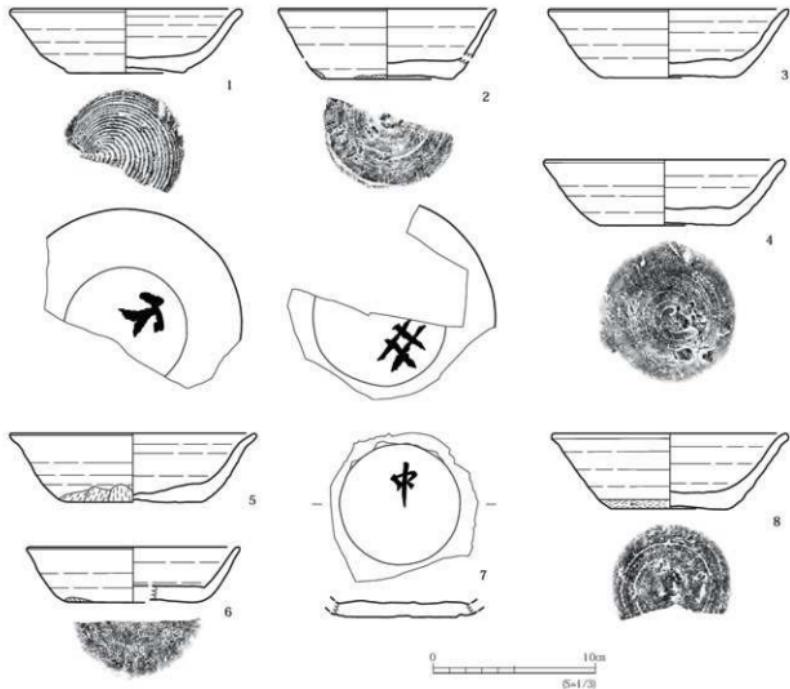
【位置】北部



第 61 図 J-25 区 平面図



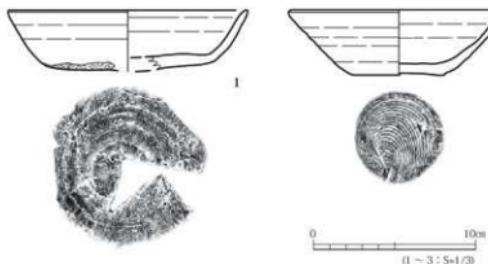
第62図 J-25区 違構断面図



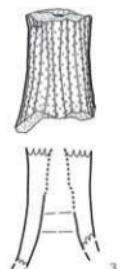
No.	種別/器種	遺構/層	法量(cm)			残存	調査・特徴	回収	登録
			口径	底径	高さ				
1	須恵器／环	SD1028／堆下	13.8	7.6	3.9	(口～底)1/2	外内：ロクロナデ 底：回転丸切 底部に墨書「欠」 外：ロクロナデ+手持ちハウケズリ 内：ロクロナデ	47-13・16	R136
2	須恵器／环	SD1028／堆下	13.2	8.1	4.3	(口～底)1/3	外：ロクロナデ+手持ちハウケズリ 底：回転へラ切+手持ちハウケズリ 底部に墨書「#」	47-14・17	R124
3	須恵器／环	SD1028／堆下	14.6	8.4	4.2	(口～底)3/4	外内：ロクロナデ 底：回転へラ切	47-7	R133
4	須恵器／环	SD1028／堆下	14.6	8.0	4.0	(底)完形	外内：ロクロナデ 底：回転へラ切	47-8	R132
5	須恵器／环	SD1028／堆下	15.0	8.8	4.2	(口～底)1/2	外内：ロクロナデ 底：回転へラ切+手持ちヘラケズリ	47-9	R134
6	須恵器／环	SD1028／堆下	13.0	8.0	3.4	(口～底)1/2	外内：ロクロナデ 底：手持ちヘラケズリ	47-10	R127
7	須恵器／环	SD1028／堆下	—	—	—	(体下)1/7 (底)完形	内：ロクロナデ 底：回転へラ切+手持ちヘラケズリ 底部に墨書「中」	47-18	R135
8	須恵器／环	SD1028／堆下	14.3	7.2	4.6	(口～体)1/4 (底)3/4	外：ロクロナデ→回転へラケズリ 内：ロクロナデ 底：回転へラ切→回転へラケズリ	47-11	R126

第63図 J-25区 SD1028自然流路跡出土遺物

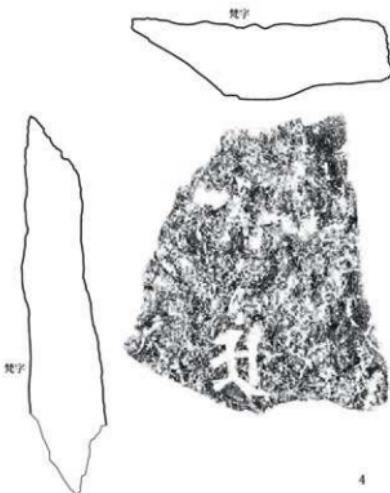
SD1028



SD1026



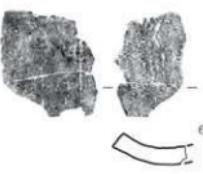
SD1034



SD1035



その他



No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm)			残存	調査・特徴	回数	登録
			口径	底径	高さ				
1	須恵器／3F	SD1028／堆下	14.6	10.0	(3.8)	(口一休)1/2 (底)3/4	外:ロクロナデ 手持ちヘラケズリ 底:回転ヘラ切→手持ちヘラケズリ	47-12	R128
2	須恵器／3F	SD1028／堆上	13.2	5.6	4.0	(口一休)1/2 (底)完形	外内:ロクロナデ 底:回転系切	47-15	R125
3	須恵器／高井	SD1026／堆	—	—	—	(脚)1/2	外:ロクロナデ 手持ちヘラケズリ 内:ロクロナデ 脚部のみ 梵字「ア」、人頭像、火焔文、乳輪文等	48-1	R123
4	石製品／板牌	SD1035／堆	—	—	—	—	梵字「ア」、人頭像、火焔文、乳輪文等 長軸:23.9cm 短軸:16.2cm 重さ:2200g	48-4	R129
5	平瓦	SD1034／堆	—	—	—	礫片	凹面:布目 凸面:ナデ 端部:ケズリ 長さ:6.8cm 幅:4.3cm 厚さ:1.9cm	48-2	R131
6	平瓦	表土	—	—	—	礫片	凹面:布目 凸面:ロクロナデか 端部:ヘラケズリ 長さ:8.6cm 幅:5.1cm 厚さ:1.4cm	48-3	R130

第64図 J-25区 SD1028自然流跡、その他出土遺物

〔重複〕なし

〔柱間数・方向〕北東—南西方向に3間分を検出した。方向は北で東に25°偏る。

〔検出状況〕柱穴を4個検出し、3個の柱穴で柱痕跡を確認した。

〔平面規模〕総長5.7m、柱間寸法は1.8m—2.2m—1.7mである。

〔柱穴〕掘方は長軸0.24～0.3m、短軸0.18～0.2mの隅丸方形もしくは梢円形で、柱痕跡は長軸0.1mである。

〔出土遺物〕出土しなかった。

②河川跡・自然流路跡

【SD1028 自然流路跡】(平面図:第61図、断面図:第62図、遺物:第63・64図、写真図版:12-3)

〔位置〕南部

〔重複関係〕SD1035より古い。

〔規模〕北西—南東方向で2.5m検出した。上幅は2.9m以上、下幅は1.3m以上、深さは0.56mである。

〔断面形〕全体は不明であるが、皿形とみられる。

〔堆積土〕4層に分かれ、灰白色火山灰を含む。いずれも自然堆積である。

〔出土遺物〕須恵器壺・甕、土師器壺・甕、ロクロ土師器甕が出土した。

【SD1035 河川跡】(平面図:第61図、断面図:第62図、遺物:第64図、写真図版:12-3)

〔位置〕南部

〔重複関係〕SD1028より新しい。

〔規模〕北西—南東方向で2.4m検出した。上幅は5.1～5.5m、下幅は2.1～2.3m、深さは1.0mである。

〔断面形〕逆台形である。

〔堆積土〕6層に分かれ、いずれも自然堆積である。

〔出土遺物〕須恵器壺・甕、土師器壺・甕、磁器碗・瓶、瓦、板碑が出土した。

(15) J-26・27区

J区西部に位置する東西方向の調査区である。両区とも西部では自然堆積層が比較的良好に残っており、Ⅲ～Ⅳ層が厚さ0.3～0.5m程度堆積している。遺物はⅣ層から多く出土している。

①掘立柱建物跡

【SB1040 掘立柱建物跡】(平面図:第65・66図、断面図:第66図、写真図版:13)

〔位置〕J-26区中央部に位置し、北側柱列と東・西側柱列の一部を検出した。

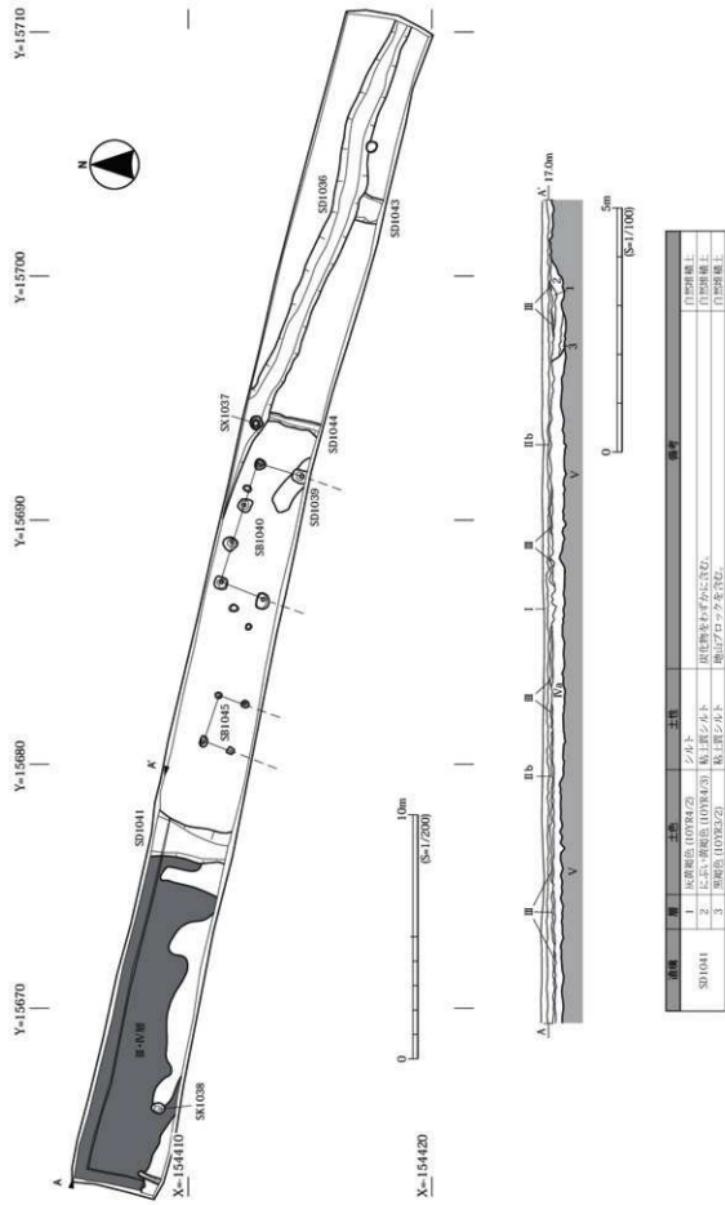
〔重複〕SD1039より新しい。

〔柱間数・棟方向〕桁行3間、梁行1間以上の東西棟とみられる。

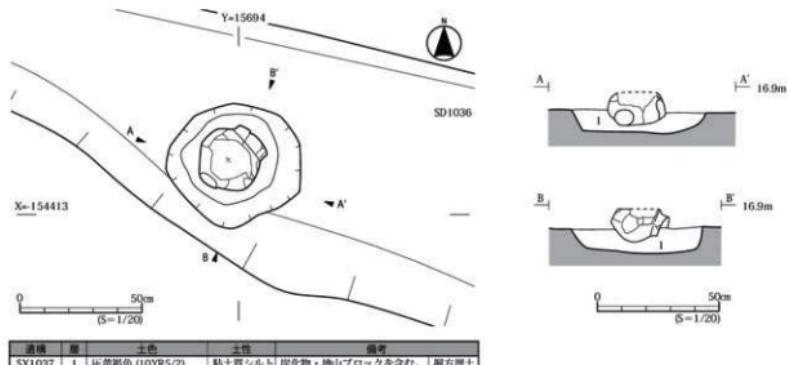
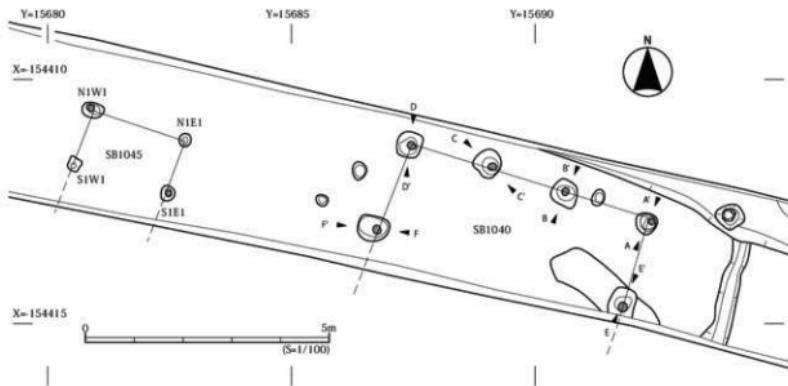
〔検出状況〕柱穴を6個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

〔平面規模〕桁行が北側柱列で総長5.1m、柱間寸法は西から1.7m—1.6m—1.8m、梁行が総長1.9m以上である。

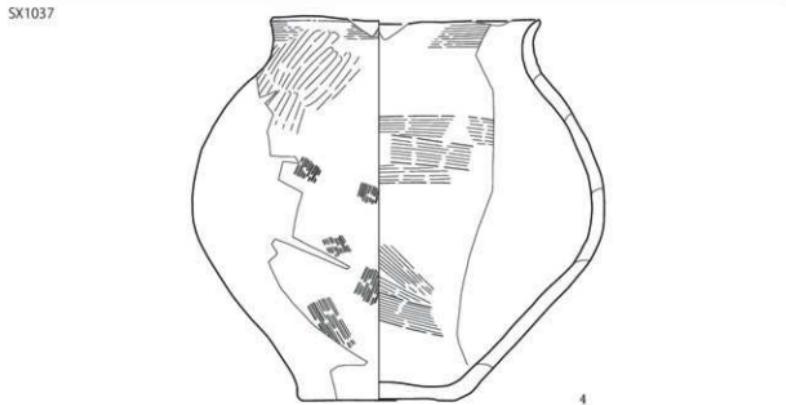
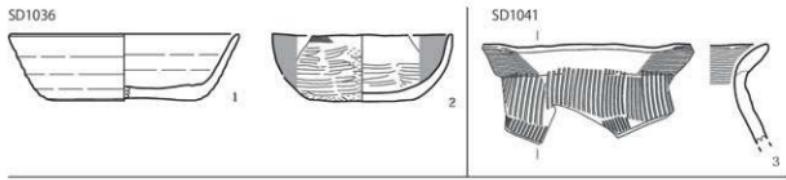
〔方向〕北側柱列で測ると西で北に17°偏る。



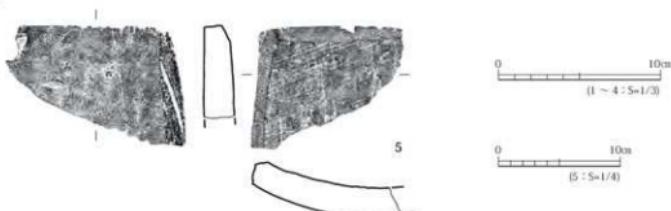
第65図 J-26区 平面図、北壁断面図



第 66 図 J-26 区 SB1040 掘立柱建物跡・SX1037 土器埋設遺構平面図・断面図

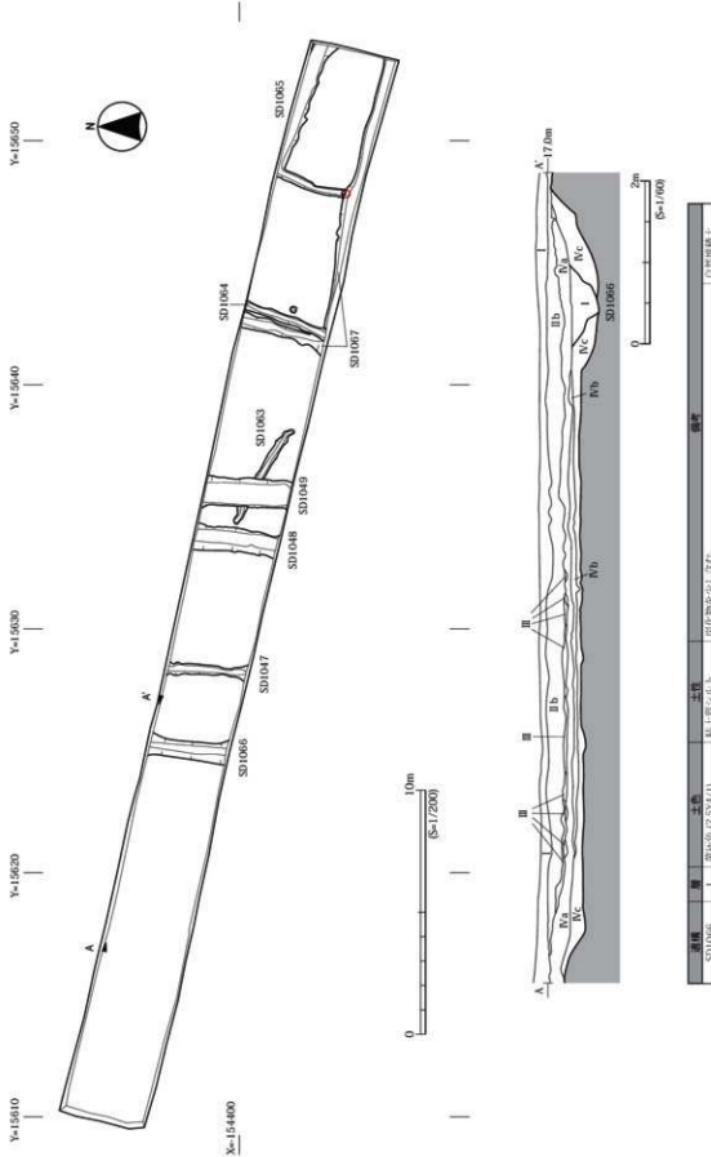


その他



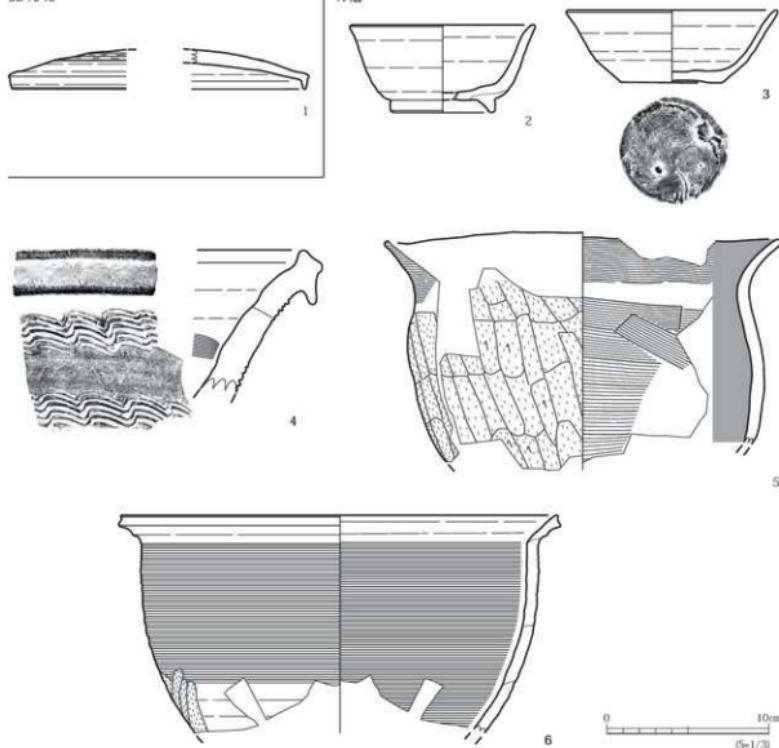
No.	種別／器種	遺構／層	大きさ(cm)			残存	調整・特徴	回版	登録
			口径	上径	底径				
1	須色器／片	SD1036／堆	14.0	9.5	4.1	(口～底)1/2 (底2/3)	外内：クロコナデ 内：小円一同軸へラケズリ	48.5	R141
2	土師器／片	SD1036／堆	11.0	6.4	4.1	(口～底)1/4 (底2/3)	外：ヘラケズリ→ヘラミガキ／ヨコナデ→黒色處理 内：ヘラミガキ→黒色處理	48.6	R140
3	土師器／片	SD1041／堆	—	—	—	(口～脚上)1/6	外：ハケメ～ヨコナデ 内：ヨコナデ	48.7	R137
4	土師器／片	SX1037／脚方	16.3	9.5	23.6	(口～底)1/3	外：ハケメ、ヨコナデミガキ 内：ヨコナデ／ヘラナデ	48.8	R139
5	平瓦	表土	—	—	—	破片	四面曲：ヘラケズリ～ナデ 端部：ヘラケズリ 長さ：12.9cm 幅：4.9cm 厚さ：2.4cm	48.9	R138

第67図 J-26区 出土遺物



第68図 J-27区 平面図、北壁断面図

SD1048



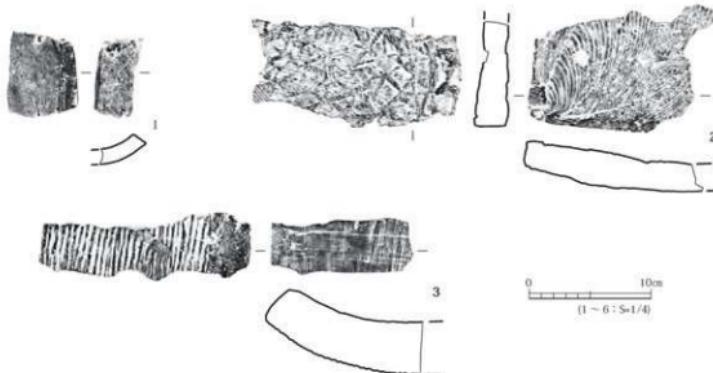
No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm)			残存	調整・特徴	回収	登録
			口径	遺理	高さ				
1	須恵器／盃	SD1048／堆	—	—	—	(口～全体)1/6	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内：ロクロナデ	49.7	R147
2	須恵器／高台杯	SX1046／堆	11.1	6.0	5.4	(口～底)1/2	外：ロクロナデ 底：回転ヘラケズリ→高台取り付け	49.3	R151
3	須恵器／环	IV層	12.8	6.2	4.4	(口～全体)2/3 (底)兜形	外内：ロクロナデ 底：回転柄切	49.4	R142
4	須恵器／甕	IV層	—	—	—	破片	外：ロクロナデ→輪撮或状文 内：ロクロナデ	49.8	R146
5	土師器／甕	IV層	24.1	—	—	(口～胴上)1/4	外：ヘラケズリ／ヨコナデ 内：ヘナナデ／ヨコナデ→黒色処理	49.6	R145
6	ロクロ土師器／ 鉢	IV層	26.8	—	—	(口～胴上)1/3	外：ロクロナデ→カキメ→手持ちヘラケズリ 内：ロクロナデ→カキメ	49.5	R150

第69図 J-27区 出土遺物(1)

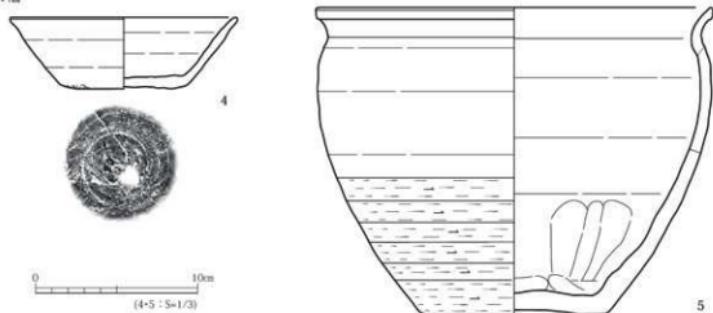
[柱穴] 捜方は長軸0.5~0.7m、短軸0.36~0.48m、深さ0.2~0.3mの隅丸方形で、柱痕跡は直径0.2mである。

[出土遺物] 捜方埋土から土師器壺の小片が出土した。

IV層



III・IV層



No.	種別／器種	遺構／層	法面(cm)			残存	調査・特徴	図版	登錄
			口徑	底径	厚さ				
1	平瓦	IV層	—	—	—	破片	凹面：平目 凸面：不明 自然釉付面 端部：ヘラケズリ 長さ：7.0cm 幅：4.3cm 厚さ：1.3cm	49-9	R149
2	平瓦	IV層	—	—	—	破片	凹面：無切削→ナデ 凸面：花文タタキ目→ヘラナデ 端部：ヘラケズリ 長さ：9.8cm 幅：15.0cm 厚さ：3.0cm	49-11	R152
3	平瓦	IV層	—	—	—	破片	凹面：ヘラナデ 口沿：平行タタキ 端部：ヘラケズリ 長さ：5.4cm 幅：13.5cm 厚さ：4.3cm	49-10	R148
4	圓壺器／环	III・IV層	13.7	7.6	4.4	(口)・(体)1/3 (底)完形	外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→手持ちヘラケズリ	49-2	R143
5	圓壺器／環	III・IV層	24.2	11.4	18.8	(口)・(体)1/8 (底)ほぼ完形	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内：ロクロナデ→ユビナデ	49-1	R144

第70図 J-27区 出土遺物（2）

【SB1045 挖立柱建物跡】(平面図: 第65・66図)

[位置] J-26区中央部に位置し、全ての柱を検出した。

[重複] なし

[柱間数] 東西1間、南北1間以上である。

[検出状況] 柱穴を4個検出し、2個で柱痕跡を確認した。

【平面規模】東西 2.0m、南北 1.3m 以上である。

【方向】南側柱列で測ると西で北に 13° 偏る。

【柱穴】掘方は長軸 0.3 ~ 0.4m、短軸 0.24 ~ 0.3m、深さ 0.2m の隅丸方形もしくは楕円形で、柱痕跡は長軸 0.2m である。

【出土遺物】掘方埋土から土師器の小片が出土した。

②土器埋設遺構

【SX1037 土器埋設遺構】(平面図: 第 65・66 図、断面図: 第 66 図、遺物: 第 67 図、写真図版: 12-5・6)

【位置】J-26 区中央部

【重複関係】SD1036 の堆積土上面で検出したため、これより新しい。

【掘方の規模】長径約 0.56m、短径 0.5m、深さ 9cm 以上の不整な円形である。

【断面形】皿形を呈する。

【堆積土】単層で、人為堆積土である。

【埋設状況】土坑中央に土師器甕が横位で据えられていた。

【出土遺物】土師器甕が出土した。

③自然流路跡

【SD1036 自然流路跡】(平面図: 第 65 図、遺物: 第 67 図、写真図版: 12-5)

【位置】J-26 区東部～中央部

【重複関係】SX1037 より古く、SD1043・1044 より新しい。

【規模】東西方向で 21.5m 検出した。上幅は 0.7 ~ 1.2m、下幅は 0.3 ~ 0.65m、深さは 0.2m である。

【断面形】皿形である。

【堆積土】2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】須恵器甕・坏・蓋、土師器甕・坏の破片が出土した。

(16) J-28 区

J-3 区の東に隣接する調査区である。大小の掘立柱建物跡 4 棟を確認した。調査区の北辺に位置する SD1172 は、J-3 区で検出した SD716 と同一である可能性がある。

【SB1072 掘立柱建物跡】(平面図: 第 71・72 図、断面図: 第 72 図、写真図版: 15、16-5 ~ 8)

【位置】中央部の東寄りに位置し、全ての柱を検出した。

【重複】SB1078 より古い。

【柱間数・棟方向】桁行 2 間以上、梁行 1 間の南北棟である。

【検出状況】柱穴を 6 個検出し、5 個で柱痕跡を確認した。

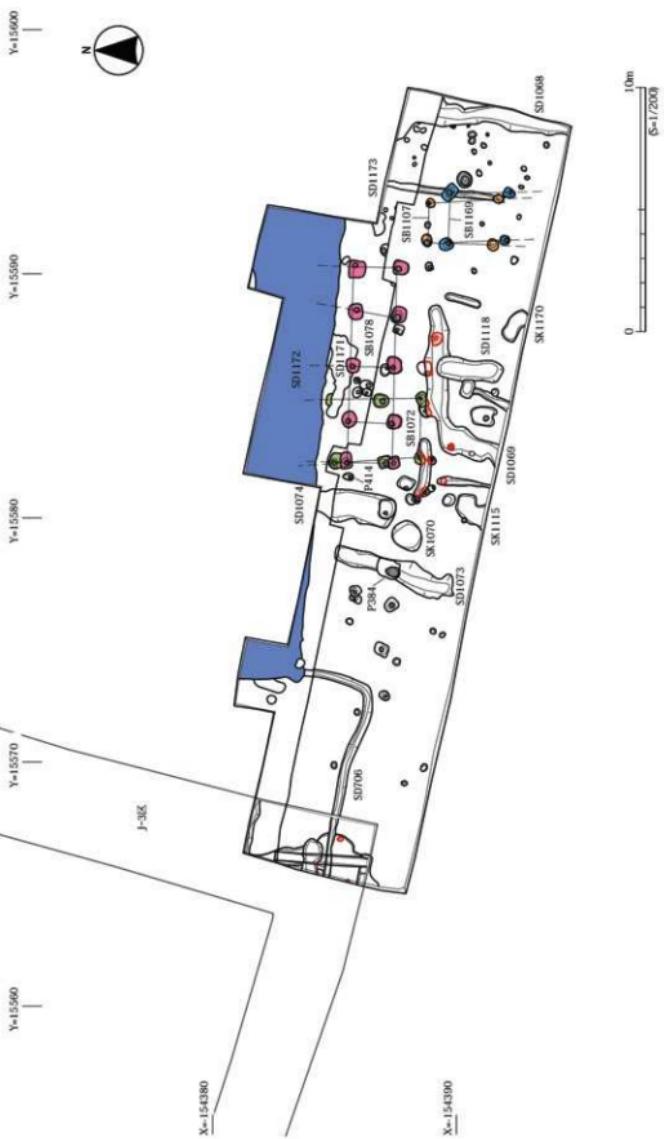
【平面規模】桁行が西側柱列で総長 3.6m、柱間寸法は南から 1.3m ~ 2.3m、梁行が総長 2.4m である。

【方向】西側柱列で測ると北で西に 3° 偏る。

【柱穴】掘方は長軸 0.5 ~ 0.7m、短軸 0.4 ~ 0.54m、深さ 0.2 ~ 0.3m の隅丸方形で、柱痕跡は長軸 0.2m である。

【出土遺物】掘方埋土から須恵器坏・甕、土師器甕の破片が出土した。

第71図 J-28区 平面図



【SB1078 挖立柱建物跡】(平面図：第 71・72 図、断面図：第 72 図、写真図版：15、16-1～4)

[位置] 中央部に位置し、南側柱列と東・西側柱列の一部を検出した。

[重複] SB1072 より新しい。

[柱間数・棟方向] 桁行 4 間、梁行 1 間以上の東西棟総柱建物跡である。

[検出状況] 柱穴を 10 個検出し、全て柱痕跡を確認した。

[平面規模] 桁行が南側柱列で総長 8.0m、柱間寸法は西から 1.6m - 2.4m - 2.1m - 2.0m、梁行が総長 1.8m 以上である。

[方向] 東側柱列で測ると北で東に 1° 傾る。

[柱穴] 掘方は長軸 0.5 ~ 0.7m、短軸 0.4 ~ 0.6m、深さ 0.2 ~ 0.4m の隅丸方形で、柱痕跡は長軸 0.2 ~ 0.3m である。

[出土遺物] 掘方埋土から須恵器壺・甕、土師器壺甕、柱痕跡から土師器甕が出土した。

【SB1107 挖立柱建物跡】(平面図：第 71・72 図、断面図：第 72 図)

[位置] 東部に位置し、全ての柱を検出した。

[重複] SD1173 より新しい。

[柱間数・棟方向] 桁行 1 間以上、梁行 1 間の南北棟である。

[検出状況] 柱穴を 4 個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

[平面規模] 桁行が西側柱列で総長 2.8m 以上、梁行が南側柱列で総長 1.9m である。

[方向] 西側柱列で測ると北で東に 5° 傾る。

[柱穴] 掘方は長軸 0.4 ~ 0.5m、短軸 0.3 ~ 0.4m、深さ 0.12 ~ 0.3m の楕円形で、柱痕跡は長軸 0.12m ~ 0.18m である。

[出土遺物] 出土しなかった。

【SB1169 挖立柱建物跡】(平面図：第 71・72 図、断面図：第 72 図)

[位置] 東部に位置し、全ての柱を検出した。

[重複] SD1173 より新しい。

[柱間数・棟方向] 桁行 1 間以上、梁行 1 間の南北棟である。

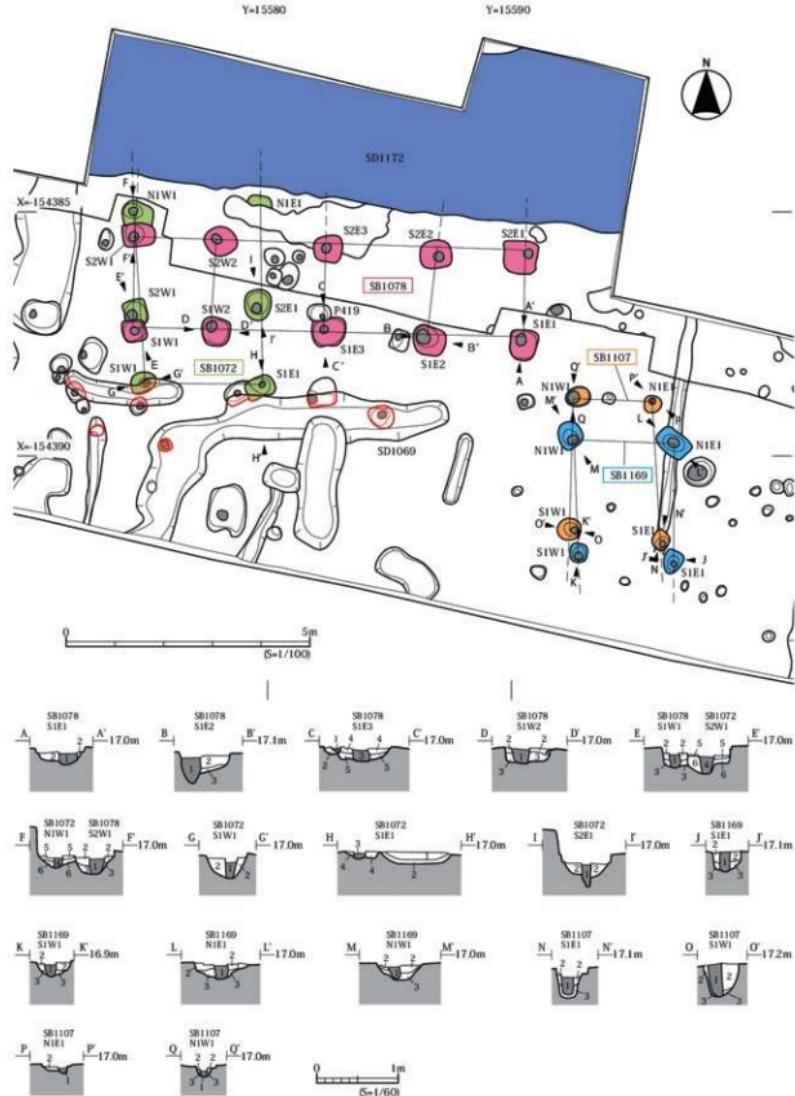
[検出状況] 柱穴を 4 個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

[平面規模] 桁行が西側柱列で総長 2.4m 以上、梁行が南側柱列で総長 2.0m である。

[方向] 西側柱列で測ると北で西に 4° 傾る。

[柱穴] 掘方は長軸 0.4 ~ 0.7m、短軸 0.3 ~ 0.5m、深さ 0.2 ~ 0.3m の隅丸方形または楕円形で、柱痕跡は長軸 0.1m ~ 0.2m である。

[出土遺物] 出土しなかった。



第72図 J-28区 SB1078・1072・1169・1107掘立柱建物跡周辺平面図・断面図

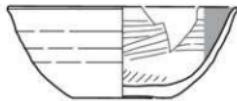
透構	層	土色	土性	備考
SB1078 SIE1	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。 堆山ブロックを含む。
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
SB1078 SIE2	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。燒土粒を少し含む。
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。燒土粒を少し含む。
	3	灰黄褐色 (10YR6/2)	シルト	堆山ブロックを含む。
P419	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	堆山ブロックを含む。
SB1078 SIW3	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を多く含む。燒土粒を含む。
	4	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を多く含む。燒土粒を含む。
	5	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	堆山ブロックを含む。
SB1078 SIW2	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	炭化物を含む。
	3	にふい・供肥色 (10YR4/3)	シルト	堆山ブロックを含む。
SB1078 SIW1	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
	3	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	堆山ブロックを含む。
SB1072 S2W1	4	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	炭化物を含む。
	5	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
	6	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	堆山ブロックを含む。
SB1078 S2W1	1	にふい・供肥色 (10YR4/3)	粘土質シルト	炭化物を含む。
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
	3	灰黄褐色 (10YR6/2)	シルト	堆山ブロックを含む。
SB1072 NIW1	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
	5	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。堆山ブロックを含む。
	6	灰黄褐色 (10YR6/2)	シルト	堆山ブロックを含む。

透構	層	土色	土性	備考
SB1078 SIW1	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を少し含む。
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を少し含む。燒土粒を少し含む。
SD1069	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を多く含み、燒土粒を含む。
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を多く含む。
SB1072 SIE1	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
	4	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。燒土粒を含む。堆山ブロックを含む。
	5	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
SB1072 S2E1	1	灰褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。堆山ブロックを含む。
	2	灰褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。堆山ブロックを含む。

透構	層	土色	土性	備考
SB1169 SIE1	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物を少し含む。
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	堆山ブロックを含む。炭化物を少し含む。
SB1169 SIW1	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を少し含む。
	2	にふい・供肥色 (10YR5/3)	粘土質シルト	炭化物を少し含む。堆山ブロックを含む。
SB1169 NIE1	3	にふい・供肥色 (10YR5/3)	粘土質シルト	堆山ブロックを少し含む。
	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。堆山ブロックを含む。
SB1169 NIW1	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。堆山ブロックを含む。
	2	灰黄褐色 (10YR6/2)	シルト	炭化物を含む。堆山ブロックを含む。
	3	にふい・供肥色 (10YR5/3)	シルト	堆山ブロックを含む。

透構	層	土色	土性	備考
SB1107 SIE1	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物を少し含む。
	2	黒褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	堆山ブロックを含む。
	3	にふい・供肥色 (10YR4/3)	シルト	堆山ブロックを含む。
SB1107 SIW1	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を多く含む。燒土粒を含む。
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	堆山ブロックを含む。
	3	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	炭化物を多く含む。
SB1107 NIE1	1	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。堆山ブロックを含む。
	2	にふい・供肥色 (10YR6/3)	シルト	炭化物を含む。堆山ブロックを含む。
	3	にふい・供肥色 (10YR6/3)	シルト	堆山ブロックを含む。
SB1107 NIW1	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を少し含む。
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	堆山ブロックを含む。
	3	にふい・供肥色 (10YR5/3)	シルト	炭化物を含む。

SD1074



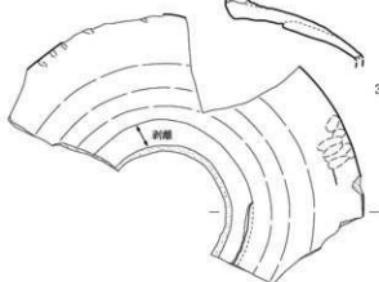
1

P384

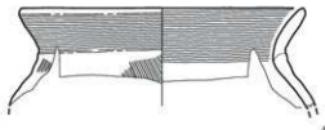


2

P384



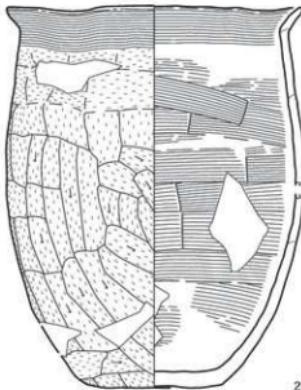
3



4

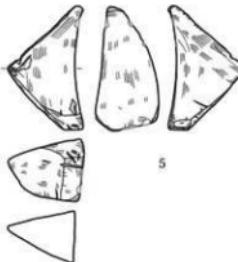
0 10cm
(5×1/3)

SD1069



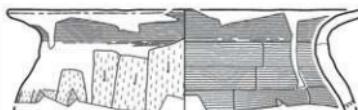
2

P414



5

その他



6

No.	種別／器種	遺構／層	法量 (cm) 口径 遷径 厚さ	現存	調整・特徴	回版	登録
1	ロクロ土師器／片	SD1074／堆	14.0 6.0 5.6 (口～体)1/3 (底)完形		外：ロクロナデ 内：ヘラスガキ→黒色処理 底：鉛系切	50-6	R154
2	土師器／甕	SD1069／堆	18.0 8.5 23.4 (口～側)1/2 (底)完形		外：ヘラケズリ→ヨコナデ 内：ヨコナデ/ヘラナデ	50-3	R153
3	須恵器／長颈甕 かね	P384／堆	— — —	破片	外：ロクロナデ→ユビオサエ 内：ロクロナデ 三四接合	50-1・2	R155
4	土師器／甕	P384／堆	17.2 — — (口～瓶上)1/4		外：ハケヌメ/ヨコナデ 内：ヨコナデ	50-4	R156
5	石製品／礫石	P414	— — —		標面2面 長さ：7.7cm 幅：4.6cm 厚さ：3.8cm 重さ：94.3g	50-7	R158
6	土師器／甕	表土	21.6 — — (口～瓶上)1/3		外：ヨコナデ→ヘラケズリ 内：ヘラナデ/ヨコナデ	50-5	R157

第73図 J-28区 出土遺物

(17) J-29 区

J 区西側を南北に継走する調査区であり、北半部には河川跡や流路、灰白色火山灰を含む遺物包含層が入り組んでいる。遺構は中央部から南部に多く、北西—南東方向に延びる道路跡や建物跡などを検出した。

①道路跡

【SX1122 東西道路跡】(平面図: 第 75・76 図、断面図: 第 77 図、写真図版: 18)

J-29 区のみで検出した北西—南東方向の道路跡である。SX200 南北道路跡や SX1197 東西道路跡などとは方向が揃わず、灰白色火山灰を含む SD1129 溝跡より新しいことから、10 世紀前葉以降に構築されたものと考えられる。

【位置】中央部からやや南側に位置する。

【重複】SD1167 より古く、SD1129、SN1157・1159・1160 より新しい。

【変遷】南北両側溝に掘り直しの痕跡は認められなかったことから、1 時期であると考えられる。

【規模】検出長 9.2m ~ 9.4m、路幅は側溝人々で測ると 6.9m である。

【方向】北側溝で測ると東で 25° 北へ偏る。

【路面】凹凸がある地山上に 3 層からなる整地層が認められる。

【北側溝 SD1132】検出長 9.2m、上幅 1.6m、下幅 0.4m、深さ 0.8m である。断面形は逆台形である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【南側溝 SD1145】検出長 9.4m、上幅 1.5m、下幅 0.3m、深さ 0.6m である。断面形は逆台形である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】両側溝から須恵器壺・甕、土師器甕、ロクロ土師器甕の小片等が出土した。

②掘立柱建物跡

【SB1133 掘立柱建物跡】(平面図: 第 75・76 図、断面図: 第 77 図)

【位置】中央部からやや南側に位置し、全ての柱を検出した。

【重複】なし

【柱間数】東西 1 間以上、南北 2 間である。

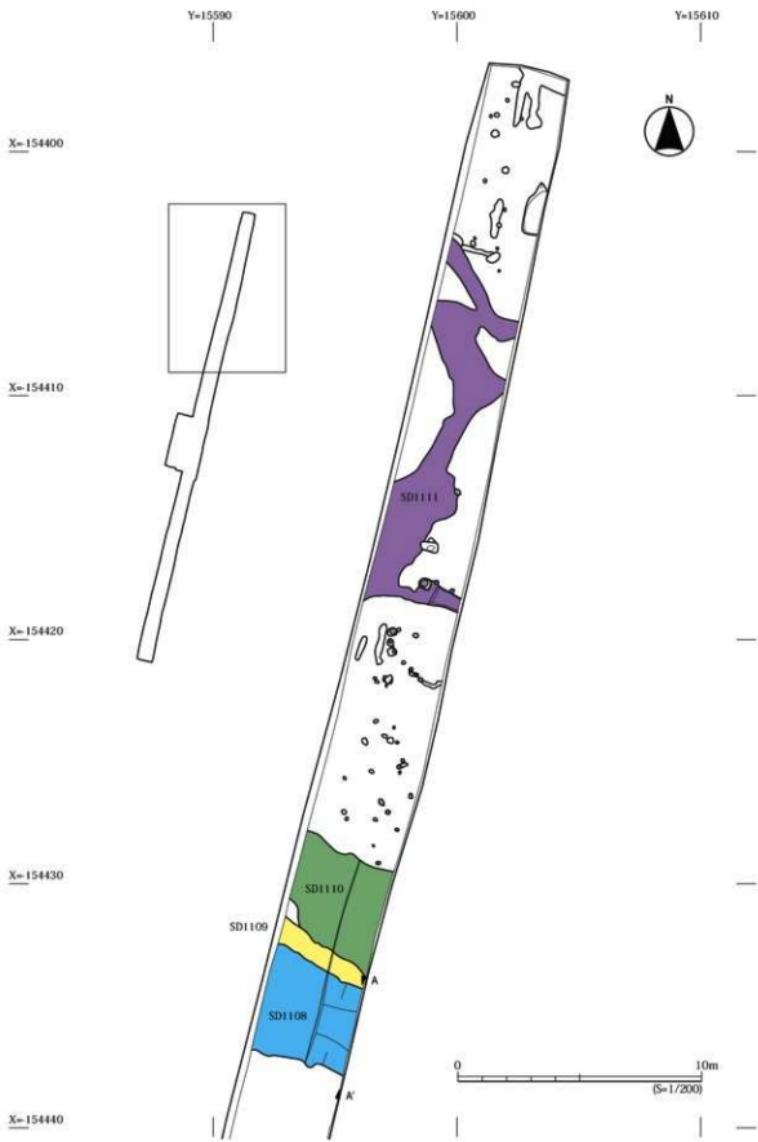
【検出状況】柱穴を 6 個検出し、5 個で柱痕跡を確認した。

【平面規模】東側柱列で総長 3.0m、柱間寸法は北から 1.4m ~ 1.6m、南側柱列で総長 2.0m である。

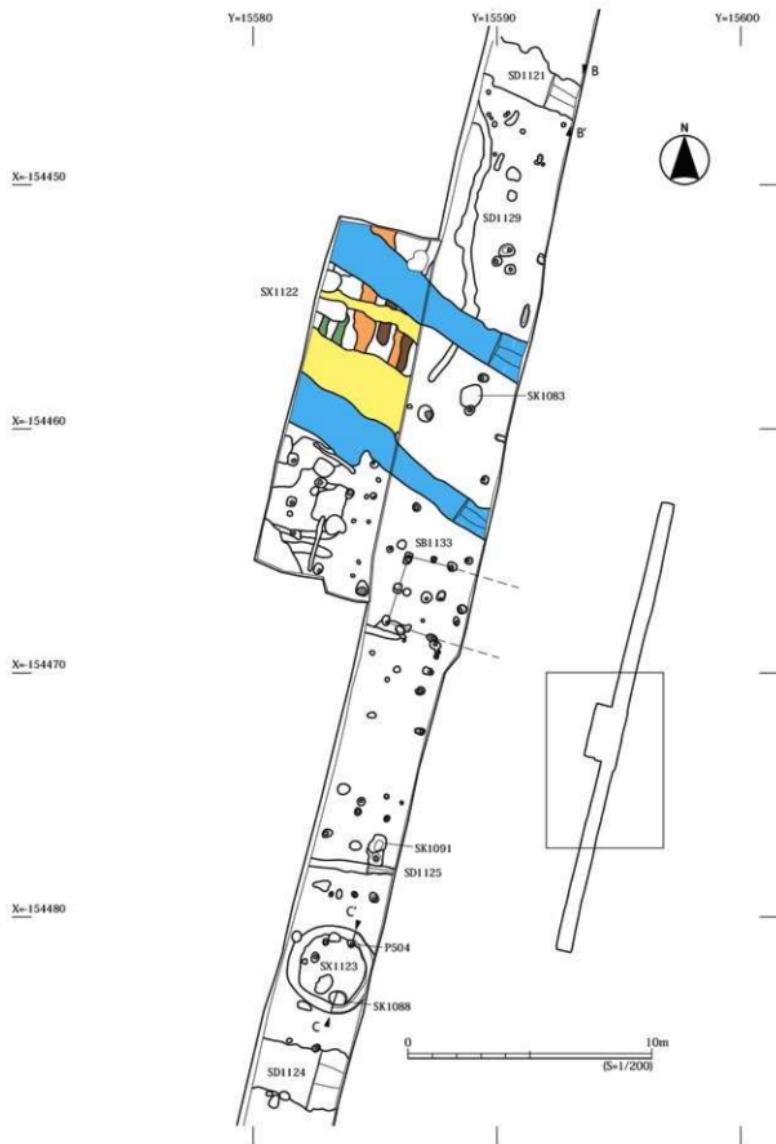
【方向】東側柱列で測ると北で東に 15° 偏る。

【柱穴】掘方は長軸 0.35 ~ 0.5m、短軸 0.3m、深さ 0.1 ~ 0.2m の隅丸方形または梢円形で、柱痕跡は直径 0.1m ~ 0.2m の円形である。

【出土遺物】出土しなかった。



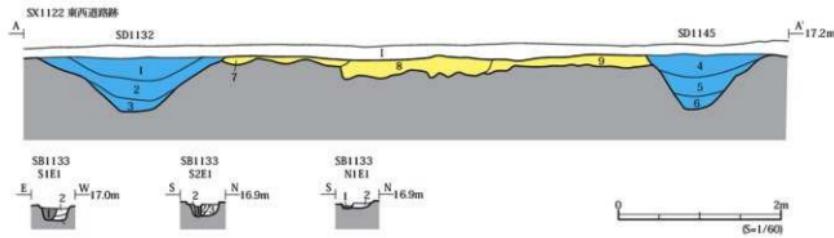
第74図 J-29区 平面図(1)



第75図 J-29区 平面図(2)

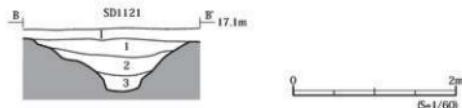


第76図 J-29区 SX1122 東西道路跡周辺平面図

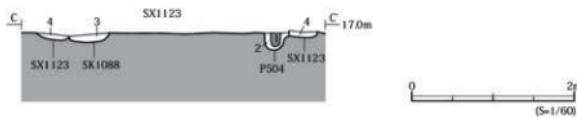


透視	層	土色	土質	備考
SD1132 (SX1122 北側溝)	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を少し含む。
	2	褐灰色 (10YR4/1)	シルト質粘土	堆山ブロックを少し含む。
	3	灰褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト	堆山ブロックを含む。
SD1145 (SX1122 路面溝)	4	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
	5	褐灰色 (10YR5/1)	シルト質粘土	堆山ブロックを含む。
	6	褐灰色 (10YR4/1)	粘土質シルト	堆山ブロックを含む。
	7	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	堆山ブロックを多く含む。
	8	灰黄褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	堆山ブロックを多く含む。
	9	褐灰色 (10YR5/1)	粘土質シルト	堆山ブロックをとても多く含む。

透視	層	土色	土質	備考
SB1133 SIEI	1	灰黄褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。堆山ブロック状に含む。
	2	にふい・褐粉色 (10YR7/2)	粘土質シルト	堆山ブロック状に少し含む。
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
SB1133 S2EI	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
	2	にふい・褐粉色 (10YR4/3)	粘土質シルト	炭化物を含む。堆山ブロック状に含む。
	3	にふい・褐粉色 (10YR7/2)	粘土質シルト	堆山ブロック状に少し含む。
SB1133 NIEI	1	にふい・褐粉色 (10YR5/3)	粘土質シルト	炭化物を含む。
	2	にふい・褐粉色 (10YR6/3)	粘土質シルト	炭化物を含む。堆山ブロックをまだらに含む。



透視	層	土色	土質	備考
SD1121	1	灰黄褐色 (10YR6/2)	粘土質シルト	炭化物・灰白色火山灰ブロックを含む。
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト質粘土	灰白色火山灰を含む。
	3	灰黄褐色 (10YR6/2)	粘土質シルト	灰白色火山灰を少し含む。



透視	層	土色	土質	備考
P504	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。堆山ブロックを含む。
SK1088	3	にふい・褐粉色 (10YR6/3)	シルト	堆山ブロックを多く含む。
	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
SX1123	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。

第 77 図 J-29 区 断面図

③溝跡

【SD1121 溝跡】(平面図: 第 75 図、断面図: 第 77 図、遺物: 第 78 図)

【位置】中央部

【重複関係】なし

【規模】北西—南東方向で 4.0m 検出した。上幅は 1.9 ~ 2.2m、下幅は 0.4m、深さは 0.66m である。

【断面形】逆台形である。

【堆積土】3 層に分かれ、2・3 層に灰白色火山灰粒を含む。いずれも自然堆積である。

【出土遺物】須恵器甕・蓋などが出土した。

④円形周溝跡

【SX1123 円形周溝跡】(平面図: 第 75 図、断面図: 第 77 図)

【位置】南部

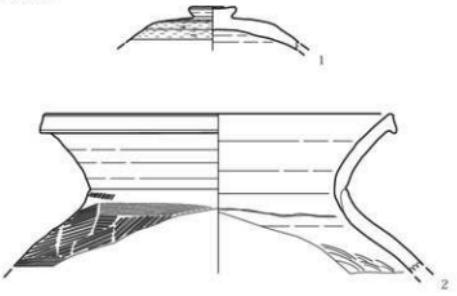
【重複】SK1088、P504 より古い。

【規模】溝で囲まれた内径は 2.2m で、隅丸方形状である。円形に巡る溝は上幅 0.48 ~ 0.58m、下幅 0.3 ~ 0.42m、深さ 0.12m である。

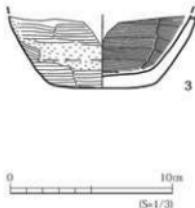
【堆積土】1 層で自然堆積である。

【出土遺物】出土しなかった。

SD1121



SK1091



No.	種別／器種	遺構／層	法面 (cm)			既存	調整・特徴	図版	登録
			口深	底深	高さ				
1	須恵器／道	SD1121／堆	—	—	—	(体～つまみ)2/3	外: ロクロナデ→回転ヘラクズリ 内: ロクロナデ つまみ: ロクロナデ 深 2.6cm 調光珠形つまみ	51-12	R1178
2	須恵器／甕	SD1121／堆	21.2	—	—	(口～胴上)1/4	外: ロクロナデ→平行タタキナデ 内: ロクロナデ→同心円当目直	50-8	R180
3	土師器／碗	SK1091／堆	—	6.4	—	(体～底)1/2	外: ヘラズリ→ヘラミガキ 内: ヘラナデ	51-5	R167

第 78 図 J-29 区 SD1121 溝跡、SK1091 土坑出土遺物

⑤河川跡

【SD1108 河川跡】(平面図: 第 74 図、断面図: 第 79 図、遺物: 第 79 図)

[位置] 中央部

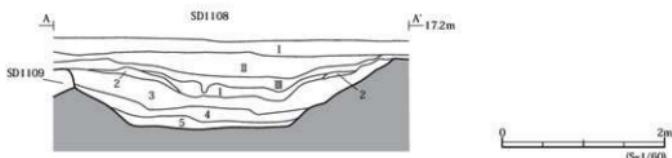
[重複関係] SD1109 より新しい。

[規模] 東西方向で 3.8m 検出した。上幅は 3.6 ~ 4.5m、下幅は 1.2 ~ 1.6m、深さは 0.7m である。

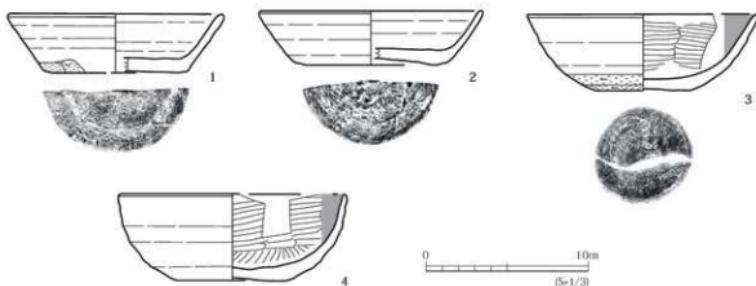
[断面形] 逆台形である。

[堆積土] 5 層に分かれ、1 ~ 3 層に灰白色火山灰ブロックを含む。いずれも自然堆積である。

[出土遺物] 須恵器壺、ロクロ土師器壺などが出土した。

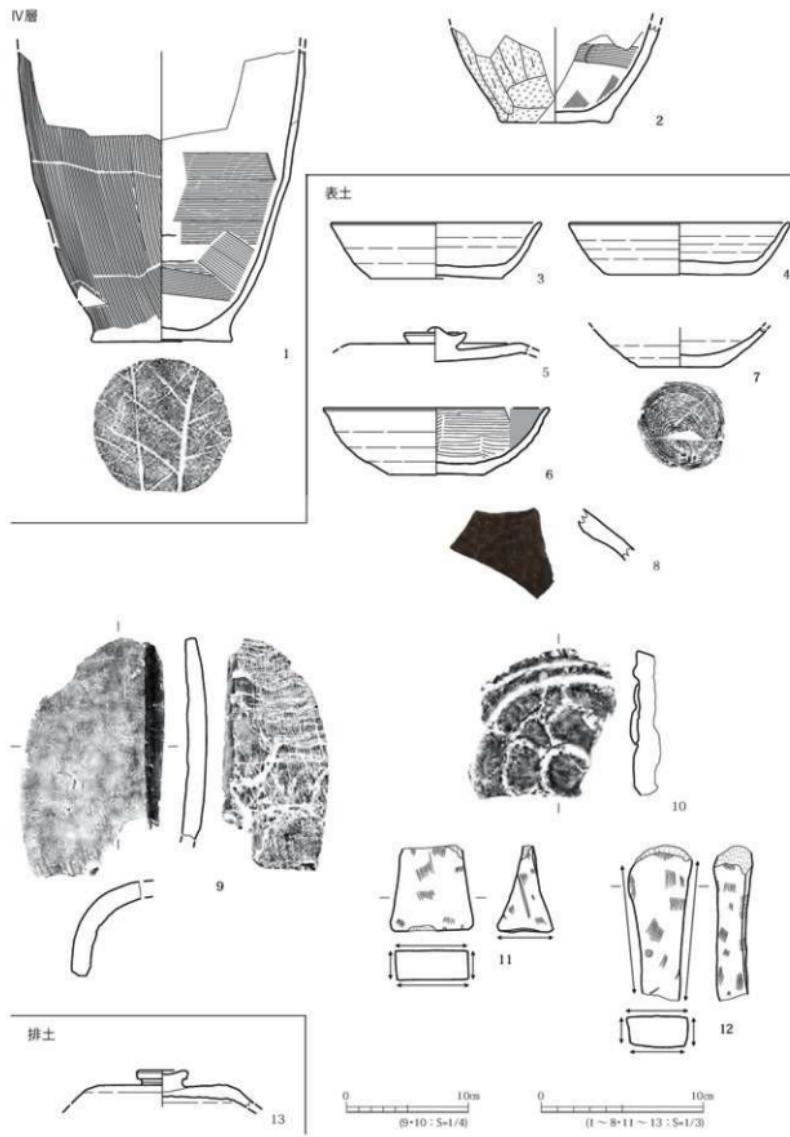


遺構	層	土色		土性	備考
		1	2		
SD1108	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	地山ブロック・灰白色火山灰を含む。	自然堆積土
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	砂質シルト	灰白色火山灰・炭化物を含む。	自然堆積土
	3	灰黄褐色 (10YR5/2)	砂質シルト	灰白色火山灰・炭化物を少し含む。	自然堆積土
	4	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト	炭化物を少し含む。	自然堆積土
	5	黄灰色 (2.5Y5/1)	砂	炭化物を少し含む。細砂と粗砂の互層。	自然堆積土



No.	種別/器種	遺構/層	遺量 (cm)			残存	調整・特徴	回版	暨譜
			口径	底径	器高				
1	須恵器／壺	SD1108・堆下	13.0	8.8	3.6	(口~底)1/2	外内: ロコナデ 底: 回転ヘラ切→手持ちヘラケズリ	51-1	R165
2	須恵器／壺	SD1108・堆下	13.5	8.2	3.3	(口~底)1/2	外内: ロコナデ 底: 回転ヘラケズリ	51-2	R166
3	ロクロ土師器／壺	SD1108・堆下	14.2	5.8	4.7	(口~体)1/3 (底)完形	外: ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内: ヘラミガキ→黑色處理	51-3	R161
4	ロクロ土師器／壺	SD1108・堆上	13.8	6.6	5.3	(口~体)1/4 (底)完形	外: ロクロナデ 内: ヘラミガキ→黑色處理 底: 回転系切	51-4	R160

第 79 図 J-29 区 SD1108 河川跡断面図・出土遺物



第80図 J-29区 その他出土遺物(1)

表土・道構確認調査



No.	種別/器種	道構/層	重量 (cm)			既存	調査・特徴	回収	登録
			口径	底径	高さ				
1	土師器／甕	IV層	—	8.4	—	(胴)1/3 (底)1/2	外：ハケメ 内：ヘラナデ 底：木葉瓶	50-9	R159
2	土師器／甕	IV層	—	6.5	—	(胴)1/4 (底)1/2	外：ヘラケズリ 内：ヘラナデ／ナデ	51-6	R163
3	須恵器／环	表土	12.7	8.1	3.4	(口)～(底)1/2	外内：ロクロナデ 底：回転ヘタ切	51-7	R172
4	須恵器／环	表土	13.4	8.6	3.2	(口)～(底)1/2	外内：ロクロナデ 底：回転ヘタ切	51-8	R173
5	須恵器／环	表土	—	—	—	(体)～(底)1/2	外：不明 自然釉付 瓦内：ロクロナデ 宝珠用つまみ	51-13	R169
6	ロクロ土師器／环	表土	13.8	5.8	4.1	(口)～(底)1/4 (底)2/3	外：ロクロナデ 内：ヘラミガキ→黒色処理 底：回転系切	51-9	R164
7	赤陶土器／环	表土	—	5.4	—	(体)～(底)1/2 (底)1/4	外内：ロクロナデ 底：回転系切	51-10	R170
8	灰陶陶器／壺	表土	—	—	—	破片	外内：ロクロナデ 破損部	51-11	R174
9	丸瓦	表土	—	—	—	破片	片面：布目ナデ 口面：ロクロナデナデ 端部：ヘラケズリ	51-16	R171
10	軒丸瓦	表土	—	—	—	破片	長さ：17.5cm 幅：9.4cm 厚さ：1.6cm	51-15	R179
11	石製品／砥石	表土	—	—	—	—	片面：5面 長さ：5.2cm 幅：5.0cm 厚さ：1.8cm 重さ：87.5g	51-19	R175
12	石製品／砥石	表土	—	—	—	—	片面：4面 長さ：9.5cm 幅：3.5cm 厚さ：1.4cm 重さ：111g	51-20	R176
13	須恵器／蓋	耕土	—	—	—	(体)～(底)1/2	外内：ロクロナデ つまみ：ロクロナデ 径：2.8cm 厚さ：0.5cm	51-14	R168
14	石器	表土	—	—	—	—	黒曜石 長さ：3.8cm 幅：2.3cm 厚さ：1.3cm 重さ：11.0g	51-18	R210
15	須恵器／环	J-12T	—	5.6	—	(体)～(底)1/2	外内：ロクロナデ 底：回転系切	51-19	
16	平瓦	J-12T	—	—	—	破片	片面：ヘラナデ 白面：平行ヘタキ 端部：ヘラケズリ 長さ：8.2cm 幅：5.5cm 厚さ：2.6cm	51-17	R196

第81図 J-29区 その他出土遺物(2)

(18) J-31～34区

各調査区の大部分がIII・IV層に覆われており、その下層から道路跡2条(SX200・1197)のほか溝跡などを検出した。J-34区はSX200南北道路跡とSX1197東西道路跡の交差点に位置しており、SX1197はここより東へ展開している。

[SX200南北道路跡] (平面図: 第83・84・85図、断面図: 第84・86図、写真図版: 20)

H-25区、J-3区(東側溝のみ)、I-16・18・19区で検出した道路跡であり、H・J・I区の未調査部分も含めた合計の長さは約310mであり、さらに南北に延びると考えられる。

[位置] J-31・33・34区

[重複] J-34区ではSD1187・1192より古い。

[変遷] 東西両側溝に掘り直しの痕跡は認められなかったことから、1期であると考えられる。ただし、他の調査区ではいずれも2期あることが確認されており、J-31・33・34区で検出した道路側溝は遺

存状況が悪いため、新旧いずれかの側溝底面付近のみが残存している可能性がある。

〔規模〕J-31 区から J-34 区までの未調査分も含めた長さは 43.6m、路幅は側溝心々で測ると 7.3～8.4m である。

〔方向〕東側溝で測ると北で 3～4° 東へ偏る。

〔路面〕構築時の基礎地業等の痕跡や路面舗装は認められない。

〔東側溝 SD1181〕J-31・33・34 区で検出した。未調査部分を含めた長さ 44.0m、上幅 0.9～1.5m、下幅 0.2～1.0m、深さ 0.2～0.4m である。断面形は皿形もしくは逆台形である。堆積土は 1 層で自然堆積である。

〔西側溝 SD1191〕J-33・34 区で検出した。未調査部分を含めた長さ 18.0m、上幅 0.8～1.1m、下幅 0.3～0.4m、深さ 0.3～0.4m である。断面形は皿形である。堆積土は 1～2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

〔出土遺物〕出土しなかった。

【SX1197 東西道路跡】(平面図：第 83・85 図、断面図：第 86 図、写真図版：20-2)

J-32・34 区で検出した道路跡で、北側溝が SX200 東側溝と L 字に屈曲して接続することから、両道路跡は同時期に機能したと考えられる。SX200 より西へは展開せず東へのみ延びると考えられるが、J-32 区から東へ約 50m に位置する J-29 区では道路側溝跡は確認できない。

〔位置〕J-32・34 区

〔重複〕SD1187・1192 より古い。

〔変遷〕南北両側溝に掘り直しの痕跡は認められなかったことから、1 時期であると考えられる。

〔規模〕未調査部分も含めた長さは 20.8m である。路幅は側溝心々で測ると 6.6m である。

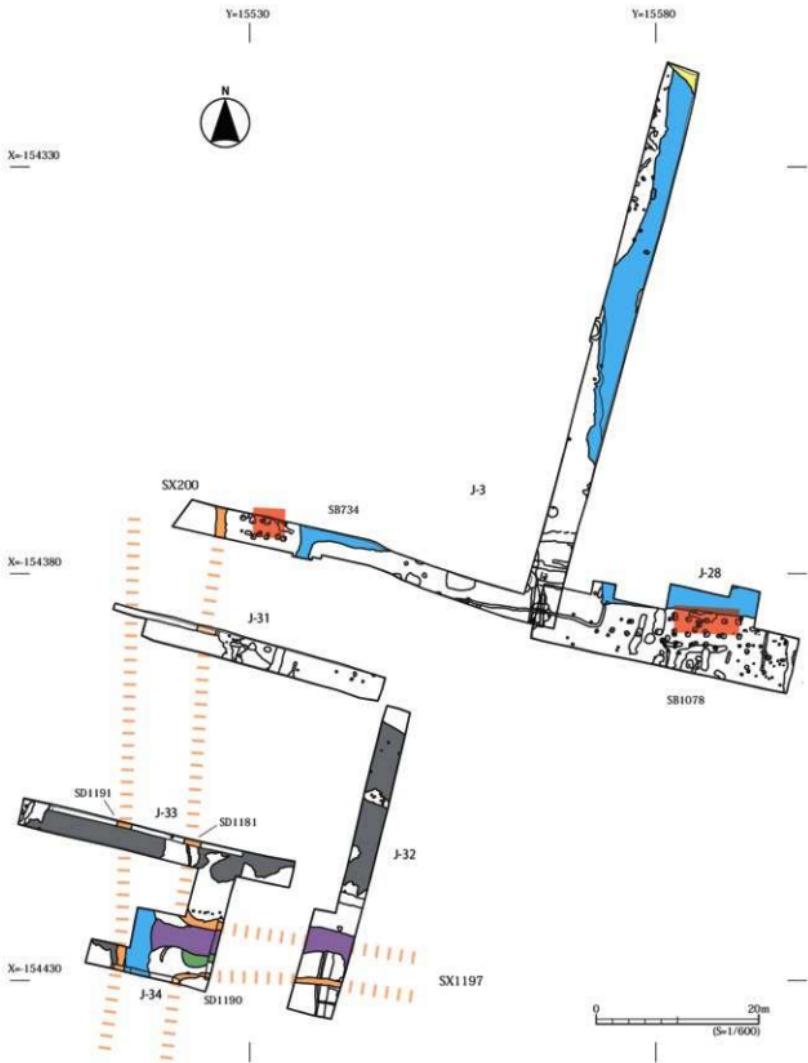
〔方向〕南側溝で測ると東で 5° 南へ偏る。

〔路面〕道路構築時の基礎地業等の痕跡や路面舗装は認められない。

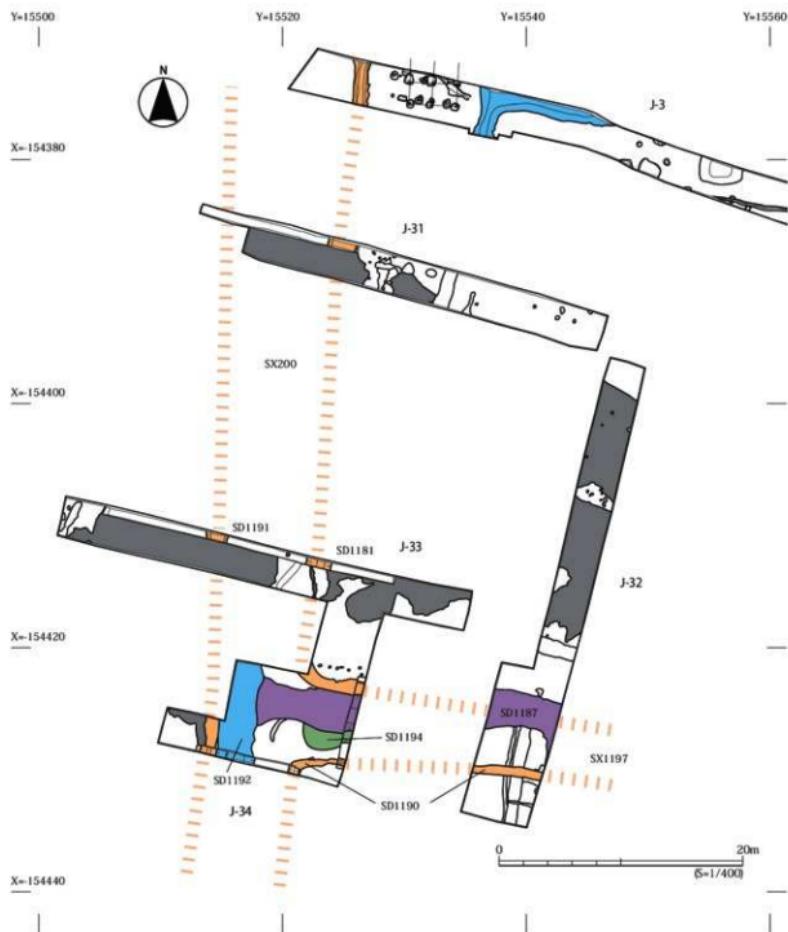
〔北側溝 SD1181〕J-34 区で検出した。検出長 4.7m、上幅 0.7～1.5m、下幅は 0.8m 前後、深さ 0.1m である。断面形は皿形である。堆積土は 1 層で自然堆積である。

〔南側溝 SD1190〕J-32・34 区で検出した。未調査部分を含めた長さ 20.0m、上幅 0.3～0.9m、下幅 0.2m、深さ 0.3～0.4m である。断面形は逆台形である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

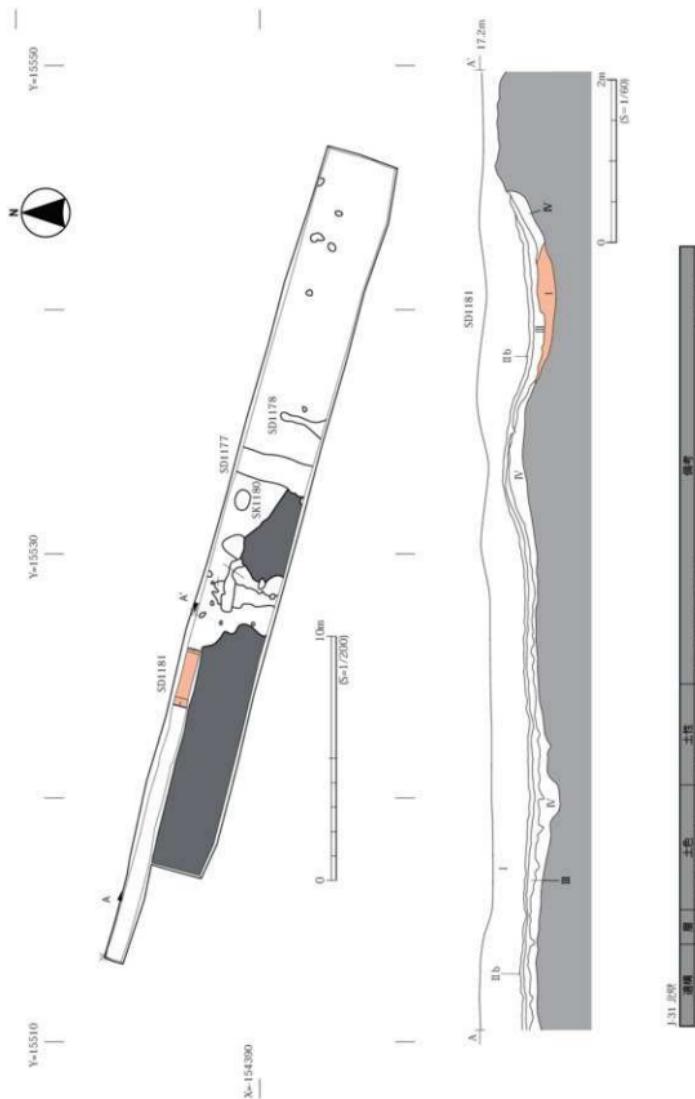
〔出土遺物〕出土しなかった。



第 82 図 J 区西端部の造構配置

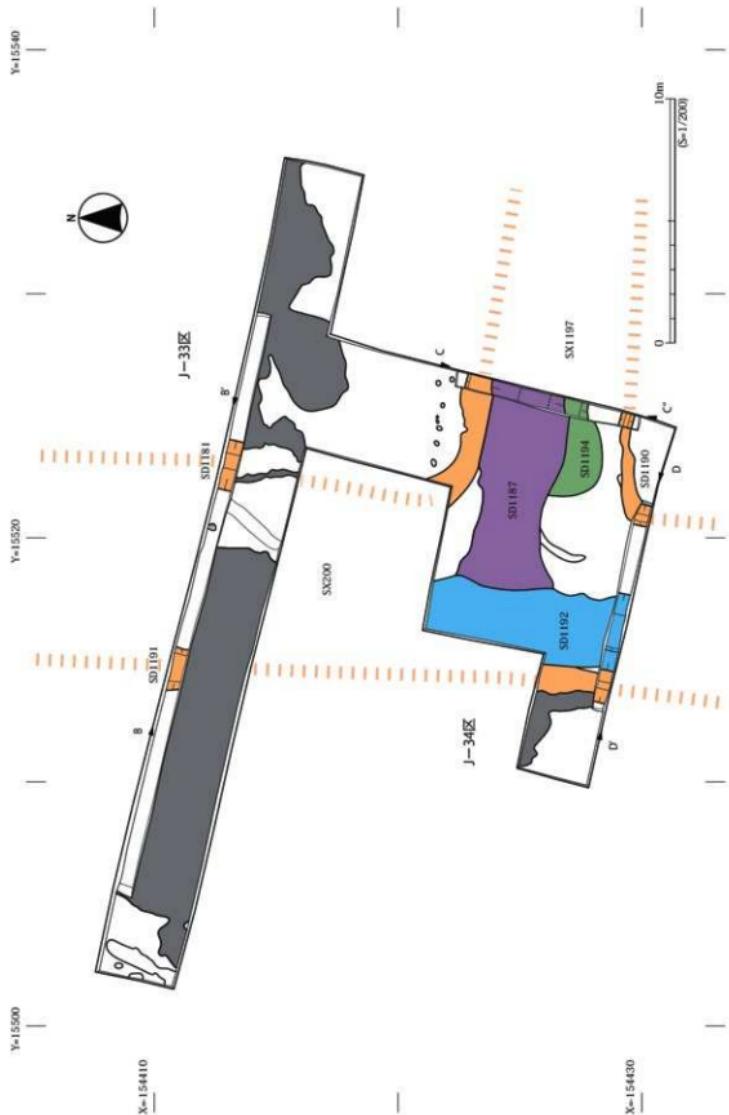


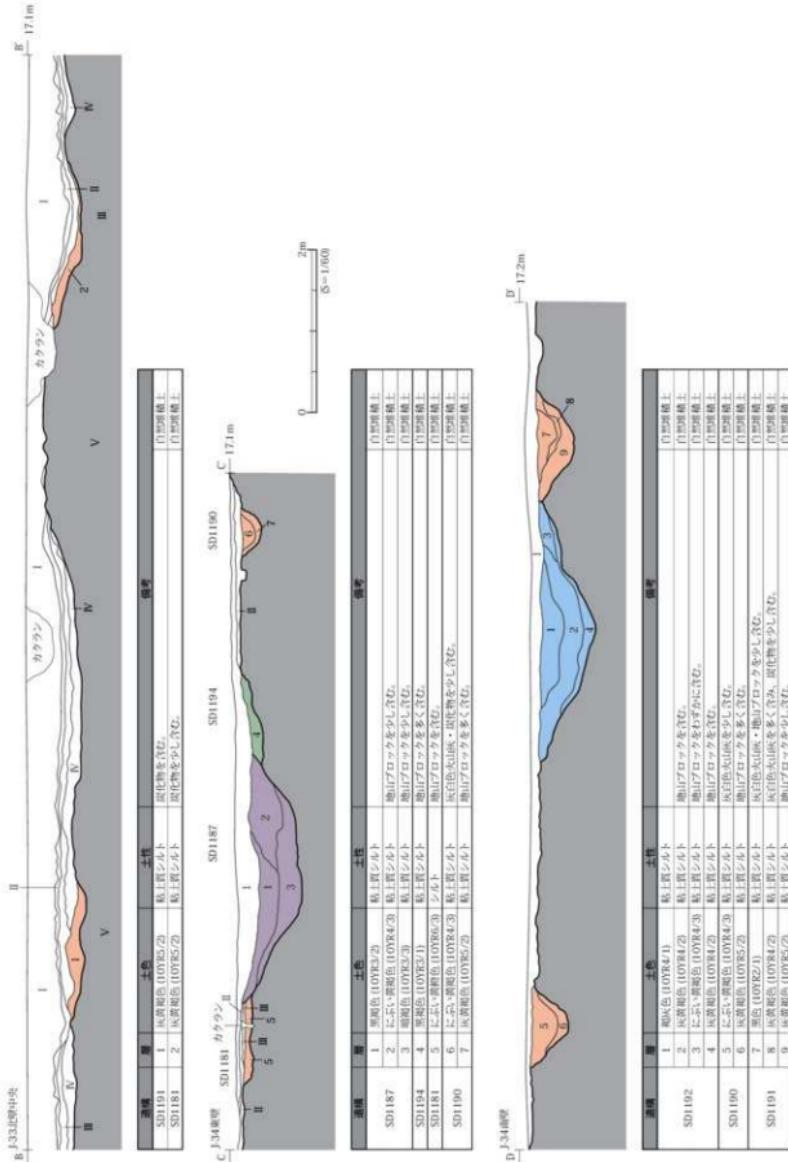
第83図 SX200南北道路跡・SX1197東西道路跡平面図



第 84 図 J-31 区 平面図・断面図

第85圖 J-33・34區 平面圖





第86図 J33・34区 道路跡断面図

J-31 区 IV層

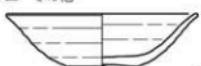


1



0 10cm
(S=1/3)

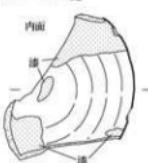
J-32 区 その他



2



3



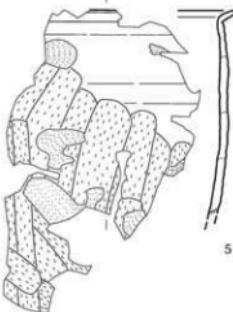
J-33 区 その他



4



J-34 区 IV層



5

No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm) 口径 底径 高さ	残存	調整・特徴	回版	登録
1	ロクロ土器器／环	IV層	14.0 6.2 4.3	(口～底)1/2 (底)完形	外：ロクロナデ 内：ヘラミガキ→黒色処理 内面に漆付着 体部外側に正位で墨書き「16」	52-1	R181
2	圆底器／环	表土	11.6 4.6 3.2	(口～底)1/4 (底)1/2	外内：ロクロナデ 底：回転系切 内面に漆付着	52-2	R182
3	赤燒土器／环	表土	(11.0) 4.4 (3.8)	(口～底)1/2 (底)完形	外内：ロクロナデ 底：回転系切	52-3	R183
4	ロクロ土器器／环	イカク	— 5.2 —	(底下)1/4 (底)完形	外：ロクロナデ 内：ヘラミガキ→黒色処理 底：回転系切	52-4	R184
5	ロクロ土器器／環	西層	— — —	(口～底上)1/8	外：ロクロナデ→下唇もへラケズリ 内：ロクロナデ	52-5	R185

第 87 図 J-31・32・33・34 区 出土遺物

第3表 J区道路跡属性表

区名	道構名	時期	側溝位置	側溝 道構名	方向	横出長 (m)	側溝々間 距離(m)	側溝規模(m)			断面形	堆積土	出土遺物	堆積物号		
								上幅	下幅	深さ				平面	断面	
J-3	SX200	古代	東側溝	SD701a	N-4°-E	3.5	—	0.63 ~ 1.21 ~ 1.51	0.2 ~ 0.74 ~ 0.77	0.24 ~ 0.30 ~ 0.77	逆行形	自然	須恵器、土師器	灰白色火山灰を含む	12	11
			東側溝	SD701b											12	11
J-29	SX1122	古代 以降	北側溝	SD1132	E-25°-N	9.2 9.4	6.9	1.6 1.5	0.4 0.3	0.8 0.6	逆行形	自然	須恵器、土師器 クロロ土師器	SD1129・ SN1157・1159・ 1160→SX1122・ →SD1167	75・76	77
			南側溝	SD1145											75・76	77
J-31	SX200	古代	東側溝	SD1181	N-4°-E	0.6	—	1.5	1	0.2	皿形	自然	灰白色下層	84	84	
			西側溝	SD1181	N-3°-E	0.6 0.6	8.4							—	—	
J-33	SX200	古代	東側溝	SD1181				1.3	0.5	0.3	皿形	自然	灰白色下層	83・85	86	
			西側溝	SD1191				0.8	0.3	0.3	逆行形	自然	灰白色下層	83・85	86	
J-34	古代	東側溝	SD1190	N-4°-E	0.8 2.8	7.3	0.9	0.2	0.3~ 0.4	逆行形	自然			83・85	86	
		西側溝	SD1191	N-4°-E			0.8~ 1.1	0.4	0.4	逆行形	自然		SD1191→ SD1192・1187	83・85	86	
J-32	SX1197	古代	北側溝	SD1190	E-6°-S	5.6	—						SX1197・ SD1187・1192	—	—	
			南側溝	SD1190	0.8							SX1197・ SD1187・1192	83	86		
J-34	古代	北側溝	SD1181	E-5°-S	3.8 3.8	6.6	0.7~ 1.5	0.1	皿形	自然			SX1197・ SD1187・1192	83・85	86	
		南側溝	SD1190	E-5°-S			0.3~ 0.9	0.2	0.3~ 0.4	逆行形	自然		SX1197→ SD1187・1192	83・85	86	

第4表 J区掘立柱建物跡属性表

区名	道構名	平面規模(m)				建物方向		柱穴掘削			柱跡(m)	新旧関係	堆積物号					
		柱行	柱間	埋立方向		柱行	柱間	角度	計測柱行	埋積(m)			平面形	平面				
				柱長	測定柱行	柱間寸法	柱長	測定柱行	柱間寸法	埋積	深さ							
J-3	SB734 (柱柱)	2	1+	東西?	3.9	南	1.9~2.0	1.8+	西	N-2°-E	西	0.5~ 0.8~ 0.4~	圓丸 方形	0.1~ 0.2~	12・14	14		
J-4	SB886	2+	1+	東西?	4.5	南	2.3~2.2	2.5+	東	W-12°-N	南	0.8~ 0.9~	—	圓丸 方形	0.2~ 0.3~	SD728・733 →SB886	25	—
J-4	SB987	1	1	東西?	2.2	北		2.0	西	N-8°-E	西	0.4~ 0.5~	—	不製な 圓丸方形	0.2	SN749→SB987	25	—
J-12	SB812	1+	1+	東西?	2.7+	北		1.4+	西	W-7°-N	北	0.3~ 0.5~	0.2	圓丸 方形	0.1~ 0.2~	SB816→SB812	34	34
J-12	SB816	1+	1+	1.6+	北		1.6+	西	W-8°-N	北	0.4~ 0.5~	0.2	圓丸 方形	0.1~ 0.2~	SB816→SB812	34	34	
J-16	SB863	2+	1+	南北?	3.8+	東	2.0~1.8	2.7+	北	N-3°-E	東	0.5~ 0.7~	0.3~ 0.4~	圓丸 方形	0.1~ 0.2~	SB863→SD847 →SD854	40・42	42
J-16	SB857	2+	1+	東西?	5.3+	南		2.5+	西	W-21°-N	南	0.5	0.3~ 0.4~	圓丸 方形	0.2	SX865→SB857 →SD855	41	—
J-19	SB878	1+	1+	2.0	南		1.7	西	W-5°-N	南	0.4~ 0.6~	0.2~ 0.4~	圓丸 方形	0.2		46	46	
J-26	SB1040	3+	1+	東西?	5.1	北	1.7~1.6~ 1.8	1.9+	西	W-17°-N	北	0.5~ 0.7~	0.2~ 0.3~	圓丸 方形	0.2	SD1039→SB1040	65・66	66
J-26	SB1045	1+	1	南北?	2.0+	北		1.3	西	W-13°-N	南	0.3~ 0.4~	0.2	橢円形 圓丸方形	0.1~ 0.2~		65・66	—
J-28	SB1072	2+	1	南北	3.6	西	1.3~2.3	2.4	南	N-3°-W	西	0.5~ 0.7~	0.2~ 0.3~	圓丸 方形	0.2	SB1078→SB1072	71・72	72
J-28	SB1078	4	1+	東西?	8.0	南	1.6~2.4~ 2.1~2.0	1.8+	東	N-10°-E	東	0.5~ 0.7~	0.2~ 0.4~	圓丸 方形	0.2~ 0.3~	SB1078→SB1072	71・72	72
J-28	SB1107	1+	1	南北	2.8+	西		1.9	南	N-5°-E	西	0.4~ 0.5~	0.12~ 0.3~	橢円形	0.12~ 0.18~	SD1173→SB1107	71・72	72
J-28	SB1169	1+	1	南北	2.4+	西		2.0	南	N-4°-W	西	0.4~ 0.7~	0.2~ 0.3~	圓丸 方形	0.1~ 0.2~	SD1173→SB1169	71・72	72
J-29	SB1133	2	1+	3.0	東	1.4~1.6	2.0+	南	N-15°-E	東	0.35~ 0.5~	0.1~ 0.2~	橢円形	0.1~ 0.2~		75・76	77	

第5表 J区柱列跡属性表

区名	遺構名	方向	縦長(m)	間数	柱間寸法(m)	柱穴掘方		柱直径(m)	備考	辨認番号	
						堆積(m)	平地形			平面圖	断面圖
J-25	SA1027	N-25°E	5.7	3	1.8+2.2+1.7	0.2~0.3	隅丸方・稍円	0.1	柱列跡	61	62

第6表 J区井戸跡属性表

区名	遺構名	構造	平面形	断面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	堆積土	出土遺物	備考	辨認番号	
											平面圖	断面圖
J-3	SE714	素掘り	円形	邊台形	1.3	1.0+	0.6~0.7	自然・人為	遺壙器、土師器		12	15
J-16	SB851	素掘り	円形	邊台形	2.3	2.1	0.8	自然(灰白 土合化)	遺壙器、土師器	SK862 → SE851	41	43

第7-1表 J区溝跡属性表

区名	遺構名	方向	縦出長(m)	断面形	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	堆積土	出土遺物	備考	辨認番号	
											平面圖	断面圖
J-1	SD769	南北	2.8		0.9			自然			9	-
J-1	SD770	南北	2.7		1.2			自然	遺壙器、土師器		9	-
J-1	SD772	東西	4.0		0.4			自然			9	-
J-1	SD776	北東-南東	7.5	邊台形	0.5~0.9	0.8~0.5	0.2~0.3	自然	遺壙器、土師器、陶器	SD780 → SD776 → SD775-777	9	-
J-1	SD777	北東-南西	8.8	菊形	0.6~0.8	0.4	0.2	自然	遺壙器、土師器	SD776 → SD777	9	-
J-1	SD778	北東-南西	3.5	祖形	0.6	0.4	0.2	自然			9	-
J-1	SD779	北東-南西	2.1	祖形	0.3	0.1	0.2	自然	遺壙器、土師器		9	-
J-1	SD781	北東-南西	2.2	祖形	0.3	0.2	0.1	自然			9	-
J-1	SD782	東西	0.7	祖形	0.3	0.1	0.1	自然			9	-
J-2	SD767	東西	2.9		0.7+			自然	土師器		9	-
J-3	SD701a	南北	3.5	邊台形	0.6~0.8	0.2~0.3	0.2~0.3	自然		SX200 南北道路東側溝	12	11
J-3	SD701b	南北	3.7	邊台形	1.2~1.5	0.7~0.8	0.3	自然(灰白 土合化)		SX200 南北道路東側溝	12	11
J-3	SD705	南北	6.7	祖形	1.5~2.1	1.4~2.1	0.6~0.8	自然	遺壙器、土師器	SD705 → SD706+707, SK760-761	12	-
J-3	SD706	東西	12.6	菊形	0.2~0.4	0.2	0.1	自然	遺壙器、土師器	SD705-708-1017, P352 → SD706	12+71	-
J-3	SD707	東西	3.0	祖形	0.8	0.4	0.1	自然		SD707 → SK761	12	-
J-3	SD708	南北	8.9	邊台形	1.0	0.1~0.4	0.1~0.2	自然	遺壙器、土師器	SK761+SD709 → SD708 → SD706+SK760-762	12	-
J-3	SD709	東西	4.2	祖形	0.4	0.1~0.3	0.1	自然	遺壙器、土師器	SD709 → SD708	12	-
J-3	SD710	東西	1.9	祖形	0.5	0.2	0.1	自然			12	-
J-3	SD713	東西	4.4	邊台形	0.9~1.3	0.3~0.5	0.4	自然	遺壙器、土師器		12	16
J-3	SD719	南北-北東	2.3	祖形	0.4	0.3	0.1	自然	遺壙器、土師器		13	-
J-4	SD723	北東-南東	4.9	邊台形	0.6~0.9	0.3~0.4	0.3	自然	遺壙器、土師器	SD972 → SD723 → SD971	25	25
J-4	SD729	東西	7.4		0.7			自然	遺壙器、土師器、 口々口土師器		25	-
J-4	SD742	南北	5.2		0.6~0.9			自然		SD742 → SK743	25	-
J-4	SD754	北東-南東	5.1		1.0			自然			25	-
J-4	SD971	北東-南東	3.0	邊台形	0.4~0.8	0.3~0.4	0.1	自然	遺壙器、土師器	SD723 → SD971	25	25
J-4	SD972	北東-南東	5.1	祖形	0.2~1.1	0.3~0.4	0.1	自然	遺壙器、土師器	SD728+729 → SD972 → SD723-SK725	25	25
J-5	SD787	南北-北東	0.8	祖形	0.5	0.2	0.1	自然			27	-
J-5	SD788	東西	3.1	邊台形	1.0~1.3	0.1~0.2	0.3	自然	遺壙器		27	-
J-5	SD789	東西	2.8	邊台形	0.5~0.8	0.2~0.3	0.3	自然	遺壙器		27	-
J-5	SD791	東西	2.6	祖形	0.5~0.9	0.3~0.6	0.1	自然	遺壙器、土師器	SD791 → SD792	27	-
J-5	SD792	南北-南西	4.5	邊台形	1.0~1.3	0.5~0.8	0.4	自然	遺壙器、土師器	SD791 → SD792	27	28
J-5	SD793	東西	2.6	邊台形	0.4~0.7	0.2~0.3	0.3	自然			27	-
J-6	SD799	南北-東西	3.0	邊台形	2.6+	1.7+	0.4	自然	遺壙器、土師器	SK1013 → SD799	27	28
J-9	SD801	北東-南東	9.6	邊台形	0.5~1.2	0.3~0.4	0.4	自然	遺壙器、土師器	SD800 → SD801	30	31
J-9	SD802	東西	2.2		0.4			自然?			30	-
J-9	SD803	東西	4.8		0.5			自然?			30	-
J-9	SD804	南北	2.7	邊台形	1.6~2.2	0.6~0.7	0.4	自然	遺壙器、土師器、磁器		30	-

第7-2表 J区溝跡属性表

区名	遺構名	方向	標出高 (m)	断面形	上幅		堆積土	出土遺物	備考	揮因番号		
					(m)	(m)				平面	断面	
J-10	SD811	東西	2.7	逆台形	1.2～1.3	0.4～0.5	0.2～0.3	自然	SD811→SD808	30	—	
J-12	SD813	東西	5.0	不整形	2.2	1.5	0.2～0.4	自然		33	—	
J-12	SD814	東西	2.0	圓形	0.7	0.5	0.15	自然	土師器	33	—	
J-12	SD817	東西	3.7	圓形	0.4	0.1～0.3	0.2	自然	須恵器、土師器	SD818→SD817	33	—
J-12	SD818	北西～東	2.6	圓形	0.2～0.3	0.1～0.2	0.1	自然	SD818→SD817	33	—	
J-12	SD821	南北	2.3	圓形	0.6	0.3	0.1	自然	須恵器、土師器	SD821→SX820	33	—
J-12	SD823	北西～南東	1.6	圓形	0.2～0.5	0.1～0.2	0.2	自然	土師器	SD824→SD823→SX813	33	—
J-12	SD824	南北	1.8	圓形	0.5	0.4	0.1	自然	土師器	SD824→SD823→SX813	33	—
J-13	SD828	東西	5.4	逆台形	0.8	0.5～0.6	0.2	自然	土師器	SD828→SX826	33	—
J-13	SD874	東西	4.0	圓形	0.7	0.5	0.2	自然		SD874→SK873	33	—
J-14	SD829	南北	3.9	圓形	0.6～0.9	0.2～0.6	0.1	自然		SD829→SX826	33	—
J-14	SD830	南北	3.7	逆台形	0.4～0.6	0.2～0.5	0.1	自然	須恵器、土師器	SD830→SX826	33	—
J-14	SD831	南北	1.7		0.5	0.2		自然	土師器		33	—
J-14	SD832	北西～南東～南	5.3		0.3～0.5	0.1～0.2		自然	土師器	ゆるく弧を描く	33	—
J-14	SD833	南北	2.9	逆台形	0.7+	0.6+	0.5	自然	SD833→SX826	33	—	
J-14	SD881	東西	6.2		0.2～0.8	0.2～0.4		自然	須恵器、土師器		33	—
J-14	SD887	東西	1.8		0.2～0.4	0.2		自然			33	—
J-14	SD891	南北	2.2		0.2～0.3	0.2		自然?			33	—
J-14	SD892	南北	1.3		0.6	0.4		自然?			33	—
J-14	SD893	南北	1.9		0.2～0.3	0.2		自然			33	—
J-14	SD896	南北	2.5		0.6	0.2		自然			33	—
J-14	SD897	南北	2.7		0.8～1.0	0.1～0.6		自然			33	—
J-14	SD902	東西	1.6		0.4	0.3		自然?			33	—
J-14	SD903	東西	0.6		0.3～0.8+	0.2～0.4		自然?			33	—
J-14	SD906	東西	1.5		0.4			自然?			33	—
J-15	SD834	北西～南	3.9	逆台形	0.4～1.1	0.2～0.5	0.2	自然	土師器	SD835→SD834	33	—
J-15	SD835	北西～東	1.7	逆台形	0.3～0.5	0.1～0.2	0.2	自然	須恵器、土師器	SD835→SD834	33	—
J-15	SD905	東西	1.4	圓形	0.4	0.2	0.1	自然			33	—
J-16	SD845	北東～南西	2.9	圓形	0.7	0.3	0.1	自然			40	—
J-16	SD846	北東～南西	4.0	逆台形	0.3～0.5	0.2	0.1	自然		SB863→SD846→SD854	40	—
J-16	SD850	南北	7.5	圓形	0.6～1.0	0.2～0.6	0.2	自然	須恵器、土師器	SD850→SD853	41	—
J-16	SD853	東西	2.4	圓形	0.5	0.2	0.1	自然			40・41	—
J-16	SD855	北東～南東	4.9	圓形	0.5	0.3	0.2	自然		SB857→SD855	41	—
J-16	SD859	北東～南西	3.4	圓形	0.6	0.2	0.1	自然	須恵器、土師器	SX865→SD859	41	—
J-16	SD860	北東～南西	3.1	圓形	0.5	0.2	0.1	自然	土師器	SD854・SK861→SD860	41	—
J-18	SD868	北西～南東	3.7	逆台形	1.2+	0.7+	0.6	自然	須恵器、土師器	SD870→SD868	44	—
J-18	SD870	東西	2.4	圓形	0.3～0.8	0.2～0.5	0.2	自然		SD868・869→SD870	44	—
J-18	SD871	東西	9.8	圓形	0.4～0.8	0.3～0.7	0.1	自然		SD871→SD869	44	—
J-19	SD877	南北	0.8	逆台形	0.2～0.4	0.2～0.3	0.1	自然		SD877→SD875	46	—
J-21	SD910	北東～西	1.1	圓形	0.9～1.2	0.5～0.7	0.2	自然	土師器	SD910→SD909	51	—
J-21	SD911	北東～南	2.4	圓形	0.3～1.0	0.1～0.4	0.1	自然	須恵器、土師器	SD911→SD909	51	—
J-21	SD913	東西	7.7	逆台形	2.4	0.1～0.7	0.3	自然	須恵器、土師器	SD913→SX912	51	51
J-21	SD919	北東～南	0.8	圓形	0.8	0.5	0.1	自然	土師器	SD919→SD909	51	—
J-21	SD920	北東～南西	0.6	圓形	0.8	0.6	0.1	自然	土師器	SD920→SD909	51	—
J-21	SD921	北東～南西	0.4	圓形	0.3	0.2	0.1	自然	土師器	SD921→SD909	51	—
J-22	SD956	東西～南	3.9	逆台形	0.2～0.5	0.1～0.2	0.2	自然	須恵器、土師器	SD956→SD957	53	—
J-22	SD957	東西	4.6	逆台形	0.8～1.0	0.5～0.7	0.4	自然	須恵器、土師器	SD956→SD957	53	53
J-22	SD962	北西～南東	1.8	圓形	0.5	0.2	0.15	自然		SX955→SD962→SD961	54	—
J-22	SD965a	東西	3.3	圓形	0.1～0.8	0.2～0.3	0.2	自然	須恵器、土師器	SD965a→SD965b→SX955	54	—
J-22	SD965b	東西	2.9	逆台形	0.3～0.6	0.1～0.3	0.2	自然	須恵器、土師器	SD965a→SD965b→SX955	54	—
J-22	SD967	東西	1.0	圓形	0.8	0.4	0.1	自然		SD967→SX955	54	—
J-22	SD968	東西	0.8	圓形	0.5	0.3	0.1	自然			54	—
J-22	SD1011	北東～南西	6.1	圓形	1.0～1.5	0.5	0.2	自然		SD1011→SX955+SD961	54	55
J-22	SD1012	北東～南西	2.9	逆台形	0.7～0.8	0.2～0.3	0.2	自然		SD1012→SX955+SD961	54	55

第7-3表 J区溝跡属性表

区名	遺構名	方向	機出長 (m)	断面形	上幅 (m)		下幅 (m)	深さ (m)	堆積土	出土遺物	堆積層号	
					平面	断面					平面	断面
J-23	SD926	東西	2.3	逆台形	2.8	1.04	1.0	自然	陶器、土師器	SX923→SD926	58	59
J-23	SD928	東西	2.3	組形	3.3	2.5~2.7	0.3~0.4	人为	陶器、土師器	SX923→SD928 →SD922+5925	58	59
J-23	SD929	東西	2.4	浅い組形	0.6~0.9	0.4~0.5	0.1	自然	陶器、土師器	SD929→SX923	58	59
J-23	SD930	東西	2.4	組形	0.8~10.1	0.6~0.7	0.1	自然	陶器、土師器	SD930→SX923	58	59
J-23	SD931	東西	2.4	逆台形	0.6~1.3	0.1~0.8	0.3	自然		SX931→SX923+SD928	58	59
J-23	SD934	東西~南北	1.6	組形	0.4~0.5	0.1~0.2	0.1	自然		SD996→SD934	58	—
J-23	SD935	東西	1.2		0.2~0.4			自然?			58	—
J-23	SD936	東西	1.0	組形	0.4	0.2	0.1	自然		SX937→SD936	58	—
J-23	SD941	東北~西	3.3	組形	0.4~0.7	0.3	0.1	自然	陶器、土師器	SP939→SD941	58	—
J-23	SD942	東西	1.5		0.3			自然?		SD945→SD942	58	—
J-23	SD945	南北	1.2		0.6			自然?		SD945→SD942	58	—
J-23	SD997	東西	0.7	組形	0.2~0.6	0.1~0.3	0.1	自然	陶器、土師器		58	—
J-24	SD948	東西	2.3	組形	0.8~1.3	0.6~0.7	0.1	自然	陶器、土師器		58	59
J-24	SD950	南北	3.9	組形	0.5	0.4	0.15	自然		SD950→SN951	58	—
J-24	SD953	東西	2.2	逆台形	0.3~0.7	0.1~0.4	0.2	自然			58	59
J-24	SD954	東西	2.4	逆台形	0.3~0.9	0.2~0.5	0.3	自然			58	59
J-24	SD999	東西	1.6		0.4~0.5			自然?			58	—
J-25	SD1030	北西~南東	2.4	組形	0.8~1.0	0.5	0.2	自然			61	—
J-25	SD1032	東北~南北	3.2	逆台形	0.3~0.4	0.1~0.2	0.3	自然	土師器		61	—
J-25	SD1033	東西	1.6	U字形	0.4~0.5	0.2~0.3		自然	陶器、土師器		61	62
J-26	SD1039	西北~南東	2.2		0.8			自然?		SD1039→SB1040	65	—
J-26	SD1041	南北	3.0	組形	1.2~1.9	0.5~1.2	0.3	自然	土師器	SX1038→SD1041	65	65
J-26	SD1043	南北	1.0	組形	1.2	0.9	0.1	自然		SD1043→SD1036	65	—
J-26	SD1044	南北	2.2	組形	0.3~0.5	0.2	0.1	自然		SD1044→SD1036	65	—
J-27	SD1047	南北	3.2	組形	0.2~0.7	0.1~0.3	0.2	自然			68	—
J-27	SD1048	南北	3.3	逆台形	0.6~0.8	0.4~0.6	0.4	自然	陶器		68	—
J-27	SD1049	南北	3.4	逆台形	1.1~1.3	0.8~0.9	0.3	自然		SD1063→SD1049	68	—
J-27	SD1063	北西~南東	4.6	組形	0.2~0.4	0.2	0.1	自然		SD1063→SD1049	68	—
J-27	SD1064	南北	3.4	逆台形	0.3~0.5	0.1~0.3	0.1	自然		SD1067→SD1064	68	—
J-27	SD1065	東西~南北	2.9	組形	1.0	0.6	0.2	自然	土師器	SD1065→SD1067	68	—
J-27	SD1066a	南北	3.1	組形?	1.6~1.8	0.8~1.0	0.3	自然			68	68
J-27	SD1066b	南北	3.1	逆台形	0.6~1.0	0.2~0.4	0.3	自然			68	68
J-27	SD1067	東西~南北	3.4	逆台形	0.4~0.7	0.2~0.4	0.2	自然		SD1065→SD1067 →SD1064	68	—
J-28	SD1069	東西~南北	4.7	組形	0.5~1.3	0.8~0.9	0.1	自然	陶器、土師器、 ロクロ土師器、瓦	SD1069→SD1118	71	—
J-28	SD1073	南北	5.2	組形	0.6~1.1	0.3~0.5	0.1	自然			71	—
J-28	SD1074	南北	3.2	組形	1.4	1.0	0.1	自然	陶器、土師器、 ロクロ土師器		71	—
J-28	SD1118	南北	2.8	組形	0.8	0.6	0.2	自然	陶器、土師器、石器	SD1069→SD1118	71	—
J-28	SD1171	東西	3.5		0.4~1.1			自然?		SD1171→SB1078	71	—
J-28	SD1172	東西	19.2		3.8			自然		SB1078→SD1172 J3区SD116と同一方	71+72	—
J-28	SD1173	南北	3.8	逆台形	2.4	1.2	0.2	自然		SD1173→SB1107	71	—
J-29	SD1109	東西	4.2		1.2+			自然		SD1109→SD1108	74	—
J-29	SD1121	北西~南東	4.0	逆台形	1.9~2.2	0.4	0.66	自然(灰白 を含む)	陶器		75	77
J-29	SD1125	東西	3.5	箱形	12.5	0.2	0.2	自然			75	—
J-29	SD1129	南北	11.6		0.8			自然		SD1129→SX1122	75	—
J-29	SD1132	北西~南東	9.2	逆台形	1.6	0.4	0.8	自然	陶器、土師器	SX1122 東西道路跡止削溝	76	77
J-29	SD1145	北西~南東	9.4	逆台形	1.6	0.3	0.6	自然	陶器、土師器	SX1122 東西道路跡南削溝	76	77
J-29	SD1167	南北	1.5		0.4+			自然?		SD1132→SD1167	76	—
J-31	SD1177	南北	3.0		1.3			自然?			84	—
J-31	SD1178	南北	1.9		0.2~0.8			自然?			84	—

第7-4表 J区溝跡属性表

区名	遺構名	方向	標出長 (m)	断面形	上幅		下幅 (m)	深さ (m)	堆積土	出土遺物	備考	辨認番号	
					(m)	(m)						平面	断面
J-31	SD1181	南北	0.6	直形	2.4	1.9	0.24	自然		SX200 南北道路跡東側溝	84	84	
J-32	SD1187	東西	5.6		2.4				自然		83	—	
J-33	SD1190	東西	5.6		0.8				自然	SX1197 東西道路跡南側溝	83	—	
J-33	SD1181	南北	0.6	直形	2.1	0.6	0.18	自然		SX200 南北道路跡東側溝	83・85	86	
J-33	SD1191	南北	0.6	直形	1.8	1.2	0.18	自然		SX200 南北道路跡西側溝	83・85	86	
J-34	SD1181	東西	4.6	直形	1.0～1.2	0.4+	0.12	自然		SX1197 東西道路跡北側溝	83・85	86	
J-34	SD1187	東西～南北	8.2	逆台形	2.4～3.2	1.0	0.6	自然		SD1181・SD1193・SD1194→SD1187→SD1192	83・85	86	
J-34	SD1190	東西	4.4	逆台形	0.6～0.9	0.2～0.4	0.24～0.48	自然		SX1197 東西道路跡南側溝	83・85	86	
J-34	SD1191	南北	3.0	逆台形	0.8～1.4	0.3	0.42	自然		SX200 南北道路跡西側溝	83・85	86	
J-34	SD1194	東西	3.3	直形	1.6+	0.7+	0.2	自然		SD1194→SD1187	83・85	86	
J-36	SD1301	東西	0.6		0.3			自然?			46	—	
J-36	SD1302	東西	1.1		0.3～0.7			自然?		SD1302→SD1303	46	—	
J-36	SD1303	北西～南東	2.1		0.2～0.4			自然?		SD1302→SD1303	46	—	
J-36	SD1304	東西	1.6	直形	0.6～1.8	1.0～1.4	0.2	自然	土師器		46	—	
J-36	SD1307	東西	1.6	直形	1.1	0.8	0.2	自然	須恵器、土師器		46	—	

第8表 J区土坑属性表

区名	遺構名	平造形	断面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	堆積土	出土遺物	備考	辨認番号	
										平面	断面
J-3	SK704	楕丸方形	直形	3.6	2.3+	0.3～0.4	自然	須恵器、土師器		12	18
J-3	SK711	楕円形	逆台形	2.4	1.1	0.5	自然(灰白 セメント化)	須恵器、土師器		13	18
J-3	SK722	楕丸長方形	直形	1.9	1.0	0.2	自然	須恵器、土師器		12	—
J-3	SK758	楕円形	逆台形	0.6	0.4	0.2	自然		SK758→SD716	13	—
J-3	SK759	長楕円形	直形	1.4	0.6	0.2	自然	須恵器、土師器		SK759→SD716	13・18
J-3	SK760	舌状	逆台形	2.2	0.6～0.8	0.2	自然	須恵器	SD705・708→SK760	12	—
J-3	SK761	楕円形	直形	2.0	1.2	0.2	自然		SD705・707→SK761 →SK762, SD708	12	—
J-3	SK762	円形	逆台形	0.9	0.5	0.3	自然	ロクロ土師器	SK761・SD708→SK762	12	—
J-4	SK743	楕円形		1.9	1.1		自然?		SD742→SK743	25	—
J-5	SK786	楕丸方形		0.8+	0.6		自然?			27	—
J-5	SK790	楕円形		1.3+	0.8+		自然?			27	—
J-6	SK1013	楕円形	逆台形	2.1	0.9	0.6	自然		SK1013→SD799	27	28
J-10	SK810	真方形	逆台形	2.5+	1.5	0.3～0.4	自然		SD808→SK810	30	—
J-13	SK873	楕円形		1.0	0.8		自然?		SD874→SK873	33	—
J-16	SK849	楕丸方形	直形	1.0	0.8	0.2	自然	土師器		40	—
J-16	SK861	楕円形	逆台形	1.0	0.8	0.2	自然		SE851, SK861→SK862	41	—
J-16	SK862	楕丸方形?	直形	1.1	0.5+	0.2	自然	土師器	SE851, SK861→SK862	41	—
J-19	SK876	楕円形	直形	0.9	0.3	0.1	自然			46	—
J-20	SK908	楕円形	直形	5.0	1.4	0.8～1.0	自然	須恵器、土師器		48	49
J-21	SK994	楕円形	直形	1.0	0.7	0.2	自然	土師器	SK994→SD909	51	—
J-22	SK964	楕円形?	直形	3.6	1.1+	0.15	自然		SD965→SK964	54	—
J-23	SK937	楕円形	逆台形	1.7	0.9	0.2	自然	土師器	SK937→SD936	58	—
J-25	SK1031	円形	直形	0.7	0.6	0.2	自然			61	—
J-26	SK1038	円形	直形	0.6	0.5	0.2	自然			65	—
J-29	SK1070	楕円形	直形	1.3	1.1	0.3	自然			71	—
J-28	SK1115	不整形	直形	1.2	0.8	0.1	自然			71	—
J-28	SK1170	楕丸長方形	直形	1.4	0.6	0.2	自然			71	—
J-29	SK1083	方形		0.6	0.5		自然?			75	—
J-29	SK1088	円形	直形	0.7	0.6	0.1	自然		SX1123→SK1088	75	77
J-29	SK1091	不整形	直形	0.8	0.6	0.2	自然	土師器		75	—
J-31	SK1180	楕円形		0.8	0.6		自然?			84	—
J-35	SK1198	楕円形		0.6	0.3		自然?			48	—
J-36	SK1199	楕円形		0.5	0.3		自然?			46	—

第9表 J区小溝状遺構属性表

区名	遺構名	方向	範囲(m)		断面形	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	堆積土	出土遺物	探査番号		
			東西	南北							平面図	断面図	
J-4	SN748	北東-南西	5.0	4.8	0.5 ~ 1.2	1.8 ~ 5.0	0.2 ~ 0.5		自然か	4条、小溝状遺構群	25	-	
J-4	SN749	北西-南東	3.8	2.0	1.4	0.7 ~ 3.6	0.2		自然か	2条、小溝状遺構群	25	-	
J-4	SN750	南北	1.8	1.9	0.7	1.8	0.4		自然か	2条、小溝状遺構群	25	-	
J-4	SN755	北東-南西	5.6	1.0	0.8 ~ 2.0	1.0	0.2 ~ 0.4		自然か	4条、小溝状遺構群	25	-	
J-23	SN939	南北	1.2	7.8	0.6	2.7 ~ 6.9	0.45	0.2 ~ 0.3	0.15	自然か	2条、小溝状遺構群	58	-
J-24	SN951	東西	2.2	1.9	1.3	1.6 ~ 2.2	0.2 ~ 0.4	0.1 ~ 0.3	0.1	自然	2条、小溝状遺構群	58	59
J-29	SN1157	南北	1.1	1.4	0.3	0.8 ~ 1.4	0.3 ~ 0.4		自然か	2条、SN1157 → SX1122	76	-	
J-29	SN1159	南北	2.1	5.2	1.0	1.5 ~ 5.2	0.5 ~ 1.0		自然か	2条、SN1159 → SX1122	76	-	
J-29	SN1160	南北	1.4	2.2	0.5	2.2	0.45		自然か	2条、SN1160 → SX1122	76	-	

第10表 J区河川跡・自然流路跡属性表

区名	遺構名	方向	標出長(m)	断面形	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	堆積土	出土遺物	備考	探査番号	
											平面図	断面図
J-1	SD774	北東-南西	7.2	顕形	18.0 ~ 19.1		0.3+	自然(灰白を含む)	遺物群、土師器	SD783 → SD774 → SD775	9	9
J-1	SD775	南北	8.7	逆台形	3.6 ~ 4.4	2.0 ~ 2.6	0.6	自然	遺物群、土師器、中世陶器	SD774+776+SX780 → SD775	9	9
J-3	SD702	南北-東西	11.5	逆台形	1.4 ~ 2.0	0.4 ~ 0.6+	0.6 ~ 0.8	自然	遺物群、土師器		12	19
J-3	SD716	南北	46.3+	逆台形	4.1+	1.3 ~ 3.15	0.4 ~ 0.5	自然	遺物群、土師器、クロコ土師器、赤燒土、陶器、土製品、瓦	SK758+759+970 → SD716 → SD721	13	19
J-3	SD721	西北-南東	4.1	逆台形	1.4	1.3	0.4	自然(灰白を含む)	遺物群、土師器、クロコ土師器	SD716 → SD721	13	19
J-4	SD728	南北-南北	8.9		0.7			自然			25	-
J-5	SD785	北東-南北	4.8	逆台形	2.1 ~ 2.3	0.7 ~ 0.9	0.5	自然	遺物群、土師器		27	-
J-6	SD794	北東-東	3.6	逆台形	4.3 ~ 4.6	1.8 ~ 1.9	1.1	自然	遺物群、土師器		27	28
J-9	SD800	西北-南東	30.3	逆台形	5.6+	4.8	1.0	自然	遺物群、土師器、石製品	SX1018 → SD800 → SD801+807	30	31
J-9	SD807	西北-南東	3.8	逆台形	2.1 ~ 2.4	1.5	0.6	自然	遺物群、土師器、陶器、土製品	SX800+SX1018 → SD807	30	31
J-10	SD808	東西	2.5	顕形	7.1 ~ 9.0	7.0 ~ 8.4	0.2	自然	遺物群、土師器	SD811 → SD808 → SD809+SK810	30	-
J-10	SD809	東西	4.7	逆台形	2.9 ~ 3.0	1.8	0.15	自然	遺物群、土師器、磁器	SD808 → SD809	30	-
J-16	SD837	東西	3.0	逆台形	9.8+	6.8+	0.9	自然	遺物群、土師器、瓦		41	43
J-16	SD847	北東-南北	3.9	逆台形	2.5 ~ 6.9	1.5 ~ 1.9	0.3	自然	遺物群、土師器	SB863 → SD847 → SD854	40	-
J-16	SD854	西北-南東	41.0	逆台形	2.6 ~ 3.7	1.7 ~ 2.2	0.6	自然	遺物群、土師器、瓦	SB863 → SD847 → SD854 → SD860	41	43
J-17	SD866	西北-南東	10.5		23.4+		0.3 ~ 0.7	自然(灰白を含む)	遺物群、土師器	SD867 → SD866	44	44
J-17	SD867	西北-南東	11.2		1.6+		0.4	自然	遺物群、土師器、瓦	SD867 → SD866	44	44
J-18	SD869	南北	6.7	顕形	6.7	6.0	0.3	自然	遺物群、土師器	SD870 + 871 → SD869	44	-
J-19	SD875	南北	1.9	逆台形	3.2 ~ 3.9	0.5 ~ 0.6	0.8	自然	遺物群、土師器	SD877 → SD875	46	-
J-21	SD909	西北-南東	11.1	顕形	1.4 ~ 2.0	0.1 ~ 1.1	0.2	自然	遺物群、土師器	SD910+911+919+920+921, SK994 → SD909	51	51
J-22	SD960	西北-南東	4.8	顕形	3.6	0.9	0.8	自然	遺物群、土師器	SD960 → SK955	54	55
J-22	SD961	東西	4.2	逆台形	4.8 ~ 5.4	3.8 ~ 4.0	0.8	自然	遺物群、土師器	SX955+SD1011+1012 → SD961	54	55
J-25	SD1026	西北-南北	2.5	顕形	1.1 ~ 1.8	0.9 ~ 1.2	0.3 ~ 0.4	自然	遺物群		61	62
J-25	SD1028	西北-南北	2.5	顕形	2.9	1.3	0.6	自然	遺物群、土師器、瓦	SD1028 → SD1035	61	62
J-25	SD1034	東西	2.5	逆台形?	1.8 ~ 2.2	0.6 ~ 1.0	1.0	自然	遺物群、土師器		61	62
J-25	SD1035	西北-南北	2.4	逆台形?	5.1 ~ 5.5	2.1 ~ 2.3	1.0	自然	瓦、磁器、鉄製品	SD1028 → SD1035	61	62
J-26	SD1036	東西	21.5	顕形	0.7 ~ 1.2	0.3 ~ 0.7	0.2	自然	遺物群	SD1044+1043 → SD1036 → SX1037	65	-
J-28	SD1068	南北	6.7	逆台形?	0.6 ~ 2.1	0.3 ~ 0.6	0.4	自然	遺物群、土師器		71	-
J-29	SD1108	東西	3.8	逆台形?	3.6 ~ 4.5	1.2 ~ 1.6	0.7	自然	遺物群、瓦、土師器	SD1109 → SD1108	74	79
J-29	SD1110	東西	3.9		4.5+			自然?		SD1110 → SD1109	74	-
J-29	SD1111	北東-南西	15.4		1.8						74	-
J-29	SD1124	東西	3.5	逆台形?	2.5	0.8	0.2	自然			75	-
J-34	SD1192	南北	8.1	逆台形?	2.3 ~ 2.6	0.5	0.7	自然		SD1191 → SD1192	85	86
J-35	SD1128	東西	1.6	顕形	3.2	1.5	0.2	自然	石器		48	-

2 K区

道路跡1条、掘立柱建物21棟、竪穴建物跡13棟、井戸跡9基、竪穴遺構1軒、円形周溝跡1条のほか、河川跡・溝跡、土坑、小溝状遺構群、ピット等を検出した。また、縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、中世陶器、陶磁器、瓦、土製品、石製品、石器、金属製品などが出土した。

K区北部から中央部にかけて、J区から北西-南東方向に河川跡が蛇行しながら続いており、その周辺には遺物包含層が形成されている。建物跡などの遺構は河川跡南側の微高地上に分布しており、密度はJ区に比べて高い。特に、K区中央から東部のK-5・6・12区にかけて遺構が集中している。

第11表 K区の調査内容

調査区	調査	年度	面積 (m ²)	検出面	主な検出遺構	主な出土遺物
K-1	本発掘・確認	平成26	284	V層	SB1310・1311・1312, SI1200・1201・1202・1203・1204, SD1286・1298, SK1206	須恵器、土師器、縄文土器、中世陶器、瓦
K-2	確認	平成26	533	V層	SI1230・1232, SE1231・1233・1250・1254・1255, SD1251	須恵器、土師器、縄文土器、中世陶器
K-3	本発掘	平成26	660	V層	SD1263・1264・1265・1266・1267, SK1269・1279	須恵器、土師器、縄文土器、中世陶器、瓦、石器、石製品
K-4	本発掘・確認	平成26	61	V層	SD1272・1282・1283・1284	石器
K-5	本発掘 (北・中央・南を含む)	平成27 平成29	1196	V層	SB1307・1308・1408・1409・1488・1489・1490・1491・1601・1613, SI1271・1381・1621, SX1622, SE1354・1382・1626, SD1373・1391・1406・1620, SK1395・1399, SN1478・1479	須恵器、土師器、中世陶器、瓦、土製品、石器、石製品、瓦製品、木製品、金属製品
K-6	本発掘・確認	平成27	932	V層	SK1439, SB1350・1543・1545, SH1500, SD1411・1484, SX1422	須恵器、土師器、瓦
K-7	本発掘・確認	平成27	213	V層	SD1413・1483	土師器、土製品
K-8	本発掘・確認	平成27	114	V層	SD1412	須恵器、土師器
K-9	本発掘・確認	平成27	48	V層	SD1412	なし
K-10	本発掘・確認	平成27	63	V層	SD1412	なし
K-11	本発掘・確認	平成27	48	V層	SD1412	なし
K-12	本発掘・確認	平成27	491	V層	SI1453, SE1455, SD1450・1454・1485, SK1467・1470・1473	須恵器、土師器、赤燒土器、中世陶器、瓦、石器、石製品
K-13	確認	平成27	923	V層	SB1475・1492, SD1481・1539・1540	須恵器、土師器、瓦、木製品
K-14	確認	平成27	20	V層	SD1540	なし
K-15	確認	平成27	11	V層	SD1540	なし

(1) K-1・4区

主にK-1区にて掘立柱建物跡3棟、竪穴建物跡5棟のほか、溝跡、土坑、ピットを検出した。

①掘立柱建物跡

[SB1310 掘立柱建物跡] (平面図: 第88・90図)

[位置] 中央部に位置し、西側と北側の柱列を検出した。

[重複] なし

[柱間数] 東西1間以上、南北1間である。

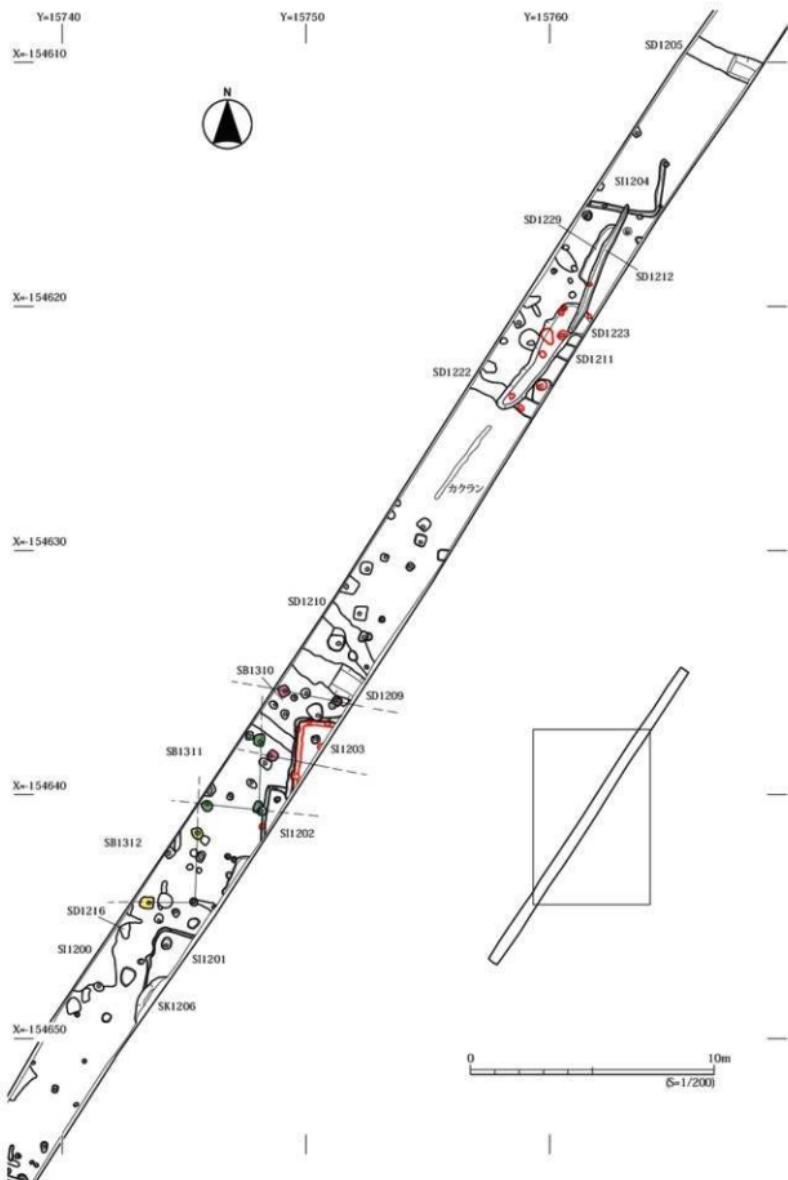
[検出状況] 柱穴を3個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

[平面規模] 東西が北側柱列で総長2.2m以上、南北が西側柱列で総長2.8mである。

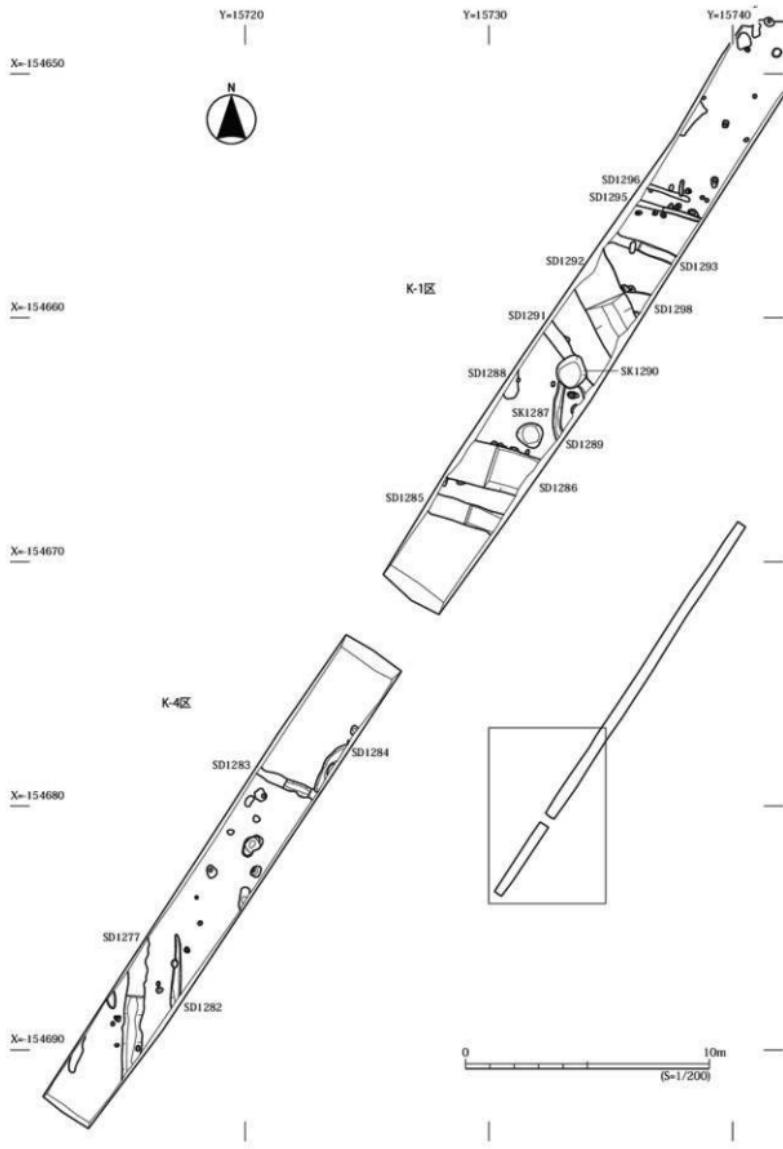
[方向] 西側柱列で測ると北で東に11°偏る。

[柱穴] 挖方は長軸0.4~0.5m、短軸0.3~0.4m、深さ0.2mの隅丸方形で、柱痕跡は長軸0.1m~0.2mである。

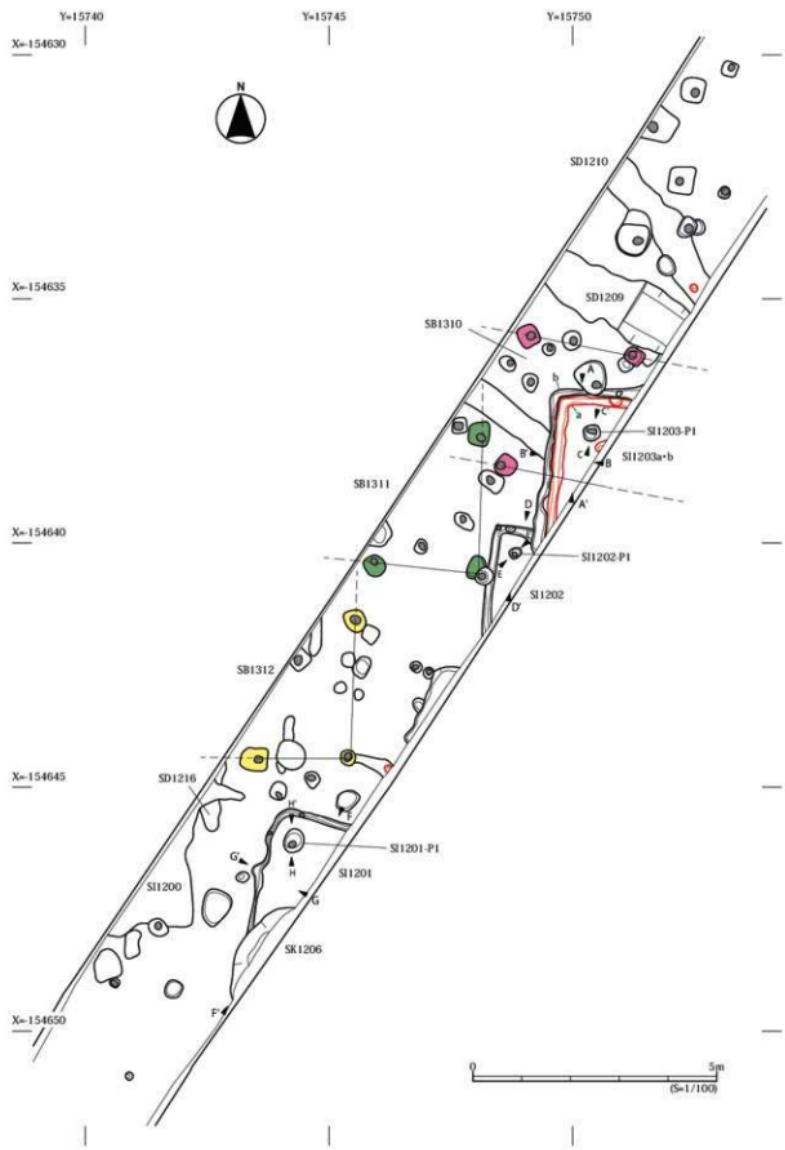
[出土遺物] 出土しなかった。



第 88 図 K-1 区 平面図



第89図 K-1・4区 平面図



第90図 K-1区 中央部掘建竪穴建物跡・竪穴建物跡平面図

【SB1311 掘立柱建物跡】(平面図:第88・90図)

【位置】中央部に位置し、東側と南側の柱列を検出した。

【重複】なし

【柱間数】東西1間以上、南北1間以上である。

【検出状況】柱穴を3個検出し、2個で柱痕跡を確認した。

【平面規模】東西が南側柱列で総長2.1m、南北が東側柱列で総長2.6mである。

【方向】東側柱列で測ると北で東に2°偏る。

【柱穴】掘方は長軸0.4～0.5m、短軸0.35～0.4m、深さ0.2mの不整な隅丸方形で、柱痕跡は直径0.2mである。

【出土遺物】出土しなかった。

【SB1312 掘立柱建物跡】(平面図:第88・90図)

【位置】中央部に位置し、東側と南側の柱列を検出した。

【重複】なし

【柱間数】東西1間以上、南北1間以上である。

【検出状況】柱穴を3個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

【平面規模】東西が南側柱列で総長2.0m、南北が東側柱列で総長2.9mである。

【方向】東側柱列で測ると北で東に2°偏る。

【柱穴】掘方は長軸0.3～0.5m、短軸0.3～0.42m、深さ0.2mの隅丸方形で、柱痕跡は直径0.1～0.2mである。

【出土遺物】出土しなかった。

②竪穴建物跡

【SI1200 竪穴建物跡】(平面図:第88・90図、遺物:第91図)

農道部分にて検出した。バイオライン敷設箇所から外れるため、遺構確認にとどめた。

【位置】中央部からやや南寄りに位置し、東辺と南辺の一部を検出した。

【重複】SD1216より新しい。

【平面形・規模】隅丸方形もしくは隅丸長方形であり、東西1.8m以上、南北3.0m以上である。

【方向】南辺で測ると東で5°北へ偏る。

【壁】地山を壁とするとみられるが、遺構確認にとどめたため、床面からの立ち上がりや残存状況は不明である。

【床面・主柱穴】遺構確認にとどめたため、不明である。

【カマド】煙道部とみられるプランを確認した。長さは、0.8mである。

【周溝】遺構確認にとどめたため、不明である。

【堆積土】自然堆積か人為堆積か不明だが、1層以上あると考えられる。

【出土遺物】堆積土中から土師器甕が出土した。

【SI1201 穫穴建物跡】(平面図：第 88・90 図、断面図：第 91 図、写真図版：22-3・4)

【位置】中央部からやや南寄りに位置し、西辺と北辺の一部を検出した。

【重複】SK1206 より古い。

【平面形・規模】隅丸方形もしくは隅丸長方形であり、東西 1.4m 以上、南北 2.5m 以上である。

【方向】西辺で測ると北で 15° 東へ偏る。

【壁】検出面で掘方埋土を確認したことから、壁は大きく削平されているが、地山を壁とし、床面から垂直に立ち上がるものとみられる。

【床面】掘方埋土を床面にしているとみられる。

【主柱穴】北西隅で 1 個検出した。規模は長軸 0.5m、短軸 0.4m の楕円形で、深さ 0.24m である。柱痕跡は径 0.1 ~ 0.15m の楕円形である。

【カマド】検出した範囲では確認できなかった。

【周溝】西辺、北辺で検出した。規模は上幅 0.1 ~ 0.2m、下幅 0.05 ~ 0.15m、深さ 0.06 ~ 0.1m である。堆積土は人為堆積である。

【壁柱穴】2 個検出した (P2・3)。北西隅を挟むように位置し、掘方は長軸 0.15 ~ 0.2m、短軸 0.1m の楕円形で、柱痕跡は確認できなかった。

【堆積土】1 層で自然堆積である。

【出土遺物】床面から土師器壺・甕の小片が出土した。

【SI1202 穫穴建物跡】(平面図：第 88・90 図、断面図：第 91 図、写真図版：22-5)

【位置】中央部に位置し、西辺と北辺の一部を検出した。

【重複】SI1203 より古い。

【平面形・規模】隅丸方形もしくは隅丸長方形であり、東西 0.9m 以上、南北 2.3m 以上である。

【方向】西辺で測ると北で 8° 東へ偏る。

【壁】検出面で掘方埋土を確認したことから、壁は大きく削平されているが、地山を壁としているものとみられる。

【床面】掘方埋土を床面にしているとみられる。

【主柱穴】北西隅で 1 個検出した。規模は長軸 0.3m、短軸 0.2m の隅丸方形で、深さ 0.2m である。柱痕跡は径 0.1m の円形である。

【カマド】検出した範囲では確認できなかった。

【周溝】西辺、北辺で検出した。規模は上幅 0.2m、下幅 0.1m、深さ 0.1m である。堆積土は人為堆積である。

【壁柱穴】2 個検出した (P2・3)。北西隅を挟むように位置し、掘方は長軸 0.18 ~ 0.35m、短軸 0.1 ~ 0.3m の隅丸方形もしくは楕円形で、柱痕跡は P2 で確認され、径 0.18m の円形である。

【出土遺物】掘方埋土から須恵器壺・甕、土師器壺・甕の小片が出土した。

【SI1203 穫穴建物跡】(平面図：第 88・90 図、断面図：第 91 図、遺物：第 91 図、写真図版：22-6・7)

ほぼ同位置にて建て替えが行われた竪穴建物跡である。

【位置】中央部に位置し、西辺と北辺の一部を検出した。

【重複】 SI1202 より新しい。

SI1203a

【平面形・規模】 隅丸方形もしくは隅丸長方形であり、東西 1.4m 以上、南北 2.4m である。

【方向】 西辺で測ると北で 6° 東へ偏る。

【壁】 検出面で掘方埋土を確認したことから、壁は大きく削平されているが、地山を壁としていたとみられる。

【床面】 掘方埋土を床面にしているとみられる。

【主柱穴】 a・b 期共通とみられ、北西隅で 1 個検出した。規模は長軸 0.35m、短軸 0.3m の隅丸方形で、深さ 0.18m である。柱痕跡は径 0.18m の円形である。

【カマド】 検出した範囲では確認できなかった。

【周溝】 西辺、北辺で検出した。規模は上幅 0.1 ~ 0.2m、下幅 0.05 ~ 0.15m、深さ 0.15m である。堆積土は人為堆積である。

【壁柱穴】 1 個検出した (P2)。北辺に位置し、掘方は長軸 0.2m、短軸 0.15m の梢円形で、柱痕跡は確認できなかった。

【出土遺物】 a 期とみられる遺物は出土しなかった。

SI1203b

【平面形・規模】 隅丸方形もしくは隅丸長方形であり、東西 1.8m 以上、南北 3.3m である。

【方向】 西辺で測ると北で 8° 東へ偏る。

【壁】 検出面で掘方埋土を確認したことから、壁は大きく削平されているが、地山を壁とし、床面から垂直に立ち上がるものとみられる。

【床面】 掘方埋土を床面にしているとみられる。

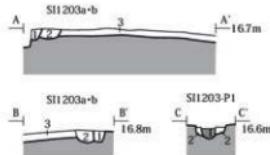
【主柱穴】 北西隅で 1 個検出した。規模は長軸 0.35m、短軸 0.3m の隅丸方形で、深さ 0.18m である。柱痕跡は径 0.18m の円形である。

【カマド】 検出した範囲では確認できなかった。

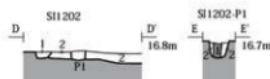
【周溝】 西辺、北辺で検出した。規模は上幅 0.15 ~ 0.25m、下幅 0.05 ~ 0.2m、深さ 0.12m である。堆積土は人為堆積である。

【壁柱穴】 1 個検出した (P3)。北辺に位置する。掘方は長軸 0.2m、短軸 0.1m の梢円形で、柱痕跡は確認できなかった。

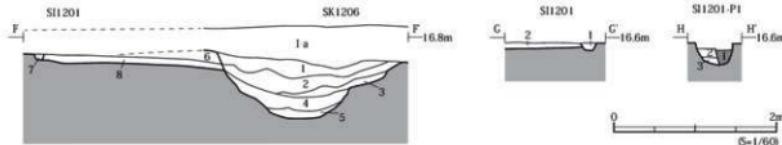
【出土遺物】 床面から土師器塊が出土した。



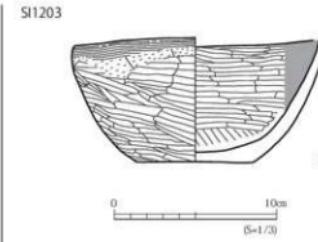
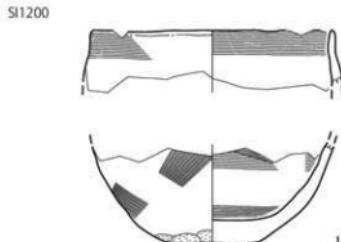
層	土色	土性	備考
SI1203 b	1 黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山ブロックを含む。
SI1203a	2 黑褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロック・炭化物を含む。周溝堆積土。
	3 暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。
SI1203-P1	1 黑褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物・地山ブロックを含む。
	2 黑褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。



層	土色	土性	備考
SI1202	1 灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	地山ブロックを含む。
	2 灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。
SI1202-P1	1 灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山ブロックを少し含む。
	2 灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。

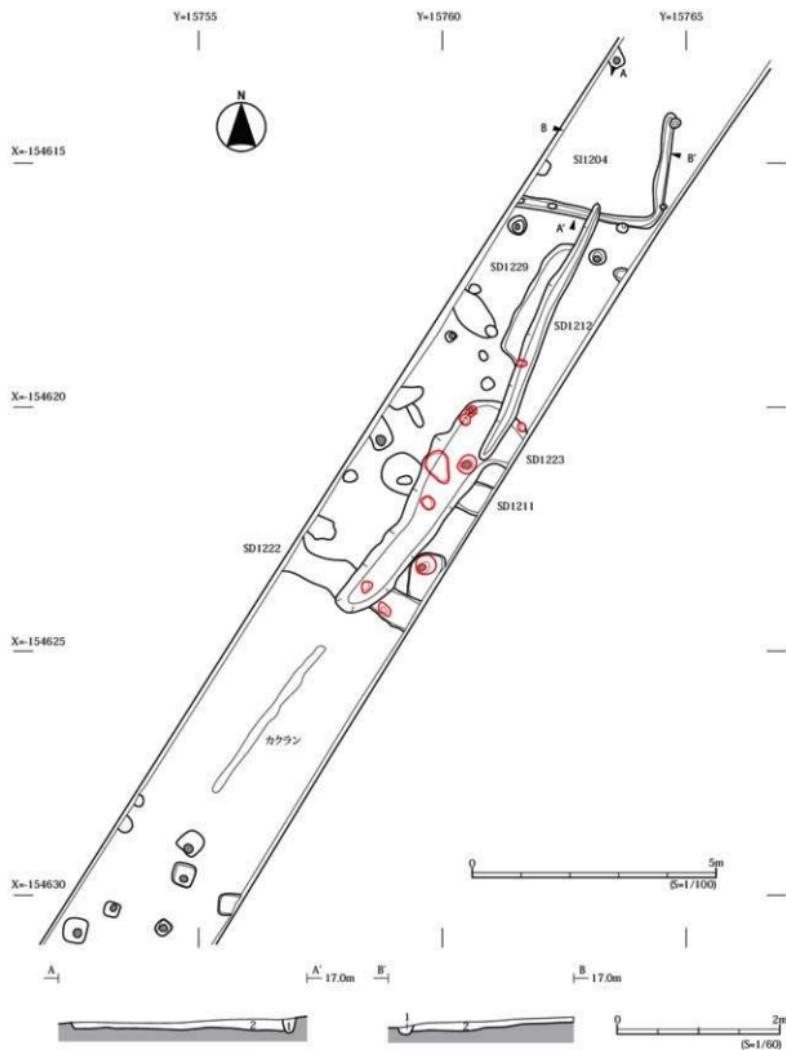


層	土色	土性	備考
SK1206	1 灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
	2 黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを多く含む。
	3 黑褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを含む。
	4 灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山ブロックを含む。
	5 にじく黄褐色 (10YR5/3)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。
SI1201	6 灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物を含む。
	7 にじく黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロック・炭化物を含む。
	8 にじく黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。
SI1201-P1	1 にじく黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロック・炭化物を含む。
	2 にじく黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。
SI1201-P1	1 黑褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
	2 黑褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
	3 黑褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。



No.	種別／器種	遺構／層	測量(cm) 口幅 底幅 厚さ	残存	調整・特徴	回版	登録
1	土師器／甕	SI1200／堆	14.6 7.6 —	(口幅×高さ)/1/4 (倒下→底)/1/3	外：ヘラケズリ / ハケメ / ヨコナデ 内：ヘラナデ / ヨコナデ	52-6・7	R224
2	土師器／甕	SI1203／床	15.1 7.2 7.6	完形	外：ヘラケズリ→ヨコナデ / ヘラミガキ 内：ヘラミガキ→黒色処理	52-8	R213

第91図 K-1区 穴穴建物跡断面図・出土遺物



遺構	層	土色	土性	備考
SI1204	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。
	2	にふく黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。
	3			周溝填土 搬入土

第92図 K-1区 SI1204 竪穴建物跡平面図・断面図

【SI1204 穫穴建物跡】(平面図：第 88・92 図、断面図：第 92 図、写真図版：22-8)

【位置】 北部に位置し、南辺と東辺の一部を検出した。

【重複】 SD1212 より古い。

【平面形・規模】 隅丸方形もしくは隅丸長方形であり、東西 2.8m、南北 2.4m 以上である。

【方向】 東辺で測ると北で 8° 東へ偏る。

【壁】 検出面で掘方埋土を確認したことから、壁は大きく削平されているが、地山を壁とし、床面から垂直に立ち上がるものとみられる。

【床面】 掘方埋土を床面にしているとみられる。

【主柱穴】 検出した範囲では確認できなかった。

【カマド】 検出した範囲では確認できなかった。

【周溝】 東辺、南辺で検出した。規模は上幅 0.2 ~ 0.25m、下幅 0.1 ~ 0.18m、深さ 0.18m である。堆積土は人為堆積である。

【壁柱穴】 3 個検出した (P1 ~ 3)。南辺に 2 個 (P1・2)、東辺に 1 個 (P3) 存在する。掘方は長軸 0.2 ~ 0.25m、短軸 0.1 ~ 0.2m の楕円形で、柱痕跡は確認できなかった。

【出土遺物】 出土しなかった。

③溝跡

【SD1292 溝跡】(平面図：第 89・93 図、断面図：第 93 図、遺物：第 94 図、写真図版：23-3)

【位置】 南部

【重複関係】 SD1298 より新しい。

【規模】 北西 - 南東方向で 2.8m 検出した。上幅は 1.75m、下幅は 0.5m、深さは 1.1m である。

【断面形】 V 字形である。

【堆積土】 7 層に分かれ、全て自然堆積である。

【出土遺物】 須恵器蓋、陶器甕、瓦などが出土した。

【SD1286 溝跡】(平面図：第 89・93 図、断面図：第 93 図、遺物：第 94 図、写真図版：23-2)

【位置】 南部

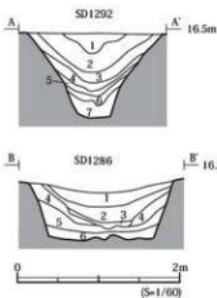
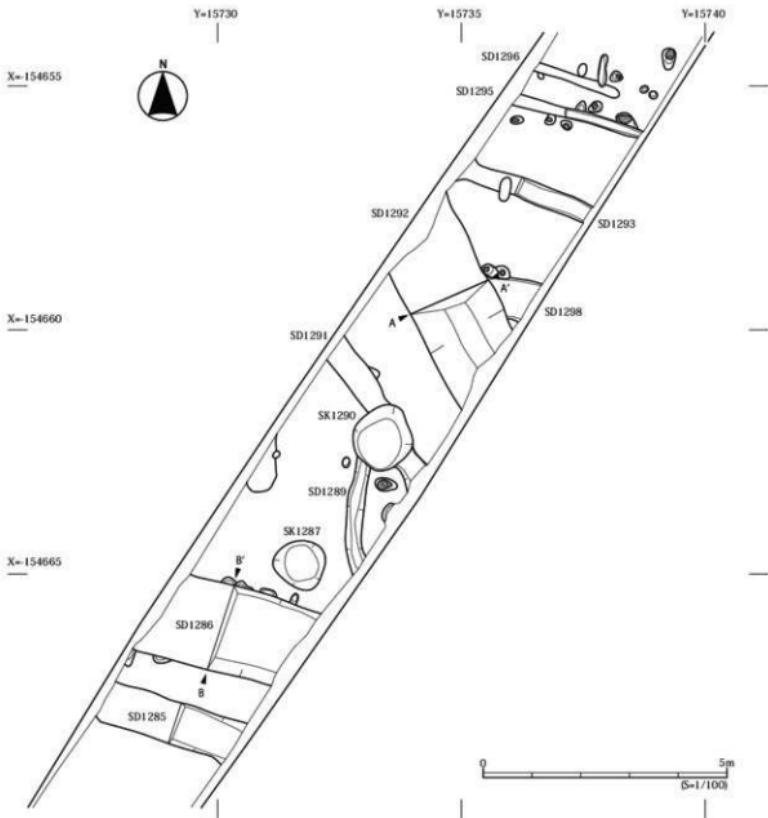
【重複関係】 なし

【規模】 東西方向で 2.8m 検出した。上幅は 1.7 ~ 1.8m、下幅は 1.2 ~ 1.3m、深さは 0.8m である。

【断面形】 逆台形である。

【堆積土】 6 層に分かれ、全て自然堆積である。

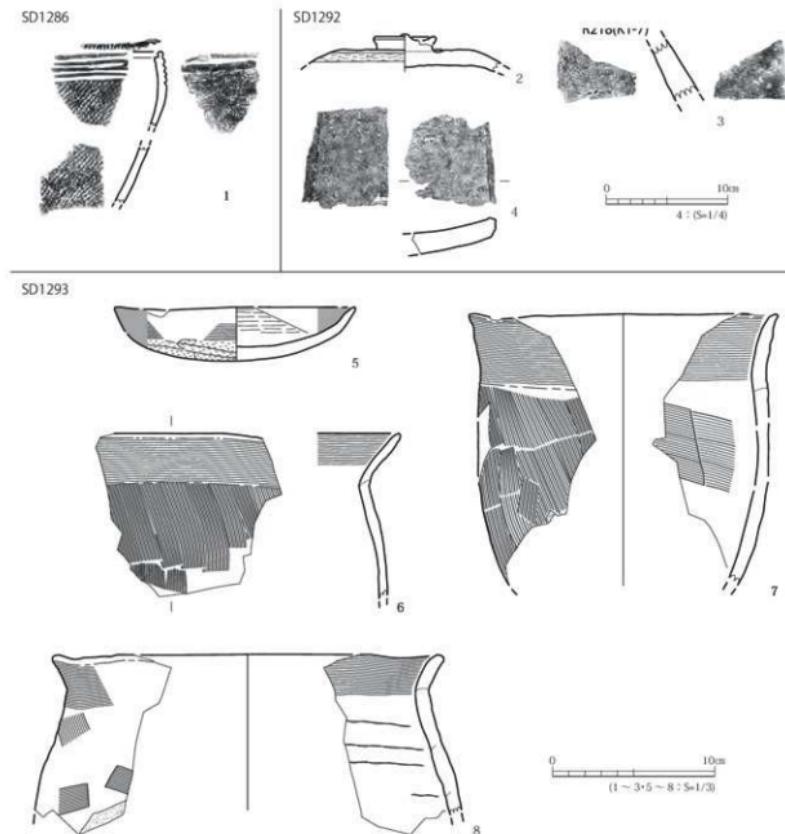
【出土遺物】 須恵器、土師器小片、縄文土器浅鉢などが出土した。



透視	層	土色	土性	備考
SD1292	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。自然堆積土
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト質粘土	地山ブロックを含む。自然堆積土
	3	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。自然堆積土
	4	褐色 (10YR4/1)	シルト質粘土	地山ブロックを含む。自然堆積土
	5	褐色 (10YR4/1)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。自然堆積土
	6	黄褐色 (2.5Y4/1)	シルト質粘土	地山ブロックを少し含む。自然堆積土
	7	褐色 (10YR4/1)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。自然堆積土

透視	層	土色	土性	備考
SD1286	1	褐色 (10YR4/1)	シルト質粘土	炭化物・地山ブロックを少し含む。自然堆積土
	2	褐色 (10YR4/1)	シルト質粘土	地山ブロックを含む。自然堆積土
	3	黄褐色 (2.5Y4/1)	シルト質粘土	地山ブロックを含む。自然堆積土
	4	灰褐色 (10YR4/2)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。自然堆積土
	5	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。自然堆積土
	6	褐色 (10YR5/1)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。自然堆積土

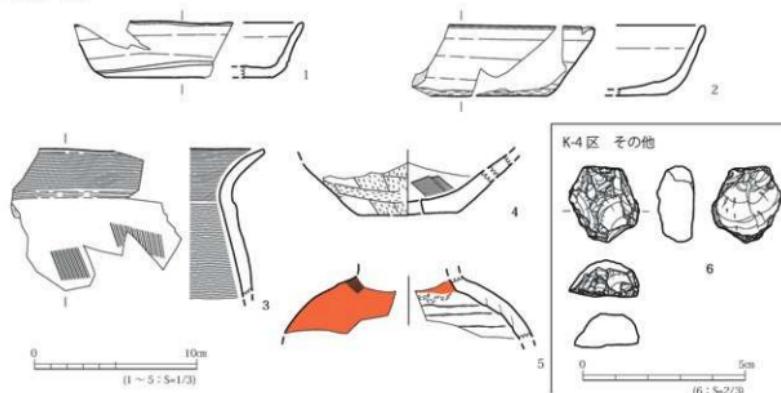
第 93 図 K-1 区 南部平面図、SD1292・1286 溝跡断面図



No.	種別／器種	遺構／層	法星(cm) 口徑 底径 横高	残存	調査・特徴	図版	登録
1	圓文土器／鉢	SD1286／堆	— — —	破片	圓文 LR 平行沈線 口縁にハラ状削り 外：ロクロナデ→弱軸ヘラケズリ 内：ロクロナデ つまみ：ロクロナデ 径 3.6cm 実底形つまみ	53-1	R221ab
2	須彌器／蓋	SD1292／堆	— — —	(体～つまみ)1/3	外：ロクロナデ→弱軸ヘラケズリ 内：ロクロナデ つまみ：ロクロナデ 径 3.6cm 実底形つまみ	53-2	R220
3	中世陶器／甕	SD1292／堆上	— — —	破片	外内：ナデ 常滑産	53-3	R218
4	平瓦	SD1292／堆	— — —	破片	門面：ナデ 凸面：ロクロナデか 范圍：ヘラケズリ 長さ：11.2cm 幅：6.1cm 厚さ：1.8cm	53-8	R222
5	土師器／杯	SD1293／堆	14.7 — 3.3	(口～体)1/6 (底)1/3	外：ヘラケズリ／ヨコナデ 内：ヘラミガキ→黒色処理 丸底	52-9	R214
6	土師器／瓶	SD1293／堆	— — —	(口～脚上)1/8	外：ハケヌメ→ヨコナデ 内：ヨコナデ／ヘラナデ	53-5	R223
7	土師器／瓶	SD1293／堆	18.8 — —	(口～脚上)1/4	外：ハケヌメ／ヨコナデ 内：ヘラナデ／ヨコナデ	53-4	R215
8	土師器／瓶	SD1293／堆	23.4 — —	(口～脚上)1/4	外：ヘラナデ／ヨコナデ 内：ヨコナデ	52-10	R216

第94図 K-1区 SD1286・1292・1293 溝跡出土遺物

K-1 区 表土



No.	種別／器種	遺構／層	重量 (kg)			残存	調査・特徴	回数	登録
			石核	底盤	表面				
1	須恵器／环	表土	—	—	3.4	(口～底)1/8 外内：ロクロナデ 底：凹凸ハケズリ	52-13	R485	
2	須恵器／环	表土	—	—	4.3	(口～底)1/5 外：ロクロナデ→手持ちハケズリ 内：ロクロナデ	52-14	R484	
3	土師器／壺	表土	—	—	—	口縁破片 外：ハケメノヨコナデ 内：ヘラナデヨコナデ	53-7	R225	
4	土師器／壺	表土	—	6.0	—	(胴下～底)1/4 外：ハケズリ 内：ヘラナデ 孔径：2.1cm	52-11・12	R217	
5	土師器／壺	イカク	—	—	—	(胴上)1/4 外：ナデ 内：ユビオサエ 外面全面、内面一部赤彩	53-6	R219	
6	石器	イカク	—	—	—	奥庭石削片 長さ：2.3cm 幅：2.2cm 厚さ：1.1cm 重さ：6.0g	53-9	R488	

第95図 K-1・4区 表土・遺構確認出土遺物

(2) K-2区

水路部分に設定した調査区であったが、その後水路の位置が変更となつたことから、遺構確認にとどめた箇所である。遺構は南部から中央部にかけて分布し、北部は河川跡と灰白色火山灰を含む遺物包含層が広がっている。

① 穴穴建物跡

中央部にて SI1230・1232 の 2 軒を検出した。遺構確認にとどめたこと、他の遺構との重複から、建物跡の規模と構造は把握しきれていない。

【SI1230 穴穴建物跡】(平面図：第97図、遺物：第98図、写真図版：23-6)

【位置】中央部のやや南寄り位置し、南辺と東辺の一部を検出した。

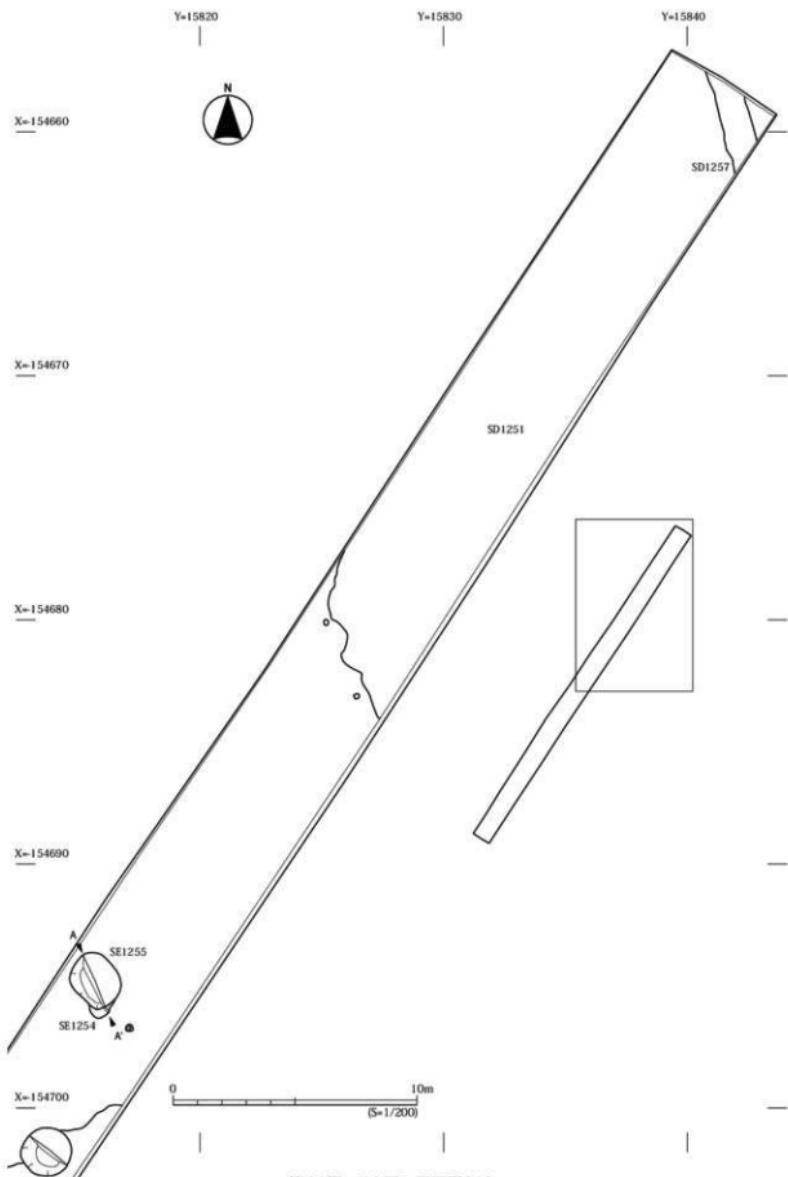
【重複】SE1231 より古い。

【平面形・規模】隅丸長方形とみられ、東西 2.3m 以上、南北 1.7m 以上である。

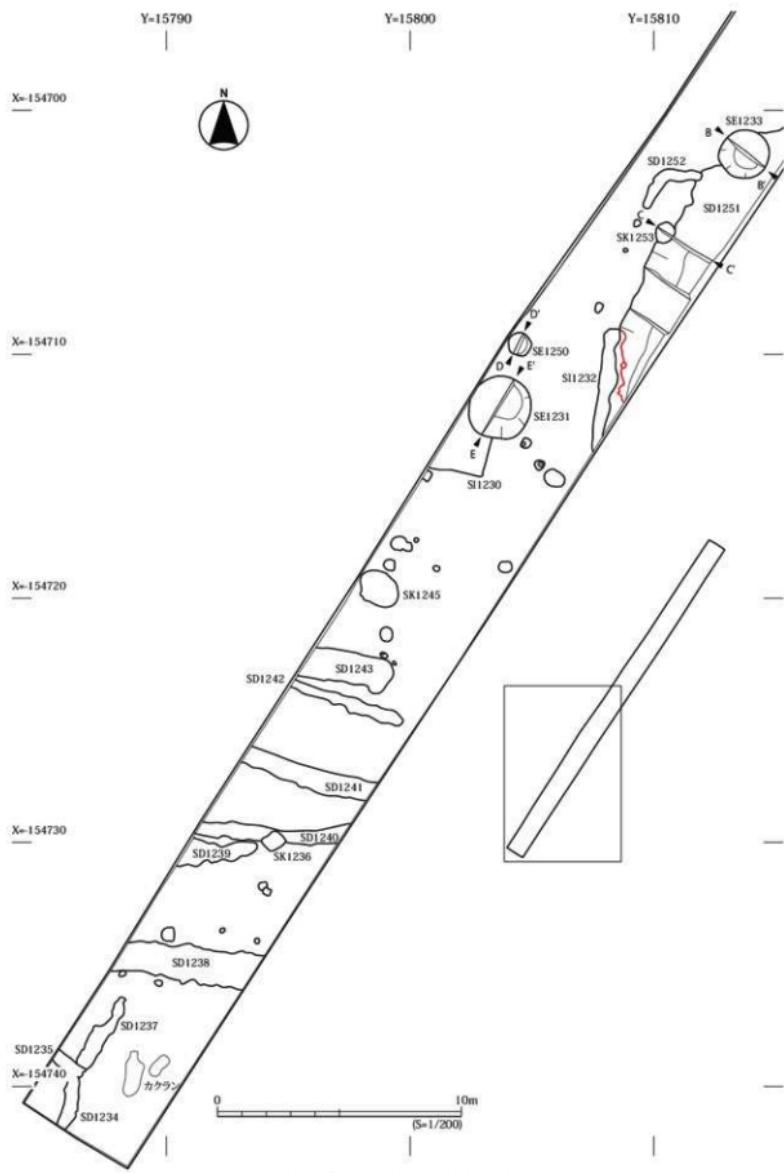
【方向】東辺で測ると北で 15° 東へ偏る。

【主柱穴・カマド・周溝】遺構確認にとどめたため、検出した範囲では確認できなかった。

【出土遺物】堆積土中から須恵器高台環・盤が出土した。

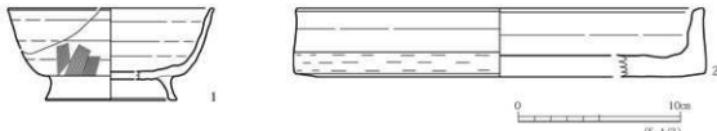


第96図 K-2区 平面図(1)



第 97 図 K-2 区 平面図 (2)

SI1230



第98図 K-2区 SI1230 穫穴跡出土遺物

【SI1232 穫穴建物跡】(平面図: 第97図)

[位置] 中央部のやや南寄り位置し、西辺と北辺の一部を検出した。

[重複] SD1251より古い。

[平面形・規模] 圓丸方形もしくは圓丸長方形とみられ、東西1.0m以上、南北4.9m以上である。

[方向] 西辺で測ると北で6°東へ偏る。

[主柱穴・カマド・周溝] 遺構確認にとどめたため、検出した範囲では確認できなかった。

[出土遺物] 出土しなかった。

②井戸跡

中央部で5基検出した。いずれも構造は素掘りである。全体の規模が分かる4基について記述する。

【SE1255 井戸跡】(平面図: 第96図、断面図: 第99図)

[位置] 中央部

[重複関係] SE1254より新しい。

[規模・構造] 平面形は長径2.3m、短径1.8mの橢円形であり、深さ0.96mである。素掘りの井戸である。

[断面形] 北西側の壁が急に立ち上がるのに対し、南東側の壁が緩やかに立ち上がり、不整な逆台形を呈する。

[堆積土] 6層に分かれ、全て自然堆積である。

[出土遺物] 須恵器・土師器小片が出土した。

【SE1233 井戸跡】(平面図: 第97図、断面図: 第99図、遺物: 第100図)

[位置] 中央部

[重複関係] SD1251より新しい。

[規模・構造] 平面形は直径2.0mの円形であり、深さ0.9mである。素掘りの井戸である。

[断面形] 壁が急に立ち上がり、逆台形を呈する。

[堆積土] 5層に分かれ、全て自然堆積である。

[出土遺物] 須恵器・土師器・瓦などが出土した。

【SE1250 井戸跡】(平面図: 第97図、断面図: 第99図)

[位置] 中央部

[重複関係] なし

[規模・構造] 平面形は直径 1.0m の円形であり、深さ 1.0m である。素掘りの井戸である。

[断面形] 壁がほぼ垂直に立ち上がり、箱形を呈する。

[堆積土] 4 層に分かれ、全て自然堆積である。

[出土遺物] 須恵器壺・甕、土師器甕の小片が出土した。

【SE1231 井戸跡】(平面図: 第97図、断面図: 第99図、写真図版: 23-7)

[位置] 中央部

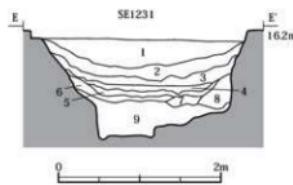
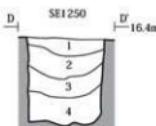
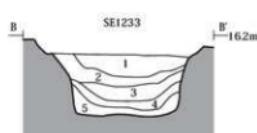
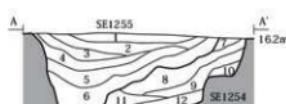
[重複関係] SI1230 より新しい。

[規模・構造] 平面形は直径 2.6m の円形であり、深さ 1.32m である。素掘りの井戸である。

[断面形] 壁が急に立ち上がり、底面はやや凸凹がみられるが、逆台形を呈する。

[堆積土] 9 層に分かれ、全て自然堆積である。

[出土遺物] 須恵器・土師器・瓦などが出土した。



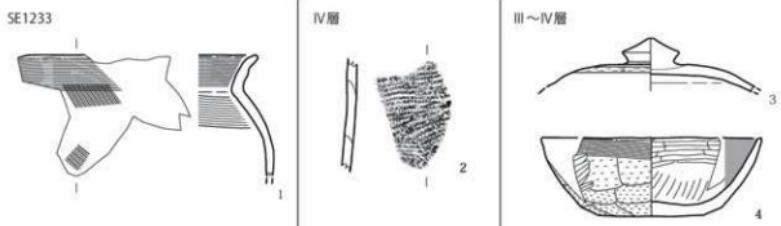
遺構	層	土色	土性	備考
SE1255	1	灰褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を少し含む。
	2	黒褐色 (10Y3/2)	シルト	地山ブロックを少し含む。
	3	褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。
	4	黄褐色 (2.5Y3/4)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
	5	黒褐色 (2.5Y3/1)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
	6	黒褐色 (10YR3/1)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。
SE1254	7	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
	8	黒 (10YR2/1)	シルト質粘土	地山ブロックを含む。
	9	黒褐色 (10YR3/2)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。
	10	褐色 (10YR4/1)	シルト	地山ブロックを多く含む。
	11	黒褐色 (10YR3/2)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。
	12	黒褐色 (10YR3/1)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。

遺構	層	土色	土性	備考
SE1233	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト質粘土	地山ブロック・炭化物を含む。
	2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト質粘土	地山ブロック・炭化物を含む。
	3	黒褐色 (10YR3/1)	シルト質粘土	地山ブロックを含む。
	4	褐色 (10YR4/1)	シルト質粘土	炭化物を少し含む。
	5	黒褐色 (2.5Y3/1)	シルト質粘土	地山ブロックを含む。

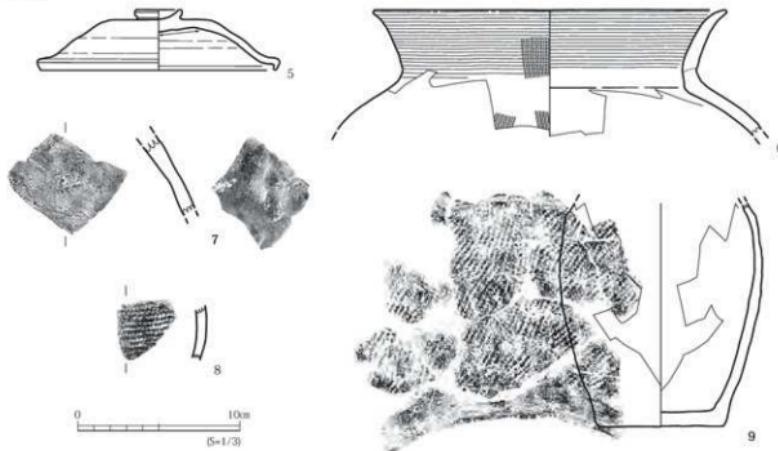
遺構	層	土色	土性	備考
SE1250	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物を含む。
	2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト質粘土	地山ブロック・炭化物を含む。
	3	黒褐色 (2.5Y3/1)	シルト質粘土	地山ブロック・炭化物・燒土を含む。
	4	黒 (10YR2/1)	シルト質粘土	地山ブロック・炭化物を含む。

遺構	層	土色	土性	備考
SE1231	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物を含む。
	2	褐色 (10YR4/1)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。
	3	黒褐色 (10YR3/1)	シルト質粘土	地山ブロックを含む。
	4	褐色 (2.5Y4/1)	シルト	地山ブロック・炭化物を含む。
	5	黄褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
	6	褐色 (10YR4/1)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。
	7	褐色 (10YR4/1)	シルト	地山ブロックを少し含む。
	8	黄褐色 (2.5Y4/1)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。
	9	褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物を含む。

第99図 K-2区 SE1255・1254・1233・1250・1231 井戸跡断面図



その他



No.	種別/層種	遺構/層	深度(cm)			残存	調整・特徴	回収	登録
			上限	中間	下限				
1	土師器／甕	SE1233／堆	—	—	—	(口～胴上)11/8 外：ハケメーヨコナデ 内：ヘラナデ／ヨコナデ		54-1	R230
2	縄文土器／鉢か	IV層	—	—	—	破片 圓文 LR 摩滅		54-3	R235
3	須恵器／蓋	III～IV層	—	—	—	(体～つまみ) 3/4 外：ロクロナデ～斜面ヘラケズリ 内：ロクロナデ つまみ：ロクロナデ 様3.5cm 宝珠形つまみ		54-2	R233
4	土師器／环	III～IV層	13.4	6.5	4.8	(口～体)1/6 内：ヘラケズリ～ヨコナデ～ヘラミガキ 外：ヘラミガキ～黒色処理		53-12	R227
5	須恵器／蓋	表土	14.4	—	3.8	(口～体)1/4 「つまみ」形 軸用礎石		54-5	R232
6	土師器／甕	表土	21.4	—	—	(口～胴上)1/4 外：ハケメーヨコナデ 内：ヨコナデ		53-14	R231
7	中世陶器／甕	表土	—	—	—	破片 外：ナデ 常滑産		54-6	R226
8	縄文土器／鉢か	イカク	—	—	—	破片 圓文 LR		54-4	R236
9	縄文土器／甕	イカク	—	7.6	—	(体下～底)1/4 圓文 LR		53-13	R228

第100図 K-2区 断面図・出土遺物

③河川跡

【SD1251 河川跡】(平面図: 第 96・97 図、断面図: 第 100 図)

[位置] 中央部

[重複関係] SE1233、SK1253 より古く、SI1232 より新しい。

[規模] 北東—南東方向で 16.0m 検出した。上幅は 2.4m 以上、下幅は 1.0m 以上、深さは 0.9m である。

[断面形] 全体を検出していないが、逆台形とみられる。

[堆積土] 8 層に分かれ、2 ~ 5 層に灰白色火山灰ブロックを含む。いずれも自然堆積である。

[出土遺物] 須恵器壺・甕、土師器壺・甕、瓦などが出土した。

(3) K-3 区

K-2 区から東へ 13m に位置する。調査区の中央部から南部にかけて河川跡と灰白色火山灰を含む遺物包含層が広がっている。検出した範囲で建物跡はなかったが、河川跡や溝跡、土坑より多くの遺物が出土した。

①溝跡

【SD1267 溝跡】(平面図: 第 101 図、断面図: 第 104 図、遺物: 第 105 図)

[位置] 北部

[重複関係] なし

[規模] 東西方向で 4.0m 検出した。上幅は 0.9 ~ 1.1m、下幅は 0.4 ~ 0.6m、深さは 0.3m である。

[断面形] 逆台形である。

[堆積土] 4 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

[出土遺物] 中世陶器甕などが出土した。

【SD1265 溝跡】(平面図: 第 102 図、遺物: 第 105 図)

[位置] 中央部

[重複関係] なし

[規模] 北西—南東方向で 4.8m 検出した。上幅は 0.8 ~ 1.5m、下幅は 0.5 ~ 1.2m、深さは 0.2m である。

[断面形] 逆台形である。

[堆積土] 1 層で自然堆積である。

[出土遺物] 土師器甕などが出土した。

【SD1264 溝跡】(平面図: 第 103 図、断面図: 第 104 図、遺物: 第 106 図)

[位置] 南部

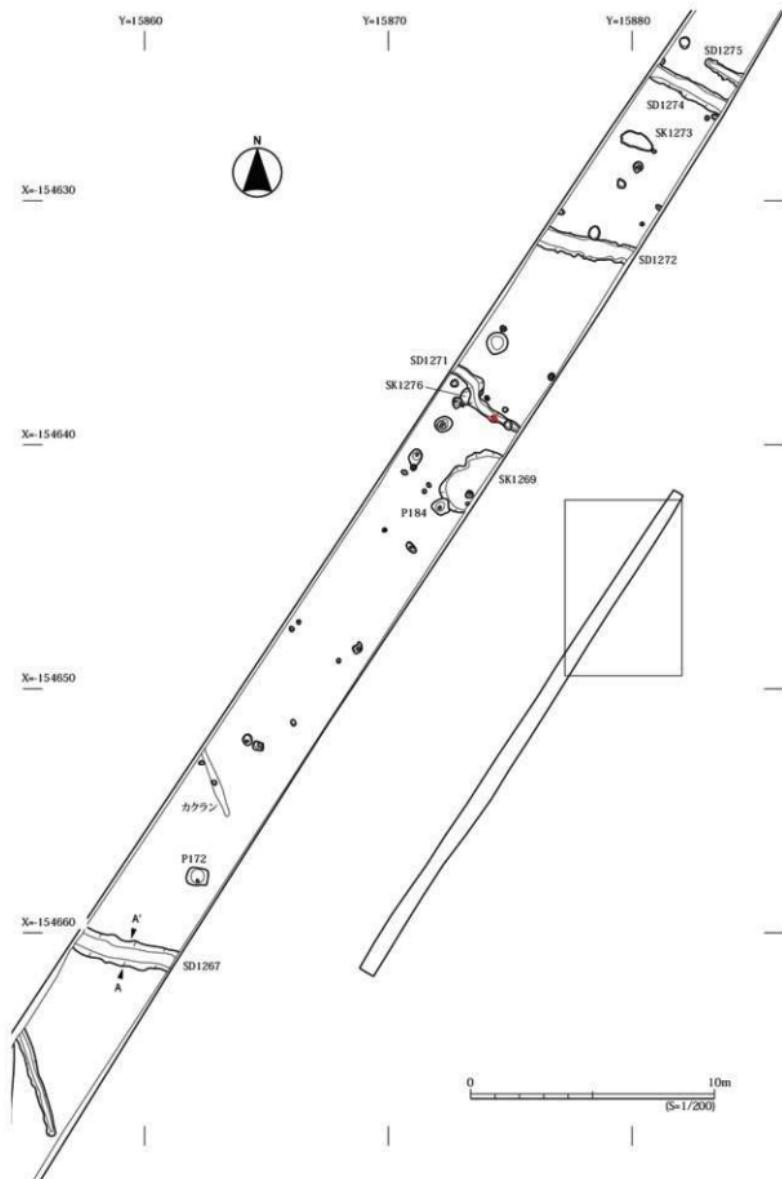
[重複関係] SD1263 より新しい。

[規模] 東西方向で 2.6m 検出した。上幅は 0.7 ~ 1.0m、下幅は 0.4 ~ 0.6m、深さは 0.5m である。

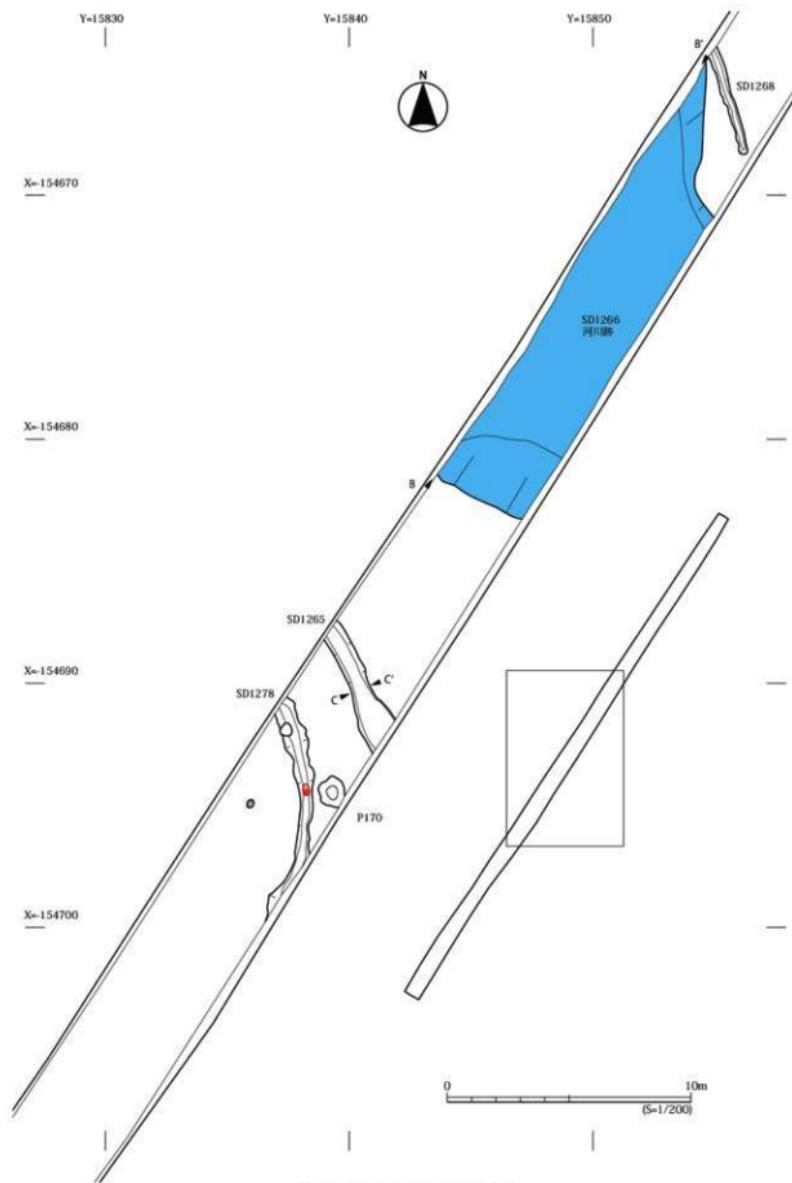
[断面形] 逆台形である。

[堆積土] 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

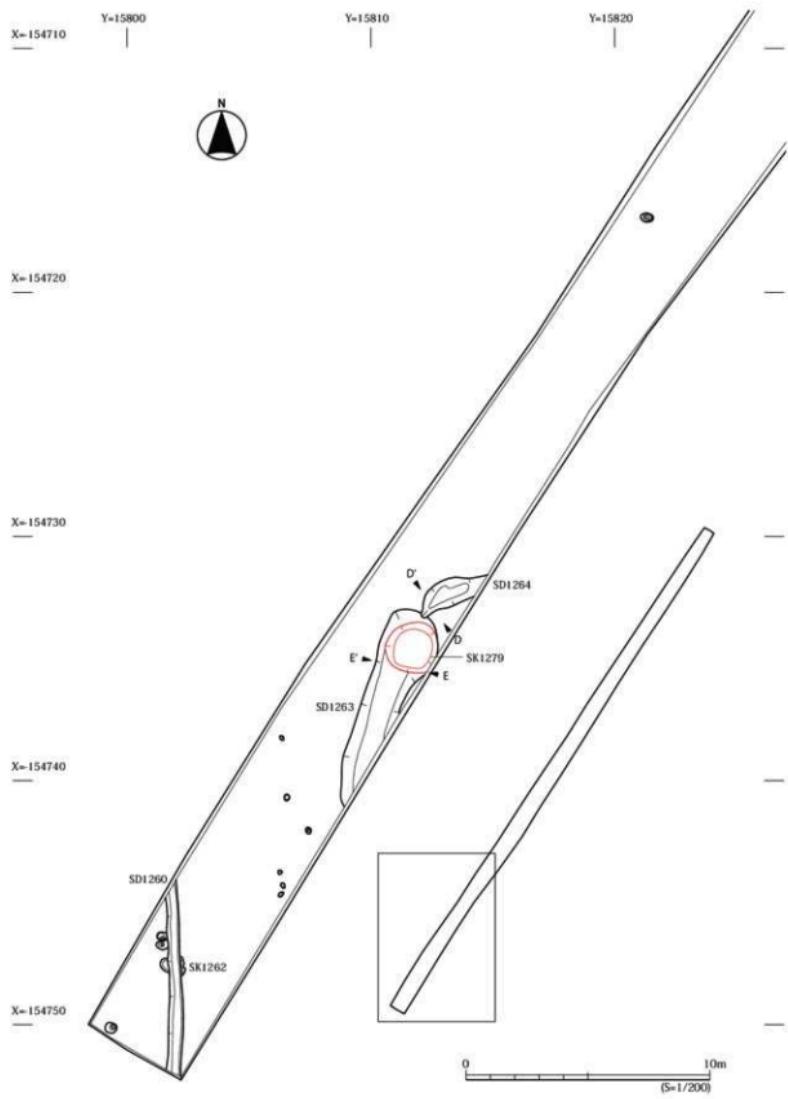
[出土遺物] 須恵器盤、土師器壺・甕などが出土した。



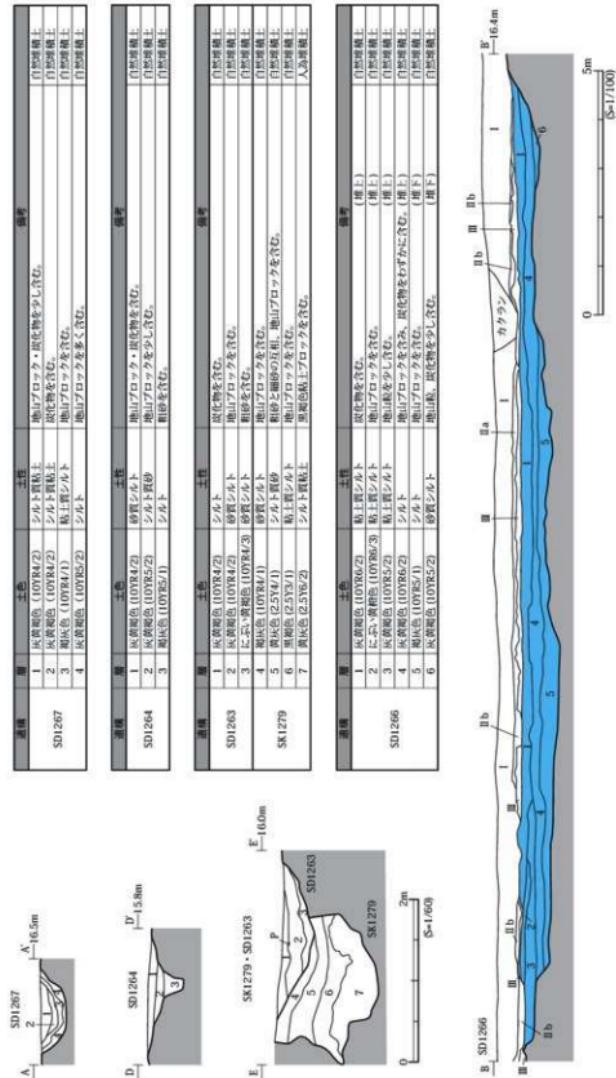
第 101 図 K-3 区 平面図(1)



第 102 図 K-3 区 平面図 (2)



第 103 図 K-3 区 平面図 (3)



第104図 K-3区 SD1267・1264・1263溝跡、SK1279土坑、SD1266河川跡断面図

【SD1263 溝跡】(平面図: 第 103 図、断面図: 第 104 図、遺物: 第 107・108 図、写真図版: 24-1 ~ 3・5)

〔位置〕 南部

〔重複関係〕 SD1264 より古く、SK1279 より新しい。

〔規模〕 北東—南方向で 6.2m 検出した。上幅は 1.3 ~ 2.2m、下幅は 0.6 ~ 0.9m、深さは 0.5m である。

〔断面形〕 凧形である。

〔堆積土〕 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

〔出土遺物〕 須恵器壺・長頸壺、土師器高环・塊・甕、陶器擂鉢、瓦などが出土した。

②土坑

【SK1279 土坑】(平面図: 第 103 図、断面図: 第 104 図、遺物: 第 109 図、写真図版: 24)

〔位置〕 南部

〔重複関係〕 SD1263 より古い。

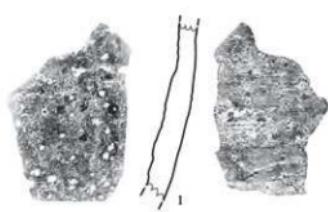
〔規模〕 平面形は、長径約 2.1m、短径 2.0m の円形である。深さは 1.3m である。

〔断面形〕 不整な U 字形である。

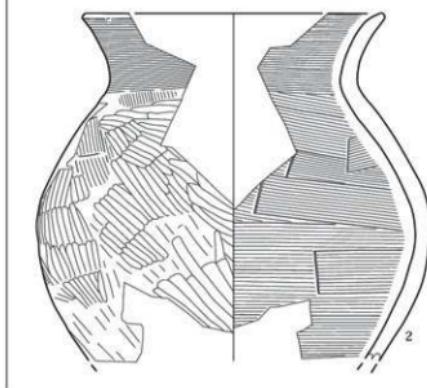
〔堆積土〕 4 層に分かれ、1 ~ 3 層が自然堆積、4 層が人為堆積である。

〔出土遺物〕 須恵器壺・蓋・甕、土師器環・甕・鉢などが出土した。

SD1267



SD1265



No.	種別／基層	遺構／層	口径	底径	厚さ	保存	調査・特徴	回数	登録
1	中世陶器／壺	SD1267／堆	—	—	—	破片	外:ナデ 内:ヘラナデ 沿底	54-7	R280
2	土師器／壺	SD1265／堆	18.2	—	—	(1)~(4)1/3	外:ナデ→ラミガキ/ヨコナデ 内:ヘラナデ→ヨコナデ	54-8	R267

第 105 図 K-3 区 SD1267・1265 溝跡出土遺物

【SD1266 河川跡】(平面図: 第 102 図、断面図: 第 104 図、遺物: 第 111・112 図、写真図版: 25)

【位置】中央部

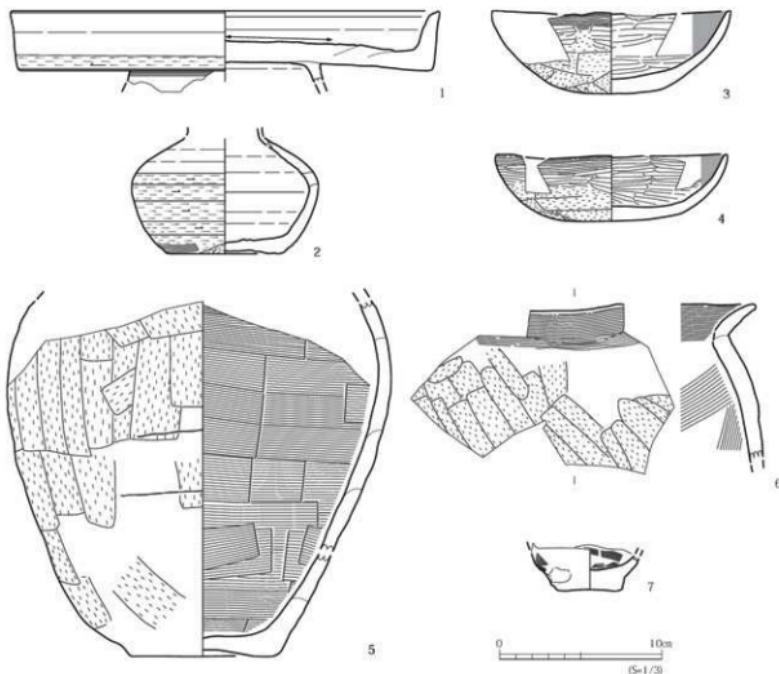
【重複関係】なし

【規模】北西—南東方向で 4.0m 検出した。上幅は 14.0 ~ 20.0m、下幅は 11.0 ~ 16.0m、深さは 1.3m である。

【断面形】逆台形である。

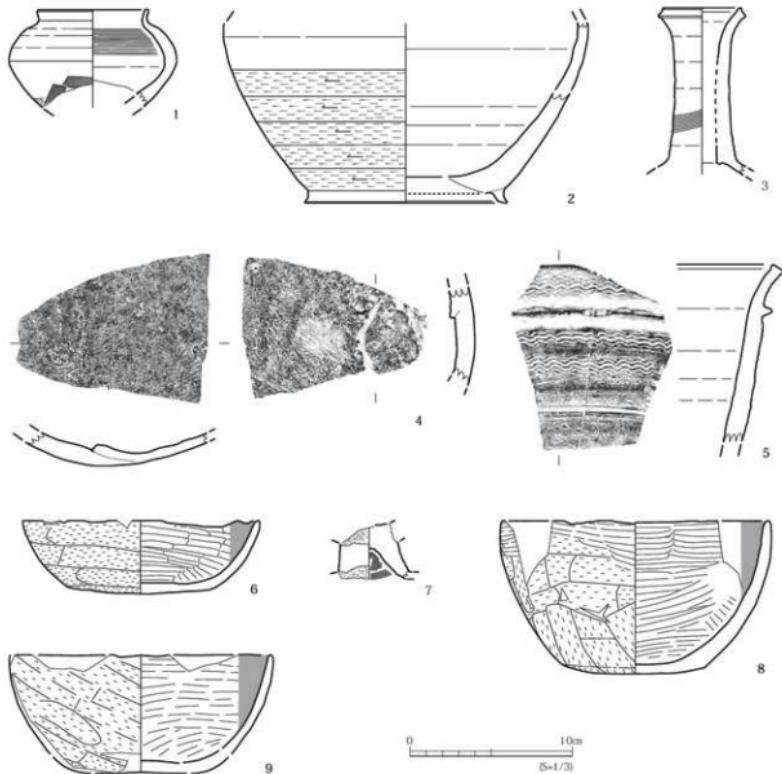
【堆積土】6 層に分かれ、上層（1 ~ 4 層）と下層（5 ~ 6 層）に大別される。いずれも自然堆積である。

【出土遺物】土師器壺・高壺・甕・壺・器台、陶器甕などが出土した。



No.	種別／器種	遺構／層	剖面(cm)			残存	調査・特徴	回数	登録
			凸性	底性	崩落				
1	須恵器／盤	SD1264／堆	26.2	25.3	—	(口~高台)1/2	外: ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台取り付け 内: ロクロナデ 自然剥付着 転用環か	54-13	R304
2	須恵器／壺	SD1264／堆	—	6.6	—	(胴~底)1/2	外: ロクロナデ→回転ヘラケズリ→手持ちヘラケズリ 内: ロクロナデ	54-9	R303
3	土師器／壺	SD1264／堆	14.6	—	5.1	(口~底)1/8 (底)1/2	外: ヘラケズリ / ヨコナデ→ヘラミガキ 内: ヘラミガキ→黒色處理	54-10	R300
4	土師器／壺	SD1264／堆	14.2	8.3	4.1	(口~底)1/4	外: ヘラケズリ / ヨコナデ→ヘラミガキ 内: ヘラミガキ→黒色處理	54-11	R299
5	土師器／器台	SD1264／堆	—	—	—	(胴~底)3/4	外: ヘラケズリ / ヨコナデ→ヘラナデ 底: 木葉痕	55-1	R302
6	土師器／甕	SD1264／堆	—	—	—	(口~胴上)1/8	外: ヘラケズリ / ヨコナデ 内: ヘラナデ / ヨコナデ	55-2	R301
7	土師器／ミニチュア土器	SD1264／堆	—	4.0	—	(体下~底)3/4	外: オサエ / ヘラナデ 内: ヘラナデ 底: ナデ	54-12	R240

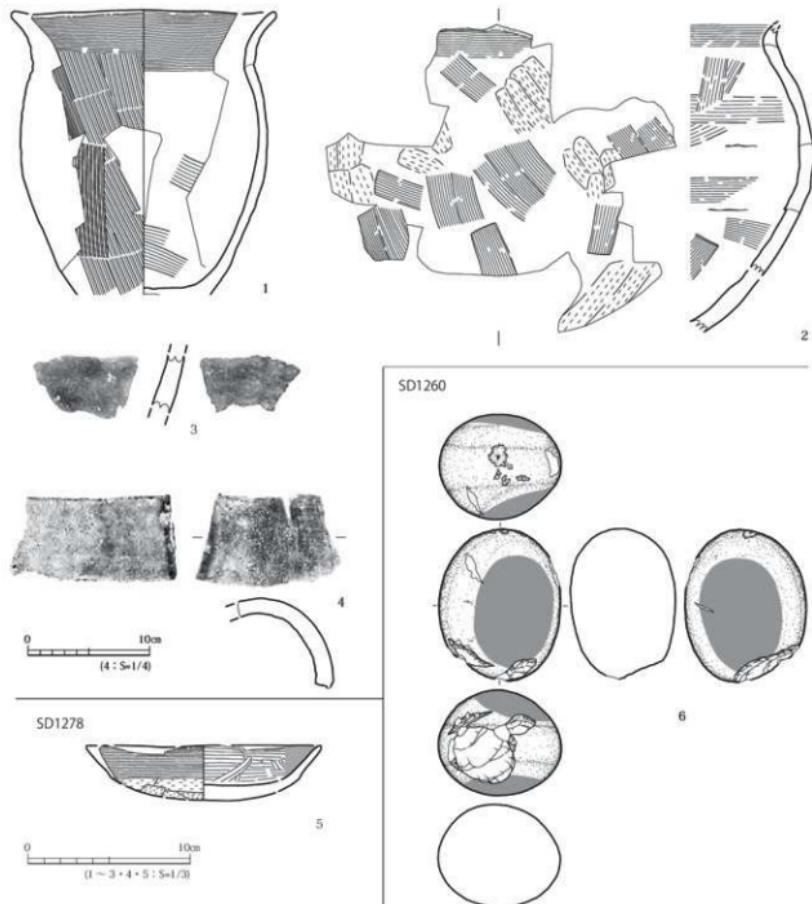
第 106 図 K-3 区 SD1264 溝跡出土遺物



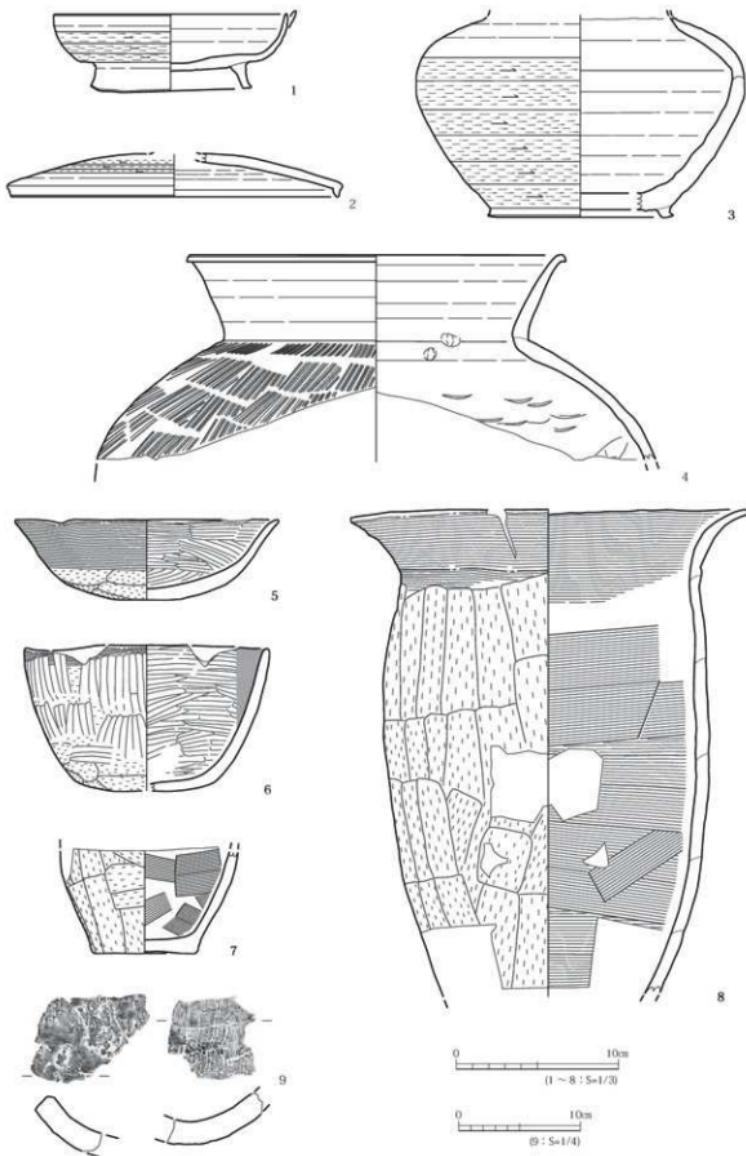
No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm)			残存	調査・特徴	回収	登録
			口径	底径	高さ				
1	須恵器／鉢	SD1263／堆	6.6	—	—	(口～脚上)1/4	外：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ→ヘラナデ 内：ロクロナデ→脚輪ヘラナデ	56.4	R297
2	須恵器／長颈瓶	SD1263／堆	—	—	12.4	(脚下～底)1/2	外：ロクロナデ→脚輪ヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：圓錐ヘラケズリ→高さ出し付付、海綿骨封合む	55.3	R273
3	須恵器／水瓶	SD1263／堆	4.7	—	—	(口～瓶)完形	外：ロクロナデ→ナデ→ロクロナデ→ユビオサエ 内：ロクロナデ	56.2	R242
4	須恵器／横瓶	SD1263／堆	—	—	—	破片	外：平行タケ 瓶 内：オサエ 自然剥離着	56.7	R316
5	須恵器／壺	SD1263／堆	—	—	—	破片	外：ロクロナデ→脚輪波状文 内：ロクロナデ	56.3	R278
6	土師器／H-	SD1263／堆	14.5	8.9	4.5	(口～底)1/3	外：ヘラケズリ 内：ヘラミガキ→黑色処理	55.5	R305
7	土師器／高台か	SD1263／堆	—	—	—	(脚)完形	外：ヘラケズリ 内：ヘラナデ/ナデ 頂部のみ	55.6	R241
8	土師器／壺	SD1263／堆	16.4	8.8	9.3	(口～体)1/5 (底)1/3	外：ヘラケズリ→ヘラミガキ 内：ヘラミガキ→黑色処理	55.4	R298
9	土師器／壺	SD1263／堆	16.0	—	7.2	(口～体)1/4 (底)1/2	外：ヘラケズリ 内：ヘラミガキ→黑色処理	55.7	R295

第107図 K-3区 SD1263 溝跡出土遺物（1）

SD1263



第108図 K-3区 SD1263溝跡(2)・SD1278・1260溝跡出土遺物



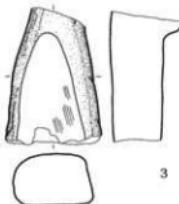
第109図 K-3区 SK1279 土坑出土遺物

No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm) 口幅 厚径 器高	残存	調整・特徴	図版	登錄
1	須恵器／高台杯	SK1279／堆	14.2 9.8 4.8	(口～高台)1/3 内：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 底：回転ヘラ切→高台なり付け	57-5 R309		
2	須恵器／蓋	SK1279／堆	20.0	—	(口～底)1/2 外：ヨクナデ→回転ヘラケズリ 内：ロクロナデ	57-6 R290	
3	須恵器／蓋	SK1279／堆	—	11.4	(側～底)1/3 外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→高台取り付け	57-2 R283	
4	須恵器／瓶	SK1279／堆	22.7	—	(口～側上)1/2 外：ロクロナデ→平行タカキ 内：ロクロナデ→ユビオサエ	57-7 R310	
5	土師器／片	SK1279／堆	16.0	—	4.9 (口～底)1/2 外：ヘラケズリ→ヨコナデ 内：ヘラミガキ・丸底	57-4 R307	
6	土師器／壺	SK1279／堆	14.8 8.6 8.8	(口～底)1/2 外：ヘラケズリ→ヨコナデ→ヘラミガキ 内：ヘラミガキ→黒色匂理	57-3 R308		
7	土師器／瓶	SK1279／堆	—	6.2	(側下～底)1/3 外：ヘラケズリ 内：ヘラナデ 蔵：木葉瓶か	57-6 R306	
8	土師器／瓶	SK1279／堆	24.2	—	(口～側)1/2 外：ヨコナデ→ヘラケズリ 内：ヘラナデ/ヨコナデ	57-1 R284	
9	平瓦	SK1279／堆	—	—	四面：布目 凸面：ヘラナデ 端部：ヘラケズリ 長さ：7.8cm 幅：8.5cm 厚さ：1.9cm	57-9 R320	

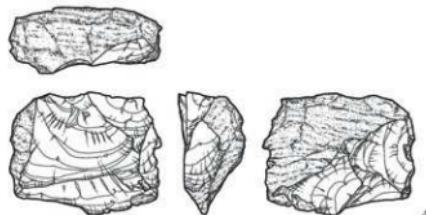
SK1269



SK1273



SK1276



4

P170

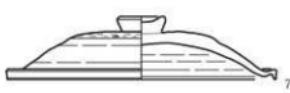


5

P172

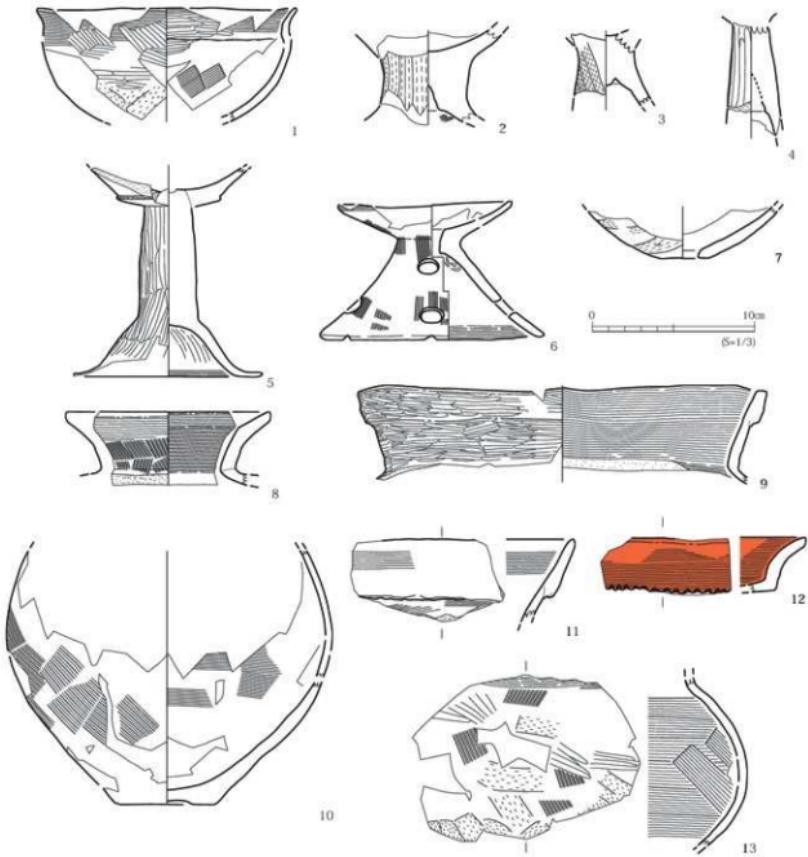
0 10cm
(1:3~5:7:S=1/3)

P184

0 5cm
(4:S=2/3)

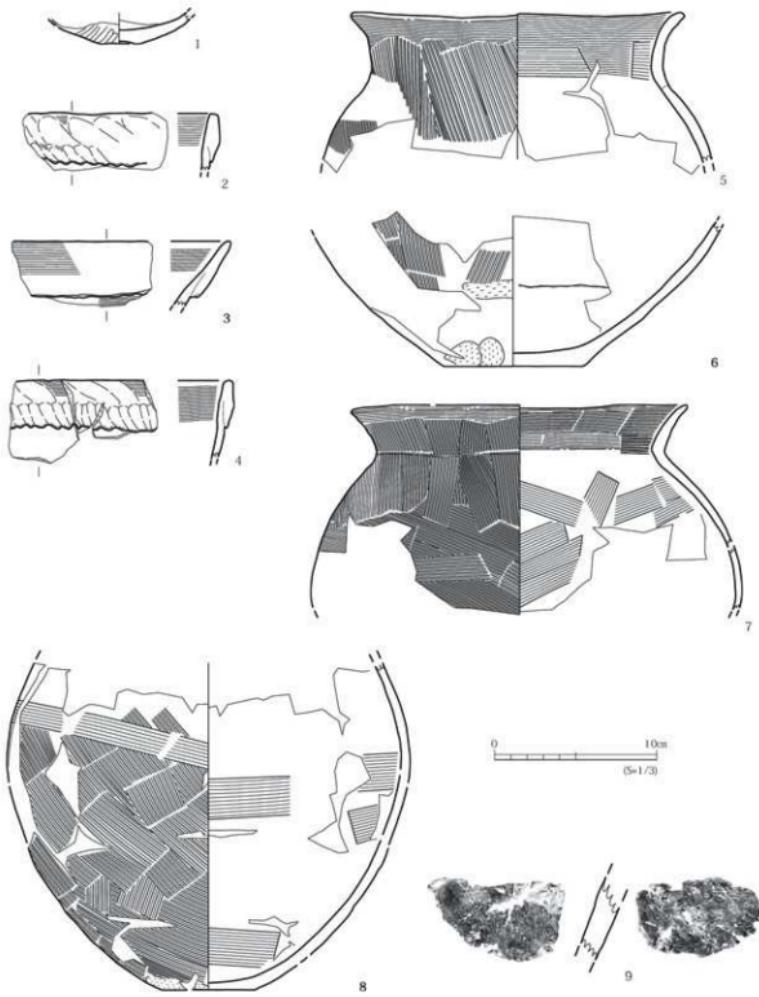
No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm) 口幅 厚径 器高	残存	調整・特徴	図版	登錄
1	須恵器／片	SK1269／堆	— 9.7 —	(体下～底)1/2	内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→ナデ	58-3 R487	
2	土師器／有孔鉢	SK1269／堆	— 6.3 —	(底)1/3	外：ヨコナデ→ナデ/ユビオサエ 内：ヘラナデ 底：ナデ 孔あり	58-1+2 R289	
3	石製品／砥石	SK1273／堆	— — —		表面4面 長さ：8.5cm 幅：5.9cm 厚さ：4.4cm 重さ：263g	58-6 R321	
4	石器	SK1276／堆	— — —		黒曜石 長さ：3.8cm 幅：4.6cm 厚さ：1.9cm 重さ：33.3g	58-8 R325	
5	土師器／壺	P170／瀬方	10.2 3.2 5.3	完形	外：ヘラケズリ→ヨコナデ/ナデ→ヘラミガキ 内：ヨコナデ→ナラナデ→ヘラミガキ	58-4 R288	
6	土師器／有孔鉢	P172／瀬方	— — —	(底)1/3	調整不明 孔径 2.3cm	58-7 R244	
7	須恵器／蓋	P184／瀬方	16.4 — 3.9	(底～つまみ)1/4	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内：ロクロナデ つまみ：ロクロナデ 径 2.6cm 皿状つまみ	58-5 R252	

第110図 K-3区 その他土坑・ピット出土遺物



No.	種類/器種	遺構/層	測量(cm)		残存	調整・特徴	回収	登錄
			口幅	底径				
1	土師器／鉢	SD1266／堆下	15.8	—	—	(口～体下)1/4 (脚)1/2	外：ヘラケズリ / ヨコナデ→ヘラミガキ 内：ヘラミガキ / ヨコナデ→ヘラミガキ	58-11 R263
2	土師器／高环	SD1266／堆下	—	—	—	(环)1/6 (脚)1/2	环 内：ヘラミガキか→黒色處理 脚 外：ヘラケズリ 内：ヘラナデ	59-6 R238
3	土師器／高环	SD1266／堆下	—	—	—	(脚)1/3	外：ヘラケズリ	58-12 R239
4	土師器／高环	SD1266／堆下	—	—	—	(环)1/8 (脚)1/3	外：ヘラミガキ	58-13 R275
5	土師器／高环	SD1266／堆下	11.6	—	—	(环)1/3 (脚)1/3	环 調整不明 脚 外：ヘラミガキ 内：ヘラミガキ / ヨコナデ	59-2 R264
6	土師器／酒台	SD1266／堆下	10.6	8.5	—	(环)1/6 (脚)1/2	外：ハケメ / ヨコナデ 内：ヨコナデ 外：ハケメ 内：ヨコナデ / ユビオサエ 透かし穴5	59-4 R265
7	土師器／有孔钵	SD1266／堆下	—	—	—	(脚下～底)1/4	外：手持ち→ヘラケズリ 内：摩滅、孔径：1.8cm	58-14 R250
8	土師器／壺	SD1266／堆下	12.4	—	—	(口)1/4	外：ヨコナデ→ハケメ 内：ハケメ / ヨコナデ	59-5 R277
9	土師器／壺	SD1266／堆下	25.0	—	—	(口)1/2	外：ハラミガキ 内：ヨコナデ 複合口縁	59-1 R258
10	土師器／壺	SD1266／堆下	—	5.8	—	(脚)1/4 (或)ほぼ完形	外：ハケメ 内：ヘラナデ	59-8 R257
11	土師器／壺	SD1266／堆下	—	—	—	破片	内：ヨコナデ 複合口縁	58-15 R314
12	土師器／壺	SD1266／堆下	—	—	—	破片	内：ヨコナデ 外面に刷文裏面赤彩 二重口縁	58-16 R276
13	土師器／壺	SD1266／堆下	—	—	—	(脚)1/6	外：ヘラケズリ / ハケメ→ヘラミガキ / ヨコナデ 内：ヘラナデ	58-10 R261

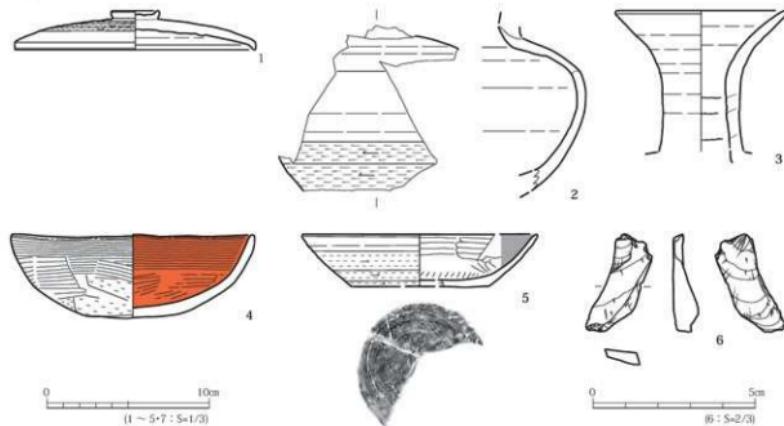
第111図 K-3区 SD1266 河川跡出土遺物 (1)



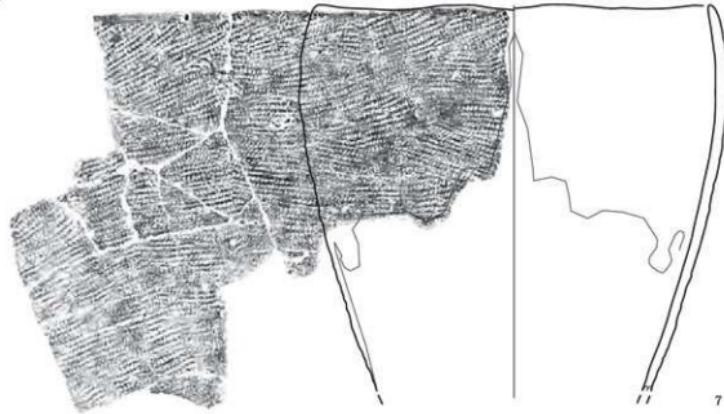
No.	種別/器種	遺構/層	法量(cm)			残存	調整・特徴	回収	登録
			口径	底深	高さ				
1	土師器/灰	SD1266 / 埋下	-	2.1	-	(削~底)1/4	外:ヘラケズリかへラミガキ 内:ナデ 番:ナデ	59.7	R279
2	土師器/灰	SD1266 / 埋下	-	-	-	破片	外:ヘラケズリかへラミガキ 内:ナデ 番:ナデ	60.4	R312
3	土師器/灰	SD1266 / 埋下	-	-	-	破片	外内:ヨコナデ 南合口縫	60.5	R313
4	土師器/灰	SD1266 / 埋	-	-	-	破片	外:ヨコナデ=ビオサエ 内:ヨコナデ 南合口縫	60.3	R311
5	土師器/灰	SD1266 / 埋	20.0	-	-	(口~削上)1/4	外:ヨコナデ/ヘラケズリ→ハケメ 内:ヨコナデ→ヘラナデ	59.9	R260
6	土師器/灰	SD1266 / 埋下	-	8.9	-	(削1/8 底1/2)	外:ヘラケズリ→ハケメ 内:ヘラナデか	59.3	R262
7	土師器/灰	SD1266 / 埋下	20.5	-	-	(口~削上)1/2	外:ヨコナデ=ハケメ 内:ヘラナデ/ヨコナデ→ハケメ	58.9	R266
8	土師器/灰	SD1266 / 埋	-	5.6	-	(削~底)1/3	外:ヘラケズリ→ハケメ→ヘラナデ 内:ヘラナデ	60.1	R259
9	中空陶器/灰	SD1266 / イカク	-	-	-	破片	外内:ナデ 伊豆斑	60.2	R282

第112図 K-3区 SD1266 河川跡出土遺物 (2)

IV層

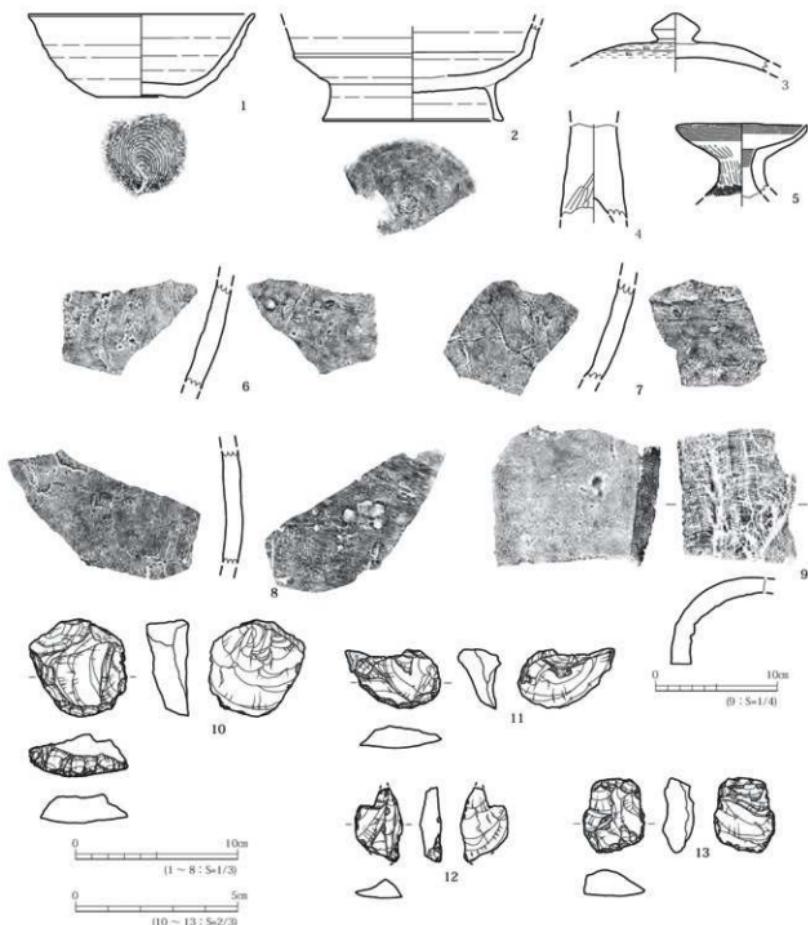


II層



No.	種別／器種	遺構／層	法面(cm)			残存	調整・特徴	図版	登録
			口徑	底径	高さ				
1	漁具器／縄	IV層	14.7	—	2.4	(口～つまみ)1/2	外：クロナデ→8転ヘラケズリ 内：クロナデ→ナデ つまみ：クロナデ 径2.8cm 球状つまみ	60-6	R253
2	調理器／壺か	IV層	—	—	—	(製)1/6	外：クロナデ→8転ヘラケズリ 内：クロナデ 面網付合む	60-9	R272
3	須世器／長筒壺	IV層	10.3	—	—	(口～頭)1/2	外：クロナデ 自然動付着	60-10	R251
4	土師器／环	IV層	14.8	—	5.1	完形	外：ヘラケズリ→ヨコナデ→ヘラミガキ 内：ヘラミガキ→ヨコナデ 赤彩	60-7	R287
5	ロクロ土師器／环	IV層	14.4	8.4	3.2	(口～頭)1/3 (底)3/4	外：クロナデ→8転ヘラケズリ 内：ヘラミガキ→黑色処理 底：静止系切→回転ヘラケズリ	60-8	R256
6	石器	IV層	—	—	—	—	黒曜石片 長さ：3.0cm 幅：2.1cm 厚さ：0.8cm 重さ：1.9g	61-15	R324
7	縄文土器／深鉢	II層	24.0	—	—	(口～体上)1/3	縄文LR	60-11	R285

第113図 K-3区 IV層・II層出土遺物



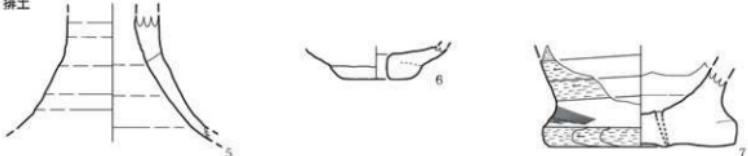
No.	種別/器種	遺構/面	法寸(cm)			残存	調整・特徴	回収	登録
			口径	底径	高さ				
1	領底器/环	表土	13.8	5.5	5.1	(口~体)1/4 (底)元形	外内:ロクロナデ 底:回転系切	61-1	R270
2	領底器/环	表土	-	11.0	-	(体下~高台)1/3	外内:ロクロナデ 底:回転ヘラケズリ高台取り付け	61-2	R246
3	領底器/蓋	表土	-	-	-	(体~つまみ)1/4	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ~回転ヘラケズリ つまみ:ロクロナデ 直2.9cm 宝珠形つまみ	61-7	R255
4	土器器/高杯	表土	-	-	-	(脚)1/4	外:ニラミガキ	61-8	R486
5	土器器/脚	表土	8.0	-	-	(环~脚)1/3	环:外:ヨコナデ~ナデ 内:ヨコナデ 脚:外:ハケメ	61-3	R269
6	中世陶器/器鉢	表土	-	-	-	器片	外:ロクロナデ~ラナデ 内:ロクロナデ 伊豆須瀬	61-9	R292
7	中世陶器/器	表土	-	-	-	器片	外:ヘラナデ 内:ナデ 伊豆須瀬	61-11	R293
8	中世陶器/器	表土	-	-	-	器片	外:ナデ~ヘラナデ 内:ナデ 内面摩耗 横跡:丸用か 伊豆須瀬	61-12	R294
9	丸瓦	表土	-	-	-	器片	四面:ロクロナデ 凸部:布目 端部:ヘラケズリ 長さ:10.5cm 幅:10.6cm 厚さ:1.7cm	61-13	R247
10	石器	表土	-	-	-	黒曜石器片	長さ:3.0cm 幅:3.1cm 厚さ:1.3cm 重さ:9.9g	61-16	R323-1
11	石器	表土	-	-	-	黒曜石器片	長さ:1.8cm 幅:2.9cm 厚さ:1.2cm 重さ:3.8g	61-17	R323-2
12	石器	表土	-	-	-	黒曜石器片	長さ:2.3cm 幅:1.5cm 厚さ:0.6cm 重さ:1.5g	61-18	R323-3
13	石器	表土	-	-	-	黒曜石器片	長さ:2.3cm 幅:1.9cm 厚さ:0.9cm 重さ:3.5g	61-19	R323-4

第114図 K-3区 表土出土遺物

遺構確認



表土・排土



No.	種別／器種	遺構／層	深度(cm)			残存	調整・特徴	図版	聲
			口押	底埋	幅				
1	土師器／ミニチ ニア土器	イカク	—	4.5	—	(体下～底)1/3	外：手持ちヘラケズリ 内：ナデ 底：ナデ	61-4	R271
2	平瓦	イカク	—	—	—	破片	凹面：ナデ 凸面：格子タタキ 長さ：8.0cm 幅：6.4cm 厚さ：2.7cm	61-14	R254
3	石器	イカク	—	—	—	—	黒曜石削片 長さ：3.0cm 幅：2.0cm 厚さ：0.6cm 重さ：2.9g	61-20	R322-1
4	石器	イカク	—	—	—	—	黒曜石削片 長さ：3.0cm 幅：2.0cm 厚さ：0.8cm 重さ：3.0g	61-21	R322-2
5	調査用／高环	耕土	—	—	—	(脚)1/3	外内：ロクロナデ	61-5	R248
6	土師器／有孔鉢	耕土	—	—	—	底)1/3	外内：摩滅 孔径：1.3cm	61-10	R249
7	調査用／耕跡	表土	—	11.5	—	(体下)1/4 (底) 完形	外：ロクロナデ 回転ヘラケズリナデ 内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切 空孔あり	61-6	R291

第 115 図 K-3 区 遺構確認面・排土・表探出土遺物

(4) K-12 区

調査区北部には河川跡と灰白色火山灰を含む遺物包含層が広がっている。遺構は中央部から南部にかけて分布しており、掘立柱建物跡 1 棟、竪穴建物跡 1 棟、井戸跡 1 基のほか、溝跡・土坑・ピットを検出した。

①掘立柱建物跡

【SB1549 掘立柱建物跡】(平面図：第 116 図)

【位置】中央部の南寄りに位置し、西側と北側の柱列の一部を検出した。

【重複】SD1459・1460 より古い。

【柱間数】東西 2 間以上、南北 2 間以上である。

【検出状況】柱穴を 5 個検出し、1 個で柱痕跡を確認した。

【平面規模】東西が北側柱列で総長 6.0m、柱間寸法は 3.0m 等間隔、南北が西側柱列で総長 5.0m、柱間寸法は北から 2.3m - 2.7m である。

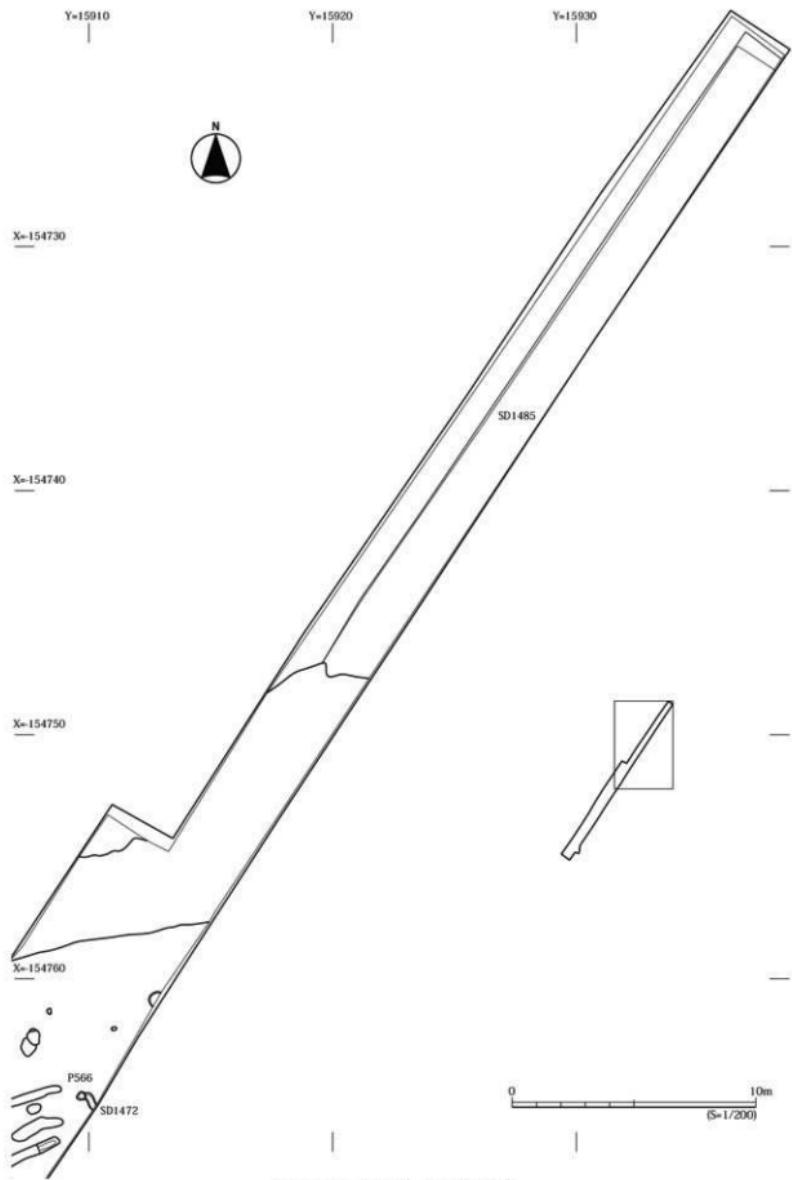
【方向】西側柱列で測ると北で西に 8° 傾む。

【柱穴】掘方は長軸 0.4 ~ 0.9m、短軸 0.3 ~ 0.7m の隅丸方形で、柱痕跡は長軸 0.1m である。

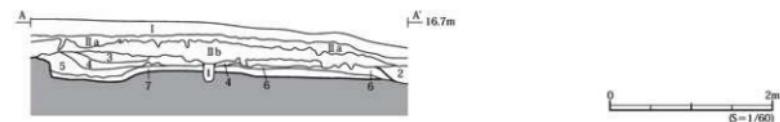
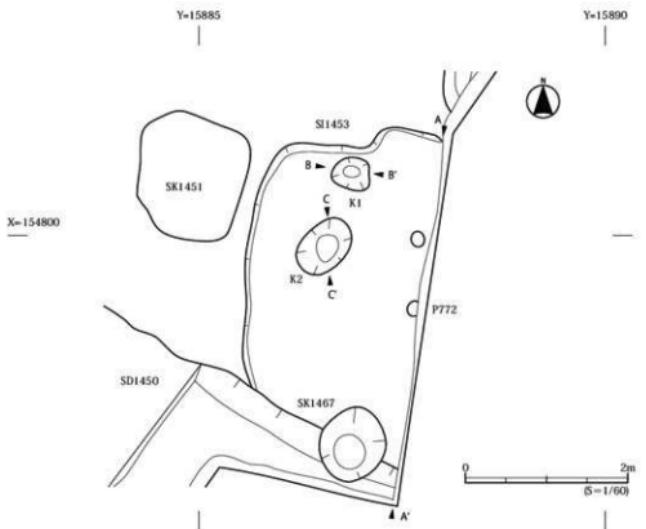
【出土遺物】出土しなかった。



第 116 図 K-12 区 平面図 (1)



第 117 図 K-12 区 平面図 (2)



遺構	層	土色	土性	備考
P772	1	暗褐色 (10YR3/4)	シルト	地山粒を少し含む。
SD1450	2	暗褐色 (10YR3/4)	砂質シルト	地山少ブロックを含む。
SI1453	3	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	炭化物を含む。
	4	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山ブロックを含み、炭化物・鐵を含む。
	5	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含み、炭化物・鐵を多く含む。
	6	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。
	7	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。



遺構	層	土色	土性	備考
SI1453-K1	1	にぶい黄褐色 (10YR3/3)	シルト	地山ブロックを多く含む。
遺構	層	土色	土性	備考
SI1453-K2	1	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	地山ブロックを多く含み、炭化物を少し含む。
	2	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	地山ブロックを含む。
	3	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山ブロックを多く含む。

第118図 K-12区 SI1453 穫穴建物跡平面図・断面図

②竪穴建物跡

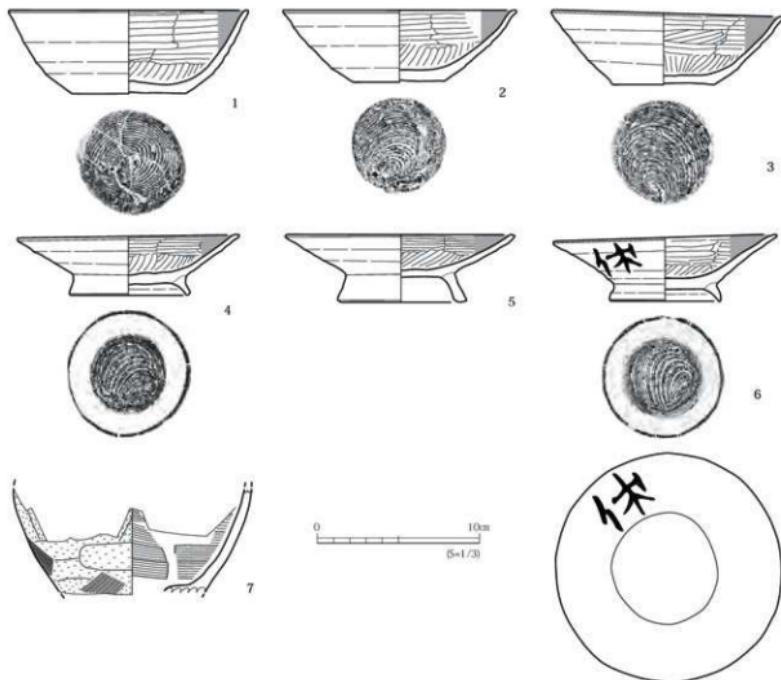
【SI1453 竪穴建物跡】(平面図:第 116・118 図、断面図:第 118 図、遺物:第 119 図、写真図版:35-2・3)

【位置】南部に位置し、西辺と北辺の一部を検出した。

【重複】 SD1450、SK1467 より古い。

【平面形・規模】 圓丸方形とみられ、東西 2.1m 以上、南北 3.9m である。

【方向】 西辺で測ると北で 10° 東へ偏る。



No.	種別／基盤	遺構／層	法面 口徑 底径 高さ	残存	調整・特徴	図版	登録
1	ロクロ土師器／ 环	SI1453／床直	14.6 7.0 5.1 (口～底)1/2		外:ロクロナデ 内:ヘラミガキ→黒色処理 底:削軸系切	62-1	R440
2	ロクロ土師器／ 环	SI1453／床	14.2 5.6 4.4 ほぼ円形		外:ロクロナデ 内:ヘラミガキ→黒色処理 底:削軸系切	62-2	R446
3	ロクロ土師器／ 环	SI1453／床	14.1 6.2 4.6 ほぼ円形		外:ロクロナデ 内:ヘラミガキ→黒色処理 底:削軸系切	62-3	R455
4	ロクロ土師器／ 高台直	SI1453／床	13.6 7.2 3.7 (口～底)4/5 (底)丸形	取り付け	外:ロクロナデ 内:ヘラミガキ→黒色処理 底:削軸系切→高台	62-4	R456
5	ロクロ土師器／ 高台直	SI1453／床	13.8 7.3 4.2 完形	取り付け	外:ロクロナデ 内:ヘラミガキ→黒色処理 底:削軸系切	62-5	R457
6	ロクロ土師器／ 高台直	SI1453／床	13.6 6.8 4.1 完形		外:ロクロナデ 内:ヘラミガキ→黒色処理 底:削軸系切→高台 体部外側に墨書き「木」正粒	62-6・10	R439
7	土師器／ 環	SI1453-K1／地	— 9.0 — (削下～底)1/4		外:ハケメ／ハケズリ 内:ヘラナデ	62-7	R441

第 119 図 K-12 区 SI1453 竪穴建物跡出土遺物

【壁】 地山を壁とし、床面からほぼ垂直に立ち上がる。高さは、最も残りの良い調査区南東壁の南側で0.12mである。

【床面】 堀方埋土を床面としている。床面は北側がやや低い。

【主柱穴】 検出した範囲では確認できなかった。

【カマド】 煙道や側壁などは残っていないが、北辺に張り出し部分があり、その周辺に粘土・焼土・炭化物のブロックが集中していることから、ここにカマドがあったと考えられる。

【周溝】 検出した範囲では確認できなかった。

【堆積土】 3層に分かれ、自然堆積である。

【出土遺物】 床面及び床面直上からロクロ土師器环・高台皿が出土した。カマド破壊時に残されたものとみられる。

③井戸跡

【SE1455 井戸跡】(平面図:第116図、断面図:第120図、写真図版:35-4)

【位置】 南部

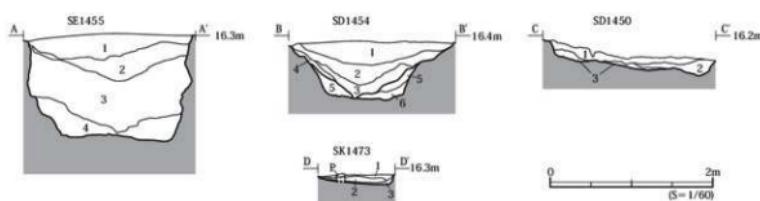
【重複関係】 なし

【規模・構造】 平面形は長径2.1mの隅丸方形であり、深さ1.3mである。素掘りの井戸である。

【断面形】 不整な箱型である。

【堆積土】 4層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】 須恵器环・甕、土師器环・甕、ロクロ土師器环、赤焼土器环の破片が出土した。



遺構	層	土色	土性	備考
SE1455	1	暗褐色 (10YR3/4)	砂質シルト	地山ブロックを含む。
	2	褐色 (10YR4/6)	砂質シルト	暗褐色 (10YR3/4)砂質シルトを多く含む。
	3	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	にふく暗褐色 (10YR5/3)砂の塊。
にふく暗褐色 (10YR5/4)		シルト	黒褐色 (10YR2/3)砂質シルトを多く含む。	自然堆積土

遺構	層	土色	土性	備考
SD1454a	1	暗褐色 (10YR3/4)	砂質シルト	地山ブロック・炭化物を少し含む。
	2	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	地山ブロック・炭化物を少し含む。
	3	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	炭化物を含む。
SD1454b	4	暗褐色 (10YR3/4)	砂質シルト	地山ブロック・炭化物を少し含む。
	5	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	地山ブロックを多く含み、炭化物を少し含む。
	6	明褐色 (10YR6/8)	シルト	地山ブロックを多く含む。

遺構	層	土色	土性	備考
SD1450	1	暗褐色 (10YR3/4)	砂質シルト	地山を少し含む。
	2	暗褐色 (10YR3/4)	砂質シルト	地山ブロックを少し含む。
	3	褐色 (10YR4/6)	シルト	にふく暗褐色 (10YR6/3)粘土を少し含む。

遺構	層	土色	土性	備考
SK1473	1	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	炭化物・地山を含む。
	2	にふく暗褐色 (10YR5/4)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む。
	3	黄褐色 (10YR5/6)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む。

第120図 K-12区 井戸跡・溝跡・土坑断面図

④溝跡

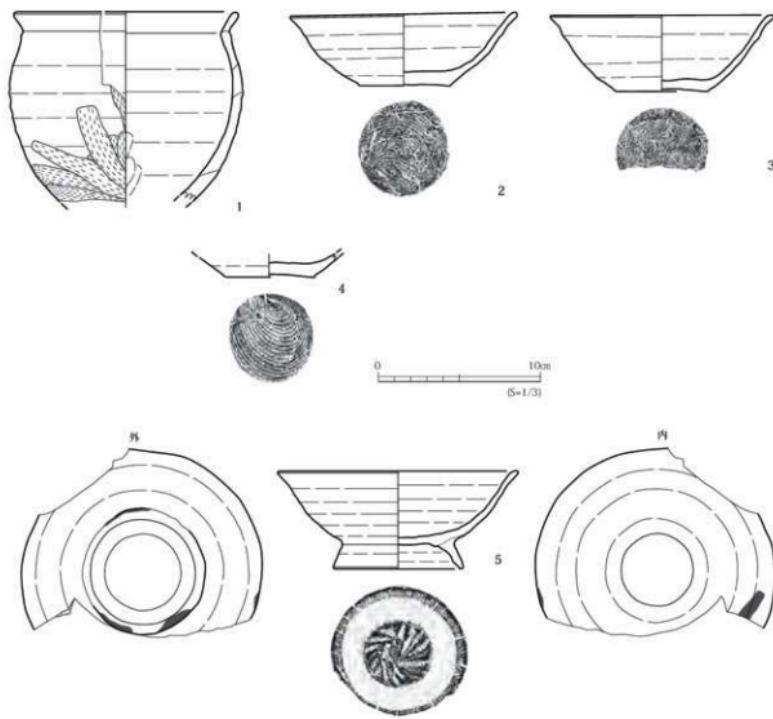
【SD1454 溝跡】(平面図: 第 116 図、断面図: 第 120 図)

一度掘り直した痕跡が認められることから、2 期 (a → b) あると考えられる。

〔位置〕 南部

〔複重関係〕 SD1474 より新しい。

〔規模〕 北西—南東方向で 7.6m 検出した。a 期で上幅は 1.2m 以上、下幅は 0.9m、深さは 0.36m 以上である。b 期で上幅は 1.7 ~ 2.1m 以上、下幅は 0.4m、深さは 0.6m である。



No.	種別／器種	遺構／層	重量(cm)			残存	調整・特徴	回収	登録
			口径	底径	高さ				
1	クロコ土器群／小甕	SK1473／1層	13.4	—	[11.6]	(口～側)4/5	外：クロコナデ→手持ちヘラケズリ 内：クロコナデ→スピナデ	63-1	R448
2	赤埴土器／环	SK1473／1層	13.6	5.7	4.4	ほぼ完形	外内：クロコナデ 底：回転舟切	62-14	R447
3	赤埴土器／环	SK1473／1層	13.4	5.6	4.7	ほぼ完形	外内：クロコナデ 底：回転舟切	63-2	R458
4	赤埴土器／环	SK1473／1層	—	5.6	—	(底)4/5	外内：クロコナデ 底：回転舟切	62-16	R437
5	赤埴土器／高台	SK1473／1層	14.6	8.0	6.0	(口～底)1/2 (底)4/5	外内：クロコナデ 底：回転舟切か→ナデ→高台取り付け EHE。高台部分に油煙あり	62-15	R459

第 121 図 K-12 区 SK1473 土坑出土遺物

【断面形】 a期は逆台形とみられ、b期はV字形である。

【堆積土】 a期で2層以上、b期で4層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】 須恵器壺・甕、土師器壺・甕、ロクロ土師器壺、赤焼土器壺、瓦の破片が出土した。

⑤土坑

【SK1473 土坑】(平面図:第116図、断面図:第120図、写真図版:35-5・6)

【位置】 南部

【重複関係】 なし

【規模】 平面形は、径0.9mの円形である。深さ0.1mである。

【断面形】 皿形である。

【堆積土】 3層に分かれ、いずれも人為堆積である。

【出土遺物】 ロクロ土師器壺、赤焼土器壺などが出土した。

⑥河川跡・自然流路跡

【SD1485 河川跡】(平面図:第117図、遺物:第122図、写真図版:35-7)

【位置】 北部

【重複関係】 なし

【規模】 東西方向で7.5m検出した。上幅は33.2m以上、深さは0.58mである。

【断面形】 逆台形とみられる。

【堆積土】 4層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】 須恵器甕、土師器壺などが出土した。

【SD1450 自然流路跡】(平面図:第116・118図、断面図:第118・120図)

【位置】 南部

【重複関係】 SK1467より古く、SI1453より新しい。

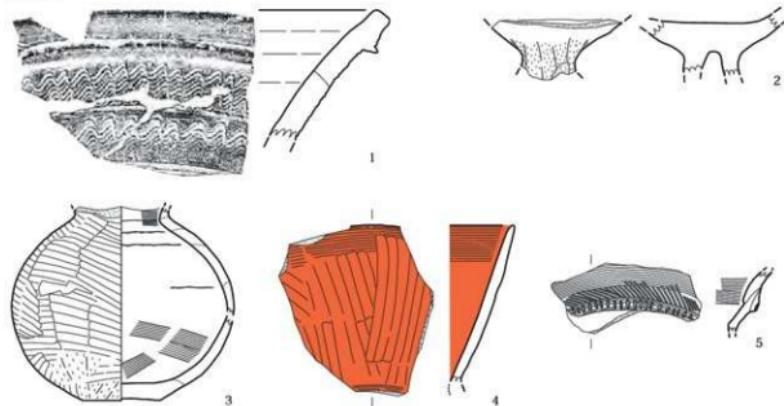
【規模】 北西—南東方向で7.3m検出した。上幅は1.9～2.2m、下幅は1.6m、深さは0.18mである。

【断面形】 皿形である。

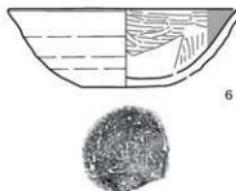
【堆積土】 3層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】 須恵器壺・甕、土師器壺・甕、赤焼土器壺、瓦の小片が出土した。

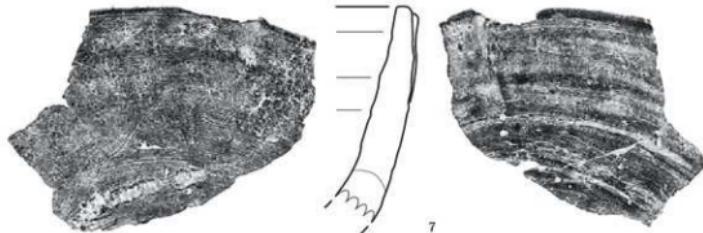
SD1485



P545



P566

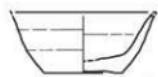
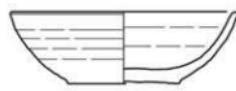


0 10cm
5=1/3

No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm)	残存	調査・特徴	回数	登録	
			口径 直徑 高さ					
1	調節器／鏡	SD1485／堆	—	—	—	破碎片	外：ロクロナデ→標識波文状 内：ロクロナデ→ヘラナデ	62-11 R451
2	土師器／高环	SD1485／堆	—	—	(环)一部 (脚)1/3		外：ヘラケズリ 内：不明	62-8 R450
3	土師器／壺	SD1485／堆	—	4.8	—	(胴)4/5	外：ヘラケズリ→ヘラミガキ 内：ヨコナデ／ナデ	62-9 R460
4	土師器／壺	SD1485／下層	—	—	—	破碎片	外：ヨコナデ→ヘラミガキ 内：ヨコナデ／ヘラナデか 色面赤	62-13 R449
5	土師器／壺	SD1485／下層	—	—	—	破碎片	外：ハケヌメ→ヨコナデ 内：ヨコナデ／ヘラナデ 斜面口縁	62-12 R463
6	ロクロ土師器／片	P545／堆	14.2 5.0 4.8	(口～体)1/4 (底)1/5			外：ロクロナデ 内：ヘラミガキ→黒色処理 底：回転系切	63-3 R432
7	中世陶器／罐	P566／堆	—	—	(口～体上)1/6		外：ロクロナデ→ナデ／ユビオサエ 内：ロクロナデ 片口縁 伊豆酒瓶	63-8・9 R453

第122図 K-12区 SD1485 河川跡・ピット出土遺物

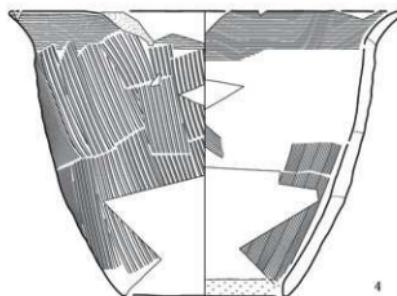
II 層



3



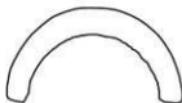
2



4



5



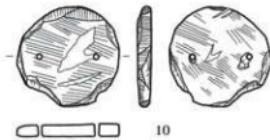
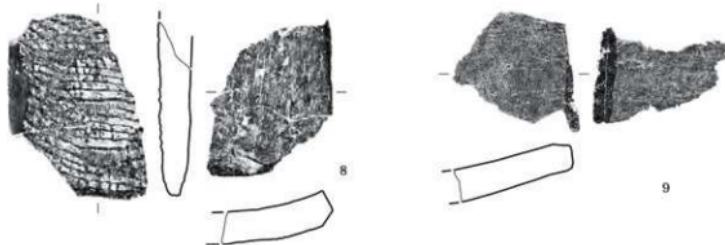
6



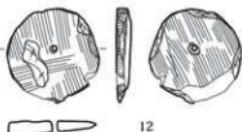
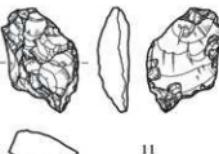
7



II層



遺構確認



0 10cm
(8・9・5=1/4)

0 5cm
(10～13・5=2/3)

No.	種別／器種	遺構／層	法面 口径	法面 底径	高さ	残存	調整・特徴	回収	登録
1	留痕器／环	II層	13.6	7.0	4.4	(口一底)1/3 (底)4/5	外内：ロクロナデ 底：回転系切 外：ヨコナデ 赤彩 内：ナデか 破片	63-4	R442
2	土師器／环	II層	—	—	—	—	外：ヨコナデ 赤彩 内：ナデか 破片	63-7	R444
3	ロクロ土師器／环	II層	(4.9)	4.8	(3.5)	(底)4/5	外内：ロクロナデ 底：回転系切 外：ヨコナデ→ナメ 内：ヨコナデ→ヘナナデ→ヘラケズリ	63-5	R438
4	土師器／瓶	II層	23.8	10.1	17.4	(口一底)1/4	四面：布目ナデ 凸面：ロクロナデ→平行タタキ 端部：ヘラケズリ 又：ヨコナデ→ナメ	63-6	R461
5	丸瓦	II層	—	—	—	破片	四面：布目ナデ 凸面：ロクロナデ→平行タタキ 端部：ヘラケズリ 又：ヨコナデ→ナメ	63-10	R462
6	丸瓦	II層	—	—	—	破片	四面：布目 ナデ：12.3cm 厚さ：2.2cm	64-3	R482
7	丸瓦	II層	—	—	—	破片	四面：布目 ナデ：10.9cm 厚さ：1.6cm	64-4	R481
8	平瓦	II層	—	—	—	破片	四面：布目ナデ 凸面：平行タタキ 端部：ヘラケズリ 又：ヨコナデ→ナデ 凸面：ナデ 端部：ヘラケズリ	64-1	R468
9	平瓦	II層	—	—	—	破片	四面：布目ナデ 凸面：平行タタキ 端部：ヘラケズリ 又：ヨコナデ→ナデ 凸面：ナデ 端部：ヘラケズリ	64-2	R483
10	石器／有孔円盤	II層	—	—	—	—	孔2つ、粘板岩製 長さ：3.1cm 幅：3.1cm 厚さ：0.4cm 重さ：6.2g	64-6	R467
11	石器	南イカク	—	—	—	—	黒曜石 長さ：3.2cm 幅：2.4cm 厚さ：1.0cm 重さ：6.2g	64-5	R464
12	石器／有孔円盤	南イカク	—	—	—	—	孔1つ、粘板岩製 長さ：2.9cm 幅：2.8cm 厚さ：0.5cm 重さ：3.9g	64-7	R465
13	石器／有孔円盤	中央イカク	—	—	—	—	孔2つ、粘板岩製 長さ：4.6cm 幅：4.8cm 厚さ：0.5cm 重さ：14.4g	64-8	R466

第123図 K-12区 II層・遺構確認出土遺物

(5) K-5 区、K-5 区北・中央・南

K 区で最も遺構密度が高い調査区であり、掘立柱建物跡 10 棟、竪穴建物跡 3 棟、井戸跡 3 基のほか、河川跡や多数の溝跡、土坑、ピット等を検出した。

①掘立柱建物跡

【SB1488 掘立柱建物跡】(平面図: 第 127・128 図、断面図: 第 128 図)

【位置】K-5 南部に位置し、東側と南側の柱列を検出した。

【重複】SK1400・1401・1403 より古く、SN1478 より新しい。

【柱間数】東西 2 間以上、南北 3 間以上である。

【検出状況】柱穴を 5 個検出し、4 個で柱痕跡を確認した。

【平面規模】東西が南側柱列で推定総長 4.3m、柱間寸法は西から 2.1m - 2.2m、南北が東側柱列で推定総長 6.6m 以上、柱間寸法は北から 2.1m - 2.4m - 2.1m である。

【方向】東側柱列で測ると北で東に 3° 傾る。

【柱穴】掘方は長軸 0.4 ~ 0.5m、短軸 0.3 ~ 0.4m、深さ 0.15 ~ 0.3m の隅丸方形である。柱痕跡は直径 0.15 ~ 0.3m の円形である。

【出土遺物】掘方埋土から須恵器壺、甕、土師器壺が出土した。

【SB1489 掘立柱建物跡】(平面図: 第 127・129 図、断面図: 第 129 図)

【位置】K-5 南部に位置し、北側・東側・南側柱列の一部を検出した。

【重複】SX1394 より古い。

【柱間数・棟方向】桁行 2 間以上、南東隅柱が調査区外で確認できないが、梁行 2 間の東西棟とみられる。

【検出状況】柱穴を 5 個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

【平面規模】桁行が南側柱列で総長 3.5m 以上、柱間寸法は西から 1.7m - 1.8m、梁行が推定総長 3.2m、柱間寸法は北から 1.7m - 1.5m である。

【方向】東側柱列で測ると北で東に 3° 傾る。

【柱穴】掘方は長軸 0.3 ~ 0.4m、短軸 0.25 ~ 0.3m、深さ 0.1 ~ 0.3m の隅丸方形である。柱痕跡は直径 0.2m の円形である。

【出土遺物】掘方埋土から須恵器甕、土師器壺、甕が出土した。

【SB1490 掘立柱建物跡】(平面図: 第 127・129 図、断面図: 第 130 図)

【位置】K-5 南部に位置し、北側・西側・南側の柱列を検出した。

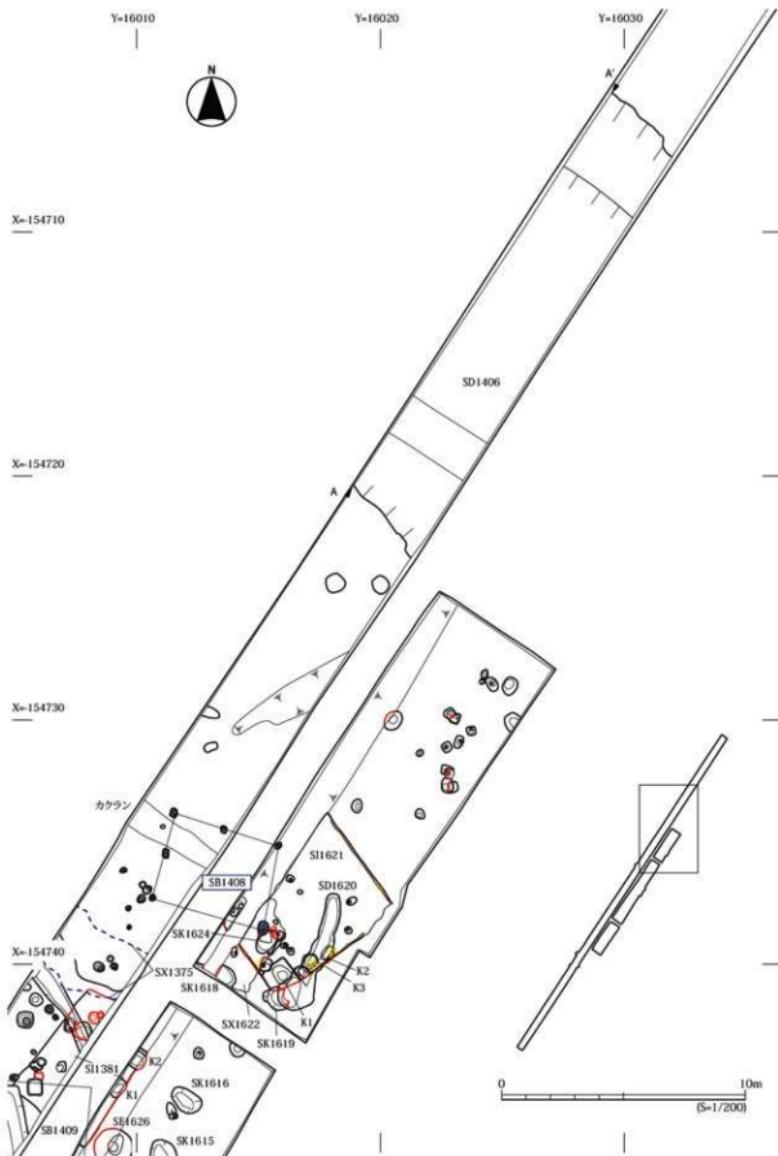
【重複】SX1394 より古い。

【柱間数・棟方向】北西隅柱・南東隅柱が調査区外で確認できないが、桁行 3 間以上、梁行 2 間の東西棟とみられる。

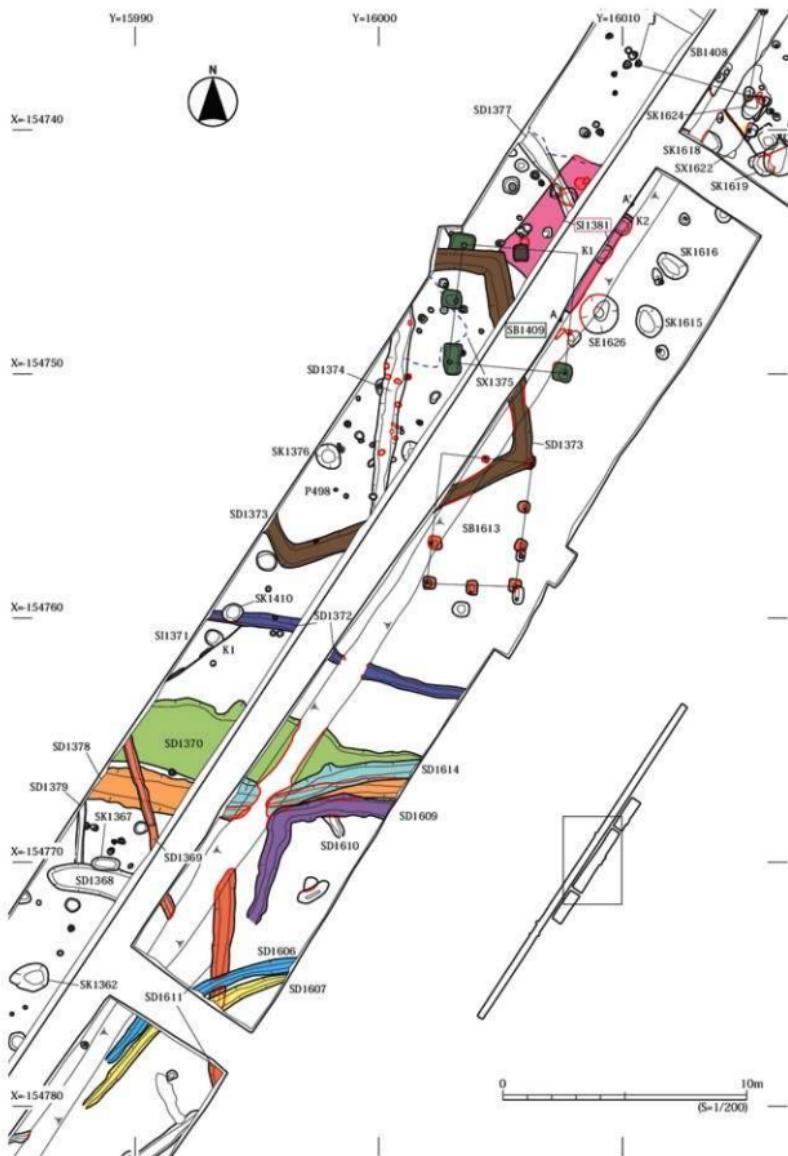
【検出状況】柱穴を 7 個検出し、5 個で柱痕跡を確認した。

【平面規模】桁行が北側柱列で推定総長 3.7m 以上、柱間寸法は西から 1.4m - 1.0m - 1.3m、梁行が推定総長 2.9m、柱間寸法は南から 1.4m - 1.5m である。

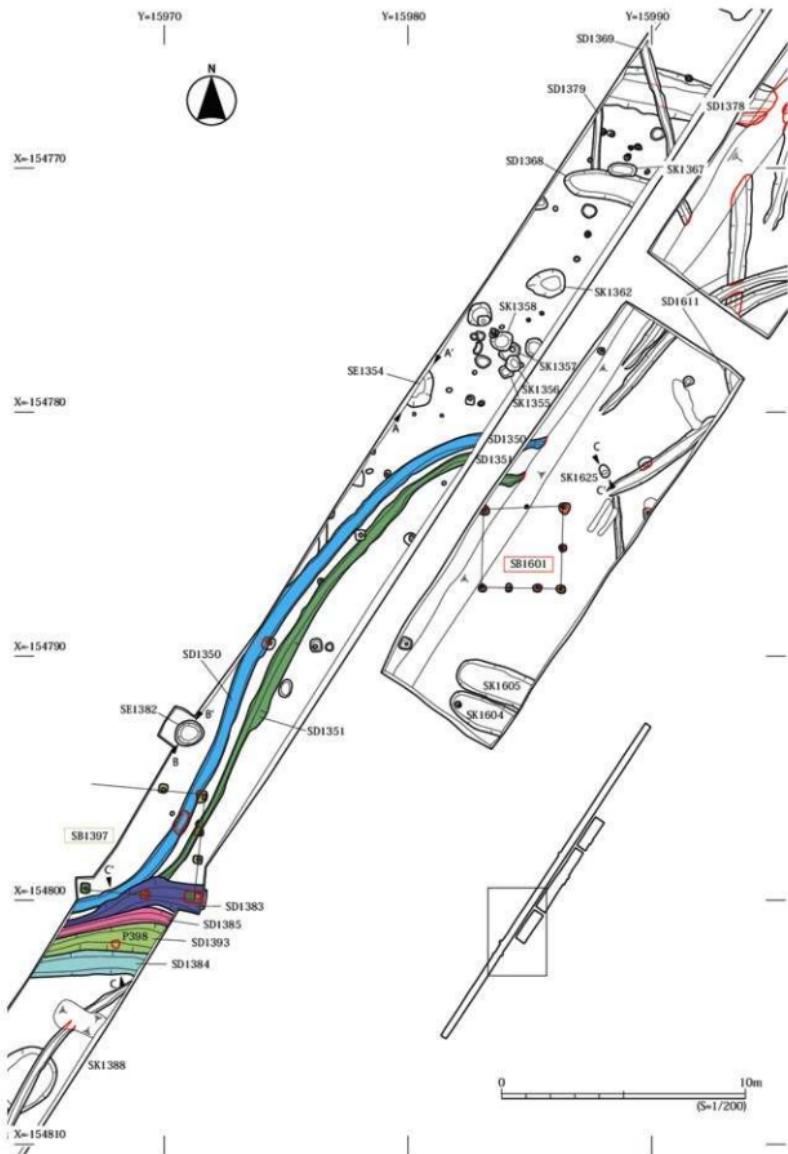
【方向】東側柱列で測ると北で西に 2° 傾る。



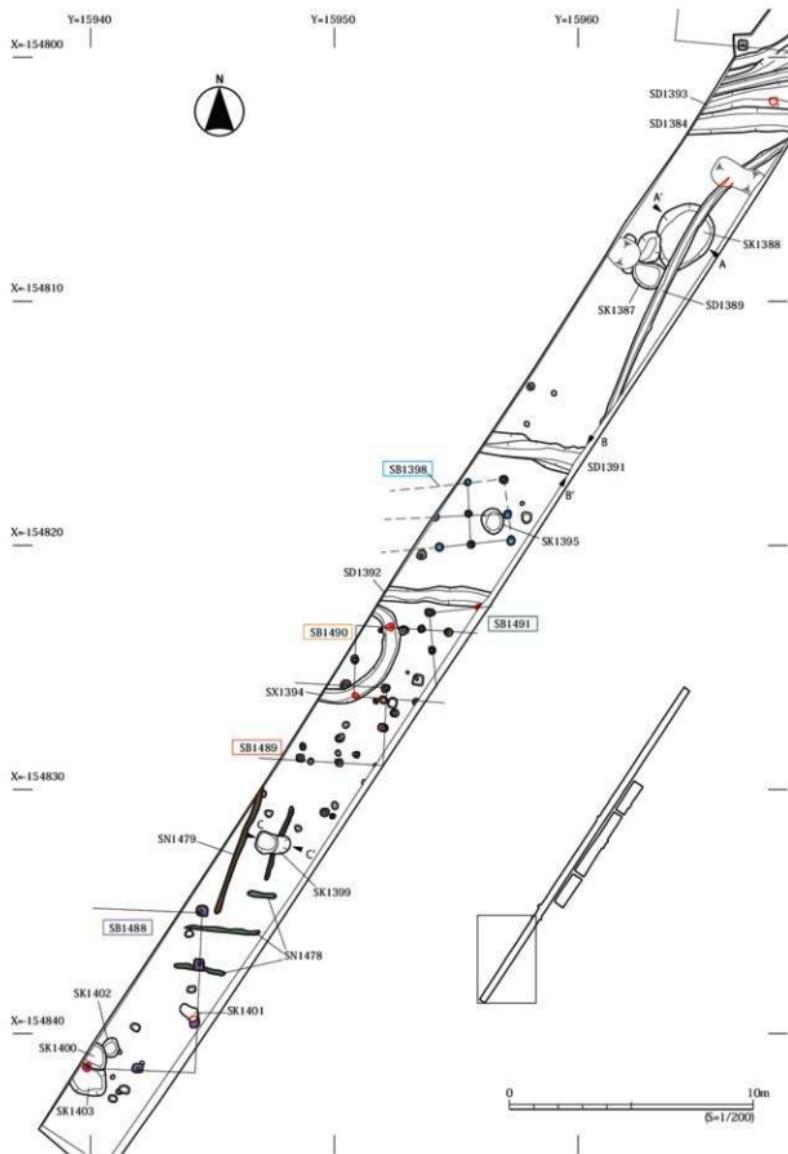
第124図 K-5区 平面図(1)



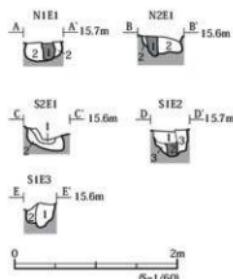
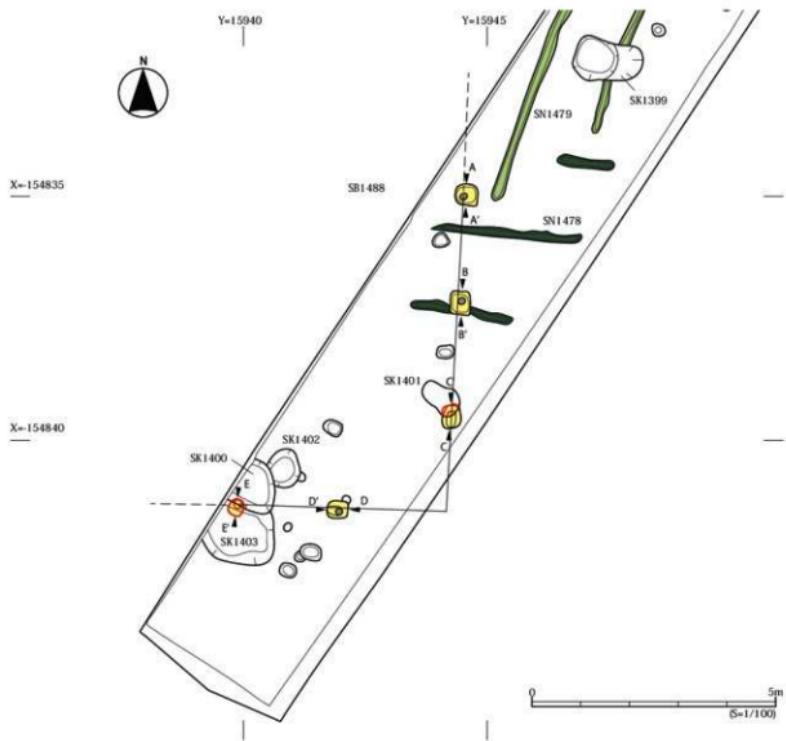
第125図 K-5区 平面図(2)



第 126 図 K-5 区 平面図 (3)

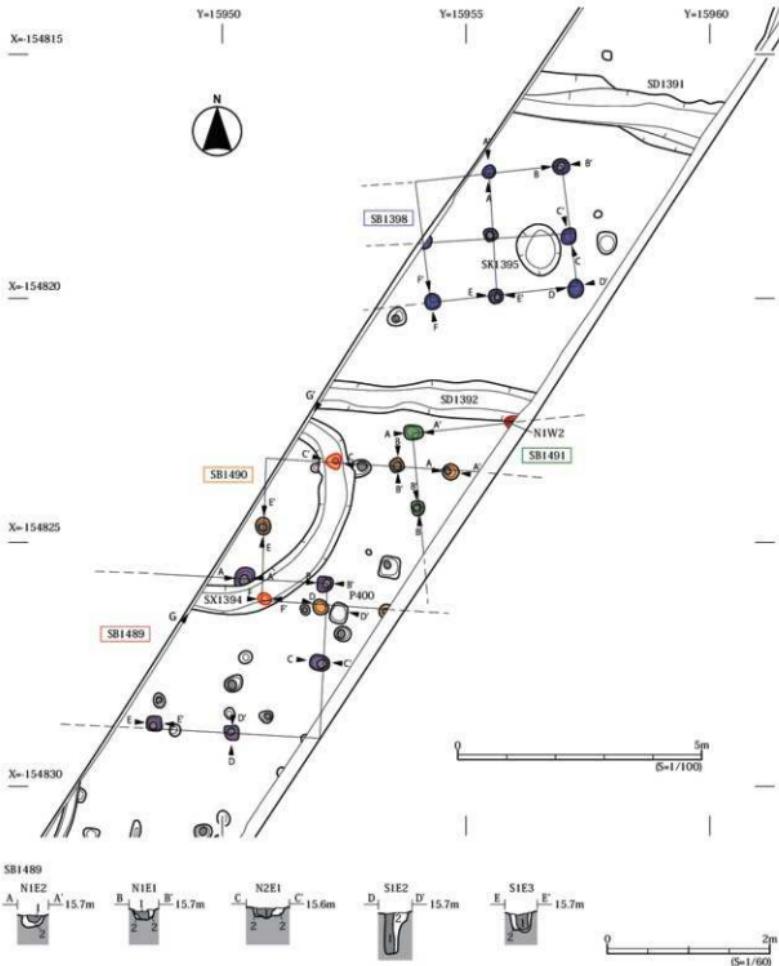


第127図 K-5区 平面図(4)



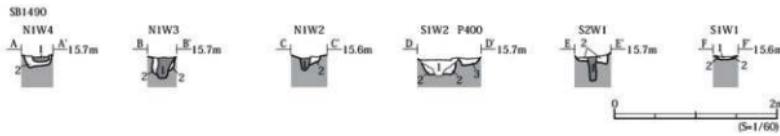
透構	層	土色	土性	備考
N1E1	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む。 柱洞跡
	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む。 擬方理土
N2E1	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロック・地山鉢を含む。 柱洞跡
	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む。 擬方理土
S2E1	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山鉢を含む。 抜取穴
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。 擬方理土
S1E2	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む。 柱洞跡
	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む。 柱洞跡
	3	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを多く含む。 擬方理土
S1E3	1	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む。 擬方理土
	2	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	地山ブロックを含む。 擬方理土

第 128 図 K-5 区 SB1488 掘立柱建物跡平面図・断面図

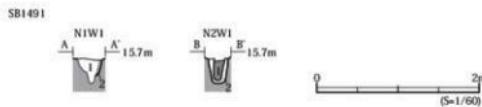


通構	層	土色	土性	備考	
SB1489	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒をわずかに含む。	柱底跡
NIE2	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒を多く含む。	欄方埋土
SB1489	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	炭化物粒をわずか・地山ブロックを含む。	柱底跡
NIE1	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを網状に多く含む。	欄方埋土
SB1489	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山ブロックを含む。	柱底跡
N2E1	2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	黒褐色 (10YR2/2) シルトを含む。	欄方埋土
SB1489	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	炭化物・礫土を少し含む。	柱底跡
SIE2	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。	欄方埋土
SB1489	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒を少し含む。	柱底跡
SIE3	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む。	欄方埋土

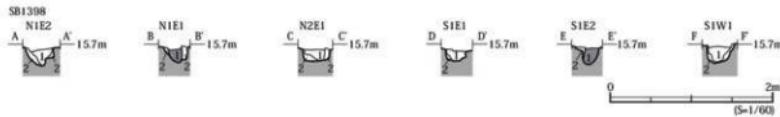
第129図 K-5区 SB1398・1489・1490・1491掘立柱建物跡平面図・断面図



透構	層	土色	土性	備考
SB1490	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒を少し含む。
NIW4	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを非常に多く含む。
SB1490	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む。
NIW3	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを多く含む。
SB1490	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む。
NIW2	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを多く含む。
SB1490	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む。
P400	2	暗褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを少しある。
SB1490	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒を含む。
SWI1	2	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒を多く含む。
SB1490	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒を含む。
SIWI	2	地山主体	シルト	黒褐色 (10YR2/3) シルトを含む。



透構	層	土色	土性	備考
SB1491	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒を少し含む。
NIW1	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む。
SB1491	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む。
N2W1	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを多く含む。



透構	層	土色	土性	備考
SB1398	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む。
NIE2	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山主体で黒褐色 (10YR2/3) シルトを含む。
SB1398	1	暗褐色 (10YR3/4)	シルト	下部に地山ブロックを崩壊状に含む。
NIE1	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む。
SB1398	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒を少し含む。
N2E1	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを多く含む。
SB1398	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを少し含む。
SIE1	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを崩壊状に非常に多く含む。
SB1398	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む。
SIE2	2	灰黒褐色 (10YR4/2)	シルト	地山ブロックを多く含む。
SB1398	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを少しある。
NIE2	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む。

第130図 K-5区 SB1491・1490・1489掘立柱建物跡断面図

【柱穴】掘方は長軸 0.3 ~ 0.4m、短軸 0.2 ~ 0.3m、深さ 0.07 ~ 0.25m の隅丸方形である。柱痕跡は直径 0.1 ~ 0.2m の円形もしくは梢円形である。

【出土遺物】掘方埋土から須恵器甕、土師器壺、甕の小片が出土した。

【SB1491 挖立柱建物跡】(平面図: 第 127・129 図、断面図: 第 130 図)

【位置】K-5 南部に位置し、北側・西側の柱列を検出した。

【重複】SD1392 より古い。

【柱間数】東西 1 間以上、南北 1 間以上である。

【検出状況】柱穴を 3 個検出し、2 個で柱痕跡を確認した。

【平面規模】東西が北側柱列で総長 2.0m 以上、南北が西側柱列で総長 1.5m 以上である。

【方向】西側柱列で測ると北で西に 5° 傾る。

【柱穴】掘方は長軸 0.3 ~ 0.4m、短軸 0.25 ~ 0.3m、深さ 0.2m の隅丸方形である。柱痕跡は直径 0.1 ~ 0.2m の円形である。

【出土遺物】堀方埋土から須恵器甕、土師器壺、甕の小片が出土した。

【SB1398 挖立柱建物跡】(平面図: 第 127・129 図、断面図: 第 130 図、写真図版: 26-5)

【位置】K-5 南部に位置し、東側・西側・南側・北側の柱列を検出した。

【重複】なし

【柱間数・棟方向】桁行 2 間以上、梁行が 2 間の東西棟総柱建物跡とみられる。

【検出状況】柱穴を 8 個検出し、3 個で柱痕跡を確認した。

【平面規模】桁行が南側柱列で総長 3.1m、柱間寸法は東から 1.7m - 1.4m、梁行が総長 2.6m、柱間寸法は北から 1.5m - 1.1m である。

【方向】東側柱列で測ると北で西に 8° 傾る。

【柱穴】掘方は長軸 0.3 ~ 0.4m、短軸 0.2 ~ 0.3m、深さ 0.1 ~ 0.28m の隅丸方形である。柱痕跡は直径 0.1 ~ 0.2m の円形もしくは梢円形である。

【出土遺物】掘方埋土より土師器甕の小片が出土した。

【SB1397 挖立柱建物跡】(平面図: 第 126・131 図、断面図: 第 131 図、写真図版: 26-6)

【位置】K-5 南部に位置し、東側・南側・北側の柱列を検出した。

【重複】SD1350・1351・1383 より古い。

【柱間数・棟方向】北西隅柱・南西隅柱が調査区外で確認できないが、桁行 2 間以上、梁行が 3 間の東西棟とみられる。

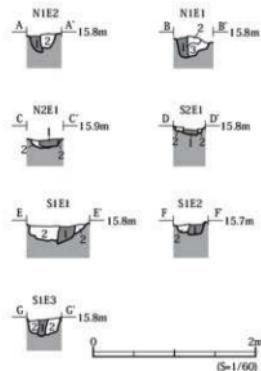
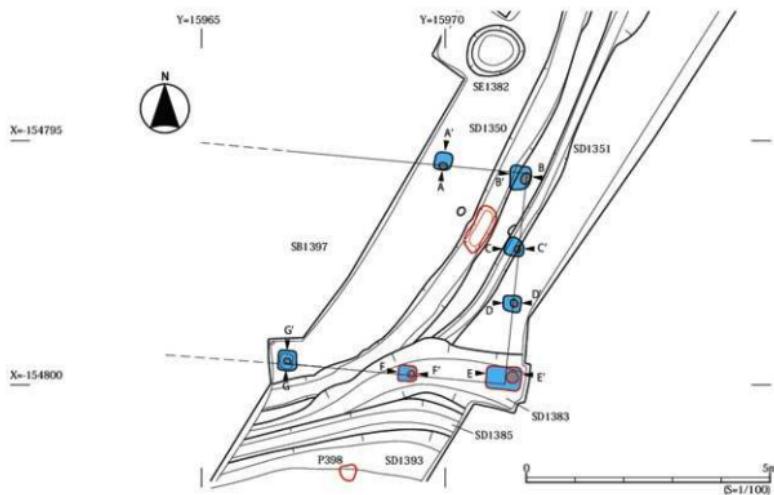
【検出状況】柱穴を 7 個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

【平面規模】桁行が南側柱列で総長 4.6m 以上、柱間寸法は東から 2.0m - 2.6m、梁行が東側柱列で総長 4.3m、柱間寸法は 1.5m - 1.2m - 1.6m である。

【方向】東側柱列で測ると北で東に 6° 傾る。

【柱穴】掘方は長軸 0.4 ~ 0.7m、短軸 0.3 ~ 0.5m、深さ 0.08 ~ 0.26m の隅丸方形である。柱痕跡は直径 0.15 ~ 0.3m の円形である。

【出土遺物】掘方埋土から土師器甕の小片が出土した。



番号	層	土色	土性	特徴
SB1397 NIE2	1	黒褐色(10YR2/2)	シルト	堆山ブロックを含む。 柱痕跡
	2	黒褐色(10YR2/2)	シルト	地山ブロックを多く含む。 掘方理土
SB1397 NIE1	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	堆山ブロックを多く含む。 柱痕跡
	2	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	堆山ブロックを多く含む。 掘方理土
	3	暗褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	堆山ブロックを多く含む。 掘方理土
SB1397 NZE1	1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山面を含む。 柱痕跡
	2	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	堆山ブロックを含む。 掘方理土
SB1397 S2E1	1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山面を含む。 柱痕跡
	2	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山面を多く含む。 掘方理土
SB1397 S1E1	1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	堆山ブロックを含む。 柱痕跡
	2	黒褐色(10YR2/3)	シルト	堆山ブロックを多く含む。 掘方理土
SB1397 S1E2	1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	堆山ブロックを含む。 柱痕跡
	2	黒褐色(10YR2/3)	シルト	堆山ブロックを含む。 掘方理土
SB1397 S1E3	1	黒褐色(10YR2/3)	砂質シルト	堆山ブロックを多く含む。 柱痕跡
	2	暗褐色(10YR3/3)	砂質シルト	堆山ブロックを多く含む。 掘方理土

第131図 K-5区 SB1397掘立柱建物跡平面図・断面図

【SB1601 掘立柱建物跡】(平面図: 第 126・132 図、断面図: 第 132 図、遺物: 第 132 図、写真図版: 28-2・3・5)

[位置] K-5 区南に位置し、全ての柱列を検出した。

[重複] なし

[柱間数・棟方向] 柱行は北側柱列で 2 間、南側柱列で 3 間、梁行 2 間の東西棟とみられる。

[検出状況] 柱穴を 8 個検出し、7 個で柱痕跡を確認した。また、1 個で抜き取り穴を確認した。

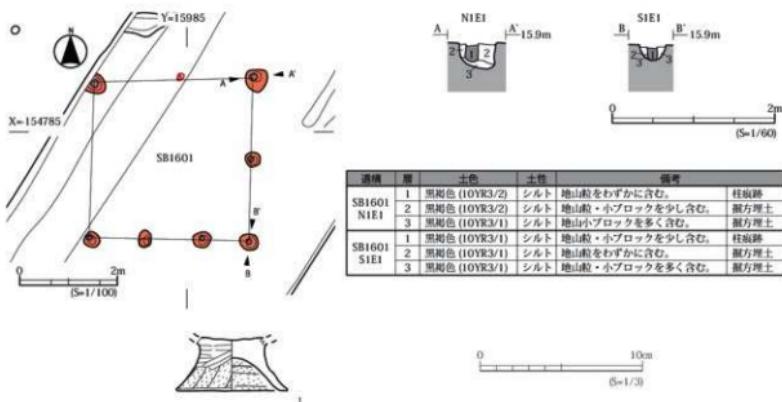
[平面規模] 柱行が南側柱列で総長 3.3m、柱間寸法は西から 1.1m - 1.2m - 1.0m、梁行が総長 3.3m、柱間寸法は北から 1.7m - 1.6m である。

[方向] 東側柱列で測ると北で東に 1° 傾む。

[柱穴] 据方は長軸 0.3 ~ 0.5m、短軸 0.2 ~ 0.4m、深さ 0.2 ~ 0.3m の開丸方形もしくは梢円形である。

柱痕跡は直径 0.1 ~ 0.2m の円形である。

[出土遺物] 柱痕跡から土師器坏、抜き取り穴から土師器坏・甕の小片が出土した。



No.	種別／器種	遺構／層	法量 (cm) 口径 実深 高さ	残存	調整・特徴	回版	図版
1	土師器／窯坏	SB1601SIEI／柱痕跡	- 6.8 - (H)一部 (H)2/3	(H)一部 (H)2/3	外: ヘラケズリ→ヘラミガキ 内: (脚)ヘラケズリ (H)黒色処理	64.9	R371

第 132 図 K-5 区 SB1601 掘立柱建物跡平面図・断面図・出土遺物

【SB1613 掘立柱建物跡】(平面図: 第 125・133 図、断面図: 第 133 図)

[位置] K-5 区中央に位置し、東側・南側の全ての柱列、西側・北側の柱列の一部を検出した。

[重複] SD1373 より古い。

[柱間数・棟方向] 柱行 3 間、梁行 2 間の南北棟とみられる。

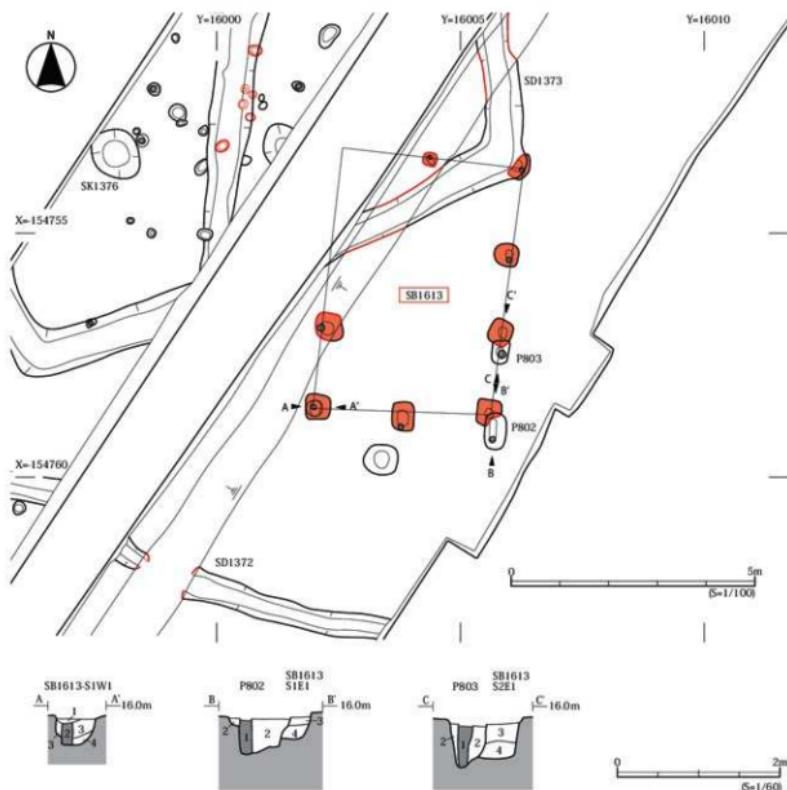
[検出状況] 柱穴を 8 個検出し、6 個で柱痕跡を確認した。

[平面規模] 柱行が東側柱列で総長 5.0m、柱間寸法は北から 1.8m - 1.5m - 1.7m、梁行が総長 3.6m、柱間寸法は 1.8m 等間隔である。

[方向] 東側柱列で測ると北東に7°偏る。

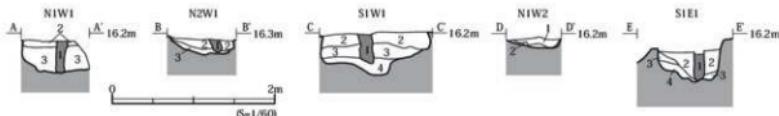
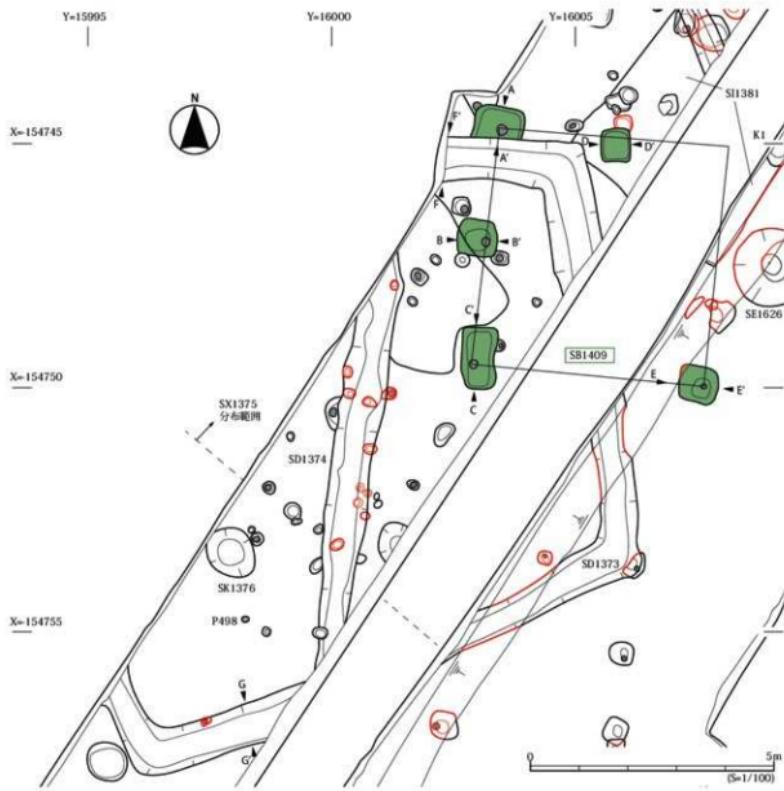
[柱穴] 挖方は長軸0.5~0.6m、短軸0.3~0.5m、深さ0.3~0.5mの隅丸方形である。柱痕跡は直径0.1~0.15mの円形である。

[出土遺物] 挖方埋土から土師器壺・甕、柱痕跡から土師器壺の小片が出土した。



遺構	層	土色	土性	備考
S1W1	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山軟・小ブロックをわずかに含む。
	2	黒褐色(10YR3/1)	シルト	地山軟・小ブロックをわずかに含む。
	3	黒褐色(10YR3/1)	シルト	地山軟・小ブロックを多く含む。
	4	黒褐色(10YR3/1)	シルト	地山軟・小ブロック・ブロックを多く含む。
P802	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山軟・小ブロックを少し含む。
	2	黒褐色(10YR3/1)	シルト	地山軟・小ブロック・ブロックを多く含む。
S1E1	3	黒褐色(10YR3/1)	シルト	地山軟・小ブロックを含む。
	4	黒褐色(10YR3/1)	シルト	地山軟・小ブロックを少し含む。
P803	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山軟を少し含む。
	2	黒褐色(10YR3/1)	シルト	地山軟・小ブロックを含む。
	3	黒褐色(10YR3/1)	シルト	地山軟・小ブロック・ブロックを多く含む。
	4	黒褐色(10YR3/1)	シルト	地山軟・小ブロック・ブロックを非常に多く含む。
S2E1	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	柱痕跡
	2	黒褐色(10YR3/1)	シルト	柱痕跡
	3	黒褐色(10YR3/1)	シルト	柱痕跡
	4	黒褐色(10YR3/1)	シルト	柱痕跡

第133図 K-5区 SB1613 挖立柱建物跡平面図・断面図

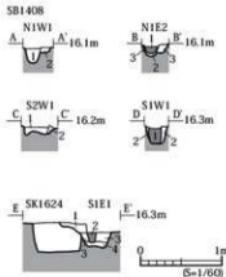


番号	層	土色	土性	備考
N1WI	1	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	炭化物・地山粒を含む。
	2	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	炭化物・地山ブロックを少し含む。
	3	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	地山ブロックを多く含み、炭化物を少し含む。
N2WI	1	黒褐色 (10YR2/2)	砂質シルト	炭化物・地山ブロックを少し含む。
	2	黒褐色 (10YR2/2)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む。
	3	褐色 (10Y4/4)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む。
S1WI	1	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	地山ブロックを含み、炭化物を少し含む。
	2	暗褐色 (10Y3/4)	砂質シルト	地山ブロックを含む。
	3	黄褐色 (10Y5/6)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む。
	4	にふる黄褐色 (10Y5/4)	砂質シルト	地山ブロックを含む。
N1W2	1	黒褐色 (10YR2/2)	砂質シルト	地山ブロックを含む。
	2	にふる黄褐色 (10Y5/4)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む。
S1E1	1	黒褐色 (10Y3/2)	シルト	地山粒・炭化物を少し含む。
	2	黒褐色 (10Y3/1)	シルト	地山粒・小ブロックを非常に多く含む。
	3	にふる黄褐色 (10Y6/4)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。
	4	黒褐色 (10Y3/1)	シルト	地山粒・小ブロックを多く含む。

第134図 K-5区 SB1409 据立柱建物跡平面図・断面図・SD1373溝跡平面図

第135図 K5区 SB1408樞立柱建物跡・SX1622窓穴遺構・SD1620溝跡平面図





遺構	層	土色	土性	備考
NIW1	1	黒褐色(10VR3/1)	シルト	地山ブロックを少し含む。 掘方穴。
	2	黒褐色(10VR3/1)	シルト	地山ブロックを多く含む。 掘方理土。
NIE2	1	にごり黄色(2.5Y6/4)	シルト	砂土を少し含む。 柱痕跡。
	2	黒褐色(10VR3/1)	シルト	成化物を少し含む。 掘方理土。
	3	黒褐色(10VR3/1)	シルト	地山ブロックを多く含む。 掘方理土。
SW1	1	黒褐色(10VR3/1)	シルト	地山ブロックを多く含む。 掘方穴。
	2	黒褐色(10VR3/1)	シルト	地山ブロックを多く含む。 柱痕跡。
SIW1	1	黒褐色(10VR3/1)	シルト	地山ブロックを少し含む。 柱痕跡。
	2	黒褐色(10VR3/1)	シルト	地山ブロックを多く含む。 柱痕跡。
	3	黒褐色(10VR3/1)	シルト	地山ブロックを多く含む。 柱痕跡。
SIE1	1	黒褐色(10VR3/2)	シルト	地山・小ブロックを多く含む。 掘方穴。
	2	海灰色(10YR4/1)	シルト	地山・成化物を含む。 柱痕跡。
	3	黒褐色(10VR3/1)	シルト	地山・小ブロックをやや多く含む。 掘方理土。
	4	黒褐色(10VR3/1)	シルト	地山・小ブロックを多く含む。 掘方理土。

第136図 K-5区 SB1408 捜立柱建物跡断面図

【SB1409 捜立柱建物跡】(平面図: 第125・134図、断面図: 第134図、写真図版: 26-7、29-6~8)

【位置】K-5区及びK-5区中央に位置し、西側の全ての柱列、東側・南側・北側の柱列の一部を検出した。

【重複】SD1373、SX1375より古く、SI1381より新しい。

【柱間数・棟方向】北東隅柱と南辺中央柱が調査区外で確認できないが、他の柱の配置から桁行2間、梁行2間の南北棟とみられる。

【検出状況】柱穴を5個検出し、4個で柱痕跡を確認した。

【平面規模】桁行が西側柱列で総長4.8m、柱間寸法は北から2.3m~2.5m、梁行が総長4.6m、柱間寸法は推定で東から2.2m~2.4mである。

【方向】西側柱列で測ると北で東に6°偏る。

【柱穴】掘方は長軸0.7~1.2m、短軸0.3~0.5m、深さ0.8mの隅丸方形もしくは隅丸長方形である。柱痕跡は直径0.15~0.2mの円形である。

【出土遺物】掘方埋土から土師器壺・甕、ロクロ土師器甕、柱痕跡から土師器甕が出土した。

【SB1408 捜立柱建物跡】(平面図: 第124・135図、断面図: 第136図)

【位置】K-5区及びK-5区北に位置し、西側・北側の全ての柱列、東側・南側・北側柱列の一部を検出した。

【重複】SI1621、SX1622、SK1624より新しい。

【柱間数・棟方向】桁行2間、梁行2間の東西棟とみられる。

【検出状況】柱穴を6個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

【平面規模】桁行が北側柱列で総長4.5m、柱間寸法は東から2.4m~2.1m、梁行が総長3.6m、柱間寸法は1.8m等隔である。

【方向】西側柱列で測ると北で東に14°偏る。

【柱穴】掘方は長軸0.3~0.6m、短軸0.2~0.4m、深さ0.1~0.3mの隅丸方形である。柱痕跡は直径0.1~0.2mの円形である。

【出土遺物】掘方埋土から土師器壺、甕、抜き取り穴から須恵器壺、土師器甕が出土した。

②豎穴建物跡

【SI1381 豊穴建物跡】(平面図: 第 125 図、断面図: 第 137 図、遺物: 第 138 図、

写真図版: 27-2, 28-8)

【位置】K-5 区から K-5 区中央に位置し、未検出部分を含めると四辺を検出した。

【重複】SB1409, SD1373・1377, SX1375 より古い。

【平面形・規模】平面形は長方形とみられる。規模は東西 3.9m 以上、南北 4.7 ~ 5.3m である。

【方向】北西辺で測ると北で 38° 東へ偏る。

【壁】地山を壁とし、床面からやや外側に傾斜を持って立ち上がる。高さは、南西辺で床面から 0.12m である。

【床面】掘方埋土と地山を床面としている。床面にはやや凹凸がある。

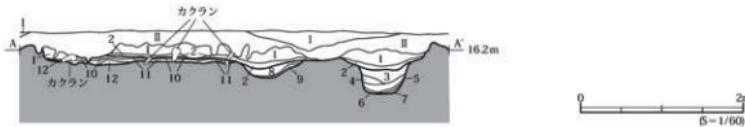
【主柱穴】北西隅と南西隅で 2 個 (P1・2) 検出した。主柱穴間の距離は推定で 3.3m である。規模は長軸 0.35 ~ 0.5m、短軸 0.3 ~ 0.4m の圓丸形もしくは楕円形で、深さ 0.1m である。柱痕跡は確認できなかった。

【カマド・周溝】検出した範囲では確認できなかった。

【その他の施設】土坑を 2 基 (K1・2) 検出した。K1 は中央東寄りに位置し、規模は長軸 0.8m、短軸 0.42m 以上の楕円形とみられ、深さ 0.2m、断面形は逆台形である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為堆積土である。K2 は北東側に位置し、規模は長軸 0.72m、短軸 0.54cm 以上の円形または楕円形とみられ、深さ 0.4m、断面形は逆台形である。堆積土は 5 層に分かれ、いずれも人為堆積土である。建物跡床面直上の自然堆積土が K1・2 の上面にも見られることから、建物廃絶時に埋め戻されたと考えられる。

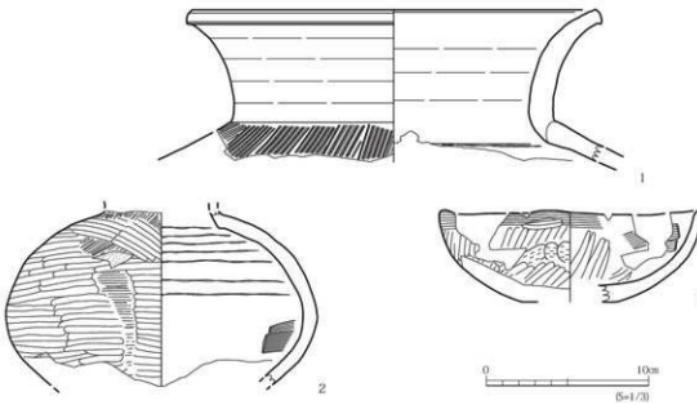
【堆積土】2 層にわかれ、1 層が自然堆積、2 層が人為堆積である。

【出土遺物】遺構確認時に須恵器壺、堆積土から土師器壺、土坑から土師器壺が出土した。



遺構	層	土色	土性	備考
SI1381	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを含む。炭化物ごく少し含む。
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山ブロックごく少し含む。炭化物ごく少し含む。
SI1381-K1	3	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックごく少し含む。炭化物少し含む。
	4	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山ブロックごく少し含む。炭化物少し含む。
SI1381-K2	5	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックごく少し含む。炭化物少し含む。土師器まとまって出土。
	6	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山ブロックごく少し含む。炭化物少し含む。
	7	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロック多く含む。炭化物少し含む。
	8	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロック多く含む。炭化物少し含む。
	9	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロック多く含む。炭化物少し含む。10 層よりやや灰化。
SI1381	10	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックかなり多く含む。
	11	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山ブロックごく少し含む。
	12	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックかなり多く含む。

第 137 図 K-5 区 SI1381 豊穴建物跡断面図



第138図 K-5区 SI1381 積穴建物跡出土遺物

【SI1621 積穴建物跡】(平面図: 第124・139図、断面図: 第139・140図、遺物: 第142~147図、写真図版: 31-4、32・33)

【位置】K-5区北に位置し、北東辺・南東辺・南西辺を検出した。

【重複】SB1408、SX1622、SD1620、SK1619・1624より古い。

【平面形・規模】方形とみられ、北東~南西 6.15m 以上、北西~南東 5.0m 以上である。

【方向】北東辺で測ると北で 36° 西へ偏る。

【壁】地山を壁とし、床面からほぼ垂直に立ち上がる。高さは、南東辺で床面から 0.18m である。

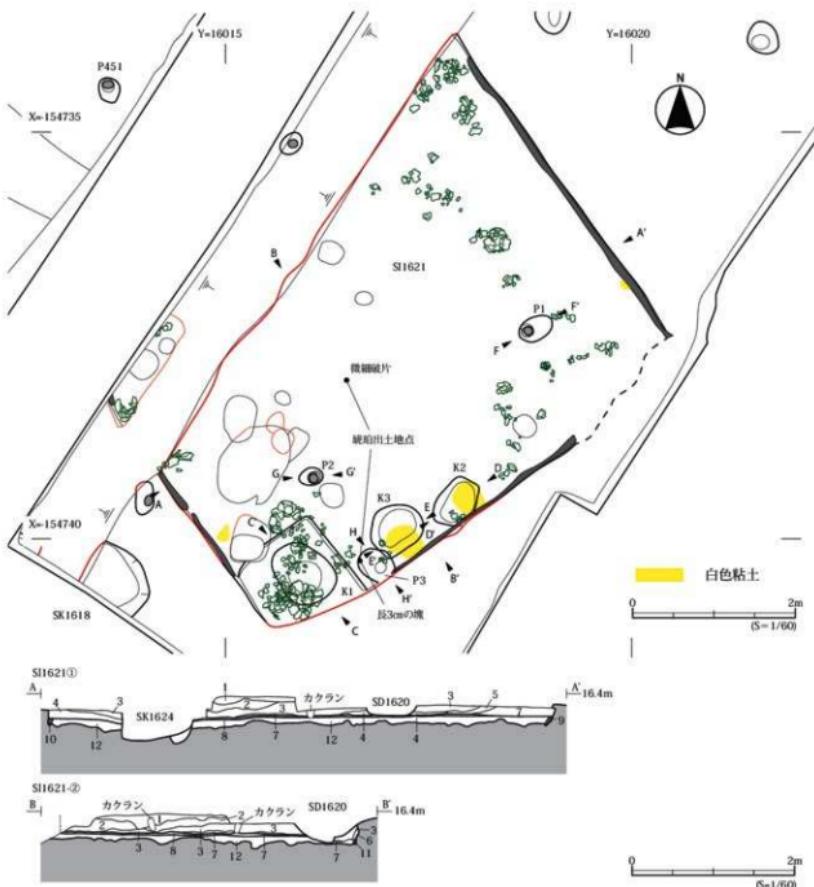
【床面】掘方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。

【主柱穴】北東側と南東側で 2 個 (P1+2) 検出した。主柱穴間の距離は 3.2m である。規模は長軸 0.3 ~ 0.4m、短軸 0.22 ~ 0.3m の楕円形で、深さ 0.64 ~ 0.71m である。柱痕跡は径 0.1m の円形である。

【カマド】検出した範囲では確認できなかった。

【壁抜取痕跡】北東・南東・南西壁の直下で検出した。一部で途切れるが、検出した範囲ではほぼ全周する。規模は上幅 0.08 ~ 0.22m、下幅 0.04 ~ 0.14m、深さ 0.06 ~ 0.12m である。堆積土は 1 層で自然堆積である。

【土坑】3 基 (K1 ~ 3) 検出した。K1 は南隅に位置する。上部と下部に分かれ、上部は長軸 1.8m、短軸 1.24m の長方形で、深さ 0.02m ではほぼ平坦である。下部は、その中央に位置し、長軸 0.8m、短軸 0.6m の楕円形、深さ 0.39m である。断面は上部が皿形で、下部が逆台形である。堆積土は 8 層に分かれ、いずれも自然堆積である。



番号	層	土色	土性	備考
SI1621	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	10YR4/3にぶい黄褐色シルト小ブロックを含む。部分的に地山粒を少し含む。
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	10YR4/1期灰褐色シルト粒・小ブロックを多く。地山粒・小ブロックをやや多く含む。
	3	闇灰色 (10YR4/1)	シルト	地山粒・小ブロック。10YR3/2 黒褐色シルト粒・小ブロックを多く含む。
	4	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	10YR4/1期灰褐色シルト粒・小ブロックを多く。地山粒・小ブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む。
	5	闇灰色 (10YR4/1)	シルト	炭化物粒・片。地山粒・小ブロックを少し含む。10YR5/2 黑褐色シルト粒・小ブロックを含む。
	6	にぶい黒褐色 (10YR4/3)	シルト	10YR4/1期灰褐色シルト。10YR5/2 灰褐色シルト粒を含む。
	7	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	地山粒を含む。
	8	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山粒・炭化物粒・片を少し含む。機能時の堆積土。
	9	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	シルト	地山粒・小ブロックを多く含む。
	10	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	理材指向層
	11	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	理材指向層
	12	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	シルト	10YR3/1 黑褐色シルト粒・小ブロック、地山小ブロックを多く含む。

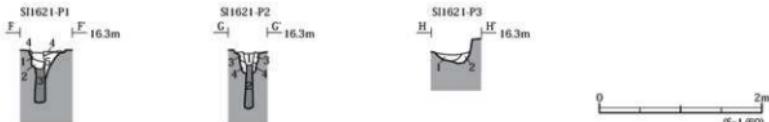
第139図 K-5区 SI1621竪穴建物跡平面図・断面図



遺構	層	土色	土性	備考
SI1621-K1	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山粒・小ブロックを含む。10YR5/2 灰黄褐色シルト粒を多く含む。大別1層。
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	地山粒・小ブロックを含む。10YR4/2 灰黄褐色シルト粒・小ブロックを含む。大別1層。
	3	黒褐色 (10VR3/1)	シルト	地山粒をわずかに含む。炭化物粒を含む蓋材の板跡の可能性あり。大別2層。
	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山粒・10YR5/2 灰黄褐色シルト粒を多く含む。大別2層。
	5	黒褐色 (10VR3/1)	シルト	地山粒・小ブロックを少し含む。土層を多く含む。蓋材の板跡の可能性あり。大別3層。
	6	黒褐色 (10VR3/1)	シルト	縦下面に薄く堆積する。地山粒・小ブロックを多く含む。大別3層。
	7	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山粒・小ブロックをやや多く含む。大別3層。
	8	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	粘土質シルト	10YR3/1 黑褐色シルト、10YR5/2 灰黄褐色シルト小ブロックを含む。大別4層。

遺構	層	土色	土性	備考
SI1621-K2	1	淡黄色 (2.5Y8/3)	粘土	白色粘土
	2	黒褐色 (10VR3/1)	シルト	10YR4/2 灰黄褐色シルト粒・小ブロックを多く含む。
	3	灰黄褐色 (10YR6/2)	シルト	10YR4/2 灰黄褐色シルト粒・小ブロックを少し含む。
	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山粒・炭化物粒を含む。
	5	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山粒・小ブロック、10YR6/2 灰黄褐色シルト粒・小ブロックを含む。
	6	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山粒・小ブロックを含む。
	7	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト	炭化物粒を多く含む。
	8	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	粘土質シルト	地山粒・小ブロック。焼けた炭灰羽石層を多く含む。炭化物粒・片を含む。
	9	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	シルト	地山粒・小ブロック。焼けた炭灰羽石層を少し含む。

遺構	層	土色	土性	備考
SI1621-K3	1	淡黄色 (2.5Y8/4)	粘土	白色粘土
	2	灰黄褐色 (10YR6/2)	シルト	地山粒・10YR3/1 黑褐色シルト粒多く含む。炭化物粒を含む。
	3	灰黄褐色 (10YR6/2)	シルト	地山粒・小ブロック、10YR5/2 灰黄褐色シルト小ブロックを多く含む。炭化物粒を少し含む。

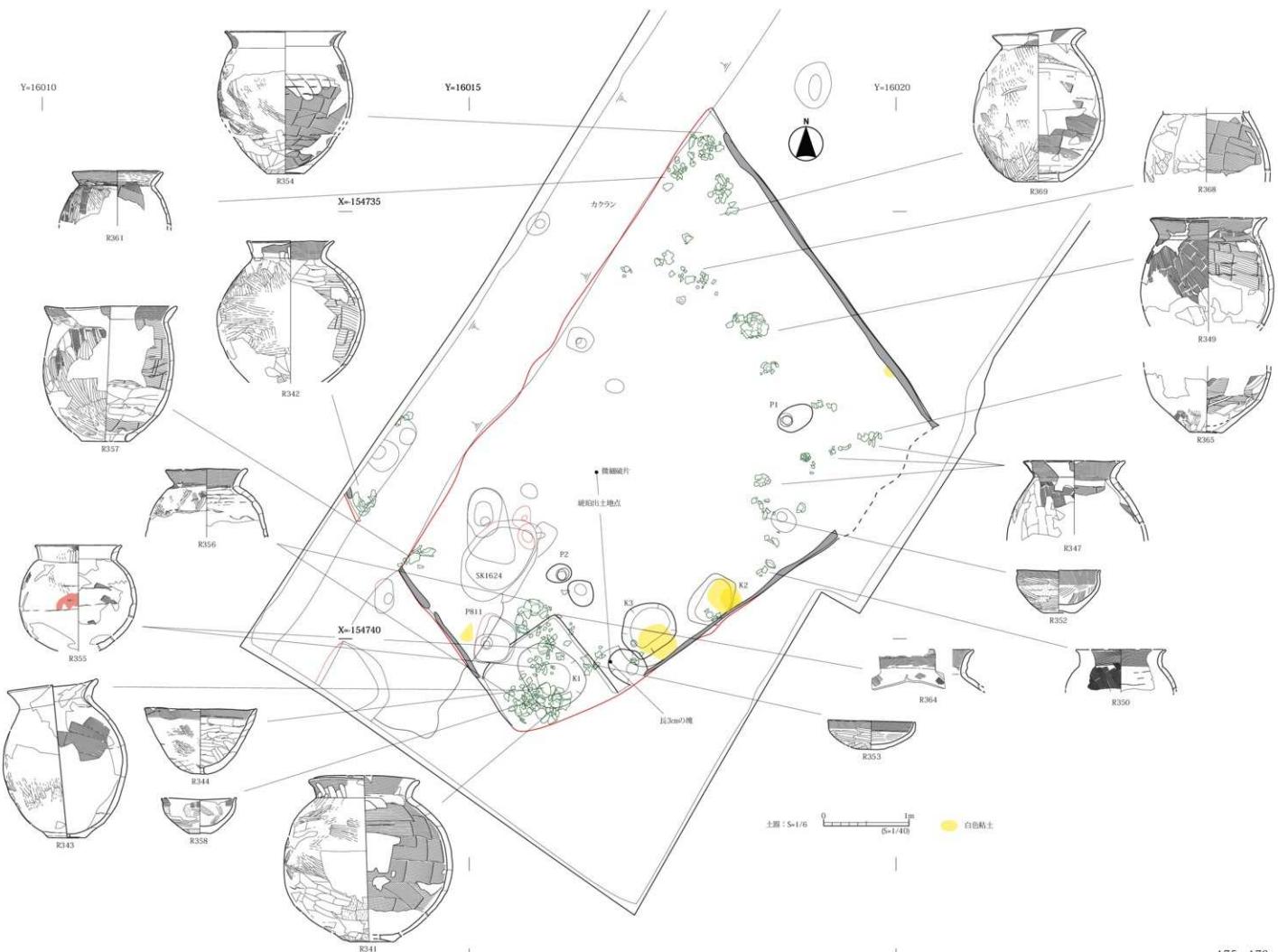


遺構	層	土色	土性	備考
SI1621-P1	1	黒褐色 (10VR3/2)	粘土質シルト	地山粒・10YR4/2 灰黄褐色シルト小ブロックを含む。
	2	黒褐色 (10VR3/1)	粘土質シルト	地山粒・小ブロックを含む。
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山粒・小ブロックを多く含む。
	4	灰黄褐色 (10YR6/2)	シルト	地山粒・小ブロックをやや多く含む。
	5	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山粒・小ブロックを多く含む。10YR3/1 黑褐色粘土質シルト粒を少し含む。

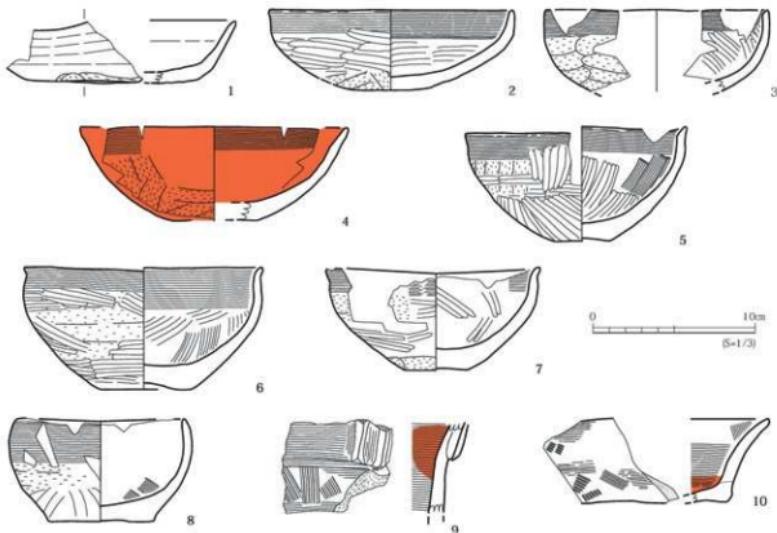
遺構	層	土色	土性	備考
SI1621-P2	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山粒を少し含む。
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	地山粒を少し含む。
	3	黒褐色 (10VR3/2)	シルト	地山粒・小ブロック、10YR5/2 灰黄褐色シルト粒・小ブロックを多く含む。
	4	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	シルト	地山粒・小ブロックを含む。

遺構	層	土色	土性	備考
SI1621-P3	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山粒を含む。
SI1621-P3	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山粒を多く含む。

第 140 図 K-5 区 SI1621 穴窓建物跡 (K1 ~ K3, P1 ~ P3) 断面図



第141図 K-5区 SI1621 竪穴建物跡 遺物出土状況



No.	種別／基盤	通様／層	法量(cm)			残存	調整・特徴	図版	記録
			横幅	直徑	高さ				
1	埴輪器／堆	SI1621／堆	—	—	—	破片	外：ロクロナデ→凹凸ヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：手持ちヘラケズリ 木戸型鉢底	65-5	R340
2	土師器／堆	SI1621／7層・床	14.9	4.6	4.9	(口～底)1/4	外：ヘラケズリ→ヘラミガキ／ヨコナデ 内：ヘラミガキ／ヨコナデ	65-6	R353
3	土師器／堆	SI1621／3・5・7層	13.6	—	—	(口～底)1/4	外：ヘラケズリ→ヨコナデ 内：ヨコナデ→ヘラミガキ	65-7	R360
4	土師器／堆	SI1621／3・5・7層	16.4	(5.2)	(5.7)	(口～底)1/4	外：ヘラケズリ→ヘラミガキ→ヨコナデ 内：ヨコナデ 全面赤彩	65-8	R348
5	土師器／堆	SI1621／7層	13.5	3.4	7.0	(口～底)4/5	外：ヘラケズリ→ヨコナデ→ヘラミガキ 内：ヘラナデ→ヘラミガキ→ヨコナデ	65-9	R351
6	土師器／堆	SI1621／7層・床	14.6	5.8	7.5	(口～底)3/5	外：ヘラケズリ→ヘラミガキ→ヨコナデ 内：ヘラミガキ→ヨコナデ	66-6	R352
7	土師器／堆	SI1621／K1-4層・7層・床	13.1	3.8	6.3	(口～体上)1/4 (体下～底)3/4	外：ヘラケズリ→ヘラミガキ／ヨコナデ 内：ヘラミガキ／ヨコナデ	66-7	R358
8	土師器／堆	SI1621／3・5・7層	10.2	6.4	6.3	(口～底)2/3	外：ヘラケズリ→ヘラミガキ／ヨコナデ 内：ヘラナデ	67-4	R346
9	土師器／壺	SI1621／3～8層	—	—	—	破片	外：ヨカネミ／ヨコナデ／ヘナナデ 内：ヨコナデ 周合口縁	67-9	R359
10	土師器／壺	SI1621／3層	—	—	—	破片	外：ヨコナデ／ハナメ 内：ヨコナデ 内面に水彩 二重口縁	67-5	R345

第142図 K-5区 SI1621 壁穴建物跡出土遺物(1)

K2は南東辺のほぼ中央に位置し、壁材抜取痕跡より古い。長軸0.64m、短軸0.48mの楕円形で、深さは0.33mである。断面は箱形である。堆積土は8層に分かれ、焼土や炭化物を多く含み、いずれも人為堆積である。K3は南東辺のやや南寄りで、K1とK2の間に位置し、P3より古い。長軸0.66m、0.58mの楕円形で、深さは0.18mである。断面は逆台形である。堆積土は2層に分かれ、いずれも人為堆積である。

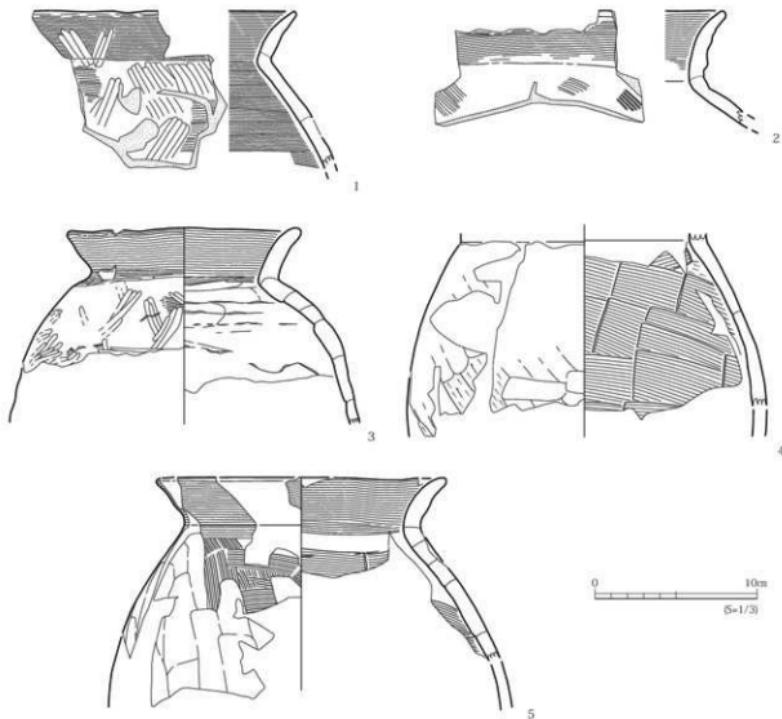
[その他の施設] ピットを1個(P3)、白色粘土を4カ所(1～4)で検出した。P3は南東辺の西側に位置し、K3より新しい。長軸0.44m、短軸0.4mの楕円形で、深さは0.14mである。断面は逆台形である。堆積土は2層に分かれ、いずれも自然堆積である。

白色粘土1～4はいずれも壁材抜取痕跡より古い。白色粘土1はK2の上面、白色粘土2はK3の上面に位置し、両者は対となる。規模は、白色粘土1が長軸0.38m、短軸0.36m、高さ2～5cm、白

色粘土2が長軸0.44m、短軸0.4m、高さ2~9cmである。白色粘土3は南西辺の南側、白色粘土4は北東辺の東側に位置し、両者は対向する。白色粘土3の規模は、長軸0.24m、短軸0.16m、高さ5cm、白色粘土4の規模は、長軸0.16m、短軸8cm、高さ5~10cmである。

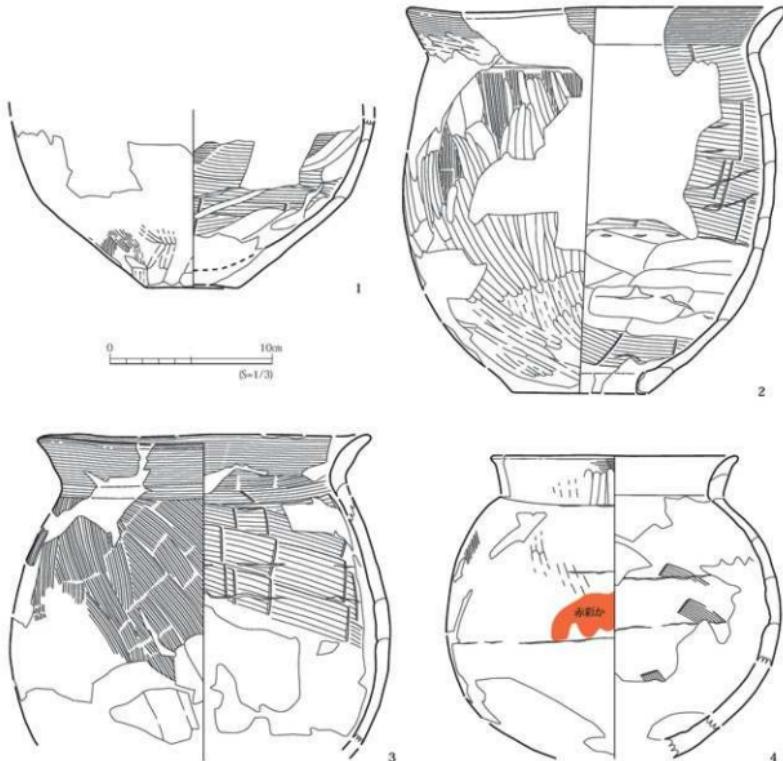
〔堆積土〕8層に分かれ、いずれも自然堆積である。8層は厚さ2~3cmで床面直上に堆積し、その上面が平坦であることから、機能時の堆積土とみられる。

〔出土遺物〕床面や床面直上・堆積土、土坑から須恵器壺、土師器壺・甕・壺・甑なほか、石製模造品、琥珀（写真図版69-6）、黒曜石が出土した。



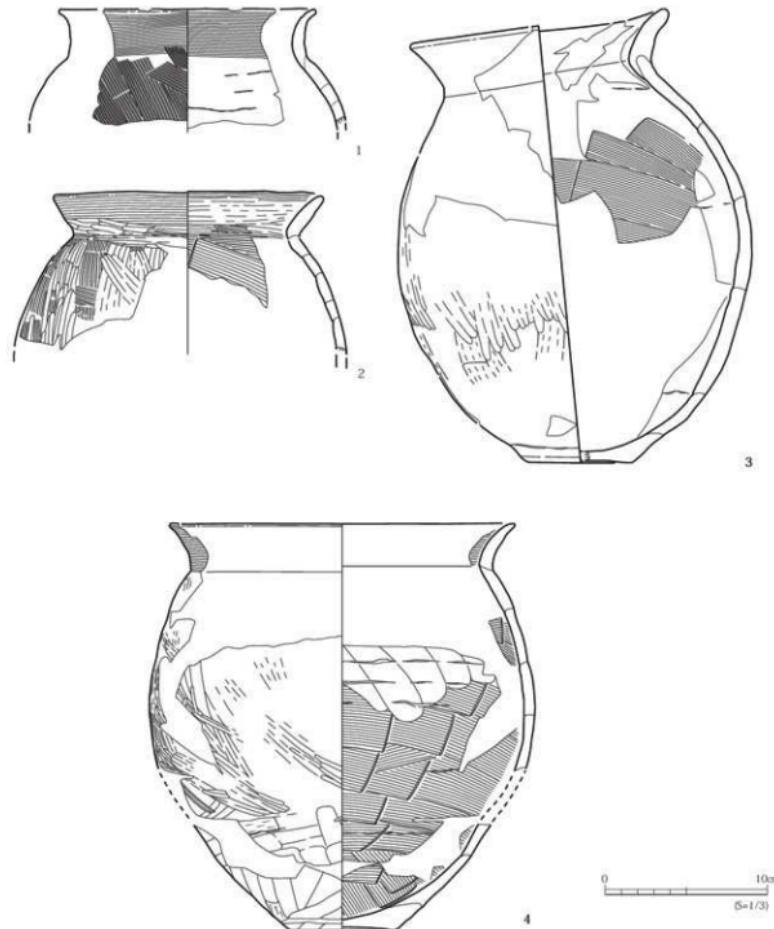
No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm) 口径 底径 器高	残存	調整・特徴	記版	登録
1	土師器／甕	SI1621 / 7層・床	—	—	(口)~(胴上)1/6 外:ヨコナデ/ナデ→ヘラミガキ 内:ヨコナデ/ヘラナデ	67-7	R363
2	土師器／甕	SI1621 / 7層・床	—	—	(口)~(胴上)1/6 外:ハケメ/ナデ/ヨコナデ 内:ヨコナデ	67-6	R364
3	土師器／甕	SI1621 / 7層・床 13.8	—	—	(口)~(胴上)1/2 外:(口)ヨコナデ (胴)ハケメナデ→ヘラミガキ 黒斑あり スヌ付着 内:(口)ヨコナデ (胴)ヘラナデ/ナデ	65-1	R356
4	土師器／甕	SI1621 / 3+7・8層	—	—	(胴)2/5 外:ヘラカズリ→ナデ スヌ付着 黒斑あり 内:ヘラカズリ→ヘラナデ	65-2	R368
5	土師器／甕	SI1621 / 3+5・7層	17.5	—	(口)~(胴)2/5 外:(口)ヨコナデ (胴)ハケメナデ スヌ付着 内:(口)ヨコナデ (胴)ヘラナデ/ナデ コゲ付着	65-3	R347

第143図 K-5区 SI1621 穫穴建物跡出土遺物(2)



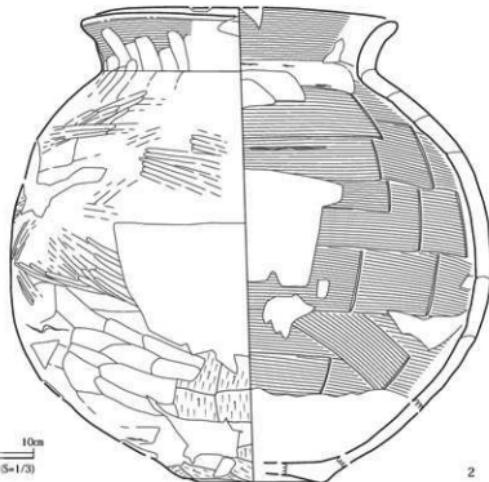
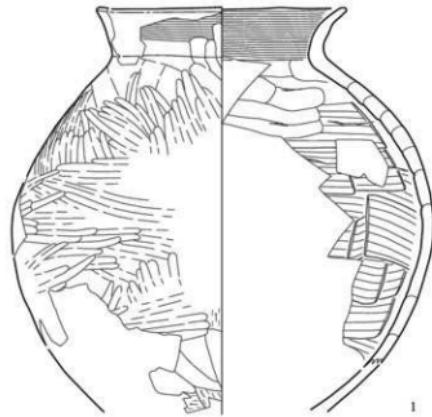
No.	種別／器種	直機／層	法量(cm)			残存	調査・特徴	図版	壁紙
			口幅	底径	高さ				
1	土師器／甕	SI1621／7層・床	—	(5.8)	—	(剥下～底)2/5	外：ハケ→ヘラケズリ→ナデ→ヘラミガキ スス付着 内：ハケ→ヘラナダ→ナデ 底：ヘラケズリ→ナデ コゲ付着 炭化物付着	66-1	R365
2	土師器／甕	SI1621／4層・床	22.7	—	23.7	(口～底)3/4	外：(1)ヨコナデ (剥)ハケ→ヘラケズリ→ナデ→ヘラミガキ 黒斑あり 内：(1)ヨコナデ (剥)ヘラナダ /ナデ	65-4	R357
3	土師器／甕	SI1621／7・8層	20.0	—	—	(口～剥)3/5	外：(1)ヨコナデ (剥)ハケ→ヘラケズリ→ナデ スス付着 内：(1)ハケ→ヨコナデ (剥)ヘラナダ コゲ付着	66-5	R349
4	土師器／甕	SI1621／7層・床	(14.8)	—	(18.5)	(口～剥)3/5	外：(1)ハケ→ヨコナデ→ヘラミガキ (剥)ハケ /ナデ→ヘラミ ガキ 黒斑あり 内：(1)ヨコナデ (剥)ヘラナダ /ナデ 外面赤彩か	66-2	R355

第144図 K-5区 SI1621 穫穴建物跡出土遺物(3)



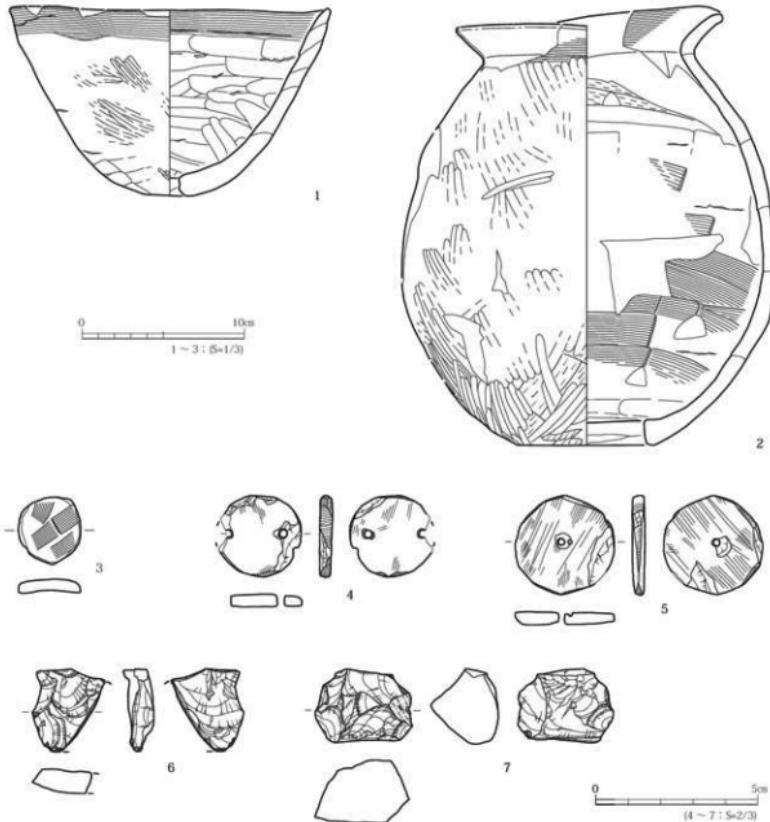
No.	種別／器種	遺構／層	法寸(cm)			残存	調整・特徴	回収	登録
			口径	底径	高さ				
1	土師器／甕	SI1621／3・7 層	15.6	—	—	(口～底上)1/5	外：ハケメ→ヨコナデ 内：ヨコナデ	66-3	R350
2	土師器／甕	SI1621／7層・床	11.3	—	—	(口～底)1/5	外：(口)ヨコナデ→ハラミガキ (脇)ハケメ→ハラミガキ スス付着 内：(口)ハケメ→ハナデ→ヨコナデ→ハラミガキ (脇)ハケメ→ハフ ナデ クグ付着	66-4	R361
3	土師器／甕	SI1621／K1-4 層・7層・床	(15.4)	6.2	27.9	(口～底)3/5	外：(口)ヨコナデか (脇)ハラケズリ→ハラミガキ スス付着 黒斑あり 内：(口)ヨコナデか (脇)ハラナズリ→ナデ→ハラミガキ	67-1	R343
4	土師器／甕	SI1621／7層・床	(20.8)	6.2	(25.0)	(口～底)2/5	外：ヨコナデ (脇)ハラナズリ→ナデ 内：(口)ヨコナデ (脇)ハラナズリ→ナデ 底：ハラケズリ→ナデ 外面黒斑あり スス付着 バンド状コゲあり	68-1	R354

第145図 K-5区 SI1621 壁穴建物跡出土遺物(4)



No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm)			残存	調整・特徴	図版	記録
			口径	底径	高さ				
1	土師器／甕	SI1621／7層・床	15.1	—	—	(口～脚)3/5	外:(口)ヨコナデ→ナデ(脚)ヘラケズリ→ナデ→ヘラミガキ 内:(口)ヨコナデ(脚)ヘラナデ→ナデ 黒斑あり スス付着	69-1	R342
2	土師器／甕	SI1621／7層・床	19.0	8.5	29.1	(口～底)3/4	外:(口)ヨコナデ→タテナデ(脚)ヘラケズリ→ナデ→ヘラミガキ 内:スス付着 黑斑あり	68-2	R341

第146図 K-5区 SI1621 穴穴建物跡出土遺物(5)



No.	種別／器種	遺構／層	大きさ(cm)			残存	調整・特徴	回収	登録
			口径	底径	高さ				
1	土師器／瓶	SI1621 / K1-4 層	19.6	—	11.6	ほぼ完形	外:(1)ヨコナデ(胴)ハラケリ一ハラミガキ 内:(1)ヨコナデ(胴)ナデ底:ナデ	67-3	R344
2	土師器／瓶	SI1621 / 7層	16.0	—	27.0	(口～底)4/5	外:(1)ヨコナデ(胴)ハラケズリ一ハラミガキ 黒斑あり 内:(1)ヨコナデ(胴)ハラケズリ一ハラナデ/ナデ 乳部:ハラケズリ一ナデ 乳径 7.2cm	67-2	R369
3	土製品／円盤	SI1621 / 3・7・ 8層	—	—	—	—	外内:ヘラナデ 長軸:4.1cm 短軸:3.9cm 厚さ:0.7cm	67-8	R366
4	石製品／有孔円盤	SI1621 / K3-2 層	—	—	—	—	孔2つ 黏板岩製か一部破損 長さ:2.6cm 幅:2.6cm 厚さ:0.4cm 重さ:3.6g	69-2	R422
5	石製品／有孔円盤	SI1621 / 堆	—	—	—	—	孔1つ 黏板岩製 長さ:3.1cm 幅:3.0cm 厚さ:0.4cm 重さ:4.9g	69-3	R423
6	石器	SI1621 / 腹方 埋土	—	—	—	—	黑曜石削片 長さ:2.5cm 幅:2.2cm 厚さ:0.8cm 重さ:3.8g	69-4	R424
7	石器	SI1621 / 4層	—	—	—	—	黑曜石削片 長さ:2.3cm 幅:3.0cm 厚さ:2.0cm 重さ:13.2g	69-5	R425

第147図 K-5区 SI1621 穫穴建物跡出土遺物(6)

【SI1371 穫穴建物跡】(平面図: 第 125・148 図、断面図: 第 148、遺物: 第 149 図、写真図版: 27-1)

【位置】K-5 区中央部に位置し、南東辺を検出した。

【重複】SD1372、SK1410 より古い。

【平面形・規模】方形とみられ、北東-南西 3.9m 以上、南東-北西 1.1m 以上である。

【方向】南東辺で測ると北で 35° 東へ偏る。

【壁】地山を壁とし、床面からやや外側に傾斜を持って立ち上がる。高さは、南東辺で床面から 0.2m である。

【床面】掘方埋土と地山を床面としており、ほぼ平坦である。

【主柱穴】検出した範囲では確認できなかった。

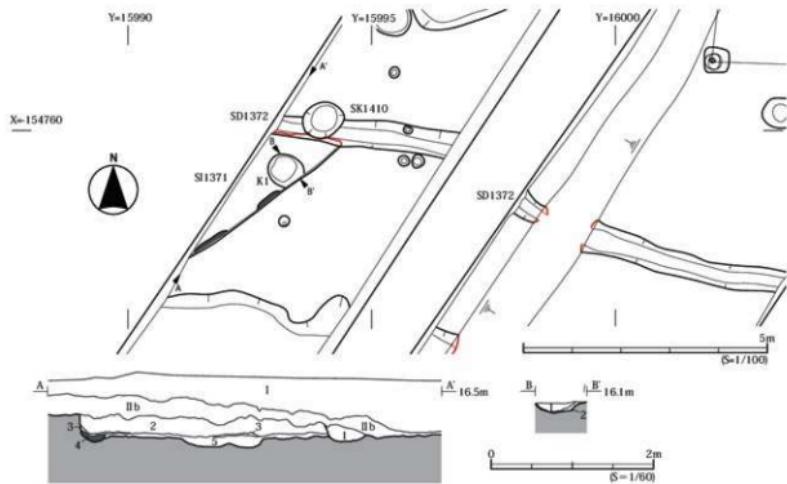
【カマド】検出した範囲では確認できなかった。

【壁材抜取痕跡】南東壁の直下で検出した。全周するかは不明である。規模は上幅 0.15 ~ 0.3m、下幅 0.1 ~ 0.15m、深さ 0.08 ~ 0.1m である。堆積土は 1 層で自然堆積である。

【その他の施設】土坑を 1 基 (K1) 検出した。南東壁直下の北東寄りに位置し、径 0.7m の円形である。深さ 0.12m、断面形は皿形である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【堆積土】2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

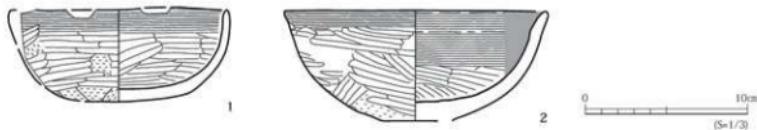
【出土遺物】床面で土師器壺が出土した。



遺構	層	土色	土性	備考
SI1372	1	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	地山ブロックが多く含む。 自然堆積土
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山ブロック・炭化物を含む。 自然堆積土
	3	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	自然堆積土
	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山小ブロック・炭化物を含む。 壁材抜取跡
SI1371	5	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。 掘方埋土

遺構	層	土色	土性	備考
SI1371-K1	1	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	地山ブロック・黒色土ブロックを少し含む。 自然堆積土
	2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	白色粘土ブロック・地山ブロックを少し含む。 自然堆積土

第 148 図 K-5 区 SI1371 穫穴建物跡平面図・断面図



No.	種別／基層	道溝／渠	法面 (cm)	残存	調整・特徴	回版	登録
口幅	底幅	高さ	(口～底)				
1	土耕器／环	SI1371／堆	13.3	—	5.6 (口～底)1/3 外：ヘラケズリ→ヨコナデ→ヘラミガキ 内：ヘラミガキ→ヨコナデ	69-6	R400
2	土耕器／环	SI1371／床	16.0	4.4	6.7 ほぼ完形 外：ヘラケズリ→ヨコナデ→ヘラミガキ 内：ヘラミガキ→ヨコナデ→黒色処理	69-7	R417

第149図 K-5区 SI1371 穫穴建物跡出土遺物

③竪穴遺構

【SX1622 竪穴遺構】(平面図: 第124・135図、断面図: 第150図、遺物: 第150図、写真図版: 31-2・3)

残存状況が悪く、掘方埋土とみられる人が堆積層のみを検出した。竪穴建物跡の可能性があるが、平面形が明確でなく、周溝や主柱穴などの床面施設が認められなかったことから、竪穴遺構とした。

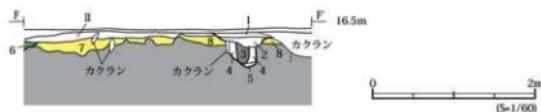
【位置】K-5区北

【重複】SI1621より新しく、SB1408、SK1618・1624より古い。

【平面形・規模】平面は不整形で、規模は北東—南西 3.9m 以上、北西—南東 2.4m 以上である。

【堆積土】2層に分かれ、いずれも人が堆積である。

【出土遺物】掘方埋土から須恵器壺が出土した。



遺構	層	土色	土性	備考
PK20	1	黒褐色 (IORY3/2)	シルト	10YR6/2灰黄褐色シルト粒を含む。
	2	黒褐色 (IORY3/2)	シルト	10YR6/2灰黄褐色シルト粒・小ブロック・地山粒・小ブロック・炭化物粒を含む。
	3	黒褐色 (IORY3/1)	シルト	10YR6/2灰黄褐色シルト小ブロックを含む。
	4	黒褐色 (IORY3/1)	シルト	地山小ブロックを多く含む。
	5	灰黄褐色 (IORY6/2)	シルト	地山小ブロックを多く含む。
SK1618	6	黒褐色 (IORY3/2)	シルト	地山粒・小ブロックを少し含む。
	7	黒褐色 (IORY3/2)	シルト	地山粒・小ブロック・10YR5/2灰黄褐色シルト粒・小ブロックを多く含む。
SX1622	8	黒褐色 (IORY3/1)	シルト	地山粒を含む。10YR5/2, 6/2灰黄褐色粒・小ブロックを多く含む。焼土粒・炭化物粒を少し含む。



第150図 K-5区 SX1622 竪穴遺構断面図・出土遺物

④井戸跡

【SE1354 井戸跡】(平面図: 第126図、断面図: 第151図)

【位置】K-5区中央部の南寄りに位置する。

【重複関係】なし

【規模・構造】平面形は長軸1.6m、短軸0.7m以上の楕円形とみられ、深さ0.66mである。素掘りの構造である。

【断面形】逆台形である。

【堆積土】2層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】須恵器壺・蓋、土師器甕の破片が出土した。

【SE1382 井戸跡】(平面図: 第126・131図、断面図: 第151図、遺物: 第152図、写真図版: 27-3)

【位置】K-5区南部

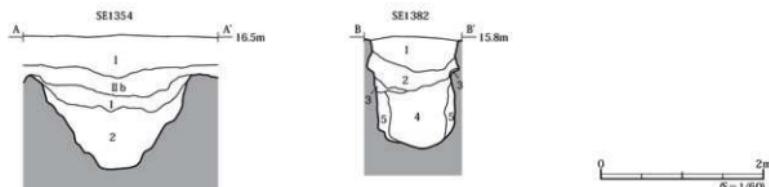
【重複関係】なし

【規模・構造】平面形は長軸1.2m、短軸1.0mの楕円形であり、深さ0.64mである。枠は残存していないが、抜き取り痕跡と掘方を確認できるため、本来は木枠を持つ構造であったと考えられる。

【断面形】底面からほぼ垂直に立ち上がる箱形である。

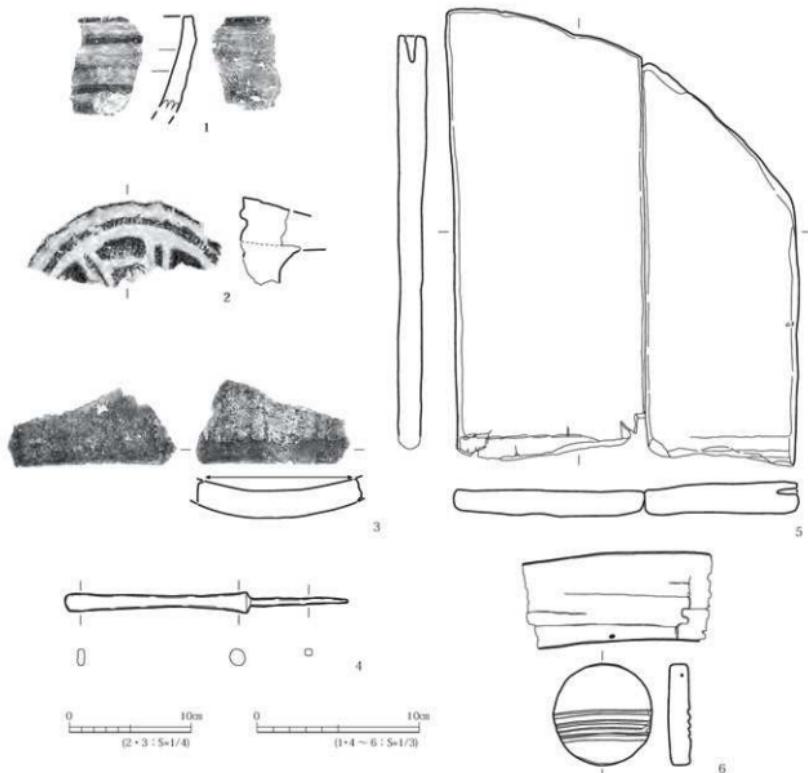
【堆積土】5層に分かれ、1~3層が抜き取り穴の堆積土、4層が井戸枠内の堆積土で自然堆積である。5層が掘方埋土で人為堆積である。

【出土遺物】井戸枠内や抜き取り穴から須恵器壺・甕、土師器甕の破片や鉄鎌が出土した。



遺構	層	土色	土性	備考
SE1354	1	黒褐色(10YR2/2)	シルト	地山ブロック・炭化物を含む。
	2	黒褐色(10YR2/2)	シルト	地山粒を少し含む。
SE1382	1	黒褐色(10YR2/2)	シルト	地山小ブロック・炭化物を含む。
	2	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
	3	黒色(HOV17/1)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
	4	黒色(10YR17/1)	粘土質シルト	地山ブロックを頗りに含む。
	5	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。

第151図 K-5区 SE1354・1382 井戸跡断面図



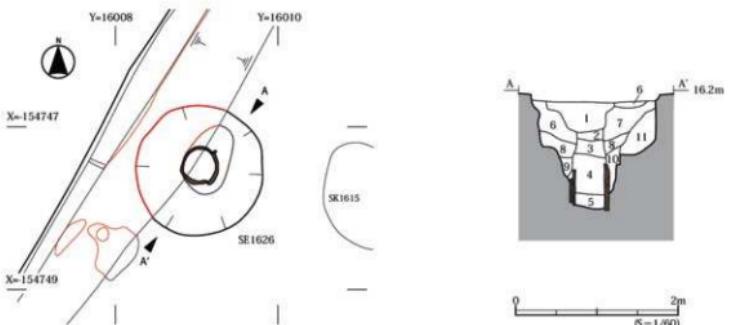
No.	種別／器種	遺様／層	法量(cm)			残存	調整・特徴	図版	登錄
			口径	底径	高さ				
1	中世陶器／罐	SE1382／堆	-	-	-	破片	外内：ロクロナデ 伊豆沼産	70-1	R386
2	軒丸瓦	SE1382／3層	-	-	-	破片	凹面：布目 凸面：ヘラナデ 宝相草文か変形重弁草文 長さ：7.8cm 幅：16.7cm 厚さ：3.0cm	70-2	R419
3	平瓦	SE1382／1層	-	-	-	破片	凹面：ヘラナデ 端面：ヘラケヅリ 長さ：7.1cm 幅：13.6cm 厚さ：2.6cm 転用純か	70-4	R403
4	鉄製品／鍔	SE1382／2層	-	-	-	完形	長径 全長：17.4cm 刃部長：1.0cm 鍔部長：10.4cm 基部長：6.0cm	70-3	R420
5	木製品／曲物か	SE1382／3層	-	-	-		刃打穴あり 長さ：27.7cm 幅：(21.1cm) 厚さ：2.0cm	70-5	R492
6	木製品／曲物	SE1382／3層	-	-	-		曲物の底板・側板、刃打穴あり。同一個体か 底板（長さ：6.2cm 幅：6.0cm 厚さ：1.3cm） 側板（長さ：11.6cm 幅：5.3cm）	70-6	R491

第152図 K-5区 SE1382 井戸跡出土遺物

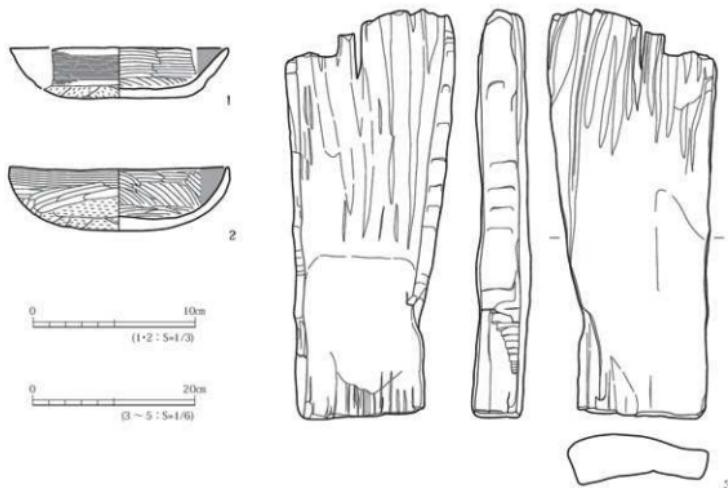
【SE1626 井戸跡】(平面図: 第125・153図、断面図: 第153図、遺物: 第153・154図)

【位置】K-5区中央

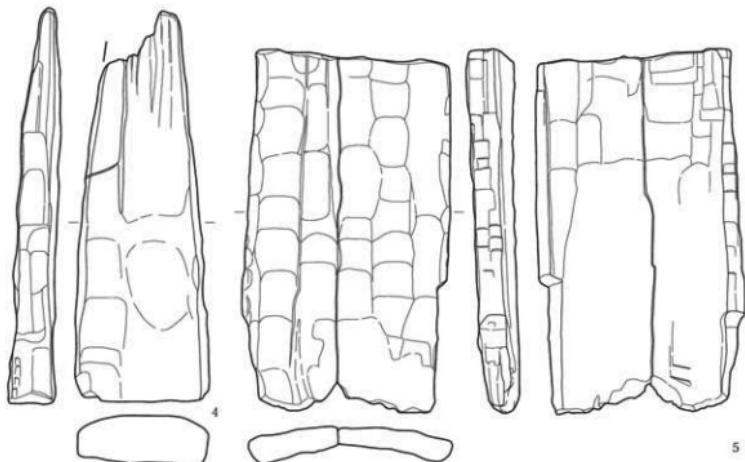
【重複関係】なし



遺構	層	土色	土性	備考
SE1626	1	黒褐色(10YR2/2)	シルト	地山駆・小ブロック、炭化物片を少し含む。
	2	灰黃褐色(10YR4/2)	シルト	地山駆・炭化物片を少し含む。
	3	褐灰色(10YR4/1)	シルト	地山駆・炭化物片をわずかに含む。
	4	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	地山駆・小ブロックをわずかに含む。
	5	オリーブ黒色(5Y3/1)	細砂	自然堆積土。
	6	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山駆・小ブロックを多く含む。炭化物片をわずかに含む。
	7	灰黃褐色(10YR5/2)	シルト	地山駆・小ブロック、10YR3/1 黒褐色粘土質シルト小ブロックを多く含む。
	8	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	地山駆・小ブロックを多く含む。
	9	黒色(10YK2/1)	粘土質シルト	地山駆・小ブロックを含む。
	10	黒色(10YK2/1)	粘土質シルト	地山駆・小ブロックを多く含む。
	11	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	地山駆・小ブロックを非常に多く含む。



第153図 K-5区 SE1626井戸跡平面図・断面図・出土遺物（1）



No.	種別／器種	遺構／層	法面 口径	法面 底径	残存	調整・特徴	回収	登録
1	土師器／环	SE1626／掘方 埋土	13.4 (7.5)	3.1 (1)~(3)	(1)~(3)1/6 (底)1/3	外：ヨコナデ／ヘラケズリ 内：ヘラミガキ→黒色處理	70-7	R378
2	土師器／环	SE1626／抜取 穴	13.1	—	3.9 (口)~(底)4/5	外：ヘラケズリ→ヨコナデ→ヘラミガキ 内：ヘラミガキ→黒色處理	70-8	R379
3	木製品／井戸枠	SE1626／掘方	—	—	—	井戸枠側板 長さ：50.5cm 幅：20.3cm 厚さ：5.7cm	70-10	R496
4	木製品／井戸枠	SE1626／掘方	—	—	—	井戸枠側板 長さ：47.8cm 幅：16.2cm 厚さ：5.6cm	70-11	R495
5	木製品／井戸枠	SE1626／掘方	—	—	—	井戸枠側板 長さ：44.8cm 幅：23.8cm 厚さ：3.4cm	70-9	R494

第154図 K-5区 SE1626井戸跡出土遺物(2)

〔規模・構造〕平面形は長軸 1.66m、短軸 1.6m の円形であり、深さ 1.42m である。掘方と井戸枠を持つ井戸跡であり、刎り貫きの井戸枠が掘方のほぼ中央に据えられている。枠の上部が抜き取られている。

〔井戸枠〕丸太材の外周に対して 2/3 と 1/3 の 2 つに分割し、内部を刎り貫いて再び円形になるよう合わせて据えられている。枠の径は 0.45m、厚さは 2 ~ 6 cm である。据えられた状態で北東側の合せ目に長さ 0.3m、幅 6 cm、厚さ 2 cm の板材が付いており、2 つの枠材を合わせるための添木とみられる。

〔断面形〕漏斗形である。

〔堆積土〕11 層に分かれ、1 ~ 3 層が抜き取り穴の堆積土、4 ~ 5 層が井戸枠内の堆積土で自然堆積である。6 ~ 11 層が掘方埋土で人為堆積である。

〔出土遺物〕掘方埋土および抜き取り穴から土師器環が出土した。

⑤溝跡

[SD1620 溝跡] (平面図: 第 124・135 図、断面図: 第 155 図、遺物: 第 156・157 図、写真図版: 30-1 ~ 6)

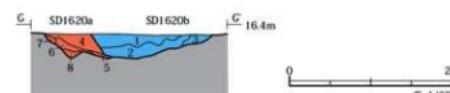
溝跡としたが、SX1622 を囲むように位置することから、SX1622 の外周溝である可能性がある。

南東側の様子から、2 時期 (a → b) 確認できた。

[位置] K-5 区北

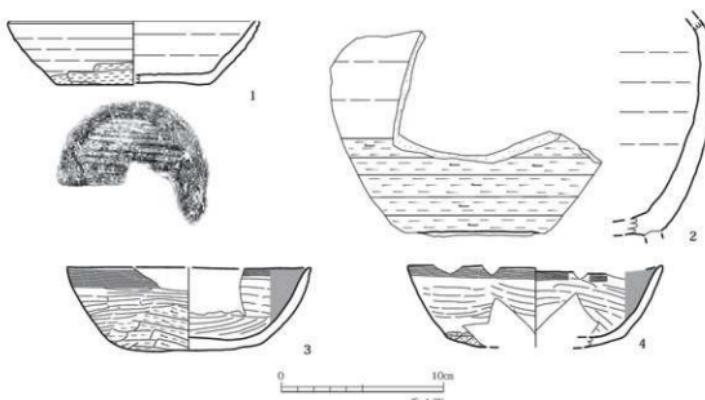
[重複関係] SI1621 より新しい。

[規模] SD1620a は東西方向で 0.9m 検出した。上幅 0.9m、下幅 0.6m、深さ 0.31m である。SD1620b は南北方向で 5.1m 検出した。上幅 0.6 ~ 1.6m、下幅 0.3 ~ 0.7m、深さ 0.03 ~ 0.3m である。



通査	層	土色		土性	備考	
		1	2		3	4
SD1620b	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	IOYR4/2 从黄色褐色シルト小ブロックを多く含む。炭化物粒を少し含む。	自然堆積土	
	2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	IOYR4/2 从黄色褐色シルト小ブロックを多く含む。地山粒・小ブロックを含む。炭化物粒を少く含む。	自然堆積土	
	3	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒・小ブロックを多く含む。	自然堆積土	
SD1620a	4	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山粒・小ブロック、IOYR5/2 从黄色褐色シルト粒・小ブロックが多く、炭化物粒・小ブロックを少し含む。	人为的理土	
	5	黒褐色 (10YR3/2)	粘土シルト	IOYR5/2 从黄色褐色シルト小ブロックを含む	人为的理土	
	6	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	炭化物粒を含む。地山粒を含む。	自然堆積土	
	7	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒・小ブロックを含む。	自然堆積土	
	8	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	地山粒・小ブロックを、IOYR2/1 黒色粘土質シルト小ブロックを含む。	自然堆積土	

第 155 図 K-5 区 SD1620 溝跡断面図



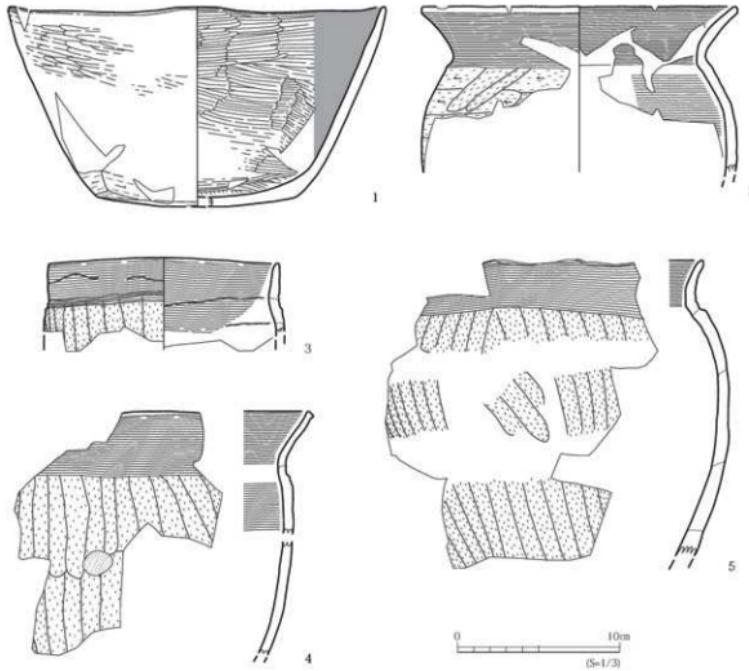
No.	種別/器種	遺構/層	法面 (cm) 口幅 底幅 高差	調査・特徴	面積	登録
1	箇跡／环	SD1620 / 1 層	15.3 9.4 3.9 (口→底)/2	内: ロクロナデ 底: 手持ちヘラケズリ	71-1 R332	
2	箇跡／道	SD1620 / 1 層	— — — (解)1/5	外: ロクロナデ→地山ヘラケズリ 内: ロクロナデ 底: 地盤ヘラケズリ→高台切り付け	71-4 R333	
3	土崩跡／环	SD1620 / 1 層	15.0 (6.9) 5.1 (口→底)/3	外: ヘラケズリ→ヘラミガキ→ヨコナデ 内: ヘラミガキ→ヨコナデ→黒色処理	71-2 R330	
4	土崩跡／环	SD1620 / 1 層	15.6 — (口→底)/4	外: ヘラケズリ→ヘラミガキ→ヨコナデ 内: ヘラミガキ→ヨコナデ→黒色処理	71-3 R334	

第 156 図 K-5 区 SD1620 溝跡出土遺物 (1)

[断面形] SD1620a・bともに逆台形であり、底面には凹凸がみられる。

[堆積土] SD1620aは5層に分かれ、人為堆積と自然堆積である。SD1620bは3層に分かれ、いずれも自然堆積である。

[出土遺物] 須恵器環・瓶、土師器環・鉢・甕が出土した。



No.	種別/器種	遺構/層	直従(cm)			残存	調整・特徴	回版	登録
			口径	底径	高さ				
1	土師器／鉢	SD1620／I層	23.0	12.2	12.2	(口～底)1/4	外：(口)ヨコナデ→ヘラミガキ (胴)ヘラケズリ→ヘラミガキ 内：ヘラケガキ→黒色処理 底：ヘラケズリ→ナマ 黒斑あり	71-5	R335
2	土師器／甕	SD1620／堆	19.2	—	—	(口～胴上)1/4	外：ヘラケズリ→ヨコナデ 内：ヨコナデ/ヘラナデ	71-9	R337
3	土師器／甕	SD1620／I層	14.0	—	—	(口～胴上)1/4	外：ヘラケズリ→ヨコナデ 内：ヨコナデ	71-8	R331
4	土師器／甕	SD1620／I層	—	—	—	(口～胴)1/8	外：ヘラケズリ→ヨコナデ 内：ヘラナデ/ヨコナデ	71-7	R480
5	土師器／甕	SD1620／I層	—	—	—	(口～胴)1/6	外：ヘラケズリ→ヨコナデ 内：ヨコナデ	71-6	R336

第157図 K-5区 SD1620溝跡出土遺物（2）

【SD1373 溝跡】(平面図: 第 125・134 図、断面図: 第 158 図、写真図版: 27-5・6、30-7)

【位置】K-5 区中央

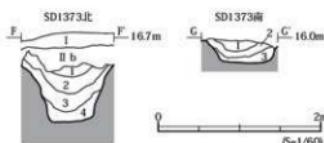
【重複関係】SB1409・1613、SI1381 より新しく、SX1375 より古い。

【規模】方形に巡ると考えられる溝跡で、北東隅・南東隅・南西隅を検出した。周囲は推定で南北に 11.1m、南北に 9.0m である。東辺の心々で測ると、北で西へ 15° 偏る。上幅は 0.7 ~ 1.1m、下幅 0.4 ~ 0.6m、深さ 0.3 ~ 0.64m である。

【断面形】逆台形である。

【堆積土】3 ~ 4 層にわかれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】須恵器壺・甕、土師器壺・甕の小片が出土した。



直標	層	土色	土性	備考	
				地山	地山
SD1373 北	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山粒・砂土を少し含む。	自然堆積土
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを多く、炭化物を少し含む。	自然堆積土
	3	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを少し含む。	自然堆積土
	4	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを多く含む。	自然堆積土
SD1373 南	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	地山ブロック・炭化物を多く含む。	自然堆積土
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山ブロック・炭化物を少し含む。	自然堆積土
	3	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	地山ブロックを多く含む。	自然堆積土

第 158 図 K-5 区 SD1373 溝跡断面図

【SD1384 溝跡】(平面図: 第 126・127 図、断面図: 第 159 図、遺物: 第 160 図)

【位置】K-5 区南部

【重複関係】SB1397、SD1383・1385・1393 より新しい。

【規模】東西方向で 4.1m 検出した。上幅は 1.0 ~ 1.1m、下幅 0.4 ~ 0.6m、深さ 0.12m である。

【断面形】皿形である。

【堆積土】1 層で自然堆積である。

【出土遺物】須恵器壺・甕、土師器壺・甕の小片、瓦が出土した。

【SD1391 溝跡】(平面図: 第 127・129 図、断面図: 第 159 図、遺物: 第 160 図)

【位置】K-5 区南部

【重複関係】なし

【規模】東西方向で 3.8m 検出した。上幅 0.7 ~ 1.2m、下幅 0.3 ~ 0.6m、深さ 0.17m である。

【断面形】皿形である。

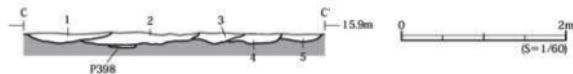
【堆積土】2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】ロクロ土師器甕などが出土した。



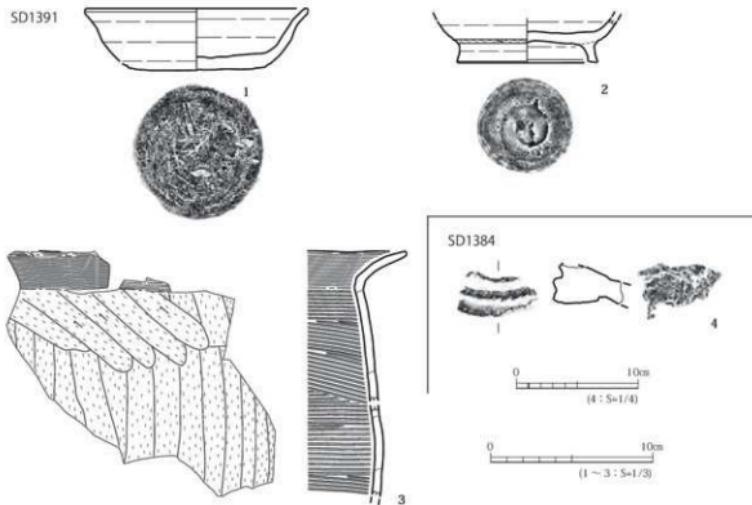
遺構	層	土色	土性	備考
SD1391	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	炭化物粒・礫山ブロックを少し含む。
	2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	炭化物粒・礫山ブロックを多く含む。

K-5K SD1384-SD1393-P398-SD1385-SD1383-SD1350



遺構	層	土色	土性	備考
SD1384	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	礫山粒を少し含む。
SD1393	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山粒を少し含む。
SD1385	3	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒を含む。
SD1383	4	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒を含む。
SD1350	5	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを多く含む。

第159図 K-5区 その他溝跡断面図



No.	種別/器種	遺構/層	遺量(cm) 口径 底径 厚さ	残存	調整・特徴	回収	登録
1	須恵器／环	SD1391 / 1層	13.6 8.4 3.8 (口~底)3/4 (底)元形	(口~底)3/4 (底)元形	外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→手持ちヘラケズリ→ナデ	72-3	R395
2	須恵器／高台环	SD1391 / 1層	- 8.6 - (底下)3/4 (底)元形	(底下)3/4 (底)元形	外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→回転ヘラケズリ→高台取り付け	72-4	R413
3	土師器／瓶	SD1391 / 1層	- - - (口~脚上)1/6	(口~脚上)1/6	外：ヘラケズリ→ヨコナデ 内：ヨコナデ/ハケメ	72-5	R383
4	軒平瓦	SD1384 / 1層	- - - 破片	西面：舟目 口面：ナデ 長さ：8.3cm 幅：7.7cm 厚さ：3.0cm	西面：舟目 口面：ナデ 長さ：8.3cm 幅：7.7cm 厚さ：3.0cm	73-6	R412

第160図 K-5区 SD1391・1384溝跡出土遺物

⑥土坑

【SK1624 土坑】(平面図: 第124・135図、断面図: 第161図、遺物: 第162図)

土坑としたが、SX1622 に伴う床面施設である可能性がある。

【位置】K-5 区北

【重複関係】SI1621、SX1622 より新しく、SB1408 より古い。

【規模】平面形は、長軸 1.15m、短軸 0.8m の楕円形である。深さは 0.4m である。

【断面形】逆台形である。

【堆積土】4 層に分かれ、いずれも人為堆積である。

【出土遺物】土師器甕が出土した。

【SK1410 土坑】(平面図: 第125・148図、断面図: 第161図、遺物: 第162図)

【位置】K-5 区中央部

【重複関係】SI1371、SD1372 より新しい。

【規模】平面形は、長軸 0.8m、短軸 0.7m の楕円形である。深さは 0.24m である。

【断面形】逆台形である。底面にやや凹凸がみられる。

【堆積土】3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】土師器ミニチュア土器が出土した。

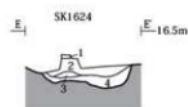
【SK1362 土坑】(平面図: 第125・126図、遺物: 第162図、写真図版: 27-4)

【位置】K-5 区中央部

【重複関係】なし

【規模】平面形は、長軸 1.6m、短軸 1.2m の楕円形である。深さは 0.18m である。

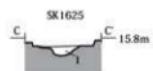
【断面形】皿形である。



遺構	層	土色	土性	備考
SK1624	1	灰黄褐色 (10YR6/2)	シルト	10YR3/2 黒褐色シルト小ブロックを多く含む。 人为的埋土
	2	褐灰色 (10YR4/1)	シルト	10YR6/2 灰黄褐色シルト粒・小ブロック、地山粒・小ブロックを多く含む。 人为的埋土
	3	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山粒・地山粒・炭化物粒を少し含む。 人为的埋土
	4	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	10YR6/2 灰黄褐色シルト粒・10YR4/1 褐褐色シルト粒・小ブロックを多く含む。 地山粒・炭化物粒・小ブロックを含む。 人为的埋土



遺構	層	土色	土性	備考
SK1410	1	にぶ・黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト	炭化物を少し含む。 自然堆積土
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	炭化物を少し含む。 自然堆積土
	3	にぶ・黄褐色 (10YR5/3)	砂質シルト	炭化物を少し含む。 自然堆積土



遺構	層	土色	土性	備考
SK1625	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	地山粒・小ブロックを少し含む。 自然堆積土



第161図 K-5 区 SK1624・1625・1410 土坑断面図

〔堆積土〕 2層に分かれ、いずれも自然堆積である。

〔出土遺物〕 土師器環が出土した。

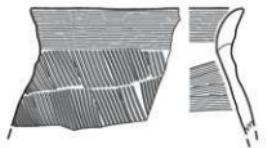
【SK1625 土坑】(平面図: 第126図、断面図: 第161図、遺物: 第162図)

〔位置〕 K-5 区南

〔複雑関係〕 なし

〔規模〕 平面形は、長軸 0.53m、短軸 0.39m の楕円形である。深さは 0.17m である。

SK1624



SK1410



2

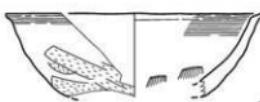
SK1362



3



4



5



6

SK1625



7



(S=1/3)

No.	種別／器種	遺構／層	法規(cm)	残存	調査・特徴	回所	登録
1	土師器／甕	SK1624／堆	—	—	(口～底)1/8 外: ハケメ→ヨコナデ 内: ヘラナデ／ヨコナデ	72.7	R327
2	土師器／ミニチュア土器	SK1410／堆	7.0	4.8	3.7 (口～底)1/2 外: ヨコナデ／ヘラケズリ 内: ヨコナデ／ヘラナデ	72.8	R411
3	土師器／环	SK1362／堆	19.0	—	5.1 (口～底)1/6 (底)1/3 外: ヘラケズリ／ヨコナデ 内: ヘラケズリ／ヨコナデ	72.6	R399
4	土師器／环	SK1362／堆	15.6	—	5.6 (口～底)1/6 (底)1/4 丸底 外: ヨコナデ／ヘラケズリ→ヘラミガキ 内: ヨコナデ／ヘラミガキ	72.9	R402
5	土師器／环	SK1362／堆	15.8	—	— (口～底)1/4 外: ヨコナデ／ヘラケズリ 内: ヨコナデ／ヘラナデ	72.10	R404
6	土師器／环	SK1362／堆	—	—	(体下～底)1/3 両面赤彩 外: ヘラケズリ→ヘラミガキ／ヨコナデ 内: ヘラミガキ／ヨコナデ	72.11	R405
7	土師器／环	SK1625／I層	16.0	10.6	4.3 (口～底)2/3 外: ヨコナデ／ミガキ→黒色処理	72.12	R372

第162図 K-5 区 SK1624・1410・1362・1625 土坑出土遺物

【断面形】逆台形である。

【堆積土】1層で自然堆積である。

【出土遺物】土師器壺が出土した。

【SK1388 土坑】(平面図: 第127図、断面図: 第163図、遺物: 第164図)

【位置】K-5区中央部

【重複関係】SD1389より古い。

【規模】平面形は、長軸2.9m、短軸2.3mの楕円形である。深さは0.1mである。

【断面形】皿形である。

【堆積土】1層で自然堆積である。

【出土遺物】土師器壺・甕が出土した。

【SK1399 土坑】(平面図: 第127・128図、断面図: 第163図、遺物: 第164図)

【位置】K-5区南部

【重複関係】SN1479より新しい。

【規模】平面形は、長軸1.4m、短軸0.6～0.8mの楕円形である。深さは0.08～0.22mである。

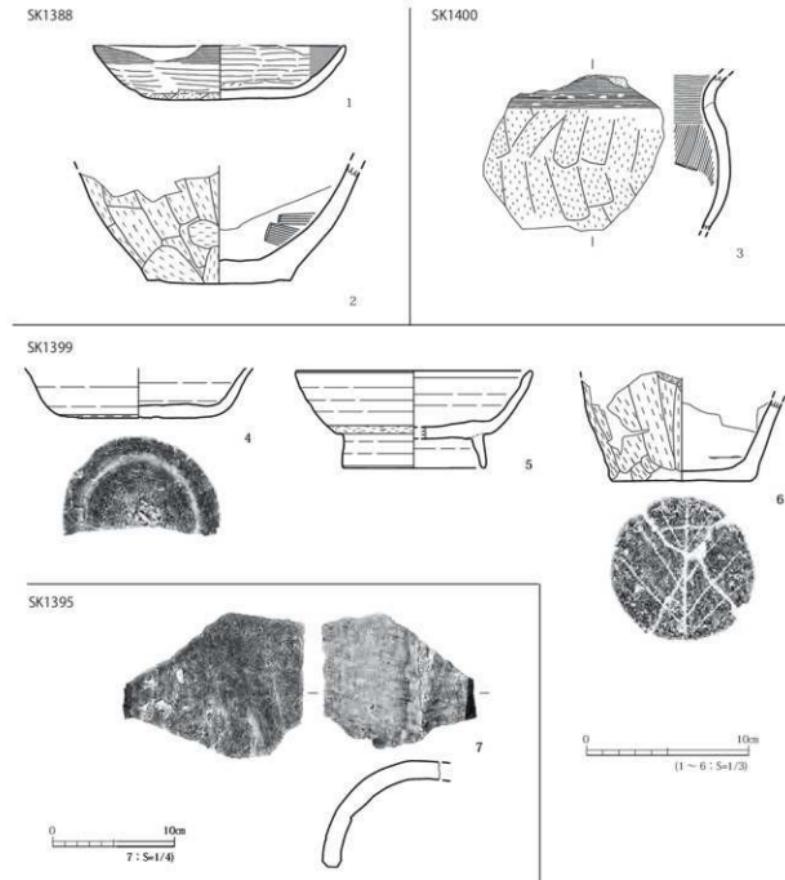
【断面形】逆台形である。底面に凹凸がみられる。

【堆積土】5層に分かれ、1層が自然堆積土、2～5層が人為堆積土であり、地山ブロック・炭化物・焼土を含む。

【出土遺物】須恵器壺・高台壺、土師器甕が出土した。



第163図 K-5区 SK1388・1399土坑断面図



No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm)			残存	調整・特徴	固庫	登録
			口径	底径	高さ				
1	土師器／环	SK1388／堆	15.5	8.5	3.3	(口～底)1/2 外：ヘラケズリ→ヨコナデ→ヘラミガキ 内：ヘラミガキ→黒色処理	72-13	R418	
2	土師器／甕	SK1388／堆	—	8.8	—	(胴下)1/4 (底)1/2 外：ヘラケズリ 内：ヘラチヂ	72-14	R390	
3	土師器／甕	SK1400／堆	—	—	—	(口～胴上)1/8 外：ヘラケズリ→ヨコナデ 内：ヘラナデ→ヨコナデ	73-4	R410	
4	須恵器／环	SK1399／堆	13.8	9.8	3.2	(口～底)1/3 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ→回転ヘラケズリ (底)2/3 底：回転ヘラ切→回転ヘラケズリ	73-1	R407	
5	須恵器／高台环	SK1399／イカラ カ	14.3	8.9	5.9	(口～底)1/3 外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→高台取り付け→ロクロナデ	73-3	R408	
6	土師器／甕	SK1399／イカラ カ	—	8.5	—	(胴下)1/5 (底)完形 外：ヘラケズリ 内：ヘラナデか 底：木葉痕	73-2	R409	
7	丸瓦	SK1395／1層	—	—	—	四面：布目　正面：ヘラケズリ→ナデ　端部：ヘラケズリ 長さ：11.7cm 幅：12.7cm 厚さ：1.7cm	73-5	R406	

第164図 K-5区 SK1388・1400・1399・1395土坑出土遺物

②円形周溝跡

【SX1394 円形周溝跡】(平面図: 第 127 図、断面図: 第 165 図)

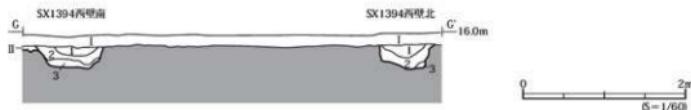
【位置】 K-5 区南部

【重複】 SB1489・1490 より新しい。

【規模】 溝で囲まれた内径は 3.5m で、隅丸方形状である。円形に巡る溝は上幅 0.7m、下幅 0.5m、深さ 0.13m である。

【堆積土】 3 層でいずれも自然堆積である。

【出土遺物】 須恵器壺・甕、土師器壺・甕の破片が出土した。



番号	層	土色	土性	備考
SX1394	1	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト 地山ブロックを含む。	自然堆積土
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト 地山ブロック・炭化物をわずかに含む。	自然堆積土
	3	に赤い黄褐色 (10YR6/4)	粘土質シルト 地山ブロックを含む。	自然堆積土

第 165 図 K-5 区 SX1394 円形周溝跡断面図

③河川跡・自然流路跡

【SD1406 河川跡】(平面図: 第 124 図、断面図: 第 166 図、遺物: 第 167 図)

【位置】 K-5 区北部

【重複関係】 なし

【規模】 北西—南東方向で 3.7m 検出した。2 期認められ (a → b)、a 期で上幅は 12.3m 以上、下幅は 9.9m 以上、深さ 1.0m、b 期で上幅は 15.3m、下幅は 3.3m、深さは 1.2m である。

【断面形】 a 期は皿形、b 期では不整な逆台形である。

【堆積土】 a 期で 7 層、b 期で 8 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】 須恵器壺・甕などが出土した。

【SD1370 自然流路跡】(平面図: 第 125 図、遺物: 第 168 図)

【位置】 K-5 区中央部

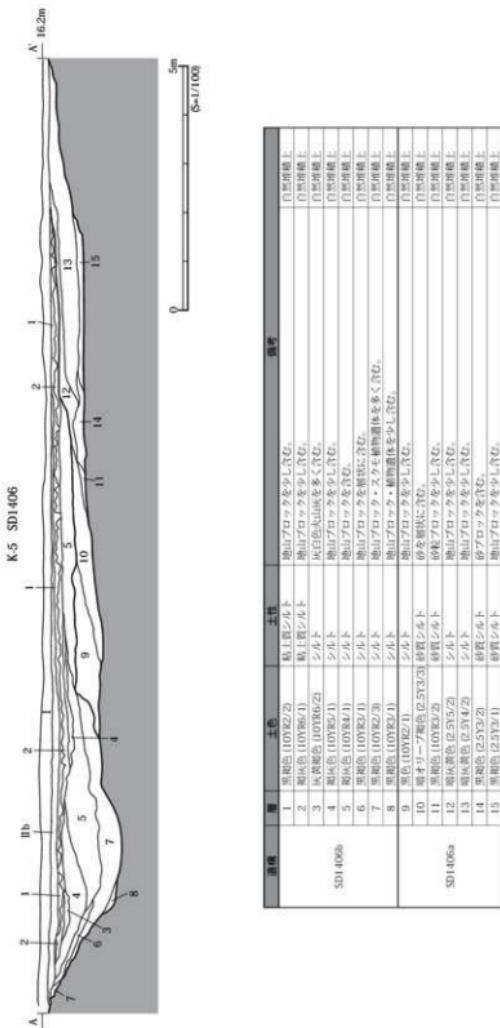
【重複関係】 SD1369・1614 より古い。

【規模】 東西方向で 11.2m 検出した。上幅は 3.0 ~ 3.6m、下幅 2.8m、深さ 0.1 ~ 0.2m である。

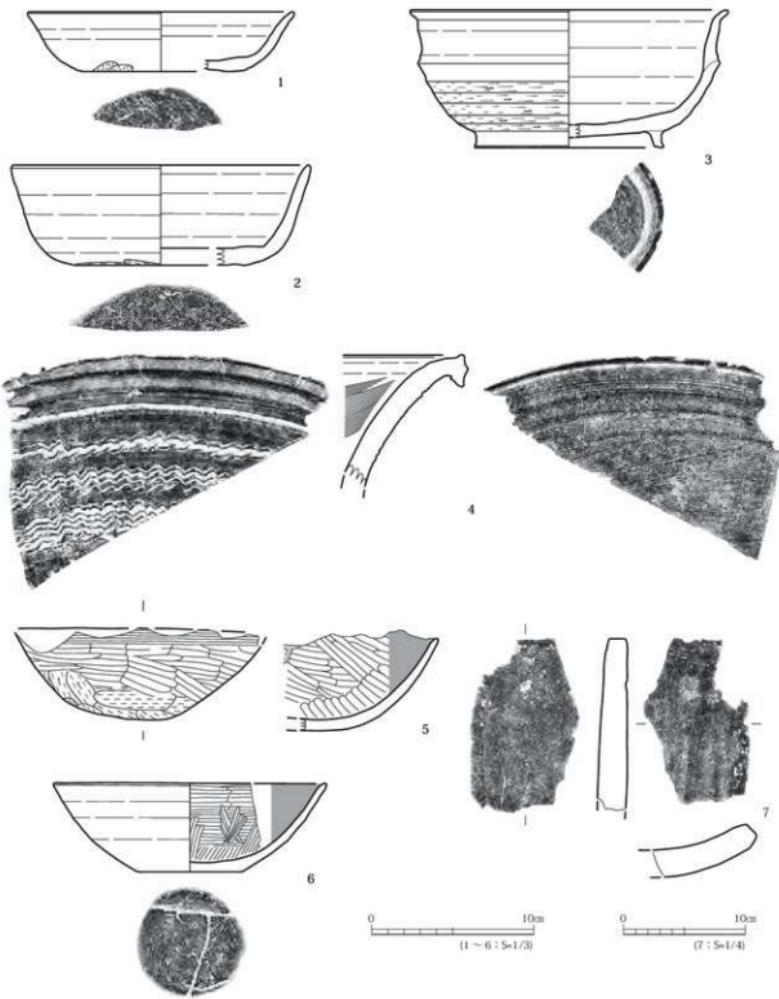
【断面形】 皿形で底面に凹凸がある。

【堆積土】 2 層にわかれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】 土師器甕などが出土した。

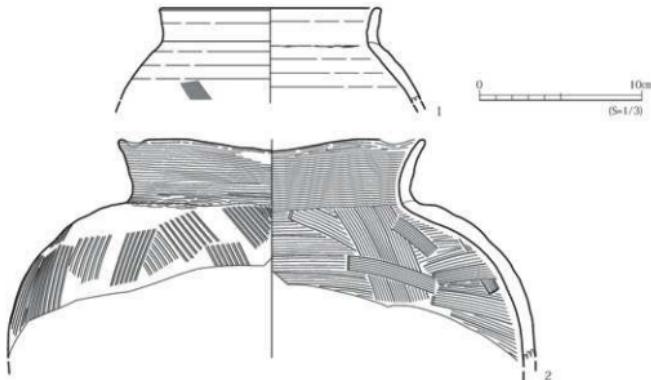


第166図 K-5区 SD1406河川断面図



No.	種別／器種	遺構／層	尺度(cm)			残存	調整・特徴	回版	登録
			口径	底径	高さ				
1	須世器／环	SD1406 / 2層	16.2	10.6	3.6	(口～底)1/4	外：クロコナデ→手持ちヘラケズリ 内：クロコナデ 底：手持ちヘラケズリ	73-12	R393
2	須世器／环	SD1406 / 6層	18.2	10.8	6.1	(口～底)1/4	外内：クロコナデ 底：手持ちヘラケズリ	73-13	R392
3	須世器／矮壺	SD1406 / 6層	19.3	11.6	8.4	(口～底)1/4	外：クロコナデ→回転ヘラケズリ 内：クロコナデ 底：回転ヘラケズリ→底台取り付け	73-14	R391
4	須世器／甌	SD1406 / 6層	—	—	—	破片	外：クロコナデ→ヘラミガキ→コナデ 内：ヘラミガキ→黒色處理 丸底	74-1	R416
5	土師器／环	SD1406 / 5層	—	5.6	—	(口～底)1/6	外：ヘラケズリ→ヘラミガキ→コナデ 内：ヘラミガキ→黒色處理 丸底	73-15	R388
6	ロクロ土師器／环	SD1406 / 1層	16.7	6.4	5.5	(口～底)1/6 (底)完形	外：クロコナデ 内：ヘラミガキ→黒色處理 底：回転折切	73-16	R389
7	平瓦	SD1406 / 4層	—	—	—	破片	凸出面：布目→ヘラケズリ→オーナメント 端部：ヘラケズリ 長さ：14.2cm 幅：9.0cm 厚さ：2.4cm	74-2	R414

第167図 K-5区 SD1406河川跡出土遺物



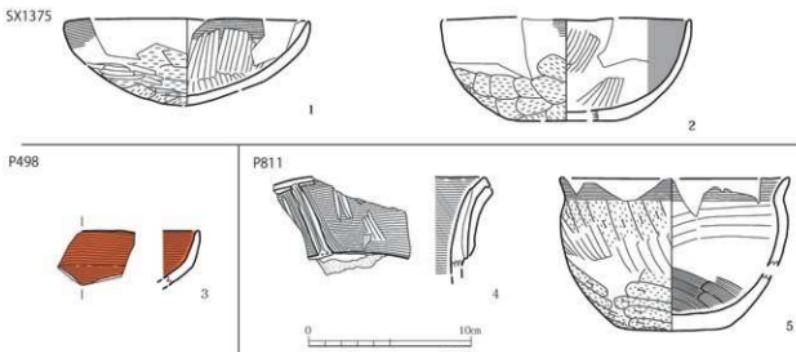
No.	種別／層種	遺構／層	法量(cm) 口径 底径 高さ	残存	調整・特徴	回版	登録
1	須恵器杯・弘口盤	SD1370／堆	—	—	(口～脚上)1/4 外：ロクロナデ	T2-1	R375
2	土師器・甕	SD1370／堆	18.6	—	(口～脚上)1/3 外：ハケヌードコナデ 内：ヘラナデ→ヨコナデ	T2-2	R394

第 168 図 K-5 区 SD1370 自然流路跡出土遺物

⑨その他

【SX1375 遺物包含層】(平面図: 第 124 図、遺物: 第 169 図)

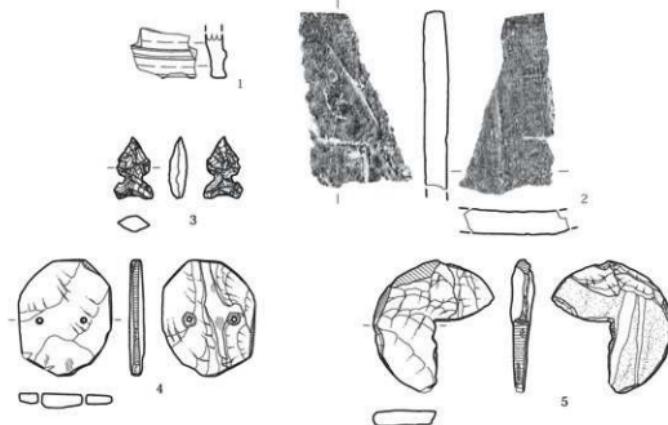
K-5 区中央部で検出した。北東—南西方向で 16.0m の範囲に厚さ 0.1 ~ 0.15m で広がっており、須恵器杯・甕、土師器杯・甕などが出土した。堆積土は灰黄褐色の粘土質シルト層で、灰白色火山灰を含まない。SX1375 の下で SB1409、SI1381、SD1373 等の遺構を検出した。



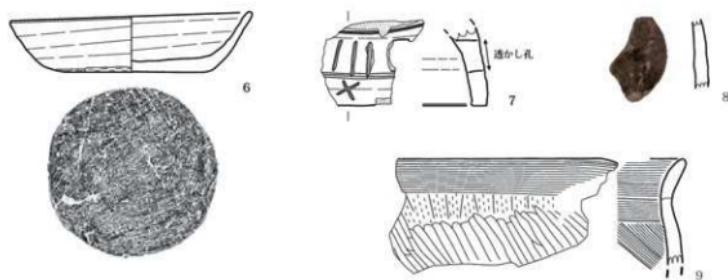
No.	種別／層種	遺構／層	法量(cm) 口径 底径 高さ	残存	調整・特徴	回版	登録	
1	土師器・杯	SX1375／堆	15.0	—	5.3 (口～底)1/4 (底)2/3	外：ヘラケズリ→ヘラミガキ／ヨコナデ 内：ヘラミガキ→ヨコナデ	T3-10	R385
2	土師器・杯	SX1375／イカタ	15.2	7.4	(6.4) (口～底)1/5 (底)1/3	外：ヘラケズリ／ヨコナデ 内：ヘラミガキ→黒色処理	T3-9	R384
3	土師器・杯	P498／1 瓢	—	—	—	破片 外：ヨコナデ 画面赤彩	T3-7	R415
4	土師器・甕	P811／瓶	—	—	—	破片 外：ヨコナデ→ヘラミガキ 内：ヨコナデ 極合口縫	T3-8	R329
5	土師器・甕	P811／瓶	14.0	6.8	9.4 (口～底)1/3	外：ヘラケズリ→ヘラミガキ→ヨコナデ 内：ヨコナデ→ヘラナデ／ヨコナデ	T3-11	R328

第 169 図 K-5 区 SX1375 遺物包含層・P498・P811 出土遺物

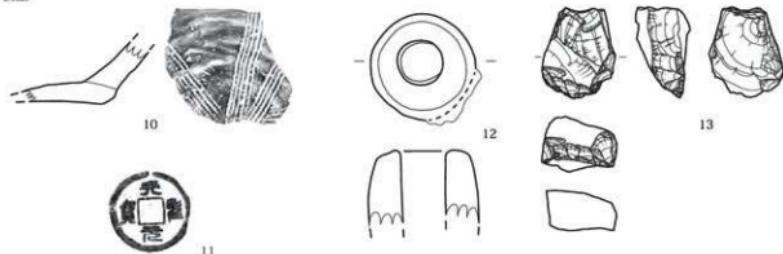
II層



遺構確認



表土



0 10cm
(1・6～10・12: 5×1/3)

0 10cm
(2: 5×1/4)

0 5cm
(3～5・11・13: 5×2/3)

No.	種別／基椎	遺構／層	法面(cm)	残存	調査・特徴	回版	登録
			口幅 底幅 高さ				
1	須恵器／円筒形	Ⅱ層	— — —	御部鏡片	外内：ロクロナデ 内：ロクロナデ	74-9	R338
2	平瓦	Ⅲ層	— — —	鏡片	外面：布目ナデ 内面：ロクロナデ 幅：8.6cm 長さ：14.6cm 厚さ：2.0cm 内面にヘラ引きあり	74-6	R397
3	石器／石器	Ⅱ層	— — —		アメリカ式石器 黒曜石製 長さ：1.9cm 幅：1.2cm 厚さ：0.5cm 重さ：0.8g	74-10	R339
4	石製品／有孔円板	Ⅲ層	— — —		石製模造品 長さ：3.6cm 幅：2.8cm 厚さ：0.5cm 重さ：5.4g	74-7	R374a
5	石製品／有孔円板	Ⅲ層	— — —		石製模造品 幻玉未製品か？ 長さ：4.1cm 幅：3.7cm 厚さ：0.7cm 重さ：8.2g	74-8	R374b
6	須恵器／环	中央イカク	14.6 10.0 3.7	ほぼ完形	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ 底：手持ちヘラケズリ	74-3	R396
7	須恵器／円筒形	南北イカク	— — —	鏡片	外内：ロクロナデ 平行沈線 底部細削 縫割「×」 透かしあり	74-15	R421
8	灰陶器／壺か	中央イカク	— — —	鏡片	外内：ロクロナデ 旋投座か	74-16	R398
9	土脚器／壺	イカク	— — —	(口)ノ脚)/8	外：ヘラケズリヘラミガキノヨコナデ 内：ヘラナデヨコナデ	74-14	R382
10	中間脚器／壺体	表土	— — —	(体下～底)/8	外：ロクロナデヘラナデ 内：ロクロナデ脚目(5条1組) 白石空座か	74-4・5	R380
11	金属製品／鋸歯	表土	— — —		「大型元宝」北宋鑄：初期 1023年	74-11	R426
12	土製品／鉗口	表土	— — —		内径：2.8cm 外径：6.4cm 表面ガラス化	74-12	R373
13	石器	表土	— — —		黒曜石鏡片 長さ：2.8cm 幅：2.8cm 厚さ：1.6mm 重さ：10.0g	74-13	R362

第 170 図 K-5 区 II 層・遺構確認・表土出土遺物

(6) K-6 区

K 区の東から南東隅に位置する調査区である。北部と中央部に河川跡、南部に灰白色火山灰を含む遺物包含層 (SX1442) が広がっている。道路跡 1 条、掘立柱建物跡 4 棟、竪穴建物跡 1 棟、河川跡 2 条のほか、多数の溝跡や土坑を検出した。

①道路跡

【SX400 東西道路跡】(平面図：第 171 図、断面図：第 171 図、写真図版：34-1～3)

K-6 区及び平成 24 年度に調査した I-6 区で検出した東西方向の道路跡である。未調査部分を含めた検出長は 78.5m であり、さらに東西に延びるものとみられる。北側溝(SD1439)と南側溝(SD1441)がわずかに残る。

【位置】南部

【重複】 SX1442 より古い。

【変遷】南北両側溝に掘り直しの痕跡は認められなかったことから、1 時期である。

【規模】未調査部分を含めた検出長 29.2m、路幅は側溝中心で測ると 4.2～4.6m である。

【方向】北側溝で測ると西で 2° 北へ偏る。

【路面】残存していない。

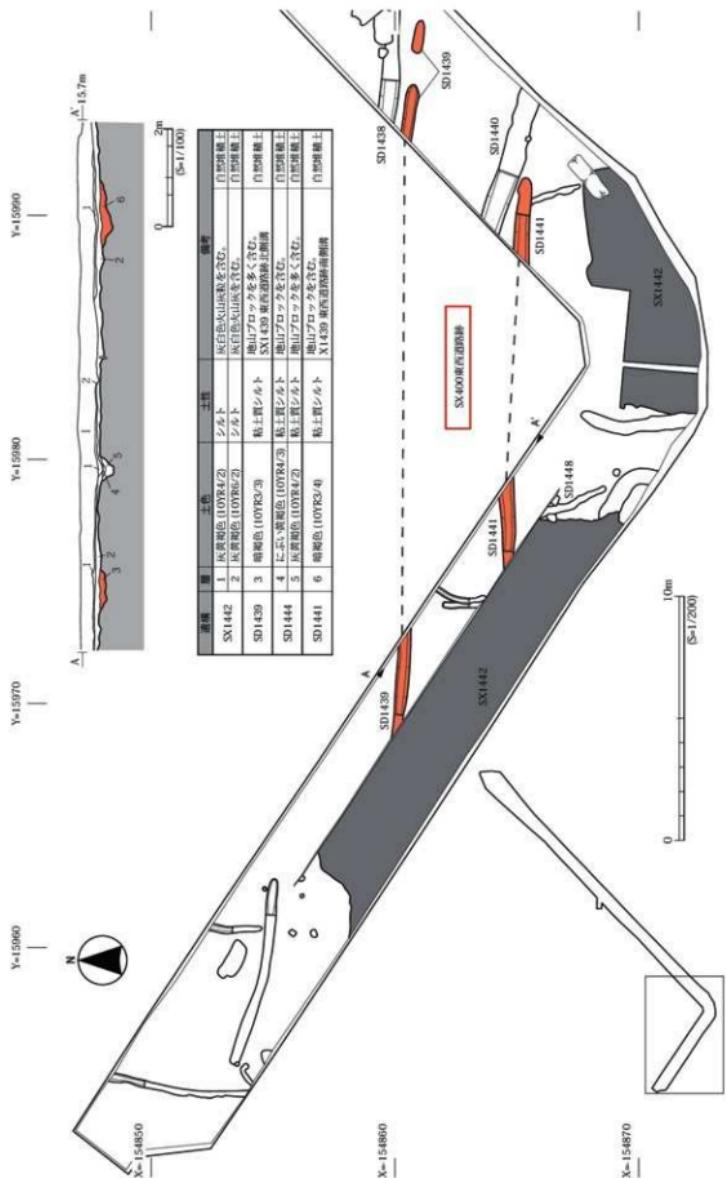
【北側溝 SD1439】未調査部分を含めた検出長 29.2m、上幅 0.6m、下幅 0.3m、深さ 0.1m である。

断面形は皿形である。堆積土は 1 層で、自然堆積である。

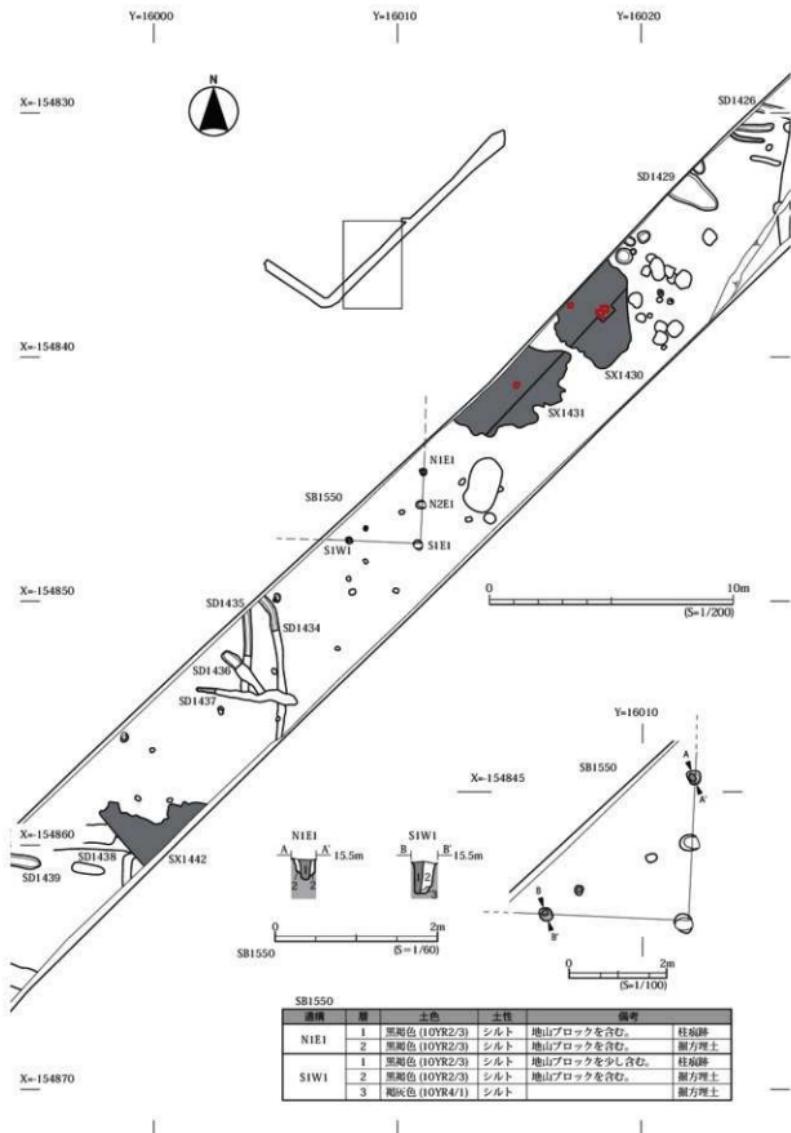
【南側溝 SD1441】未調査部分を含めた検出長 16.2m、上幅 0.7m、下幅 0.4m、深さ 0.15m である。

断面形は皿形である。堆積土は 1 層で、自然堆積である。

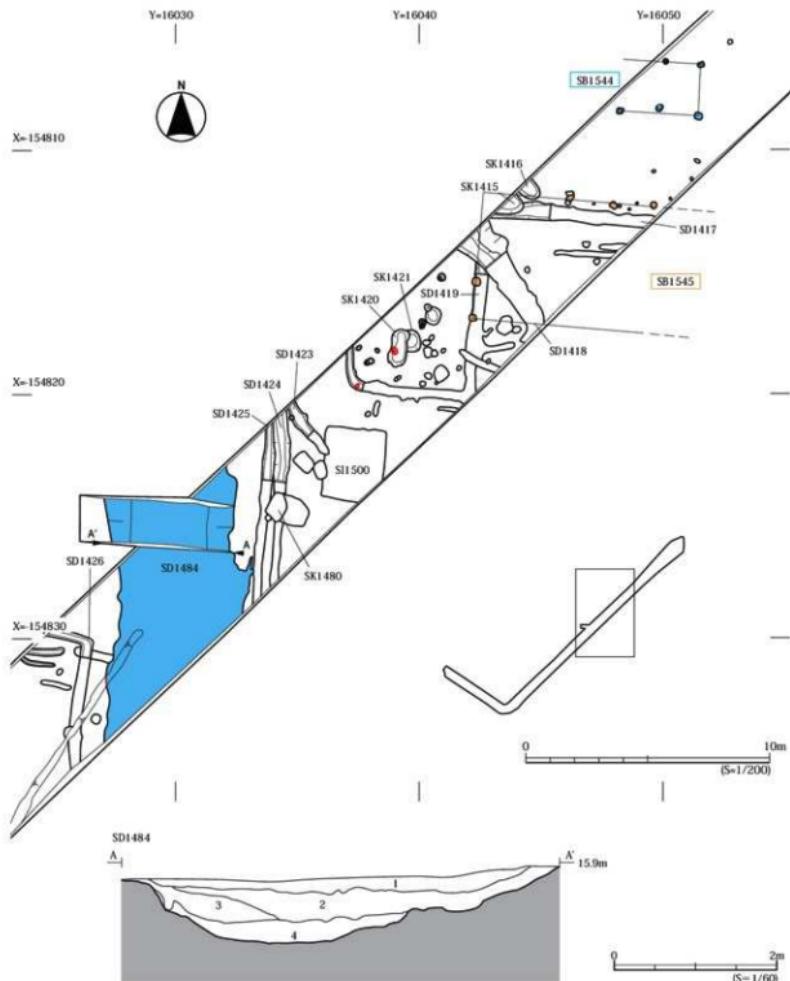
【出土遺物】出土しなかった。



第171図 K-6区 平面図 (1) SX400 東西道路跡断面図

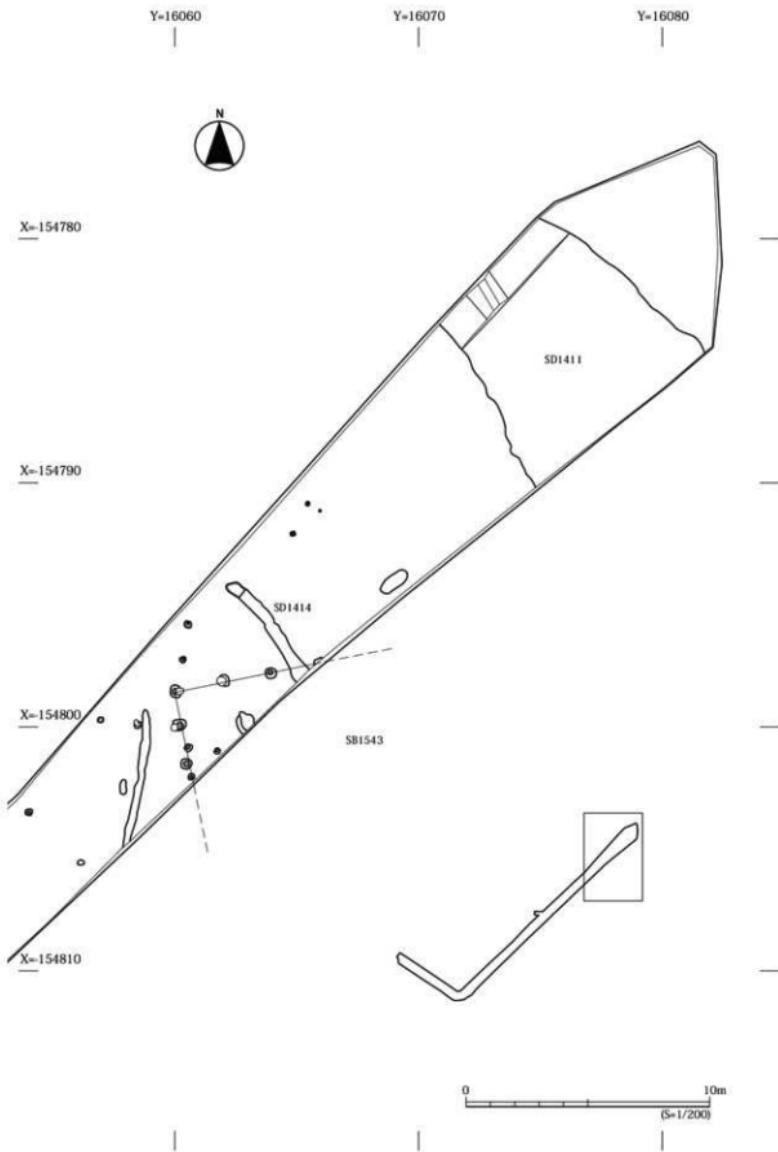


第172図 K-6区 平面図(2)、SB1550掘立柱建物跡平面図・断面図



透視	層	土色	土性	備考	
SD1484	1	灰黃褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを含む。	自然堆積土
	2	褐灰色 (10YR5/1)	粘土質シルト		自然堆積土
	3	灰黃褐色 (10YR6/2)	粘土質シルト	炭化物を少し含む。	自然堆積土
	4	灰黃褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	炭化物を含む。	自然堆積土

第 173 図 K-6 区平面図 (3)、SD1484 河川跡断面図



第 174 図 K-6 区 平面図(4)

②掘立柱建物跡

【SB1550 掘立柱建物跡】(平面図: 第 172 図、断面図: 第 172 図)

【位置】中央部に位置し、東側と南側の柱列の一部を検出した。

【重複】なし

【柱間数】東西 1 間以上、南北 2 間以上である。

【検出状況】柱穴を 4 個検出し、2 個で柱痕跡を確認した。

【平面規模】東西が南側柱列で総 2.9m、南北が東側柱列で総長 3.1m、柱間寸法は南から 1.6m – 1.5m である。

【方向】東側柱列で測ると北で東に 3° 傾る。

【柱穴】掘方は長軸 0.3 ~ 0.4m、短軸 0.2 ~ 0.3m、深さ 0.15m の隅丸方形もしくは楕円形で、柱痕跡は直径 0.1 ~ 0.2m の円形である。

【出土遺物】掘方埋土から土師器甕の小片が出土した。

【SB1545 掘立柱建物跡】(平面図: 第 173 図、写真図版: 34-5)

【位置】北部に位置し、西側と北側の柱列の一部を検出した。

【重複】SD1419 より新しい

【柱間数・棟方向】桁行 4 間以上、梁行 3 間の東西棟と推定される。

【検出状況】柱穴を 5 個検出した。

【平面規模】桁行が北側柱列で推定総長 7.1m、柱間寸法は東から 1.6m – 1.9m – 2.0m (推定) – 1.6m (推定)、梁行が西側柱列で推定総長 4.8m、柱間寸法は南から 1.5m – 1.6m (推定) – 1.7m (推定) である。

【方向】西側柱列で測ると北で西に 8° 傾る。

【柱穴】掘方は長軸 0.2 ~ 0.3m、短軸 0.2m の隅丸方形である。

【出土遺物】出土しなかった。

【SB1544 掘立柱建物跡】(平面図: 第 173 図)

【位置】北部に位置し、東側と南側と北側の柱列を検出した。

【重複】なし

【柱間数・棟方向】東西 2 間以上、南北 1 間以上である。また、総柱建物跡の可能性がある。

【検出状況】柱穴を 5 個検出し、2 個で柱痕跡を確認した。

【平面規模】東西が南側柱列で総長 3.3m 以上、柱間寸法は東から 1.8m – 1.5m、南北が東側柱列で総長 2.1m である。

【方向】東側柱列で測ると北で東に 2° 傾る。

【柱穴】掘方は長軸 0.2 ~ 0.3m、短軸 0.2m の隅丸方形もしくは楕円形で、柱痕跡は直径 0.1 ~ 0.17m の円形である。

【出土遺物】出土しなかった。

【SB1543 掘立柱建物跡】(平面図：第 174 図、写真図版：34-4)

〔位置〕 北部に位置し、西側と北側の柱列を検出した。

〔重複〕 なし

〔柱間数〕 東西 3 間以上、南北 2 間以上である。

〔検出状況〕 柱穴を 6 個検出し、5 個で柱痕跡、3 個で柱抜取り痕跡を確認した。

〔平面規模〕 東西が北側柱列で総長 6.0m、柱間寸法は 2.0m 等間隔、南北が西側柱列で総長 3.1m、柱間寸法は北から 1.5m - 1.6m である。

〔方向〕 西側柱列で測ると北で西に 8° 偏る。

〔柱穴〕 挖方は長軸 0.4 ~ 0.5m、短軸 0.3 ~ 0.4m の隅丸方形で、柱痕跡は直径 0.2 ~ 0.35m の円形である。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

③ 穫穴建物跡

中央部で SI1500 穫穴建物跡を検出した。農道部分の調査であり、バイオライン敷設箇所から外れるため、遺構確認にとどめた。規模は東西 2.4m、南北 2.9m、平面形は隅丸長方形である。方向は、西辺で測ると北で東に 4° 偏る。出土しなかった。

④ 河川跡

【SD1411 河川跡】(平面図：第 174 図)

〔位置〕 北部

〔重複関係〕 なし

〔規模〕 北西 - 南東方向で 8.4m 検出した。上幅は 8.8m である。

〔断面形〕 遺構確認にとどめたため、不明である。

〔堆積土〕 2 層以上にわかれ、いずれも自然堆積とみられる。

〔出土遺物〕 須恵器壺・甕、土師器壺・甕、磁器碗の破片が出土した。

【SD1484 河川跡】(平面図：第 173 図、断面図：第 173 図、遺物：第 175 図)

〔位置〕 中央部

〔重複関係〕 なし

〔規模〕 南北方向で 9.6m 検出した。上幅は 5.3m、下幅は 2.2m、深さは 0.7m である。

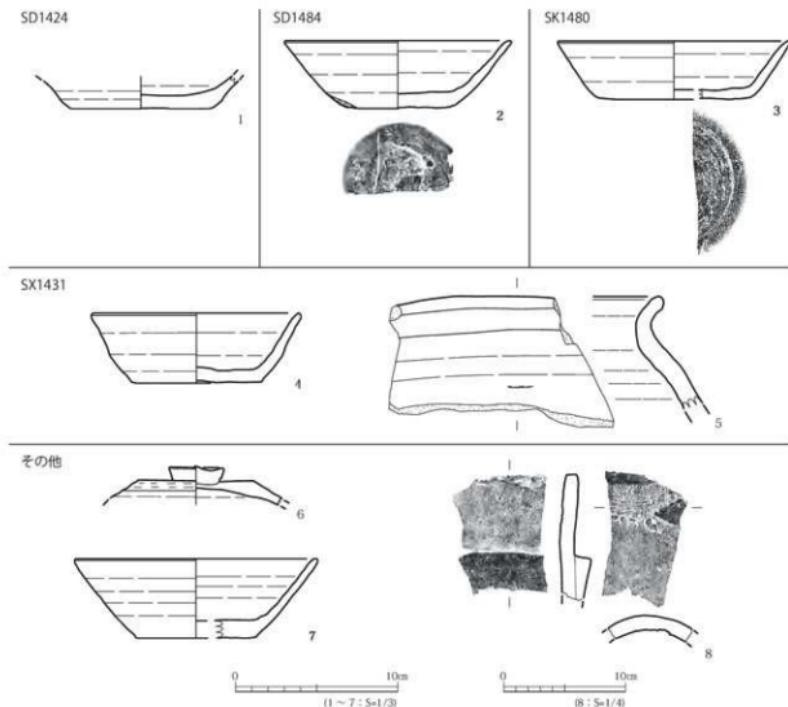
〔断面形〕 逆台形である。

〔堆積土〕 4 層にわかれ、いずれも自然堆積である。1 層に灰白色火山灰ブロックを含む。

〔出土遺物〕 須恵器壺・甕、土師器壺・甕が出土した。

⑤ 遺物包含層

中央部で灰白色火山灰を含む SX1431 遺物包含層を検出した。北東 - 南西方向で 15.4m の範囲に広がっており、須恵器壺・塊・甕、土師器壺・甕、ロクロ土師器壺・甕などが出土した。また、南部も同様に灰白色火山灰を含む SX1442 を検出した。SX1487 東西道路跡廃絶後に堆積した層であり、東西 38.4m、南北 16.0m の範囲に広がっている。須恵器甕、土師器壺・甕、ロクロ土師器甕などの破片が出土した。



No.	種別／器種	造形／形	法面 口幅 底径 厚さ	残存	調整・特徴	回収	登録	
1	須恵器／环	SD1424／堆	—	8.6	— (体下)1/6 (底)3/4	外内：ロクロナデ 底：回転系切	74.17	R427
2	須恵器／环	SD1484／堆下削	13.7	6.6	4.2 (口～体)1/4 (底)3/4	外：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ	74.18	R429
3	須恵器／环	SK1480／堆	14.2	9.4	3.6 (口～体)1/3 (底)3/4	外内：ロクロナデ 底：回転ヘラケズリ	74.19	R428
4	須恵器／环	SX1431／イカク	12.6	8.0	4.3 (底)3/4	外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→ヘラナデ	75.1	R430
5	須恵器／甕	SX1431／イカク	—	—	— (口～脚上)1/8	外内：ロクロナデ	75.3	R431
6	須恵器／蓋	西イカク	—	—	— (体～つまみ)1/2	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ一つまみ取付→ロクロナデ 内：ロクロナデ 捩伏底つまみ	75.4	R434
7	須恵器／盆	西イカク	14.7	7.2	4.9 (口～底)1/3	外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切付	75.2	R432
8	丸瓦	東部中イカク	—	—	— 破片	四面：有目→ヘラケズリ 白面：ロクロナデ 端部：ヘラケズリ 長さ：10.4cm 幅：7.3cm 厚さ：2.5cm	75.5	R433

第175図 K-6区 出土遺物

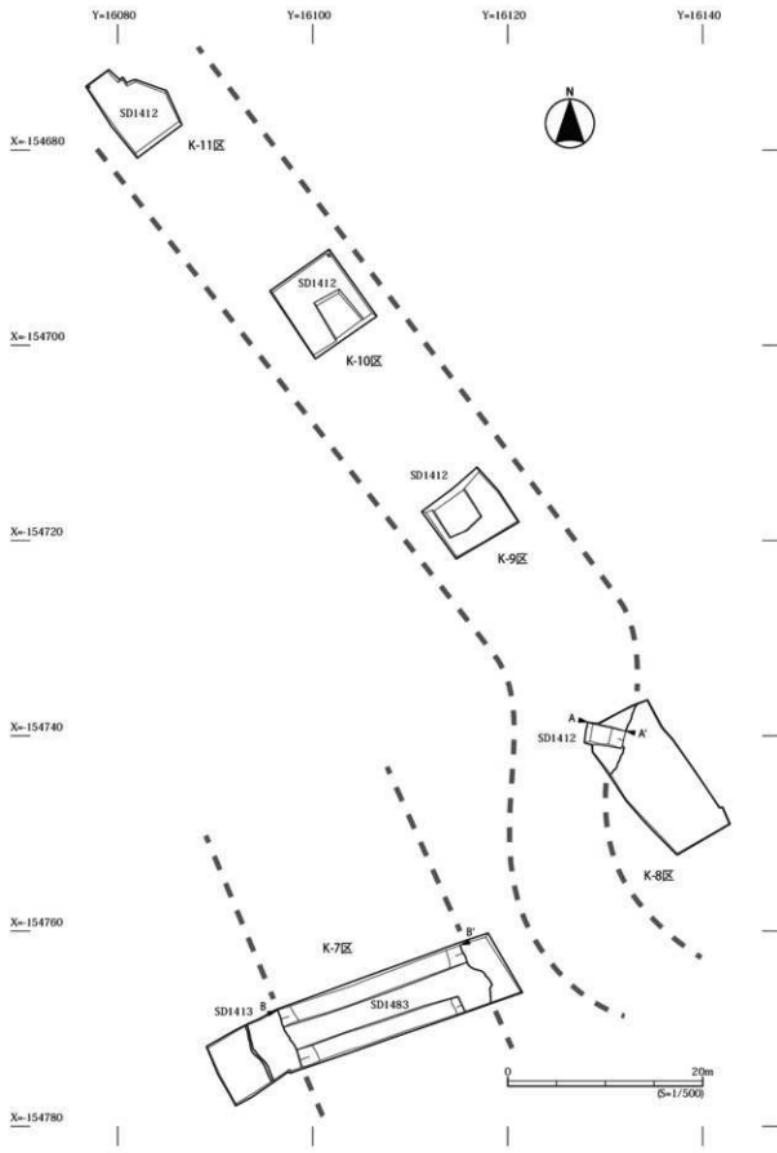
(7) K-7~11区

K区北東隅に設定された調査区で、河川跡を2条検出した。

【SD1412 河川跡】(平面図: 第176図、断面図: 第177図)

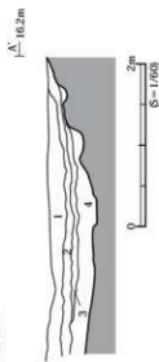
【位置】K-8区北西隅、K-9~11の全域

【重複関係】なし

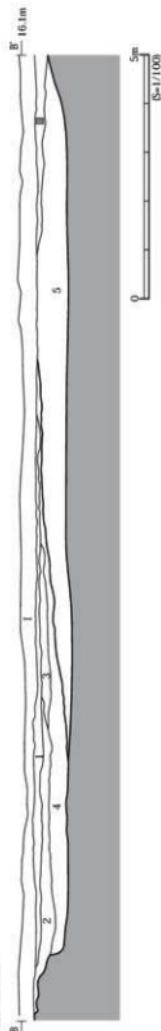


第 176 図 K-7 ~ 11 区 平面図

K-8区 SD1412
A-1



K-8区 SD1483
B-1



層番	層	土色	性質	備考
SD1412	1	灰色, 黄褐色 (10YR5/3)	粘質シルト	白雲母帶上
	2	灰褐色 (10YR6/2)	シルト	白雲母帶上
	3	灰-紅褐色 (10YR5/3)	砂質シルト	層の上に砂層を含む。
	4	灰褐色 (10YR6/2)	砂質シルト	層の上に砂層を含む。
SD1483a	5	灰褐色 (10YR5/2)	シルト	白雲母帶上

第177図 K-8区 SD1412 河川跡・K-7区 SD1483 河川断面図



No.	種別／器種	遺構／層	法面 口徑	底径	壁高	残存	調整・特徴	回収	登録
1	土師器／甕	SD1483／下層	—	—	—	(口～脚上) 1/8	外：ハケメヨコナデ 内：ヨコナデ～ラナデ	75.7	R436
2	土製品／円盤	SD1483／下層	—	—	—	長軸：3.3cm 短軸：3.2cm 厚さ：0.8cm 螺文なし		75.6	R435

第178図 K-7区 SD1483 河川跡出土遺物

【規模】北西—南東方向で未調査部分を含めて85.0m検出した。上幅は7.5m以上、深さは0.58mである。

【断面形】逆台形とみられる。

【堆積土】4層にわかれ、いずれも自然堆積である。

【出土遺物】出土しなかった。

【SD1483 河川跡】(平面図: 第176図、断面図: 第177図、遺物: 第178図)

【位置】K-7区

【重複関係】なし

【規模】北西—南東方向で6.5m検出した。2期あり(a→b)、a期で上幅は6.0m以上、下幅は12.3m以上、深さは0.6m、b期で上幅は12.7m、下幅は3.7m、深さは0.6mである。

【断面形】a期は皿形、b期は不整な皿形である。

【堆積土】a期で1層、b期で4層にわかれ。いずれも自然堆積で、b期1層に灰白色火山灰ブロックを含む。

【出土遺物】土師器甕、土製品円盤などが出土した。

(8) K-13～15区

K区中央部の北端に位置する。掘立柱建物跡2棟のほか、河川跡・溝跡を検出した。

①掘立柱建物跡

【SB1475 掘立柱建物跡】(平面図: 第179・180図、断面図: 第181図、遺物: 第181図、写真図版: 36-2～5)

【位置】K-13中央部の西寄りに位置し、西側・東側・南側の柱列と北側の柱列の一部を検出した。

【重複】SD1540より古い。

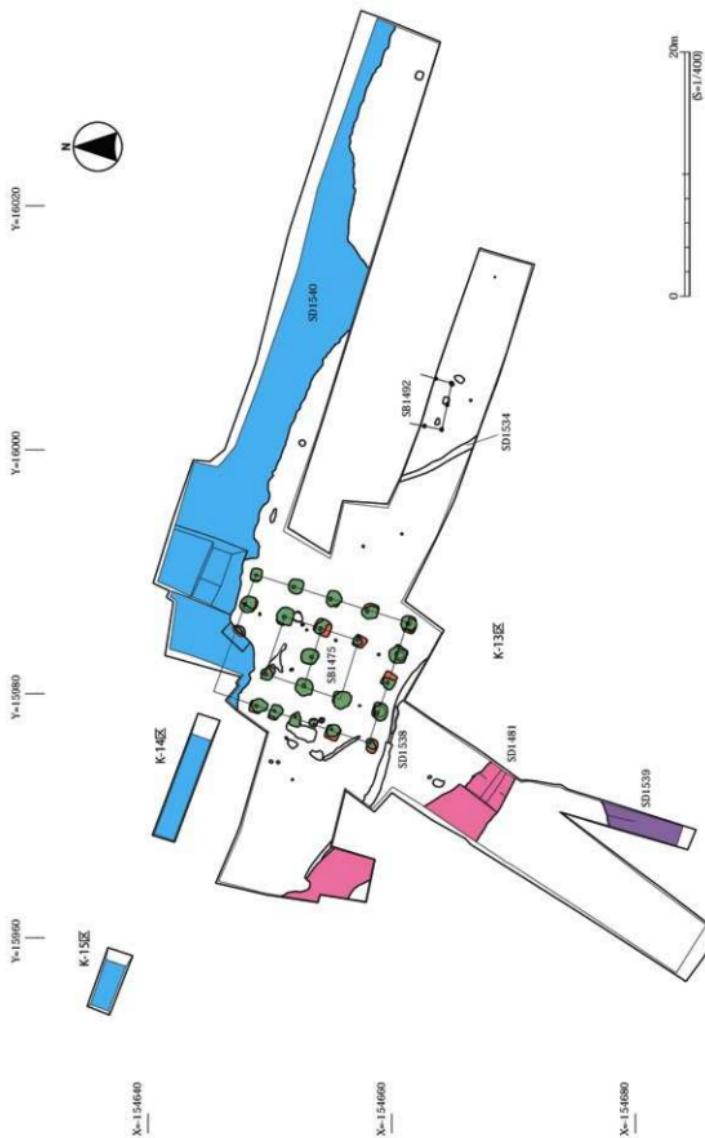
【柱間数・棟方向】身舎が桁行2間、梁行1間で廂を含めると桁行4間、梁行4間の南北棟四面廂建物跡と推定される。

SB1475a

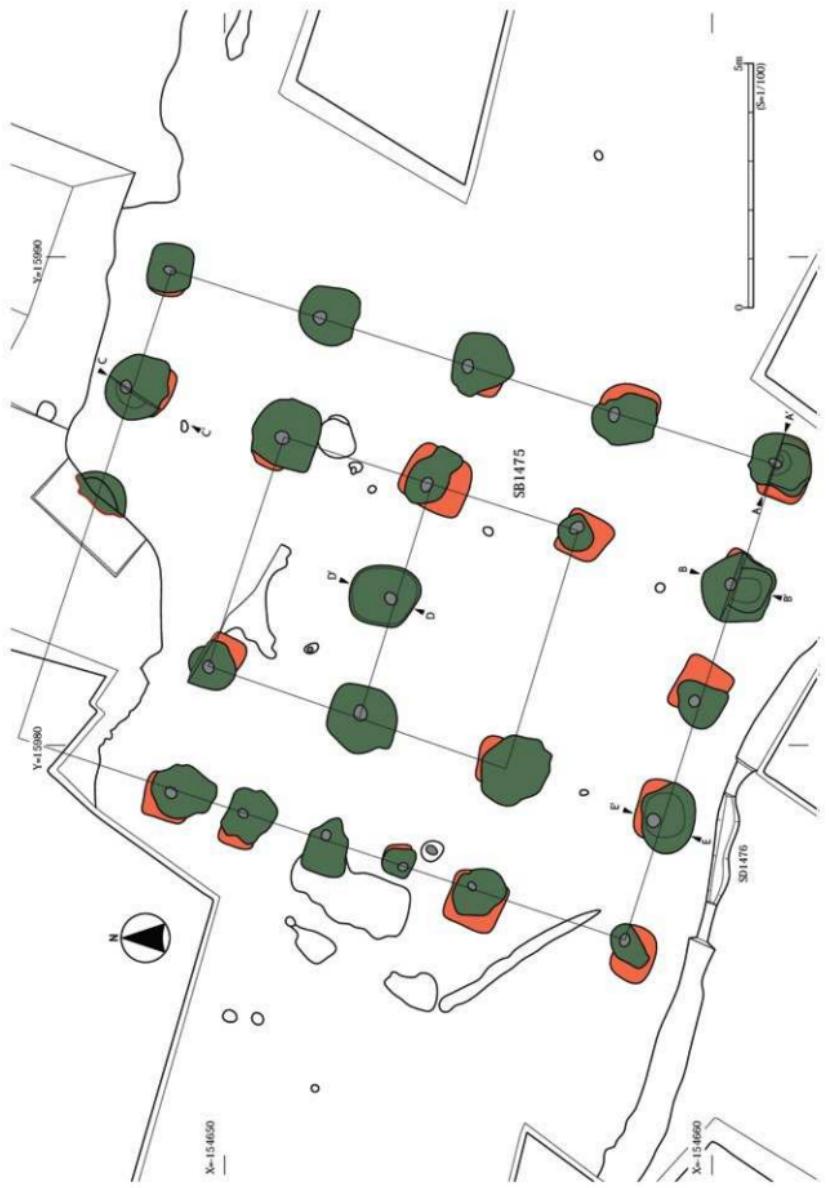
【検出状況】柱穴を17個検出した。いずれも柱が抜き取られており、柱痕跡を確認できない。

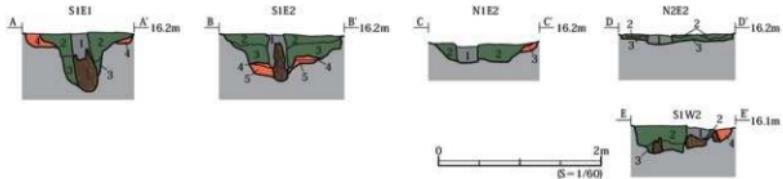
【平面規模】柱痕跡が確認できることから、正確な平面規模は不明であるが、b期とほぼ同様とみられる。

第179図 K-13・14・15区 平面図

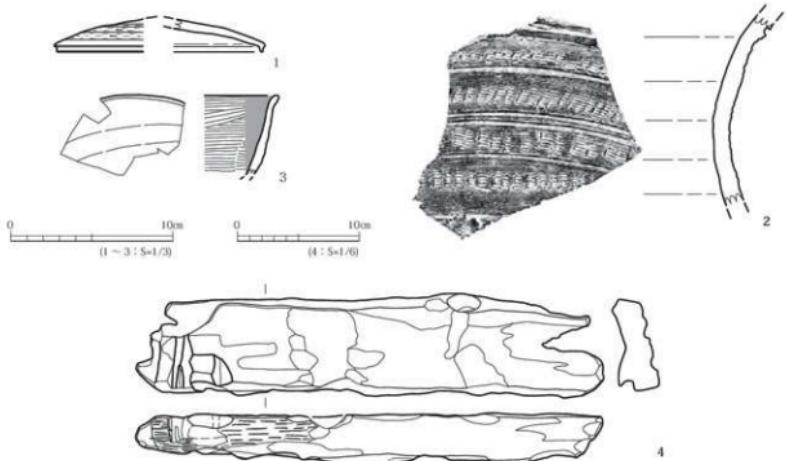


第180図 K-13区 SB1475 挖立柱建物跡平面図





遺構	層	土色		土性	圖考	
		1	2		3	4
SIE1b	1	暗褐色 (10YR3/4)		柱材残存。地山部を少し含む。		柱6脚
	2	にふい・暗褐色 (10YR5/3)		灰白色火山灰粒を多く含み、地山ブロックを含む。		側方埋土
SIE1a	3	灰黄褐色 (10YR4/2)		地山ブロックを多く・炭化物をわずかに含む。		側方埋土
	4	灰黄褐色 (10YR6/2)	砂	地山ブロックを含む。		側方埋土
SIE2b	1	暗褐色 (10YR3/4)		柱材残存。		柱8脚
	2	にふい・暗褐色 (10YR5/3)	粘土質シルト	灰白色火山灰粒を多く含み、地山ブロック・炭化物を含む。		側方埋土
SIE2a	3	にふい・暗褐色 (10YR5/3)	粘土質シルト	炭化物粒をわずかに含む。		側方埋土
	4	灰黃褐色 (10YR6/2)	砂	地山ブロックを含む。		側方埋土
S1E2	5	暗灰色 (10YR6/1)	シルト	地山ブロック・炭化物を含む。		側方埋土
NIE2b	1	暗褐色 (10YR3/4)		炭化物を含む。		柱8脚
	2	にふい・暗褐色 (10YR6/3)	シルト	灰白色火山灰粒・地山ブロックを多く含む。		側方埋土
NIE2a	3	にふい・暗褐色 (10YR6/3)		地山ブロックを含む。		側方埋土
N2E2	1	暗褐色 (10YR3/3)		炭化物・地山ブロックを含む。		柱8脚
	2	にふい・暗褐色 (10YR5/3)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含み、炭化物・灰白色火山灰粒を含む。		側方埋土
S1W2b	3	にふい・暗褐色 (10YR7/3)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。		側方埋土
S1W2a	1	暗褐色 (10YR3/4)	シルト	邊板残存。地山ブロックを少し含む。		柱6脚
	2	にふい・暗褐色 (10YR6/3)	粘土質シルト	灰白色火山灰粒・地山ブロックを含む。		側方埋土
	3	暗灰色 (10YR5/1)	シルト	地山ブロックを含む。		側方埋土
	4	にふい・暗褐色 (10YR6/4)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。		側方埋土



No.	種別／器種	遺構／層	測量 (cm)			持存	調査・特徴	回数	登録
			口径	底径	高さ				
1	須恵器／蓋	SB14751E2／側方	—	—	—	(口～体)1/6	外：ロクロナデ→凹輪ヘラケリ 内：ロクロナデ	75-16	R472
2	須恵器／蓋	SB14751E2／側方	—	—	—	破片	外：ロクロナデ→網羅立点文 内：ロクロナデ	75-15	R471
3	ロクロ土器／环	SB14751E2／側方	—	—	—	破片	外：ロクロナデ 内：ヘルミガキ→黒色処理	75-17	R470
4	木製品／礎盤	SB14751E2／床	—	—	—		目詰穴らしき加工あり。柱材の配用。	75-18	R493

第181図 K-13区 SB1475 挖立柱建物跡断面図・出土遺物

【方向】柱痕跡が確認できないことから、正確な方向は不明であるが、b期とほぼ同様とみられる。

【柱穴】掘方は長軸0.9～1.4m、短軸0.7～1.2mの隅丸方形とみられる。

【出土遺物】出土しなかった。

SB1475b

【検出状況】柱穴を23個検出し、21個で柱痕跡を確認した。

【平面規模】桁行が東側柱列で総長13.0m、柱間寸法は3.3m～3.2m～3.1m～3.4m、梁行が南妻で総長10.2m、柱間寸法は2.5m～2.6m～2.5m～2.6mである。

【方向】東側柱列で測ると北で東に18°偏る。

【柱穴】掘方は長軸0.8～1.5m、短軸0.6～1.4m、深さ0.12～0.4mの隅丸方形である。柱痕跡は長軸0.18～0.3mの円形もしくは梢円形である。S1E1・S1E2では下部に柱材が残存していており、S1W2では礎板が残存していた。礎板は掘方直上に板材を3枚並べて設置されていた。b期柱痕跡の直下でない箇所にも礎板が存在することから、その直上にa期の柱痕跡があった可能性がある。

【出土遺物】掘方埋土より須恵器甕・蓋、S2E2掘方埋土よりロクロ土師器环が出土した。

【SB1492 挖立柱建物跡】(平面図: 第179図、写真図版: 36-1)

【位置】K-13区中央部の東寄りに位置し、南側の柱列と東側・西側柱列の一部を検出した。

【重複】なし

【柱間数・棟方向】東西2間、南北1間以上である。

【検出状況】柱穴を5個検出し、全てで柱痕跡を確認した。

【平面規模】東西が南側柱列で総長4.0m、柱間寸法は西から2.2m～1.8m、南北が西側柱列で総長1.5m以上である。

【方向】南側柱列で測ると西で北に14°偏る。

【柱穴】掘方は長軸0.3m、短軸0.2mの梢円形で、柱痕跡は長軸0.1～0.18mである。

【出土遺物】出土しなかった。

③河川跡・自然流路跡

【SD1540 河川跡】(平面図: 第179図)

【位置】K-13区北部、K-14・15の全域

【重複関係】SB1475より新しい。

【規模】北西～東方向で未調査部分を含めて84.0m検出した。上幅は7.2m以上、深さは0.62mである。

【断面形】不明である。

【堆積土】3層にわかれ、いずれも自然堆積である。ただし、最下層の3層は、他の調査区で検出した河川跡の堆積土との比較からSD1412である可能性がある。

【出土遺物】出土しなかった。

【SD1481 自然流路跡】(平面図: 第179図)

【位置】K-13区南部

【重複関係】SD1538より新しい。

[規模] 北西—南東方向で未調査部分を含めて 20.4m 検出した。上幅は 2.4 ~ 4.80m、下幅 1.7m、深さは 0.56m である。

[断面形] 皿形である。

[堆積土] 2 層にわかれ、いずれも自然堆積である。

[出土遺物] 須恵器壺・甕、土師器壺・甕、ロクロ土師器壺などの小片が出土した。

SD1481



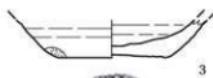
1



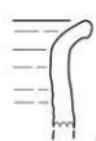
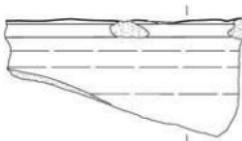
2



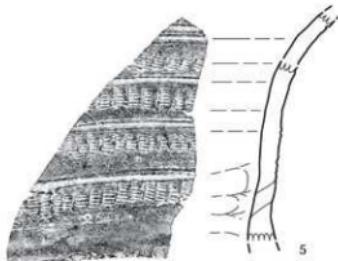
遺構確認



3



4



5



6



0
10cm
(1 ~ 5: S=1/3)

0
10cm
(6: S=1/4)

No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm)			現存	調整・特徴	図版	登録
			口径	底径	高さ				
1	須恵器／壺	SD1481／堆	15.4	9.6	3.7	(口~底)/3 (底)4/3	内内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切→回転ヘラケズリ 縦筋「十」または「×」	75.9	R477
2	須恵器／壺	SD1481／堆	13.6	5.8	3.7	(口~底)1/2	外内：ロクロナデ 壁：回転系切	75.8~11	R469
3	須恵器／壺	イカク	—	6.6	—	(体下~底)3/3	外内：ロクロナデ 底：手持ちヘラケズリ	75.10	R476
4	須恵器／甕	南イカク	—	—	—	破片	外内：ロクロナデ	75.13	R475
5	須恵器／甕	南イカク	—	—	—	破片	外外：ロクロナデ→輪帯周点文 内：ロクロナデ	75.12	R473
6	平瓦	南イカク	—	—	—	破片	四面：ヘラナデ 口沿：端タタキ目か 端部：布目/ヘラケズリ 長さ：16.0cm 幅：11.5cm 厚さ：3.2cm	75.14	R474

第 182 図 K-13 区 SD1481 溝跡、遺構確認出土遺物

第12表 K区道路跡属性表

区名	道牌名	时期	側溝位置 側溝 道牌名	方向	地盤段 (m)	側溝外間 距離(m)	側溝規模(m)			新面形	堆積土	出土遺物	津岡番号		
							上幅	下幅	深さ				平面	断面	
K-6	SX400	古代	北側溝	W-2'-N	29.2	4.2~4.6	0.6	0.3	0.1	圓形	自然		灰白の下層	171	171
			南側溝		SD1441	16.2	0.7	0.4	0.15	圓形	自然		灰白の下層	171	171

第13表 K区掘立柱建物跡属性表

区名	道牌名	时期	側溝位置 側溝 道牌名	横 方 向	平面規模(m)			建物方向		柱穴掘方		柱底跡 (m)	新旧關係		津岡番号		
					析行		梁行	角度	規格(m)		平面形		平面		断面		
					幅員	間隔	柱間寸法		柱長	深さ							
K-1	SB1310	1+	1		2.8	西		N-11°-E	西	0.4~0.5	0.2	圓丸方形	0.1~0.2	88~90	-		
K-1	SB1311	1+	1+		2.6	東		N-2°-E	東	0.4~0.5	0.2	不整な 圓丸方形	0.2	88~90	-		
K-1	SB1312	1+	1+		2.9	東		N-2°-E	東	0.3~0.5	0.2	圓丸方形	0.1~0.2	88~90	-		
K-5	SB1397	2+	3	東西か	4.6	南	20.2+6.3	東	1.5+1.2 +1.6	N-6°-E	東	0.4~0.7	0.08~0.26	SB1397→SD1350 +1351+1383	126~131	131	
K-5	SB1398 (柱柱)	2+	2	東西	3.1+	南	1.7+1.4	2.6	東	1.5+1.1	N-8°-W	東	0.3~0.4	0.1~0.28	圓丸方形 橢円形	0.1~0.2	127~129
K-5北	SB1408	2	2	東西	4.5	北	2.4+2.1	3.6	西	1.8+1.8	N-14°-E	西	0.3~0.6	0.1~0.3	圓丸方形	0.1~0.2	SI1621, SK1622, SK1624→SB1408
K-5中 央	SB1409	2	2	南北か	4.8	西	2.3+2.5	4.6	北	2.2+2.4	N-6°-E	西	0.7~1.2	0.8	圓丸方形 圓丸長方形	0.15~0.2	SI1409→SD1373 +SX1375, SI1381→SB1409
K-5	SB1488	3+	2+		6.6	東	2.1+2.4 (+2.1)	4.3	南	2.1+2.2	N-3°-E	東	0.4~0.5	0.15~0.3	圓丸方形	0.15~0.3	SI1488→SK1400 +1401+1403, SN1478→SB1488
K-5	SB1489	2+	2	東西	3.5+	南	1.7+1.8	3.2	東	1.7+1.5	N-3°-E	東	0.3~0.4	0.1~0.3	圓丸方形	0.2	SI1489→SI1394
K-5	SB1490	3+	2	東西	3.7+	北	(1.4)+1.0 -1.3	(2.9)	西	(1.4)+1.5	N-2°-W	東	0.3~0.4	0.07~0.25	橢円形	0.1~0.2	SI1490→SI1394
K-5	SB1491	1+	1+		2.0+	北		1.5°-西		N-5°-W	西	0.3~0.4	0.2	圓丸方形	0.1~0.2	SI1491→SD1392	
K-5 南	SB1601	3	2	東西か	3.3	南	1.1+1.2+ 1.0	3.3	東	1.7+1.6	N-1°-E	東	0.3~0.5	0.2~0.3	圓丸方形 橢円形	0.1~0.2	126~132
K-5 中央	SB1613	3	2	南北	5.0	東	1.8+1.5+ 1.7	3.6	南	1.8+1.8	N-7°-E	東	0.5~0.6	0.3~0.5	圓丸方形	0.1	SB1613→SD1373
K-6	SB1550	2+	1+		3.1+	東	1.6+1.5	2.9+	南		N-3°-E	東	0.3~0.4	0.15	圓丸方形	0.1~0.2	172~172
K-6	SB1545	4+	3-	東西か	7.1	北	1.6+1.9+ (2.0)+(1.6)	4.8	西	1.5+1.6+ (1.7)	N-8°-W	西	0.2~0.3	-	圓丸方形	-	SD1419→SB1545
K-6	SB1544	2+	1+		3.3+	南	1.8+1.5	2.1+	東		N-2°-E	東	0.2~0.3	-	橢円形	0.1~0.17	173~
K-6	SB1543	3+	2+		6.0	北	2.0 等間隔	3.1	西	1.5+1.6	N-8°-W	西	0.4~0.5	-	圓丸方形	0.2~0.35	174~
K-12	SB1549	2+	2+		6.0	北	3.0 等間隔	5.0	西	2.3+2.7	N-8°-W	西	0.4~0.9	-	圓丸方形	0.1	SB1549→ SD1459+1460
K-13	SB1475a	4	4	南北	(13.0)		(10.5)				0.9~1.4	0.2+	圓丸方形	-	SB1475→SD1540	179~180	
K-13	SB1475b	4	4	南北	13.0	東	3.3+3.2 -3.1+3.4	10.2	南	2.5+2.6 +2.5+2.6	N-18°-E	東	0.8~1.5	0.12~0.4	圓丸方形	0.18~0.3	179~180
K-13	SB1492	2	1+		4.0	南	2.2+1.8	1.5+	西		W-14°-N	南	0.3	-	橢円形	0.1~0.18	179~

第14表 K区堅穴建物跡属性表

区名	通構名	平面形	規模(m)		方向	計測 度	床	主柱 穴	カマド			貯藏 (位置/形状)	備考	辨認番号	
			東西	南北					位置	側壁	堆通 (m)			平面	断面
K-I	SI1200	圓丸方形 或方圓形	1.8+ × 3.0-	E-5°-N	南	?	-	東辺 中央	-	0.8	-	-	SD1216 → SI1200	88・90	-
K-I	SI1201	圓丸方形 或方圓形	1.4+ × 2.5-	N-15°-E	西	擬方 理土	1	-	-	-	-	北辺・西辺	SI1201 → SK1206	88・90	91
K-I	SI1202	圓丸方形 或方圓形	0.9+ × 2.3+	N-8°-E	西	擬方 理土	1	-	-	-	-	北辺・西辺	SI1202 → SI1203	88・90	91
K-I	SI1203a	圓丸方形 或方圓形	1.4+ × 2.4-	N-6°-E	西	擬方 理土	1	-	-	-	-	北辺・西辺	SI1202 → SI1203a → SI1203b	88・90	91
K-I	SI1203b	圓丸方形 或方圓形	1.8+ × 3.3	N-8°-E	西	擬方 理土	1	-	-	-	-	北辺・西辺	SI1202 → SI1203a → SI1203b	88・90	91
K-I	SI1204	圓丸方形 或方圓形	2.8+ × 2.4-	N-8°-E	東	擬方 理土	-	-	-	-	-	南辺・東辺	SI1204 → SD1212	88・92	92
K-2	SI1230	圓丸 長方形	2.9+ × 1.7+	N-15°-E	東	?	-	-	-	-	-	-	SI1230 → SE1231	97	-
K-2	SI1232	圓丸 或方圓形	1.0+ × 4.9-	N-6°-E	西	?	-	-	-	-	-	-	SI1232 → SD1251	97	-
K-5	SI1371	方形?	3.9+ × 1.1+ × 35°-N	南東	擬方 理土	-	-	-	-	-	-	K1 (南東辺北東 り/内形)	SI1371 → SD1372 → SK1410	125+ 148	148
K-5 中央	SI1381	長方形	3.9+ × 5.3	N-38°-E	西北	擬方 理土	2	-	-	-	-	K1(中央部/楕円形) K2(北東隅/楕円形)	SI1381 → SB1409 + SD1373, SD1377 + SX1375	125	137
K-5 北	SI1621	方形	5.0+ × 6.15	N-36°-W	北東	擬方 理土	2	-	-	-	-	K1(南北/楕円形) K2(南東辺中央 り/内形)	SI1621 → SB1408 + SX1620 + SD1620 + SK1619 + 1624 柱材抜取り痕跡あり。白色粘土を 4力所で検出	124+ 139	140
K-6	SI1500	圓丸方 形	2.4+ × 2.9	N-4°-E	西	-	-	-	-	-	-	-	SI1500 → SD1423	173	-
K-12	SI1453	圓丸方 形	2.1+ × 3.9-	N-10°-E	西	擬方 理土	-	-	-	-	-	K1(北辺/圓丸 形) K2(西辺/中央/楕 円形)	SI1453 → SD1450 + SK1457 北辺中央部の剥出し部分に土器・植 土ブロック・炭化物が埋め。カマ ドを破壊した可能性あり。	116+ 118	118

第15表 K区井戸跡属性表

区名	通構名	構造	平面形	断面形	長幅 (m)	短幅 (m)	深さ (m)	堆積土	出土遺物	備考	辨認番号	
											平面	断面
K-2	SE1231	素掘り	円形	逆台形	2.7	2.5	1.3	自然	須恵器、土師器、陶器 瓦	SI1230 → SE1231	97	99
K-2	SE1233	素掘り	円形	逆台形	2.0	2.0	0.9	自然	須恵器、土師器、瓦	SD1251 → SE1233	97	99
K-2	SE1250	素掘り	円形	箱形	1.0	0.9	1.0	自然	須恵器、土師器、瓦	-	97	99
K-2	SE1254	素掘り	楕円形?	逆台形?	-	-	-	自然・人為	-	SE1254 → SE1255	96	99
K-2	SE1255	素掘り	楕円形	不整形	2.3	1.8	1.0	自然	須恵器、土師器	SE1254 → SE1255	96	99
K-5	SE1354	素掘り	楕円形	逆台形	1.6	0.7	0.7	自然	須恵器、土師器	-	126	151
K-5	SE1382	木組み?	楕円形	箱形	1.2	1.0	0.64	自然・人為	須恵器、土師器、瓦	-	126+ 131	151
K-5	SE1626	刺貫き	円形	漏斗形	1.7	1.6	1.4	自然・人為	土師器	-	125+ 153	153
K-12	SE1455	素掘り	圓丸方形	逆台形	2.1	1.2+	1.3	自然・人為	須恵器、土師器、口クロ 土師器、赤埴土器	-	116	120

第16-1表 K区溝跡属性表

区名	通構名	方向	縦出長		断面形	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	堆積土	出土遺物	備考	辨認番号	
			(m)	(m)								平面	断面
K-1	SD1205	東西	2.8	-	逆台形	0.8~1.0	0.4~0.5	0.5	自然	須恵器、土師器	-	88	-
K-1	SD1209	北西-南東	2.8	-	逆台形	1.3	0.7	0.2	自然	土師器	-	88・90	-
K-1	SD1210	北西-南東	2.9	-	箱形	0.8	-	-	自然?	-	-	88・90	-
K-1	SD1211	東西	2.2	-	箱形	0.8	0.6	0.1	自然	-	SD1211 → SD1223	88・92	-
K-1	SD1212	北東-南西	5.8	-	箱形	0.2~0.4	0.1~0.2	0.2	自然	土師器	SD1223 → SD1212	88・92	-
K-1	SD1216	南北	1.4	-	-	-	-	-	-	-	SD1216 → SH1200	88・90	-
K-1	SD1222	東西	2.8	-	箱形	0.5~0.7	0.4~0.6	0.1	自然	-	SD1222 → SD1223	88・92	-
K-1	SD1223	北東-南西	5.3	-	箱形	0.4~1.3	0.4~1.1	0.1	自然	-	SD1223 → SD1212	88・92	-
K-1	SD1229	東西	2.8	-	箱形	0.4+	0.3	0.1	自然	-	SD1212 → SD1229	88・92	-
K-1	SD1285	東西	2.8	-	逆台形	0.8~1.0	0.6~0.7	0.3	自然	土師器	-	89・93	-
K-1	SD1286	東西	2.8	-	逆台形	1.7~1.8	1.2~1.3	0.8	自然	須恵器、土師器	-	89・93	93
K-1	SD1289	南北	2.5	-	逆台形	0.3~0.4	0.1~0.2	0.1	自然	-	SD1289 → SK1290	89・93	-
K-1	SD1291	北西-南東	3.1	-	箱形	0.6	0.5	0.1	自然	-	SD1291 → SK1290	89・93	-

第16-2表 K区溝跡属性表

區名	遺構名	方向	機出長 (m)	断面形	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	堆積土	出土遺物	備考	辨認番号	
											平幅	断面
K-1	SD1292	北西-南東	2.8	逆台形	1.75	0.5	1.1	自然	須恵器、土師器、陶器、瓦	SD1298→SD1292	89・93	93
K-1	SD1293	東西	2.6	圓形	0.5	0.4	0.1	自然			89・93	-
K-1	SD1295	東西	2.6	圓形	0.2	0.2	0.1	自然			89・93	-
K-1	SD1296	東西	1.8			0.2					89・93	-
K-1	SD1298	東西	1.2	圓形	0.8	0.7	0.1	自然		SD1298→SD1292	89・93	-
K-2	SD1234	南北	2.1			0.6				SD1234・1237→SD1235	97	-
K-2	SD1235	東西	1.5			0.6				SD1234・1237→SD1235	97	-
K-2	SD1237	南北	3.3		0.3~0.8					SD1234・1237→SD1235	97	-
K-2	SD1238	東西	5.7		1.5						97	-
K-2	SD1239	東西	3.0		0.6~1.2						97	-
K-2	SD1240	東西	6.0		0.8						97	-
K-2	SD1241	東西	5.4		0.8~0.9						97	-
K-2	SD1242	東西	4.8		0.6						97	-
K-2	SD1243	東西	3.5		1.2~1.5						97	-
K-2	SD1252	東西	2.8		0.4~0.5					SD1251→SD1252	97	-
K-2	SD1257	北西-南東	3.1		1.2					SD1251→SD127	96	-
K-3	SD1260	南北	7.6	逆台形	0.4~0.6	0.2~0.4	0.2	自然		SK1262→SD1260	103	-
K-3	SD1263	北東-南	6.2	圓形	1.3~2.2	0.6~0.9	0.5	自然	須恵器、土師器、陶器、瓦、鐵斧	SK1279と当院の橢円 SK1279→SD1263→SD1264	103	104
K-3	SD1264	東西	2.6	逆台形	0.7~1.0	0.4~0.6	0.5	自然	須恵器、土師器	SD1263→SD1264	103	104
K-3	SD1265	北西-南東	4.8	逆台形	0.8~1.5	0.5~1.2	0.2	自然	須恵器、土師器、羽目1		102	-
K-3	SD1267	東西	4.0	逆台形	0.9~1.1	0.4~0.6	0.3	自然			101	104
K-3	SD1268	北西-南東	4.4	逆台形	0.3~0.6	0.2	0.1	自然			102	-
K-3	SD1271	東西	3.4	逆台形	0.2~0.7	0.1~0.3	0.13	自然			101	-
K-3	SD1272	東西	3.8	圓形	0.8	0.6	0.15	自然			101	-
K-3	SD1274	東西	3.2	圓形	0.6~0.8	0.3~0.5	0.15	自然			101	-
K-3	SD1275	東西	1.4	圓形	0.3~0.6	0.1~0.3	0.1	自然			101	-
K-3	SD1278	北西-南東	7.3	圓形	0.4~1.0	0.2~0.4	0.1	自然	須恵器、土師器		102	-
K-4	SD1277	南北	4.6	逆台形	0.6~0.8	0.2~0.4	0.3	自然	須恵器、土師器		89	-
K-4	SD1282	南北	2.0	圓形	0.3	0.2	0.1	自然			89	-
K-4	SD1283	東西	1.7	逆台形	0.4	0.2	0.2	自然	土師器	SD1283→SD1284	89	-
K-4	SD1284	南北	1.6	圓形	0.2~0.3	0.1~0.2	0.1	自然		SD1283→SD1284	89	-
K-5	SD1350	北東-南西	32.7	橢形	0.4~0.6	0.1~0.5	0.1~0.3	自然	須恵器、土師器	SB1397・1551 →SD1350→SD1383	126・	-
K-5	SD1351	北東-南西	28.9	橢形	0.3~0.8	0.2~0.3	0.1~0.2	自然	須恵器、土師器	SB1397・1551 →SD1350→SD1383	126・	-
K-5	SD1368	東西	3.2	圓形	1.2	1.0	0.2	自然	須恵器、土師器	SD1368→SK1367、SD1379	125・	-
K-5	SD1369	北西-南東	7.5	圓形	0.4	0.2	0.2	自然	須恵器、土師器、瓦	SD1370→1378→SD1369	125・	-
K-5	SD1370	東西	11.6	圓形	2.4~3.8	2.1~2.6	0.2	自然	須恵器、土師器	SD1370→SD1614	125	-
K-5	SD1372	東西	10.7	圓形	0.4~0.6	0.2~0.3	0.2	自然		SI1371→SD1372 →SK1410	125・	-
K-5	SD1373	東西-南北 南北-東西 南北-南北 南北-南北	南北9.0 南北11.0 南北11.1	逆台形	0.7~1.1	0.4~0.6	0.3~0.6	自然	須恵器、土師器	方間に盛る溝跡 SB1409・1613→SD1373 →SI1375	125・	158
K-5	SD1374	南北	7.5	逆台形	0.6~0.9	0.4~0.7	0.2	自然	須恵器、土師器、羽目 羽目		125・	-
K-5	SD1377	北西-南東	3.7	逆台形	0.5~1.0	0.2~0.5	0.2	自然	土師器	SI1381→SD1377	125	-
K-5	SD1378	東西	12.3	逆台形	1.6~1.8	0.9	0.5	自然(灰白 を含む)	須恵器、土師器、瓦	SD1378→SD1369・1614	125・	-
K-5	SD1379	南北	2.2	圓形	0.3	0.2	0.15	自然		SD1379→SD1368	125・	-
K-5	SD1383	東西	5.6	圓形	1.1	0.4~0.7	0.1	自然	須恵器、土師器	SB1397、SD1350・1351 →SD1383→SD1385	126・	-
K-5	SD1384	東西	4.1	圓形	1.1	0.4~0.6	0.1	自然	須恵器、土師器、瓦	SB1397→SD1383→SD1385 →SD1393→SD1384	126・	159
K-5	SD1385	東西	4.1	圓形	0.3~0.5+	0.4+	0.1	自然	土師器	SD1383→SD1385 →SD1393	126・	-
K-5	SD1389	北東-南	13.0	圓形	0.4	0.2	0.1	自然	須恵器、土師器	SK1388→SD1389	127	-
K-5	SD1391	東西	3.8	逆台形	0.7~1.2	0.3~0.6	0.2	自然	須恵器、土師器、瓦		127・ 129	159
K-5	SD1392	東西	3.6	橢型	0.6~0.8	0.3~0.4	0.2	自然(灰白 を含む)	須恵器、土師器	SI1491→SD1392	127・ 129	-
K-5	SD1393	東西	4.1	圓形	0.6~1.4+	0.3~0.8	0.1	自然	須恵器、土師器	SD1385→SD1393 →SD1384	126	-
K-5	SD1606	東-南西	8.8	圓形	0.6	0.2	0.15	自然	須恵器、土師器	SD1611→SD1607 →SD1606	125	-

第 16-3 表 K 区溝跡属性表

区名	遺構名	方向	横出長 (m)	断面形	上幅		下幅		深さ (m)	堆積土	出土遺物	備考	堆積層番号	
					(m)	(m)	(m)	(m)					平面	断面
K-5	SD1607	東・南西	10.1	矩形	0.6	0.3	0.15	自然	遺跡層、土師器	SD1611→SD1607 →SD1606		125	—	
K-5	SD1609	東西・南	5.4	逆台形	0.8~1.0	0.2~0.6	0.17	自然	遺跡層、土師器	SD1378→SD1614 →SD1609		125	—	
K-5	SD1611	西北・南東	8.2	逆台形	0.9	0.4	0.2	自然	遺跡層、土師器	SD1611→SD1607 →SD1606		125	—	
K-5	SD1614	東西	7.2	逆台形	0.8~1.9	0.2~0.5	0.2~0.5	自然(灰白を含む)		SD1370・1378 →SD1614→SD1609		125	—	
K-5	SD1620a	東西	0.9	逆台形	0.9	0.6	0.31	自然・人為	遺跡層、土師器	SI1621→SD1620		124+	155	
K-5	SD1620b	南北	5.1	逆台形	0.6~1.6	0.3~0.7	0.03~ 0.3	自然	遺跡層、土師器	SI1621→SD1620		124+	155	
K-6	SD1414	西北・南東	4.8	皿形	0.4~0.7	0.3	0.1	自然				174	—	
K-6	SD1417	東西	6.2	逆台形	0.5~0.7	0.4~0.6	0.1	自然	土師器	SD1417→SK1415		173	—	
K-6	SD1419	南北・東西	南北5.4 東西4.5	逆台形	0.4~0.6	0.2~0.3	0.1	自然		コの字状に屈曲、水田跡か SN1419→SD1418		173	—	
K-6	SD1423	東西・南東	2.3	矩形	0.4~0.7	0.3~0.4	0.1	自然	土師器	SI1500→SD1423		173	—	
K-6	SD1424	南北	6.3	逆台形	0.4~0.7	0.2~0.3	0.2	自然	遺跡層、土師器	SD1425→SD1424 →SK1480		173	—	
K-6	SD1425	南北	6.5	逆台形	0.4~0.6	0.3	1.0	自然		SD1425→SD1424 →SK1480		173	—	
K-6	SD1426	東西・南北	6.4	矩形	0.4~0.6	0.3	0.1	自然	遺跡層			172+	—	
K-6	SD1429	東西・南東	1.8	皿形	0.8~1.2	0.6~1.0	0.15	自然	遺跡層、土師器			172	—	
K-6	SD1434	南北	5.4	扇形	0.2~0.3	0.2	0.2	自然	土師器	SD1434→SD1437		172	—	
K-6	SD1435	南北	3.0	扇形	0.3	0.2	0.15	自然	土師器	SD1435→SD1436・1437		172	—	
K-6	SD1436	東西・南東	2.2	皿形	0.3~0.5	0.3	0.1	自然	土師器	SD1435→SD1436→1437		172	—	
K-6	SD1437	東西	4.0	皿形	0.2~0.5	0.15	0.1	自然	土師器	SD1434・1435 →SD1436→SD1437		172	—	
K-6	SD1438	東西	5.0	逆行形	0.6~0.9	0.5	0.1	自然				171+	—	
K-6	SD1440	東西	5.0	皿形	0.9	0.7	0.1	自然	土師器			171	—	
K-12	SD1449	西・南東	5.4	皿形	1.3+	1.1+	0.2	自然	遺跡層、土師器			116	—	
K-12	SD1454a	西北・南東	7.6	逆行形	1.2+	0.9	0.36	自然	土師器 ロクロ土師器 赤燒土器、瓦	SD1474→SD1454		116	120	
K-12	SD1454b	西北・南東	7.6	逆行形	~1.7 ~2.1+	0.4	0.6	自然	遺跡層、土師器 ロクロ土師器 赤燒土器、瓦	SD1474→SD1454		116	120	
K-12	SD1457	西北・南東	1.8	皿形	0.5	0.2	0.1	自然				116	—	
K-12	SD1459	西北・南東	6.0	逆行形	0.6~0.9	0.5	0.3	自然・人為	遺跡層、土師器	SB1549→SD1459 →SD1460		116	—	
K-12	SD1460	南北	8.3	皿形	0.8~0.9	0.4~0.7	0.1	自然		SD1466, SB1549 →SD1460		116	—	
K-12	SD1465	東西	7.1	皿形	0.6~0.8	0.3~0.4	0.1~0.2	自然		SD1465→SD1460+1468		116	—	
K-12	SD1468	南北	4.4	皿形	0.2~0.3	0.1~0.2	0.1	自然		SD1465→SD1468		116	—	
K-12	SD1471	東北・西南・南	14.0	皿形	0.4	0.2	0.1	自然	土師器			116	—	
K-12	SD1474	南北	3.0	皿形	0.5	0.3	0.1	自然		SD1474→SD1454		116	—	
K-13	SD1538	東西	20.4	皿形	0.6~0.9	0.3	0.1	自然		SD1481→SD1538		179	—	
K-13	SD1534	北・南東	6.6	皿形	0.6			自然				179	—	

第 17-1 表 K 区土坑属性表

区名	遺構名	平面形	断面形	長軸			短軸			深さ (m)	堆積土	出土遺物	備考	堆積層番号	
				(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)					平面	断面
K-1	SK1206	楕円形	皿形	2.3	0.4	0.08	自然	遺跡層、土師器	SI1201→SK1206			88+90	91		
K-1	SK1287	円形	皿形	1.0	1.0	0.02	自然						89+93	—	
K-1	SK1290	円形	逆行形	1.4	1.2	0.3	自然	遺跡層、土師器	SD1291+SD1289→SK1290			89+93	—		
K-2	SK1236	方形		0.9	0.8		自然?				SD1240→SK1236		97	—	
K-2	SK1245	椭円形		1.8	1.4		自然?						97	—	
K-2	SK1253	円形	皿形	0.9	0.8	0.2	自然				SD1251→SK1253		97	100	
K-3	SK1262	不整形	皿形	1.1	0.8	0.1	自然				SK1262→SD1260		103	—	
K-3	SK1269	椭円形	皿形	3.1	1.4	0.12	自然						101	—	
K-3	SK1270	円形	皿形	0.9	0.8	0.3	自然						101	—	
K-3	SK1279	円形	U字形	2.1	2.0	1.3	自然・人為	土師器 ロクロ土師器	SD1263と同時に機械			103	104		
K-5	SK1355	不整形	皿形	0.6	0.3+	0.1	自然	土師器	SK1355→SK1356			126	—		
K-5	SK1356	椭円形	U字形	0.6	0.5	0.2	自然	土師器	SK1355+1357→SK1356			126	—		
K-5	SK1357	楕円形	逆行形	0.8	0.4+	0.25	自然	土師器	SK1357→SK1356			126	—		
K-5	SK1362	椭円形	皿形	1.6	1.2	0.2	自然	土師器	古墳中期の一括遺物出土			125+	—		
K-5	SK1367	椭円形	皿形	1.2	0.6	0.15	自然	土師器	SD1368→SK1367			125	—		
K-5	SK1376	椭円形	皿形	1.1	1.0	0.1	自然	土師器				125	—		
K-5	SK1387	椭円形	皿形	1.2+	1.0	0.15	自然				SK1387→SD1389		127	—	

第17-2表 K区土坑属性表

区名	遺構名	平面形	断面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	堆積土	出土遺物	備考	辨認番号	
										平面	断面
K-5	SK1388	楕円形	直形	2.9	2.3	0.1	自然	土師器	SK1388 → SD1389	127	163
K-5	SK1395	楕円形	直形	1.1	0.9	0.1	自然	土師器、瓦		127	—
K-5	SK1399	楕円形	逆台形	1.4	0.6 ~ 0.8	0.08 ~ 0.22	自然	須恵器、土師器	SN1479 → SK1399	127	163
K-5	SK1400	圓丸方形	椭形	1.0	0.5+	0.1	自然	須恵器、土師器 口クロ土師器	SK1402、SB1488 → SK1400	127	—
K-5	SK1401	椭円形	椭形	0.8	0.5	0.2	自然	須恵器、土師器	SB1488 → SK1401	127	—
K-5	SK1402	圓丸方形	直形	0.8	0.6	0.1	自然		SK1402 → SK1400	127	—
K-5	SK1403	圓丸方形	直形	1.4	1.2+	0.2	自然		SB1488 → SK1403 → SK1400	127	—
K-5	SK1410	圓丸方形	直形	0.8	0.7	0.2	自然	土師器	SI1371、SD1372 → SK1410	125	161
K-5	SK1604	椭円形	直形	2.7+	1.3	0.1	自然			126	—
K-5	SK1605	椭円形	直形	3.0+	1.5	0.2	自然			126	—
K-5	SK1615	椭円形	逆台形	1.4	1.1	0.3	自然			125	—
K-5	SK1616	椭円形	逆台形	1.3	0.9	0.3	自然			125	—
K-5	SK1618		直形	1.8+	0.8+	0.1	自然		SX1622 → SK1618	124	—
K-5	SK1619		逆台形	1.0+	0.9+	0.3	自然・人為		SI1621 → SK1619 → SD1620	124	—
K-5	SK1624	椭円形	逆台形	1.2	0.8	0.4	人為	土師器	SI1621、SX1622 → SK1624 → SB1408	124	161
K-5	SK1625	椭円形	直形	0.5	0.4	0.17	自然	土師器		126	—
K-6	SK1415	椭円形	椭形	1.0+	0.5+	0.1	自然		SK1415 → SD1417	173	—
K-6	SK1416	椭円形	椭形	0.8+	0.6+	0.1	自然			173	—
K-6	SK1420	椭円形	直形	1.6	0.7	0.15	自然	須恵器、土師器	SK1421 → SK1420	173	—
K-6	SK1421	円形	直形	0.8	0.5+	0.1	自然	須恵器、土師器	SK1421 → SK1420	173	—
K-6	SK1480	方形	直形	1.0	0.8	0.2	自然	須恵器		173	—
K-12	SK1467	椭円形	直形	1.0	0.8	0.2	自然		SD1450、SI1453 → SK1467	116	—
K-12	SK1451	圓丸方形		1.5	1.3		自然			116	—
K-12	SK1473	円形	直形	0.9	0.9	0.1	人為	口クロ土師器、赤燒土器		116	120
K-12	SK1470	圓丸方形	逆台形	3.5	2.2	0.2	自然・人為	須恵器、土師器	SK1470 → SD1471	116	—

第18表 K区小溝状遺構群属性表

区名	遺構名	方向	範囲 (m)	溝幅 東西 南北 (m)	縦出張 (m)	断面形	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	堆積土	備考	辨認番号		
												平面	断面	
K-5	SN1478	東西	3.5	2	1.6	2.1 ~ 3.1	直形	0.2	0.1	0.1	自然	2条、小溝状遺構群 SN1478 → SB1488	127	—
K-5	SN1479	南北	3.2	5.2	1.3	3.2 ~ 5.2	直形	0.2	0.1	0.1	自然	2条、小溝状遺構群 SN1479 → SK1399	127	—

第19表 K区河川跡・自然流路跡属性表

区名	遺構名	方向	横出長 (m)	新斷面	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	堆積土	出土遺物	備考	辨認番号		
											平面	断面	
K-2	SD1251	北東・南東	16.0	逆台形?	2.4	1.0+	0.9	自然(灰白 を含む)	須恵器、土師器、瓦	SI1232 → SD1251 → SE1233、SK1253	96	97	100
K-3	SD1266	北西・南東	4.0	逆台形	14.0 ~ 20.0	11.0 ~ 16.0	1.3	自然(灰白 を含む)	須恵器、土師器、陶器 瓦	河川跡	102	104	
K-5	SD1370	東西	11.2	直形	3.0 ~ 3.6	2.8+	0.2	自然	須恵器、土師器	SD1370 → SD1614 + 1369	125	168	
K-5	SD1406	東西・南北	3.7	逆台形	12.3 ~ 15.3	3.3 ~ 9.9	1.0 ~ 1.2	自然	須恵器、土師器、瓦	河川跡	124	166	
K-6	SD1411	北西・南東	8.4		6.0 ~ 8.8			自然	須恵器、土師器、磁器	河川跡	174	—	
K-6	SD1418	北西・南東	4.4	逆台形	1.2 ~ 1.8	1.0 ~ 1.4	0.3	自然	土師器	SN1419 → SD1418	173	—	
K-6	SD1484	南北	9.6	逆台形	5.3	2.2	0.7	自然(灰白 を含む)	須恵器、土師器	河川跡	173	173	
K-7	SD1483a	北西・南東	6.5	直形	6.0	12.3+	0.6	自然	須恵器、土師器、土 製品	河川跡	176	177	
K-7	SD1483b	北西・南東	6.5	直形	12.7	3.7	0.6	自然(灰白 を含む)	須恵器、土師器、土 製品	河川跡	176	177	
K-8 ~ K-11	SD1412	北西・南東	174.0	逆台形?	7.5+		0.58	自然		河川跡 SD1412 → SD1411	176	177	
K-12	SD1450	北西・南東	7.3	直形	1.9 ~ 2.2	1.6	0.18	自然	須恵器、土師器	SI1453 → SD1450 → SK1467	116	118	120
K-12	SD1485	東西	7.5	逆台形?	33.2+		0.58	自然	土師器	河川跡	117	—	
K-13	SD1481	北西・南東	20.4	直形	2.4 ~ 4.8	1.7	0.6	自然	須恵器、土師器 口クロ土師器	SD1538 → SD1481	179	—	
K-13	SD1539	東西	1.8		5.7 ~ 6.9			自然			179	—	
K-13	SD1540	北西・東	84.0		7.2+		0.6	自然		河川跡 SB1475 → SD1540	179	—	
K-15													

3 M区

M区は宮沼遺跡が所在する小丘陵に隣接し、田尻川に面した微高地に位置する。遺構確認面であるV層上面の標高地から地形を概観すると、北から南の田尻川へ向かって緩やかに標高を下げながら傾斜する。

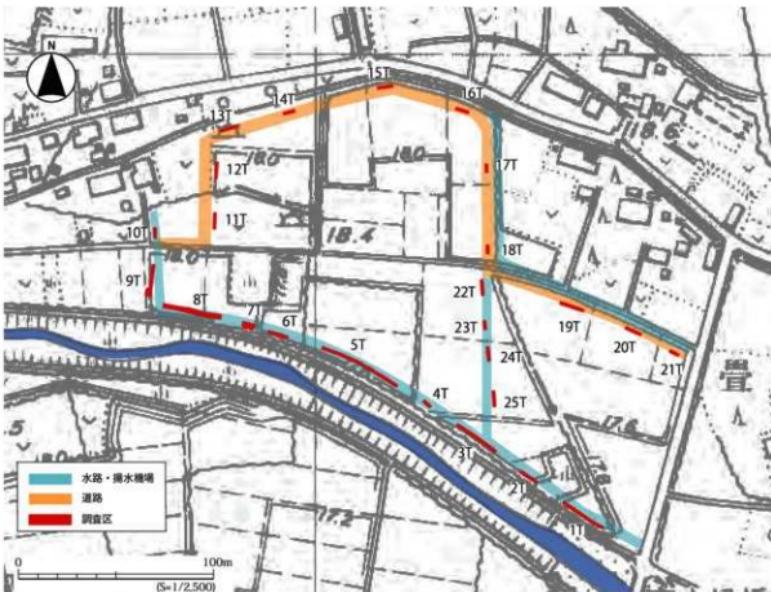
基本層序は隣接する宮沼遺跡（C区）や北小松遺跡（D区）、団子山西遺跡（H区）と概ね対応可能であり、以下のようなになる。ただし、III・IV・VI層は確認できなかった。

I層：表土（耕作土）

II層：色調と土性により2つに細分した。II a層は灰黄褐色（10YR5/2）粘土質シルト、II b層は黒褐色（10YR3/1）シルトである。7・10・21トレンチで確認した。

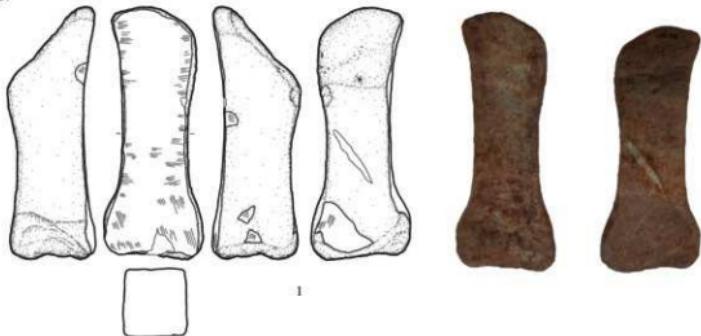
V層：地山層。黄橙色（10YR7/8）粘土質シルト、浅黄橙色（10YR8/4）シルトなど、地点によりやや差異があるが、全てのトレンチで確認した。

水路・道路建設予定箇所または隣接地に25本のトレンチを設定したところ、V層上面で遺構は確認できなかった。また、宮沼遺跡に隣接する10トレンチではハンドオーガーによるボーリング調査を行ったが、現地表から約2m下でもVI層は確認できなかった。遺物は、表土より須恵器、土師器の小片や羽口、砥石などが出土した。



第183図 M区 調査区の位置

M-8T



M-15T



No.	種別／器種	遺構／層	測量(cm)			残存	調整・特徴	図版	登録
			口径	底径	厚さ				
1	石製品／砥石	表土	—	—	—	四面4面 長さ：15.5cm 幅：5.5cm 厚さ：5.2mm 重さ：597 g		R479	
2	土製品／鉢口	イカク	—	—	—	外：手持ちヘラケズリ→ヘラナデ 内：ナデ		R478	

第184図 M区 出土遺物

第4章 自然科学分析

第1節 分析の概要

J・K区の調査では、3種類の自然科学分析を実施した。それぞれの分析の概要については、以下のとおりである。

1 放射性炭素年代測定（AMS測定）

[目的] 建材出土遺構の年代の推定

[内容] 挖立柱建物跡（J-16 区 SB863、K-13 区 SB1475b）の柱材・礎板と井戸跡（K-5 区 SE1382、K-5 区中央 SE1626）の井戸枠等の放射性炭素年代測定（AMS測定）

[分析機関] （株）加速器分析研究所

[実施年度] 令和元年度

[分析結果] 本章第2節に記載

2 樹種同定

[目的] 挖立柱建物跡の柱材と礎板、井戸跡の井戸枠等の樹種を同定し、『団子山西遺跡I』での分析結果との比較及び建築物の違いによる樹種選択の有無を調査すること

[内容] 挖立柱建物跡（J-16 区 SB863、K-13 区 SB1475b）の柱材・礎板と井戸跡（K-5 区 SE1382、K-5 区中央 SE1626）の井戸枠等の樹種同定分析

[分析機関] 古代の森研究会

[実施年度] 令和元年度

[分析結果] 本章第3節に記載

3 火山灰分析

[目的] 遺構堆積土及び基本層に含まれる火山灰の分析による遺構等の年代の推定

[内容] 新田柵跡へ通じる道路跡の側溝である J-33・34 区 SD1191・1181 堆積土に含まれる火山灰、J-27 区基本層で検出した灰白色火山灰の下位に堆積する未知の火山灰に対する火山ガラス比分析、火山ガラスの屈折率測定、火山ガラスの EPMA 分析及び指標火山灰（灰白色火山灰）の検出同定

[分析機関] （株）火山灰考古学研究所

[実施年度] 平成 26 年度

[分析結果] 本章第4節に記載

分析に用いた試料の検出位置は第 185 図のとおりである。柱材等の建材については調査担当者が発掘調査現場で取り上げたものを水漬けにして、定期的に水を入れ替えながら保管していたものである。

1・2の分析にあたっては、分析機関が調査担当者立会いのもとで試料採取を行った。また、3については、分析機関が発掘調査現場にて調査担当者立会いのもとで土層を確認しながら試料採取を行った。



第185図 自然科学分析 試料採取地の位置

第2節 団子山西遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

团子山西遺跡は、宮城県大崎市田尻大嶺・八幡地区の丘陵に所在する古代の城柵跡である新田柵跡の南西低地に位置する。遺跡は、奈良・平安時代を中心に、掘立柱建物跡や竪穴建物跡、材木塀跡、井戸跡が検出されており、新田柵との密接な関係が想定される。測定対象試料は、柱や井戸枠などに使用された建築材から採取した木片5点である（第20表）。試料の推定年代は、試料1、2、5が奈良時代から平安時代、試料3、4が平安時代とされる。

2 測定の意義

それぞれの遺構の機能した年代を推定する一資料を得るため。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常 1 mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、 0.001 M から 1 M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1 M に達した時には「AAA」、 1 M 未満の場合は「AaA」と第20表に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO_2) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である（第20表）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、

1950 年を基準年(OyrBP)として選ぶ年代である。年代値の算出には、Libby の半減期(5568 年)を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第 20 表に、補正していない値を参考値として第 21 表に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下 1 枠を丸めて 10 年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第 20 表に、補正していない値を参考値として第 21 表に示した。
- (4) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の历年年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が历年較正年代を表す。历年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1 枠を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.3 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。历年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第 21 表に示した。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を第 20、21 表に示す。

試料 5 点の ^{14}C 年代は、 $1280 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 1) から $1030 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 2) の間にある。历年較正年代 (1σ) は、最も古い試料 1 が $685 \sim 766\text{cal AD}$ の間に 2 つの範囲、最も新しい試料 2 が $995 \sim 1020\text{cal AD}$ の範囲でそれぞれ示される。いずれも推定年代を含むかおむね一致する結果となった。

試料は全て木片であるため、次に記す古木効果を考慮する必要がある。

樹木の年輪の放射性炭素年代は、その年輪が成長した年の年代を示す。したがって樹皮直下の最外年輪の年代が、樹木が伐採され死んだ年代を示し、内側の年輪は、最外年輪からの年輪数の分、古い年代値を示すことになる (古木効果)。今回測定された試料には樹皮が確認されていないことから、これらの木が死んだ年代は測定された年代値よりも新しい可能性がある。

試料の炭素含有率は 54% (試料 2) ~ 60% (試料 5) の適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon 51(1), 337-360
- Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon 55(4), 1869-1887
- Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

第20表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 準正値)

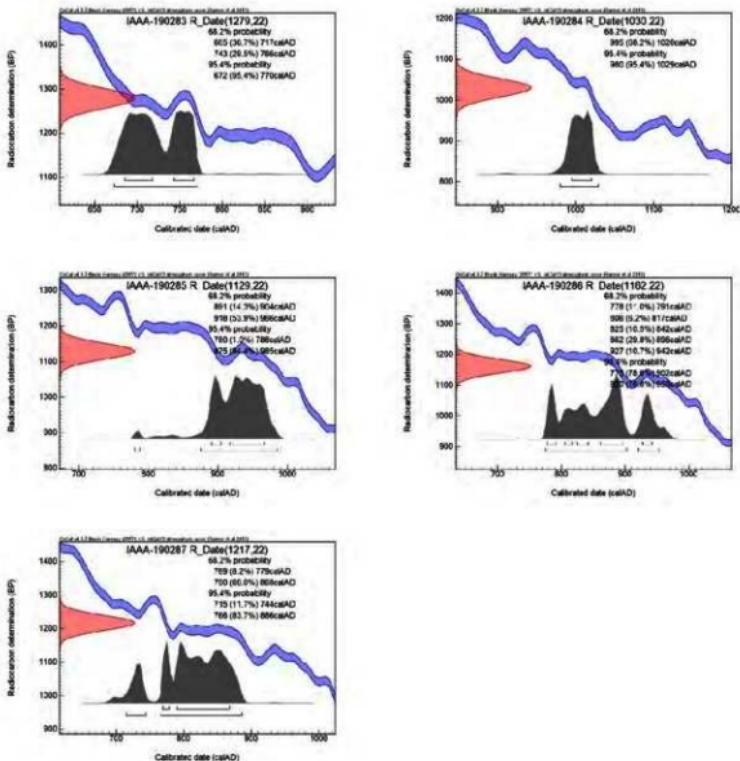
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C} (\text{‰})$ (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 準正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-190283	1	J-16 区 SB863-N3E1 柱痕跡 柱材 (13W01)	木片	AAA	-21.59 ± 0.27	1,280 ± 20	85.28 ± 0.24
IAAA-190284	2	K-5 区 SE1382 3 層 井戸枠 (15W01)	木片	AAA	-25.86 ± 0.27	1,030 ± 20	87.96 ± 0.25
IAAA-190285	3	K-13 区 SB1475b-S1E1 柱痕跡 柱材 (15W02)	木片	AAA	-26.77 ± 0.23	1,130 ± 20	86.88 ± 0.25
IAAA-190286	4	K-13 区 SB1475b-N1E2 底面 壁板 (15W03)	木片	AAA	-27.04 ± 0.18	1,160 ± 20	86.53 ± 0.24
IAAA-190287	5	K-5 区中央 SE1626 振方 井戸枠 (17W01)	木片	AAA	-24.52 ± 0.25	1,220 ± 20	85.93 ± 0.24

[IAA 登録番号 : #9649]

第21表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未準正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 準正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 年代範囲	2σ 年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-190283	1,220 ± 20	85.87 ± 0.24	1,279 ± 22	685calAD - 717calAD (38.7%) 743calAD - 766calAD (29.5%)	672calAD - 770calAD (95.4%)
IAAA-190284	1,050 ± 20	87.80 ± 0.24	1,030 ± 22	995calAD - 1,020calAD (68.2%)	980calAD - 1,029calAD (95.4%)
IAAA-190285	1,160 ± 20	86.56 ± 0.24	1,129 ± 22	891calAD - 904calAD (14.3%) 918calAD - 966calAD (53.9%)	780calAD - 788calAD (1.0%) 875calAD - 985calAD (94.4%)
IAAA-190286	1,200 ± 20	86.17 ± 0.24	1,162 ± 22	778calAD - 791calAD (11.0%) 806calAD - 817calAD (6.2%) 825calAD - 842calAD (10.5%) 862calAD - 896calAD (29.8%) 927calAD - 942calAD (10.7%)	775calAD - 902calAD (78.6%) 920calAD - 953calAD (16.8%)
IAAA-190287	1,210 ± 20	86.01 ± 0.23	1,217 ± 22	769calAD - 779calAD (8.2%) 790calAD - 868calAD (60.0%)	715calAD - 744calAD (11.7%) 766calAD - 886calAD (83.7%)

[参考値]



第 186 図 历年較正年代グラフ

第3節 団子山西遺跡から出土した建築材等の樹種

吉川純子(古代の森研究会)

1 はじめに

団子山西遺跡は大崎市田尻大嶺・八幡地区の丘陵に所在する新田柵跡の南西低地に位置する奈良・平安時代を中心とした遺跡である。これまでの調査で奈良・平安時代の掘立柱建物跡や材木跡などが検出されており、新田柵跡と密接な関連があるとされる。そこで当時の植物資源の利用状況を解明する目的でこれら建築材の樹種同定をおこなった。

2 試料と方法

調査した木材は柱材2点、井戸枠材2点、礎盤1点の計5点で、試料からは剃刀で横断面、放射断面、接線断面の3方向の切片を採取し封入剤でプレパラートを作成し生物顕微鏡で観察・同定した。

3 同定結果と考察

団子山西遺跡から出土した建築材等の樹種同定結果を第22表に示す。本遺跡では4分類群が確認され、2点がコナラ属コナラ節であり、サワラ、クリ、カツラが1点ずつであった。奈良～平安とされる柱材はクリで、本遺跡の2013年の調査では建築材9点に全てクリが使われており、今回の同定結果と合わせて柱材、礎盤においてクリはきわめて高い選択性を示していると言える。平安時代の建築材2点はコナラ節で東北ではクリ、スギに次いで建築材としての利用頻度が高い樹種である。また、井戸枠に使われていたサワラは東北の中でも福島県と宮城県での利用がほとんどで(伊東ほか2012)、ヒノキの代用として容器などに頻繁に利用されるが井戸枠の利用材としては珍しいといえる。山王遺跡多賀前地区では9～10世紀の井戸枠材としてヒノキの利用が1点確認されており(松葉ほか1996)、本遺跡でもヒノキの代用として利用されたとも考えられる。同じく井戸枠材のカツラは谷間など湿った環境に生育する樹種で、東北では建築材などに使われる例が多い。県内では山王遺跡多賀前地区の9～10世紀で自然木として1点、平安時代とされる礎板で1点カツラが確認されている。

第22表 団子山西遺跡出土加工材 樹種同定結果

試料番号	登録番号	調査区	遺構	遺物時期	層位	器種	樹種
1	13W01	J-16	SB863-N3E1	奈良～平安	柱根痕	柱材	クリ
2	15W01	K-5	SE1382	奈良～平安	3層	井戸枠	サワラ
3	15W02	K-13	SB1475b-S1E1	平安	柱根痕	柱材	コナラ属コナラ節
4	15W03	K-13	SB1475b-N1E2	平安	底面	礎盤	コナラ属コナラ節
5	17W01	K-5中央	SE1626	奈良～平安	掘方	井戸枠	カツラ

以下に出土した樹種の木材解剖学的記載をおこなう。

サワラ (*Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endl.) : 晩材部の幅が薄く早材部から晩材部への移行は緩やかでヒノキに似る。放射細胞は全て放射柔細胞からなり、分野壁孔はやや大きく孔口が斜めに開くヒノキ～スギ型で1分野に2～3個存在する。

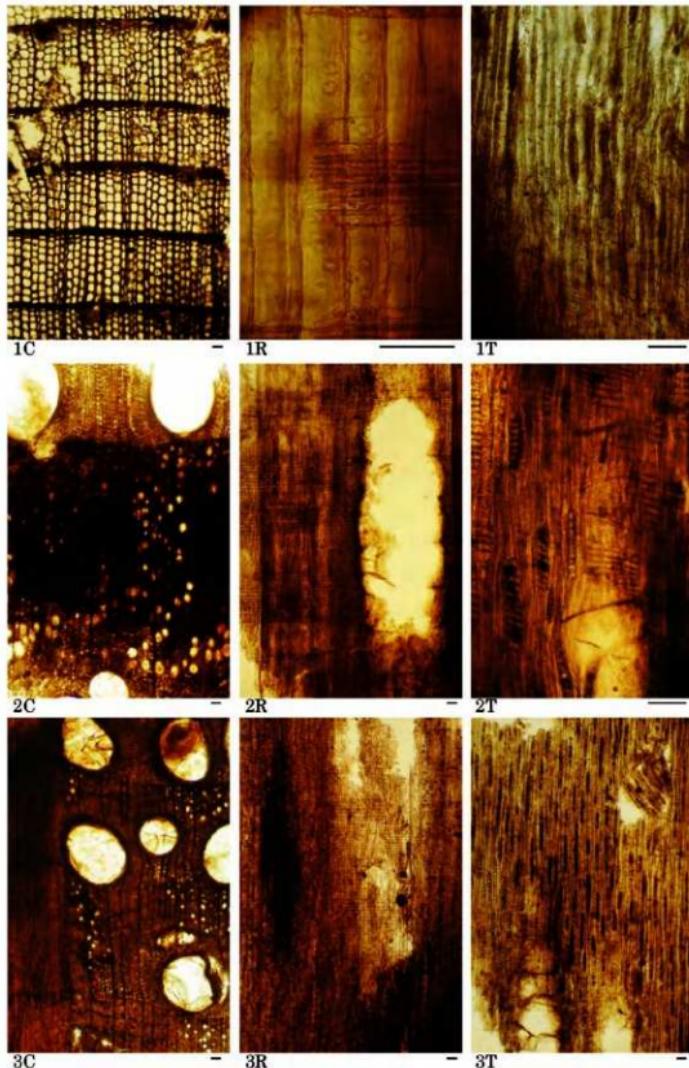
クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) : 年輪最初に大きな道管が数列ややまとまって配列しその後徐々に径を減じて小さい管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔板は單一で道管内にチロースが多く放射細胞は単列で同性である。

コナラ属コナラ節 (*Quercus sect. Prinus*) : クリに似て大道管が数列配列したのち薄壁のやや角張った小管孔が火炎状に配列する環孔材で横断面では数ミリ～数十ミリおきに幅の広い放射組織が出現する。放射細胞は同性で単列と複合状の大きいものがある。

カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.) : 中程度のやや角ばった道管が単独ないし2～3個不規則に結合しほぼ径を変えずに年輪内に平等に分布する散孔材で道管の密度が高い。晩材部にはやや径が小さい道管がみられる。放射組織はほぼ2細胞幅ときに3・4細胞幅の異性で、上下端は典型的な直立細胞で、間に方形細胞と平伏細胞がある。道管の穿孔板は階段状で段数が多い。

引用文献

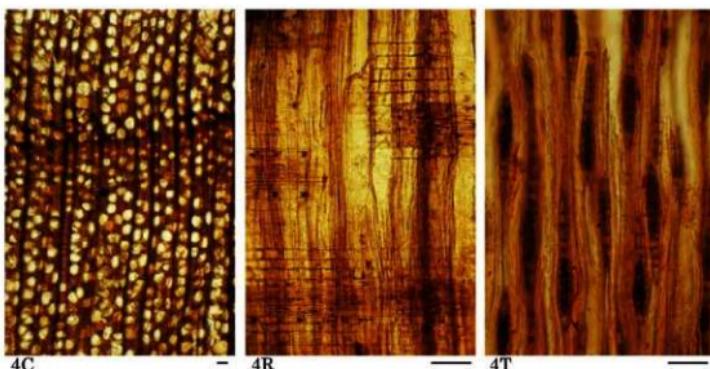
- 伊東隆夫・山田昌久 2012 木の考古学 出土木製品用材データベース 海青社 p449
松葉礼子・鈴木三男 1996 宮城県多賀城市山王遺跡多賀前地区出土木材の樹種 「山王遺跡 III」
宮城県教育委員会 pp239-283



団子山西遺跡出土木材の顕微鏡写真 1

1. サフラ (15W01 井戸枠) 2. クリ (13W01 柱材) 3. コナラ属コナラ節 (15W02 柱材)

C: 横断面 R: 放射断面 T: 接線断面、スケールは 0.1mm



団子山西遺跡出土木材の顕微鏡写真 2

4. カツラ (17W01 井戸枠) C: 横断面 R: 放射断面 T: 接線断面、スケールは 0.1mm

第4節 大崎市团子山西遺跡における火山灰分析

株式会社 火山灰考古学研究所

1 はじめに

東北地方宮城県北部に位置する大崎市とその周辺の地層や土壌の中には、鳴子、鬼首、向町、肘折、十和田など東北地方の火山のほか、洞爺、浅間、御岳、三瓶、阿蘇、姶良、鬼界など遠方の火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる（早田、1989）。とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ（町田・新井、1992、2003、2011）などに収録されており、考古遺跡などで調査分析を行い年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには考古遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになっている。

大崎市团子山西遺跡における発掘調査でも、層位や年代が不明な石器や遺構などが検出されたことから、地質調査を行って土層やテフラ層の記載を行うとともに、高純度の分析試料を採取し、実験室内でテフラ分析（火山ガラス比分析、火山ガラスの屈折率測定、火山ガラスのEPMA分析）を実施して、すでに年代が明らかにされている指標テフラの検出同定を行うことになった。調査分析の対象地点は、J-27 区基本土層断面、J-33 区 SD1191、J-33 区 SD1181、J-34 区 SD1191、J-34 区 SD1181 の5 地点である。

2 土層層序

(1) J-27 区基本土層断面

团子山西遺跡平成 26 年度発掘調査区の基本的な土層断面が認められた J-27 区では、下位より成層した灰色砂質シルト層（層厚 10cm 以上）の上位に、下位より黒灰褐色泥層（層厚 0.7cm）、凝灰質の白色砂質シルト層（層厚 0.4cm）、灰色泥層（層厚 2cm）、凝灰質の白色砂質シルト層（層厚 0.4cm）、やや暗い灰色泥層（層厚 1cm）、灰色砂質泥層（層厚 2cm）、凝灰質の白色砂質シルト層（層厚 0.8cm）、黒褐色泥層（層厚 2cm）の連続が認められる（第 187 図）。

その上面はやや浸食を受けて凹凸が形成されており、相対的に低い部分には、下位より凝灰質の白色砂質シルト層（層厚 0.3cm）が認められる。この堆積物は、古代の須恵器片に覆われている。さらに上位には、下位より灰色泥層（層厚 4cm）、下部 2cm がより粗粒の灰白色砂質細粒火山灰層（層厚 6cm）、黒灰色土（層厚 10cm）、灰褐色土（層厚 9cm）、灰色土（層厚 10cm）が認められる。

(2) J-33 区 SD1191

J-33 区における SD1191 の覆土は、下位より炭化物を含みやや暗い砂混じり灰色砂混じり泥層（層厚 12cm）、炭化物を含み黄色がかった灰色砂質泥層（層厚 16cm）、やや暗い灰色砂質泥層（層厚 2cm）、やや黄灰色がかった白色砂質細粒火山灰層（層厚 6cm）、層理が認められる灰色砂質シルト層（層厚 3cm）、黄白色シルト層（層厚 3cm）、黒色土（層厚 5cm）、やや暗い灰色土（層厚 14cm）、鉄分を含むため褐色がかった灰色土（層厚 18cm）、灰色作土（層厚 10cm）が認められる（第 187 図）。

(3) J-33 区 SD1181

J-33 区における SD1181 の覆土は、下位より灰色砂質シルト層（層厚 8 cm 以上）、灰色泥層（層厚 3 cm）、白色砂質細粒火山灰層（層厚 1 cm）、灰色泥層（層厚 0.3 cm）、成層したテフラ層（層厚 6 cm）、黒泥層（層厚 0.3 cm）、凝灰質の灰色砂質シルト層（層厚 0.7 cm）、黒泥層（層厚 6 cm）、暗灰色土（層厚 11 cm）、砂混じりでやや暗い灰色シルト層（層厚 5 cm）、鉄分からなる粒子を含みやや暗い灰色土（層厚 13 cm）、鉄分を含んで褐色がかった灰色土（層厚 15 cm）、灰色土（層厚 6 cm）、灰色作土（層厚 9 cm）からなる（第 187 図）。

(4) J-34 区 SD1191

J-34 区における SD1191 の覆土は、下位より砂混じり灰色泥層（層厚 23 cm 以上）、灰白色砂質細粒火山灰層（層厚 3 cm）、砂混じり灰色泥層（層厚 12 cm）、やや暗い灰色泥層（層厚 6 cm）、褐色がかった黒灰色泥層（層厚 20 cm）、褐色がかった灰色土（層厚 10 cm）、灰色土（層厚 6 cm）からなる（図 5）。最下位の灰色泥層中には、凝灰質の灰白色砂質シルト層が噴砂状に認められる（第 187 図）。

(5) J-34 区 SD1181

J-34 区では黄灰色砂質シルト層の上位に SD1181 が構築されており、その覆土は、下位よりやや黄色がかった灰色泥層（層厚 6 cm）、灰色がかった白色砂質細粒火山灰層（層厚 4 cm）、やや暗い灰色土（層厚 5 cm）、灰色作土（層厚 6 cm）からなる（第 187 図）。

3 テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

団子山西遺跡の遺物土層や遺構の層位や形成年代を明らかにするため、基本的に厚さ 5 cm ごとに設定採取された試料あるいはテフラのフォール・ユニットごとに採取された試料のうちの 10 試料を対象に、テフラ粒子の特徴を定性的に明らかにするテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 砂分の量に合わせて試料 10 g を秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80 °C で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の相対的な量や特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第 23 表に示す。分析対象試料のうち、テフラ層から採取された J-27 区本土層断面の試料 2、J-33 区 SD1191 の試料 2、J-33 区 SD1181 の試料 4 および試料 1、J-34 区 SD1191 の試料 1、さらに J-34 区 SD1181 の試料 1 には、火山ガラスがとくに多くあるいは多く含まれている。火山ガラスはいずれも白色や無色透明の軽石型ガラスである。これらの試料に含まれる重鉱物は非常に少なく、強磁性鉱物をのぞけば、ごくわずかに斜方輝石、單斜輝石、角閃石が認められる程度である。

一方、J-27 区基本土層断面においてテフラ層より下位の凝灰質堆積物から採取された試料には、無色透明の軽石型やバブル型、そして淡褐色や褐色のバブル型ガラスが少量または比較的多く含まれている。これらの試料には、強磁性鉱物をのぞく重鉱物として、角閃石や斜方輝石が認められる。

4 火山ガラス比分析

(1) 分析試料と分析方法

テフラ検出分析対象試料 10 点について、火山ガラスの形態色調別含有率と、重鉱物や軽鉱物の含有率を合わせて求める火山ガラス比分析を実施して、テフラ層や凝灰質堆積物に含まれる火山ガラスなどの特徴の把握を定量的に行った。分析の手順は次のとおりである。

- 1) テフラ検出分析終了後の試料から、分析篩により 1/4 ~ 1/8mm と 1/8 ~ 1/16mm の粒子を篩別。
- 2) 偏光顕微鏡下で 1/4 ~ 1/8mm 粒径の 250 粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別含有率ならびに軽鉱物や重鉱物の含有率を求める。

(2) 分析結果

火山ガラス比分析の結果を、ダイヤグラムにして第 188 図に、その内訳を第 24 表に示す。全体として、風化粒子など火山ガラス、軽鉱物、重鉱物以外の粒子が多いものの、テフラ層から採取された J-27 区基本土層断面の試料 2、J-33 区 SD1191 の試料 2、J-33 区 SD1181 の試料 4 および試料 1、J-34 区 SD1191 の試料 1、さらに J-34 区 SD1181 の試料 1 には、火山ガラスが 20% 以上含まれている。この中では、とくに J-27 区基本土層断面の試料 2、J-33 区 SD1181 の試料 4、J-34 区 SD1191 の試料 1 で火山ガラスの含有率が高い（30% 以上）。

これらテフラ層から採取された試料に含まれる火山ガラスは、纖維束状軽石型、スポンジ状軽石型、分厚い中間型、無色透明のバブル型である。とくに、J-33 区 SD1181 の試料 4 でスポンジ状軽石型ガラスの含有率が高い傾向にある（13.2%）。軽鉱物の含有率は数 10% 程度で、重鉱物の含有率は最大で 2.8% と低い。

一方、14J-27 区基本土層断面においてテフラ層より下位の凝灰質堆積物から採取された試料では、火山ガラスの含有率が 11.6% 以下で低い。これらの試料で認められる火山ガラスは、纖維束状軽石型、中間型、スポンジ状軽石型、無色透明のバブル型である。軽鉱物の含有率は 40% を超えテフラ層より高いものの、逆に重鉱物の含有率は同程度かさらに低い傾向にある。

5 屈折率測定（火山ガラス）

(1) 測定試料と測定方法

火山ガラス比分析の対象試料のうち、テフラ層およびテフラ層の可能性がある 5 試料に含まれる火山ガラスを対象に、指標テフラとの同定精度を向上させるために含まれる火山ガラス（n）の屈折率測定を行った。測定に用いた機器は温度変化型屈折率測定装置（京都フィッシュン・トラック社製 RIMS2000）で、1/8 ~ 1/16mm 粒子の中の火山ガラスを測定対象とした。

(2) 測定結果

屈折率の測定結果を第25表に示す。この表には、宮城県北部周辺の後期更新世以降の代表的な指標テフラの火山ガラスの屈折率特性も合わせて示した。分析対象試料のうち、テフラ層から採取されたJ-27区基本土層断面の試料2、J-33区SD1181の試料4および試料1に含まれる火山ガラス（各30～31粒子）の屈折率（n）は、1.502～1.510のrangeに入る。一方、J-27区基本土層断面においてテフラ層より下位の凝灰質堆積物から採取された試料7および試料4に含まれる火山ガラス（30粒子および32粒子）の屈折率は、1.497～1.505のrangeに入る。

6 火山ガラスのEPMA分析（主成分化学組成分析）

(1) 分析試料と分析方法

指標テフラとの同定精度をさらに向上させるため、屈折率測定対象5試料に含まれる1/4-1/8mm粒径の火山ガラスについて、電子線マイクロアナライザ（EPMA）により、火山ガラスの主成分化学組成を明らかにした。分析に使用した分析機器は、山形大学理学部の日本電子JXA8600MWDS型EPMAである。加速電圧15kV、照射電流0.01μA、ピーム径10μmの条件で行った。また、補正にはOxide ZAF法を用いた。

(2) 分析結果

分析結果を第26～30表に示す。さらに指標テフラとの比較のために、従来の東北地方中南部に分布する後期更新世後半以降の指標テフラの主成分化学組成データ（八木・早田、1989、2002）を加えて第31表を作成した。なお、分析結果はいずれも無水に換算して表示している。

分析対象試料のうち、テフラ層から採取された試料のうち、J-27区基本土層断面の試料2（11粒子）およびJ-33区SD1181の試料1（11粒子）に含まれる火山ガラスの主成分組成は、それぞれ均一でしかも互いによく似ている。また、J-33区SD1181の試料4に含まれる火山ガラスのうち、1粒子の傾向が異なるものの、ほか11粒子はいずれも前述2試料と非常によく似ている。

一方、J-27区基本土層断面においてテフラ層より下位の凝灰質堆積物から採取された試料7および試料4に含まれる火山ガラスの主成分化学組成は、テフラ層から採取された火山ガラスのそれと傾向を異にし、それぞれ4種類の粒子から構成されている。

7 考察

火山ガラスの屈折率測定とEPMA分析（主成分化学組成分析）の対象となったテフラ層は、層相、火山ガラスの形態色調組成、屈折率特性、さらに主成分化学組成から、915年に十和田火山から噴出した十和田a火山灰（To-a、大池、1972、町田ほか、1981）に同定される。なお、J-33区SD1181の試料4を対象としたEPMA分析では、若干の混入物も検出された。この火山ガラスについては、その特徴から、従来火山ガラスの主成分化学組成が知られているテフラの中では、約1.5～1.65万年前に浅間火山から噴出した浅間草津黄色軽石（As-K、新井、1979、町田・新井、1992）を含む浅間板鼻黄色軽石（As-YP、新井、1962、町田・新井、1992など）など浅間系テフラの可能性が考え

られる。

多賀城市域では、6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ッ岳伊香保テフラ（Hr-FP、新井、1962、坂口、1986、早田、1989b、町田・新井、2011など）が発見されており（町田ほか、1984）、さらに本遺跡周辺に降灰している可能性もあることから、榛名系テフラに含まれる火山ガラスのEPMA分析が期待される。

これらのテフラ層と同じような層相ならびに火山ガラスの特徴をもつ、J-33区SD1191の試料2、J-34区SD1191の試料1、J-34区SD1181の試料1が採取されたテフラ層についても、To-aに同定される可能性が高い。したがって、SD1191およびSD1181の層位は、いずれもTo-aより下位と推定される。

なお、試料4が採取されたTo-aはレンズ状で、その上位のTo-a（試料1）との間には、灰色泥の薄層（層厚0.3cm）が認められる。その産状や、試料4にとくに多くの火山ガラスとくにスポンジ状軽石型ガラスが含まれていることから、To-aは間に若干の時間間隔を挟む複数のフォールユニットから構成されている可能性がある。今後、堆積時の状況がよく残されているTo-aの層相に関して、詳細に観察・記載を実施する必要がある。

J-27区基本上層断面においてテフラ層より下位の凝灰質堆積物から採取された試料7を対象としたEPMA分析で検出された4種類の火山ガラスのうち、タイプAは約4.1～6.3万年前に鳴子カルデラから噴出した鳴子柳沢テフラ（Nr-Y、早田、1989、町田・新井、2011など）、タイプCは約9万年前に鳴子カルデラから噴出した鳴子荷坂テフラ（Nr-Y、早田、1989、町田・新井、2011など）に由来すると考えられる。この同定は、試料に含まれる火山ガラスの形態色調組成や屈折率特性とも矛盾しない。さらに、タイプDは主成分化学組成から約24～27万年前に鬼首カルデラから噴出した鬼首池月テフラ（O-Ik、早田、1989、町田・新井、2011など）に由来する可能性がある。やはり、この同定も、試料に含まれる火山ガラスの形態色調組成や屈折率特性と矛盾しない。

また、試料4を対象としたEPMA分析で検出された4種類の火山ガラスのうち、タイプAはNr-Y、またタイプCはO-Ikに由来すると考えられる。この同定も、試料に含まれる火山ガラスの形態色調組成や屈折率特性と矛盾しない。ただし、遺跡周辺には、数多くの凝灰岩（ほとんどが火碎流堆積物）の堆積が知られていること（早田、2002）から、To-a以外の火山ガラスの起源については、研究の進展に沿って検討を続ける必要がある。いずれにしても、To-aより下位で認められた薄い複数の凝灰質堆積物は、高純度の一次堆積のテフラ層ではなく、複数のテフラ層に由来するテフラ粒子の二次堆積層と考えられる。

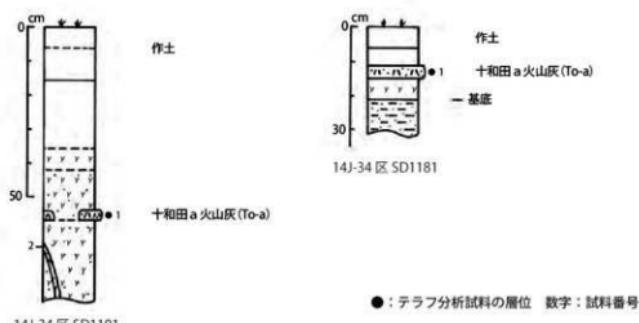
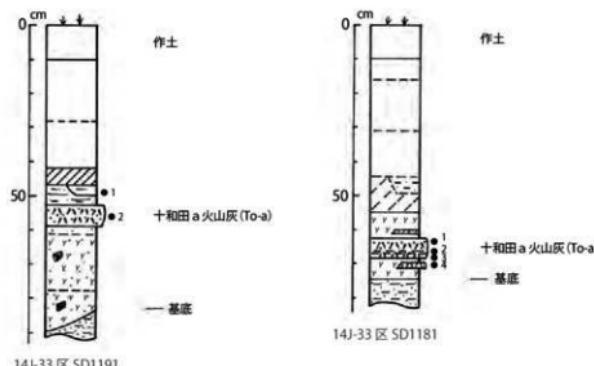
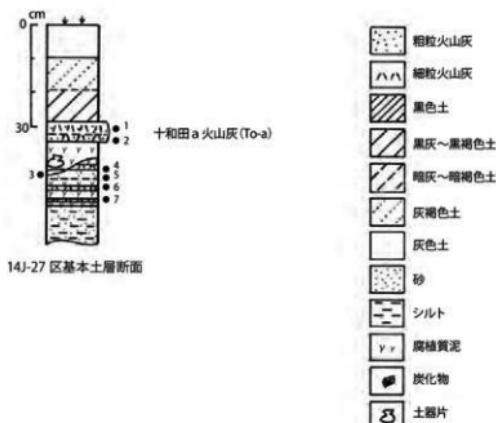
8まとめ

大崎市団子山西遺跡において、地質調査、火山ガラス比分析、火山ガラスの屈折率測定、火山ガラスのEPMA分析を実施した。その結果、十和田a火山灰層（To-a、AD915）を検出することができた。その結果、発掘調査により検出されたSD1191およびSD1181の層位は、To-aより下位にあることが判明した。また、To-aより下位にテフラ粒子の二次堆積層も複数認められた。それらのテフラ粒

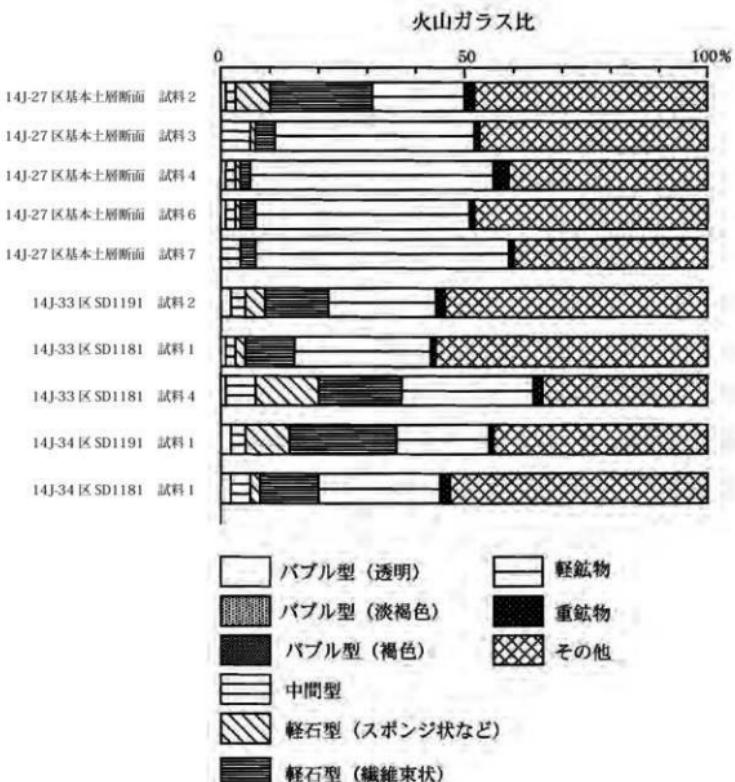
子の起源としては、鬼首池月テフラ（O-Ik、約24～27万年前）、鳴子荷坂テフラ（Nr-N、約9万年前）、鳴子柳沢テフラ（Nr-Y、約4.1～6.3万年前）など、遺跡周辺に分布する鳴子火山や鬼首火山起源の凝灰岩（おもに火碎流堆積物）が指摘された。

文献

- 青木かおり・新井房夫（2000）三陸沖海底コア KH94-3, LM-8 の後期更新世テフラ層序 第四紀研究 39 p107-120
- 新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年 群馬大学紀要自然科学編 10 p1-79
- 新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層 考古学ジャーナル no.53 pp41-52
- 町田 洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス 東京大学出版会 p276
- 町田 洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス 東京大学出版会 p336
- 町田 洋・新井房夫（2011）新編火山灰アトラス（第2刷） 東京大学出版会 p336
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広（1981）日本海を渡ってきたテフラ 科学 51 pp562-569
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫（1984）テフラと日本考古学 古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」 p.865-928
- 大池昭二（1972）十和田火山東麓における完新世テフラの編年 第四紀研究 11 pp232-233
- 坂口 一（1986）榛名ニツ岳起源 FA・FP 層下の土師器と須恵器 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」 p.103-119
- 早田 勉（1989a）テフロクロノロジーによる前期旧石器時代遺物包含層の検討 第四紀研究 28 pp269-282
- 早田 勉（2002）火山灰層序からみた築館町上高森遺跡における石器検出層準の層位 「宮城県築館町上高森遺跡発掘調査報告書」 pp69-85
- 早田 勉（1989b）6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害 第四紀研究 27 pp297-312
- 八木浩司・早田 勉（1989）宮城県中部および北部に分布する後期更新世広域テフラとその層位 地学雑誌 98 pp871-885
- 八木浩司・早田 勉（2002）脊梁山脈西山麓部 向町盆地・新庄盆地南部に分布する鬼首池月テフラ層（O-Ik） 第四紀研究 41 pp457-469



第187図 J-27・33・34区の土層柱状図



第188図 団子山西遺跡テラフ試料の火山ガラス比ダイヤグラム

第23表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重結晶 (強磁性結晶物以外)	
		量	色調	最大径	量	形態	色調	量	組成
J-27区・基本土層断面	2			****	pm	白、透明	(*)	opx, cpx	
	3		*	*	pm	透明	*	am, opx	
	4		*	pm	透明	*	am, opx		
	6		**	pm+bw	透明、淡褐色、褐	*	am, opx		
	7		**	pm+bw	透明、淡褐色、褐	*	am, opx		
J-33区・SD1191	2		***	pm	透明、白	(*)	opx		
J-33区・SD1181	1		***	pm	透明、白	(*)	opx		
J-34区・SD1191	4		****	pm	白、透明				
J-34区・SD1181	1		****	pm	透明、白	(*)	am		
	1		***	pm	透明、白	(*)	am		

****：とくに多い。***：多い。**：中程度。*：少ない。(*)：非常に少ない。最大径の単位は、mm。

bw：バブル型。pm：軽石型。opx：斜方輝石。cpx：單斜輝石。am：角閃石。

第24表 火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)	軽結晶	重結晶	その他	合計
		2	1	0	0	5	18	52	48	6	120
J-27区・基本土層断面	3	0	0	0	16	2	11	102	3	116	250
	4	1	0	0	6	1	5	126	7	104	250
	6	1	0	0	6	1	7	109	3	123	250
	7	0	0	0	9	0	8	130	3	100	250
J-33区・SD1191	2	6	0	0	8	9	33	56	6	132	250
J-33区・SD1181	1	3	0	0	6	4	25	71	2	139	250
J-34区・SD1191	4	2	0	0	14	33	42	67	5	87	250
J-34区・SD1181	1	5	0	0	8	22	56	47	2	110	250
	1	5	0	0	11	5	31	62	5	131	250

bw：バブル型。md：中間型。pm：軽石型。cl：無色透明。pb：淡褐色。br：褐色。sp：スピンドル状。fb：織維束状。数字は粒子数。

第25表 屈折率測定結果

地点・テフラ	試料	火山ガラス		文献
		屈折率 (n)	測定点数	
J-27区・基本土層断面	2	1.503-1.509	30	本報告
	4	1.497-1.505	32	本報告
	7	1.498-1.505	30	本報告
J-33区・SD1191	1	1.502-1.509	30	本報告
	4	1.503-1.510	31	本報告
おもな指標テフラ				
十和田a (To-a)	岩手周辺	1.500-1.508	1)	
	宮城周辺	1.503-1.507	1)	
十和田中層 (To-Cu)		1.508-1.512	1)	
財折延花沢 (Hj-O)		1.499-1.504	1)	
十和田八日 (To-H)		1.502-1.509	1)	
浅間板篠黃色 (As-Yp)		1.501-1.505	1)	
鳴子銀瀬上層 (Nk-U)		1.492-1.500	2)	
始長Tr (AT)		1.498-1.501	1)	
十和田大千鳥 (To-O)		1.505-1.511	1)	
境石山形 (Yk-Y)		1.500-1.503	1)	
鳴子銀瀬 (Nr-Y)		1.500-1.503	1)	
阿蘇4 (Aso-4)		1.506-1.510	1)	
鳴子銀瀬 (Nr-N)		1.500-1.502	1)	
財折北原 (Hj-Kth)		1.499-1.502	1)	
三瓶木次 (Sk)		1.496-1.498	1)	
洞爺 (Toya)		1.494-1.498	1)	
鬼若池月 (O-k)		1.501-1.504	1)	

本報告における屈折率の測定は、温度変化型屈折率測定装置による。

1)：町田・新井（2011）、2)：早田（1989）。

第26表 14J-27区・基本土層断面・試料2に含まれる火山ガラスの主成分化学組成

試料	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	total	備考
1	77.80	0.41	12.34	1.72	0.12	0.43	1.95	3.84	1.40	0.00	100.00	
2	77.51	0.33	12.59	1.56	0.16	0.46	2.13	3.88	1.32	0.07	100.00	
3	76.82	0.40	12.58	1.83	0.07	0.42	2.08	4.27	1.48	0.04	100.00	
4	77.47	0.32	12.50	1.63	0.17	0.41	2.06	3.99	1.45	0.00	100.00	
5	77.34	0.43	12.62	1.72	0.16	0.43	2.07	3.76	1.39	0.08	100.00	
6	77.68	0.32	12.71	1.68	0.08	0.42	2.15	3.59	1.37	0.00	100.00	
7	77.12	0.32	12.75	1.71	0.04	0.45	2.12	4.17	1.31	0.00	100.00	
8	77.65	0.40	12.62	1.69	0.07	0.43	2.00	3.68	1.35	0.11	100.00	
9	77.54	0.45	12.57	1.69	0.02	0.42	2.08	3.77	1.44	0.02	100.00	
10	77.54	0.39	12.40	1.86	0.07	0.38	1.98	4.01	1.35	0.02	100.00	
11	77.47	0.42	12.79	1.64	0.20	0.39	1.97	3.71	1.35	0.05	100.00	
平均値	77.45	0.38	12.59	1.70	0.10	0.42	2.05	3.88	1.38	0.04	100.00	
標準偏差	0.26	0.05	0.13	0.08	0.06	0.02	0.07	0.20	0.05	0.03		

第27表 14J-27区・基本土層断面・試料4に含まれる火山ガラスの主成分化学組成

試料	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	total	備考
1	79.89	0.15	11.77	1.41	0.02	0.11	1.05	3.65	1.95	0.01	100.00	
4	79.57	0.13	11.99	1.32	0.14	0.14	1.35	3.57	1.76	0.03	100.00	
5	79.23	0.22	12.15	1.25	0.02	0.16	1.33	3.96	1.66	0.00	100.00	
6	79.73	0.21	11.51	1.49	0.11	0.16	1.10	3.70	1.98	0.00	100.00	
10	78.93	0.19	12.02	1.26	0.03	0.17	1.27	4.19	1.86	0.06	100.00	
平均値	79.39	0.20	11.86	1.38	0.04	0.18	1.40	3.67	1.87	0.02	100.00	Aタイプ
標準偏差	0.35	0.04	0.23	0.09	0.05	0.03	0.14	0.24	0.12	0.02		
2	79.80	0.17	12.17	1.48	0.00	0.21	1.62	3.30	1.23	0.02	100.00	
3	79.36	0.21	12.04	1.65	0.08	0.20	1.79	3.42	1.18	0.05	100.00	
平均値	79.58	0.19	12.11	1.56	0.04	0.21	1.71	3.36	1.21	0.04	100.01	Bタイプ
標準偏差	0.22	0.02	0.06	0.09	0.04	0.01	0.08	0.06	0.02	0.02		
7	79.20	0.18	11.57	1.38	0.00	0.20	1.53	3.74	2.20	0.00	100.00	Cタイプ
8	79.14	0.24	11.63	1.29	0.00	0.23	1.39	3.70	2.37	0.00	100.00	
9	79.01	0.26	11.73	1.29	0.01	0.19	1.56	3.50	2.45	0.00	100.00	
平均値	79.12	0.23	11.65	1.32	0.00	0.21	1.49	3.65	2.34	0.00	100.00	
標準偏差	0.08	0.03	0.07	0.04	0.00	0.02	0.07	0.11	0.10	0.00		
11	78.91	0.06	11.83	1.09	0.02	0.08	0.71	3.73	3.57	0.00	100.00	Dタイプ

第28表 14J-27区・基本土層断面・試料7に含まれる火山ガラスの主成分化学組成

試料	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	total	備考
2	79.02	0.12	11.96	1.78	0.15	0.09	1.32	3.79	1.78	0.00	100.00	
3	79.66	0.13	12.07	1.54	0.16	0.12	1.52	3.24	1.58	0.00	100.00	
4	79.25	0.18	12.16	1.45	0.00	0.12	1.51	3.83	1.47	0.03	100.00	
5	78.77	0.21	11.90	1.78	0.06	0.11	1.29	4.02	1.84	0.00	100.00	
7	79.09	0.18	11.99	1.35	0.12	0.21	1.53	3.59	1.86	0.07	100.00	
10	79.43	0.20	11.93	1.84	0.06	0.12	1.24	3.58	1.54	0.07	100.00	
平均値	79.20	0.18	12.02	1.57	0.08	0.14	1.43	3.66	1.69	0.02	100.00	Aタイプ
標準偏差	0.29	0.04	0.09	0.19	0.06	0.04	0.12	0.25	0.16	0.03		
1	78.48	0.25	12.29	2.21	0.10	0.32	2.18	3.04	1.06	0.07	100.00	
8	78.99	0.20	12.32	1.79	0.01	0.22	1.87	3.47	1.11	0.03	100.00	
平均値	78.74	0.23	12.31	2.00	0.06	0.27	2.00	3.26	1.09	0.05	100.01	Bタイプ
標準偏差	0.26	0.03	0.01	0.21	0.04	0.05	0.16	0.21	0.02	0.02		
6	79.37	0.20	11.96	1.20	0.15	0.17	1.50	3.44	2.01	0.00	100.00	
9	79.22	0.23	11.88	1.43	0.00	0.11	1.10	3.98	2.03	0.02	100.00	
平均値	79.30	0.22	11.92	1.32	0.08	0.14	1.30	3.71	2.02	0.01	100.02	Cタイプ
標準偏差	0.08	0.02	0.04	0.11	0.07	0.03	0.20	0.27	0.01	0.01		
11	78.60	0.16	11.85	1.33	0.02	0.19	1.29	4.05	2.44	0.07	100.00	
12	78.24	0.32	11.71	1.32	0.00	0.21	1.33	3.80	3.06	0.02	100.00	
平均値	78.42	0.24	11.78	1.32	0.01	0.20	1.31	3.93	2.75	0.04	100.00	Dタイプ
標準偏差	0.18	0.08	0.07	0.01	0.01	0.01	0.02	0.13	0.31	0.03		

第29表 14J-33区 SD1181・試料1に含まれる火山ガラスの主成分化学組成

試料	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	total	備考
1	77.85	0.34	12.21	1.79	0.07	0.40	1.98	3.95	1.41	0.00	100.00	
2	77.82	0.38	12.40	1.61	0.12	0.42	2.05	3.87	1.29	0.03	100.00	
3	77.38	0.33	12.23	2.01	0.11	0.40	2.06	3.86	1.59	0.03	100.00	
4	77.43	0.40	12.29	1.66	0.15	0.40	2.09	4.00	1.52	0.05	100.00	
5	77.41	0.43	12.59	1.79	0.08	0.42	1.99	3.81	1.49	0.00	100.00	
6	77.29	0.41	12.56	1.51	0.09	0.46	2.08	4.03	1.52	0.04	100.00	
7	77.49	0.35	12.49	1.79	0.08	0.37	2.01	4.01	1.38	0.02	100.00	
8	77.04	0.43	12.38	1.84	0.06	0.48	1.98	4.12	1.64	0.03	100.00	
9	77.34	0.43	12.58	1.75	0.02	0.44	2.04	3.91	1.46	0.02	100.00	
10	77.33	0.28	12.59	1.79	0.13	0.40	2.03	3.92	1.47	0.06	100.00	
11	77.69	0.31	12.68	1.73	0.08	0.43	1.80	3.87	1.39	0.00	100.00	
平均値	77.46	0.37	12.46	1.75	0.09	0.42	2.01	3.94	1.47	0.03	100.00	
標準偏差	0.23	0.05	0.15	0.12	0.04	0.03	0.08	0.09	0.10	0.02		

第30表 14J-33区 SD1181・試料4に含まれる火山ガラスの主成分化学組成

試料	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	total	備考
1	77.42	0.37	12.56	1.69	0.09	0.40	2.09	3.92	1.42	0.03	100.00	
2	77.31	0.36	12.69	1.67	0.19	0.40	2.03	4.00	1.32	0.05	100.00	
3	77.07	0.32	12.74	1.76	0.06	0.43	2.17	4.01	1.43	0.02	100.00	
4	77.65	0.39	12.42	1.79	0.17	0.43	1.99	3.82	1.27	0.08	100.00	
5	77.23	0.32	12.72	1.67	0.08	0.43	2.13	3.96	1.38	0.09	100.00	
6	77.13	0.37	12.67	1.82	0.11	0.42	2.09	3.97	1.37	0.06	100.00	
7	77.23	0.39	12.84	1.49	0.07	0.40	2.10	3.95	1.48	0.06	100.00	
8	77.32	0.38	12.70	1.75	0.00	0.39	2.14	3.71	1.57	0.03	100.00	
9	77.33	0.38	12.81	1.36	0.11	0.40	2.03	4.01	1.53	0.02	100.00	
10	77.54	0.36	12.61	1.65	0.04	0.42	2.02	3.92	1.35	0.08	100.00	
11	77.38	0.34	12.75	1.59	0.11	0.44	2.06	3.92	1.41	0.00	100.00	
平均値	77.33	0.36	12.68	1.66	0.09	0.41	2.08	3.92	1.41	0.05	100.00	
標準偏差	0.16	0.02	0.11	0.13	0.05	0.02	0.05	0.09	0.09	0.03		
12	79.18	0.25	11.92	1.02	0.03	0.25	1.49	3.32	2.52	0.00	100.00	

第31表 団子山西遺跡テラフ試料と約5万年前以降の指標テラフに含まれる火山ガラスの主成分化学組成比較

地点・試料	タイプ	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	備考	
J-27 K・基本土層断面・試料2		77.45	0.38	12.59	1.70	0.10	0.42	2.05	3.88	1.38	0.00	本報告	
A	79.39	0.20	11.86	1.38	0.04	0.18	1.40	3.67	1.87	0.02	本報告		
B	79.58	0.19	12.11	1.56	0.04	0.21	1.71	3.36	1.21	0.04	本報告		
C	79.12	0.23	11.65	1.32	0.00	0.21	1.49	3.65	2.34	0.00	本報告		
D	78.91	0.06	11.83	1.09	0.02	0.08	0.71	3.73	3.57	0.00	本報告		
A	79.20	0.18	12.02	1.57	0.06	0.14	1.43	3.66	1.69	0.02	本報告		
B	78.74	0.23	12.31	2.00	0.06	0.27	2.00	3.26	1.09	0.05	本報告		
C	79.30	0.22	11.92	1.32	0.08	0.14	1.30	3.71	2.02	0.01	本報告		
D	78.42	0.24	11.78	1.32	0.01	0.20	1.31	3.93	2.75	0.04	本報告		
J-27 K・基本土層断面・試料4		77.46	0.37	12.46	1.75	0.09	0.42	2.01	3.94	1.47	0.03	本報告	
J-33 K SD1181・試料1	A	77.33	0.36	12.68	1.66	0.09	0.41	2.08	3.92	1.41	0.05	本報告	
J-33 K SD1181・試料4	B	79.18	0.25	12.92	1.02	0.03	0.25	1.49	3.32	2.52	0.00	本報告	
指標テラフ													
To-a		77.87	0.37	12.81	1.75	0.10	0.42	2.00	3.29	1.34	0.0	①	
Nm-N		78.10	0.24	12.10	1.14	0.09	0.19	1.34	3.35	3.45	29		
To-Cu		75.08	0.44	13.28	2.46	0.08	0.63	2.63	4.04	1.29	1)		
K-Ah		75.24	0.53	12.85	2.42	0.08	0.47	2.02	3.32	3.00	1)		
Hj-O		77.79	0.16	12.76	1.05	記載なし	0.44	1.09	3.61	3.10	29		
To-H (ptf) 上部		78.30	0.29	12.67	1.52	0.06	0.29	1.73	3.84	1.30	29		
To-H (ptf) 下部		76.38	0.40	13.43	1.90	0.11	0.44	2.22	3.88	1.24	29		
As-YP		78.15	0.27	11.99	1.33	0.04	0.26	1.30	3.72	2.89	1)		
Nr-KU		77.98	0.22	12.28	1.22	記載なし	1.01	1.59	4.23	1.47	29		
AT		78.25	0.13	12.14	1.26	0.04	0.11	1.09	3.41	3.56	0.02 1)		
To-Of (ptf)		77.82	0.36	12.45	1.88	0.08	0.33	1.87	3.97	1.25	29		
Nr-Y		78.93	0.19	12.01	1.30	0.09	0.20	1.49	3.84	1.95	0.02 3)		
Nr-N		78.72	0.16	12.11	1.42	0.04	0.16	1.32	4.11	1.96	0.02 1)		
O-Bk		79.45	0.18	12.01	1.33	0.06	0.18	1.40	3.22	2.17	3)		

無水に換算。1) 八木(未公表)。2) 齋木・新井(2000)。3) 八木・早田(2002)。



14J-27 区基本土層断面・試料 2 (To-a)
中央・中央左：織維束状軽石ガラス



14J-27 区基本土層断面・試料 4
中央：織維束状軽石ガラス



14J-27 区基本土層断面・試料 7
中央右：淡褐色バブル型ガラス
中央左上（鉱物）：斜方輝石



14J-33 区 SD1181・試料 1 (To-a)
中央：織維束状軽石ガラス



0.2mm

14J-33 区 SD1181・試料 1
中央下：スポンジ状軽石ガラス
中央左（鉱物）：角閃石

第5章 総括

J・K区の成果について、遺物・遺構の検討を行い、それに基づき H・I・L区の成果（『团子山西遺跡Ⅰ』）と周辺の遺跡の状況を踏まえて全体の検討を行う。

第1節 遺物

縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、赤焼土器、中世陶器、陶磁器、瓦、硯、土製品、石器、石製品、金属製品、錢貨、鉄滓、木製品等が出土した。

以下に種別ごとに特徴と時期について記述し、組み合わせや特徴的な遺物から各時代の遺物の性格について検討する。

1 特徴と時期

(1) 縄文土器

J・K区で出土したが、基本層序VI層からの出土はJ-6区のみであり、その他は二次堆積である。VI層出土では、深鉢（第29図-3）がある。平縁の口縁部が直立するもので、口縁部にRL縄文、体部との境に平行沈線が施されている。他に、K-3区II層より平縁の口縁部が内湾し、口縁部から体部にLR縄文が施されるもの（第113図-7）がある。浅鉢はK-1区SD1286出土のものがある。口縁部にヘラ状刻目と平行沈線が施され、体部はLR縄文である。壺はK-2区遺構確認時に出土したものがある。頸部から口縁部を欠いており、肩の張りが小さい器形である。体部に縄文LRが施されている。これらの類例は大崎市北小松遺跡で認められ（宮教委2011・2014）、年代は縄文時代晩期と考えられる。

(2) 土師器・須恵器・赤焼き土器・灰釉陶器

①古墳時代前期

土師器がK-3区で出土した。他の調査区や遺構からは出土していない。

【SD1266 河川跡】（第189図）

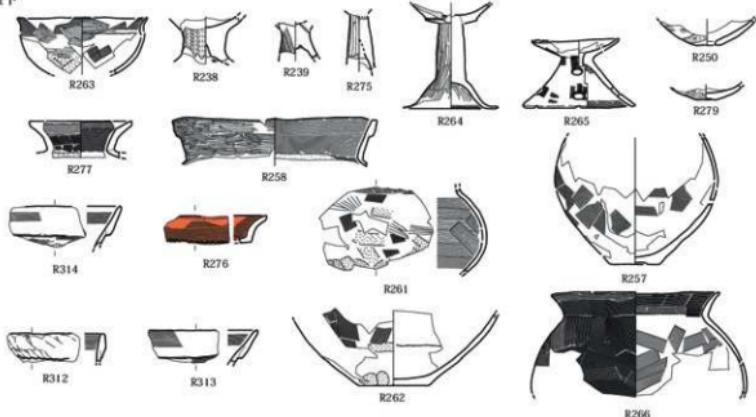
大別堆下層および堆積土より土師器甕・壺・高杯・器台・鉢が出土したが、器形の全体を復元できる器種は少ない。壺は、口縁部と胴部から底部のものに分かれ、口縁が外傾するもの（R277）、複合口縁のもの（R258・314・312・313・311）、二重口縁のR276は、両面赤彩である。内外面ヨコナデが主体であるが、R277は外面にヨコナデ後にハケメ、R258は外面にミガキが施されている。胴部から底部のものは、外面にハケメ（R257）またはヘラケズリ・ハケメ後にミガキのもの（R261）がある。甕は、口縁部から胴上部（R260・266）と胴下部から底部（R259）のものに分かれる。R260は口縁部外面にヨコナデ後に胴部にかけてハケメ、口縁部内面にヨコナデ後にヘラナデが施されている。R266は口縁外面にヨコナデ後に胴部にかけてハケメ、口縁部内面はヨコナデ後にハケ

メ、胴部にヘラナデが施されている。R259は体部外面にヘラケズリ後にハケメ、ヘラナデ、内面にヘラナデが施されている。

棒状脚の高环（R264）は、脚部が中実で内外面にミガキが施されており、裾が緩く弧を描きながら広がる。环は体下部のみであり調整等は不明であるが、底部の稜が大きく強調されている。器台（R265）は受け部と脚部の間に貫通孔があり、脚部の裾が「ハの字」に広がる。また、脚部に透かし孔が5つ開いている。調整は、受け部外面がハケメ・ヨコナデ、脚部外面がハケメが施されている。鉢（R263）は口縁部がくびれて外反する。体部外面はヘラケズリ・ヨコナデ後にミガキ、内面はヘラナデ、ヨコナデ後にミガキが施されている。

これらは、形態や調整の特徴から、東北南部の古墳時代前期「塩釜式」（氏家 1957）に位置付けられる。なお、複合口縁の壺は前期から中期まで確認できるが、他の土器との関係から前期とする。類例は登米市佐沼城跡 SD105 溝跡（迫町教委 1995）、栗原市伊治城跡 SD260・261・273 溝跡（栗原町教委 1992）などで認められ、前期を細分した時期では辻編年（辻 1994・1995）のⅢ-3・4期、青山編年（青山 2010）の塩釜 3 式に該当すると考えられる。

堆下



堆



※全て S=1/6

第 189 図 SD1266 河川跡出土土器

【その他】

K-3 区表土より器台が出土している（第 114 図-5）。受け部と脚部の間に貫通孔があり、脚部の裾を欠損しているため、透かし孔の有無は不明である。外面調整は、受け部ヘラミガキ・ヨコナデ、脚部ハケメ・ヘラミガキ、内面は受け部ヨコナデ、脚部ナデが施されている。年代は、SD1266 河川跡出土土器と同時期と考えられる。

②古墳時代中期

K-1・3・5 区から土師器が出土している。まとまりを持って出土したのは K-5 区北 SI1621 竪穴建物跡のみであり、遺構出土のものは K-5 区 SI1381 竪穴建物跡など限られることから、以下に SI1621・1381 とその他に分けて記述する。

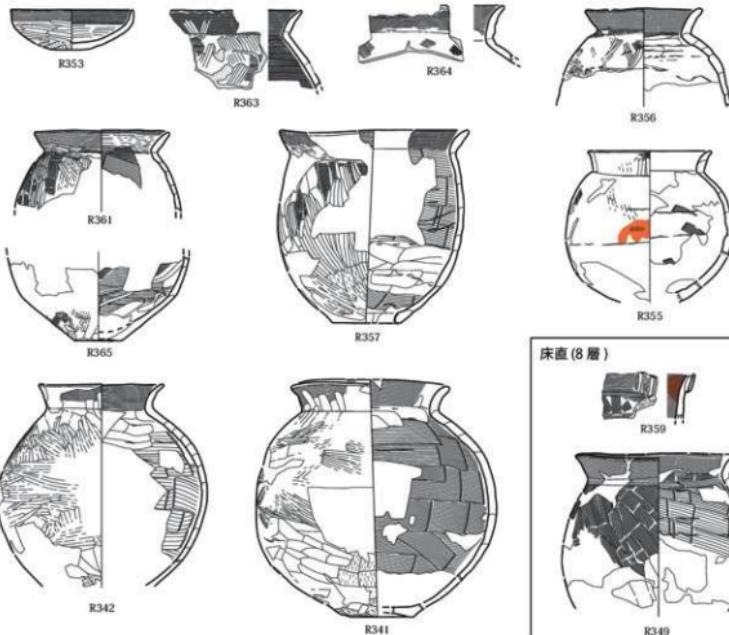
【SI1621 竪穴建物跡】（第 190 図）

床面および堆積土から土師器環・鉢・甕・壺・瓶が出土した。器種ごとに特徴が共通することから、まとめて検討する。

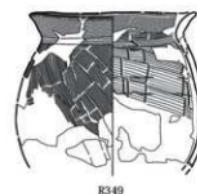
环は、外面調整が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面調整が口縁部ヨコナデ、体部ナデ・ヘラミガキが施される。外形は丸底と平底があり、底部から屈曲なく口縁部にいたるもの（R348）、口縁部が短く直立するもの（R353・360）、内面に稜を持つもの（R351）、くびれて短く外傾するものの（R352・358）がある。また、両面赤彩のものが 1 点ある（R348）。鉢は平底で、口縁部が緩く内傾する（R346）。壺は口縁部のみであり、全体の器形と調整は不明である。複合口縁と二重口縁があり、外面調整はハケメ・ヨコナデ、内面はヨコナデが施され、ともに内面赤彩である（R345・359）。甕は最も多く出土したが、ここではおおよそ全体の様子が分かるものについて検討する。調整は、外面に口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ・ナデ・ハケメ後にヘラミガキが施されるものが多い。内面は口縁部ヨコナデ、胴部ナデ・ヘラナデが施される。外形は、厚みのある口縁部が「く」の字状に外反もしくは外傾し、胴部の高さと最大径がほぼ等しく、最大径が胴中央にあるもの（R354・357）、胴部が縱長の楕円形で最大径が胴中央にあるもの（R343）、胴部の最大径が器高より大きく、球胴状となるもの（R341・355）がある。なお、R355 は外面赤彩であった可能性がある。瓶は外面調整が口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ・ナデ・ヘラミガキ、内面が口縁部ヨコナデ、胴部ナデまたはヘラケズリ・ヘラナデが施される。鉢形で単孔のもの（R344）、最大径が胴部下半にある瓶形で無底のもの（R369）がある。

これらの土師器は床面だけでなく、堆積土中からもまとめて出土しており、やや不自然な出土状況を呈するが、床面と堆積土中の遺物が接合すること、床面出土土器と堆積土中出土土器の形態や調整の特徴に違いは認められないことから、一括性のある遺物と考えられる。土器の形態や調整の特徴に加え、高环を含まない組成から、古墳時代中期「南小泉式新段階」（辻 1989）もしくは「引田式」（氏家前掲、藤沢 1992）に位置付けられる。類例は、美里町駒米遺跡 SI32 住居跡（小牛田町教委 1998）、大崎市名生館官衙遺跡 SI1573 住居跡（古川市教委 2002）、同神明遺跡 SI3・5 住居跡（大崎市教委 2011a）で認められ、年代は 5 世紀後半と考えられる。

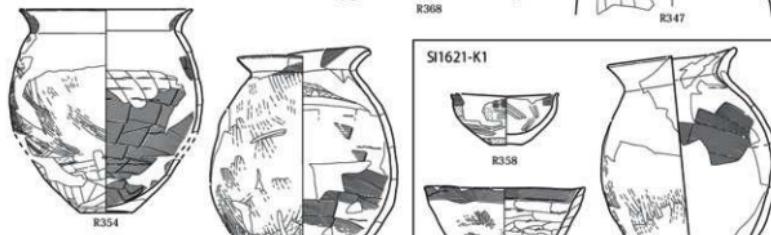
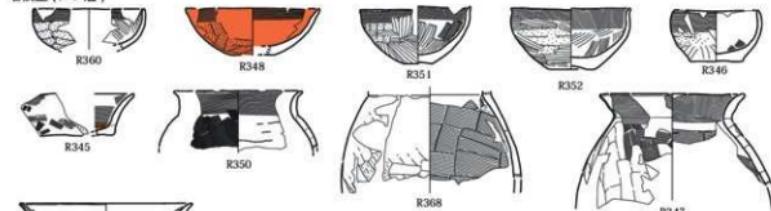
床



床直(8層)

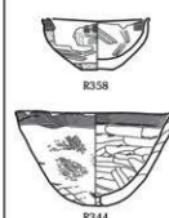


堆积土(1~7層)



率全てS=1/6

S11621-K1



第190図 S11621 積穴建物跡出土土器

【SI1381 穫穴建物跡】

堆積土中及び土坑から土師器環・甕が出土している（138図）。环は平底とみられ、体部が内湾して口縁部に至るものである。調整は外面ヘラケズリ後にミガキ、内面ミガキ・ヘラナデが施される。甕は胴部で、算盤玉状に胴部中央付近が大きく張り出すものである。調整は外面ヘラナデ後にミガキ、内面ヘラナデである。駒込遺跡 SI32 住居跡、SE50 井戸跡（小牛田町教委 1998）に類例が認められ、SI1621 と同様の年代と推定される。

【その他】

环がK-5区SK1362土坑（第162-3～6）、K-3区IV層（第113図-4）、K-12区II層（第123図-2）より出土している。SK1362出土环はいずれも丸底で、口縁端部が屈曲し、内面に稜を持つもの（162-3・5）、体部から口縁部が内湾するもの（162-4）のほか、両面に赤彩が施されたもの（162-6）がある。調整は、外面ヘラケズリ・ミガキ、内面ミガキが施される。R287は完形であり、丸底で底部から屈曲なく口縁部にいたる外型である。調整は、外面ヘラケズリ・ヘラナデ、内面ヘラミガキで赤彩が施されている。R444は口縁部から体上部の破片であり、丸底で口縁部が短く直立もしくは内傾するとみられる。調整は、外面ヨコナデで赤彩が施されている。甕はK-3区SD1265より出土している（第105図-2）。胴下部から底部を欠くが、最大径が胴中央にあるとみられる。調整は、外面ナデ・ミガキ、内面ヘラナデが施されている。环・甕の特徴がSI1621出土土器と類似することから、同時期のものと考えられる。

③古墳時代前期～中期

いずれも土師器壺である。K-1区遺構確認時に1点（第95図-5）、K-12区SD1485より3点（第122図-3～4）が出土した。第95図-5は口縁部直下の胴上部の破片であり、外面の全体と内面の一部に赤彩が施されている。第122図-4は口縁部の破片であり、外面調整はヨコナデ・ミガキ、内面はヨコナデで両面の全体に赤彩が施されている。第122図-5は複合口縁の破片であり、外面にヨコナデ・ハケメのほかに刺突文が施されている。第112図-3は胴部から底部である。球胴形で、調整は外面ヘラケズリ後にミガキ、内面ナデが施される。第112図-3は口縁部を欠いており、その他も口縁部または胴部の破片であることから、これらの年代は古墳時代前期から中期としておく。

④古墳時代後期

土師器環が2点J-21区SD913溝跡（第52図-6）、K-3区SK1279土坑（第109図-5）より出土している。古代の遺物とともに出土しており、2次堆積と考えられる。外型はともに丸底で体部と口縁部の境に緩い段を持ち、口縁部が外反する。外面調整は口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキであり、第52図-6は黒色処理が施されている。形態や調整の特徴から、古墳時代後期「住社式」（氏家前掲）に位置づけられる。類例は、美里町山前遺跡 SI23 住居跡（小牛田町教委 1976）、駒込遺跡 SI11 住居跡（小牛田町教委 1998）で認められ、6世紀前半と考えられる。

⑤古代

須恵器、土師器、赤焼土器、灰釉陶器である。須恵器と土師器が大部分を占める。まとまって土器が出土した、または良好な出土状況を示すものがJ-3区SD716河川跡、J-25区SD1028河川跡、K-3区SD1263溝跡、SK1279土坑、K-12区SI1453竪穴建物跡、SK1473土坑に限られるため（第32表）、これらの遺構出土土器について特徴をまとめて、時期を検討する。その他については、各遺構の年代を検討する際に個別に取り上げる。

第32表 古代の土器の集計

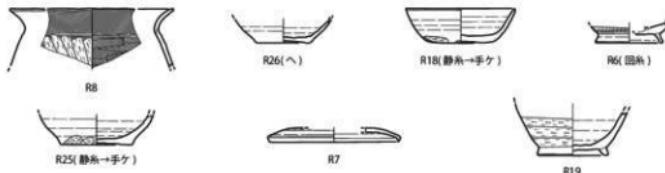
区	遺構	土師器						須恵器								赤焼土器							
		坪	高台坪	壇	縁	高台壇	甕	豆	ミニチュア	坪	高台坪	高坪	壇	甕	豆	長颈甕	短颈甕	長頸瓶	横瓶	水瓶	盤	壺	坪
J-1	SD770									Z													
	SD774	1																					
	SD702																						
	SD713																						
J-3	SD716	1					1				9	4			4	1							
	SK704	1																					
	SK711						1																
	SB986																						
J-4	SD723						1																
	SD754																						
J-5	SD792																						1
J-13	SD828						1																
J-14	SD881																						
J-17	SD866											2											
	SD867	1																					
J-19	P224																						
J-21	SD913	1									3				1								
J-22	SD960	1										2											
J-25	SD1028										10												
J-26	SD1036	1																					
	SD1037																						
J-28	SD1069																						
	SD1074	1																					
	P384										1												
J-29	SD1108	2									2												
	SD1121																						
	SI1203		1																				
K-1	SD1292																						
	SD1293										2												
K-2	SI1210																						
	SD1263	1		2							2												
	SD1264	2									1	1	1										
	SD1278	1																					
K-3	SK1279		1				2				1			1	1	1							
	P170		1																				
	P184																						
	SI1453	3			3	1																	
K-12	SD1485																						
	SK1473										1										2	1	
	P545	1																					
	SI1371	2																					
	SI1381																						
	SD1370						1																
	SD1391																						
K-5	SD1399																						
	SD1406	2									2			1									
	SK1388	1																					
	SK1410																						
	P811		1																				
	SK1622																						
K-5北	SD1620	2		1	1						1												
K-5南	SK1625	1																					
K-6	SD1480																						
K-13	SB1475	1																1	1				
	SD1481										2												

【SD716 河川跡】(第 191 図)

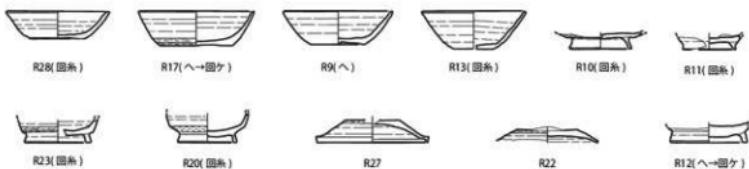
堆積土は大別して上層と下層に分けられる。下層出土土器は、土師器甕・須恵器甕・高台甕・蓋・壺である。土師器甕は口縁部が外反し、胴部がやや膨らむものである。調整は、胴部にヘラケズリ、内面にヘラナデが施される。須恵器甕は、口径に対する底径の割合が高く、口径に対して器高が小さい皿形である。底部から直線的に外傾するもの (R18・26)、底部から直線的に立ち上がり、内湾するもの (R25) がある。体部外面に手持ちヘラケズリが施されるものがあり、底部切り離しは回転ヘラ切りのもの、静止糸切りのものがあり、切り離し後に体下部から底部に手持ちヘラケズリが施されるものがある。高台甕は底部から内湾して立ち上がるるもの (R6)、底部切り離しは不明で体下部から底部に回転ヘラケズリが施された後に高台が取り付けられる。蓋は天井部が丸みを帯び、体部が内湾して口縁端部が折り返されるもの (R7) である。壺は胴下部から高台部のみで (R19)、外面に回転ヘラケズリが施される。

上層出土土器は、ロクロ土師器高台甕、須恵器甕・高台甕・蓋・壺である。ロクロ土師器甕は底部から高台部であり (R11)、内面黒色処理が施され、底部切り離しは回転糸切無調整である。須恵器甕は、外形の特徴が下層と共通するもの (R9・17) と、口径に対する底径の割合が低いものがある (R13)。後者の底部切り離しは回転糸切無調整である。高台甕は、体部が内湾するもののほかに直線的に立ち上がり、外傾するものを含む。調整と底部切り離しは下層と同様である。蓋は、天井部が平坦で体部との境に棱を持つものである (R22・27)。壺は胴下部から高台部のみで、底部切り離しはヘラ切とみられ、切り離し後に胴下部から底部に回転ヘラケズリが施される。

堆下



堆上



へ：回転ヘラ切 静糸：静止糸切 手ケ：手持ちヘラケズリ 回糸：回転糸切 回ケ：回転ヘラケズリ

※全て S=1/6

第 191 図 SD716 河川跡出土土器

下層出土土器の類例は、須恵器环では底部静止糸切り後に手持ちヘラケズリを施されるものが色麻町日の出山窯跡C地点2号窯跡（色麻町教委1993）で認められ、8世紀中葉に位置付けられている。その他の須恵器环・高台环・蓋などは、8世紀後半に位置付けられている团子山西遺跡H-25区SD110A河川跡14層（宮教委2018b）に類似することから、下層出土土器の年代は8世紀中葉から後半と考えられる。上層出土土器は、下層と特徴が共通するものと異なるものがあり、ロクロ土師器や須恵器环には底部回転糸切り無調整のものを含む。底部回転糸切り無調整の环には、口径に対する底径の割合が高く、口径に対して器高が小さい皿形のもの（R28）と口径に対する底径の割合が低く、口径に対して器高が大きい逆台形のもの（R18）があり、前者の類例は9世紀第1四半期に位置づけられている関ノ入遺跡11号窯跡（河南町教委2004）にあり、後者は9世紀第3四半期に位置づけられている関ノ入遺跡10号窯跡（河南町教委2004）にあることから、SD716河川跡出土土器の年代は、8世紀中葉から9世紀後葉と考えられる。

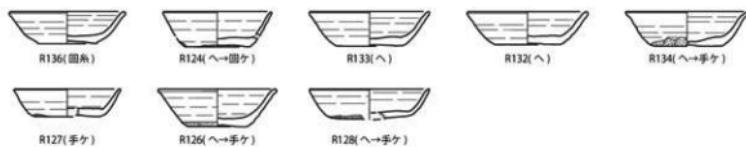
【SD1028 河川跡】（第192図）

堆積土は大別して上層と下層に分けられる。下層出土土器には須恵器环がある。口径に対して器高が小さい皿形のもので、体部が直線的外傾して口縁部に至るもの、体部が直線的に外傾して口縁部が屈曲するもの、体部が内湾気味に立ち上がり口縁部が外傾するものがある。底部切り離しは回転ヘラ切のもの、回転糸切無調整のもの、回転ヘラ切後に体下部から底部に手持ちヘラケズリまたは回転ヘラケズリを施すものがある。

上層出土の須恵器环は、口径に対して器高が小さい皿形のもので、体部が直線的外傾して口縁部に至り、底部切り離しは回転糸切無調整である。

下層と上層出土土器には特徴に大きな相違が認められないことから、両者を一括して年代を検討する。須恵器环の特徴は、底部静止糸切のものや口径に対して器高が大きいものを含まないことを除くと、おおよそSD716河川跡と共通することから、SD1028河川跡出土土器の年代は8世紀後半から9世紀前葉と考えられる。

堆下



堆上



へ：回転ヘラ切 手け：手持ちヘラケズリ
皿系：回転糸切 回け：回転ヘラケズリ

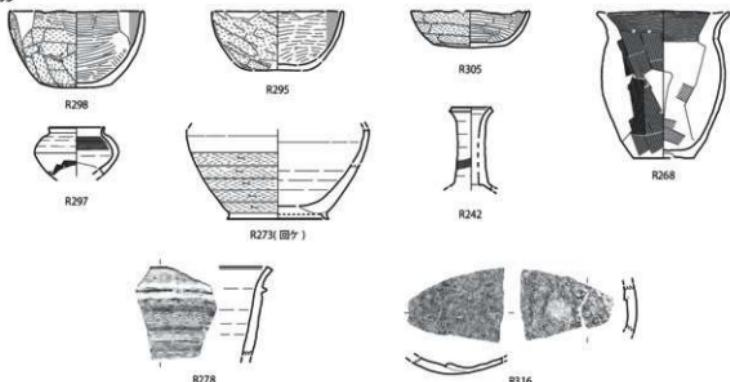
※全てS=1/6

第192図 SD1028河川跡出土土器

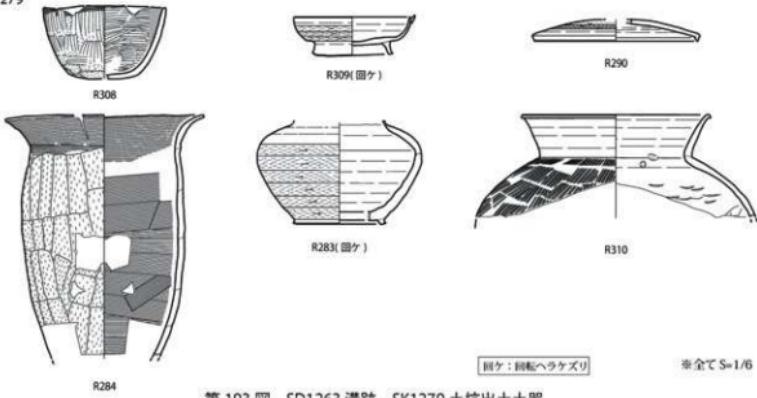
【SD1263 溝跡・SK1279 土坑】(第 193 図)

重複関係から SD1263 が SK1279 より新しいが、出土土器の特徴が類似することから、合わせて検討する。SD1263 溝跡出土土器には土師器环・塊・甕・須恵器甕・長頸壺・短頸壺・横瓶・水瓶がある。なお、水瓶については別項にて検討する。土師器环は、平底気味で体部に段がなく、やや内湾して口縁部に至るものである (R305)。調整は外面ヘラケズリ、内面ミガキ後に黒色処理が施される。塊は平底で、内湾して口縁部に至るものである (R295・298)。調整は外面ヘラケズリまたはヘラケズリ後にミガキ、内面ミガキ後に黒色処理が施される。甕は胴部中央が膨らみ、口縁部が外反するものである (R268)。調整は外面ハケメ、内面ヘラナデが施される。須恵器甕は口縁部で、波状文と沈線が施され、隆帯がつく (R278)。長頸壺は胴部から高台部で、肩が大きく張るとみられ、短い高台がつく (R273)。短頸壺は口縁部から胴部で、算盤玉状に胴部中央が大きく張るものである (R297)。横瓶は胴部の破片で、外面に平行タタキが施される (R316)。

SD1263



SK1279



第 193 図 SD1263 溝跡、SK1279 土坑出土土器

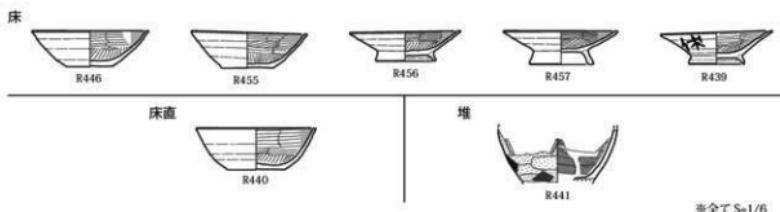
SK1279 土坑出土土器には土師器塊・甕、須恵器高台坏・蓋・甕・長頸壺がある。土師器塊は SD1263 出土塊と類似する (R308)。甕は長胴形で、口縁部が大きく外反するものである (R284)。調整は、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデが施される。須恵器高台坏は、体部が内湾して口縁部に至るものである (R309)。底部切り離しは不明、体下部から底部に回転ヘラケズリが施される。蓋は天井部から体部が丸みを帯び、口縁端部が短く折り返されるものである (R290)。甕は口縁部から胴上部で、外傾する口縁の端部が下方につまみ出される (R310)。胴部外面に平行タタキ、内面に同心円状当具痕が施される。長頸壺は胴部から高台部で、肩が大きく張り、短い高台がつく (R283)。

2つの遺構で共通する土器の特徴に大きな相違が認められないことから、両者を一括して年代を検討する。土師器の類例は、栗原市経ヶ先遺跡 SI6・40 住居跡 (高清水町教委 2000)、新田柵跡 SI73b 住居跡 (田尻町教委 1998) で認められ、8世紀後半とされている。須恵器高台坏・蓋に類似するものは、石巻市代官山遺跡 1号窯跡で認められ、8世紀後半とされている (河南町教委 1993)。また、須恵器短頸甕に類似する土器は多賀城市山王遺跡八幡地区 SD461 区画溝跡で認められ (宮教委 2018a)、8世紀中頃から後半とされている。土師器と須恵器の年代観に矛盾はないことから、SD1263 溝跡・SK1279 土坑出土土器の年代は8世紀後半と考えられる。

【SI1453 竪穴建物跡】(第 194 図)

床面と床面上直上よりクロロ土師器坏・高台皿が出土した。カマドがあったと推定される場所から一括で出土しており、竪穴建物跡の廃絶時に残されたものと考えられる。坏は体部がやや内湾しながら立ち上がり、口縁部が外傾するもの (R440)、体部が直線的に立ち上がり、口縁部が外傾するもの (R446・455) がある。法量は、口径 14.1 ~ 14.6cm、底径 5.6 ~ 7.0cm、器高 4.4 ~ 5.1cm である。高台皿は、体部が直線的に立ち上がり、口縁部が大きく開く器形である。高台の高さが 0.6cm 程度のもの (R439・456)、1.0cm 以上のもの (R457) がある。坏と高台坏の坏部の底部切り離しは回転糸切り無調整である。

類例は山王遺跡多賀前地区第3群土器や大衡村旧大衡役場前遺跡 SK21 で認められ (宮教委 1996・2007)、9世紀後半に位置付けられていることから、SI1453 出土土器の年代も 9世紀後半と考えられる。

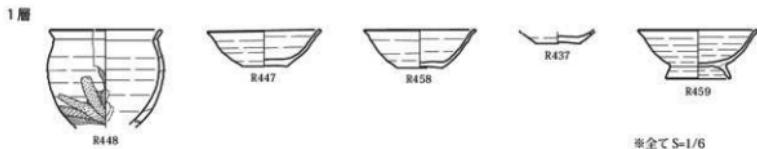


第 194 図 SI1453 竪穴建物跡出土土器

【SK1473 土坑】(第 195 図)

ロクロ土師器小甕、赤焼き土器環・高台环が出土している。埋土は人為的に埋め戻されたものとみられ、土器が重なるように出土していることから、数は多くないが一括廃棄されたものと考えられる。ロクロ土師器小甕 (R448) は、口縁部から胴部が残存しており、最大径が口縁部にある。胴部外面に手持ちヘラケズリが施されている。赤焼き土器環は、体部が直線的に立ち上がり、口縁部が外傾する (R447・458)。法量は、口径 13.4 ~ 13.6cm、底径 5.6 ~ 5.7cm、器高 4.4 ~ 4.7cm である。底部の切り離しは回転糸切り無調整である。赤焼き土器高台环は、体部が内湾しながら立ち上がり、口縁部が外反する (R459)。环部の切り離しは 2 次的にヘラ状工具によるとみられるナデ (菊花状調整痕) が施されている。高台外面と口縁部内面に油煙が付着している。

類例は、加美町壇の越遺跡 SK802 土坑 (宮崎町教委 2003) や山王遺跡多賀前地区第 4 群土器 (宮教委 1996) に認められる。壇の越遺跡 SK802 は 10 世紀前半、山王遺跡多賀前地区第 4 群土器がおよそ 10 世紀前葉に位置付けられていることから、SK1473 土坑出土土器の年代は 10 世紀前半と考えられる。



第 195 図 SK1473 土坑出土土器

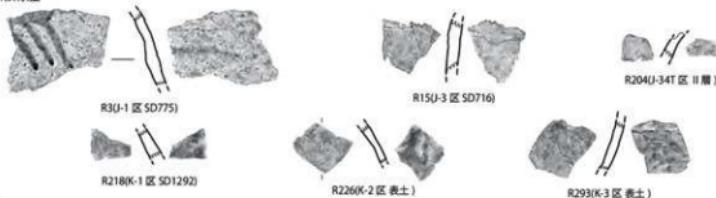
(3) 磁器

青磁碗 1 点と国産磁器皿 1 点である。青磁 (第 32 図-5) は試掘確認調査時に確認したものであり、J-10 区と重複する J-29 トレンチにて出土した。口縁部破片であり、外面に押縦線が施されている。中世のもので、龍泉窯系である。国産磁器皿 (第 32 図-1) は J-9 区 SD807 河川跡より出土した。体下部から底部・高台が 1/3 以上残存しており、切込焼きとみられる (宮崎町教委 1990)。器肌に貫入がほとんど見られず、蛇の目状の重ね焼き痕が内面にみられること、呉須がやや緑かかっていることから、切込第 2 期 (1850 年代) と考えられる。

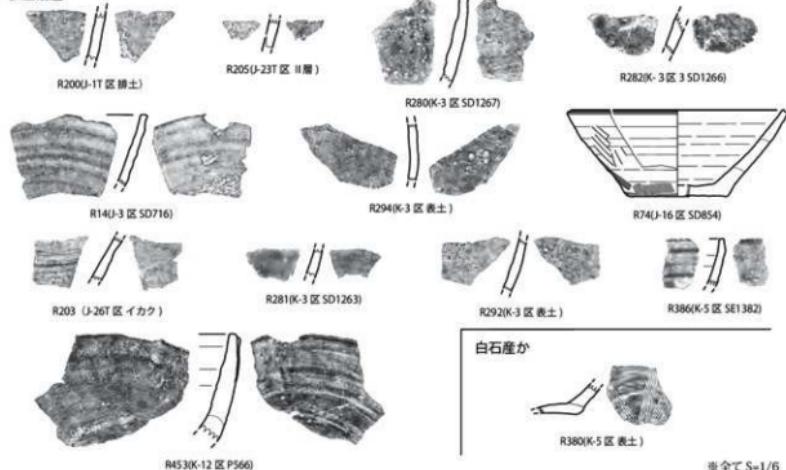
(4) 中世陶器 (第 196 図)

無釉の壺器系陶器で、器種は甕と擂鉢である。全て破片資料であり、全体が分かるものは 1 点である。19 点のうち常滑産 6 点 (甕 6 点)、伊豆沼産 12 点 (甕 4 点、擂鉢 8 点)、その他 1 点 (擂鉢 1 点) である。K 区より多く出土しているが、表土や河川跡・溝跡などに二次堆積したものが大部分を占める。個別の色調等の特徴については表にまとめ、以下に各産地の代表的なものについて記述する。

常滑産



伊豆沼産



白石産か



※全て S-1/6

登録番号	種類	遺構 / 槽	産地	色調			その他
				外面	内面	断面	
3	甕	SD775 / 堆	常滑	灰褐色 (7.SYR4/2)	灰褐色 (7.SYR4/2)	褐灰色 (10YR6/1)	径 2 ~ 5mm 程の小礫を含む。外面に自然軸がかかる。
204	目刷	SD776 / 堆	常滑	灰褐色 (5YR5/3)	灰褐色 (10YR5/2)	明褐色 (7.5YR7/1)	径 2 ~ 5mm 程の小礫を多く含む。
15	甕	SD777 / 堆上	常滑	灰褐色 (5YR4/3)	灰褐色 (SYR 4/2)	褐灰色 (7.5YR5/1)	径 1 ~ 3mm 程の小礫を多く含む。
218	甕	SD1292 / 排土	常滑	灰褐色 (5YR4/3)	灰褐色 (7.5YR5/4)	灰褐色 (10YR7/1)	径 1 ~ 3mm 程の小礫を多く含む。
226	甕	表土	常滑	灰褐色 (5YR5/3)	灰褐色 (5YR5/2)	褐灰色 (7.SYR6/1)	径 1 ~ 2mm 程の小礫を含む。
293	甕	表土	常滑	灰褐色 (5YR5/3)	灰褐色 (5YR5/2)	褐灰色 (7.5YR6/1)	径 1 ~ 3mm 程の小礫を含む。
200	排土	伊豆沼 (5YR5/2)	伊豆沼	灰褐色 (7.5YR5/1)	灰褐色 (5YR5/1)	灰褐色 (5YR5/1)	径 2mm 以下の小礫を含み、ガラス粒を多く含む。
205	甕	目刷	伊豆沼	灰褐色 (5YR5/3)	灰褐色 (5YR5/4)	灰褐色 (5YR5/4)	径 1 ~ 3mm 程の小礫を多く含み、ガラス粒を含む。外面に横けハサケの痕跡あり。
280	甕	SD1266 / 堆	伊豆沼	灰褐色 (5YR4/3)	灰褐色 (5YR5/2)	明褐色 (7.5YR7/1)	径 1 ~ 2mm 程の小礫、ガラス粒を含む。
282	甕	SD1266 / 堆上	伊豆沼	灰褐色 (5YR4/4)	明赤褐色 (2.5YR5/6)	明赤褐色 (2.5YR5/6)	径 1 ~ 2mm 程の小礫の小礫を含む。
294	甕	表土	伊豆沼	灰褐色 (5YR4/4)	灰褐色 (5YR5/2)	褐灰色 (7.5YR6/1)	径 1 ~ 3mm 程の小礫を含む。
14	留跡	SD716 / 堆上	伊豆沼	灰褐色 (5YR5/4)	灰褐色 (5YR5/3)	褐灰色 (5YR5/1)	径 3mm 以下の小礫を多く含む。
74	留跡	SD854 / 堆	伊豆沼	明赤褐色 (2.5YR5/6)	明赤褐色 (2.5YR4/6)	赤褐色 (2.SYR4/6)	径 2mm 以下の小礫、ガラス粒を多く含む。
203	留跡	イカク	伊豆沼	灰褐色 (5YR5/2)	灰褐色 (5YR6/3)	灰褐色 (7.5YR5/3)	径 2mm 以下の小礫を多く含む。ガラス粒を少し含む。
281	留跡	SD1263 / 堆	伊豆沼	明赤褐色 (2.5YR5/6)	明赤褐色 (5YR5/4)	明赤褐色 (5YR5/6)	径 2mm 以下の小礫、ガラス粒を多く含む。
292	留跡	表土	伊豆沼	灰褐色 (5YR5/3)	灰褐色 (7.5YR5/2)	褐灰色 (7.5YR6/1)	径 2mm 以下の小礫、ガラス粒を含む。
386	留跡	SE1382 / 堆	伊豆沼	灰褐色 (5YR4/3)	灰褐色 (5YR4/3)	褐灰色 (7.5YR5/4)	径 1 ~ 4mm 程の小礫を多く含む。
453	留跡	P566	伊豆沼	暗赤褐色 (5YR3/4)	灰褐色 (5YR5/3)	明赤褐色 (2.5YR5/6)	径 3mm 以下の小礫、ガラス粒を多く含む。
380	留跡	表土	白石か	水褐色 (2.5YR4/6)	灰褐色 (5YR4/2)	褐灰色 (10YR4/1)	径 1mm 以下の小礫を少し含む。胎土は均一で緻密。内面に 4 ~ 5 本単位の放射状凹凸が施される。

第 196 図 J・K 区出土 中世陶器

①常滑産陶器

6点出土しており、いずれも胴部の破片である。もっとも大きな破片であるR3は、外内面にヘラナデが施され、外面に緑色の自然釉がかかっている。胎土には径1~5mm程の小礫を含み、褐灰色・灰白色を呈する。外面・内面は、にぶい赤褐色または灰褐色のものがある。口縁部を欠損しており、押印も認められることから時期を特定することはできないが、R3が出土したJ-1区に近接するH-25区では中世の遺構・遺物が多く見つかっており、そこで出土した東海産陶器が13~14世纪と考えられることから、R3についてもおおむね同時期と捉えておく。

②伊豆沼産陶器

宮城県栗原市から登米市にかけて分布する伊豆沼窯跡群で生産されたとみられるもので、今回出土した中世陶器の中では最も数が多い。甕は小片のみであるため、全体がある程度把握できる擂鉢について記述する。体部が直線的に立ち上がる（R14・74）、やや内湾する（R453）ものがある。口縁部は方形であるが、R74は端部の中央が沈線状に窪んでいる。外面はロクロナデ後にナデ・ヘラナデが施されており、内面に卸目は認められない。胎土には径2mm以下の小礫やガラス粒を多く含んでおり、赤褐色を呈する。外面・内面は明赤褐色であり、常滑産陶器と比較して焼き締まりは良好ではない。こうした胎土・色調・焼き締まりの特徴は、今回出土した他の伊豆沼産陶器と共に、窯跡群で発掘調査が実施された熊刈A窯跡出土陶器ともおおむね一致する。

ただし、伊豆沼窯跡群は7支群50基以上からなっており、その全容は未だ解明されていない。熊刈A窯跡については13世紀中葉から後半とされているが（中野1997、田中2003）、13世紀中葉から14世紀前葉と幅を持たせる理解も示されており（藤沼2010）、各支群に年代差がある可能性も考慮して、ここでは13世紀中頃から14世紀前半としておく。

③その他

擂鉢の体下部から底部破片（R380）は、内面に4~5条単位の卸目が放射状に施されている。また、体部が垂直に立ち上がった後に外傾するなど、上記の伊豆沼産陶器とやや異なる特徴を有している。外面・内面の色調はおおむね共通するが、胎土には小礫が少ない砂質であり、色調もやや異なる。伊豆沼窯跡群でも登米市品ノ浦窯跡群にて卸目を有する擂鉢が確認されており（桑原・藤沼1981）、团子山西遺跡でも1点伊豆沼産陶器とみられる卸目を有する擂鉢が出土しているが（宮教委2018b）、R380については上記のように異なる特徴を有することから、伊豆沼窯跡群とは異なる産地である可能性がある。白石市一本杉窯跡群を含む白石窯跡群産の陶器は、仙台平野以北では石巻市須江瓦山A窯跡で出土しており（宮教委2012）、R380と擂鉢の胎土や卸目が類似することから、白石窯跡群産の可能性がある。ただし、1点の出土であることから、通常の商品流通とは区別する必要がある。

(5) 瓦

①出土状況と特徴

丸瓦、平瓦、軒丸瓦、軒平瓦である。総数は丸瓦 79 点、平瓦 337 点、軒丸瓦 4 点、軒平瓦 2 点の合計で 422 点である。このうち、丸瓦 14 点、平瓦 18 点、軒丸瓦 4 点、軒平瓦 2 点を図化した。大部分が細片であり、堆積土中や河川跡からの出土である。もっとも多いのが J-3 区であり、次いで J-28 区、K-5 区、J-25 区、J-29 区となる。SX200 南北道路跡に隣接する場所での出土が多い傾向にある。以下に丸瓦、平瓦、軒丸瓦、軒平瓦に分けて記述する。

【丸瓦】

凹面に粘土紐痕が認められることから、粘土紐巻き作りと考えられる。調整は凸面にロクロナデ、もしくはロクロナデ→ナデ、凹面に布目が認められる。玉縁部が確認できたのは 1 点である。团子山西遺跡では、同様の瓦が H・I・L 区から出土しており（宮教委 2018b）、新田柵跡の丸瓦分類 I 類に相当する。

【平瓦】

製作工程を表す痕跡が確認できなかったため、桶巻き作りか一枚作りかは不明である。調整は凸面にタタキ目、凹面に糸切痕→ナデまたはナデのみが最も多く、タタキ目には平行タタキ目と花文タタキ目がある。この他に、凸面・凹面ともにナデのもの、凸面にナデ、凹面に布目のものが認められる。团子山西遺跡 H・I・L 区の出土瓦とほぼ共通している。新田柵跡平瓦分類では、凸面に平行タタキ目、凹面にナデが施されたものが I A 類、凸面に花文タタキ目が施されたものが I B 類、凸面・凹面にナデが施されたものが III 類に相当する。

【軒丸瓦】（第 197 図）

重弁蓮華文（第 37 図-6）とその他（R 117・179・419）に分けられる。第 37 図-6 は連弁の大半を欠くが、八葉と推定される。中房も欠損しており、残存部位が少ないとから、全体の状況は不明である。胎土や色調、焼き締め具合から、木戸窯跡産と考えられる。R 117・179・419 は瓦当面の 3/4 以上を欠損しているが、重弁蓮華文または宝相華文の退化したような文様であり（註 1）、新田柵跡外郭正門跡付近の SD156 溝跡や大崎八幡神社所蔵品に類似する軒丸瓦が認められる（田尻町教委 2001a・2002a）。

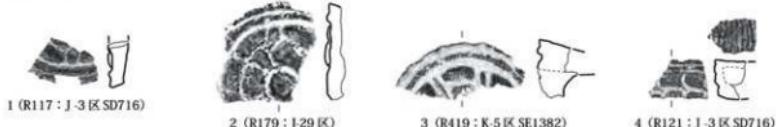
【軒平瓦】

破片資料のみである。第 160 図-5 は全体に摩滅気味であるが、重弧文とみられる。R121 は凸面に平行タタキ目、凹面にヘラケズリが施されている。瓦当面の上下に弧文があり、その中に半円形の文様が連続して施されている（註 2）。新田柵跡調査 III 区 SK2 土坑より類似する軒平瓦が出土している（田尻町教委 1998）。

②年代

团子山西遺跡出土の瓦は新田柵跡出土のものと類似する。新田柵跡出土の瓦と多賀城跡政府出土の瓦（宮多研 1982a）を比較したところ、新田柵跡丸瓦 I 類と多賀城跡丸瓦 II b 類、新田柵跡平瓦 III 類と多賀城跡平瓦 I A 類が類似するとされている（田尻町教委 1998）。多賀城跡出土の瓦の年代観

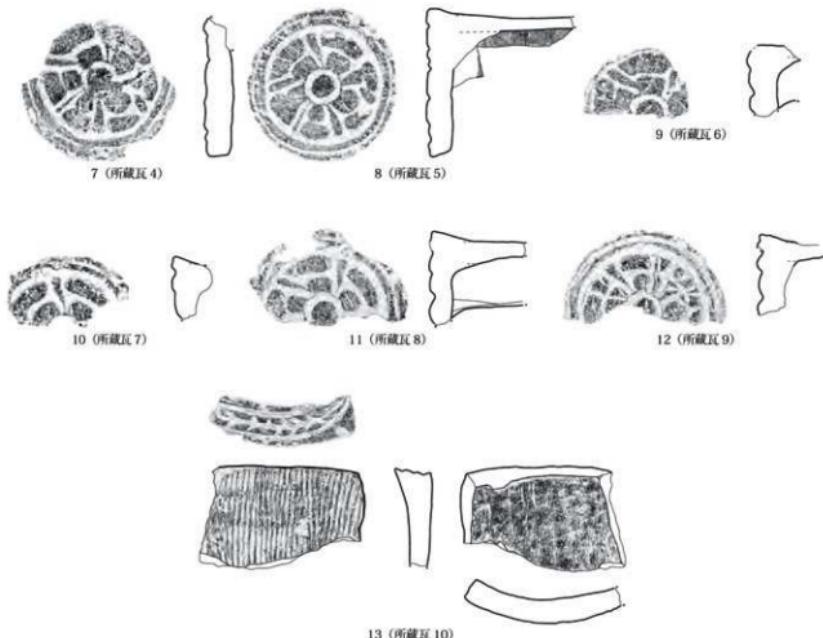
团子山西遺跡



新田柵跡



大崎八幡神社所藏



5 : 田尻町文化財調査報告書第 5 集
 6 : 田尻町文化財調査報告書第 3 集
 7 ~ 13 : 田尻町文化財調査報告書第 7 集

全て S=1/6

第 197 図 団子山西遺跡・新田柵跡出土瓦と大崎八幡神社所蔵瓦

から、新田柵跡丸瓦Ⅰ類は多賀城跡政庁第Ⅰ～Ⅳ期、平瓦Ⅲ類は多賀城跡政庁第Ⅰ期に相当すると考えられている。また、重弁蓮華文軒丸瓦は多賀城跡政庁Ⅰ期、その他の丸瓦はおよそ9世紀代とされていることから、J・K区出土瓦は多賀城政庁第Ⅰ期～Ⅳ期と同様の年代が想定される。これは、团子山西遺跡H・I・L区出土瓦の年代と同様である。

(6) 琺

円面硯2点、風字硯1点が出土した。円面硯はいずれもK-5区にて出土した脚部の小破片であり(R338・421)、遺構に伴うものではない。R421は方形の透かしが認められ、透かしの隣に縦方向に平行する線刻が3条、その下に十字状の線刻が施されている。風字硯(R122)はJ-4区遺構確認時に出土したもので、破頭が直線的な平頭であるとみられる。ヘラケズリ・ヘラナデが施され、脚の痕跡が確認できる。海部に墨痕跡はみられなかった。古代陸奥中部における陶硯の生産と消費についてみると、円面硯の生産は9世紀前葉に終了し、風字硯の生産は8世紀末から9世紀後半までであること(村田2018)、新田柵跡SD490から円面硯が出土していることを踏まえると、R338・421の円面硯はおむね8世紀代、R122風字硯は8世紀末から9世紀後半の年代が考えられる。

(7) 土製品

土錘1点、紡錘車2点、羽口3点、円盤2点である。土錘は(R162)は円筒状である。羽口に鉄滓は付着していないが、表面が被熱によりガラス化している。円盤はK-5区北SI1621より出土したもの(R366)、K-7区SD1483より出土した縄文が施されたもの(R435)がある。前者は古墳時代中期、後者は縄文時代のものと考えられる。

(8) 石器・石製模造品・石製品

①石器

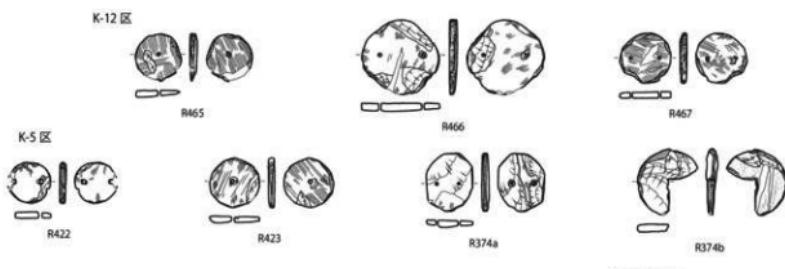
石礫2点、スクレイパー10点、石核1点、2次加工のある剥片22点、磨石1点である。石礫は碧玉製有茎礫(第45図-8)と黒曜石製アメリカ式石礫(第170図-3)である。スクレイパー、石核、2次加工のある剥片は全て黒曜石製である。このうち7点がJ区、15点がK区より出土している。磨石(第108図-6)は安山岩製である。これらの石器の時期は、碧玉製有茎礫と磨石が縄文時代、アメリカ式石礫が弥生時代と考えられる。黒曜石製の2次加工のある剥片のうち、R424・425(第147図-6・7)はK-5区北SI1621竪穴建物跡より出土していることから、古墳時代中期のものと考えられる。他の黒曜石製2次加工のある剥片、石核についても、年代は古墳時代中期である可能性がある。

②石製模造品(第198図)

有孔円板6点、未完成1点(R374b)である。全て粘板岩製であり、K-12・5区より出土している。R374bは有孔円板または勾玉の未完成の可能性がある。こうした石製模造品は古墳時代中期に多く確認されており(村田町教委1991、佐藤・藤沢・岩見1993)、今回の調査では有孔円板2点が古墳

時代中期の土器とともにSI1621 積穴建物跡から出土していることから、出土した7点の石製模造品の時期は5世紀後半と考えられる。

石製模造品



第198図 K区出土 石製模造品

③石製品

石棒1点、石帶1点、板碑1点、砥石6点である。石棒（第37図-7）は粘板岩製で、先端部を欠損している。年代は縄文時代と考えられる。石帶（第60図-4）は半円形の丸鞘で、中央に方形の透かしが入っており、裏面には帯に固定するための2個1対の孔が透かしの上と左右の3カ所に穿たれている。年代は古代と考えられる。板碑（第64図-4）は粘板岩製の破片である。紀年銘や造営者の氏名等は不明であるが、種字「ア」（胎藏界大日如来）が確認できた。年代は中世と考えられる。砥石は凝灰岩製と安山岩製がある。

(9) 金属製品

鉄鎌1点、銭貨1点である。いずれもK-5区から出土した。鉄鎌（第152図-3）は全長17.4cmの長頭鎌で、古代のものと推定される。銭貨（第170図-11）は北宋銭「天聖元宝」である。初鑄年は1023年であり、中世に流通していたものと考えられる。

(10) 木製品

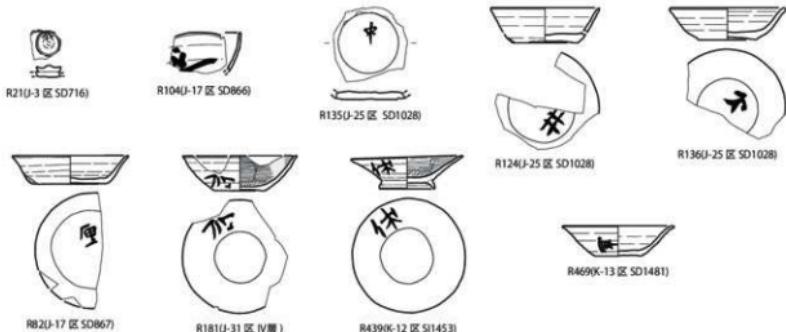
井戸枠、曲物の側板・底板がある。井戸枠は、例り貫きの側板がK-5区中央SE1626井戸跡、横棧とみられる部材がJ-3区SD716河川跡より出土した（第154図-3、第22図-7）。曲物は小型の底板と側板がK-5区SK1382より出土した（第164図-3）。第154図-3はAMS分析の結果、8世紀前葉から9世紀後葉の年代に収まることが判明しており（第4章）、SE1626の掘方埋土より出土した土師器環の年代と矛盾しない。第152図-4はK-5区SE1382井戸跡抜き取り穴より出土した。井戸枠の残骸か曲げ物の底板とみられ、側面に目釘穴がある。AMS分析により10世紀後葉から11世紀前葉の年代に収まる結果が出ている（第4章）。

(11) 墨書き土器

墨書き土器9点である。J・K区ともに出土が認められ、河川跡からの出土が多く、そのほかに竪穴建物跡に伴うもの、基本層から出土したものがある。判読できたものには、「中」、「欠」、「厘」、「加」、「休」、「軍」、記号とみられる「井」が1点ずつある(第199図)。器種は須恵器環が6点と最も多く、ほかに須恵器蓋1点、ロクロ土師器環1点・高台皿1点がある。墨書きの位置は、「中」・「欠」・「厘」・「井」が外面底部、「加」・「休」・「軍」が外面体部である。「加」・「休」が正位、「軍」が横位である。

「井」は呪符等に用いられる魔除けの記号である「ドーマン」とみられる。「加」は「神奉」とセツトで墨書きされることや「上加」・「十加」・「万加」など吉祥句として用いられる例があることから(平川2000)、ここでは吉祥句と捉えておく。また、「休」についても吉祥句である可能性がある。「軍」については一文字でないものの、秋田城跡第33次調査SX582や同60次調査SI1228で「軍穀所」の墨書き赤焼き土器が出土していることから(秋田市教委ほか1982・1994)、軍事に関わる施設や軍團を表している可能性がある。

J-17区 SD867 河川跡、J-25区 SD1028 河川跡出土墨書き土器のうち、R82(「厘」)とR124(「井」)は口径に対して底径が大きく器高が小さい皿形で、体部から口縁部が直線的に立ち上がる器形である。底部切り離しは回転ヘラ切りの後に手持ちヘラケズリが施される。R136(「欠」)は体部が内湾しながら立ち上がり、口縁部がやや外反する。底部切り離しは回転糸切り無調整である。形態や底部切り離しから、SD867とSD1028出土の須恵器環の年代は8世紀後半から9世紀初頭と考えられる。ロクロ土師器環(R181)は体部が内湾しながら立ち上がり、口縁部が外反する器形である。内面はヘラミガキ後に黒色処理され、底部切り離しは回転糸切り無調整である。SI1453竪穴建物跡出土ロクロ土師器環と類似することから、R439と同様に年代は9世紀後半と考えられる。R469「軍」須恵器環は口径に対して底径が小さく器高が小さい器形で、体部が直線的に立ち上がり、口縁部が外反する。底部切り離しは回転糸切り無調整である。類例は、石巻市閑ノ入遺跡14・15号窯跡で認められるところから(河南町教委1993)、年代は9世紀後半と考えられる。



※全て S=1/6

第199図 J・K区出土 墨書き土器

2 各時代の遺物の内容と性格

(1) 繩文時代

基本層序Ⅵ層のほか、2次堆積で河川跡や自然堆積層から晩期後葉から末葉の縄文土器、石器、石製品が出土した。

(2) 弥生時代

基本層序Ⅱ層から黒曜石製のアメリカ式石鏃が1点出土した。

(3) 古墳時代

遺物の年代から、前期・中期・後期に分けて記述する。

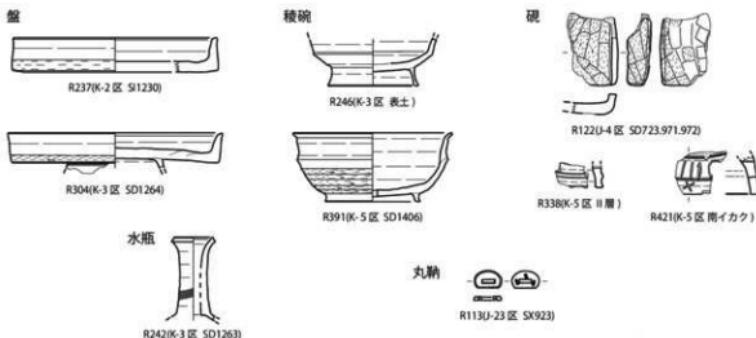
前期 K-3区 SD1266より土師器壺・壺・鉢・高环・器台が出土した。壺は二重口縁と複合口縁のものを含み、赤彩が施されたものがある。

中期 K-5区北 SI1621より土師器壺・壺・壺・盤、石製模造品有孔円板、黒曜石製石器、琥珀がまとまって出土した。豊穴建物跡から土器類と石製模造品、黒曜石製石器が出土した例は仙台平野以北で認められるが、さらに琥珀が出土した例は大崎平野でわずかに認められる程度であることから、この時期の県北地域で特徴的な遺物様相を示しているといえる。

後期 J-21区 SD913、K-3区 SK1279より住社式の土師器環が1点ずつ出土した。共に古代の遺構堆積土への流れ込みと考えられる。

(4) 古代

土器、瓦、鏡、石製品、鉄製品、木製品がある。この中で8世紀から9世紀前半の特徴的な遺物は、須恵器稜塊・盤・水瓶、灰釉陶器、墨書き土器、瓦、鏡である(第200図)。また、鉄鎌や石帶・丸鞘も出土している。この内、盤は城柵官衙遺跡でから安定して出土することが指摘されており(佐藤



率全て S=1/6

第200図 古代の特徴的な遺物

2015、村田 2016)、ほかにも仏具である水瓶や硯、鉄鎌、石帶・丸鞘など一般集落とは異なる官衙的な遺物が出土しており、新田柵跡と関連することが想定される。ただし、出土量は少なく、出土地点に偏りが見られる。J・K 区では、SX200 南北道路跡に近接する調査区と K-2 ~ K-5 区の間に集中する。南北道路跡の周辺に集中することは H・I 区でも同様であり、地点的には城柵官衙遺跡を思わせる遺物構成となっている。

9世紀後半以降で特徴的なものは、墨書き土器（須恵器坏、ロクロ土師器坏・高台皿）がある。特に、K-13 区 SD1481 より出土した「軍」の墨書き土器坏（R469）は、新田柵跡の機能が認められない9世紀後半以降の団子山西遺跡の様子を示すものとして注目される。

(5) 中世

中世陶器、磁器、石製品が出土した。J・K 区ともに基本層からの出土が多く、その他では河川跡・溝跡からの出土が次いで多い。中世陶器には常滑産、伊豆沼産、白石産とみられるものがある。磁器は青磁の碗で、龍泉窯系と考えられる。石製品には板碑がある。種字以外は不明であるが、田尻地区には弘安年間の板碑が複数存在することから、年代はおおむね 13 世紀後半頃としておく。中世の出土遺物には、特別な奢侈品が含まれておらず、当時の一般的集落の様子が伺える。

第2節 遺構

検出した遺構は、道路跡、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、柱列跡、土器埋設遺構、円形周溝跡、竪穴遺構、溝跡、井戸跡、土坑、小溝状遺構群、河川跡等である。これらについて、以下に時期と特徴を記述する。なお、主要な遺構の重複関係は第 201・202 図に示した。

1 遺構の時期

(1) 古墳時代

前期 K-3 区 SD1266 河川跡である。大別上層と下層に分かれ、下層より塙釜式の土師器甕・壺・鉢・高环・器台が出土した。前期を細分した時期では辻編年（辻 1994・1995）のⅢ-3・4 期、青山編年（青山 2010）の塙釜 3 式に該当すると考えられる。

中期 K-5 区北 SI1621 竪穴建物跡である。床面と堆積土中から土師器坏・鉢・甕・壺・櫃のほか、土製品円盤、黒曜石製剥片・石核、石製模造品有孔円板、琥珀が出土した。他には、K-5 区 SI1381 と SK1362 が認められる。南小泉式新段階もしくは引田式に位置付けられ、年代は 5 世紀後半と考えられる。

(2) 古代

様々な遺構があるため、種類ごとに記述する。

①道路跡

検出した道路跡は、南北方向 1 条 (SX200)、東西方向 2 条 (SX400・1197) である。

【SX200】

J-3・31・33・34 区で検出した南北道路跡である。重複関係より、SD1192 溝跡、灰白色火山灰層を含む SD1187 溝跡より古い。また、SD701・1190 東側溝、SD1191 西側溝にも灰白色火山灰層が認められる。J-3 区では、道路側溝が 2 期認められた (SD701 a → b)。遺物は、b 期側溝より須恵器環が出土している。底部が回転糸切のもので、8世紀末には改修が行われたと考えられる。また、J-31 区より SD1181 東側溝の上位に堆積するIV層よりロクロ土師器環(第 87 図-1)が出土している。体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部が外反するもので、底部は回転糸切無調整である。9世紀後葉に位置付けられている加美町壇の越遺跡 18 区 SK895 土坑(宮崎町教委 2003)に類例が認められることから、同様の年代と考えられる。よって、SX200 は 9世紀後葉以前には廃絶したと推定される。機能時期の下限については、SD701a よりわずかに土師器が出土しており、ロクロ調整が認められないことから、8世紀代には機能していたと推定される。なお、H・I 区の調査成果では、SX200 は 9世紀前半までは機能していたと考えられており、a 期は 8世紀後半頃かそれ以前、b 期は 8世紀後半には機能していたとされることから(宮教委 2018b)、今回の調査成果と矛盾しない。

【SX400】

K-6 区で検出した東西道路跡である。灰白色火山灰を含む遺物包含層 SX1442 の下位に位置し、SD1439 北側溝と SD1441 南側溝をわずかに残している。側溝はともに 1 層で、掘り直しの痕跡は認められなかったことから、1 期のみと推定される。遺物は出土しなかった。平成 24 年度に調査した I-6 区で SX400 の延長部分を確認しており、北側溝・南側溝より土師器がわずかに出土しているが、ロクロ調整のものを含まないことから、8世紀代には機能していたと推定される。また、灰白色火山灰層の下位にあることから、9世紀後半頃には廃絶したものと推定される。

【SX1197】

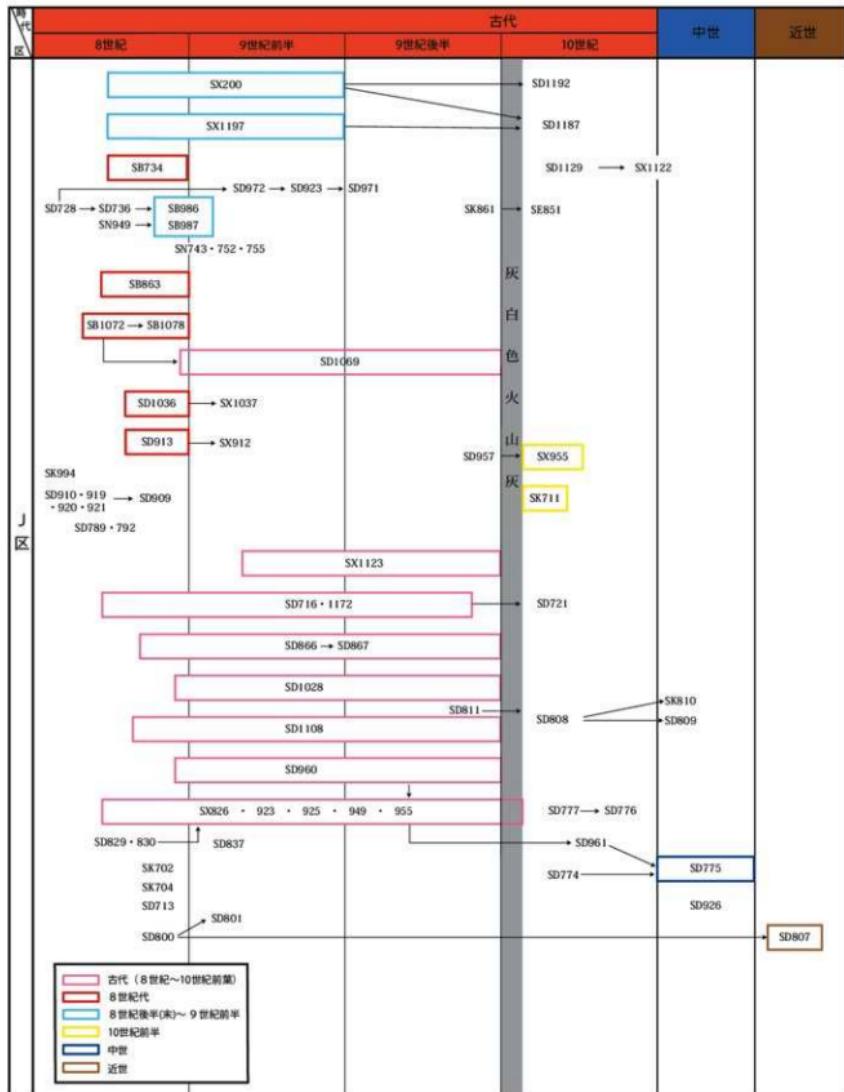
J-32・34 区で検出した東西道路跡である。灰白色火山灰層より上位にある SD1187 溝跡より古い。SD1181 北側溝と SD1190 南側溝をわずかに残している。SD1181 は 1 層、SD1190 は 2 層で、後者には灰白色火山灰が含まれる。掘り直しの痕跡は認められなかったことから、1 期のみと推定される。遺物は出土しなかった。SX200 東側溝 (SD1181) が J-34 区で東へ約 80°屈曲して SX1197 の北側溝となることから、SX200b 期と同時に機能していたものとみられる。よって、機能時期は SX200 b 期と同じ 8世紀後半から 9世紀前半と推定される。

②掘立柱建物跡

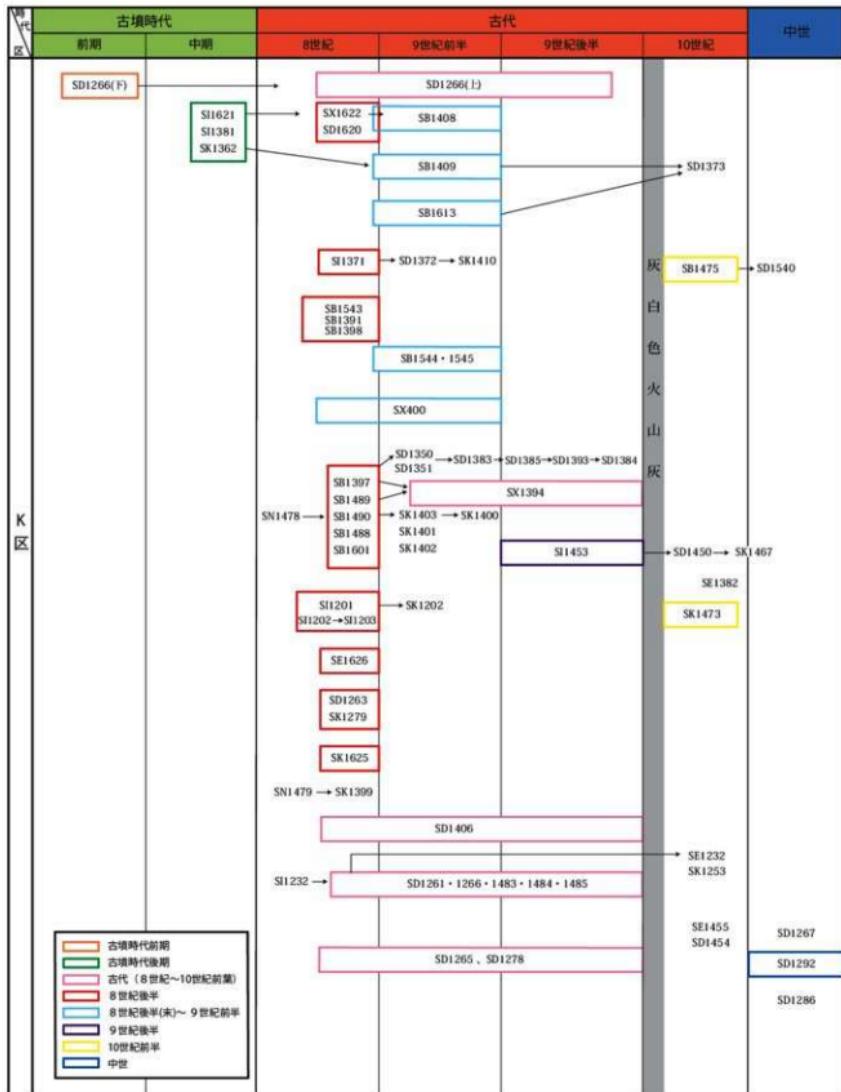
建て替えを含めると、J 区で 15 棟、K 区で 21 棟の計 36 棟を検出した。ここでは、年代の検討が可能な J 区 5 棟、K 区 15 棟について記述し、その他は省略する。

【SB734】

J-3 区で検出した。掘方埋土から須恵器環、土師器環・甕の破片が出土しているが、ロクロ土師器を含まないこと、SX200 南北道路に隣接し、方向が揃うことから、8世紀後半と推定される。



第 201 図 J 区 主要な遺構の重複関係



第202図 K区 主要な遺構の重複関係

【SB986・987】

J-4 区で検出した。掘方埋土から須恵器坏が出土した。口径に対し底径の割合が高く、口径に対し器高が大きい逆台形で、底部切り離しは回転ヘラ切である。8世紀末から9世紀初頭に位置付けられている壇の越遺跡 38 区 SI2294 住居跡（加美町教委 2005a）、49 区 SK4806 土坑に類似することから、同様の年代と考えられる。SB987 は SB986 と方向が揃うことから、同年代と推定される。

【SB863】

J-16 区で検出した。遺物は出土しなかったが、柱材が残存しており、AMS 分析の結果、7世紀後葉から8世紀後葉との分析結果が出ていることから（第4章）、おおむね8世紀代としておく。

【SB1072・1078】

J-28 区で検出した。SB1072 は SB1078 より古く、SB1078 は SD716 河川跡の延長とみられる SD1172 より古いこと、柱掘方から土師器坏・甕の破片が出土しており、ロクロ土師器を含まないことから、共に8世紀代と推定される。

【SB1488・1489・1490・1491・1398・1397・1601・1613・1409・1408】

K-5 区、K-5 区南・北で検出した。建物の方向から、1) 東または西の柱列が北で東へ傾くもの（SB1488・1489・1490・1397・1601・1613・1409・1408）、2) 東または西の柱列が北で西へ傾くもの（SB1398・1491）に分けられる。以下に2つに分けて記述する。

1) 東または西側柱列が北で東へ傾くもの K-5 区南側に位置し、傾きが 1~6° のもの、K-5 区北側に位置し、傾きが 6~14° のものに細分され、道路跡と方向が揃うものである。前者には SB1488・1489・1490・1397・1601 があり、掘方埋土から土師器坏または甕が出土している。ロクロ土師器を含まないことから、年代はおおむね8世紀代と推定される。後者には SB1408・1409・1613 があり、SB1409・1613 は柱筋が通る。SB1408 は SX1622 竪穴遺構や SK1624 土坑より新しい。遺物は、SB1409 掘方埋土からロクロ土師器坏が出土している。また、SB1408 より古い SX1622 から出土した須恵器坏は、8世紀後半と考えられる（詳細は後述）。よって、SB1408・1409・1613 の年代は8世紀末から9世紀前半頃と推定される。

2) 東または西側柱列が北で西へ傾くもの K-5 区南側に位置し、SB1391・1398 がある。掘方埋土が類似し、柱筋が通ることから、同時期と考えられる。遺物は掘方埋土から土師器坏・甕が出土しており、ロクロ土師器を含まないことから、年代はおおむね8世紀代と推定される。

【SB1543・1544・1545】

K-6 区で検出した。いずれも東西棟で、東または西側柱列が北で東へ偏るもの（SB1544・1545）と西へ偏るもの（SB1543）がある。上記建物跡との関連から、前者が8世紀末から9世紀前半頃、後者が8世紀代と推定される。

【SB1475】

K-13 区で検出した。1 度建て替えられており、2 期に分かれ（a→b）、b 期の掘方埋土に灰白色火山灰を含む。また、b 期の礎板を AMS 分析したところ、8世紀後葉から10世紀中頃との結果が出ていることから（第4章）、SB1475 の年代は10世紀前半と考えられる。

③豎穴建物跡

建て替えを含めると、K 区で 13 棟を検出した。このうち、K-1 区 SI1200、K-2 区 SI1230・1232、K-6 区 SI1500 は遺構確認のみ、K-1 区 SI1204 は遺物が出土しなかったことから、詳細な年代は不明である。カマドの位置を推定できるのは、K-12 区 SI1453 と K-1 区 SI1200 のみで、前者は北を向き、後者は東に振れる。方向による分類が出来ないことから、以下に調査区ごとに記述する。

【SI1201・1202・1203】

K-1 区で検出した。SI1203 は周溝を掘り返しており、2 期存在する（a → b）。重複関係は、SI1202 が SI1203 より古い。いずれも西辺から北辺の一部を確認したのみであるが、方向はおおむね揃っており、大きくは同時期と推定される。遺物は、SI1203b 床面より土師器壺が出土している。平底で体部が内湾しながら口縁部に至るもので、調整は外面ヘラケズリ後にミガキとヨコナデ、内面ミガキ後に黒色処理が施される。8 世紀後半に位置付けられている栗原市経ヶ崎遺跡 SI40 住居跡（高清水町教委 2000）、新田柵跡 SI73b 住居跡（田尻町教委 1998）に類例が認められることから、同様の年代と考えられる。また、SI1201・1202 床面・掘方埋土から須恵器壺、土師器壺・甕がわずかに出土しており、ロクロ土師器を含まないことから、8 世紀代と推定される。よって、SI1201・1202・1203 の年代は 8 世紀後半と考えられる。

【SI1453】

K-12 区で検出した。床面からロクロ土師器壺・高台皿が出土している。出土遺物の年代については、第 1 節で検討したとおり 9 世紀後半であることから、SI1453 の年代もこれと同様である。

【SI1371】

K-5 区で検出した。堆積土及び床面から土師器壺が出土している。床面出土の土師器壺は平底で、体部が内湾し、口縁部がやや外傾するものである。調整は外面ヘラケズリ後にミガキとヨコナデ、内面ミガキ後に黒色処理が施される。8 世紀後半に位置付けられている栗原市大境山遺跡 2 号住居跡（瀬峰町教委 1983）に類例が認められることから、SI1371 の年代もこれと同様と考えられる。

④豎穴遺構・土器埋設遺構

【SX1622】

K-5 区北で検出した。重複関係は、古墳時代中期の SI1621 より新しく、SB1408 より古い。遺物は、掘方埋土から須恵器壺が出土している。口径に対して底径の割合が高い皿形のもので、底部切り離しは不明だが、体下部から底部に回転ヘラケズリが施される。8 世紀後半に位置付けられている石巻市代官山遺跡 1 号窯跡（河南町教委 1993）に類例が認められることから、同様の年代と考えられる。

【SX1037】

J-26 区で検出した。埋設された土師器甕は胴部中央に最大径がある球胴形で、口縁部が短く外傾する。調整は摩滅のため不明瞭であるが、外面胴部ハケメ・ミガキ、内面ヘラナデが施される。7 世紀中頃に位置付けられている名取市清水遺跡第三群土器（宮教委 1981）に類例が認められることから、同様の年代と考えられる。しかし、重複関係から SX1037 より古い SD1036 から 8 世紀後半と考えられる土師器壺と須恵器壺が出土していることから、土器製作年代と埋納された年代に約 1 世紀

の時間差がある。

⑤井戸跡

K区で2基である。この他に、J-16区 SE851は堆積土中に灰白色火山灰を含むことから、古代であると推定される。

【SE1382】

K-5区で検出した。井戸枠の抜取穴から伊豆沼産中世陶器が出土している。また、同じく抜取穴から出土した井戸枠もしくは容器の底面とみられる木製品のAMS分析によって10世紀後葉から11世紀前葉の年代との結果が出たことから（第4章）、SE1382の年代は10世紀頃である可能性がある。

【SE1626】

K-5区中央で検出した。掘方埋土より土師器壺が出土しており、平底気味で体部に段を有する皿形のものである。調整は、外面ヘラケズリ・ヨコナデ、内面ミガキ後に黒色処理が施される。8世紀後半に位置付けられている栗原市経ヶ崎遺跡 SI6 住居跡（高清水町教委2000）に類例が認められることがから、同様の年代と考えられる。

⑥溝跡

J区で3条、K区で3条の計6条である。この他に、重複関係や灰白色火山灰層より下位に位置することからJ-22区 SD957、J-26区 SD1036、K-3区 SD1264・1265・1278は古代と推定される。

【SD913】

J-21区で検出した。土師器壺・短頸壺、須恵器壺が出土している。土師器壺は丸底の皿形で体部が内湾して口縁部に至るものである。調整は外面体部ヘラケズリ・口縁部ヨコナデ、内面はミガキ後に黒色処理が施される。8世紀後半に位置付けられている新田柵跡 SI73b 住居跡（田尻町教委1998）に類例が認められる。須恵器壺は口径に対し底径の割合が高い皿形のもので、底部切り離しは回転ヘラ切である。切り離し後に体下部から底部に回転ヘラケズリまたは手持ちヘラケズリが施され、8世紀中頃から後半である。よって、SD913の年代は8世紀後半と考えられる。

【SD1036】

J-26区で検出した。重複関係は、SX1037より古い。土師器壺、須恵器壺が出土している。土師器壺は平底で、体部が内湾して口縁部に至るものである。調整は外面ヘラケズリとミガキ後に黒色処理、内面はミガキ後に黒色処理が施される。8世紀後半に位置付けられる栗原市経ヶ崎遺跡 SI6 住居跡（高清水町教委2000）に類例が認められる。須恵器壺は口径に対して底径の割合が高い皿形のもので、底部切り離し後に回転ヘラケズリが施される。8世紀第3四半期に位置付けられる利府町碇沢窯跡B地区9号窯跡（宮教委1987）に類例が認められる。よって、SD1036の年代は8世紀後半と考えられる。

【SD1069】

K-29区で検出した。重複関係は、SB1072より新しい。遺物は土師器甕が出土しており、長胴形で口縁部が短く外傾するものである。調整は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデが施される。8世紀前半に位置付けられている大崎市名生館官衙遺跡 SI1005 住居跡（古川市教委1987）に類例が認められ

るが、SD1069 からは小破片ながらロクロ土師器壺が出土していること、堆積土に灰白色火山灰を含まないことから、年代は 8 世紀末から 9 世紀後半と推定される。

【SD1263】

K-3 区で検出した。第 1 節で出土遺物を検討したとおり、年代は 8 世紀後半である。

【SD1620】

K-5 区北で検出した。重複関係は、SI1621 より新しい。土師器壺・甕・鉢、須恵器壺が出土している。土師器壺は平底気味で体下部に緩く段を持つものと持たないものがある。調整は共に外面へラケズリ後にミガキ・ヨコナデ、内面ミガキ後に黒色処理が施される。鉢は平底で体部が直線的に外傾し口縁部に至るものである。調整は外面へラケズリ後にミガキ、内面ミガキ後に黒色処理が施される。これらの土器に類似するものは、8 世紀後半に位置付けられている栗原市経ヶ崎遺跡 SI40・6 住居跡（高清水町教委 2000）で認められることから、同様の年代と考えられる。須恵器壺は口径に対し底径の割合が高い皿形のもので、底部切り離しは静止糸切りである。また、底部切り離し後に体下部から底部に手持ちヘラケズリが施される。類例は 8 世紀中葉に位置付けられている色麻町日の出山窯跡 C 地点 2 号窯跡（色麻町教委 1993）で認められることから、同様の年代と推定される。よって、SD1620 の年代は 8 世紀中頃から後半と考えられる。

【SD1373】

K-5 区で検出した。土師器・須恵器が出土しているが、重複関係から 8 世紀末～9 世紀代の SB1409・1613 より新しく、堆積土に灰白色火山灰を含まないことから、10 世紀前葉以降と推定される。

②土坑

J 区で 1 基、K 区で 3 基である。この他に、重複関係やわずかに出土した遺物から、J-3 区 SK704・759、K-5 区 SK1388・1395・1399・1400・1410、K-5 区北 SK1624 も古代である可能性がある。

【SK1279】

K-3 区で検出した。第 1 節で出土遺物を検討したとおり、年代は 8 世紀後半である。

【SK1625】

K-5 区南で検出した。土師器壺が出土しており、平底気味で体部やや内湾しながら口縁部に至るもので、調整は外面へラケズリ後にミガキ・ヨコナデ、内面ミガキ・ヨコナデ後に黒色処理が施される。8 世紀後半に位置付けられている壇の越遺跡 27 区 SK1506（加美町教委 2004c）に類例が認められることから、同様の年代と考えられる。

【SK711】

J-3 区で検出した。堆積土に灰白色火山灰を含む。ロクロ土師器甕が出土しており、身近口縁部が外傾する小形のものである。10 世紀前半に位置付けられている壇の越遺跡 18 区 SK802（宮崎町教委 2003）に類例が認められることから、同様の年代と考えられる。

【SK1473】

K-12 区で検出した。第 1 節で出土遺物を検討したとおり、年代は 10 世紀前半である。

⑧小溝状遺構群

J 区で 6 力所、K 区で 2 力所である。J-4 区 SN949 は 8 世紀末から 9 世紀初頭に位置付けられる SB986・987 より古く、SN748・752・755 は SB986 と方向が揃うことから、8 世紀代と推定される。J-23・24 区 SN939・951 は灰白色火山灰層より下位に位置することから、古代と推定される。K-5 区 SN1478 は 8 世紀に位置付けられる SB1488 より古く、SN1479 は 8 世紀代とみられる SK1399 より古いことから、ともに 8 世紀代もしくはそれ以前と推定される。

⑨円形周溝跡

J 区で 1 条 (J-29 区 SX1123)、K 区で 1 条 (K-5 区 SX1394) である。SX1394 は、8 世紀代とみられる SB1489・1490 より新しく、須恵器、土師器が出土していることから、古代と推定される。SX1123 については、SX1394 と同形態と推定されることから、同年代としておく。

⑩河川跡・遺物包含層

1) 河川跡・自然流路跡

J 区で 5 条、K 区で 1 条である。このほか、K-2 区 SD1251、K-3 区 SD1266 (大別上層)、K-12 区 SD1485、K-6 区 SD1484、K-7 区 SD1483 は堆積土に灰白色火山灰を含むことから、古代である可能性がある。

【SD716】

J-3 区で検出した。第 1 節で出土遺物を検討したとおり、年代は 8 世紀中葉から 9 世紀後葉である。なお、J-28 区 SD1172 は位置関係から SD716 と同一である可能性がある。

【SD866・867】

J-17 区で検出した。SD866 は堆積土に灰白色火山灰を含み、SD867 より新しい。SD866 から回転糸切無調整の須恵器環とロクロ土師器高台環、SD867 から回転ヘラ切後に手持ちヘラケズリの須恵器環とロクロ土師器環が出土している。回転糸切無調整の須恵器環とロクロ土師器環はともに口径に対する底径の割合が高く、皿形のものであることから、遺物の年代は 8 世紀後半から 9 世紀前半であり、これが遺構の年代の上限となる。よって、遺構の年代は 8 世紀後半から灰白色火山灰が降下した 10 世紀前葉以前と考えられる。

【SD960】

J-22 区で検出した。堆積土上層に灰白色火山灰を含み、堆積土下層より須恵器環、土師器環、ロクロ土師器環が出土している。須恵器環は口径に対する底径の割合が高く、皿形で底部ヘラ切り後にナデが施されるもの、鉢形で回転糸切後に回転ヘラケズリが施されるものがある。土師器環は平底の皿形のもので、外面ヘラケズリ後にミガキ、内面ミガキ後に黒色処理が施される。ロクロ土師器は内面ミガキ後に黒色処理、回転糸切後に手持ちヘラケズリが施されるものである。須恵器環、土師器環は 8 世紀末～9 世紀初頭に位置付けられている伊治城跡 SI173 住居跡 (楽館町教委 1991)、ロクロ土師器環は同 SI171 住居跡に類例が認められることから、これが遺構の年代の上限となる。よって、

SD960 の年代は 8 世紀末から灰白色火山灰が降下した 10 世紀前葉以前と考えられる。

【SD1028】

J-25 区で検出した。第 1 節で出土遺物を検討したとおり、遺物の年代は 8 世紀末から 9 世紀前葉であり、これが遺構の年代の上限となる。堆積土中に灰白色火山灰を含むことから、SD1028 の年代は 8 世紀末から 10 世紀前葉以前と考えられる。

【SD1108】

J-29 区で検出した。堆積土中に灰白色火山灰を含み、須恵器環とロクロ土師器環が出土している。須恵器環は回転ヘラ切後に手持ちヘラケズリが施されるもの、切り離し後に回転ヘラケズリが施されるものである。ロクロ土師器環は回転糸切無調整のものと体下部に回転ヘラケズリが施されるものである。須恵器環は 8 世紀後半、ロクロ土師器環は 8 世紀末～9 世紀初頭に位置付けられている栗原市伊治城跡 SI173 住居跡に類例が認められることから、遺物の年代は 8 世紀後半から 9 世紀初頭と考えられ、これが遺構の年代の上限となる。よって、SD1108 の年代は 8 世紀後半から灰白色火山灰が降下した 10 世紀前葉以前と考えられる。

【SD1406】

K-5 区で検出した。堆積土に灰白色火山灰を含み、土師器環、ロクロ土師器環、須恵器環・棱塊・甕、瓦が出土している。土師器環は丸底のもので、須恵器環は切り離し後に手持ちヘラケズリが施される口径に対して底径の割合が高い皿形のものである。棱碗は、8 世紀後半に位置付けられている山王遺跡八幡地区 SD100 河川跡上層（宗教委 1997）や 9 世紀前半に位置付けられている山王遺跡多賀前地区第 2 群土器（宗教委 1996）に類例が認められる。ロクロ土師器環は、回転糸切無調整で口径に対して底径の割合が低く、器高が低い皿形のものあり、9 世紀前半と推定されることから、遺物の年代は 8 世紀後半から 9 世紀前半と考えられ、これが遺構の年代の上限となる。よって、SD1406 の年代は 8 世紀後半から灰白色火山灰が降下した 10 世紀前葉以前と考えられる。

2) 遺物包含層

古代の遺物を含む湿地跡である。J 区で 4 カ所 (J-13・14 区 SX826、J-22 区 SX925、J-23 区 SX923、J-24 区 SX949)、K 区で 3 カ所 (K-5 区 SX1375、K-6 区 SX1431・1442) 確認した。K-5 区 SX1375 を除き堆積土に灰白色火山灰を含む。特に J-13・14 区 SX826 から多く遺物が出土しており、丘陵端部に位置することから縄文時代や古墳時代の遺物も流れ込んでいる。古代では、土師器、須恵器、瓦が出土している。土師器環は平底のもの、丸底で体下部に段を有するものあり、調整は共に外面ヘラケズリ、内面ミガキ後に黒色処理が施される。須恵器環は底面回転ヘラ切、静止糸切後に手持ちヘラケズリ、切り離し後に回転ヘラケズリが施される。瓦は重弁蓮華文軒丸瓦である。これらの遺物は 8 世紀代のものと考えられることから、SX826 の年代は 8 世紀代と推定される。他の包含層からも類似するものが出土していることから、8 世紀代から 10 世紀前葉頃に形成されたと推定される。ただし、灰白色火山灰を含まない SX1375 については、古代以降と推定される。

(3) 古代以降

J-29 区で検出した SX1122 東西道路跡がある。古代の道路跡と方向が異なり、灰白色火山灰を含む SD1129 溝跡より新しい。SD1132 北側溝、SD1145 南側溝のほか、路面が残存している。側溝は共に 3 層で、掘り直しの痕跡は認められなかったことから、1 期のみと推定される。遺物は、須恵器、土師器等の小片がわずかに出土した。灰白色火山灰を含む SD1129 より新しいことから、年代は 10 世紀前葉以降と推定される。

(4) 中世

J-1 区 SD775 河川跡、K-1 区 SD1292 溝跡がある。SD775 は灰白色火山灰を含む SD774 より新しい河川跡で、底面から常滑産甕が出土している。SD1292 からも常滑産甕が出土しており、胴部破片のため詳細な時期は不明であるが、概ね中世である。その他では遺物の出土がないが、J-23 区 SD926、K-1 区 SD1286 溝跡は規模や断面形状が SD1292 と類似することから、中世である可能性がある。

2 各時期の遺構の特徴

(1) 古墳時代

前期から後期の遺物が出土しているが、前期は河川跡のみ、後期は古代の遺構への流れ込みと考えられるため、ここでは中期についてのみ記述する。

【堅穴建物跡】

2 棟検出した。SI1381・1621 は隣接し、同時期の建物跡と考えられることから、以下に属性ごとに特徴を記述する。

位置 SI2381 が K-5 区・K-5 区中央にまたがり、SI1621 が K-5 区北に位置する。両者の直線距離は 5.5 m で隣接している。

方向 北西辺または北東辺で測ると北で 36° から 38° 東へ偏ることから、ほぼ同一の建物軸を持つと考えられ、出土遺物も同時期のものであることから、同時に機能していたと推定される。

床面施設 主柱穴と壁材痕跡は SI1621 のみで確認できた。カマドは、ともに調査した範囲では確認できなかった。SI1621 北東辺では白色粘土塊が土坑の上にあることから、ここにカマドが存在した可能性があるが、炭化物や焼土、焼け面、カマド袖の残骸等の痕跡が一切認められなかったことから、カマドは別の場所にあったと推定される。なお、白色粘土については、その性格は不明である。

その他の施設 土坑を SI1381 で 2 基、SI1621 で 3 基確認した。SI1381-K1・2 は北東辺に沿うように並んでおり、平面円形または楕円形、断面逆台形で、堆積土は 2 ~ 5 層に分かれ、いずれも人為堆積である。建物床面直上の自然堆積土が K1・2 の上面も覆っていることから、廃絶時に埋め戻されたと考えられる。SI1621-K1・2・3 も北東辺に沿うように並んでおり、K1 が南東隅に位置する。K2・3 の堆積土は 2 ~ 8 層に分かれ、いずれも人為堆積である。その上に白色粘土があることから、建物廃絶時にはすでに埋め戻されていたと考えられる。K1 は平面長方形で、断面は上部が浅い皿状、

下部が逆台形である。堆積土は8層に分かれ、いずれも自然堆積である。このうち、中位に堆積する3・5層は黒褐色シルトで厚さが均一であることから、有機質の板材の腐敗により形成された層と推定される。また、3・5層とその下層から多量の遺物が突き刺さるような状況で出土したことから、K1の上部に蓋が据えられ、その周辺に土器等が置かれており、蓋の腐朽により蓋と共に遺物がK1の下部へ流入したものと考えられる。

【その他】

K-5区でSK1362土坑が1基検出されている。土師器壺が出土しており、SI1381・1621と同時期と考えられる。

(2) 古代

道路跡、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、竪穴造構、土器埋設造構、溝跡、円形周溝跡、土坑、小溝状造構群、河川跡・自然流路跡について特徴をまとめ、その位置付けを検討する。なお、検討にあたっては過去のH・I・L区の成果についても適宜取り上げる。

①道路跡

【南北道路跡】

SX200 H・I・J区を縦断する団子山西遺跡で唯一の南北道路跡である。規模は、路幅が側溝心々で7.3～8.4m、側溝上幅が0.6～1.5m、下幅0.2～1.0m、深さ0.2～0.4mである。方向は北で3～4°東に偏り、J-3区では道路側溝が1度改修されている。路面舗装や地業の痕跡は認められなかった。検出長は未調査部分を含めて約295mで、南北へさらに延長すると考えられる。道路跡をさらに北へ延ばすと、新田柵跡南辺外郭施設（南門推定地）に至り、南の延長は不明であるが、後述するSX400東西道路跡の西側延長部分との接点まで延びると想定すると、長さは新田柵跡南辺から約700mとなる。団子山西遺跡と同様に城柵官衙の南面に道路跡を有する加美町壇の越遺跡との比較や、新田柵跡の主要な官衙域とされる南西部に接続すると推定されることから、SX200は新田柵跡から南へ延びる南北方向の基幹道路と考えられる（宮教委2018）。

【東西道路跡】

SX1197 J-32・34区で確認した東西道路跡で、J-34区でSX200東側溝と接続する。新田柵跡南門推定地より南へ約280mに位置する。規模は、路幅が側溝心々で6.6m、側溝上幅が0.3～1.5m、下幅0.2～0.8m程度、深さ0.1～0.4mである。方向は東で5°南に偏る。南北側溝に掘り直しの痕跡が認められず、SX200と接続することから、SX200と同時に機能していたと推定される。検出長は未調査部分を含めて20.8mで、西に近接するH-25区では道路側溝が確認されなかったことから、SX200との交差点より西へは展開しないと考えられる。

SX400 K-6区、I-6区で確認した東西道路跡である。SX200との交点まで延長した場合、新田柵跡南門推定地より南へ約700mに位置する。規模は、路幅が側溝心々で4.2～4.6m、側溝上幅が0.4～0.6m、下幅0.2～0.4m、深さ0.1～0.15mである。方向は西で2°北へ偏る。南北側溝に掘り直しの痕跡が認められないことから、1期と考えられる。検出長は未調査部分を含めて約80mであり、

さらに東西へ延長すると考えられるが、詳細は不明である。西側については、SX200との接点まで延びると仮定すると、長さは約510mである。

道路跡の位置付け 遺構の規模と方向から道路跡の位置づけを行う。まず、規模について、SX200南北道路跡とSX400・1197東西道路跡を比較すると、道路幅の最大幅では南北道路跡が東西道路跡より大きい。また、東西道路跡を比較すると、道路幅はほぼ同規模で、大きな差は認められない。団子山西遺跡と同様に、城柵官衙遺跡の南面に道路跡が複数検出された遺跡について比較・検討する（第33表）。山王・市川橋遺跡、壇の越遺跡とともに南北道路が東西道路より道路幅が大きく、各方向の道路の中では政庁から南に延びる「南北大路」が最も大規模である。道路幅の順位では、①南北大路、②東西大路、③その他の南北道路、④その他の東西道路となる。団子山西遺跡では、SX200が①に

第33表 団子山西遺跡とその他の遺跡の道路跡計測表

道路	方向	遺構	道路幅(m)	改修(回)	造営年代	備考
团子山西	南北	SX200# 南北道路	7.0~9.5	1	8世紀後半	H-25, I-16・18・19, J-3・31・33・34区で検出。
	東西	SX1197 東西南路	6.6	0		J-32・34区で検出。
	東西	SX400 東西南路	4.2~5.3	0		F-6, K-6区
壇の越	南北	SX2300 南北大路	5.5~10.0	1~2	8世紀前葉	~10世紀前葉
	南北	SX3100 東1南路	3.3~5.3	1~2		~10世紀前葉
	南北	SX3200 東2南路	3.2~5.0	1~2		~10世紀前葉
	南北	SX3300 東3南路	2.8~5.0	1~2		~10世紀前葉
	南北	SX2400 西1南路	3.2~5.3	1~3		~10世紀前葉
	南北	SX2600 西2南路	3.7~5.3	1~2		~9世紀前頭
	南北	SX2800 西3南路	3.5~5.2	1		~9世紀前頭以降
	南北	SX3600 西4南路	3.8	1		
	南北	SX1700 南5南路	4.2~7.6	1		~10世紀前葉前後
	南北	SX2000 西6南路	4.6~4.9	1		~10世紀前葉
東西	南北	SX2300 南2北路	4.9~9.8	1~2	8世紀中葉	~10世紀前葉
	南北	SX3000 南3北路	3.0~5.4	1		~10世紀前葉
	南北	SX2900 南4北路	2.5~6.5	1		~10世紀前葉
	東西	SX1100 南5北路 (東西大路)	4.0~9.5	1~3		~10世紀前葉頃
	東西	SX1900 南6北路	2.6~8.2	1~2		~10世紀前葉
	東西	SX2700 南7北路	5.0~5.5	0		
山王・市川橋	南北	南北大路	16.9~17.7 ~23.8	7	8世紀後半	8世紀末から9世紀初頭に道路拡張。~10世紀後半
	東西	西0道路	4.0~7.0	2~5	9世紀中葉~後葉	~10世紀後半
	東西	西1道路	4.3~7.0	5	9世紀前葉	~10世紀後半
	東西	西2道路	4.2~10.0	7	9世紀初頭	~10世紀後半
	東西	西3道路	4.5~7.5	5	9世紀前葉	~10世紀後半
	東西	西4道路	3.2~4.5	5	8世紀末~9世紀後葉	~10世紀後半
	東西	西5道路	3.0~6.6	3	8世紀末~9世紀後葉	~10世紀後半
	東西	西6道路	6.2~8.8	2~4	8世紀末~9世紀後葉	~9世紀後葉から10世紀前半
	東西	西7道路	3.0~9.3	1~3	9世紀初葉~後葉	~10世紀後半
	東西	西8道路	4.7~5.2	2~3	9世紀初葉~後葉	~10世紀後半
	東西	西9道路	4.3~6.5	2~7	9世紀	~10世紀前葉以降
	東西	東1道路	4.1	7	9世紀	~10世紀前葉以降
	東西	東2道路	2.3~6.2	4	8世紀末~9世紀前葉	~10世紀前葉以降
	東西	東3道路	4.1~5.1	4	9世紀初葉~後葉	~10世紀前葉以降
	東西	東4道路	4.9~5.7	2	9世紀中葉~後葉 (8世紀末~9世紀前葉)	~10世紀前葉以降
	東西	東西大路	9.0~14.5	8	8世紀後半	~10世紀後半
	東西	東西大路東道路	6.7~11.8	5	8世紀後葉	~10世紀後半
	東西	南北1道路	3.0~7.5	5	9世紀前葉	~10世紀後半
	東西	南北1~2間道路	7	3	9世紀後半	~10世紀後半
	東西	南北2道路	1.6~4.0	5	9世紀初葉~後葉	~10世紀後半
	東西	南北3道路	3.4~7.6	5	9世紀前葉	~10世紀後半
	東西	南北4道路	3.0~5.8	2	8世紀末~9世紀前葉	~9世紀後葉から10世紀前半
	東西	南北5道路	2.3~5.6	1~2	8世紀末~9世紀前葉	~10世紀後半
	東西	南北6道路	2.7~4.8	2~3	9世紀中葉~後葉	~9世紀末から10世紀前半

註 団子山西・壇の越道路について、宮教委2018bを元に今回の調査と加美町教委2010の成果を追加した。

山王・市川橋道路については、鈴木2006を元に商藤2016、宮教委2018aなどの成果を追加した。

相当するとみられる。SX400・1197については、②か④と考えられるが、前述したように、両道路は道路幅がほぼ同規模であり、明確な差が認められないことから、④である可能性が高い。

次に、道路の方向についてみると、SX200は新田柵跡の掘立柱建物跡群や西門跡から南辺にかけての外郭施設と推定される築地やSF610土塁跡とほぼ方向が同じであることから、南門推定地を通るように配置されたと考えられる。また、SX400・1197はこれにほぼ直行し、南北方向から東西方に向へ屈曲するSF610土塁跡と並行すると考えられる。道路跡は新田柵跡と一緒に計画・運営されたと推定される。一方で、SX1197が南門推定地より南に約280m、SX400が約700mに位置し、両道路跡の間隔は約420mである。東西道路跡の間に規則性があるかどうかは今後の調査を待ちたい（註2）。

②掘立柱建物跡

検討可能なものは建て替えを含めて、側柱建物跡15棟、総柱建物跡3棟、四面廂建物跡2棟である。

【側柱建物跡】

平面規模は、1間×1間が2棟（J-29区SB1107・1169）、1間以上×1間が3棟（J-26区SB1045、J-28区SB1107・1169）、2間×1間が1棟（J-29区SB1133）、2間以上×1間が1棟（J-28区SB1072）、2間×2間が2棟（K-5区SB1408・1409）、2間以上×2間（K-5区SB1489）、2間以上×2間以上（K-12区SB1549）、3間×1間以上が1棟（J-26区SB1040）、3間×2間が2棟（K-5区SB1601・1613）、3間以上×2間以上が2棟（K-5区SB1397・1488）、3間以上×2間が1棟（K-5区SB1490）である。建物の方向は、東辺または西辺の北で3～21°東へ偏るもの、3～4°西へ偏るものがある。面積は、3間以上×2間以上のSB1488が27.5m²以上と最大で、次いで3間×2間のSB1613が18.4m²、2間×2間のSB1408が17.5m²である。J・K区ではI-9区SB311（5間×2間、57.5m²）やSB322（3間×2間、46m²）のような大型の側柱建物跡は認められず、10m²程度のものが多い。

【総柱建物跡】

全体を検出したのは、2間×2間の東西棟であるK-5区SB1398である。その他には、2間×2間の東西棟とみられるJ-3区SB734、4間×2間以上の東西棟とみられるJ-28区SB1078がある。建物の方向は、東辺の北で8°西へ偏るもの、南辺の西で2°北へ偏るものがある。面積は、4間×2間以上のSB1078が30.4m²以上である。これらの建物跡は、城柵官衙遺跡やその周辺の集落跡、团子山西遺跡ではI-9区SB312やI-16区SB472の例から（宮教委2018b）、高床倉庫と考えられる。

【四面廂建物跡】

K-13区SB1475a・bである。身舎の規模が桁行2間×梁行1間、廂を含めた総長が桁行13.0m×梁行10.2mの南北棟である。身舎と廂の柱筋が揃い、柱穴規模が両者でほぼ同程度である。廂の西側柱列のみ並びが異なり、中央柱穴の両側にやや小規模な柱穴があることから、西側に入口が設けられていたと推定される。建物の方向は、東辺の北で18°東へ偏り、8世紀から9世紀の掘立柱建物跡とは基軸が異なり、東へさらに偏る。周囲から瓦が全く出土していないことから、瓦葺きではなかったと考えられる。その性格については、周辺には建物跡と同時期の集落は認められず、付属すると考

えられる施設もなく単独で存在すると推定されることから、非日常的な目的で使用された建物跡である可能性が高い。

③竪穴建物跡

建て替えを含めて 10 棟確認したが、全体を検出したものではなく、構造も判明していない。年代が推定できるのは、8 世紀後半のもの（K-1 区 SI1201・1202・1203、K-5 区 SI1371）と 9 世紀後半のもの（K-12 区 SI1453）に分けられるが、方向については西辺の北で前者が 6～15°、後者が 10° 東へ偏っており、推定される規模や構造とともに大きな違いは認められない。I-7～9 区では、8 世紀後半から 9 世紀前葉と 9 世紀後半で建物の方向が異なっており、K 区ではこれとは異なる様相を示している。

④竪穴遺構

K-5 区北で 1 基確認した（SX1622）。竪穴建物跡である可能性があり、その場合は後述する SD1620 が外周溝になると想定される。

⑤土器埋設遺構

J-26 区で 1 基検出した（SX1037）。SD1036 内に掘り込まれた土坑に球胴形の土師器甕が埋納されていた。土器内部の土壤に骨や他の遺物は認められなかった。土師器甕の年代は 7 世紀前半頃と推定されるが、SX1037 より古い SD1036 が 8 世紀後半と考えられ、新旧関係に齟齬が生じてしまう。1 世紀以上前の土器を埋納した、あるいは埋納用に特別に製作した、などが考えられるが、その理由や遺構の性格は不明である。

⑥井戸跡

K-5 区で 2 基検出した（SE1382・1626）。共に掘方が認められたことから、井戸枠を有するもので、SE1626 にはカツラ材を倒り貫いた井戸枠が残存している。なお、SE1382 については、抜き取り穴から出土したサワラ材が本来の井戸枠の残骸である可能性がある。

⑦溝跡

J 区で 3 条、K 区で 3 条検出した。K-5 区 SD1620 は SX1622 竪穴遺構が竪穴建物であった場合、その外周溝と考えられる。K-5 区 SD1373 は約 11m 四方を方形に巡るものと推定され、溝の内部に何らかの施設が存在する可能性がある。J-21 区 SD913、J-26 区 SD1036、J-29 区 SD1069、K-3 区 SD1263 の性格は不明である。

⑧土坑

J 区で 1 基、K 区で 3 基検出した。この内、K-3 区 SK1279 と K-12 区 SK1473 は埋土の特徴から廃棄土坑と考えられる。J-3 区 SK711、K-5 区南 SK1625 の性格は不明である。

⑨小溝状遺構群

J-4 区で検出した東西方向の SN749 と南北方向に揃う SN748・752・755 は SB986・987 と平行または直交する位置にあることから、大きくは同時期と考えられる。K-5 区 SN1478・1479 は重複関係から 8 世紀代と推定される SB1488 や SK1399 より古ことから、新田柵跡造営期もしくは以前にさかのぼる可能性がある。

⑩円形周溝跡

J 区で 1 条 (J-29 区 SX1123)、K 区で 1 条 (K-5 区 SX1394) 検出した。類例は、壇の越遺跡 27A 区 SD1468・1469 溝跡（加美町教委 2004c）、山王遺跡 J 区 SX11905・12173・12538 円形周溝跡（宮教委 2018a）などに認められ、内部に柱穴を伴うもしくは溝が壁の据え方となる平地建物跡と推定される。

⑪河川跡・自然流路跡

河川跡は、遺跡の中央を東流する田尻川と大きくは同じ方向であり、古代の田尻川あるいはその支流であると考えられる。J 区の大部分は河川跡が入り組み、それに由来する自然流路や氾濫等により形成された湿地（遺物包含層）が広がっていたと考えられる。古代の河川跡・自然流路の時期は、I：灰白色火山灰降灰以前に埋没したものの (J-3 区 SD716、J-28 区 SD1172)、II：堆積土に灰白色火山灰を含むもの (J-17 区 SD866・867、J-22 区 SD960、J-25 区 SD1028、J-29 区 SD1108、K-2 区 SD1251、K-3 区 SD1266 大別上層、K-12 区 SD1485、K-5 区 SD1406、K-6 区 SD1484、K-7 区 SD1483) に分けられる。また、III：灰白色火山灰降下後のもの (J-22 区 SD961、J-25 区 SD1035、K-13～15 区 SD1540) がある。なお、K-6 区 SD1411 は不明である。

（3）中世

J-1 区 SD775 河川跡、K-1 区 SD1292 溝跡のほか、中世と推定されるものに J-23 区 SD926 溝跡、K-1 区 SD1286 溝跡がある。また、古代以降である K-5 区 SD1373 溝跡も中世の可能性がある。いずれも上幅 1.0m を超える断面 V 字または逆台形の溝跡で、SD1373 は約 11m 四方を方形に巡る溝跡であるが、性格は不明である。SD926 は、中世の溝跡や井戸跡が多く検出された H-25 区から東へ約 90m に位置することから、これらと関係する可能性がある。

第3節 遺構の変遷と遺跡の性格

これまで検討したJ・K区の遺構とH・I・L区の成果を合わせて、団子山西遺跡の遺構の変遷について記述する。また、新田柵跡や周辺遺跡の調査成果を踏まえて性格について検討する。なお、H・I・L区の様相と遺構の位置付け・評価については、『団子山西遺跡 I』の成果を引用してまとめたものである。

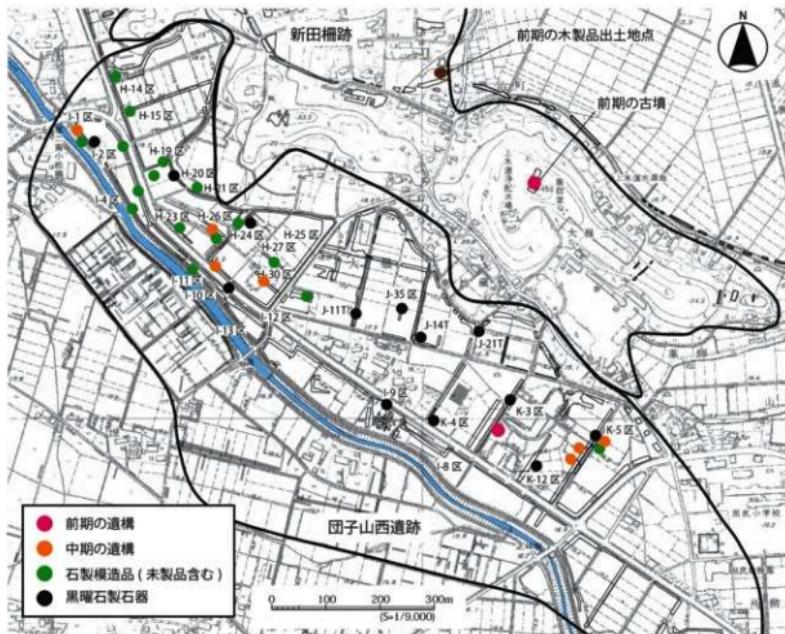
1 遺構の変遷と各期の特徴

団子山西遺跡の遺構の変遷について、遺跡の特徴的な遺構である道路跡に着目し、I：道路跡造営以前、II：道路跡機能時、III：道路跡廃絶後の3つに大別する。

(1) I：道路跡造営以前（古墳時代～8世紀前半）

① I - A（古墳時代前期）

今回の調査で確認したのは、K-3区 SD1266 河川跡のみである。しかし、団子山西遺跡周辺をみると、新田柵跡で直径 20m 程の円墳に伴う周溝（SD352 溝跡）が検出されており（田尻町教委 2001）、新田柵跡が所在する丘陵上や K-3 区周辺に集落が展開していた可能性がある。



第 203 図 H・I・J・K・L 区 古墳時代の遺構・遺物検出地点

② I - B (古墳時代中期)

南小泉式新段階または引田式期に相当する。今回の調査で確認したのは、K-5 区中央 SI1621 竪穴建物跡、K-5 区 SI1381 竪穴建物跡と SK1362 土坑である。このほか、H-24 区 SD73 溝跡、H-26 区 SX194 不明遺構、I-1 区 SD257 河川跡が含まれる。また、南小泉式古段階として、H-30 区 SK228 土坑がある。中期と推定される石製模造品や黒曜石製石器が H・I・J・K 区の広範で出土しているのに対し、遺構の分布は散漫としており、詳しい様相は不明である。SI1381・1621 が検出された K-5 区周辺に集落が展開していたものと推定される。SI1621 から石製模造品や黒曜石製石器だけでなく琥珀が出土しており、周辺では大崎市名生館官衙遺跡 SI1573 竪穴住居跡（古川市教委 2002）、美里町駒米遺跡 SI11 住居跡（小牛田町教委 1998）で出土が確認されている。

③ I - C (8世紀前半)

新田柵跡が造営される時期であり、団子山西遺跡にも建物跡が少数展開する。また、同じく新田柵跡南端に隣接するお椀子山遺跡では、掘立柱建物跡 2 棟、溝跡 1 条が検出されている（大崎市教委 2019）。

自然地形 H 区 SD110A 河川跡、I 区 SD12・43・253 河川跡、SX407・408 湿地である。

遺構の様相 H・I・K・L 区では遺構が認められない。J 区南西隅の南に位置する地点①で検出された掘立柱建物跡のうち、4 棟が新田柵跡鍛冶町地区の当該期の建物跡と方向が揃うことから、8 世紀前半の可能性がある（大崎市教委 2009・2019）。このうち、建物 3 は桁行 4 間×梁行 3 間の東西棟で総柱建物跡である。

(2) II : 道路造営・機能時 (8世紀後半～9世紀前半)

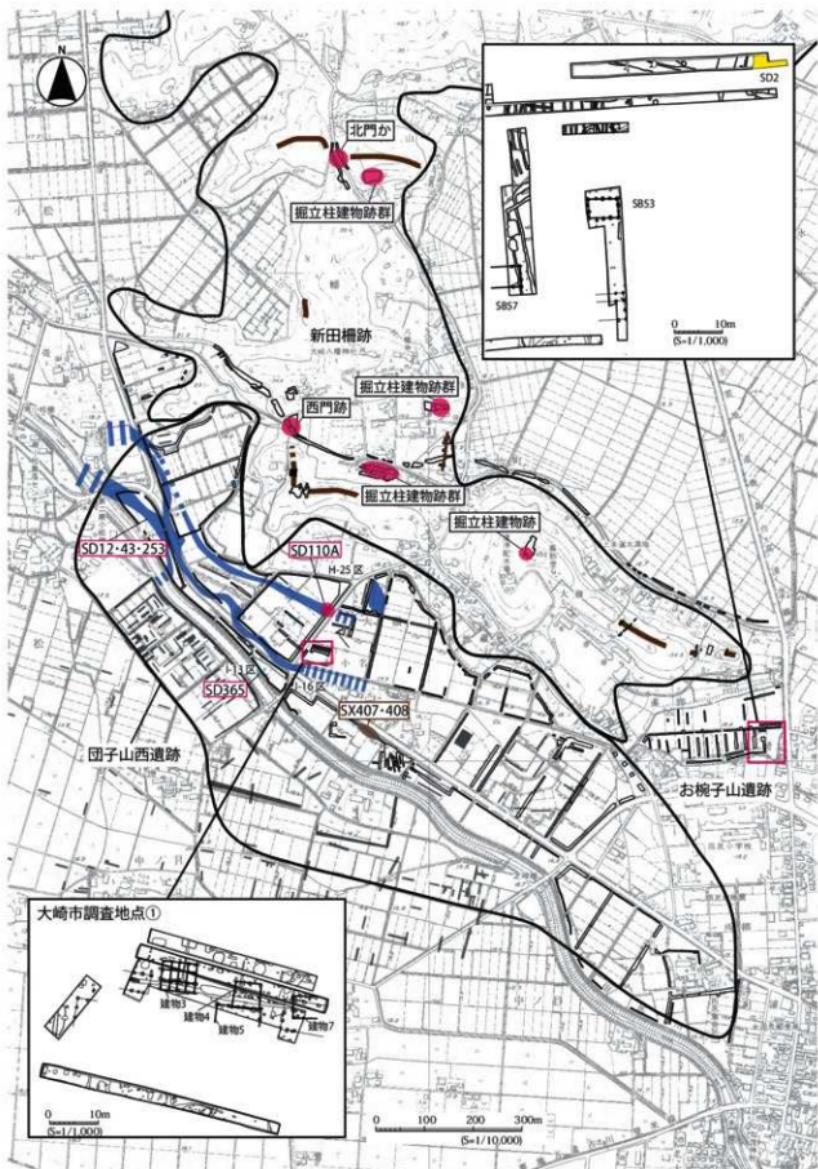
団子山西遺跡に道路が出現し、最も集落が整備される時期である。H・I・J・K・L 各区に道路跡を基軸とした掘立柱建物跡を中心とした遺構群が展開する。

① II - A : (8世紀後半)

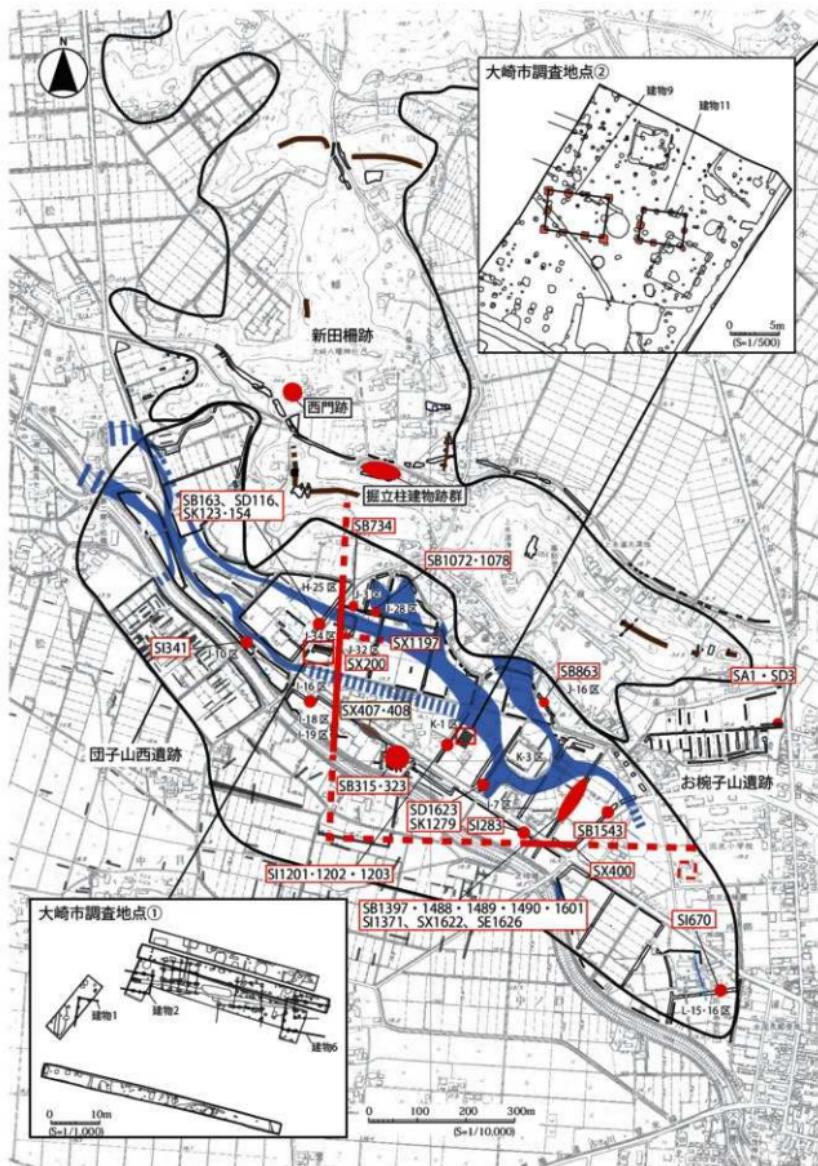
自然地形 I - C のものに I 区 SD365 自然流路跡、J 区 SD716・1108・1172 河川跡が加わる。

遺構の様相 H・I・J 区 SX200 南北道路跡、I・J 区 SX400 東西道路跡が造成され、その周辺部に掘立柱建物跡を中心とした建物群が形成される。また、須恵器稜塊・盤・水瓶・硯など官衙的性格を持つ特殊な遺物が出土していることから、竪穴建物跡を主体とする周辺の集落とは異なる様相を呈する。

掘立柱建物跡では、H 区 SB163、J 区 SB734・863・986・987・1072・1078、K 区 SB1397・1488・1489・1490・1543・1601 のほか、I 区 SB315・323・467・470・472 掘立柱建物跡もこの時期の可能性がある。竪穴建物跡では、L 区 SI670、K 区 SI1201・1202・1203・1371 のほか、SX1622 竪穴遺構である。H・I・L 区では、道路跡と掘立柱建物跡・竪穴建物跡の方向は概ね共通し、道路跡から 100 m 程度の範囲にこれらを含めた様々な遺構が分布することから、道路跡を基準に建物群が形成されたと考えられる。J・K 区では、道路跡沿いや隣接地に遺構が集中する傾向にあり、竪穴建物跡を除く建物群の方向が概ね共通する。その他の遺構では、J 区 SD913・1036 溝跡、K 区 SE1626 井戸跡、SD1263・1264・1620 溝跡、SK1279・1625 土坑などがある。このほか、団子山西遺跡地点①・②、お椀子山遺跡でも遺構が確認されている。



第204図 8世紀前半の団子山西遺跡とその周辺



第205図 8世紀後半の团子山西遺跡とその周辺

②II - B : (8世紀末～9世紀前半)

自然地形 II - A のものに H 区 SD2 河川跡、J 区 SD866・867・960・1028 河川跡、K 区 SD1406 河川跡が加わる。

遺構の様相 建物群に占める掘立柱建物跡の割合がさらに高くなる。道路跡と建物跡の方向は II - A と同じく概ね共通する。SX200 の北西側 (H 区、I 区北西部) や SX400 の南東側 (L 区) ではこの時期の遺構が認められず、分布範囲は 8 世紀後半よりも縮小する一方で、小規模な建物跡が分布していた I-9 区に大型の建物群が建造される (SB311・312・316・318・320～322)。計画的な配置と建て替えが想定され、新田柵跡の中枢とみられる南西部のほぼ正面に展開していることから、新田柵跡の運営に関わる官人のうち、最上位に相当する階層の「館」であった可能性がある。そのほか、I 区 SI295・1402 竪穴建物跡、I-9 区 SI402 竪穴建物跡がこの時期であり、I 区 SB296・469・470・472 掘立柱建物跡もこの時期の可能性がある。

また、J 区は SB986・987 掘立柱建物跡、K 区は SB1408・1409・1544・1545・1613 掘立柱建物跡がある。8 世紀後半と同様に、東西道路跡と南北道路沿いや隣接地に建物跡が展開する。SX200 に隣接する J-3・28 区や SX400 の北に位置する K-5 区では高床倉庫と推定される総柱建物跡と側柱建物跡を中心とした遺構群が展開しており、新田柵跡に関わる官人の居住域が広がっていたと推定される。

(3) III : 道路跡廃絶以降 (9世紀後半～中世)

①III - A (9世紀後半～10世紀初頭)

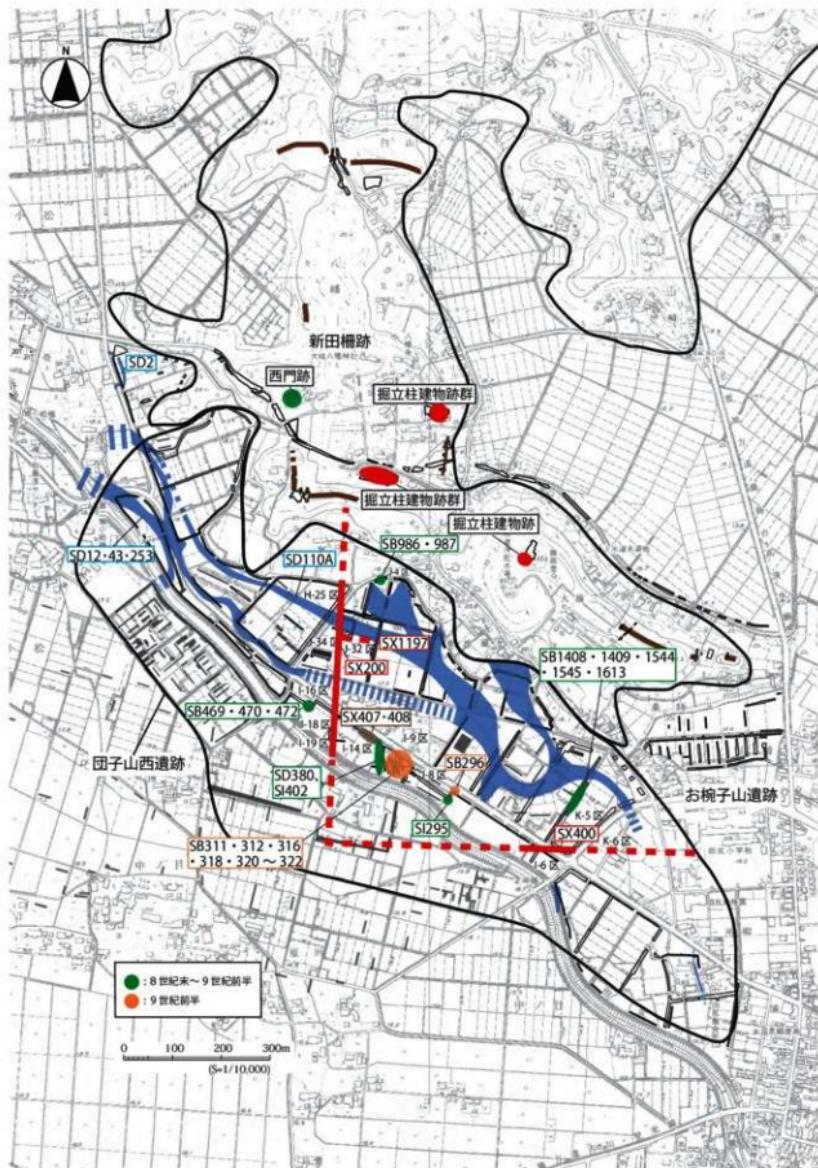
自然地形 II - B 期のものに、H 区 SD1A・677 河川跡、SD42・46・115・117～121・128～131・140～142 自然流路跡、SX98・104 が加わる。

遺構の様相 南北道路跡・東西道路跡が廃絶し、それまでの掘立柱建物跡を主体とした様相が大きく変化する。この時期の掘立柱建物跡は認められず、竪穴建物跡が主体となる。主要な遺構は、I 区 SI288・339・349 竪穴建物跡、H 区 東端では小溝状遺構群が確認できる。竪穴建物跡の方向は、道路跡に沿った方向とは異なり、北で東に大きく傾き、河川跡の方向に影響を受けたものに変化する。分布範囲は、II - B 期よりも拡大し、廃絶した SX200 南北道路跡の西側の微高地上や SX400 東西道路跡の北側に竪穴建物跡、SX200 周辺で河川跡に面して耕作域が形成される。道路跡による規制がなくなり、自然地形にあわせた遺構配置に変化している。また、遺跡北西端の H 区 SD12 河川跡から多くの墨書き土器が出土しており、この中には「□寺」も含まれ、これまでとは異なった新たな活動の存在が推定される。

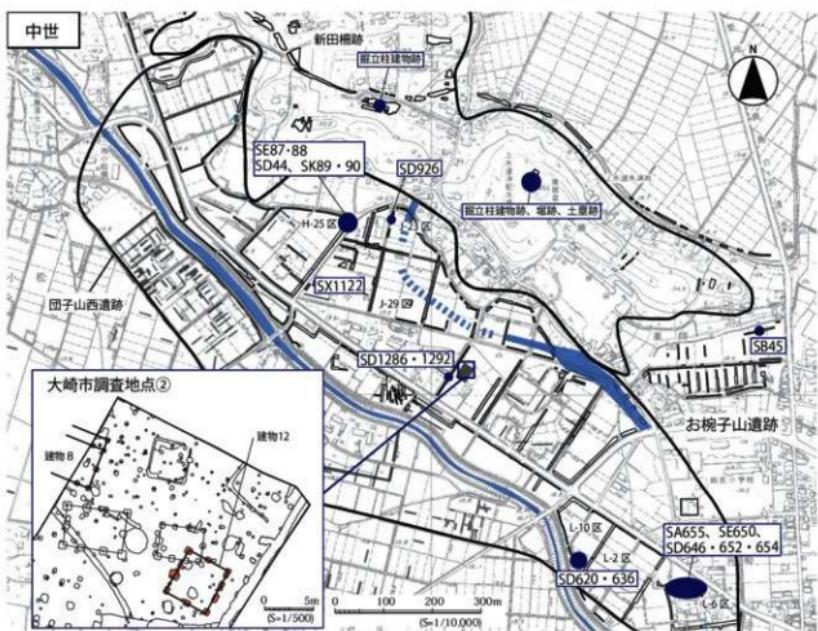
J・K 区の主要な遺構は、K 区 SI1453 竪穴建物跡である。官衙的遺物はないが、墨書き土器が K 区で多く出土している。この中には、K-13 区 SD1381 溝跡より出土した「軍」の須恵器環といった特徴的なものが含まれており、軍團と関連する可能性がある。II - B 期までのように新田柵跡に関わる官人の居住域が広く展開するのではなく、地区によって異なる場の使われ方がなされたと推定される。

②III - B (10世紀前半)

自然地形 河川の多くは灰白色火山灰降下後に埋没し、湿地（遺物包含層）も乾燥化したと考えら



第206図 8世紀末～9世紀前半の团子山西遺跡とその周辺



第207図 9世紀後半～10世紀前半・中世の团子山西遺跡とその周辺

れ、この時期の河川跡の流路は明確ではない。

遺構の様相 遺構が著しく減少し、建物群は認められない。K区 SB1475 挖立柱建物跡は北で東に18°偏る四面廂建物跡で、团子山西遺跡と新田柵跡で確認された掘立柱建物跡の中で最も大型のものであるが、付属施設が認められない単独で配置された建物跡と考えられる。その他には、I区 SX410 土器埋設遺構、SK280 土坑、J区 SK711 土坑、K区 SK1473 土坑である。居住域は認められず、恒常的に利用された痕跡が乏しいことから、非日常的な場として使用されたと考えられる。

③Ⅲ - C (中世)

自然地形 J-1 区 SD775 河川跡である。

遺構の様相 H区 SE87・88・96・97 井戸跡、SD84 溝跡、SK89・90 土坑、L区 SA655 柱列跡、SD620・646・652・654 溝跡、SK644 土坑がある。出土遺物から、13～14世紀のものと考えられる。中世の可能性があるものとして、J区 SX1122 東西道路跡、SD926 溝跡、K区 SD1286・1292 溝跡がある。また、团子山西遺跡の周辺では、新田柵跡で掘立柱建物跡、溝跡、土塁、井戸跡、お椀子山遺跡で掘立柱建物跡が確認されており、このうち建物跡・井戸跡・溝跡については、15～16世紀と考えられる（大崎市教委 2008・2019a）。

2 遺跡の性格

これまでの検討を総合し、古墳時代・古代・中世の团子山西遺跡の性格についてまとめる。

(1) 古墳時代

前期 团子山西遺跡では K-3 区 SD1266 河川跡のみであるが、北東へ約 2 km に所在する金鉢神遺跡では竪穴建物跡が確認されており（大崎市教委 2016）、团子山西遺跡とその周辺に新田柵跡に古墳を築造した豪族の集落が存在したと推定される。

中期 主要な遺構は K-5 区・K-5 区北で検出されたが、土器や石製模造品、黒曜石製石器の分布状況から、K区と I区南東部だけでなく、H区と I区北西部にも集落が展開していた可能性がある。K-5 区北 SI1621 からは多量の土師器だけでなく、石製模造品、黒曜石製石器、琥珀が出土しており、北方系の遺物とみることができることから、大崎市名生館官衙遺跡などと同様に、团子山西遺跡も古墳文化と続縄文文化の要素を持った遺跡であるといえる。

(2) 古代

①遺跡の特徴

古代における团子山西遺跡の特徴として、基幹道路である南北道路とそれに接続する東西道路を有すること、道路跡に方向を揃えた掘立柱建物跡を主体とした居住域が形成されること、官衙的遺物が少数ながら出土することの 3 点が挙げられる。これに対し、新田柵跡の北側の丘陵に広がる集落遺跡は竪穴建物跡が主体であり、他の特徴も当てはまらないことから、团子山西遺跡は周辺の集落遺跡とは異なる性格を持つと考えられる。H・I区の様相から、团子山西遺跡が新田柵跡に関連する官人層の「館」を含む居住域と推定されており（宮教委 2018b）、今回の検討を加えると、その可能性は一層高まったといえる。また、新田柵跡の造営が始まった 8 世紀前半から、团子山西遺跡には新田柵跡

の建物群と方向が揃った掘立柱建物跡が存在したと推定されることから（大崎市 2019a）、当初より新田柵跡の官人層の居住域として計画的に整備された可能性がある。

②新田柵跡との関係

新田柵跡の掘立柱建物群や外郭施設と方向を揃えた道路跡の造成、それを基準に配置された掘立柱建物跡を中心とした遺構群、官衙的遺物の出土など、団子山西遺跡は新田柵跡と密接に関連した遺跡と考えられる。特に道路跡が機能した8世紀後半から9世紀前半にかけては一体的に機能したと考えられ、I-9区には新田柵跡の運営に関わる役人の「館」、I-16区には役人の「住宅」があったと推定されている（宮教委 2018b）。J・K区については、J-3・28区、K-5区で縦柱建物跡や建物群が検出されていることから（註3）、これらの地点にも官人層の居住域が広がっていたと推定され、SX200より東側でSX1197・400周辺の微高地上に新田柵跡の運営に関わる官人層の居住域が広がっていたと考えられる。

③新田柵跡機能後の様相

9世紀後半には道路跡が廃絶し、遺構の主体は掘立柱建物跡から竪穴建物跡に変化する。遺構数は9世紀前半に比べて減少する。H-15区から「□寺」の墨書ロクロ土師器坏が出土したことは、新たな場の使われ方の存在が示唆され（宮教委 2018b）、寺院の活動が推定される。一方で、K-13区から「軍」の墨書須恵器坏が出土していることから、軍団等との関わりが想起され、兵士の居住域や軍団の維持・管理に関わる施設が存在した可能性がある。道路跡を基軸とし計画的に建物が配置された空間が失われ、各地点で性格が異なる場へと変化していくものと推定される。

10世紀に入ると、遺構数は著しく減少し、後述の建物跡と土器埋設遺構や土坑がわずかに確認されるのみであり、居住域が認められないことから、この時期には人間の恒常的な活動が大きく停滞したものと考えられる。K-13区にてSB1475四面廻建物跡が確認できるが、周間に付属する施設はなく、単独で配置されたものと考えられることから、非日常的な目的で使用されたと推定される。

（3）中世

10世紀後半以降、人間の活動の痕跡は認められず、13世紀まで大きな隔絶がある。H・J・K・L区にそれぞれ遺構が点在する。井戸跡、溝跡、土坑が中心で、中世の可能性があるものとして、道路跡（J-29区 SX1122）や大型の掘立柱建物跡と推定される柱列跡（L-6区 SA655）が確認されている。出土遺物は大部分が13～14世紀代のものであることから、団子山西遺跡で確認された中世の遺構の年代もおおむね同時期であると考えられる。小規模な屋敷や集落跡が点在していたものと推定され、大規模な遺構が集中する様子は認められない。なお、15～16世紀には新田柵跡に掘立柱建物群が形成されるが、現在のところ団子山西遺跡ではこの時期と特定できる遺構・遺物は認められない。

第4節 まとめ

団子山西遺跡J・K区発掘調査の成果について、過去のH・I・L区や新田柵跡など周辺遺跡の調査成果を踏まえながら以下に要点をまとめる。

古墳時代

- 1 K区で前期の河川跡1条を検出し、土師器甕・壺・高环・器台・鉢が出土した。新田柵跡では円墳の周溝が発見されたことから、これに関係する集落が展開していたと考えられる。
- 2 K区で中期の竪穴建物跡2棟、土坑1基を検出した。遺物は、いずれも中期新段階あるいは引田式期のもので、5世紀後半の年代と考えられる。
- 3 竪穴建物跡のうち1棟から土師器、石製模造品、黒曜石製石器、琥珀が出土した。中期に特徴的な北方系の遺物が含まれており、団子山西遺跡は古墳文化と統繩文化の要素を持った遺跡であるといえる。

古代

- 1 J・K区で道路跡3条、掘立柱建物跡20棟、竪穴建物跡13棟、竪穴状遺構1棟、土器埋設遺構1基、井戸跡3基、円形周溝跡2条のほか、溝跡、土坑、小溝状遺構群、河川・自然流路跡、遺物包含層等を検出した。
- 2 道路跡は、南北道路跡1条、東西道路跡2条検出した。南北道路跡はH・I・J区を縱貫する新田柵跡の中核部へ向かう基幹道路であり、「南北大路」に相当するとみられる。東西道路跡の間に明確な差は認められないことから、「東西大路」に相当する道路は存在せず、大路より小規模な「その他の東西道路」に相当する可能性が高い。また、南北・東西道路跡は新田柵跡の外郭施設や掘立柱建物群と方向がほぼ同じであることから、城柵と一緒に計画・運営され、8世紀後半から9世紀前半頃に機能したと推定される。
- 3 掘立柱建物跡を主体とした遺構群は南北道路跡・東西道路跡に隣接する微高地上に道路跡と方向を揃えて配置されている。これらの場所は新田柵跡の運営に関わる官人層の居住域であると推定される。
- 4 遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、赤焼き土器、瓦、硯、石製品、木製品、鐵製品などが出土した。城柵との関係を示す特徴的な遺物として、須恵器盤・稜塊・灰釉陶器、硯、水瓶、石帶（丸鞘）などが挙げられる。また、木戸窓跡とと考えられる須恵器壺や瓦が出土しているが、いずれも少量である。年代は8世紀前半から10世紀で、8世紀後半から9世紀前半が主体である。
- 5 団子山西遺跡は、新田柵跡造営開始時期である8世紀前半から官人層の居住域として計画的に整備された可能性があり、道路跡と方向を揃えた掘立柱建物跡を主体とするなど、周辺の竪穴建物跡を主体とする集落跡とは異なる様相を示す。8世紀後半に道路跡が造成され、8世紀末から9世紀前半に大型の建物跡が整備されるなど、この時期の新田柵跡と団子山西遺跡は一体的に機能していたと考えられる。
- 6 道路跡が廃絶する9世紀後半以降は、掘立柱建物跡がなくなり、竪穴建物跡が主体となる。遺構数が減少する一方で、H区で「□寺」、K区で「軍」の墨書き器が出土しており、寺院の活動や

軍団との関係が想起され、地点により異なる性格の場に分かれていたものと推定される。

- 7 10世紀には遺構数が著しく減少し、集落域が認められないことから、恒常的な活動が停滞したものと考えられる。K-13区で検出した10世紀前半の四面廂建物跡は、団子山西遺跡や新田柵跡で発見された建物跡の中で最大規模のものであるが、付属施設がみられず、単独で配置されたものと推定されることから、非日常的な目的に使用されたものと考えられる。

中世

- 1 K区で溝跡のほか、J区で中世の可能性がある道路跡、溝跡を検出した。J区で検出した溝跡は、中世の屋敷跡とみられるH-25区の遺構に関連する可能性がある。
- 2 遺物は、陶器、磁器、銭貨などが出土した。陶器は、現在の栗原市から登米市にかけて分布する伊豆沼窯跡産のものが最も多く、次いで東海地方の常滑産のほか、白石窯跡産のものがわずかに含まれる。磁器は龍泉窯産の青磁、銭貨は北宋銭である。年代は、H-25区と同様に13～14世紀と考えられる。
- 3 団子山西遺跡には中世の大規模な遺構が存在したとは考えにくく、小規模な屋敷跡や集落跡が存在したものと推定される。

(註1) この軒丸瓦の瓦当文様を「変形重弁蓮華文」、軒平瓦を「植物文」と称しており、年代は灰白色火山灰の純堆積層より古いことから、9世紀代としている(田尻町教委2002a)。

(註2) 境の越遺跡と異なり団子山西遺跡では、城柵南面に東西方向の河川が近接し、地形的制約が大きいことから、東西道路は1町間隔に規則的に配置することが難しく、河川の影響を受けにくい微高地上に配置されたと推定されるが、今後新たな道路跡が発見される可能性があることから、ここでは結論を保留する。

(註3) J-3・28区に近接するJ-23区より石帯・丸輪が出土していることからも、この周辺に新田柵跡の官人層に関する空間が広がっていたと予想される。

引用・参考文献

【論文等】

- 青山博樹 1999 「小牛田町山前遺跡出土の埴輪式土器とラウンドスクレーバー—北辺の古墳時代社会と続縄文文化—」『宮城考古学』第1号 pp.67-80
- 2010 「古墳時代前期の土器編年—仙台平野とその周辺—」『北杜—辻秀人先生還暦記念論集—』 pp.17-36
- 2019 「古墳時代地域社会の動態—仙台平野とその周辺—」『古墳分布北緯地域における地域間交流解明のための実証的研究』 pp.31-42
- 飯村均 2015 「陸奥南部における中世村落の様相」『中世奥羽の考古学』 pp.62-75 高志書院
- 家原圭太 2016 「古代都城条坊制と地方官衙の方格街区」『日本考古学』2016 pp.17-35
- 伊藤一義 2000 「第五章 第三節四 北条氏の進出」『仙台市史 通史編2 古代中世』 pp.282-286
- 井上克弘・山田一郎 1990 「東北地方を覆う古代の瓦長賀テラフ・十和田一大場浮石」の同定』『第四紀研究』第29卷2号 pp.305-333
- 今泉隆雄 1992 「7 律令国家とエミシ」『新版 古代の日本』第九巻 角川書店 pp.163-198
- 入間田宜夫 1997 「第一章 平泉・鎌倉時代の美賀郡」『新編 中新田町史 上巻』 pp.115-138
- 氏家和則 1957 「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史』第14輯 pp.1-14 東北史学会
- 鶴功 1993 「図解 社寺建築 社寺園例／編」 理工学社
- 江口桂 2012 「東日本における古代四面廻建物の構造と特質」『第15回古代官衙・集落研究会報告書 四面廻建物を考える 報告編』 pp.125-160
- 大阪府立近つ飛鳥博物館編 2006 「年代のものさし—陶色の須恵器—」大阪府立近つ飛鳥博物館図録 40
- 小山正志・竹原秀雄 1994 「新版 標準土色帖」
- 熊谷公男 2000 「養老四年の蝦夷の反乱と多賀城の創建」『国立歴史民俗博物館研究報告』第84集 pp.61-90
- 桑原道郎・藤沼邦彦 1981 「東北地方の古代・中世窯」『日本やきもの集成1 北海道 東北 関東』 pp.101-105 平凡社
- 古代城柵官衙遺跡検討会編 2016 「第40回城柵官衙遺跡検討会資料集」
- 2019 「第45回城柵官衙遺跡検討会資料集」
- 齋藤和機 2016 「交差点からみた多賀城の方格地割」『宮城考古学』第18号 pp.95-110
- 佐藤敏幸 2007 「vi. 宮城県北部・沿岸部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト文化交流の研究』 pp.164-209
- 2015 「東北の城柵官衙と土器」『第18回古代官衙・集落研究会報告書 官衙・集落と土器I—宮都・官衙・集落と土器I—』 pp.41-72
- 佐藤優 2003 「三輪田遺跡・権現山遺跡の概要」『第29回城柵官衙遺跡検討会資料』 pp.143-155
- 佐藤玲子・藤沢敦・岩見和泰 1993 「宮城県の概要—宮城県内における祭祀関係遺物とそのあり方—」『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀—祭祀関係の遺跡と遺物—』 pp.23-52
- 菅原祥夫 2007 「東北の豪族居宅」『古代豪族居宅の構造と機能』 pp.27-64 奈良文化財研究所
- 鈴木啓司 2017 「宮城県大崎市田子山西遺跡」『古代交通研究会第19回大会資料集』 pp.1-10
- 2019 「I 宮城県田子山西遺跡—新田柵跡へ向かう道路—」『日本古代の輸送と道路』 pp.333-339 八木書店
- 鈴木孝行 2006 「多賀城外の方格地割」『第32回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』 pp.88-97
- 2010 「多賀城方格地割の調査」『月刊ジャーナル』No.604 pp.14-18 ニューサイエンス社
- 須田勉 1985 「平安初期における村落内寺院の存在形態」『古代探査II』早稲田大学出版部
- 高橋透 2016 「陸奥国府城における掘立柱廻建物の特質」『宮城県考古学』第18号 pp.77-94
- 田尻町史編さん委員会 1982 「田尻町史 上巻」

- 田中剛和 2003 「(4) 熊狩A窯跡」『中世奥羽の土器・陶磁器』 pp.163-174 高志書院
- 田辺昭三 1981 『須恵器大成』角川書店
- 辻秀人 1989 「東北古墳時代の画期について（その1）—中期後半の画期とその意義—」『福島県立博物館紀要』第3号 pp.1-19
- 1994 「東北南部における古墳出現期の土器編年—その1 会津盆地—」『東北学院大学論集 歴史学・地理学』 第26号 pp.105-140
- 1995 「東北南部における古墳出現期の土器編年—その1 会津盆地—」『東北学院大学論集 歴史学・地理学』 第27号 pp.39-88
- 東北学院大学佐川ゼミナール・藤原二郎 2009 「栗原市高清水「仰ヶ返り地蔵前遺跡」第6次調査—鎌倉時代日本最北端の瓦窯跡2基の構造と変遷が判明—」『平成21年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』 pp.51-56
- 東北古代土器研究会編 2008 「研究報告3 東北古代土器集成—須恵器・窯跡編—〈陸奥〉」
- 富田和夫 2009 「移民の携えた土器—北武藏・上野由来の「関東系土器」をめぐって—」『古代社会と地域間交流—土器からみた関東と東北の様相—』 pp.55-76 六一書房
- 富永樹之 2006 「東國の「村落内寺院」の諸問題—千葉県以外を主体として—」『在地社会と仏教』 pp.69-96 奈良文化財研究所
- 中野晴久 1997 「瓷器系中世陶器の生産」『(財)瀬戸市埋蔵文化財センター 研究紀要』第5輯 pp.7-24
- 中村太一 2003 「陸奥・出羽地域における古代駁路とその変遷」『国史学』第179号 pp.1-37
- 奈良文化財研究会編 2012 「第15回古代官衙・集落研究会報告書 四面廻建物を考える 資料編」
- 平川南 2000 「第四章 墨書き土器と古代の村落 三 墨書き土器とその字形—古代村落における文字の実相』『墨書き土器の研究』 pp.259-324 吉川弘文館
- 藤沢牧 1992 「引田式再論」『歴史』第79輯 pp.68-88 東北史学会
- 藤沼邦彦 2010 「陸奥国(宮城県)水沼窑(瓷器系)伊豆沼窑(瓷器系)三本木窑(瓷器系)白石窑(瓷器系)」『古陶の譜 中世のやきもの—六古窯とその周辺—』 pp.280-289
- 古川市史編さん委員会 2006 「古川市史 第6巻 資料1 考古」
2008 「古川市史 第1巻 通史I 原始～近世」
- 村田晃一 2007 「陸奥北辺の城柵と郡家—黒川以北十郡の城柵からみえてきたもの—」『宮城考古学』第9号 pp.85-110
2016 「陸奥国北辺における城柵の造営と集落・土器—賀美郡と栗原郡の様相から—」『第19回古代官衙・集落研究会報告書 官衙・集落と土器2—宮都・官衙・集落と土器—』 pp.143-158
- 2017 「1 宮城県東山官衙遺跡群の景観」「日本古代の道路と景観」 pp.201-223 八木書店
- 2018 「陸奥中部における陶器の生産と消費(1)」『宮城考古学』第20号 pp.165-186
- 【報告書】**
- 秋田県
秋田市教育委員会
1982 「秋田城跡」 昭和56年度秋田城跡発掘調査概報
1994 「秋田城跡」 平成5年度秋田城跡調査概報
2005 「胡川谷地遺跡—県営ほ場整備事業(土崎・小荒川地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ—」 秋田県文化財調査報告書第383集

岩手県

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

2002『中平入道跡・蝦夷塚古墳発掘調査報告書－担い手育成基盤整備事業東田地区圓場整備工事』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第380集

2004『中平入道跡 第2次発掘調査報告書 ほ場整備事業満倉地区関連発掘調査』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第443集

北上市教育委員会

1991『国見山庵寺跡発掘調査報告』 北上市文化財調査報告書第62集

1995『南部工業団地内遺跡II』 北上市埋蔵文化財調査報告書第18集

2003『国見山庵寺跡』 北上市埋蔵文化財調査報告書第55集

宮城県

大崎市教育委員会

2007『国指定史跡 名生館官衙遺跡 26－第27次・28次発掘調査報告書一 新田柵跡推定地 10－第8次調査報告書一』

宮城県大崎市文化財調査報告書第1集

2007『椎駒山遺跡－平成16年度発掘調査報告書一』 宮城県大崎市文化財調査報告書第2集

2008『新田柵跡推定地 11－第9次調査報告書一』 大崎市文化財調査報告書第5集

2009『新田柵跡推定地 12－第10次調査報告書一』 大崎市文化財調査報告書第7集

2010『新田柵跡推定地 13－第11次調査報告書一』 宮城県大崎市文化財調査報告書第12集

2011a『神明遺跡－平成17・18年度発掘調査報告書一』 宮城県大崎市文化財調査報告書第13集

2011b『新田柵跡推定地 14ほか－第12次調査報告書一』 宮城県大崎市文化財調査報告書第15集

2012『新田柵跡推定地ほか15』 大崎市文化財調査報告書第17集

2016『金鷲神遺跡ほか－田尻中央地区は場整備事業に係る平成16・18年度発掘調査報告書一』 宮城県大崎市文化財調査報告書第24集

2018『木戸遺跡－田尻中央地区は場整備事業に係る発掘調査報告書一』 宮城県大崎市文化財調査報告書33集

2019a『お椀子山遺跡－田尻中央地区は場整備事業に係る発掘調査報告書一』 宮城県大崎市文化財調査報告書第35集

2019b『南小林遺跡－第2・3次発掘調査報告書一』 宮城県大崎市文化財調査報告書第36集

大郷町教育委員会 1994『大郷町 鶴館道路』 大郷町文化財調査報告書

河南町教育委員会

1993『須江窓跡群 代官山遺跡』 河南町文化財調査報告書第6集

2004『閔ノ入遺跡』 河南町文化財調査報告書第13集

加美町教育委員会

2004a『壇の越遺跡V－宮崎北部地区県営は場整備事業に伴う平成12年度発掘調査報告書一』 加美町文化財調査報告書第1集

2004b『壇の越遺跡VI－平成13年度県営は場整備関連発掘調査報告書一』 加美町文化財調査報告書第2集

2004c『壇の越遺跡VII－県道鳥屋ヶ崎・小野田線に伴う平成12～14年度発掘調査報告書一』 加美町文化財調査報告書第3集

2005a『壇の越遺跡VIII－平成14年度発掘調査報告書一』 加美町文化財調査報告書第5集

2005b『壇の越遺跡IX』 加美町文化財調査報告書第6集

- 2006a『壇の越遺跡X—平成15・16年度発掘調査報告書一』 加美町文化財調査報告書第8集
- 2006b『壇の越遺跡XI—平成16年度発掘調査報告書一』 加美町文化財調査報告書第9集
- 2007『壇の越遺跡XII—平成16・17年度発掘調査報告書一』 加美町文化財調査報告書第10集
- 2008『壇の越遺跡XIV—平成17・18年度発掘調査報告書一』 加美町文化財調査報告書第13集
- 2009『壇の越遺跡XVII—県道柳沢町新田線改良工事に伴う平成20年度発掘調査報告書一』 加美町文化財調査報告書第16集
- 2010『壇の越遺跡19—考察編一』 加美町文化財調査報告書第18集
- 栗原市教育委員会
- 2006『四ツ壇遺跡ほか』 栗原市文化財調査報告書第3集
- 2009「北林六原遺跡発掘調査について」『平成21年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』pp.45-50
- 小牛田町教育委員会
- 1973『駒米遺跡—宮城県遠田郡小牛田町北浦字駒米一 第二次発掘調査報告書』 宮城県小牛田町文化財調査報告書1
- 1976『山前遺跡』
- 1998『駒米遺跡』 小牛田町文化財調査報告書第3集
- 色麻町教育委員会 1993『日の出山窓跡群』 色麻町文化財調査報告書第1集
- 白石市教育委員会 1971『堂田遺跡—白石市福岡八宮一』 白石市文化財調査報告書第9号
- 瀬峰町教育委員会
- 1977『がんげつ遺跡』 瀬峰町文化財調査報告書第1集
- 1980『がんげつ遺跡 第2次発掘調査報告書』 瀬峰町文化財調査報告書第3集
- 1983『大境山遺跡』 瀬峰町文化財調査報告書第4集
- 1987『瀬峰町の文化財』 第6集
- 1988a『下藤沢Ⅱ遺跡』 瀬峰町文化財調査報告書第6集
- 1988b『民生病院裏遺跡』 瀬峰町文化財調査報告書第7集
- 2003『長根遺跡』 瀬峰町文化財調査報告書第21集
- 2004『下富前遺跡』 瀬峰町文化財調査報告書第23集
- 高清水町教育委員会 2000『経ヶ崎遺跡 観音沢遺跡』 高清水町文化財調査報告書第2集
- 多賀城市教育委員会
- 1980『館前遺跡—昭和54年度発掘調査報告一』 多賀城市文化財調査報告書第1集
- 1993『山王遺跡ほか—発掘調査報告書一』 多賀城市文化財調査報告書第34集
- 1994『市川橋遺跡ほか—平成5年度発掘調査報告書一』 多賀城市文化財調査報告書第35集
- 2004『市川橋遺跡—城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書三一』 多賀城市文化財調査報告書第75集
- 2005『多賀城市内の遺跡I—平成15年度発掘調査報告書一』 多賀城市文化財調査報告書第77集
- 多賀城市埋蔵文化財調査センター
- 1990『山王遺跡—第8次発掘調査報告書一』 多賀城市文化財調査報告書第22集
- 1993『年報6 平成3年度』 多賀城市文化財調査報告書第33集
- 1994『多賀城市埋蔵文化財調査センター年報 第7号』
- 田尻町教育委員会
- 1978『天狗堂遺跡』 田尻町文化財調査報告書第1集
- 1998『新田柵跡推定地』 田尻町文化財調査報告書第3集

- 2000『新田柵跡推定地2』田尻町文化財調査報告書第4集
- 2001a『新田柵跡推定地3ほか』田尻町文化財調査報告書第5集
- 2001b『新田柵跡推定地4』田尻町文化財調査報告書第6集
- 2002a『新田柵跡推定地V』田尻町文化財調査報告書第7集
- 2002b『新田柵跡推定地VI 平成13年度団体営農道整備事業一葉西田線道路改良に伴う発掘調査』田尻町文化財調査報告書第8集
- 2003『新田柵跡推定地VI』田尻町文化財調査報告書第9集
- 2004『新田柵跡推定地VII』田尻町文化財調査報告書第10集
- 2006『新田柵跡推定地VIII』田尻町文化財調査報告書第11集
- 築館町教育委員会
- 1991『伊治城跡』築館町文化財調査報告書第4集
- 1992『伊治城跡』築館町文化財調査報告書第5集
- 東北歴史資料館 1979『伊豆沼古窯 熊狩A窯跡発掘調査報告』
- 迫町教育委員会 1995『佐沼城跡—近世武家屋敷と古代の集落跡—』迫町文化財調査報告書第2集
- 古川市教育委員会
- 1987『名生館官衙遺跡Ⅶ—昭和61年度発掘調査概報—』宮城県古文化財調査報告書第6集
- 1988『名生館官衙遺跡Ⅷ』宮城県古川市文化財調査報告書第7集
- 1989『名生館官衙遺跡IX』宮城県古川市文化財調査報告書第8集
- 1990『名生館官衙遺跡X』宮城県古川市文化財調査報告書第9集
- 1991『名生館官衙遺跡X I』宮城県古川市文化財調査報告書第10集
- 1992『名生館官衙遺跡X II』宮城県古川市文化財調査報告書第11集
- 1993『名生館官衙遺跡X III』宮城県古川市文化財調査報告書第12集
- 1994『名生館官衙遺跡X IV』宮城県古川市文化財調査報告書第13集
- 1995a『小寺遺跡』宮城県古川市文化財調査報告書第18集
- 1995b『名生館官衙遺跡X V』宮城県古川市文化財調査報告書第19集
- 1996『名生館官衙遺跡X VI』宮城県古川市文化財調査報告書第21集
- 1997『名生館官衙遺跡X VII』宮城県古川市文化財調査報告書第22集
- 1998『名生館官衙遺跡X VIII』宮城県古川市文化財調査報告書第23集
- 2000『名生館官衙遺跡XX』宮城県古川市文化財調査報告書第27集
- 2001『名生館官衙遺跡XXI 南小林遺跡』宮城県古川市文化財調査報告書第28集
- 2002『名生館官衙遺跡XXII 灰塚遺跡』宮城県古川市文化財調査報告書第30集
- 2003a『灰塚遺跡 杉ノ下遺跡』宮城県古川市文化財調査報告書第32集
- 2003b『名生館官衙遺跡XXIII』宮城県古川市文化財調査報告書第33集
- 2004a『名生館官衙遺跡XXIV』宮城県古川市文化財調査報告書第35集
- 2004b『稚見山遺跡 柴橋遺跡ほか』宮城県古川市文化財調査報告書第36集
- 2006『名生館官衙遺跡XXV』宮城県古川市文化財調査報告書第38集
- 宮城県教育委員会
- 1980『東北新幹線関係遺跡調査報告書—IV—』宮城県文化財調査報告書第72集

- 1981『東北新幹線関係遺跡調査報告書V』宮城県文化財調査報告書第77集
- 1983a『朽木橋横穴古墳群 宮前遺跡』宮城県文化財調査報告書第96集
- 1983b『御堂平遺跡』宮城県文化財調査報告書第97集
- 1987『根沢・大沢窯跡ほか』宮城県文化財調査報告書第116集
- 1991a『大嶺八幡遺跡・八幡遺跡』『合戦原遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第140集
- 1991b『山王遺跡－仙塩道路建設関係遺跡平成2年度発掘調査概報－』宮城県文化財調査報告書第141集
- 1992a『中屋敷前遺跡』『下草古城跡ほか』宮城県文化財調査報告書第146集
- 1992b『金鉢神遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第150集
- 1996『山王遺跡IV－多賀前地区考察編－』宮城県文化財調査報告書第171集
- 1997『山王遺跡V－第一分冊－』宮城県文化財調査報告書第174集
- 1998『壇の越遺跡 念南古墳』宮城県文化財調査報告書第177集
- 1999『一里塚遺跡－第44・47時発掘調査報告書－』宮城県文化財調査報告書第179集
- 2003a『新田東遺跡－三陸自動車道建設関連遺跡調査報告書II－』宮城県埋蔵文化財調査報告書第191集
- 2003b『壇の越遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第195集
- 2004『壇の越遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第199集
- 2005a『角山遺跡－三陸縱貫自動車道建設関連遺跡調査報告書IV－』宮城県文化財調査報告書第200集
- 2005b『壇の越遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第202集
- 2006a『角山遺跡 山居遺跡－三陸縱貫自動車道建設関連遺跡調査報告書VI－』宮城県文化財調査報告書第206集
- 2006b『東山官衙遺跡周辺地区ほか』宮城県文化財調査報告書第208集
- 2007a『東北地方整備局関連遺跡発掘調査報告書』宮城県文化財調査調査報告書第211集
- 2007b『早風遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第213集
- 2008『壇の越遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第217集
- 2009a『市川橋遺跡の調査 伏石・八幡地区一県道「泉一塩釜線」関連調査報告書VI－』宮城県文化財調査報告書第218集
- 2009b『壇の越遺跡 早風遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第221集
- 2010a『北小松遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第223集
- 2010b『一里塚遺跡』宮城県文化財調査報告書第224集
- 2010c『壇の越遺跡 早風遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第225集
- 2011a『北小松遺跡－田尻西部地区は場整備事業に係る平成20年度発掘調査報告書－』宮城県文化財調査報告書第226集
- 2011b『羽場遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第228集
- 2012『須江瓦山A窯跡』宮城県文化財調査報告書第229集
- 2014『北小松遺跡－田尻西部地区は場整備事業に係る平成21年度発掘調査報告書－』宮城県文化財調査報告書第234集
- 2016『入の沢遺跡－一般国道4号楽館バイパス関連遺跡調査報告書IV－』宮城県文化財調査報告書第245集
- 2018a『山王遺跡－三陸沿岸道路建設に伴う八幡・伏石地区発掘調査報告書－』宮城県文化財調査報告書第246集
- 2018b『团子山西遺跡I－田尻西部地区は場整備事業に係る平成22～25年度(H・I・L区)発掘調査報告書－』宮城県文化財調査報告書第248集
- 宮城県多賀城跡調査研究所
- 1981『名生館遺跡I』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第6冊
- 1982a『多賀城跡 政府跡 本文編』

- 1982b『名生館遺跡Ⅱ』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第7冊
1983『名生館遺跡Ⅲ』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第8冊
1984『名生館遺跡Ⅳ』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第9冊
1985『名生館遺跡Ⅴ』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第10冊
1986『名生館遺跡Ⅵ』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第11冊
1989『東山遺跡Ⅲ』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第14冊
1990『東山遺跡Ⅳ』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第15冊
1991『東山遺跡Ⅴ』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第16冊
1992『東山遺跡Ⅵ』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第17冊
1993『東山遺跡Ⅶ』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第18冊
1996『多賀城跡』 宮城県多賀城跡調査研究所年報 1995
1997『多賀城跡』 宮城県多賀城跡調査研究所年報 1996
2005『木戸窯跡Ⅰ』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第30冊
2006『木戸窯跡Ⅱ』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第31冊
2007『木戸窯跡Ⅲ』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第32冊
2008『六月坂遺跡ほか』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第33冊

宮崎町教育委員会

- 1980『早風遺跡発掘調査報告書』 宮城県宮崎町文化財調査報告書第3集
1990『切込窯跡—近世磁器窯跡の調査—』 宮崎町文化財調査報告書第3集
1996『米泉遺跡』 宮崎町文化財調査報告書第5集
1999『壇の越遺跡Ⅲ—平成10年度発掘調査報告書一』 宮崎町文化財調査報告書第11集
2003『壇の越遺跡Ⅳ』 宮崎町文化財調査報告書第13集
- 村田町教育委員会 1991『新峯崎遺跡』 宮城県村田町文化財調査報告書第9集
- 利府町教育委員会 2011『硯沢窯跡Ⅱ—三陸縦貫自動車道春日バーチングエリア建設に伴う発掘調査報告書一』 利府町文化財調査報告書 第13集

福島県

- 会津若松市教育委員会 1999『集落遺跡』『会津若松市埋蔵文化財分布調査報告書』 会津若松市文化財調査報告書第62号
塙川町教育委員会 2004『塙川町西部地区遺跡発掘調査報告書7 内屋敷遺跡』 塙川町文化財調査報告書第12集
福島市教育委員会 1972『福島市の文化財 西原庵寺跡発掘調査概報』

付章 田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成13～17年度発掘調査について

【調査要項】

遺跡名：団子山西遺跡（宮城県遺跡地名表遺跡登録番号38011）

諏訪遺跡（宮城県遺跡地名表遺跡登録番号38096）

新田柵跡（宮城県遺跡地名表遺跡登録番号38050）

北小松遺跡（宮城県遺跡地名表遺跡登録番号38005）

所在地：団子山西遺跡（宮城県大崎市田尻小松・大嵐・中目・通木）

諏訪遺跡（宮城県大崎市田尻沼木・諏訪岬）

新田柵跡（宮城県大崎市大嵐・八幡・小松）

北小松遺跡（宮城県大崎市田尻北小松）

調査原因：経営体育成基盤事業田尻西部地区

調査主体：田尻町教育委員会（現 大崎市教育委員会）

調査協力：宮城県教育庁文化財保護課（現 宮城県教育庁文化財課）

調査担当：田尻町教育委員会

車田敦（H13～17） 齋藤恵理（H14） 三浦幸子（H16・17）

宮城県文化財保護課

村田晃一（H14） 天野順陽・千葉直樹（H15）

年度	遺跡名	期間	対象面積(㎡)	調査面積(㎡)	備考
平成13（2001）	団子山西遺跡	平成13年11月26日～平成14年1月16日	約75,369	約1,363	然1区南側
平成14（2002）		平成14年10月16日～11月29日	約479,193	約6,050	然1区南側
平成15（2003）		平成15年3月6日			
平成16（2004）		平成15年5月6日～平成16年3月15日	約73,990	約7,788	然1・1区南側
平成16（2004）	諏訪遺跡	平成16年5月12日～平成16年12月13日	約251,263	約2,930	
平成16（2004）	新田柵跡	平成16年5月12日～平成16年12月13日	約73,974	約1,872	然1区内
平成16（2004）		平成16年8月2日～9月13日	約85,377	約835	
平成17（2005）	北小松遺跡	平成17年8月2日～9月13日	約51,384	約335	
平成17（2005）		平成17年8月2日～9月13日	約21,845	約1,317	

調査参加者：

平成13（2001）年度 青木あさよ 石川多寿得 伊藤きりえ 鹿野智幸 狩野都 佐々木しづ江
佐野マリ子 高橋テル子 三浦和子 渡辺美枝子

平成14（2002）年度 青木あさよ 石川多寿得 伊藤きりえ 鹿野智幸 狩野都 小関ふじ子
齋藤肇 佐々木あさ子 佐々木しづ江 佐々木宏嘉 佐々木ちよみ

佐藤あつ子 佐野マリ子 志津川勇 鈴木二見 三浦和子 渡辺美枝子

平成15（2003）年度 青木あさよ 石川多寿得 伊藤きりえ 鹿野智幸 狩野都 小関ふじ子
齋藤肇 佐々木あさ子 佐々木しづ江 佐々木宏嘉 佐々木ちよみ

佐藤あつ子 佐野マリ子 志津川勇 鈴木二見 三浦和子 渡辺美枝子
平成 16 (2004) 年度 佐々木宏嘉 三浦千恵 青木あさよ 狩野智幸 佐藤あつ子 下村憲子
菅原淑子 鈴木二見 渡辺美枝子 伊藤ヨシエ 猪股由美子 猪股詩穂
佐野マリ子 山口實 日野フミエ 松田美慧子 伊藤きりえ 斎藤たにゑ
佐々木あさ子 佐々木京子 狩野都 佐々木チヨミ 志津川勇 高梨リヨ子
千葉敬子 斎藤博道 行澤良雄 高橋かつ子 島貫そのみ 高泉一秋
高橋和恵 門間としゑ
平成 17 (2005) 年度 佐々木宏嘉 青木あさよ 安藤友子 伊藤香奈 伊藤きりえ 狩野智幸
川田吉哉 佐々木美和 佐藤あつ子 菅原淑子 鈴木二見 高泉一秋
高橋和恵 高橋かつ子 高橋修造 流矢重之 三浦慶一 門間としゑ
山口實 渡辺スジエ 渡辺美枝子

1 調査方法

田尻西部地区県営ほ場整備事業に伴う試掘確認調査及び本発掘調査は、転作地（大豆・牧草地）・休耕地や稲刈り終了後の水田で実施した。試掘確認調査は周知の遺跡として登録されている地域および遺跡隣接地、過去の文化財パトロールなどで遺物の散布が確認されているところを対象に、今後のほ場整備事業計画ならびに基本設計の作成と遺跡の保護調整を図ることを目的に行っている。そのため、基本的に遺構は検出のみにとどめ、掘り下げていない。本発掘調査は、工事対象箇所で遺構が破壊される可能性が高い箇所のみ完掘している。

調査方法は、登録遺跡内の工事対象地区を中心に、現水田、畑地などに幅2～3mの調査区（トレント）を適宜設定し、掘削順に調査区番号をつけた。表土は重機によって取り除き、遺構検出状況や地形・地層の状況を検討しながら進めていった。

調査の記録は、縮尺1：1000の地形図と遺構実測支援システムによる平面図作成を行い、検出遺構と調査区、土層、掘削した深さなどを簡略的に記したものである。また、すべての調査区で写真(35mmカメラ・デジタルカメラ)撮影を行った。

2 基本層

(1) 団子山西遺跡基本層

第Ⅰ層：耕作土（層厚10～50cm）、水田もしくは畑の耕作面

第Ⅱ層：盛土（層厚30～70cm）、35・36Tで確認

第Ⅲ層：褐色～灰黄褐色土（層厚10～20cm）、35・36Tで確認

第Ⅳ層：褐色～黒褐色土（層厚15～36cm）

第Ⅴ層：黄褐色砂質土（層厚10～30cm）

第VI層：黒色粘土（層厚10～15cm）

第VII層：黄褐色砂質土（地山）、遺構検出面

(2) 北小松遺跡・諫訪遺跡・新田柵跡基本層

- 第Ⅰ層：水田耕作土（層厚 14～20cm）
- 第Ⅱ層：褐色土（層厚 2～16cm）、水田床土
- 第Ⅲ層：黄褐色または黒褐色土（層厚 20～30cm）
- 第Ⅳ層：灰白色火山灰（層厚 3～6cm）
- 第Ⅴ層：黒褐色粘土質土（層厚 3～6cm）、泥炭層
- 第Ⅵ層：黒褐色土、古代の遺構検出面
- 第Ⅶ層：黒色粘土層、縄文土器を多く含む

3 調査概要

(1) 団子山西遺跡（平成 13～16 年度）

田尻西部地区は場整備事業に係る団子山西遺跡の発掘調査は、本調査前の範囲確認を主とし、平成 13～16 年度に田尻川右岸の旧神明遺跡エリアと田尻川左岸地区で調査を行っている。また、昭和 59 年田尻川河川改良工事に伴い出土した墨書・刻書土器の土師器壺（C-13、D-4）、須恵器壺（E-15～21）は、隣接する古代城柵官衙遺跡「新田柵跡」と本遺跡の解明に重要な資料と考えられることから、この場で提示しておく。（第 7 図）

平成 13 年度は、調査区を 17 ヶ所設定して試掘確認調査を行った。調査面積は 1,363m²で、遺構は掘立柱建物跡 3 棟以上、竪穴建物跡 6 軒、溝跡多数、土坑 13 基、井戸跡 1 基、ピット多数、遺物は土師器、須恵器、羽口、中世・近世陶器が出土しているが図化できるものはなかった。（第 1・3・4 図）

平成 14 年度は、調査区を 91 ヶ所設定して試掘確認調査を行った。調査面積は約 6,050m²で、遺構は掘立柱建物跡 4 棟、井戸跡 4 基、溝跡 8 条、河川跡 2 条、ピット多数、遺物は土師器壺・甕（C-15）、須恵器壺（E-32）、中世・近世陶器を発見している。（第 1・2・3・4・8 図）

平成 15 年度は、調査区を 47 ヶ所設定して試掘確認調査及び本発掘調査を行った。試掘確認調査の調査面積が約 3,721m²、本発掘調査が約 4,067m²で、遺構は掘立柱建物跡 6 棟、竪穴建物跡 4 軒、井戸跡 2 基、河川跡 2 条、小溝状遺構群、近世墓群、遺物は土師器壺・甕・鉢（C-25）、須恵器壺（E-41）、甕（E-38）、瓦、石製品、金属製品、錢貨、中世・近世陶器を発見している。（第 1・2・3・4・8・9 図）

平成 16 年度は、調査区を 22 ヶ所設定して試掘確認調査を行った。調査面積は約 2,930m²で、遺構は掘立柱建物跡 6 棟以上、竪穴建物跡 6 軒、井戸跡 5 基、溝跡 82 条、河川跡 2 条、土坑 41 基、ピット多数、遺物は縄文土器鉢、土師器壺・甕、須恵器壺（E-60）、高台壺・蓋・風字甕（E-50）、甕（E-63）等を発見している。（第 1・5・6・10 図）

(2) 諫訪遺跡（平成 16 年度）

調査区を 20 ヶ所設定して試掘確認調査を行った。調査面積は約 1,872m²で、その結果、高まり（4・5 調査区）やその周辺（1・2・3 調査区）で、現地表面より 15～30cm 下の地山面から建物の柱穴となる可能性が高い柱穴・溝跡・土坑などの遺構を検出し、それに伴い土師器・須恵器などの遺物

も出土している。また、6調査区では現地表面より86cm下で縄文土器が出土した地層も確認している。その結果現水田面の20cm下には泥炭層が確認され、7～9・13～20調査区からは遺構・遺物を検出していない。層の堆積状況を確認するため、13・14調査区を1.2m掘り下げた結果、水田耕作土下、灰白色火山灰層（平安時代に降下した火山灰）を間にはさみ、その上下に泥炭（スクモ）層が堆積していることが確認できた。諏訪駅周辺の低地は古代以前から長く低湿地の状態であったと考えられる。年代は、出土遺物から、縄文時代・古代のものと考えられる。（第11・12図）

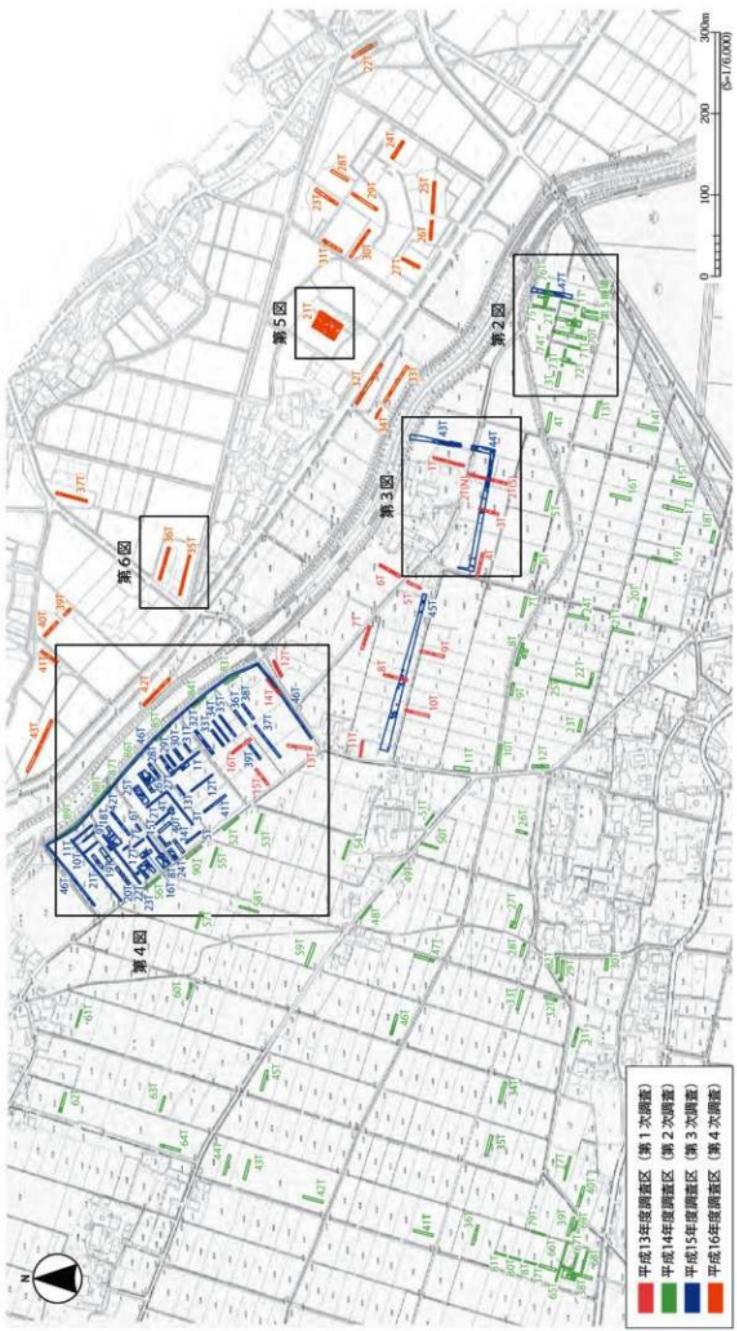
（3）新田柵跡（平成16・17年）

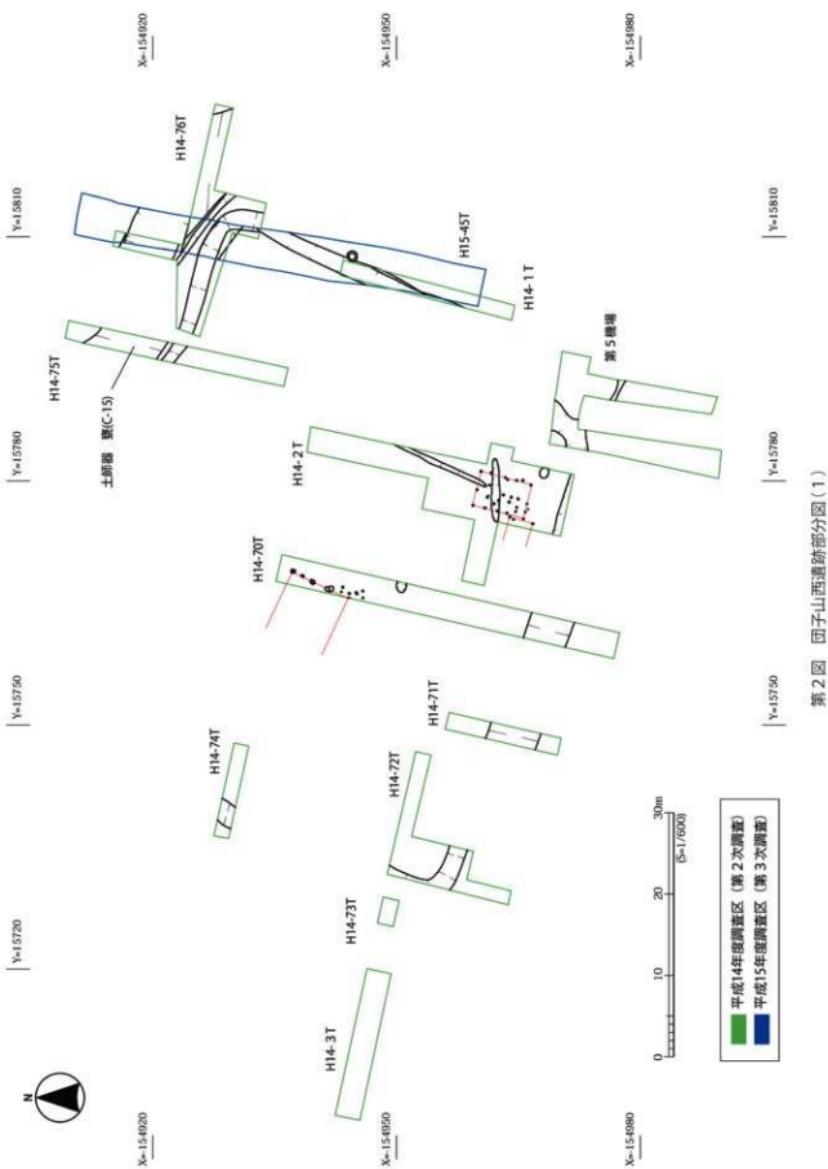
平成16年度は、調査区を30ヶ所設定して試掘確認調査を行った。調査面積は約835m²で、その結果、丘陵部に設定した49・50・55～59・62調査区では、現地表面より約20cm下で建物の柱穴となる可能性が高い穴や溝跡・土坑・河川跡や人為的に整地したと考えられる遺構と土師器・須恵器・瓦などの遺物も出土している。特に49・50・55調査区で遺構・遺物の数が非常に多い。このことから、丘陵部はもちろんのこと、丘陵裾部周辺にも遺構があることは確実である。農道の北側・大嶺丘陵から西側に延びる丘陵部に設定した69・70・73調査区では人為的に掘って、盛られたような凹凸が確認されている。性格・時代については不明であるが少なくとも、新田柵などに関連する古代の遺構ではないと考えられる。また、57～59・62調査区では溝跡などを検出しており、土師器や須恵器などの古代の遺物も出土していることから、古代の遺構の可能性が高い。52～54・60・63～68調査区は後世の削平により、72調査区は泥炭（スクモ）層で遺構などは検出していない。このことから農道沿いの丘陵の高いところは、後世に削平を受けているが、一段下がった部分には古代の遺構が残存しているものと考えられる。

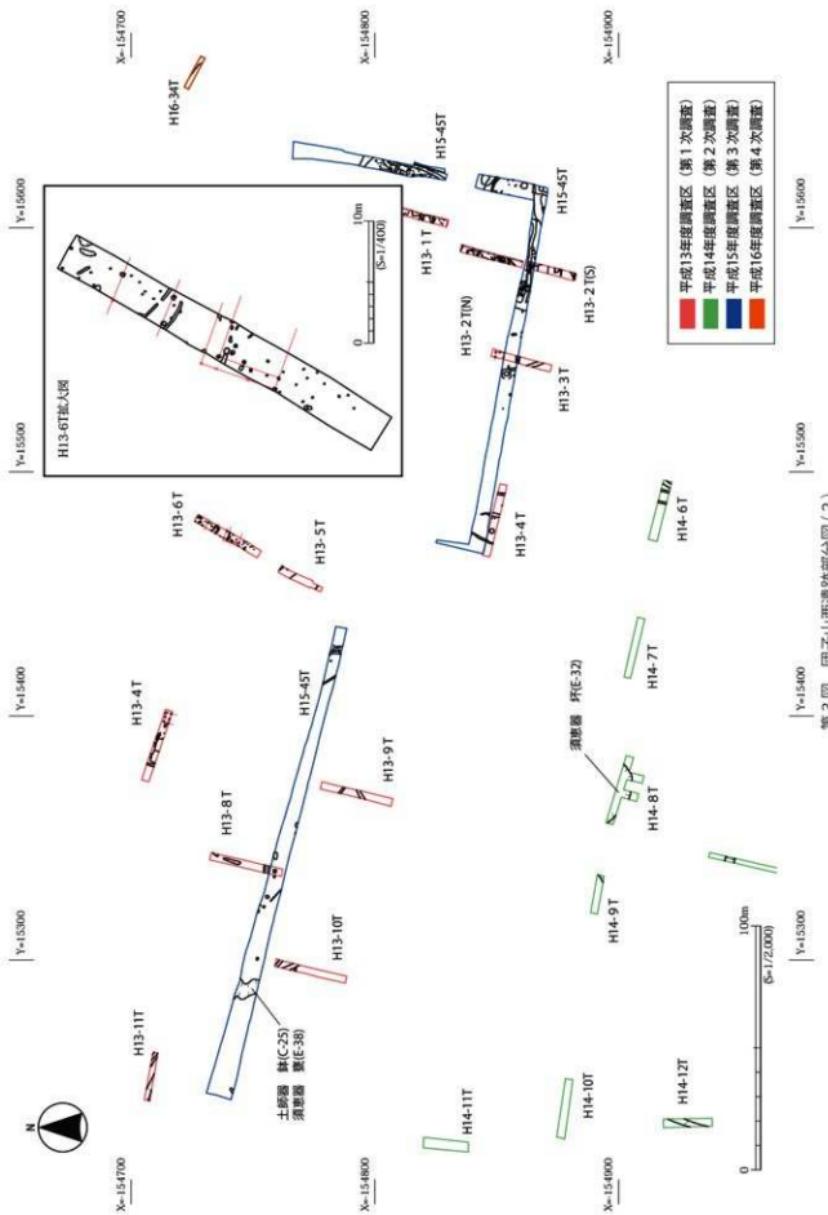
平成17年度は、調査区を14ヶ所設定して試掘確認調査を行った。調査面積は約334m²で、その結果、水田耕作面より10～25cm下で9世紀初頭に降下した灰白色火山灰層を検出し、その下には泥炭（スクモ）層が厚く堆積していることを確認している。丘陵部に設定した4・5調査区では、表土を12～40cm取り除くと溝跡・土坑が検出され、丘陵部では遺構が残存していることが判明した。遺物は溝跡や堆積土から土師器・須恵器・瓦・綠釉陶器・縄文土器等が出土している。また、5・9～15調査区は、丘陵から湿地への境界であることを確認している。（第11・13図）

（4）北小松遺跡（平成17年度）

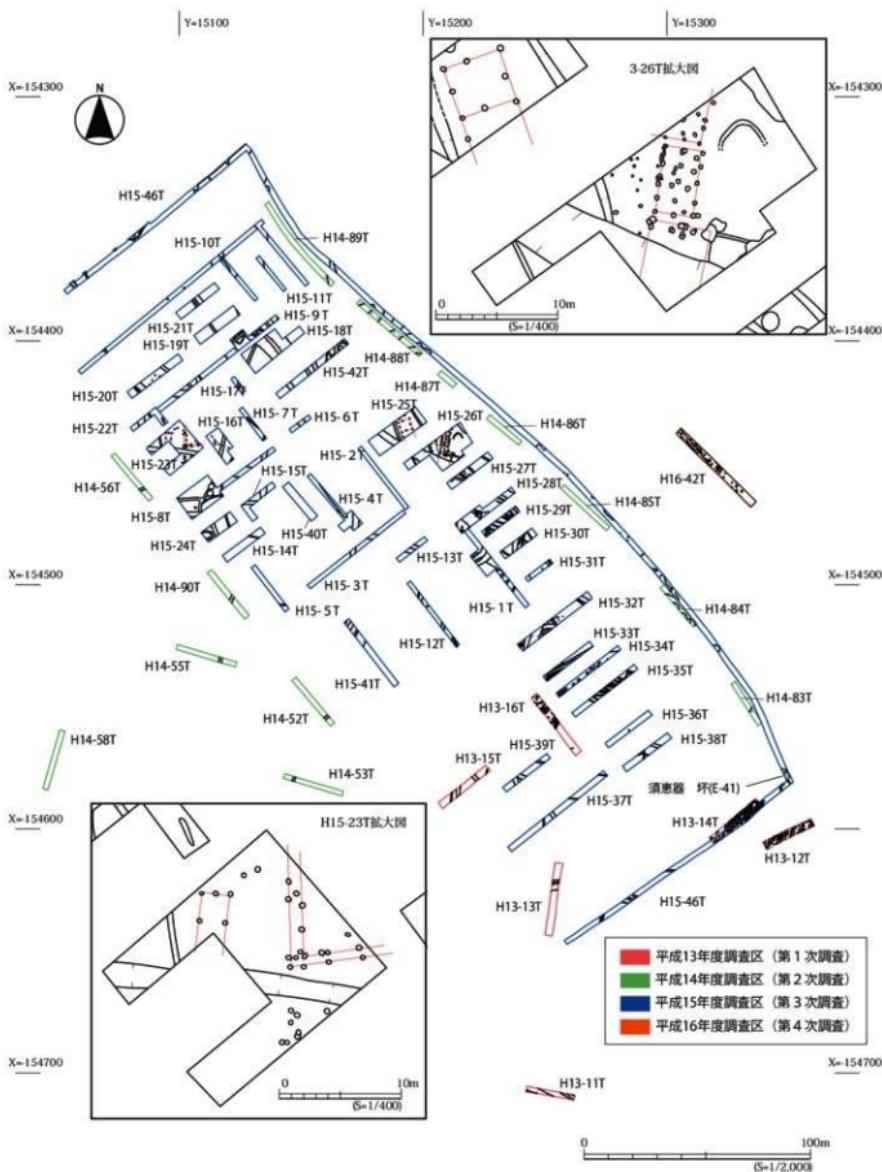
調査区を75カ所設定し、約1,317m²の発掘調査を行った。広域農道より南側の大嶺丘陵西側では、水田耕作土・休耕地表土より10～15cm下で灰白色火山灰層を検出し、その下には泥炭（スクモ）層が厚く堆積していることを確認している。しかし、遺構・遺物は発見されなかった。広域農道より北側の調査区は、丘陵沿いの耕作土・休耕地表土を取り除くと岩盤や青灰色砂質土主体の地山である。一方、低地では表土を約40cm取り除くとスクモ層が厚く堆積している。遺構はいずれの調査区でも検出されなかったが、調査対象地区の中央部・北東一南北方向に河川が洪水の痕跡と思われる水成堆積層を確認している。遺物は丘陵沿いの丘陵部と湿地との境界周辺にある37～48調査区では、表土を10～15cm取り除いた黒褐色砂質土から縄文土器・土偶（P-1）、スクモ層や河川堆積土から縄文土器、土師器・須恵器等が出土している。（第11・14・15図）







第3図 因子山西遺跡部分図(2)



第4図 団子山西遺跡部分図(3)



第5図 団子山西遺跡部分図(4)



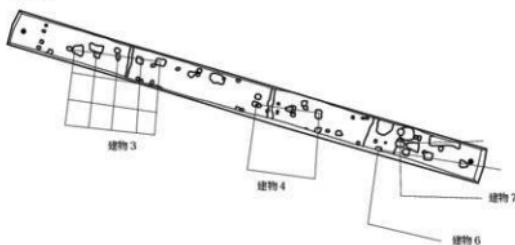
X=154450

Y=15450

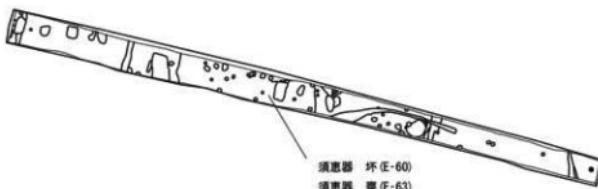
Y=15500

X=154450

H16-36T



H16-35T



X=154500

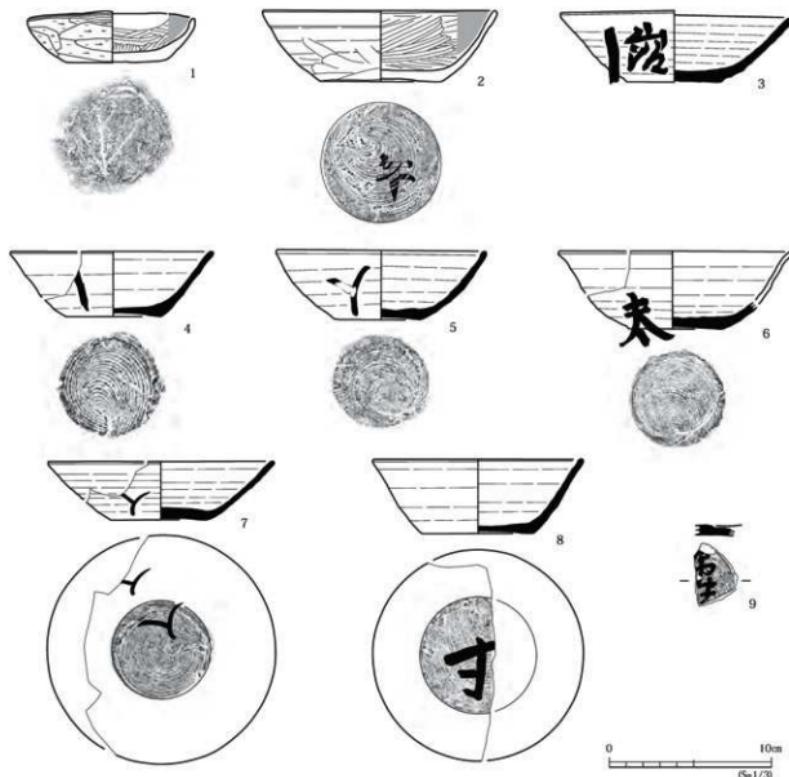
Y=15450

Y=15475

X=154500

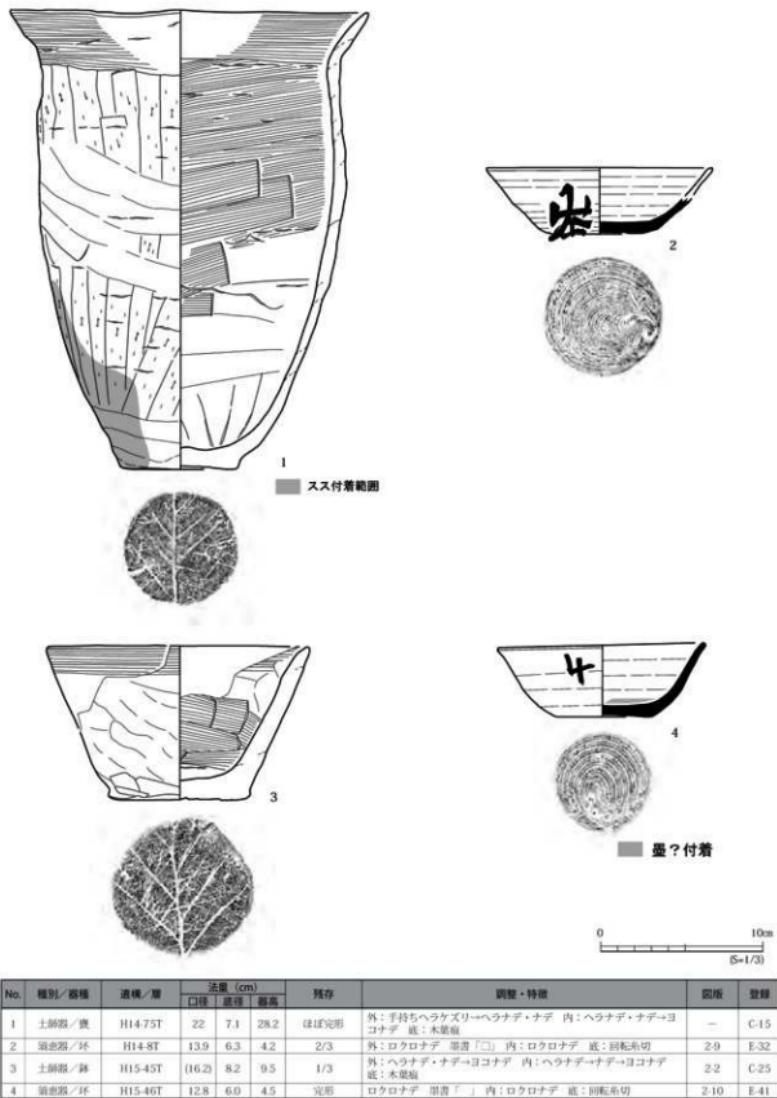
0 10m
(S=1/400)

第6図 団子山西遺跡部分図(5)

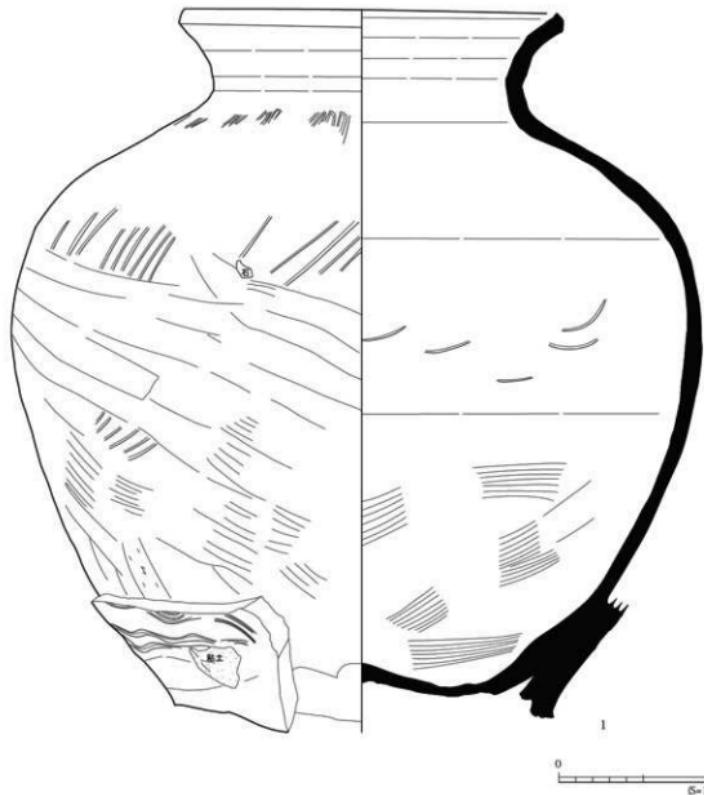


No.	種別／器種	遺構／層	法量 (cm)			既存	調査・特徴	回叢	登録
			口径	底径	高さ				
1	土師器／环	田尻川河川改修	10.2	6.1	3.1	1/3	外：手打ちへラケズリヨコナデ 内：ヘラミガキ 黒色包埋	2-1	C-13
2	土師器／环	田尻川河川改修	14.3	7.4	4.3	2/3	外：ロクロナデナデ 内：ヘラミガキ 黑色包埋 底：回転系切 墓書「牛」	2-3	D-4
3	陶器器／环	田尻川河川改修	14.4	5.9	4.4	ほぼ完形	外：ロクロナデ 墓書□+□ 猫？ 内：ロクロナデ 底：回転系切	2-4	E-15
4	陶器器／环	田尻川河川改修	12.8	5.8	4.1	1/3	外：ロクロナデ 墓底 内：ロクロナデ 底：回転系切	-	E-16
5	陶器器／环	田尻川河川改修	12.9	5.4	4.3	一部欠	外：ロクロナデ 墓書「人」逆位 内：ロクロナデ 底：回転系切	-	E-18
6	陶器器／环	田尻川河川改修	14.2	5.8	5.0	1/3	外：ロクロナデ 墓書「先」内：ロクロナデ 底：回転系切	2-5	E-20
7	陶器器／环	田尻川河川改修	13.9	5.8	3.9	1/2	外：ロクロナデ 墓書「人」逆位 内：ロクロナデ 底：回転系切 墓書「人」	2-6	E-17
8	陶器器／环	田尻川河川改修	(12.9) (7.1)	4.5	1/2	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ 底：回転系切 墓書「寸」	2-7	E-19	
9	陶器器／环	田尻川河川改修	-	-	-	一部欠 底：回転系切 墓書「□+生」	2-8	E-21	

第7図 団子山西遺跡 昭和59年田尻川河川改修工事出土遺物

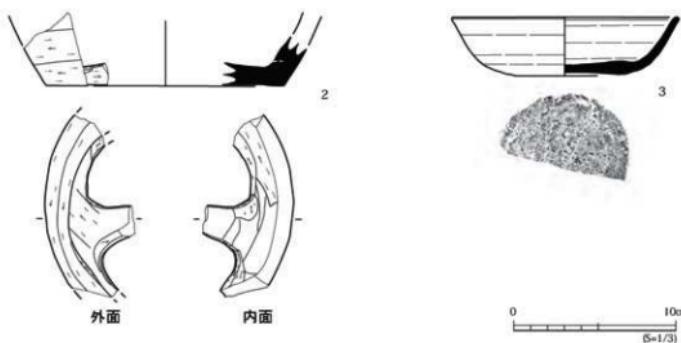
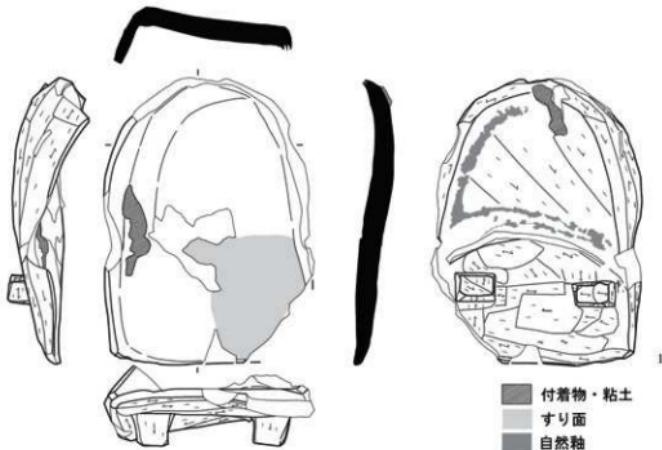


第8図 団子山西遺跡 平成14年出土遺物・平成15年出土遺物(1)



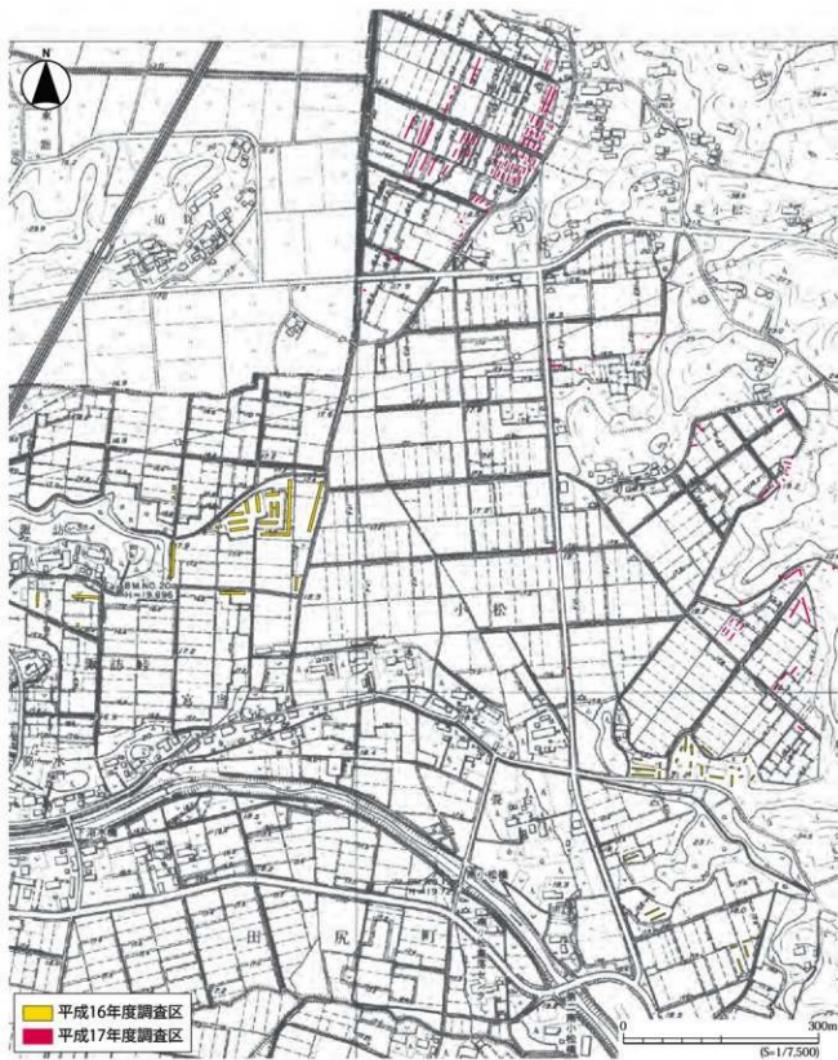
No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm) 口径　底径　通高	既存	調査・特徴	回収	登録
I	須恵器／壺	H15-45T	22.9 (43.6)	口径～体部	外：ロクロナデ→平行タタキ・カセメ？・ヘラナデ・手持ちハラケ 入り 内：ロクロナデ→向山形当乳縫・ヘラナデ	-	E-38

第9図 団子山西遺跡 平成15年出土遺物（2）



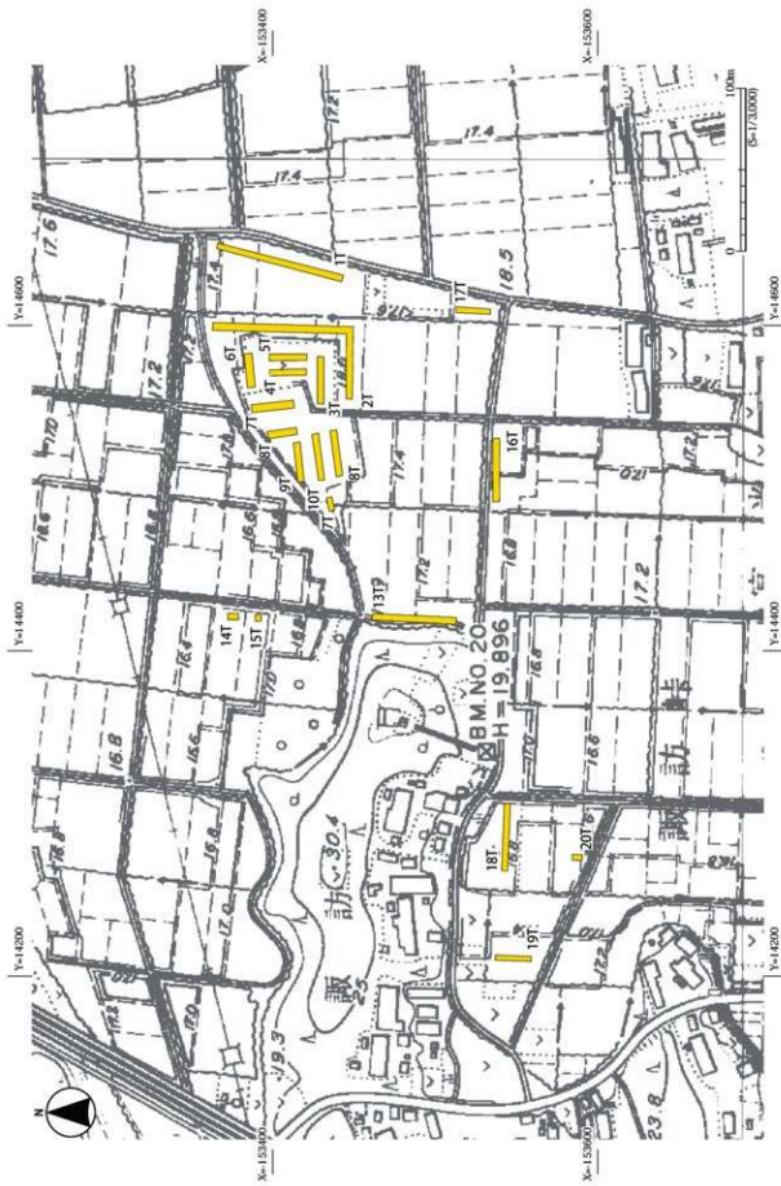
No.	種別／器種	遺構／層	全長(cm)			残存	調査・特徴	回収	登録
			口径	底径	側高				
1	須恵器／風字版	H16-27T	12.9	17.6	5.0	1/3	外：手持ちヘラケズリ 内：調整不明・自然釉 成：手持ちヘラケズリ	2-12	E-50
2	須恵器／瓶	H16-35T	—	(4.6)	(4.5)	一部	外：手持ちヘラケズリ 内：手持ちヘラケズリ・ヘラナデ 成：手持ちヘラケズリ	2-11	E-63
3	須恵器／杯	H16-35T	—	(7.5)	(4.6)	4/5	外：ロクロナデ 火だすき 内：ロクロナデ 成：回転ヘラケズリ→手持ちヘラケズリ→斜書き「×」	—	E-60

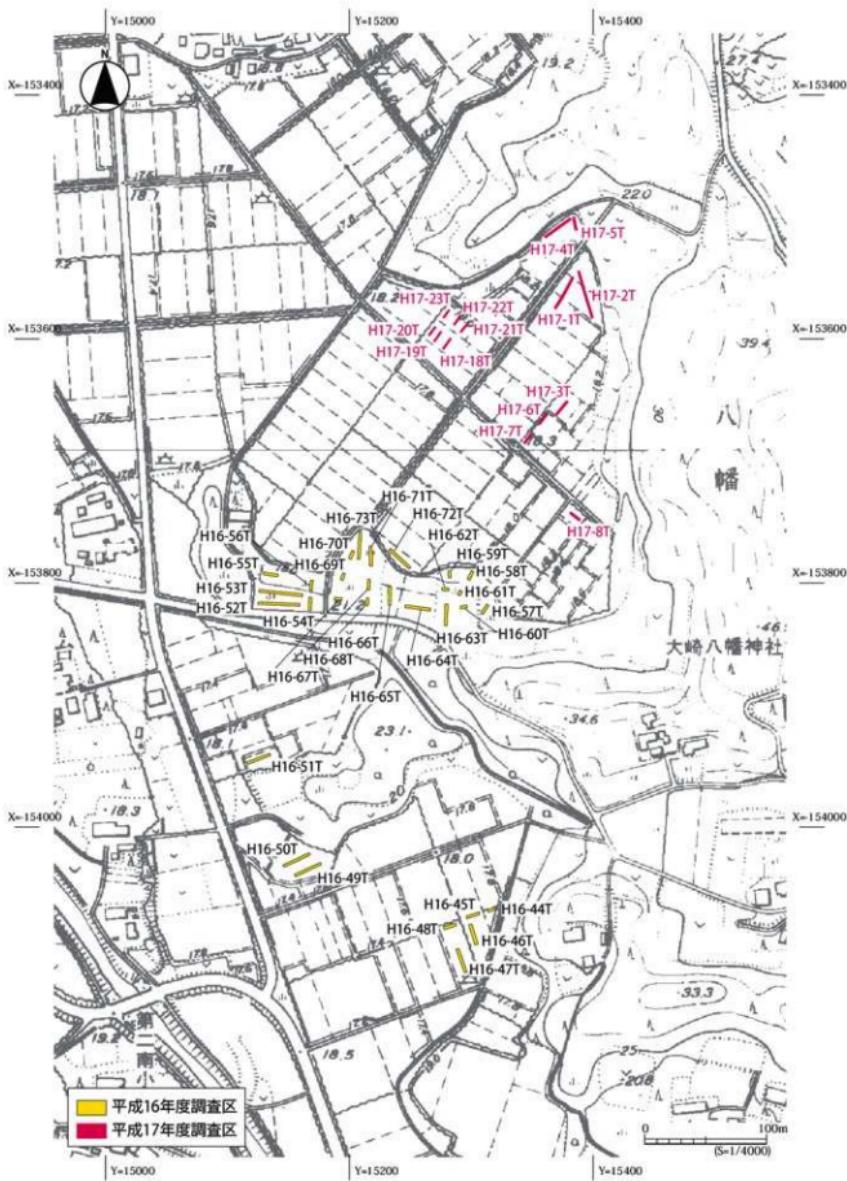
第10図 団子山西遺跡 平成16年出土遺物



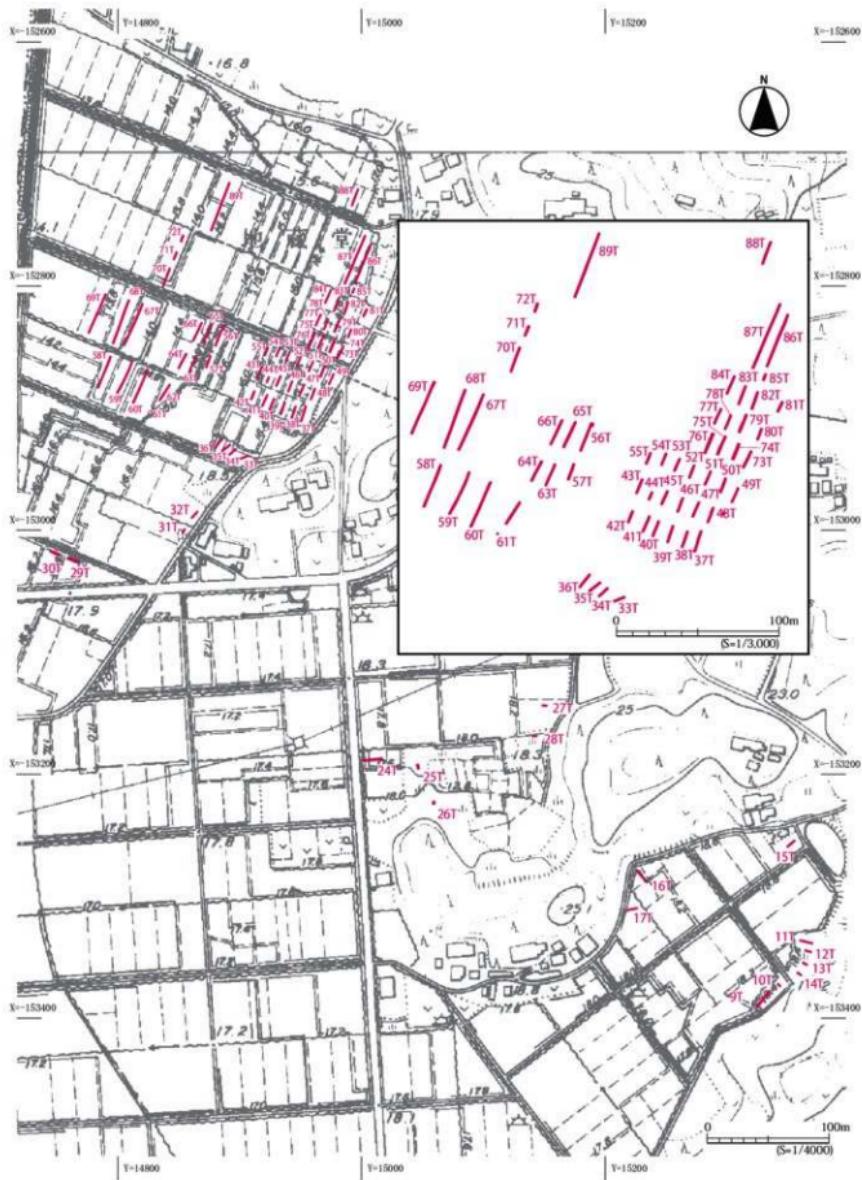
第11図 平成16年度調査遺跡・北小松遺跡・新田柵跡調査区全体図

第12図 平成16年度調査訪問区全体図

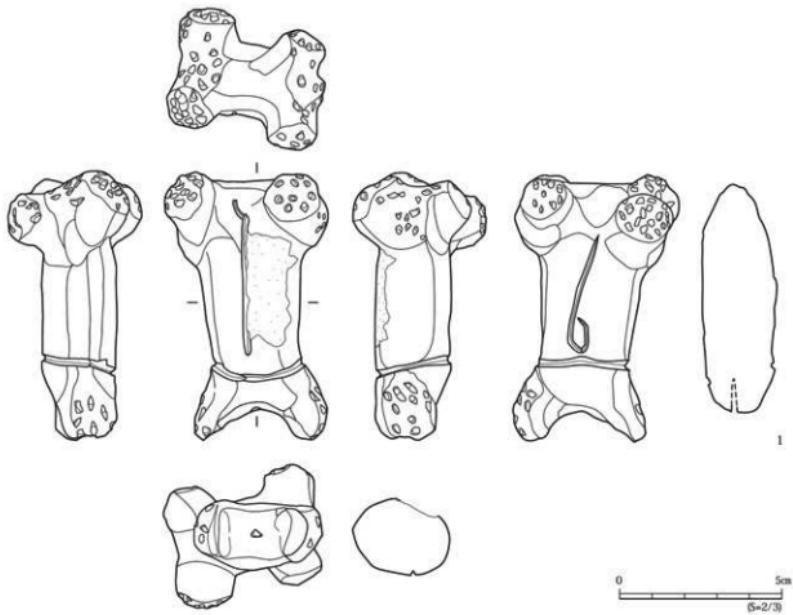




第13図 平成16・17年度新田柵跡調査区全体図



第14図 平成17年度北小松遺跡調査区全体図



No.	種別／器種	遺構／層	法量(cm)			隙存	調整・特徴	回版	登録
			長さ	幅	最大厚				
1	土製品／土偶	3TT/a層	8.2	4.5	3.6	ほぼ完形	中実、肩部(頭部?)：前後左右に瘤状の突起・側突列、体部：正中線・背面に逆J字状の沈線、腹部：平行沈線、脚部：側突列・脚の付け根に刺突	2-13	P.1

第15図 北小松遺跡出土土偶

第1表 团子山西遺跡調査区概要表（1）

次数	調査区	調査原因	面積 (m²)	確認面	深さ (m)	遺構	遺物
第1次	H13-1	確認	120.0	Ⅵ	0.3	竪穴建物跡2軒、溝跡2条、土坑2基、ピット多數	土師器、須恵器
	H13-2(0)	確認	78.0	Ⅵ	0.3～0.4	竪穴建物跡1軒、溝跡10条、土坑1基、ピット多數	土師器、須恵器、羽口
	H13-2(9)	確認	60.0	Ⅵ	0.2	竪穴建物跡1軒、溝跡3条、土坑1基、ピット多數	土師器、須恵器
	H13-3	確認	75.0	Ⅵ	0.1～0.2	掘立柱建物跡1棟、溝跡2条	なし
	H13-4	確認	90.0	Ⅵ	0.2	溝跡3条、井戸跡？1基	中世陶器（すり鉢）
	H13-5	確認	51.0	Ⅵ	0.5～0.8	河岸跡1条、溝跡1条、ピット2個	土師器、須恵器
	H13-6	確認	90.0	Ⅵ	0.2	掘立柱建物跡1棟、溝跡7条、土坑2基、ピット多數	須恵器
	H13-7	確認	93.0	Ⅵ	0.2	掘立柱建物跡1棟、竪穴建物跡2軒、溝跡5条、土坑1基、ピット8個	土師器、須恵器
	H13-8	確認	90.0	Ⅵ	0.3	溝跡4条	禮賀
	H13-9	確認	90.0	Ⅵ	0.2	溝跡2条	陶器（日式茶碗）
第2次	H13-10	確認	90.0	Ⅵ	0.2～0.5	溝跡3条	土師器、須恵器
	H13-11	確認	40.0	Ⅵ	0.2～0.5	溝跡3条、土坑1基、ピット1個	須恵器
	H13-12	確認	66.0	Ⅵ	0.2～0.3	聯合柱建物跡1棟、柱跡3列、溝跡15条、ピット多數	土師器、須恵器
	H13-13	確認	90.0	Ⅵ	0.2～0.3	溝跡4条	土師器、須恵器
	H13-14	確認	75.0	Ⅵ	0.2～0.3	小溝状窓櫛部、土坑4基	土師器
	H13-15	確認	75.0	Ⅵ	0.2～0.3	溝跡4条	土師器
	H13-16	確認	90.0	Ⅵ	0.2～0.5	溝跡13条、土坑2基、ピット多數	土師器、須恵器
	H14-1	確認	41.0	Ⅵ	0.4～0.5	溝跡1条	なし
	H14-2	確認	205.7	Ⅵ	—	掘立柱建物跡2棟、溝跡3条、土坑1基、ピット多數	丸瓦
	H14-3	確認	56.5	Ⅵ	—	なし	なし
第2次	H14-4	確認	75.4	Ⅵ	—	なし	なし
	H14-5	確認	81.4	Ⅵ	—	溝跡1条	土師器、須恵器、近世陶器
	H14-6	確認	88.6	Ⅵ	—	溝跡3条	なし
	H14-7	確認	70.3	Ⅵ	—	なし	なし
	H14-8	確認	127.5	Ⅵ	—	溝跡1条	土師器、須恵器、丸瓦
	H14-9	確認	44.1	Ⅵ	—	溝跡1条	なし
	H14-10	確認	77.5	Ⅵ	—	なし	近世陶器、近世陶磁器、ガラス片
	H14-11	確認	76.6	Ⅵ	—	なし	なし
	H14-12	確認	67.2	Ⅵ	—	溝跡1条	近世陶器
	H14-13	確認	65.8	Ⅵ	—	なし	なし
	H14-14	確認	83.0	Ⅵ	—	なし	土師器、近世陶器
	H14-15	確認	76.9	Ⅵ	—	なし	なし
	H14-16	確認	83.6	Ⅵ	—	なし	赤绘土器、須恵器
	H14-17	確認	87.4	Ⅵ	—	なし	なし
	H14-18	確認	42.3	Ⅵ	—	溝跡1条	なし
	H14-19	確認	66.6	Ⅵ	—	溝跡2条	なし
	H14-20	確認	77.5	Ⅵ	—	溝跡2条	なし
	H14-21	確認	72.3	Ⅵ	—	なし	須恵器
	H14-22	確認	46.4	Ⅵ	0.3	溝跡3条	なし
	H14-23	確認	43.0	Ⅵ	0.3	なし	なし
	H14-24	確認	73.8	Ⅵ	0.2	なし	なし
	H14-25	確認	97.7	Ⅵ	—	溝跡4条	土師器、近世陶磁器
	H14-26	確認	39.0	Ⅵ	—	溝跡1条	なし
	H14-27	確認	128.4	Ⅵ	—	溝跡2条、ピット4個	なし
	H14-28	確認	47.3	Ⅵ	—	溝跡1条	なし
	H14-29	確認	82.4	Ⅵ	—	溝跡1条	なし
	H14-30	確認	42.8	Ⅵ	—	なし	近世陶磁器
	H14-31	確認	71.7	Ⅵ	—	溝跡1条	近世陶器
	H14-32	確認	50.0	Ⅵ	—	溝跡1条	なし
	H14-33	確認	74.9	Ⅵ	—	なし	なし
	H14-34	確認	80.5	Ⅵ	—	なし	近世陶磁器
	H14-35	確認	80.5	Ⅵ	—	なし	なし
	H14-36	確認	72.8	Ⅵ	—	溝跡1条	土師器
	H14-37	確認	68.0	Ⅵ	—	土坑1基、ピット2個	陶磁器
	H14-38	確認	226.3	Ⅵ	—	掘立柱建物跡2棟、溝跡2条、ピット多數	なし
	H14-39	確認	71.7	Ⅵ	—	土坑1基、ピット1個	なし
	H14-40	確認	79.7	Ⅵ	—	溝跡1条、土坑1基、ピット1個	なし
	H14-41	確認	69.3	Ⅵ	—	なし	なし
	H14-42	確認	74.4	Ⅵ	—	なし	なし
	H14-43	確認	72.4	Ⅵ	—	なし	なし
	H14-44	確認	74.3	Ⅵ	—	なし	なし
	H14-45	確認	78.7	Ⅵ	—	なし	なし
	H14-46	確認	75.0	Ⅵ	—	溝跡1条	なし
	H14-47	確認	73.7	Ⅵ	—	溝跡1条	なし
	H14-48	確認	45.1	Ⅵ	—	なし	なし
	H14-49	確認	33.9	Ⅵ	—	溝跡1条	なし

第2表 団子山西遺跡調査区概要表（2）

次数	調査区	調査原因	面積 (m ²)	標高面	深さ (m)	遺構	遺物
第2次	H14-50	確認	51.8	VII	—	溝跡1条	なし
	H14-51	確認	32.6	VII	—	溝跡1条	なし
	H14-52	確認	51.7	VII	0.35～0.6	溝跡1条	なし
	H14-53	確認	49.4	VII	0.35～0.4	溝跡1条	なし
	H14-54	確認	52.8	VII	0.4	溝跡1条	なし
	H14-55	確認	51.8	VII	0.35～0.4	溝跡1条	なし
	H14-56	確認	50.0	VII	0.4	溝跡1条	なし
	H14-57	確認	47.5	VII	0.30～0.35	なし	なし
	H14-58	確認	53.1	VII	0.8～0.9	なし	なし
	H14-59	確認	103.2	VII	0.2	なし	なし
	H14-60	確認	48.2	VII	0.2	溝跡1条	なし
	H14-61	確認	43.4	VII	0.25～0.3	なし	なし
	H14-62	確認	70.7	VII	0.2	溝跡2条	なし
	H14-63	確認	45.5	VII	—	なし	なし
	H14-64	確認	73.7	VII	—	溝跡1条	なし
	H14-65	確認	101.1	VII	0.25～0.4	土坑1基	なし
	H14-66	確認	19.1	VII	0.25	獨立柱建物1棟、井戸跡1基	なし
	H14-67	確認	40.6	VII	0.25	土坑1基	なし
	H14-68	確認	52.3	VII	0.3	なし	なし
	H14-69	確認	24.8	VII	0.8	なし	なし
	H14-70	確認	140.7	VII	—	獨立柱建物1棟、溝跡1条、井戸跡1基、 ビット多数	なし
	H14-71	確認	30.0	VII	—	溝跡1条	なし
	H14-72	確認	80.4	VII	—	溝跡1条	なし
	H14-73	確認	6.5	VII	—	なし	なし
	H14-74	確認	21.3	VII	—	溝跡1条	なし
	H14-75	確認	64.5	VII	—	溝跡2条	土師器、須恵器
	H14-76	確認	139.9	VII	—	溝跡3条	土師器
	H14-77	確認	61.9	VII	—	なし	なし
	H14-78	確認	27.3	VII	—	溝跡1条	なし
	H14-79	確認	32.1	VII	—	溝跡1条	なし
	H14-80	確認	29.0	VII	—	なし	なし
	H14-81	確認	26.3	VII	—	なし	なし
	H14-82	確認	48.9	VII	—	なし	なし
	H14-83	確認	40.5	VII	0.68	溝跡(旧河川)1条	なし
	H14-84	確認	44.6	VII	0.7	土坑3基	なし
	H14-85	確認	52.4	VII	0.44	なし	なし
	H14-86	確認	35.2	VII	0.57	なし	なし
	H14-87	確認	18.4	VII	0.8	なし	なし
	H14-88	確認	71.0	VII	0.5	溝跡(旧河川)4条	なし
	H14-89	確認	90.7	VII	0.78	溝跡(旧河川)1条	なし
	H14-90	確認	55.1	VII	0.3～0.4	溝跡1条	なし
	第五機場		129.6	VII	0.18～0.27	溝跡2条	なし
第3次	H15-1	確認	124.9	VII	0.55	溝跡7条	土師器、須恵器、近世陶磁器、硯石？
	H15-2	確認	54.7	VII	0.35	なし	なし
	H15-3	確認	90.6	VII	0.25	溝跡2条	須恵器
	H15-4	確認	85.0	VII	0.35	溝跡3条	なし
	H15-5	確認	44.4	VII	0.35	溝跡1条	なし
	H15-6	確認	17.0	VII	0.2	溝跡1条	なし
	H15-7	確認	28.3	VII	0.32	溝跡2条	なし
	H15-8	確認	221.1	VII	0.25	溝跡5条、井戸跡2基	土師器、須恵器、丸瓦
	H15-9	確認	149.5	VII	0.24	竪穴建物1軒、溝跡7条、ビット多数	土師器、須恵器、硯石、錢貨
	H15-10	確認	270.6	VII	0.3	溝跡4条、ビット3個	土師器、須恵器、有孔円盤
	H15-11	確認	26.1	VII	0.6	溝跡(旧河川)1条	土師器、須恵器
	H15-12	確認	53.6	VII	0.37	溝跡6条、ビット2個	土師器、須恵器
	H15-13	確認	29.4	VII	0.43	溝跡2条	なし
	H15-14	確認	62.3	VII	—	溝跡1条	なし
	H15-15	確認	53.7	VII	—	溝跡1条	なし
	H15-16	確認	77.6	VII	0.3	溝跡1条、ビット多数	土師器
	H15-17	確認	13.0	VII	—	溝跡1条	土師器、金屬製品
	H15-18	確認	195.9	VII	0.35	溝跡3条	土師器、須恵器
	H15-19	確認	91.5	VII	—	溝跡2条	なし
	H15-20	確認	83.2	VII	—	溝跡3条、ビット4個	なし
	H15-21	確認	67.6	VII	0.4	溝跡2条	なし
	H15-22	確認	40.0	VII	—	溝跡3条	土師器
	H15-23	確認	198.8	VII	—	獨立柱建物2棟、溝跡2条、ビット多数	なし
	H15-24	確認	71.8	VII	—	溝跡3条	なし
	H15-25	確認	186.0	VII	0.25	獨立柱建物1棟、獨立柱建物3棟、 溝跡5条、ビット多数	須恵器
	H15-26	確認	232.0	VII	0.25	竪穴建物1軒、獨立柱建物3棟、 溝跡5条、ビット多数	土師器、赤燒土器、須恵器、丸瓦、 近世陶磁器、近代陶器7、硯石、錢貨製品
	H15-27	確認	70.3	VII	0.25	溝跡4条、土坑3基	なし
	H15-28	確認	100.5	VII	0.3～0.55	竪穴建物1軒、溝跡6条、ビット4個	土師器、須恵器

第3表 团子山西遺跡調査区概要表（3）

次数	調査区	調査区原	面積 (m²)	確認面	深さ (m)	遺構	遺物
第3次	H15-29	確認	48.2	Ⅷ	0.45～0.55	溝跡13条、土坑1基	なし
	H15-30	確認	57.1	Ⅷ	0.25～0.8	溝跡6条	土師器、須世器、近世陶磁器
	H15-31	確認	24.5	Ⅷ	0.3～0.7	溝跡2条、ビット3個	土師器
	H15-32	確認	123.6	Ⅷ	0.25～0.55	溝跡10条、土坑1基、ビット多数	土師器、赤燒土器、須世器、近世陶磁器
	H15-33	確認	59.5	Ⅷ	0.3	溝跡5条	土師器、須世器
	H15-34	確認	64.5	Ⅷ	0.25	溝跡2条、土坑7基、ビット多数	土師器、須世器
	H15-35	確認	73.8	Ⅷ	0.4	溝跡14条	土師器、須世器、丸瓦
	H15-36	確認	53.1	Ⅷ	0.4	ビット1個	土師器、須世器
	H15-37	確認	125.2	Ⅷ	0.35	溝跡4条	なし
	H15-38	確認	62.8	Ⅷ	0.35	溝跡3条、土坑1基	土師器、須世器
	H15-39	確認	53.5	Ⅷ	0.3	溝跡3条	なし
	H15-40	確認	59.2	Ⅷ	—	なし	須世器
	H15-41	確認	81.1	Ⅷ	0.3	溝跡3条	なし
	H15-42	確認	95.5	Ⅷ	0.3	溝跡7条、土坑1基、ビット4個	土師器、須世器
	H15-43	事前	315.4	Ⅷ	0.3～0.65	竪穴建物跡2軒、溝跡4条、ビット多数	土師器、赤燒土器、須世器、近世陶磁器、中近世陶磁器、近世陶器、鉄製品、馬箇
	H15-44	事前	983.6	Ⅷ	0.2～0.85	溝跡8条、井戸1基、土坑3基、近世柱11基、ビット多数	土師器、赤燒土器、須世器、土師質土器、瓦、近世陶器、鉄製品
	H15-45	事前	1319.3	Ⅷ	0.3～0.4	溝跡5条、土坑4基、ビット多数	土師器、須世器
	H15-46	事前	1207.9	Ⅷ	0.2～0.82	小溝状堆积層、溝跡14条、土坑3基、ビット多数	土師器、赤燒土器、須世器、近世陶磁器、丸瓦、平瓦、手づくね土器、砾石
	H15-47	事前	2405.9	Ⅷ	0.27～0.49	溝跡2条、土坑1基	なし
第4次	H16-21	確認	64.0	Ⅷ	0.1～0.2	竪穴建物跡4軒、掘立柱建物跡4棟、溝跡9条、井戸2条、土坑2基、ビット多数	土師器、須世器、板
	H16-22	確認	88.0	Ⅷ	0.3	なし	なし
	H16-23	確認	110.8	Ⅷ	0.16～0.2	土坑1基、ビット多数	土師器、須世器
	H16-24	確認	88.9	Ⅷ	0.37～0.4	竪穴建物跡1軒、溝跡4条、土坑3基、ビット多数	土師器、須世器、墨暈石
	H16-25	確認	112.0	Ⅷ	0.4	溝跡3条、土坑2基、ビット多数	土師器、須世器
	H16-26	確認	84.0	Ⅷ	0.5	溝跡5条、土坑2基、ビット多数	土師器、須世器
	H16-27	確認	69.9	Ⅷ	0.5	溝跡2条、土坑2基、ビット多数	土師器、須世器
	H16-28	確認	63.0	Ⅷ	0.26	なし	土師器、須世器
	H16-29	確認	118.4	Ⅷ	0.25	溝跡1条、土坑1基、ビット1個	土師器、須世器
	H16-30	確認	128.7	Ⅷ	0.35	溝跡1条、土坑3基、ビット多数	土師器、須世器
	H16-31	確認	123.8	Ⅷ	0.37～0.4	溝跡1条、ビット1個	土師器、須世器
	H16-32	確認	185.6	Ⅷ	0.15	溝跡4条、土坑1基、ビット多数	土師器、須世器
	H16-33	確認	164.3	Ⅷ	0.15	溝跡3条、土坑1基、ビット多数	土師器、須世器
	H16-34	確認	29.0	Ⅷ	0.2	なし	土師器、須世器
	H16-35	確認	156.0	Ⅷ	1.2	溝跡5条、土坑1基、ビット多数	土師器、須世器
	H16-36	確認	126.0	Ⅷ	0.9	掘立柱建物跡4棟、溝跡3条、土坑2基、ビット多数	土師器、須世器、土製錠壺車、鉄鋤
	H16-37	確認	112.0	Ⅷ	0.35	溝跡4条、ビット多数	土師器、須世器
	H16-39	確認	31.1	Ⅷ	0.7	溝跡1条	土師器、須世器、丸瓦
	H16-40	確認	69.6	Ⅷ	0.48	溝跡3条、土坑2基	土師器、須世器
	H16-41	確認	76.5	Ⅷ	0.38	溝跡3条	土師器、須世器
	H16-42	確認	125.1	Ⅷ	0.5	溝跡1条、ビット多数	土師器、須世器
	H16-43	確認	218.5	Ⅷ	0.7	溝跡3条、土坑1基、ビット多数	土師器、須世器、土製品

第4表 調訪遺跡・北小松遺跡・新田櫛跡調査区概要表（1）

年度	遺跡	調査区	調査区原	面積 (m²)	確認面	深さ (m)	遺構	遺物
H16	H16-1	確認	249.0	Ⅹ	0.15～0.2	溝跡1条、土坑2基、河川跡	なし	
	H16-2	確認	357.0	Ⅹ	0.15～0.2	溝跡2条、土坑1基	須世器	
	H16-3	確認	90.0	Ⅹ	0.2	溝跡3条、土坑1基、ビット8個	須世器	
	H16-4	確認	66.0	Ⅹ	0.14～0.3	溝跡1条、ビット2個	須世器	
	H16-5	確認	66.0	Ⅹ	0.23～0.3	土坑1基、ビット11個、河川跡	なし	
	H16-6	確認	66.0	Ⅹ	0.2～0.86	溝跡1条、ビット2個	縄文土器	
	H16-7	確認	75.0	Ⅹ	0.16	なし	なし	
	H16-8	確認	51.0	Ⅹ	0.18	なし	なし	
	H16-9	確認	75.0	Ⅹ	0.15～0.3	なし	なし	
	H16-10	確認	90.0	Ⅹ	0.26～0.62	(河川跡)	縄文土器	
	H16-11	確認	90.0	Ⅹ	0.7	土坑1基	土師器	
	H16-12	確認	33.0	Ⅹ	0.16～0.2	溝跡2条	石器(網片)	
	H16-13	確認	156.0	Ⅹ	0.15～0.2	なし	なし	
	H16-14	確認	15.0	Ⅹ	0.2	なし	なし	
	H16-15	確認	9.0	Ⅹ	0.15	なし	なし	
	H16-16	確認	120.0	Ⅹ	0.2	なし	なし	
	H16-17	確認	60.0	Ⅹ	0.16～0.3	なし	なし	
	H16-18	確認	123.0	Ⅹ	0.24	なし	なし	
	H16-19	確認	66.0	Ⅹ	0.28	なし	なし	
	H16-20	確認	15.0	Ⅹ	0.2	なし	なし	

第5表 調査遺跡・北小松遺跡・新田柵跡調査区概要表（2）

年度	遺跡	調査区	調査面図	面積（m ² ）	確認面	深さ（m）	遺構	遺物
H16	H16-44	確認	16.5	Ⅵ	0.2～0.23	なし		なし
	H16-45	確認	20.3	Ⅵ	0.2	なし		なし
	H16-46	確認	33.8	Ⅵ	0.2	溝跡2条		なし
	H16-47	確認	18.8	Ⅵ	0.2	なし		なし
	H16-48	確認	23.1	Ⅵ	0.3～0.39	なし		なし
	H16-49	確認	47.0	Ⅵ	0.2～0.3	溝跡5条、ビット8個		土師器、須恵器
	H16-50	確認	50.4	Ⅵ	0.15～0.2	溝跡7条、土坑4基、ビット4個		土師器、須恵器
	H16-51	確認	31.5	Ⅵ	0.25	溝跡1条		なし
	H16-52	確認	68.4	Ⅵ	0.2～0.25	溝跡1条、ビット2個		近世磁器
	H16-53	確認	78.5	Ⅵ	0.34	溝跡2条、ビット1個		なし
	H16-54	確認	25.9	Ⅵ	0.15	なし		なし
	H16-55	確認	27.8	Ⅵ	0.25～0.52	溝跡4条、土坑3基、ビット10個		土師器、須恵器
	H16-56	確認	16.9	Ⅵ	0.15～0.2	溝跡2条、土坑1基、整地跡		土師器、須恵器
	H16-57	確認	17.2	Ⅵ	0.15	溝跡2条、ビット1個		土師器、瓦
	H16-58	確認	17.0	Ⅵ	0.2	溝跡3条、ビット1個		土師器、須恵器
	H16-59	確認	12.2	Ⅵ	0.15	溝跡1条		土師器、須恵器、鉄滓
	H16-60	確認	12.3	Ⅵ	0.25	なし		なし
	H16-61	確認	6.0	Ⅵ	0.8	なし		なし
	H16-62	確認	7.6	Ⅵ	1	溝跡1条		土師器
	H16-63	確認	40.3	Ⅵ	0.2～0.3	なし		なし
	H16-64	確認	49.7	Ⅵ	0.16～0.19	なし		なし
	H16-65	確認	27.0	Ⅵ	0.6～1.5	なし		なし
	H16-66	確認	8.8	Ⅵ	0.2～1.2	なし		なし
	H16-67	確認	9.2	Ⅵ	1.15	なし		なし
	H16-68	確認	12.8	Ⅵ	0.8～1.6	なし		なし
	H16-69	確認	13.7	Ⅵ	0.1～0.8	なし		なし
	H16-70	確認	14.9	Ⅵ	0.3～0.9	なし		なし
	H16-71	確認	35.8	Ⅵ	0.4～1.0	なし		土師器
	H16-72	確認	45.0	Ⅵ	0.15～0.3	なし		須恵器
	H16-73	確認	46.6	Ⅵ	0.1～1.3	なし		須恵器、近世陶磁器
H17	H17-1	確認	67.7	Ⅵ	0.92	なし		なし
	H17-2	確認	50.2	Ⅵ	0.62	なし		なし
	H17-3	確認	23.4	Ⅵ	0.85	なし		なし
	H17-4	確認	44.2	Ⅵ	0.86	溝跡3条、土坑1基、ビット8個		土師器、須恵器、瓦、鉢製品
	H17-5	確認	185	Ⅵ	1	土坑1基		土師器、須恵器、縁軸陶瓶、瓦
	H17-6	確認	22.0	Ⅵ	0.57	なし		なし
	H17-7	確認	20.0	Ⅵ	0.5	溝跡1条		なし
	H17-8	確認	20.0	Ⅵ	0.9	なし		土師器、須恵器
	H17-18	確認	11.0	Ⅵ	0.42	なし		近世陶瓶、すり鉢
	H17-19	確認	12.0	Ⅵ	0.37	なし		近代陶瓶
	H17-20	確認	10.8	Ⅵ	0.36	なし		なし
	H17-21	確認	11.8	Ⅵ	0.29	なし		なし
北小松	H17-22	確認	10.1	Ⅵ	0.25	なし		なし
	H17-23	確認	11.8	Ⅵ	0.31	なし		なし
	H17-9	確認	34.0	Ⅵ	0.91	なし		織文土器、土師器、瓦
	H17-10	確認	4.5	Ⅵ	0.67	なし		なし
	H17-11	確認	15.4	Ⅵ	0.71	なし		織文土器、石器
	H17-12	確認	8.4	Ⅵ	1	なし		織文土器、平汎
	H17-13	確認	4.9	Ⅵ	1	なし		織文土器
	H17-14	確認	6.3	Ⅵ	0.75	なし		織文土器
	H17-15	確認	12.8	Ⅵ	0.8	なし		なし
	H17-16	確認	18.9	Ⅵ	0.73	なし		なし
	H17-17	確認	11.0	Ⅵ	0.7	なし		なし
	H17-24	確認	29.4	Ⅵ	0.86	なし		なし
	H17-25	確認	8.0	Ⅵ	0.85	なし		なし
	H17-26	確認	5.2	Ⅵ	0.75	なし		なし
	H17-27	確認	5.6	Ⅵ	0.8	なし		なし
	H17-28	確認	4.8	Ⅵ	0.77	なし		なし
	H17-29	確認	21.4	Ⅵ	0.31	なし		なし
	H17-30	確認	19.1	Ⅵ	0.22	なし		なし
	H17-31	確認	4.8	Ⅵ	0.52	なし		織文土器
	H17-32	確認	11.8	Ⅵ	0.4	なし		なし
	H17-33	確認	9.8	Ⅵ	0.42	溝跡2条		なし
	H17-34	確認	9.5	Ⅵ	0.45	なし		なし
	H17-35	確認	11.8	Ⅵ	0.35	なし		なし
	H17-36	確認	12.6	Ⅵ	0.54	なし		織文土器
	H17-37	確認	17.6	Ⅵ	0.9	なし		織文土器、土偶
	H17-38	確認	13.5	Ⅵ	0.22	なし		織文土器
	H17-39	確認	13.4	Ⅵ	0.75	なし		織文土器
	H17-40	確認	12.8	Ⅵ	0.4	なし		織文土器
	H17-41	確認	13.8	Ⅵ	0.4	なし		織文土器
	H17-42	確認	11.2	Ⅵ	0.72	なし		織文土器
	H17-43	確認	10.9	Ⅵ	0.36	なし		織文土器

第6表 調査遺跡・北小松遺跡・新田柵跡調査区概要表（3）

年度	遺跡	調査区	調査原因	面積 (m)	確認面	深さ (m)	遺構	遺物
H17	北小松	H17-44	確認	6.5	Vf	0.55	なし	縄文土器
		H17-45	確認	12.5	Vf	0.8	なし	縄文土器
		H17-46	確認	11.6	Vf	0.9	なし	縄文土器
		H17-47	確認	12.2	Vf	0.75	なし	縄文土器
		H17-48	確認	12.1	Vf	0.42	なし	縄文土器, 土師器
		H17-49	確認	12.1	Vf	0.35	なし	なし
		H17-50	確認	12.7	Vf	0.2	なし	なし
		H17-51	確認	11.6	Vf	0.19	なし	なし
		H17-52	確認	10.3	Vf	0.14	なし	なし
		H17-53	確認	11.3	Vf	0.17	なし	なし
		H17-54	確認	10.7	Vf	0.1	なし	なし
		H17-55	確認	10.9	Vf	0.22	なし	なし
		H17-56	確認	37.8	Vf	0.64	なし	なし
		H17-57	確認	14.0	Vf	0.75	なし	縄文土器, 近世磁器
		H17-58	確認	39.5	Vf	0.58	なし	なし
		H17-59	確認	37.7	Vf	0.65	なし	なし
		H17-60	確認	39.3	Vf	0.7	なし	なし
		H17-61	確認	1.0	Vf	1.2	なし	なし
		H17-62	確認	19.6	Vf	0.85	なし	なし
		H17-63	確認	19.0	Vf	0.54	なし	縄文土器
		H17-64	確認	18.2	Vf	0.63	なし	縄文土器
		H17-65	確認	9.1	Vf	0.6	なし	縄文土器
		H17-66	確認	20.4	Vf	0.42	なし	縄文土器
		H17-67	確認	49.5	Vf	0.55	なし	なし
		H17-68	確認	49.9	Vf	0.82	なし	縄文土器
		H17-69	確認	56.0	Vf	0.9	なし	なし
		H17-70	確認	19.3	Vf	0.6	なし	なし
		H17-71	確認	9.0	Vf	0.98	なし	なし
		H17-72	確認	37.7	Vf	0.65	なし	なし
		H17-73	確認	39.3	Vf	0.7	なし	なし
		H17-74	確認	1.0	Vf	1.2	なし	なし
		H17-75	確認	19.6	Vf	0.85	なし	なし
		H17-76	確認	19.0	Vf	0.54	なし	縄文土器
		H17-77	確認	18.2	Vf	0.63	なし	縄文土器
		H17-78	確認	9.1	Vf	0.6	なし	縄文土器
		H17-79	確認	20.4	Vf	0.42	なし	縄文土器
		H17-80	確認	49.5	Vf	0.55	なし	なし
		H17-81	確認	49.9	Vf	0.82	なし	縄文土器
		H17-82	確認	56.0	Vf	0.9	なし	なし
		H17-83	確認	19.3	Vf	0.6	なし	なし
		H17-84	確認	9.0	Vf	0.98	なし	なし
		H17-85	確認	8.7	Vf	1.13	なし	なし
		H17-86	確認	16.5	Vf	0.23	なし	なし
		H17-87	確認	18.7	Vf	0.22	なし	なし
		H17-88	確認	18.6	Vf	0.27	なし	なし
		H17-89	確認	21.6	Vf	0.55	なし	なし
		H17-90	確認	13.8	Vf	0.63	なし	縄文土器
		H17-91	確認	11.9	Vf	0.38	なし	なし
		H17-92	確認	17.2	Vf	0.58	なし	縄文土器
		H17-93	確認	10.1	Vf	0.35	なし	縄文土器
		H17-94	確認	10.1	Vf	1	なし	縄文土器
		H17-95	確認	14.0	Vf	0.13	なし	縄文土器
		H17-96	確認	17.6	Vf	0.65	なし	縄文土器
		H17-97	確認	14.8	Vf	0.95	なし	縄文土器
		H17-98	確認	5.6	Vf	0.45	なし	なし
		H17-99	確認	45.2	Vf	0.65	なし	なし
		H17-100	確認	60.6	Vf	0.4	なし	縄文土器
		H17-101	確認	19.5	Vf	0.31	なし	なし
		H17-102	確認	55.3	Vf	1.05	なし	なし



团子山西遺跡 第1次14T 小溝状遺構群検出状況



团子山西遺跡 第2次8T 旧河川検出状況



团子山西遺跡 第3次46T 小溝状遺構群検出状況



团子山西遺跡 第2次75T C-15出土状況



团子山西遺跡 第3次45T E-38出土状況



团子山西遺跡 第4次21T 遺構検出状況



团子山西遺跡 第4次35T 遺構検出状況



北小松遺跡 37T 全景

图版1 团子山西・北小松遺跡調査区



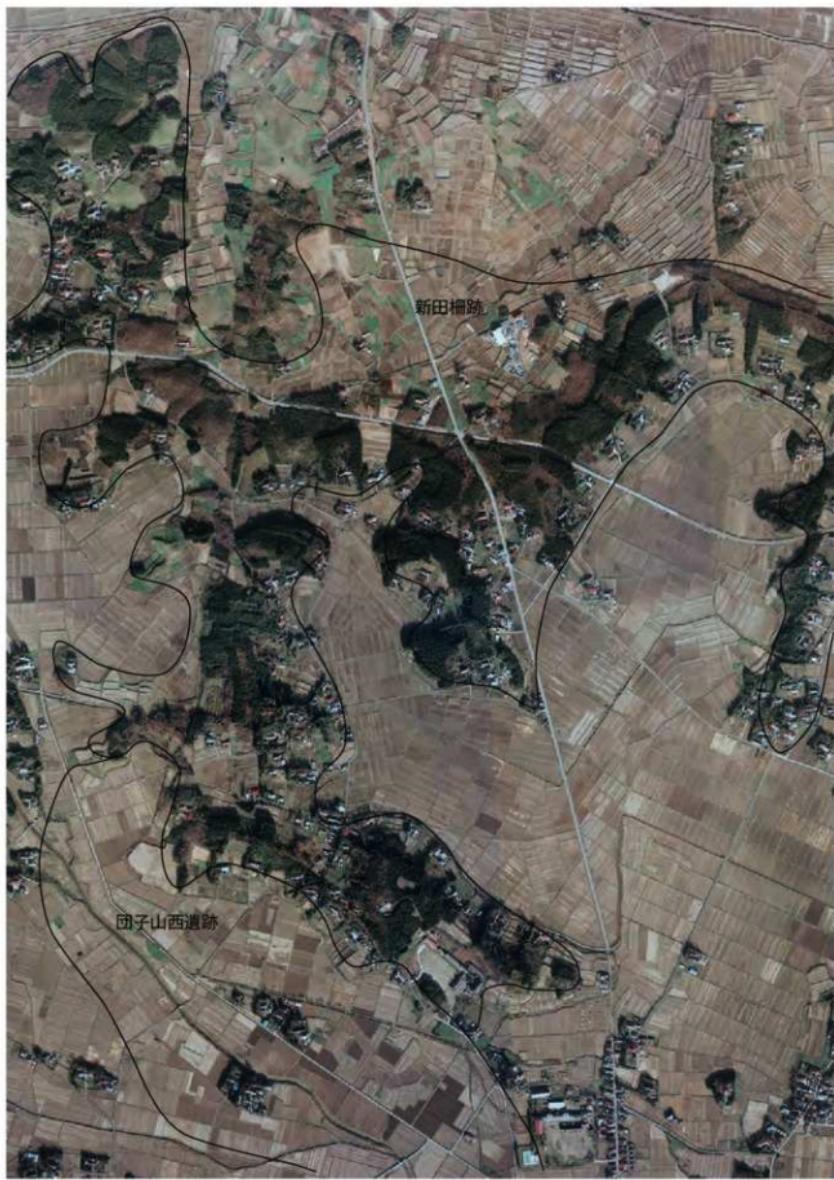
团子山西遺跡 S59年：1. C-13 3. D-4 4. E-15 5. E-20
6. E-17 7. E-19 8. E-21
H14年：9. E-32 H15年：2. C-25 10. E-41
H16年：11. E-63 12. E-50



北小松遺跡：13. P-1

図版2 团子山西・北小松遺跡出土遺物

写 真 図 版



新田柵跡と团子山西遺跡（1975年 CT07527-C5C-7・9、CT07527-C6B-8・10を合成）

図版1 遺跡周辺の空中写真



1 団子山西遺跡・新田柵跡全景1(南から)



2 团子山西遺跡・新田柵跡全景2(南東から)

図版2 J・K区全景



1 K区全景1（南から）



2 K区全景2（南西から）

図版3 K区全景



1 J-3区北部全景(南から)



2 J-3区西部全景(西から)



3 SK711土坑(南東から)



4 SE714井戸跡(東から)



5 SD716河川跡・SD721溝跡断面(南東から)



6 SD716河川跡中央部断面(南から)

図版4 J-3区 (1)



1 SB734 挖立柱建物跡 (南から)



2 SB734 挖立柱建物跡 S1E1 断面 (北から)



3 SB734 挖立柱建物跡 S1E2+P22 断面 (東から)



4 SB734 挖立柱建物跡 S1E3 断面 (西から)



5 SB734 挖立柱建物跡 S2E1 断面 (西から)



6 SB734 挖立柱建物跡 S2E2 断面 (東から)



7 SB734 挖立柱建物跡 S2E3 断面 (東から)

図版 5 J-3 区 (2)



1 SD701 南北道路東側溝跡断面(南から)



2 SD701 南北道路東側溝跡(南東から)



3 J-4 区全景1(南東から)



4 J-4 区全景2(北西から)



5 SB986 掘立柱建物跡(南東から)



6 SB987 掘立柱建物跡(東から)

図版6 J-3 (3)・J-4 区



1 J-6 区全景 1(北西から)



2 J-6 区全景 2(南東から)



3 基本層序 (北東から)



4 VI層縄文土器出土状況 (北東から)



5 VI層・SD799 溝跡・SK1013 土坑断面 (東から)



6 VI層・SD794 自然流路跡断面 (東から)

図版7 J-6 区



1 J-13 区全景(北西から)



2 J-13 区西壁(北東から)



3 J-13 区 SX826 遺物包含層遺物出土状況(南から)



4 J-13 区 SD828 溝跡遺物出土状況(西から)



5 J-14 区全景(南東から)



6 J-14 区北西壁断面(南東から)



7 J-14 区 SX826 遺物包含層出土状況 1(北東から)



8 J-14 区 SX826 遺物包含層出土状況 2(北から)

図版 8 J-13・14 区



1 J-16区北西部全景(北西から)



2 J-16区南東部全景(南東から)



3 SE851 井戸跡断面(南西から)



4 SE851 井戸跡完掘(南西から)



5 SD854 自然流路跡断面(南東から)



6 SD837 河川跡断面(北西から)

図版9 J-16区(1)



1 SB863 挖立柱建物跡 (南東から)



2 SB857 挖立柱建物跡・南東部柱穴群 (南東から)



3 SB863 挖立柱建物跡 N1E2 断面 (東から)



4 SB863 挖立柱建物跡 N2E1 断面 (南から)



5 SB863 挖立柱建物跡 N3E1 断面 (南から)



6 SB863 挖立柱建物跡 N3E1 柱材 (東から)



7 P204・205・206 断面 (北から)



8 P231 断面 (西から)

図版 10 J-16 区 (2)



1 J-21 区全景 (南東から)



2 SD913 溝跡遺物出土状況 (東から)



3 J-22 区中央部 (北東から)



4 SD960 自然流路跡遺物出土状況 (北から)



5 J-23 区全景 (南西から)



6 J-23 区 SD926 溝跡 (北西から)



7 SD926 溝跡遺物出土状況 (西から)

図版 11 J-21・22・23 区



1 J-25区全景1(南から)



2 J-25区全景2(北西から)



3 SD1028 自然流路跡・1035 河川跡(北東から)



4 J-26区全景(西から)



5 WD14-SD1036 自然流路跡・SX1037 土器埋設遺構(北西から)



6 SX1037 土器埋設遺構(南から)

図版 12 J-25・26区 (1)



1 WD14-SB1040 挖立柱建物跡(北から)



2 SB1040 挖立柱建物跡 N1E1 断面(東から)



3 SB1040 挖立柱建物跡 N1E2 断面(東から)



4 SB1040 挖立柱建物跡 N1W2 断面(南西から)



5 SB1040 挖立柱建物跡 N1W1 断面(西から)



6 SB1040 挖立柱建物跡 N2E1 断面(東から)



7 SB1040 挖立柱建物跡 N2W1 断面(北から)

図版 13 J-26 区 (2)



1 J-27 区全景(東から)



2 J-27区北壁基本層序(南から)



3 VII層遺物出土状況(南から)



4 J-28 区全景(南東から)

図版 14 J-27・28 区 (1)



1 SB1078・1072 掘立柱建物跡 1(南から)



2 SB1078・1072 掘立柱建物跡 2(北から)

図版 15 J-28 区 (2)



1 SB1078 挖立柱建物跡 S1W1・SB1072 挖立柱建物跡 N2W1 断面(西から)



2 SB1078 挖立柱建物跡 S1W3 断面(西から)



3 SB1078 挖立柱建物跡 S1E1 断面(東から)



4 SB1078 挖立柱建物跡 S2W1 断面(西から)



5 SB1072 挖立柱建物跡 S1W1 断面(南から)



6 SB1072 挖立柱建物跡 N1W1 断面(西から)



7 SB1072 挖立柱建物跡 N1E2 断面(西から)



8 SB1072 挖立柱建物跡 S1E1 断面(西から)

図版 16 J-28 区 (3)



1 北部全景(北東から)



2 中央部全景(東から)



3 南部全景(北東から)

図版 17 J-29 区 (1)



1 SX1122 東西道路跡全景(西から)



2 SX1122 東西道路跡遺構検出状況(北から)



3 SX1122 東西道路跡断面(北西から)



4 SX1122 東西道路北側溝跡断面(西から)



5 SX1122 東西道路南側溝跡(西から)

図版 18 J-29 区 (2)



1 J-31 区全景(西から)



2 J-31 区北壁断面 1(南西から)



3 J-31 区北壁断面 2(南から)



4 J-31 区北壁断面 3(南から)



5 J-31 区北壁断面 4・SD1181 南北道路東側溝跡(南東から)



6 J-31 区北壁遺物出土状況(南から)



7 J-32 区全景(南から)



8 SD1190 東西道路南側溝跡(東から)

図版 19 J-31・32 区



1 SX200 南北道路跡と新田柵跡（南から）



2 SX200 南北道路跡・SX1197 東西道路跡交差点（北西から）

図版 20 J-33・34 区（1）



1 J-33区全景1(西から)



2 J-33区全景2(東から)



3 J-33区北壁 SD1181断面(南西から)



4 J-33区北壁 SD1191断面(南西から)



5 J-34区全景1(東から)



6 J-34区全景2(南から)



7 J-34区東壁断面(南西から)



8 J-34区南壁断面(北西から)

図版 21 J-33・34 区 (2)



1 K-1区全景1(南東から)



2 K-1区全景2(南から)



3 SI1200・1201 穹穴建物跡(南東から)



4 SI1201 穹穴建物跡(南西から)



5 SI1202 穹穴建物跡(南西から)



6 SI1203 穹穴建物跡(南西から)



7 SI1203 穹穴建物跡遺物出土状況(西から)



8 SI1204 穹穴建物跡(北東から)

図版22 K-1区(1)



1 K-1区南部溝跡(北西から)



2 SD1286 溝跡断面(東から)



3 SD1292 溝跡断面(東から)



4 SD1293 溝跡遺物出土状況(西から)



5 K-2区中央部(東から)



6 SD1230 竪穴建物跡・SE1231 井戸跡(東から)



7 SE1231 井戸跡断面(東から)



8 SE1233 井戸跡断面(南東から)

図版 23 K-1 (2)・K-2 区



1 SK1279 土坑・SD1263 溝跡 1(西から)



2 SK1279 土坑・SD1263 溝跡 2(南から)



3 SK1279 土坑・SD1263 溝跡 3(西から)



4 SK1279 土坑(西から)



5 SK1279 土坑・SD1263 溝跡断面(北西から)



6 SK1279 土坑遺物出土状況 1(北から)



7 SK1279 土坑遺物出土状況 2(北西から)



8 SK1279 土坑遺物出土状況 3(西から)

図版 24 K-3 区(1)



1 SD1266 河川跡(東から)



2 SD1266 河川跡遺物出土状況1(北東から)



3 SD1266 河川跡遺物出土状況2(南から)



4 SD1266 河川跡遺物出土状況3(北から)



5 SD1266 河川跡遺物出土状況4(西から)

図版25 K-3区(2)



1 K-5 区全景(南から)



2 K-5 区南部全景 1(南から)



3 K-5 区南部全景 2(北から)



4 K-5 区南部掘立柱建物跡(北から)



5 SB1398 掘立柱建物跡(北から)



6 SB1397 掘立柱建物跡(東から)



7 SB1409 掘立柱建物跡(南から)



8 SB1408 掘立柱建物跡(北から)

図版 26 K-5 区(1)



1 SI1371 穫穴建物跡(南東から)



2 SI1381 穫穴建物跡(西から)



3 SE1382 井戸跡断面(東から)



4 SK1362 土坑遺物出土状況(南から)



5 SD1373・1374溝跡1(北西から)



6 SD1373・1374溝跡2(真上から: 上が北西)

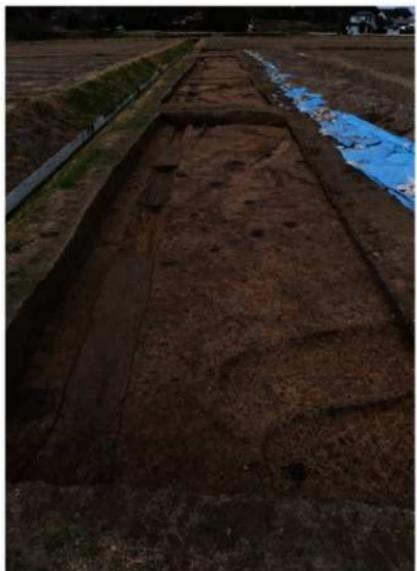


7 SX1394 円形周溝跡(東から)



8 SD1406 河川跡(南東から)

図版27 K-5区(2)



1 K-5 区南全景(南西から)



2 SB1601 挖立柱建物跡全景(南から)



3 SB1601 挖立柱建物跡 SIE1 断面(東から)



4 K-5 区中央全景(南西から)



5 SB1601 挖立柱建物跡 N1E1 断面(南東から)



6 SI1381 穹穴建物跡(南東から)

図版 28 K-5 区南・中央 (1)



1 SB1613 捜立柱建物跡（南から）



2 SB1613 捜立柱建物跡 S1E1・P802 断面（東から）



3 SB1613 捜立柱建物跡 S2E1・P803 断面（東から）



4 SB1613 捜立柱建物跡 S1E2 断面（西から）



5 SB1613 捜立柱建物跡 S1W1 断面（南から）



6 SB1409 捜立柱建物跡と新田柵跡（南から）



7 SB1409 捜立柱建物跡（南から）



8 SB1409 捜立柱建物跡 S1E1 断面（南から）

図版29 K-5区中央(2)



1 SE1626 井戸跡断面(北西から)



2 SE1626 井戸跡(北西から)



3 SE1626 井戸跡遺物出土状況1(北西から)



4 SE1626 井戸跡遺物出土状況2(北西から)



5 SE1626 井戸跡井戸枠棟出状況1(北西から)



6 SE1626 井戸跡井戸枠棟出状況2(東から)



7 SD1373 溝跡(南から)



8 SD1378・1614 溝跡・1370 自然流路跡断面(東から)

図版30 K-5区中央(3)



1 K-5 区北全景(南西から)



2 SX1622 穹穴遺構検出状況(南西から)



3 SX1622 穹穴遺構(南東から)



4 SI1621 穹穴建物跡(北東から)

図版 31 K-5 区北(1)



1 SI1621 竪穴建物跡遺物出土状況(北東から)



2 SI1621 竪穴建物跡北隅遺物出土状況(北東から)



3 SI1621 竪穴建物跡北東部遺物出土状況(南西から)



4 SI1621 竪穴建物跡東部遺物出土状況(南西から)



5 SI1621 竪穴建物跡南西隅遺物出土状況(東から)

図版 32 K-5 区北(2)



1 SI1621 積穴建物跡琥珀出土状況 1(北東から)



2 SI1621 積穴建物跡琥珀出土状況 2(北東から)



3 SI1621 積穴建物跡 K1 遺物出土状況(北東から)



4 SI1621 積穴建物跡 K1 断面(北東から)



5 SI1621 積穴建物跡 K2 断面と白色粘土(北西から)



6 SI1621 積穴建物跡 K3 断面(北西から)



7 SI1621 積穴建物跡南東辺壁際の白色粘土(北西から)



8 SI1621 積穴建物跡 K3(白色粘土)と壁材痕(南西から)

図版 33 K-5 区北(3)



1 SX400 東西道路跡全貌(真上から: 上が北)



2 SD1438 溝跡・SD1439 東西道路北側溝跡断面(南東から)



3 SD1441 東西道路南側溝跡断面(東から)



4 SB1543 挖立柱建物跡(南東から)



5 SB1545 挖立柱建物跡(東から)

図版 34 K-6 区



1 K-12 区全景 (真上から : 上が北西)



2 SI1453 竪穴建物跡 (北西から)



3 SI1453 竪穴建物跡遺物出土状況 (南西から)



4 SE1455 井戸跡断面 (西から)



5 SK1473 土坑遺物出土状況 1 (西から)



6 SK1473 土坑遺物出土状況 2 (北東から)



7 SD1485 河川跡 (南西から)



1 SB1492 挖立柱建物跡 (真上から : 下が南)



2 SB1475 挖立柱建物跡 S1E1 断面 (南から)



3 SB1475 挖立柱建物跡 N1W2 断面 (西から)



4 SB1475 挖立柱建物跡 S1E2 断面 (南から)



5 SB1475 挖立柱建物跡 S1W2 断面 (東から)

図版 36 K-13 区



1 K-3 区 SD1266 河川跡



2 K-5 区北 SI1621 穹穴建物跡



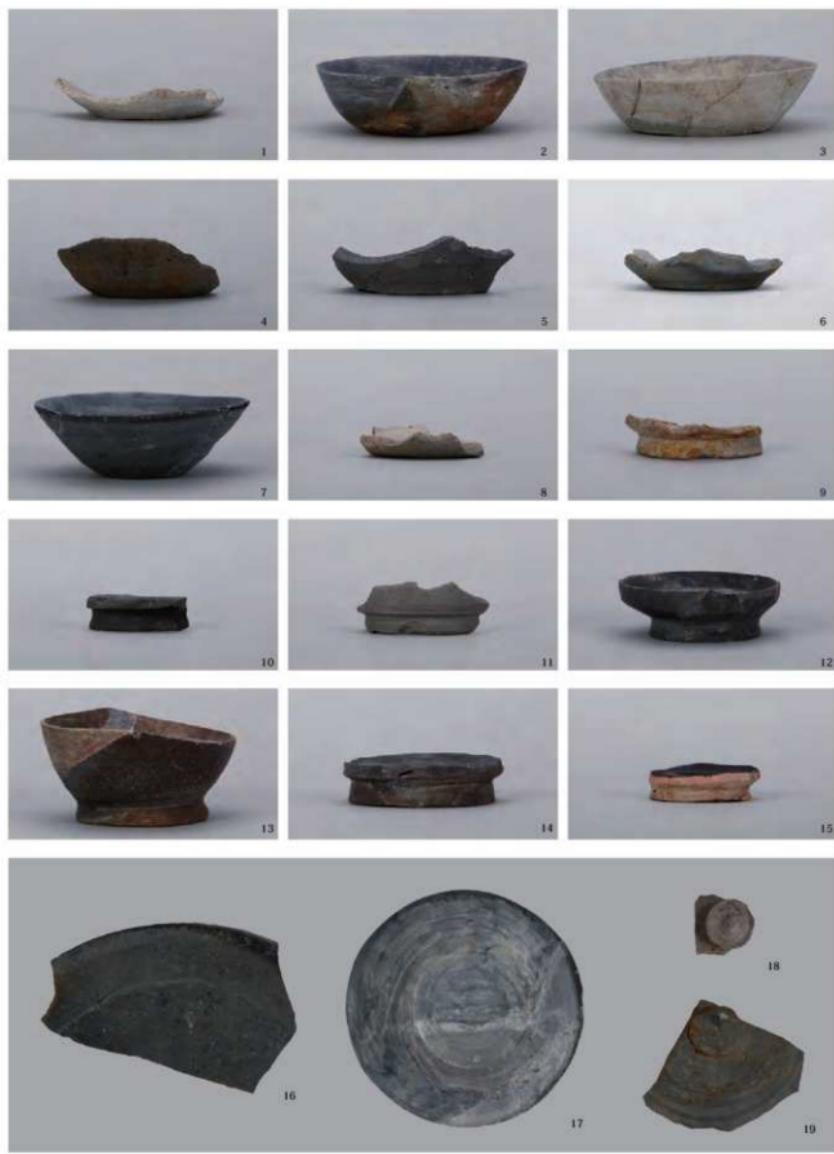
3 K-12 区 SI1453 穹穴建物跡



1・2: J-1区 SD770, 3: J-1区 SD774, 4: J-1区 SD775,
5: J-3区 SE714, 6・12: J-3区 SK704, 7・11: J-3区 SK711
8・9: J-3区 SD707, 10: J-3区 SD713, 13: J-3区 SK759

(1・6・8・13: S=1/3, 7: S=1/4)

图版 38 J-1・3 区（1）出土遗物



図版 39 J-3 区 (2) 出土遺物



(1-4+12+13:S=1/3, 5-10:S=1/4, 11:S=1/6)



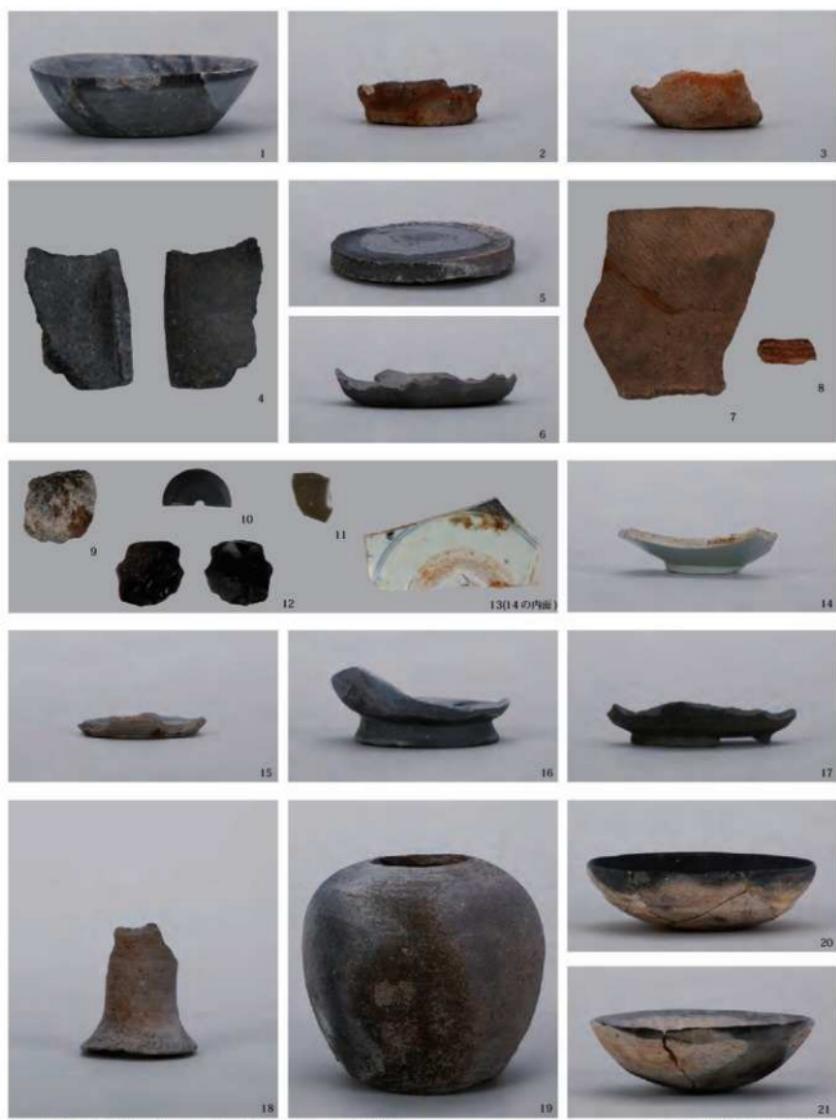
12+13:SD702.



1-12 : J-3 (4) SD46 試掘確認調査, 13 : J-4 (4) SD723, 14 : J-4 (4) SB986, 15 : J-4 (4) SD742.

(1-7 + 11-15 : S=1/3, 8 : S=2/3, 9 + 10 : S=1/4)

図版 41 J-3 (4) + 4 (1) 区 出土遺物



1-2 : J-4 (2) · SD754, 3 : J-4 (2) · P47, 4 : J-4 (2) · SD971 · 972 · 723, 5 : J-5 (2) · SD792
 6 : J-5 (2) · SD789, 7 : J-6 (2) · SD46, 9 · 10 : J-9 (2) · SD800
 11 · 12 : 試掘確認調査, 12 : J-21T, 13 · 14 : J-9 (2) · SD807, 15-21 : J-13 (2) · SX826

(1-11 · 13-21 : S+1/3, 12 : S+2/3)

図版 42 J-4 (2) · 5 · 6 · 9 · 13 (1) 区 出土遺物



1・2:J-13区 SX826, 3-9:J-14区 SX826, 10:J-12区 SD814, 11・13:J-14区 SD881
12:J-13区 SD828, 14:J-14区表土, 15:J-14区イカク

(1-7・9-15:S=1/3, 8:S=1/4)

図版 43 J-12・13(2)・14(1)区 出土遺物



1: J-13区 SD828, 2: J-13区试掘调查, 3~4: J-14区试掘调查, 5~7: J-16区 SD854
6: J-16区试掘调查, 8: J-16区 P232, 9~11: J-17区 SD866, 12: J-17区 K层

(1,2,4~12:S=1/3, 3:S=1/4)

图版 44 J-13 (3)·14 (2)·16·17 (1) 区 出土遗物



1-2: J-17 [KS0867], 3: J-17 [SD0866], 4: J-17 [K-II].
5-6: J-19 [P244]
7: J-35 [SD1128], 8: J-21 [SD909], 9-15: J-21 [SD913]

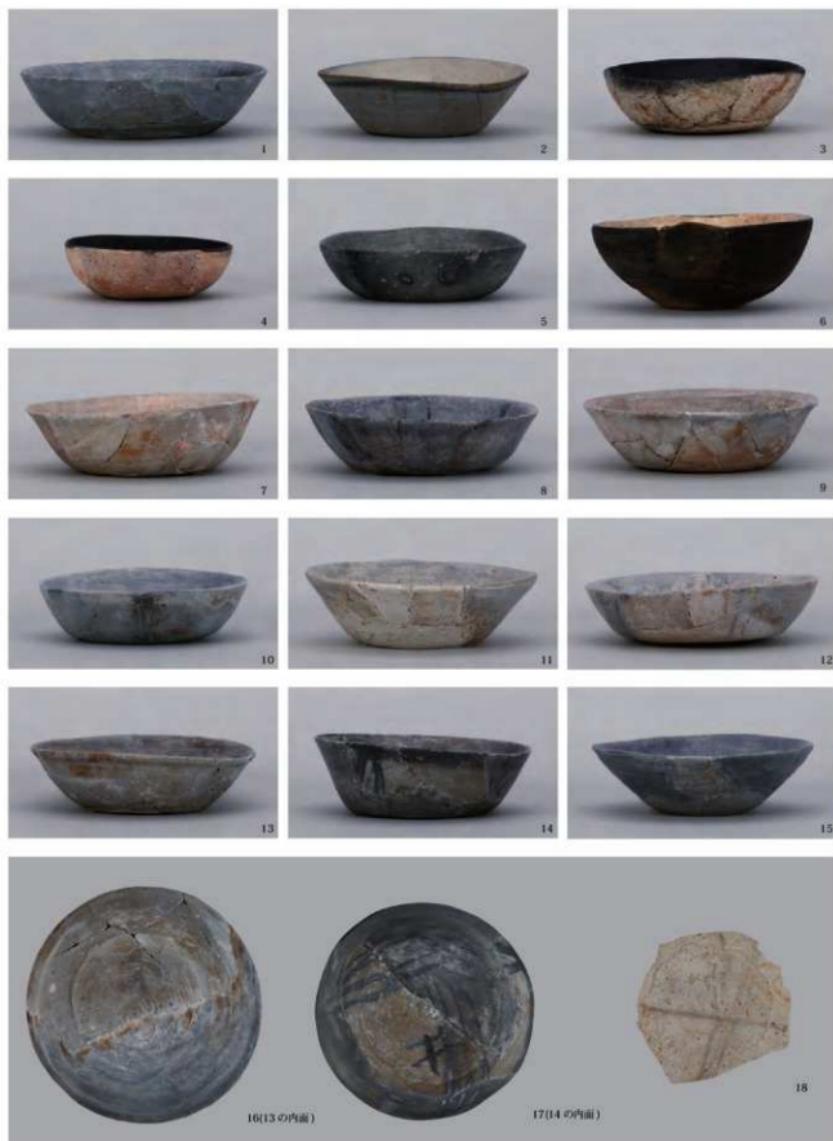
(1-3・5-6・8-15: S=1/3., 4・7: S=1/4)

图版 45 J-17 (2) · 19 · 21 · 35 区 出土遗物



(1-11・13:S-1/3, 12:S-2/3)
1-5:J-22 K SD960, 6:J-22 K SD961, 7・9・10:J-22 K SX955
8・11・12:J-22 K 表土, 13:J-23 K SX923

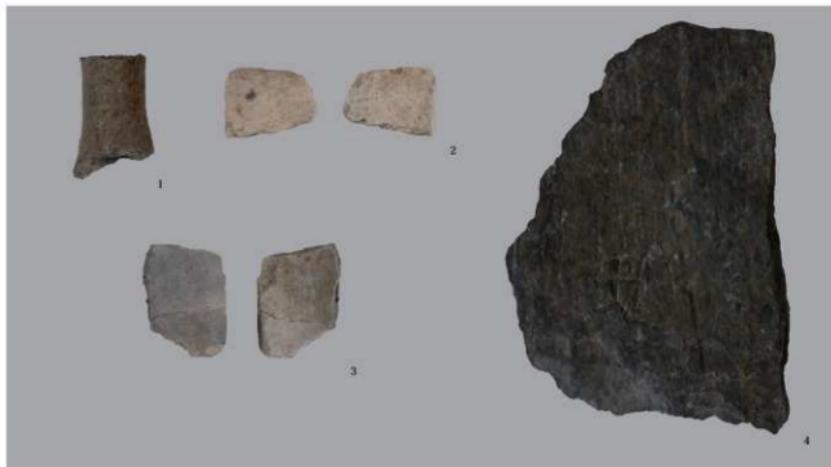
図版 46 J-22・23 (1) 区 出土遺物



1-3: J-23 (KSX023) 4: J-24 (KSX049) 5: J-24 (イカク) 6: J-24 (表土) 7-18: J-25 (SD1028)

(1-18: 5×1/3)

図版 47 J-23 (2)・24・25 (1) 区 出土遺物



1: J-25区 SD1026, 2: J-25区 SD1034, 3: J-25区表土, 4: J-25区 SD1035
5·6: J-26区 SD1036, 7: J-26区 SD1041, 8: J-26区 SX1037, 9: J-26区表土

(1·5·8: 5=1/3, 2·4·9: 5=1/4)

图版 48 J-25 (2) · 26 区 出土遗物



图版 49 J-27 区 出土遗物



1



2(1の内面)



3



4



5



6



7



8



9

1・2・4:J-28区P384、3:J-28区SD1069、5:J-28区表土、6:J-28区SD1074
7:J-28区P414、8:J-29区SD1121、9:J-29区IV層

(1-9:S=1/3)

図版50 J-28・29(1)区 出土遺物



1-4 : SD1108, 5 : SK1091, 6 : IV层, 7-10 · 11 · 13 · 15 · 16 · 18-20 : 表土
12 : SD1121, 14 : 铅土, 17 : 试验确认调查

(1-14 · 19 · 20 : S=1/3, 15-17 : S=1/4, 18 : S=2/3)

图版 51 J-29 区 (2) 出土遗物



図版 52 J-31・32・33・34 区、K-1 区（1）出土遺物



1: K-1区SD1286, 2・3・8: K-1区SD1202, 4・5: K-1区SD1293, 6: K-1区イカク, 7: K-1区表土
9: K-4区イカク, 10・11: K-2区SH230, 12: K-2区III-1層, 13: K-2区イカク, 14: K-2区表土

(1-7・10-14:S=1/3, 8:S=1/4, 9:S=2/3)

図版 53 K-1 (2) + 2 (1) + 4 区 出土遺物



1: K-2 (2) SE1233, 2: K-2 (2) ~ N 刷, 3: K-2 (2) N 刷, 4: K-2 (2) カク, 5・6: K-2 (2) 表土
7: K-3 (2) SD1267, 8: K-3 (2) SD1265, 9-13: K-3 (2) SD1264

(1-15: S=1/3)

図版 54 K-2 (2)・3 (1) 区 出土遺物



1

2



3



4



5



6



7

(1-7 : 5=1/3)

1・2 : SD1264, 3-7 : SD1263

图版 55 K-3 区 (2) 出土遗物



1-8: SD1263, 9: SD1260, 10: SD1278

(1-7・9・10: S=1/3, 8: S=1/4)

图版 56 K-3 区（3）出土遗物



2



3



4



5



6



7



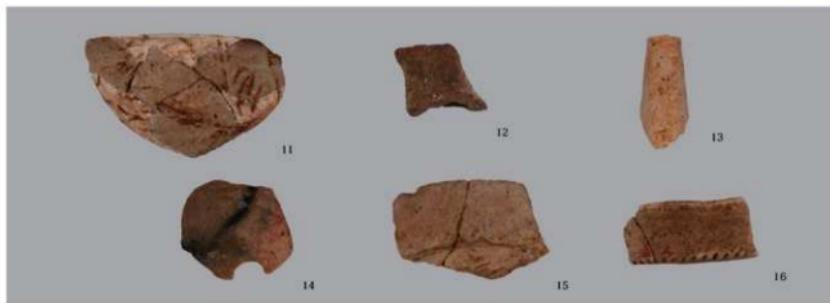
8

9

1-9 : SK1279

(1-8 : S=1/3, 9 : S=1/4)

图版 57 K-3 区 (4) 出土遗物



1-3 : SK1269, 4 : PI170, 5 : PI184, 6 : SK1273
7 : PI172, 8 : SK1276, 9-16 : SD1266

(1-7 + 9-16 : 5×1/3, 8 : 5×2/3)

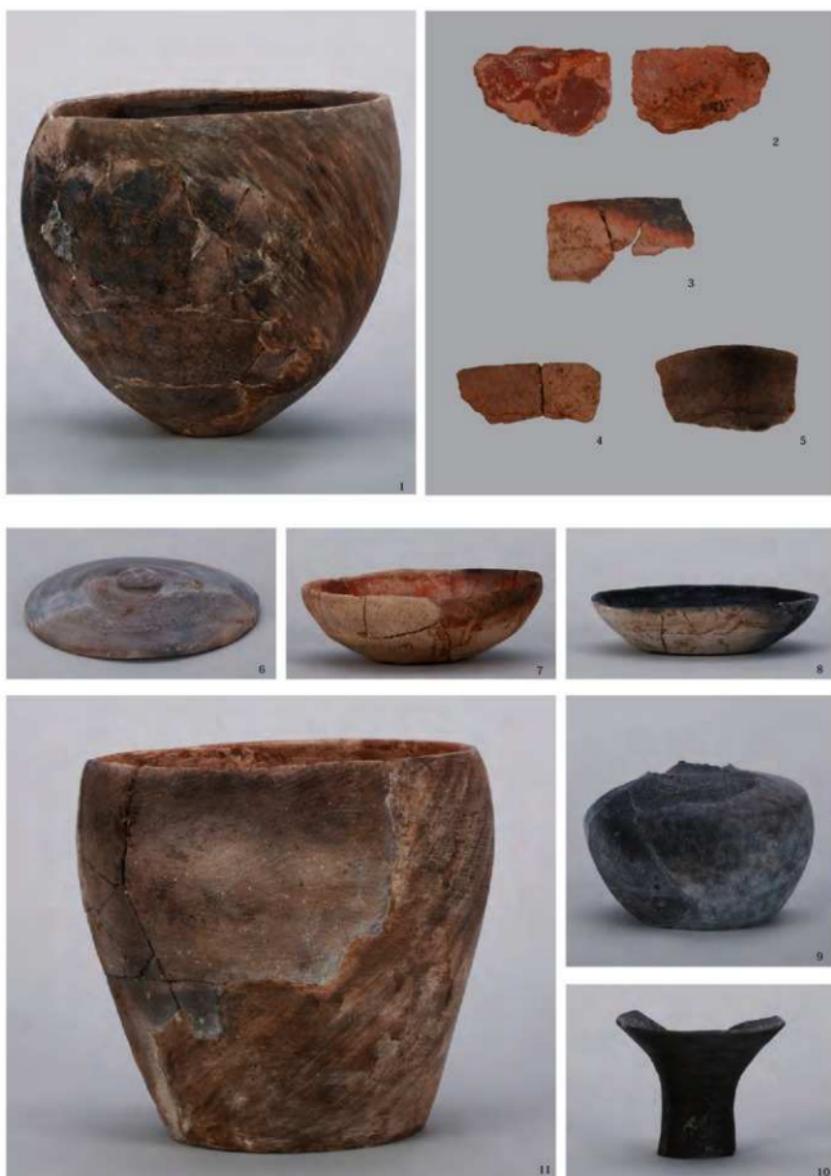
図版 58 K-3区(5)出土遺物



1-9 : SD1266

(1-9 : S=1/3)

图版 59 K-3 区 (6) 出土遗物



1-5: SD1266, 6-10: IV層、11: II層

(1-10: S=1/3)

圖版 60 K-3 区 (7) 出土遺物



1-3・7-9・11-13・16-19：表土。4・14・20・21：イカク。5・10：接着。6：表層。15：IV層

(1-12: S=1/3, 13-14: S=1/4, 15-21: S=2/3)

図版 61 K-3区(8)出土遺物



1-6・10: SI1453, 7: SI1453-K1, 8・9・11-13: SD1485, 14-16: SK1473

(1-16: S=1/3)

図版 62 K-12区 (1) 出土遺物



8



9



98 の内面)

1・2 : SK1473, 3 : P545, 4-7・10 : II層, 8・9 : P566

(1-9 : S=1/3, 10 : S=1/4)

図版 63 K-12 区 (2) 出土遺物



(1-4 : S=1/4, 5-8 : S=2/3, 9-12 : S=1/3)



図版 64 K-12 (3)、K-5 (1) 区 出土遺物



1~6:7剖・底。2:3~7:8剖。3~7:8:3~5~7剖。4:4剖・底。5:堆。9:7剖

(1.9:5~1/3)

图版 65 K-5 区 (2) SI1621 竖穴建物跡出土遺物



1



2



3



4



5



6



7

(1-7 : S=1/3)

1+2+4+6+7:7器・床, 3:3+7器
5:7+8器, 7:8+4器・7器・床

图版 66 K-5 区 (3) SI1621 竖穴建物跡出土遺物



1



3



4



2



5



6



7



8



9

(1:9:5+1/3)

1:K1-4層・7層・床、2:7層、3:K1-4層、4:3+5+7層、5:3層
6+7:7層・床、8:3+7+8層、9:3~8層

図版 67 K-5 区 (4) SI1621 竪穴建物跡出土遺物



1



2

1·2·7 ·陶

(1·2·5=1/3)

图版 68 K-5 区 (5) SI1621 竖穴建物跡出土遺物



1



2



3



4



5



6



7



8



9

1: SH1621-7 瓶・床, 2: SH1621-K3-2 盒・底, 3: SH1621-瓶, 4: SH1621-椭方理土
5: SH1621-4 瓶, 6: SH1621-床, 7・8: SH1371, 9: SH1622

(1・6-8: S+1/3, 2-5・6: S+2/3)

图版 69 K-5 区 (6) 出土遗物



1-6 : SE1382, 7-11 : SE1626

(1・3・6-8 : S=1/3, 2・4 : S=1/4, 5・9-11 : S=1/6)

図版 70 K-5区 (7) 出土遺物



1-9 : SD1260

(1-9 : S=1/3)

図版 71 K-5 区 (8) 出土遺物



4



6



5



7



8



9



10



11



12



13



14

1~2: SD1370, 3~5: SD1391, 6: SK1362, 7: SK1624, 8: SK1410
9~11: SK1362, 12: SK1625, 13~14: SK1388

(1~14: 5~1/3)

图版 72 K-5 区 (9) 出土遗物



1-3 : SK1399, 4 : SK1400, 5 : SK1395, 6 : SD1384
7 : P498, 8 + 11 : PB11, 9 + 10 : SK1375, 12-16 : SD1406

(1-4 + 7-16 : S=1/3, 5 + 6 : S=1/4)

图版 73 K-5 区 (10) 出土遗物



1・2:K-5区 SD1406, 4・5・11-13:K-5区表土, 6-10:K-5区II層

3・14-16:K-5区イカタ, 17:K-6区 SD1424, 18:K-6区 SD1484

19:K-6区 SK1480

(1-5・9-12・14-19:S=1/3, 6:S=1/4, 7・8・10・11・13:S=2/3)

図版74 K-5区(11)、K-6区(1)出土遺物



1・3: K-6(2) SX1431, 2・4・5: K-6(2)イカク
6・7: K-7(2) SD1483, 8・9・11: K-13(2) SD1481
10・12-14: K-13(2)イカク, 15-18: SB1475

(1-4・6-13・15-17: S=1/3, 5・14: S=1/4, 18: S=1/6)

図版 75 K-6 (2)・7・13 区 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	だんごやまにしいせき2							
書名	团子山西遺跡II							
調査書名	田尻西部地区は場整備事業に係る平成23・25～27・29年度（J・K・M区）発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	宮城県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第252集							
編著者名	鈴木啓司（編）・清水上政憲・中澤敦・長内祐輔・串田敦							
編集機関	宮城県教育委員会							
所在地	〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号 電話022-211-3685							
発行年月日	西暦2020年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
だんごやまにしいせき 团子山西遺跡	みやぎけんおおむらさきじゆおかみむち 宮城県大崎市田尻大瀬 なかのめ 中目	04215	38011	38度36分25秒	141度0分55秒	2011.10.25～11.14 2013.05.27～11.25 2014.05.29～11.27 2015.06.23～11.20 2017.10.31～12.25	11.372m ²	経営体育成基盤 整備事業（は場整備）
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
团子山西遺跡	包含層	縄文時代晩期		遺物包含層		繩文土器、石器、土製品		
	集落 散布地	古墳時代前・中・後期		竪穴建物跡、土坑、河川跡		土師器、石器、石製模造品、鏡	中期の竪穴建物跡を検出。北方系の遺物が出土。	
	集落	奈良・平安時代		道路跡、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、土器埋設遺構、溝跡、円形周溝跡、土坑、小溝状遺構群、河川跡		土師器、須恵器、灰釉陶器、赤焼土器、瓦、礎、石製品、木製品、鐵製品	新田柵跡へ向かう基幹道路とみられる南北道路跡とそれに接続する東西道路跡、掘立柱建物群等を検出。10世紀前半の四面廻建物跡を検出。	
	集落	中世		道路跡、溝跡		磁器、陶器、銭貨	伊豆沼窯跡群、白石窯跡群産の中世陶器が出土	
			团子山西遺跡は、宮城県北部の大崎平野北辺に位置し、江合川の支流である田尻川両岸の沖積地に立地する、奈良・平安時代を中心とした大規模な遺跡であり、城柵官衙遺跡である新田柵跡の南に隣接する。					
要約		は場整備事業に伴う発掘調査の結果、古墳時代中期の竪穴建物跡、奈良・平安時代の道路跡、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、土器埋設遺構、溝跡、円形周溝跡、土坑、小溝状遺構群、河川跡等を検出した。古墳時代では、中期の竪穴建物跡から北方系の遺物が出土している。奈良・平安時代の道路跡は8世紀後半から9世紀前半頃に機能したと推定され、新田柵跡へ向かう基幹道路とみられる南北道路とそれに接続する東西道路があり、建物跡が道路の位置や方向を基準に配置されている。また、K-13区では、道路跡発現後の10世紀前半の四面廻建物跡が検出された。出土遺物は、土師器、須恵器、赤焼土器、瓦、礎、石器、石製模造品、石製品、木製品等である。時期は、5世紀後半、8世紀前半から10世紀前半で、8世紀後半から9世紀前半が主体である。						
		遺構・遺物の成果から、团子山西遺跡は古墳時代中期では、古墳文化と続縄文文化の要素を併せ持ち、奈良・平安時代では、新田柵跡と密接に関連した集落遺跡と考えられる。						

宮城県文化財調査報告書第252集

团子山西遺跡Ⅱ

—田尻西部地区は場整備事業に係る
平成23・25～27・29年度（J・K・M区）発掘調査報告書—

令和2年3月12日 印刷

令和2年3月19日 発行

発行 宮城県教育委員会
〒980-8423 仙台市青葉区本町三丁目8番1号

印刷 株式会社 東北プリント
〒980-0822 仙台市青葉区立町24-24
